中央社会保険医療協議会 総会（第 414 回）　議事次第

令和元年５月15日(水)　９：００～
於　厚生労働省講堂（低層棟２階）

議　題

〇部会・小委員会に属する委員の指名について

〇医薬品の薬価収載等について

〇再生医療等製品の保険適用について

〇最適使用推進ガイドラインについて

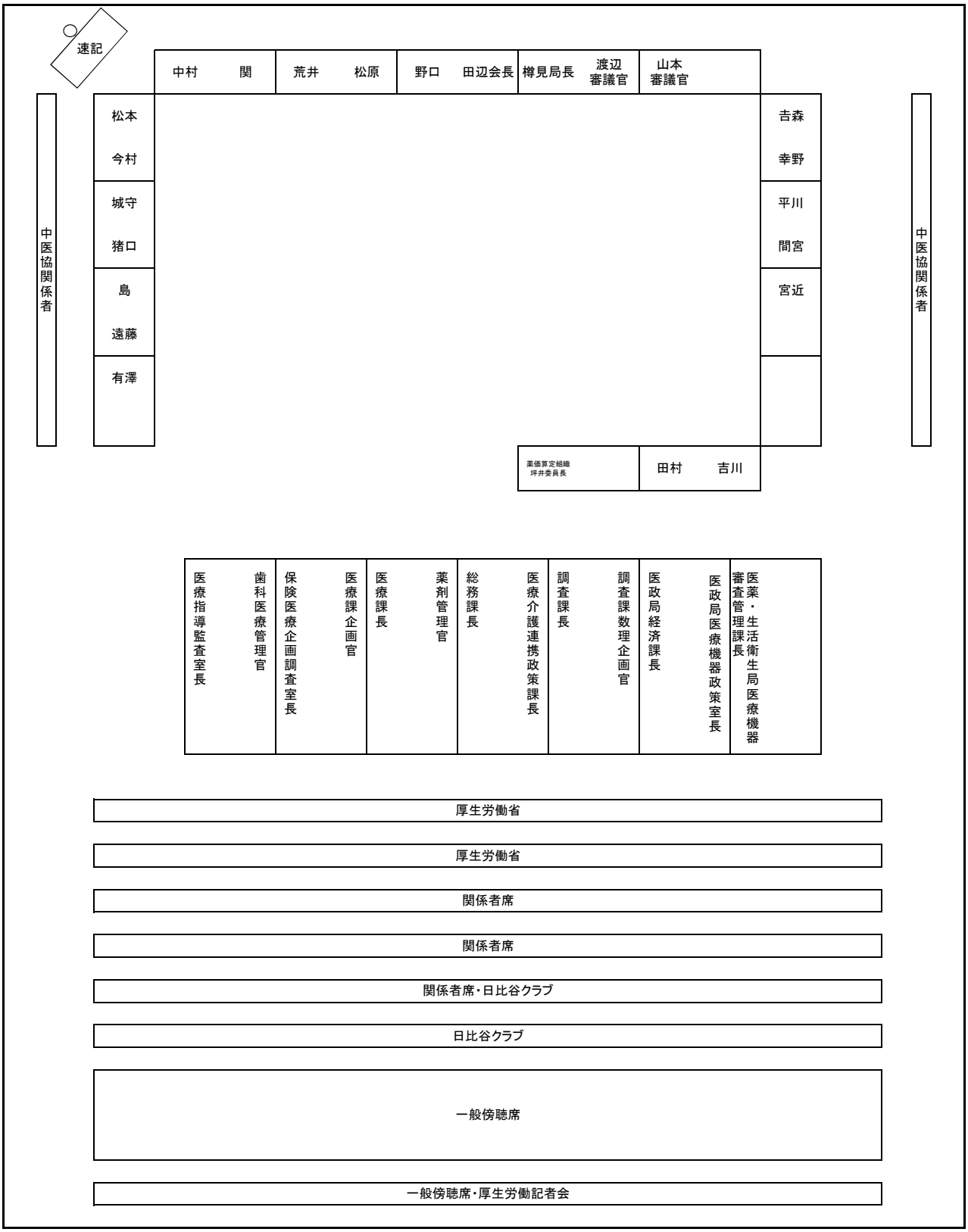
〇ＤＰＣにおける高額な新規の医薬品等への対応について

〇患者・国民に身近な医療の在り方について

〇診療報酬基本問題小委員会からの報告について

中央社会保険医療協議会　総会座席表

日時：令和元年5月15日（水）9:00～、診療報酬基本問題小委員会終了後
会場：中央合同庁舎第5号館　講堂（低層棟2階）



中央社会保険医療協議会委員名簿

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	吉森俊和	全国健康保険協会理事
	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	平川則男	日本労働組合総連合会総合政策局長
	間宮清	日本労働組合総連合会「患者本位の医療を確立する連絡会」委員
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
	松浦満晴	全日本海員組合組合長代行
	染谷絹代	静岡県島田市長
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	松本吉郎	日本医師会常任理事
	今村聡	日本医師会副会長
	城守国斗	日本医師会常任理事
	猪口雄二	全日本病院協会会長
	島弘志	日本病院会副会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	荒井耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	関ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	◎田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	中村洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
	野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
	松原由美	早稲田大学人間科学学術院准教授
4．専門委員	岩田利雄	千葉県東庄町長
	吉川久美子	日本看護協会常任理事
	横地常広	日本臨床衛生検査技師会代表理事副会長
	田村文誉	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック口腔リハビリテーション科教授
	平野秀之	第一三共株式会社執行役員渉外部長
	上出厚志	アステラス製薬株式会社上席執行役員渉外部長
	村井泰介	株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス代表取締役社長
	堀之内晴美	東レ株式会社常任理事
	林利史	エドワーズライフサイエンス株式会社ガバメントアフェアーズ部長
	五嶋規夫	株式会社やよい専務取締役

◎印：会長

総会名簿

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	吉森俊和	全国健康保険協会理事
	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	平川則男	日本労働組合総連合会総合政策局長
	間宮清	日本労働組合総連合会「患者本位の医療を確立する連絡会」委員
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
	松浦満晴	全日本海員組合組合長代行
	染谷絹代	静岡県島田市長
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	松本吉郎	日本医師会常任理事
	今村聡	日本医師会副会長
	城守国斗	日本医師会常任理事
	猪口雄二	全日本病院協会会長
	島弘志	日本病院会副会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	荒井耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	関ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	◎田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	中村洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
	野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
	松原由美	早稲田大学人間科学学術院准教授
4．専門委員	岩田利雄	千葉県東庄町長
	吉川久美子	日本看護協会常任理事
	横地常広	日本臨床衛生検査技師会代表理事副会長
	田村文誉	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック口腔リハビリテーション科教授

◎印：会長

診療報酬基本問題小委員会委員名簿（案）

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	吉森俊和	全国健康保険協会理事
	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	平川則男	日本労働組合総連合会総合政策局長
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
	染谷絹代	静岡県島田市長
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	松本吉郎	日本医師会常任理事
	今村聡	日本医師会副会長
	島弘志	日本病院会副会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	荒井耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	関ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	◎ 田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	中村洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
	野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
	松原由美	早稲田大学人間科学学術院准教授
4．専門委員	吉川久美子	日本看護協会常任理事

◎印：小委員長

調査実施小委員会委員名簿（案）

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	吉森俊和	全国健康保険協会理事
	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	平川則男	日本労働組合総連合会総合政策局長
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
	松浦満晴	全日本海員組合組合長代行
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	今村聡	日本医師会副会長
	城守国斗	日本医師会常任理事
	猪口雄二	全日本病院協会会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	荒井耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	◎ 野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
	松原由美	早稲田大学人間科学学術院准教授

◎印：小委員長

診療報酬改定結果検証部会委員名簿

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．公益を代表する委員	荒井　耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	○　関　ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	中村　洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
	野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
	◎　松原由美	早稲田大学人間科学学術院准教授

◎印：部会長　○印：部会長代理

薬価専門部会委員名簿（案）

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	吉森俊和	全国健康保険協会理事
	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	平川則男	日本労働組合総連合会総合政策局長
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	松本吉郎	日本医師会常任理事
	今村聡	日本医師会副会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	関ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	◎中村洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
	○野口晴子	早稲田大学政治経済学術院教授
4．専門委員	平野秀之	第一三共株式会社執行役員渉外部長
	上出厚志	アステラス製薬株式会社上席執行役員渉外部長
	村井泰介	株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス代表取締役社長

◎印：部会長　○印：部会長代理

保険医療材料専門部会委員名簿（案）

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	平川則男	日本労働組合総連合会総合政策局長
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
	染谷絹代	静岡県島田市長
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	城守国斗	日本医師会常任理事
	島弘志	日本病院会副会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	荒井耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	◎ 関ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	中村洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
	○ 松原由美	早稲田大学人間科学学術院准教授
4．専門委員	堀之内晴美	東レ株式会社常任理事
	林利史	エドワーズライフサイエンス株式会社ガバメントアフェアーズ部長
	五嶋規夫	株式会社やよい専務取締役

◎印：部会長　○印：部会長代理

費用対効果評価専門部会委員名簿（案）

令和元年5月15日現在

代表区分	氏名	現役職名
1．健康保険、船員保険及び国民健康保険の保険者並びに被保険者、事業主及び船舶所有者を代表する委員	吉森俊和	全国健康保険協会理事
	幸野庄司	健康保険組合連合会理事
	間宮清	日本労働組合総連合会「患者本位の医療を確立する連絡会」委員
	宮近清文	日本経済団体連合会社会保障委員会医療・介護改革部会部会長代理
	松浦満晴	全日本海員組合組合長代行
	染谷絹代	静岡県島田市長
2．医師、歯科医師及び薬剤師を代表する委員	松本吉郎	日本医師会常任理事
	城守国斗	日本医師会常任理事
	猪口雄二	全日本病院協会会長
	島弘志	日本病院会副会長
	遠藤秀樹	日本歯科医師会常務理事
	有澤賢二	日本薬剤師会常務理事
3．公益を代表する委員	◎荒井耕	一橋大学大学院経営管理研究科教授
	関ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	田辺国昭	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	○中村洋	慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授
4．専門委員	平野秀之	第一三共株式会社執行役員渉外部長
	上出厚志	アステラス製薬株式会社上席執行役員渉外部長
	堀之内晴美	東レ株式会社常任理事
	林利史	エドワーズライフサイエンス株式会社ガバメントアフェアーズ部長

◎印：部会長　○印：部会長代理

＜参考人＞
・福田　敬（国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部長）
・池田俊也（国際医療福祉大学教授）

中医協　総－２－１
元．５．１５

新医薬品一覧表（令和元年5月22日収載予定）

No.	銘柄名	規格単位	会社名	成分名	承認区分	算定薬価	算定方式	補正加算等	薬効分類		ページ
1	ビバンセカプセル20mg ビバンセカプセル30mg	20mg1カプセル 30mg1カプセル	塩野義製薬㈱	リスデキサンフェタミンメシル酸塩	新有効成分含有医薬品	674.80円 747.70円	類似薬効比較方式（Ⅰ）	小児加算A=5%	内117	精神神経用剤（小児期における注意欠陥/多動性障害（AD/HD）用薬）	1
2	ロスーゼット配合錠LD ロスーゼット配合錠HD	1錠 1錠	MSD㈱	エゼチミブ/ロスバスタチンカルシウム	新医療用配合剤	177.00円 177.00円	新医療用配合剤の特例		内218	高脂血症用剤（高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症用薬）	3
3	スマイラフ錠50mg スマイラフ錠100mg	50mg1錠 100mg1錠	アステラス製薬㈱	ペフィシチニブ臭化水素酸塩	新有効成分含有医薬品	1,741.00円 3,379.90円	類似薬効比較方式（Ⅰ）		内399	他に分類されない代謝性医薬品（既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）用薬）	5
4	アーリーダ錠60mg	60mg1錠	ヤンセンファーマ㈱	アパルタミド	新有効成分含有医薬品	2,281.90円	類似薬効比較方式（Ⅰ）		内429	その他の腫瘍用薬（遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌用薬）	7
5	アセレンド注100μg	100μg2mL1瓶	藤本製薬㈱	亜セレン酸ナトリウム	新有効成分含有医薬品	1,618円	原価計算方式	小児加算A=5% 新薬創出等加算	注322	無機質製剤（低セレン血症用薬）	9
6	レブコビ筋注2.4mg	2.4mg1.5mL1瓶	帝人ファーマ㈱	エラペグアデマーゼ（遺伝子組換え）	新有効成分含有医薬品	846,349円	原価計算方式	有用性加算（Ⅱ）A=5% 市場性加算（Ⅰ）A=10% 新薬創出等加算	注395	酵素製剤（アデノシンデアミナーゼ欠損症用薬）	11
7	スキリージ皮下注75mgシリンジ0.83mL	75mg0.83mL1筒	アッヴィ合同会社	リサンキズマブ（遺伝子組換え）	新有効成分含有医薬品	239,374円	類似薬効比較方式（Ⅰ）	新薬創出等加算	注399	他に分類されない代謝性医薬品（既存治療で効果不十分な下記疾患用薬 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症）	15
8	リサイオ点滴静注液100mg	100mg2.5mL1瓶	大日本住友製薬㈱	チオテパ	新有効成分含有医薬品	189,816円	原価計算方式	小児加算A=5% 新薬創出等加算	注421	アルキル化剤（小児悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植の前治療用薬）	17
9	ラビピュール筋注用	1瓶（溶解液付）	グラクソ・スミスクライン㈱	乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	新有効成分含有医薬品	11,867円	類似薬効比較方式（Ⅰ）	小児加算A=5%	注631	ワクチン類（狂犬病の予防及び発病阻止用薬）	19
10	ピリヴィジェン10%点滴静注5g/50mL ピリヴィジェン10%点滴静注10g/100mL ピリヴィジェン10%点滴静注20g/200mL	5g50mL1瓶 10g100mL1瓶 20g200mL1瓶	CSLベーリング㈱	pH4処理酸性人免疫グロブリン	新有効成分含有医薬品	39,718円 78,580円 155,468円	類似薬効比較方式（Ⅰ）		注634	血液製剤類（慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制用薬）	21
11	テリルジー100エリプタ14吸入用 テリルジー100エリプタ30吸入用	14吸入1キット 30吸入1キット	グラクソ・スミスクライン㈱	フルチカゾンフランカルボン酸エステル/ウメクリジニウム臭化物/ビランテロールトリフェニル酢酸塩	新医療用配合剤	4,107.40円 8,692.80円	類似薬効比較方式（Ⅰ）	有用性加算（Ⅱ）A=10% 新薬創出等加算 費用対効果評価対象（H1）	外229	その他の呼吸器官用薬（慢性閉塞性肺疾患用薬）	23

	品目数	成分数
内用薬	7	4
注射薬	8	6
外用薬	2	1
計	17	11

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－内－１

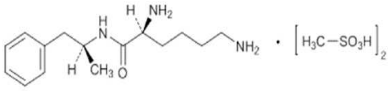
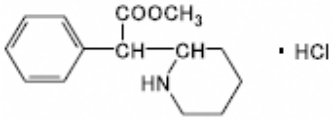
薬効分類		１１７　精神神経用剤　（内用薬）
成分名		リスデキサンフェタミンメシル酸塩
新薬収載希望者		塩野義製薬（株）
販売名（規格単位）		ビバンセカプセル２０ｍｇ（２０ｍｇ１カプセル） ビバンセカプセル３０ｍｇ（３０ｍｇ１カプセル）
効能・効果		小児期における注意欠陥／多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）
主な用法・用量		通常、小児にはリスデキサンフェタミンメシル酸塩として３０ｍｇを１日１回朝経口投与する。症状により、１日７０ｍｇを超えない範囲で適宜増減するが、増量は１週間以上の間隔をあけて1日用量として２０ｍｇを超えない範囲で行うこと。
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）
	比較薬	成分名：メチルフェニデート塩酸塩 会社名：ヤンセンファーマ（株）
		販売名（規格単位）　　薬価（１日薬価） コンサータ錠２７ｍｇ注）（２７ｍｇ１錠）　３７４．３０円（７１２．１０円） 注）新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目
	規格間比	コンサータ錠２７ｍｇ及び同錠１８ｍｇの規格間比：０．２５３０
	補正加算	小児加算（Ａ＝５％） （加算前）　（加算後） ３０ｍｇ１カプセル　７１２．１０円　→　７４７．７０円
	外国平均価格調整	なし
算定薬価		２０ｍｇ１カプセル　６７４．８０円 ３０ｍｇ１カプセル　７４７．７０円（１日薬価　７４７．７０円）

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
２０ｍｇ１カプセル 米国（９．４３３８９ﾄﾞﾙ　１，０３７．７０円）※ （ＮＡＤＡＣ） 英国　１．９５ﾎﾟﾝﾄﾞ　２８４．８０円 独国　４．９１ﾕｰﾛ　６３４．３０円 外国平均価格　４５９．６０円 ３０ｍｇ１カプセル 米国（９．４３３９５ﾄﾞﾙ　１，０３８．８０円）※ （ＮＡＤＡＣ） 英国　２．０８ﾎﾟﾝﾄﾞ　３０３．７０円 独国　４．９１ﾕｰﾛ　６３４．３０円 外国平均価格　４６９．００円 (参考) ２０ｍｇ１カプセル 米国　１１．７９９６０ﾄﾞﾙ　１，２９８．００円 （ＡＷＰ） ３０ｍｇ１カプセル 米国　１１．７９９６０ﾄﾞﾙ　１，２９８．００円 （ＡＷＰ）	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） １０年度　９．０千人　２０億円 (注１）為替ﾚｰﾄは平成３０年４月～平成３１年３月の平均 (注２）外国の価格に大きな開きがあるので、調整した外国平均価格を用いている（※は最低価格の２．５倍を上回るため対象から除いた）。 (注３）米国（AWP）は従来参照していたRED BOOKの価格 最初に承認された国（年月）：米国（２００７年２月）

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	リスデキサンフェタミンメシル酸塩	メチルフェニデート塩酸塩
	イ．効能・効果	小児期における注意欠陥／多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）	注意欠陥/多動性障害（ＡＤ／ＨＤ）
	ロ．薬理作用	中枢神経興奮作用	左に同じ
	ハ．組成及び化学構造		
	ニ．投与形態 剤形 用法	内用 カプセル剤 １日１回	左に同じ 錠剤 左に同じ
補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない	
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない	
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない	
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない	
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない	
	小児加算（５～２０％）	該当する（Ａ＝５％） 本剤は、小児に係る用法・用量が明示的に含まれていること、比較薬は小児加算を受けていないことから、加算の要件に該当する。加算率については、国内小児試験における症例数が限られていること等から、５％が妥当であると判断した。	
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織　平成　　年　　月　　日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－内－２

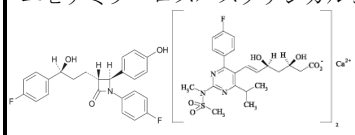
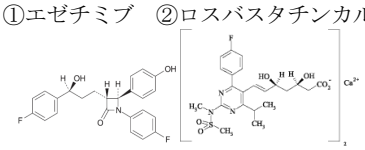
薬効分類		２１８　高脂血症用剤（内用薬）
成分名		エゼチミブ／ロスバスタチンカルシウム
新薬収載希望者		ＭＳＤ（株）
販売名（規格単位）		ロスーゼット配合錠ＬＤ（１錠） （１錠中、エゼチミブ／ロスバスタチンとして１０ｍｇ/２．５ｍｇを含有） ロスーゼット配合錠ＨＤ（１錠） （１錠中、エゼチミブ／ロスバスタチンとして１０ｍｇ/５ｍｇを含有）
効能・効果		高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症
主な用法・用量		通常、成人には１日１回１錠を食後に経口投与する。
算定	算定方式	新医療用配合剤の特例 「自社品の薬価の０．８倍＋他社の後発品の最低薬価」により算定（①のみ自社品がある。）したところ、エゼチミブ１０ｍｇ錠単剤（ゼチーア錠１０ｍｇ）の薬価を下回ったため、本剤の薬価はゼチーア錠１０ｍｇの薬価と同額とした。
算定	比較薬	成分名：①エゼチミブ、②ロスバスタチンカルシウム 会社名：①ＭＳＤ（株）、②第一三共エスファ（株）他２４社
算定	比較薬	販売名（規格単位）　薬価（１日薬価） ①ゼチーア錠１０ｍｇ　１７７．００円 （１０ｍｇ１錠）　（１７７．００円） ②ロスバスタチン錠２．５ｍｇ「ＤＳＥＰ」、他２４品目　２１．７０円 （２．５ｍｇ１錠）　（２１．７０円）
算定	補正加算	なし
算定	外国平均価格調整	なし
算定薬価		ロスーゼット配合錠ＬＤ　１錠　１７７．００円（１日薬価　１７７．００円） ロスーゼット配合錠ＨＤ　１錠　１７７．００円 （参考：ロスーゼット配合錠ＬＤに対応する先発医薬品単剤２剤（ゼチーア錠１０ｍｇ、クレストール錠２．５ｍｇ）の合計１日薬価　２３４．６０円）

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
なし 最初に承認された国（年月）： 日本（２０１９年３月）	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） ６年度　３１万人　１３５億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	新医療用配合剤の特例	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	エゼチミブ／ロスバスタチンカルシウム	①エゼチミブ ②ロスバスタチンカルシウム
	イ．効能・効果	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症	①高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症、ホモ接合体性シトステロール血症 ②左に同じ
	ロ．薬理作用	コレステロール吸収抑制作用／コレステロール生合成阻害作用	①コレステロール吸収抑制作用 ②コレステロール生合成阻害作用
	ハ．組成及び化学構造	エゼチミブ・ロスバスタチンカルシウム 	①エゼチミブ　②ロスバスタチンカルシウム 
	ニ．投与形態 剤形 用法	内用 錠剤 １日１回	①左に同じ　②左に同じ 左に同じ　左に同じ 左に同じ　左に同じ
補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない	
	有用性加算（Ⅰ）（３５～６０％）	該当しない	
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない	
	市場性加算（Ⅰ）（１０～２０％）	該当しない	
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない	
	小児加算（５～２０％）	該当しない	
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織　平成　　年　　月　　日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－内－３

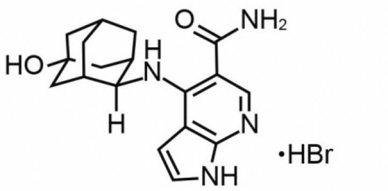
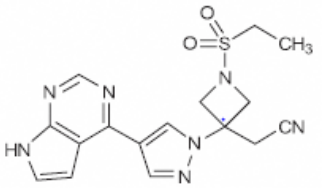
薬効分類		３９９　他に分類されない代謝性医薬品（内用薬）
成分名		ペフィシチニブ臭化水素酸塩
新薬収載希望者		アステラス製薬（株）
販売名（規格単位）		スマイラフ錠５０ｍｇ（５０ｍｇ１錠） スマイラフ錠１００ｍｇ（１００ｍｇ１錠）
効能・効果		既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）
主な用法・用量		通常、成人にはペフィシチニブとして１５０ｍｇを１日１回食後に経口投与する。なお、患者の状態に応じて１００ｍｇを１日１回投与できる。
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）
	比較薬	成分名：バリシチニブ 会社名：日本イーライリリー（株）
		販売名（規格単位）：オルミエント錠４ｍｇ（４ｍｇ１錠） 薬価（１日薬価）：５，２２３．００円（５，２２３．００円）
	規格間比	オルミエント錠２ｍｇとオルミエント錠４ｍｇの規格間比０．９５７０６
	補正加算	なし
	外国平均価格調整	なし
算定薬価		５０ｍｇ１錠　１，７４１．００円（１日薬価：５，２２３．００円） １００ｍｇ１錠　３，３７９．９０円

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
なし 最初に承認された国（年月）： 日本（２０１９年３月）	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） １０年度　６．８千人　８４億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	ペフィシチニブ臭化水素酸塩	バリシチニブ
	イ．効能・効果	既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）	左に同じ
	ロ．薬理作用	チロシンキナーゼ阻害作用／ヤヌスキナーゼ（ＪＡＫ）阻害作用	左に同じ
	ハ．組成及び化学構造		
	ニ．投与形態 剤形 用法	内用 錠剤 １日１回	左に同じ 左に同じ 左に同じ
補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない	
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない	
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない	
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない	
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない	
	小児加算（５～２０％）	該当しない	
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織	平成　　年　　月　　日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－内－４

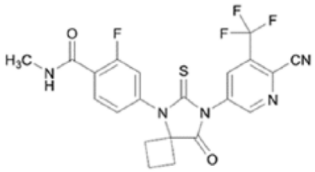
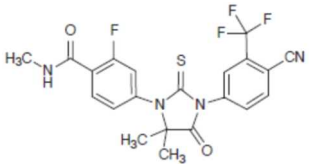
薬効分類		４２９　その他の腫瘍用薬（内用薬）
成分名		アパルタミド
新薬収載希望者		ヤンセンファーマ（株）
販売名（規格単位）		アーリーダ錠６０ｍｇ（６０ｍｇ１錠）
効能・効果		遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌
主な用法・用量		通常、成人にはアパルタミドとして１日１回２４０ｍｇを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）
	比較薬	成分名：エンザルタミド 会社名：アステラス製薬（株）
		販売名（規格単位）　イクスタンジ錠８０ｍｇ注）（８０ｍｇ１錠） 薬価（１日薬価）　４，５６３．７０円（９，１２７．４０円） 注）新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目
	補正加算	なし
	外国平均価格調整	なし
算定薬価		６０ｍｇ１錠　２，２８１．９０円　（１日薬価　９，１２７．６０円）

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
６０ｍｇ１錠 英国　２４．４２ポンド　３，５６５．３０円 独国　３７．００ユーロ　４，７７２．８０円 外国平均価格　４，１６９．１０円 （参考） 米国　１１６．７３ドル　１２，８４０．８０円（ＡＷＰ） （注１）為替レートは平成３０年４月～平成３１年３月の平均 （注２）米国（AWP）は従来参照していたRED BOOKの価格 最初に承認された国（年月）： 米国（２０１８年２月）	予測年度　予測本剤投与患者　予測販売金額 （ピーク時） １０年度　９．２千人　２１８億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	アパルタミド	エンザルタミド
	イ．効能・効果	遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌	去勢抵抗性前立腺癌
	ロ．薬理作用	抗アンドロゲン作用／アンドロゲン受容体シグナル伝達阻害作用	左に同じ
	ハ．組成及び化学構造		
	ニ．投与形態 剤形 用法	内用 錠剤 １日１回	左に同じ 左に同じ 左に同じ
補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない	
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない	
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない	
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない	
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない	
	小児加算（５～２０％）	該当しない	
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織	平成　　年　　月　　日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－注－１

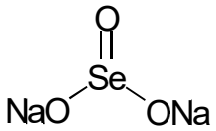
薬効分類			３２２　無機質製剤（注射薬）
成分名			亜セレン酸ナトリウム
新薬収載希望者			藤本製薬（株）
販売名（規格単位）			アセレンド注１００μｇ（１００μｇ２ｍＬ１瓶） 注）医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の評価に基づく開発公募品目
効能・効果			低セレン血症
主な用法・用量			通常、成人及び１２歳以上の小児にはセレンとして１日１００μｇを開始用量とし、高カロリー輸液等に添加し、中心静脈内に点滴静注する。以後は、患者の状態により１日５０～２００μｇの間で適宜用量を調整するが、効果不十分な場合には１日３００μｇまで中心静脈内に点滴静注することができる。 通常、１２歳未満の小児にはセレンとして１日２μｇ／ｋｇ（体重５０ｋｇ以上の場合は１００μｇ）を開始用量とし、高カロリー輸液等に添加し、中心静脈内に点滴静注する。以後は、患者の状態により１日１～４μｇ／ｋｇ（体重５０ｋｇ以上の場合は５０～２００μｇ）の間で適宜用量を調整し中心静脈内に点滴静注する。 なお、本剤の１日投与量を１日１回末梢静脈内に点滴静注又は緩徐に静脈内注射することもできる。
算定	算定方式		原価計算方式
算定	原価計算	製品総原価	１，１３３円
算定	原価計算	営業利益	１８７円 （流通経費を除く価格の１４．２％）
算定	原価計算	流通経費	１０７円 （消費税を除く価格の７．５％） 出典：「医薬品産業実態調査報告書」（厚生労働省医政局経済課）
算定	原価計算	消費税	１１４円
算定	補正加算		小児加算（Ａ＝５％）、加算係数＝１．０ （加算前）　（加算後） ２ｍＬ１瓶　１，５４１円　→　１，６１８円
算定	外国平均価格調整		なし
算定薬価			１００μｇ２ｍＬ１瓶　１，６１８円

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
なし （参考） １０ｍＬ　１瓶 仏国　５．６３ユーロ　７２６円 （仏国の効能・効果には予防の効能も含まれている） （注）為替ﾚｰﾄは平成３０年４月～平成３１年３月の平均 最初に承認された国（年月）： 日本（２０１９年３月）	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） ８年度　２．０千人　１２億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	原価計算方式	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

原価計算方式を採用する妥当性		新薬	類似薬がない根拠
	成分名	亜セレン酸ナトリウム	類似の効能・効果を有する既収載品はないことから、新薬算定最類似薬はないと判断した。
	イ．効能・効果	低セレン血症	
	ロ．薬理作用	セレンの補給	
	ハ．組成及び化学構造		
	ニ．投与形態 剤形 用法	注射 注射剤 点滴静注又は静脈内注射	

営業利益率	平均的な営業利益率（１４．９％）（注）×９５％＝１４．２％ （注）出典：「産業別財務データハンドブック」（日本政策投資銀行） ［革新性等の程度が低い：a (-2p)＋小児用法を明示的に含む：① (1p)＝ -1p］ 本邦では低セレン血症に対して院内製剤等で治療が行われていることを踏まえると、本剤の革新性が高いとは言えない。 ただし、本剤は、医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の評価に基づく開発公募品目であり、また、国内で実施された小児等を対象とした臨床試験成績に基づき小児の用法・用量が明確にされていることから、減算率は５％が適当と評価した。

補正加算		
	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅰ）（３５～６０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅰ）（１０～２０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない
	小児加算（５～２０％）	該当する（Ａ＝５％） 本剤には小児に係る用法・用量が明示的に含まれており、加算の要件に該当する。ただし、国内臨床試験における小児患者の検討例数が限られていることから限定的な評価とし、Ａ＝５％が妥当と判断した。
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない

新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当する（主な理由：厚生労働省が開発を公募）
費用対効果評価への該当性	該当しない
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点	
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織　平成　　年　　月　　日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－注－２

薬効分類	３９５　酵素製剤（注射薬）
成分名	エラペグアデマーゼ（遺伝子組換え）
新薬収載希望者	帝人ファーマ（株）
販売名 （規格単位）	レブコビ筋注２．４ｍｇ（２．４ｍｇ１．５ｍＬ１瓶） 注）医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の評価に基づく開発公募品目
効能・効果	アデノシンデアミナーゼ欠損症
主な用法・用量	通常、エラペグアデマーゼ（遺伝子組換え）として０．２ｍｇ／ｋｇを１週間に１回筋肉内注射する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、１回あたりの最大投与量は０．３ｍｇ／ｋｇとする。ただし、速やかにアデノシンデアミナーゼ活性を上昇させる必要がある場合には、１回０．２ｍｇ／ｋｇを１週間に２回筋肉内注射することができる。

算定	算定方式		原価計算方式
		製品総原価	５９８，９０７円
		営業利益	１０４，８６２円 （流通経費を除く価格の１４．９％）
		流通経費	５７，０６２円 （消費税を除く価格の７．５％） 出典：「医薬品産業実態調査報告書」（厚生労働省医政局経済課）
		消費税	６０，８６７円
	補正加算		有用性加算（Ⅱ）（Ａ＝５％）、市場性加算（Ａ＝１０％）、加算係数＝０．２ （加算前）　（加算後） ２．４ｍｇ１．５ｍＬ１瓶　８２１，６９８円　→　８４６，３４９円
	外国平均価格調整		なし
算定薬価			２．４ｍｇ１．５ｍＬ１瓶　８４６，３４９円

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
なし （参考） 米国（AWP）　11,827.20ドル　1,300,992円 （注１）為替レートは平成３０年４月～平成３１年３月の平均 （注２）米国（AWP）は従来参照していたRED BOOKの価格 最初に承認された国（年月）： 米国（２０１８年１０月）	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） ９年度　８人　９．７億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

<table>
<tr><td colspan="2">算定方式</td><td>原価計算方式</td><td>第一回算定組織</td><td>平成３１年　４月１８日</td></tr>
<tr><td rowspan="6">原価計算方式を採用する妥当性</td><td></td><td colspan="2">新薬</td><td>類似薬がない根拠</td></tr>
<tr><td>成分名</td><td colspan="2">エラペグアデマーゼ（遺伝子組換え）</td><td rowspan="5">本剤と同様の効能・効果、薬理作用、組成及び化学構造等を有する既収載品はないことから、新薬算定最類似薬はないと判断した。</td></tr>
<tr><td>イ．効能・効果</td><td colspan="2">アデノシンデアミナーゼ欠損症</td></tr>
<tr><td>ロ．薬理作用</td><td colspan="2">アデノシンデアミナーゼ作用</td></tr>
<tr><td>ハ．組成及び化学構造</td><td colspan="2">３５６個のアミノ酸残基からなるＰＥＧ化タンパク質（分子量：約１１５，０００）であり、遺伝子組換えウシアデノシンデアミナーゼ類縁体（７４番目のＣｙｓがＳｅｒに置換）に平均約１３個のメトキシポリエチレングリコール鎖（分子量：約５，６００）が結合したもの。</td></tr>
<tr><td>ニ．投与形態
剤形
用法</td><td colspan="2">注射
注射剤
１週１回</td></tr>
<tr><td rowspan="8">補正加算</td><td>画期性加算
（７０～１２０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td>有用性加算（Ⅰ）
（３５～６０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td>有用性加算（Ⅱ）
（５～３０％）</td><td colspan="3">該当する（Ａ＝５％）
［ハ．治療方法の改善（不十分例での効果）：③-a＝1p］
本剤は、ＡＤＡ欠損症に対する初の薬剤であり、患者の代謝異常・重症免疫不全に起因する諸症状を改善し、造血幹細胞移植のためのドナー探索期間や移植実施までの期間において、全身症状を安定した状態に維持することができることから、有用性加算（Ⅱ）（Ａ＝５％）とすることが適当と判断した。</td></tr>
<tr><td>市場性加算（Ⅰ）
（１０～２０％）</td><td colspan="3">該当する（Ａ＝１０％）
本剤は希少疾病用医薬品に指定されており、市場性加算（Ⅰ）の要件を満たすものの、症例数が限られて市場規模が小さいことは原価計算方式の計算の中で価格に反映されていることを踏まえて、限定的な評価とした。</td></tr>
<tr><td>市場性加算（Ⅱ）
（５％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td>小児加算
（５～２０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td>先駆け審査指定制度加算
（１０～２０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td colspan="2">新薬創出・適応外薬解消等促進加算</td><td colspan="3">該当する（希少疾病用医薬品として指定）</td></tr>
<tr><td colspan="2">費用対効果評価への該当性</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td colspan="2">当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">上記不服意見に対する見解</td><td colspan="2">第二回算定組織</td><td>平成　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

（参考）　アデノシンデアミナーゼ欠損症の病態

アデノシンデアミナーゼ（ADA）欠損症について

- ADA 欠損症は、遺伝子変異により代謝酵素である ADA が欠損する先天性の常染色体劣性遺伝疾患であり、指定難病の「原発性免疫不全症候群」に分類される。新生児 20 万～100 万人に 1 人の発症とされる、希少な疾患である。男児、女児いずれにも発症する。

- ADA は核酸の代謝過程で生じるアデノシンおよびデオキシアデノシンを脱アミノ化しそれぞれイノシンおよびデオキシイノシンに変換する酵素である。あらゆる組織で発現するが、血液系細胞、特にリンパ系細胞においてより強く発現している。

- ADA 欠損症では、ADA 遺伝子（20 番染色体 q13.11）の変異により ADA が欠損するため、その基質であるアデノシン、デオキシアデノシンならびにそのリン酸化物などが細胞内に蓄積し、細胞毒として作用し、主に未熟なリンパ球を障害することで免疫不全を進行性に引き起こす。

- 主な症状は、重症複合免疫不全症であり、生後早期に日和見感染を含む様々な重症感染症を発症する。その他に、発達遅滞、痙攣、難聴等の合併が見られる。未治療の場合、生後 1 年以内に死亡することも多い。

既存療法について

- 国内では、ADA 欠損症に関連する適応で承認されている薬剤は他になく、感染症などに対する対症療法が取られていた。そのほかの既存療法としては、適切なドナーが見つかる場合は造血幹細胞移植が選択されるが、適応可能な患者は限定される。

〈余白〉

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－注－３

薬効分類		３９９　他に分類されない代謝性医薬品（注射薬）
成分名		リサンキズマブ（遺伝子組換え）
新薬収載希望者		アッヴィ合同会社
販売名（規格単位）		スキリージ皮下注７５ｍｇシリンジ０．８３ｍＬ（７５ｍｇ０．８３ｍＬ１筒）
効能・効果		既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症
主な用法・用量		通常、成人にはリサンキズマブ（遺伝子組換え）として、１回１５０ｍｇを初回、４週後、以降１２週間隔で皮下投与する。 なお、患者の状態に応じて１回７５ｍｇを投与することができる。
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）
	比較薬	成分名：グセルクマブ（遺伝子組換え） 会社名：ヤンセンファーマ（株）
		販売名（規格単位）：トレムフィア皮下注１００ｍｇシリンジ注）（１００ｍｇ１ｍＬ１筒） 薬価（１日薬価）：３１９，１３０円（５，６９９円） 注）新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目
	補正加算	なし
	キット特徴部分の原材料費	７５ｍｇ０．８３ｍＬ１筒　２３９，２４９円 → ２３９，３７４円
	外国平均価格調整	なし
算定薬価		７５ｍｇ０．８３ｍＬ１筒　２３９，３７４円　（１日薬価　５，６９９円）

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
なし 最初に承認された国（年月）： 日本（２０１９年３月）	予測年度　予測本剤投与患者　予測販売金額 （ピーク時） １０年度　４．９千人　１０２億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	リサンキズマブ（遺伝子組換え）	グセルクマブ（遺伝子組換え）
	イ．効能・効果	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、掌蹠膿疱症
	ロ．薬理作用	ＩＬ－２３ｐ１９阻害作用	左に同じ
	ハ．組成及び化学構造	ヒトＩＬ－２３のｐ１９サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化ＩｇＧ１モノクローナル抗体（４４９個のアミノ酸残基からなるＨ鎖（γ１鎖）２本及び２１４個のアミノ酸残基からなるＬ鎖（κ鎖）２本で構成される糖タンパク質（分子量：約１４９，０００））	ヒトＩＬ－２３のｐ１９サブユニットに対する遺伝子組換えヒトＩｇＧ１モノクローナル抗体（４４７個のアミノ酸残基からなるＨ鎖（γ１鎖）２本及び２１７個のアミノ酸残基からなるＬ鎖（λ鎖）２本で構成される糖タンパク質（分子量：約１４６，０００））
	ニ．投与形態 剤形 用法	注射 注射剤（キット製品） １２週間隔で１回、皮下投与	左に同じ 左に同じ ８週間隔で１回、皮下投与

補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない
	小児加算（５～２０％）	該当しない
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当する（加算適用品等の収載から３年以内３番手以内）
費用対効果評価への該当性		該当しない
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	平成　　年　　月　　日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－注－４

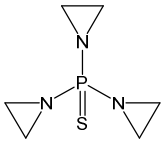
薬効分類			４２１　アルキル化剤（注射薬）
成分名			チオテパ
新薬収載希望者			大日本住友製薬（株）
販売名（規格単位）			リサイオ点滴静注液１００ｍｇ（１００ｍｇ２．５ｍＬ１瓶） 注）医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議の評価に基づく開発公募品目
効能・効果			小児悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植の前治療
主な用法・用量			メルファランとの併用において、通常、チオテパとして１日１回２００ｍｇ／㎡を２４時間かけて点滴静注する。これを２日間連続で行い、５日間休薬した後、さらに同用量を２日間連続で行う。なお、患者の状態により適宜減量する。
算定	算定方式		原価計算方式
算定	原価計算	製品総原価	１３４，３２０円
算定	原価計算	営業利益	２３，５１８円 （流通経費を除く価格の１４．９％）
算定	原価計算	流通経費	１２，７９８円 （消費税を除く価格の７．５％） 出典：「医薬品産業実態調査報告書」（厚生労働省医政局経済課）
算定	原価計算	消費税	１３，６５１円
算定	補正加算		小児加算（Ａ＝５％）、加算係数＝０．６ （加算前）　（加算後） １００ｍｇ２．５ｍＬ１瓶　１８４，２８７円　→　１８９，８１６円
算定	外国平均価格調整		なし
算定薬価			１００ｍｇ２．５ｍＬ１瓶　１８９，８１６円

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
なし （参考）100mg 米国（AWP）　7,200ﾄﾞﾙ　792,000円 英国（mims）　736.00ﾎﾟﾝﾄﾞ　107,456円 独国（ROTE LISTE）　1,035.09ﾕｰﾛ　133,527円 （海外の効能・効果は「小児血液疾患における同種造血幹細胞移植」や「成人悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植」等） （注１）為替レートは平成３０年４月～平成３１年３月の平均 （注２）本邦で承認を受けた製剤とは異なる製剤の価格 最初に承認された国（年月）： 日本（２０１９年３月）	予測年度　予測本剤投与患者　予測販売金額 （ピーク時） ３年度　３３人　０．５１億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	原価計算方式	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	類似薬がない根拠
最類似薬選定の妥当性	成分名	チオテパ	類似の効能・効果、薬理作用を有するメルファラン及びブスルファンは薬価収載後１０年以上であることを踏まえて、新薬算定最類似薬はないと判断した。
	イ．効能・効果	小児悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植の前治療	
	ロ．薬理作用	DNAのアルキル化及び架橋形成による抗腫瘍作用	
	ハ．組成及び化学構造		
	ニ．投与形態 剤形 用法	注射 注射剤 ２日間投与、５日間休薬、２日間投与	

補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅰ）（３５～６０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅰ）（１０～２０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない
	小児加算（５～２０％）	該当する（Ａ＝５％） 効能・効果では小児を対象とすることが明示されており、小児加算の要件を満たす。ただし、国内治験実施症例数が限られていることから、限定的な評価とし、加算率はＡ＝５％とした。
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当する（厚生労働省が開発を公募）
費用対効果評価への該当性		該当しない
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	平成　　年　　月　　日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－注－５

薬効分類		６３１　ワクチン類（注射薬）
成分名		乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン
新薬収載希望者		グラクソ・スミスクライン（株）
販売名（規格単位）		ラビピュール筋注用（１瓶（溶解液付））
効能・効果		狂犬病の予防及び発病阻止 ※保険適用となるのは発病阻止のみ
主な用法・用量		本剤を添付の溶剤（日本薬局方注射用水）の全量で溶解し、次のとおり使用する。 １．曝露前免疫 　１．０ｍＬを１回量として、適切な間隔をおいて３回筋肉内に接種する。 ２．曝露後免疫 　１．０ｍＬを１回量として、適切な間隔をおいて４～６回筋肉内に接種する。 ※保険適用となるのは 2. 曝露後免疫のみ
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）
算定	比較薬	成分名：乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン 会社名：ＫＭバイオロジクス（株）
算定	比較薬	販売名（規格単位）：組織培養不活化狂犬病ワクチン（１瓶（溶解液付）） 薬価（１治療薬価）：１１，３０２円（６７，８１２円）
算定	補正加算	小児加算（Ａ＝５％） １瓶（溶解液付）　（加算前）１１，３０２円　→　（加算後）１１，８６７円
算定	外国平均価格調整	なし
算定薬価		１瓶（溶解液付）　１１，８６７円（１治療薬価：７１，２０２円）

外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測
１瓶（溶解液付） 米国（ＡＳＰ）289.976ﾄﾞﾙ　３１，８９７円※ 英国　34.56ﾎﾟﾝﾄﾞ　５，０４６円 独国　74.54ﾕｰﾛ　９，６１６円 外国平均価格　７，３３１円 ※最低薬価の 2.5 倍を上回るため、対象から除外 （参考） 米国（ＡＷＰ）　404.40ﾄﾞﾙ　４４，４８４円 （注１）為替ﾚｰﾄは平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の平均 （注２）米国（AWP）は従来参照していた RED BOOK の価格 最初に承認された国（年月）： 独国（１９８４年１２月）	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） １０年度　４３０人　０．２３億円

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	左に同じ
	イ．効能・効果	狂犬病の予防及び発病阻止	本剤は、狂犬病の感染予防及び発病阻止に使用する
	ロ．薬理作用	抗狂犬病ウイルス抗体産生作用	左に同じ
	ハ．組成及び化学構造	不活化狂犬病ウイルス（Flury LEP株）	不活化狂犬病ウイルス（Flury HEP株）
	ニ．投与形態 剤形 用法	注射 注－１ １治療４～６回	左に同じ 左に同じ １治療６回
補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない	
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない	
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない	
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない	
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない	
	小児加算（５～２０％）	該当する（Ａ＝５％） 本剤は、小児を対象に国内で臨床試験が実施されていること、比較薬は小児加算を受けていないことから加算の要件に該当する。加算率については、本剤の位置づけが比較薬と同等であることから、５％が妥当であると判断した。	
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織　平成　　年　　月　　日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－注－６

薬効分類		６３４　血液製剤類（注射薬）
成分名		ｐＨ４処理酸性人免疫グロブリン
新薬収載希望者		ＣＳＬベーリング（株）
販売名（規格単位）		ピリヴィジェン１０％点滴静注５ｇ／５０ｍＬ（５ｇ５０ｍＬ１瓶） ピリヴィジェン１０％点滴静注１０ｇ／１００ｍＬ（１０ｇ１００ｍＬ１瓶） ピリヴィジェン１０％点滴静注２０ｇ／２００ｍＬ（２０ｇ２００ｍＬ１瓶）
効能・効果		慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合）
主な用法・用量		慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善： 通常、成人には１日に人免疫グロブリンＧとして４００ｍｇ（４ｍＬ）／ｋｇ体重を５日間連日点滴静注する。 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制： 通常、成人には人免疫グロブリンＧとして「１，０００ｍｇ（１０ｍＬ）／ｋｇ体重を１日」又は「５００ｍｇ（５ｍＬ）／ｋｇ体重を２日間連日」を３週間隔で点滴静注する。
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）
	比較薬	成分名：乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン 会社名：日本製薬（株）
		販売名（規格単位）：献血グロベニンーＩ静注用５０００ｍｇ（５ｇ１００ｍＬ１瓶） 薬価（１日薬価）：３８，８６７円（１５５，４６８円）
	規格間比	献血グロベニンーＩ静注用５０００ｍｇおよび同２５００ｍｇの規格間比：０．９８４３８４
	補正加算	なし
	外国平均価格調整	なし
算定薬価		５ｇ５０ｍＬ１瓶　３９，７１８円 １０ｇ１００ｍＬ１瓶　７８，５８０円 ２０ｇ２００ｍＬ１瓶　１５５，４６８円　（１日薬価　１５５，４６８円）

外国価格

２０ｇ２００ｍＬ１瓶

米国（ASP）	１，６１２．７２ドル	１７７，３９９円
英国	１，０８０．０ポンド	１５７，６８０円
独国	１，９６９．４１ユーロ	２５４，０５４円
外国平均価格		１９６，３７８円

新薬収載希望者による市場規模予測

予測年度	予測本剤投与患者	予測販売金額
（ピーク時）１０年度	５８２人	４３億円

（参考）

５ｇ５０ｍＬ１瓶

米国（AWP）	８３４．００ドル	９１，７４０円

１０ｇ１００ｍＬ１瓶

米国（AWP）	１，６６８．００ドル	１８３，４８０円

２０ｇ２００ｍＬ１瓶

米国（AWP）	３，３３６．００ドル	３６６，９６０円

（注１）為替ﾚｰﾄは平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の平均
（注２）米国（AWP）は従来参照していた RED BOOK の価格

最初に承認された国（年月）：米国（２００７年７月）

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	ｐＨ４処理酸性人免疫グロブリン	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン
	イ．効能・効果	①慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善 ②慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合）	◇無又は低ガンマグロブリン血症 ◇重症感染症における抗生物質との併用 ◇特発性血小板減少性紫斑病（他剤が無効で、著明な出血傾向があり、外科的処置又は出産等一時的止血管理を必要とする場合） ◇川崎病の急性期（重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合） ①慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチーを含む）の筋力低下の改善 ②慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチーを含む）の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合） ◇天疱瘡（ステロイド剤の効果不十分な場合） ◇スティーブンス・ジョンソン症候群及び中毒性表皮壊死症（ステロイド剤の効果不十分な場合） ◇水疱性類天疱瘡（ステロイド剤の効果不十分な場合） ◇ギラン・バレー症候群（急性増悪期で歩行困難な重症例）
	ロ．薬理作用	抗原中和作用／貪食増強作用／免疫調整作用	左に同じ
	ハ．組成及び化学構造	人免疫グロブリンＧ	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンＧ
	ニ．投与形態 剤形 用法	①注射 注射剤 ５日間連日点滴静注 ②注射 注射剤 ３週に１回点滴静注	①注射 注射剤 ５日間連日点滴静注又は直接静注 ②注射 注射剤 ３週に１回点滴静注

補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当しない
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない
	小児加算（５～２０％）	該当しない
	先駆け審査指定制度加算（１０～２０％）	該当しない
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない
費用対効果評価への該当性		該当しない
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	平成　　年　　月　　日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	１９－０５－外－１

薬効分類		２２９　その他の呼吸器官用薬（外用薬）
成分名		フルチカゾンフランカルボン酸エステル／ウメクリジニウム臭化物 ／ビランテロールトリフェニル酢酸塩
新薬収載希望者		グラクソ・スミスクライン（株）
販売名 （規格単位）		テリルジー１００エリプタ１４吸入用（１４吸入１キット） テリルジー１００エリプタ３０吸入用（３０吸入１キット） （１吸入中、フルチカゾンフランカルボン酸エステル／ウメクリジニウム／ビランテロールとして１００μｇ／６２．５μｇ／２５μｇを含有）
効能・効果		慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤、長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β_2刺激剤の併用が必要な場合）
主な用法・用量		通常、成人にはテリルジーエリプタ１吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステルとして１００μｇ、ウメクリジニウムとして６２．５μｇ及びビランテロールとして２５μｇ）を１日１回吸入投与。
算定	算定方式	類似薬効比較方式（Ⅰ）
	比較薬	成分名：ウメクリジニウム臭化物／ビランテロールトリフェニル酢酸塩 会社名：グラクソ・スミスクライン（株）
		販売名（規格単位）：アノーロエリプタ３０吸入用（３０吸入１キット） 薬価（１日薬価）：７，９２４．７０円（２６４．２０円）
	規格間比	アノーロエリプタ７吸入用及び同３０吸入用の規格間比：１．０１２４５ （ただし、規格間比が１を超えるため、１）
	補正加算	有用性加算（Ⅱ）　（Ａ＝１０％） （加算前）７，８１６．１０円　→　（加算後）８，５９７．７０円
	キット特徴部分の原材料費	１４吸入１キット　４，０１２．３０円 → ４，１０７．４０円 ３０吸入１キット　８，５９７．７０円 → ８，６９２．８０円
	外国調整	なし
算定薬価		１４吸入１キット　４，１０７．４０円 ３０吸入１キット　８，６９２．８０円　（１日薬価　：２８９．８０円）

外国価格

１４吸入１キット

米国(NADAC)	121.84ﾄﾞﾙ	１３，４０２．３０円
外国平均価格		１３，４０２．３０円

３０吸入１キット

米国(NADAC)	262.28ﾄﾞﾙ	２８，８５１．００円※
英国	44.50ﾎﾟﾝﾄﾞ	６，４９７．００円
独国	95.57ﾕｰﾛ	１２，３２８．５０円
仏国	57.84ﾕｰﾛ	７，４６１．４０円
外国平均価格		８，７６２．３０円

※最低薬価の 2.5 倍を上回るため、対象から除外

新薬収載希望者による市場規模予測

予測年度	予測本剤投与患者数	予測販売金額
(ピーク時) １０年度	４０万人	２３６億円

（参考）
米国（AWP）

１４吸入１キット	305.29ﾄﾞﾙ	３３，５８１．９０円
３０吸入１キット	655.08ﾄﾞﾙ	７２，０５８．８０円

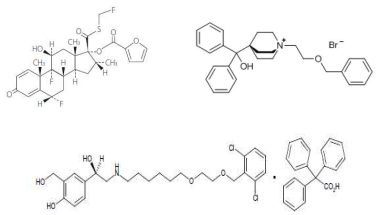
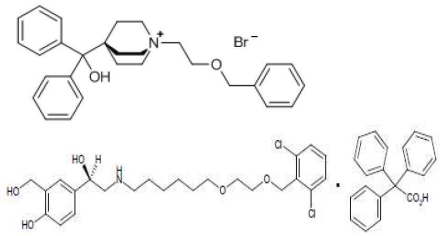
（注１）為替ﾚｰﾄは平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の平均
（注２）米国（AWP）は従来参照していた RED BOOK の価格

最初に承認された国（年月）：米国（２０１７年９月）

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（Ｉ）	第一回算定組織	平成３１年　４月１８日

		新薬	最類似薬
最類似薬選定の妥当性	成分名	フルチカゾンフランカルボン酸エステル／ウメクリジニウム臭化物／ビランテロールトリフェニル酢酸塩	ウメクリジニウム臭化物／ビランテロールトリフェニル酢酸塩
	イ．効能・効果	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤、長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β2刺激剤の併用が必要な場合）	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解（長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β2刺激剤の併用が必要な場合）
	ロ．薬理作用	抗炎症作用／抗コリン作用（持続型）／β2受容体刺激作用（選択性）（持続型）	抗コリン作用（持続型）／β2受容体刺激作用（選択性）（持続型）
	ハ．組成及び化学構造	フルチカゾンフランカルボン酸エステル・ウメクリジニウム臭化物・ビランテロールトリフェニル酢酸塩 	ウメクリジニウム臭化物・ビランテロールトリフェニル酢酸塩 
	ニ．投与形態 剤形 用法	外用 吸入剤 １日１回吸入	左に同じ 左に同じ 左に同じ

補正加算	画期性加算（７０～１２０％）	該当しない
	有用性加算（Ｉ）（３５～６０％）	該当しない
	有用性加算（Ⅱ）（５～３０％）	該当する（Ａ＝１０％） ［ハ．治療方法の改善（不十分例）（利便性）：③-a＝1 p、③-c＝1 p］ 本剤は既存治療で効果不十分な患者群で検討を行い、既存の２成分の治療と比較して、慢性閉塞性肺疾患の増悪の年間発現率で統計学的に有意な差が認められた。また、審査報告書において本剤は３成分を１回の吸入で投与可能であり、利便性が高いと評価されている。これらを踏まえて、有用性加算（Ⅱ）（Ａ＝１０％）を適用することが妥当と判断した。
	市場性加算（Ｉ）（１０～２０％）	該当しない
	市場性加算（Ⅱ）（５％）	該当しない
	小児加算（５～２０％）	該当しない
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当する（主な理由：加算適用）
費用対効果評価への該当性		該当する（Ｈ１）
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織　平成　年　月　日

新薬算定における係数について

●労務費単価

	平成２７年	平成２８年	平成２９年
現金給与総額（円）※１ A	516,721	510,807	475,388
実労働時間（時間）※２ B	158.3	158.8	157.3
時間あたり労務費（円／時間）※３ C	3,264	3,217	3,022
法定福利費（%） ※４ D	14.1	15.1	15.1
労務費単価（円／時間） ※５ E	3,724	3,703	3,478
平成２７年～２９年 平均労務費単価（円／時間）			3,635

※１ 「毎月勤労統計調査」（厚生労働省政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室）全国調査年次報告における医薬品製造業(E165)の規模０（３０人以上）、性T（男女計）の「現金給与額 総額」
※２ 「毎月勤労統計調査」（厚生労働省政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室）全国調査年次報告における医薬品製造業(E165)の規模０（３０人以上）、性T（男女計）の「実労働時間数 総数」
※３ C＝A／B
※４ 「就労条件総合調査」（厚生労働省政策統括官付参事官付賃金福祉統計室）「第３３表 産業、企業規模別、現金給与以外の労働費用の現金給与額に対する割合（３－１）」の「製造業-素材関連」における「法定福利費」
※５ E＝C×（１＋D/１００）

●一般管理販売費率

	平成２７年	平成２８年	平成２９年
一般管理販売費率（%）※6	44.4	50.8	50.7
平成２７年～２９年 平均一般管理販売費率（%）			48.6

●営業利益率

	平成２７年	平成２８年	平成２９年
営業利益率（%）※7	15.5	14.0	15.3
平成２７年～２９年 平均営業利益率（%）			14.9

●流通経費率

	平成２７年	平成２８年	平成２９年
売上高（円） ※８ A	14,933,379	15,771,689	15,474,246
売上原価（円） ※９ B	13,780,038	14,640,643	14,314,297
流通経費率（%）※10 C	7.7	7.2	7.5
平成２７年～２９年 平均流通経費率（%）			7.5

※６ 「産業別財務データハンドブック」（日本政策投資銀行）「第１表」（平成27年のみ「第３表」）の「1. 5. 6 医薬品 Pharmaceuticals」における「販売費・一般管理費」
※７ 「産業別財務データハンドブック」（日本政策投資銀行）「第１表」（平成27年のみ「第３表」）の「1. 5. 6 医薬品 Pharmaceuticals」における「営業損益」
※８ 「医薬品産業実態調査」（厚生労働省医政局経済課）卸売業「表８ 損益計算書（医薬品関係部門以外も含む）」における「売上高」
※９ 「医薬品産業実態調査」（厚生労働省医政局経済課）卸売業「表８ 損益計算書（医薬品関係部門以外も含む）」における「売上原価」
※10 C＝（A－B）／A × １００

費用対効果評価結果を踏まえた価格調整について

○　平成 28 年度より医薬品、医療機器の費用対効果評価を試行的に実施することとされ、オプジーボ点滴静注は当該試行の対象に選定された。

○　平成 30 年度の改定時には費用対効果評価の試行的導入として価格調整が行われたが、オプジーボ点滴静注は企業側の分析結果と厚生労働省側（公的分析班側）の分析結果（ICER）が異なっていたため、より変動の少ない企業側の分析結果をもって価格調整（引下げ）を行った。一方で、分析結果が異なったことの検証作業が引き続き行われ、当該検証の対象品目については、検証作業を通して得られた評価結果に基づき改めて価格調整を行うこととされた

○　今般、オプジーボ点滴静注の費用対効果評価結果がとりまとめられた（※１）ことを踏まえ、新薬収載の機会を活用して薬価を見直すこととする。

≪薬価算定組織　第１回平成 31 年４月 17 日≫

No	銘柄名	成分名	会社名	規格単位	現行薬価	改定薬価	薬効分類		適用日
1	オプジーボ点滴静注 20mg	ニボルマブ	小野薬品工業	20mg2mL1 瓶	35,766 円	35,407 円	注 429	その他の	令和元年８月１日
	同　100mg	（遺伝子組換え）	株式会社	100mg10mL1 瓶	173,768 円	172,025 円		腫瘍用薬	（※２）
	同　240mg			240mg24mL1 瓶	410,580 円	406,463 円			

※１　中医協 費用対効果評価専門部会・薬価専門部会・保険医療材料専門部会合同部会 費薬材－１（平成 31 年３月 27 日）

※２　医療機関における在庫への影響等を踏まえ、調整後の薬価の適用には一定の猶予期間を設けることとする。

	成分数	品目数
注射薬	1	3
計	1	3

中医協	総－２－３
元．５．１５	

令和元年５月薬価収載予定の新薬のうち
１４日ルールの例外的な取扱いをすることについて（案）

新医薬品は、「新医薬品の処方日数制限の取扱いについて」（平成２２年１０月２７日中医協了承）に基づき、一定の条件を満たした場合に限り、処方日数制限について例外的な取扱いをすることとされており、以下の４品目については、その例外的な取扱いを適用してはどうか。

１.「ロスーゼット配合錠ＬＤ、同配合錠ＨＤ」及び「テリルジー１００エリプタ１４吸入用、同３０吸入用」について

別添のとおり、１４日ルールの制限を外すものの条件を満たすことから、例外的に、「処方日数制限を設けないこと」としてはどうか。

> 同様の効能・効果、用法・用量の既収載品の組合せと考えられる新医療用配合剤など、有効成分にかかる効能・効果、用法・用量について、実質的に、既収載品によって１年以上の臨床使用経験があると認められる新医薬品については、新医薬品に係る処方日数制限を設けないこととする。

（別添）

令和元年５月薬価収載予定の新薬のうち１４日ルールの制限を外すもの（案）

番号	投与経路	配合剤の販売名（処方日数制限）	配合成分（一般名）	主な効能･効果	用法・用量	単剤又は配合剤の販売名（承認時期）	単剤又は配合剤の有効成分（一般名）	単剤又は配合剤の主な効能･効果	単剤又は配合剤の主な用法･用量
1	内服	ロスーゼット配合錠LD 同　　配合錠HD （MSD(株)）	エゼチミブ	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症	通常、成人には１日１回１錠（エゼチミブ／ロスバスタチンとして10mg／2.5mg又は10mg／5mg）を食後に経口投与する。	ゼチーア錠10mg （平成19年4月）	エゼチミブ	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症、ホモ接合体シトステロール血症	通常、成人にはエゼチミブとして１回10mgを１日１回食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜減量する。
			ロスバスタチンカルシウム			クレストール錠2.5mg、同錠5mg （平成17年1月）	ロスバスタチンカルシウム	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症	通常、成人にはロスバスタチンとして1日1回2.5mgより投与を開始するが、早期にLDL-コレステロール値を低下させる必要がある場合には5mgより投与を開始してもよい。

※いずれも効能・効果に「高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症」を含み、「エゼチミブ及びロスバスタチンカルシウム」の併用療法は、１年以上の臨床使用経験があると認められる。

番号	投与経路	配合剤の販売名（処方日数制限）	配合成分（一般名）	主な効能･効果	用法・用量	単剤又は配合剤の販売名（承認時期）	単剤又は配合剤の有効成分（一般名）	単剤又は配合剤の主な効能･効果	単剤又は配合剤の主な用法･用量
2	外用	テリルジー100エリプタ 14吸入用 同　　30吸入用 （グラクソ・スミスクライン(株)）	フルチカゾンフランカルボン酸エステル	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤、長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入β_2刺激剤の併用が必要な場合）	通常、成人にはテリルジー100エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステルとして100μg、ウメクリジニウムとして62.5μg及びビランテロールとして25μg）を1日1回吸入投与する。	レルベア100エリプタ 14吸入用 同　　30吸入用 （平成25年9月）	フルチカゾンフランカルボン酸エステル	気管支喘息（吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入β_2刺激剤の併用が必要な場合） 慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤及び長時間作用性吸入β_2刺激剤の併用が必要な場合）	通常、成人にはレルベア100エリプタ1吸入（ビランテロールとして25μg及びフルチカゾンフランカルボン酸エステルとして100μg）を1日1回吸入投与する。
			ビランテロールトリフェニル酢酸塩				ビランテロールトリフェニル酢酸塩		
			ウメクリジニウム臭化物			エンクラッセ62.5μgエリプタ 7吸入用 同　　30吸入用 （平成27年3月）	ウメクリジニウム臭化物	慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解	通常、成人にはエンクラッセ62.5μgエリプタ1吸入（ウメクリジニウムとして62.5μg）を1日1回吸入投与する。

※　いずれも効能・効果に「慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の諸症状の緩解」を含み、「フルチカゾンフランカルボン酸エステル、ビランテロールトリフェニル酢酸塩及びウメクリジニウム臭化物」の３成分併用療法は、１年以上の臨床使用経験があると認められる。

参考

新医薬品の処方日数制限の取扱いについて

平成22年10月27日

中　医　協　了　承

○　新医薬品については、薬価基準収載の翌月の初日から1年間は、原則、1回14日分を限度として投与することとされているところである。しかしながら、当該処方日数制限を行うことが不合理と考えられる下記のような場合は例外的な取扱いとする。

①　同様の効能・効果、用法・用量の既収載品の組合せと考えられる新医療用配合剤など、有効成分にかかる効能・効果、用法・用量について、実質的に、既収載品によって1年以上の臨床使用経験があると認められる新医薬品については、新医薬品に係る処方日数制限を設けないこととする。

②　疾患の特性や、含有量が14日分を超える製剤のみが存在しているといった製剤上の特性から、1回の投薬期間が14日を超えることに合理性があり、かつ、投与初期から14日を超える投薬における安全性が確認されている新医薬品については、薬価基準収載の翌月から1年間は、処方日数制限を、製剤の用法・用量から得られる最少日数に応じた日数とする。

○　例外的な取扱いとする新医薬品は、個別に中医協の確認を得ることとする。

中医協　総－２－４
元．５．１５

類似薬選定のための薬剤分類（改訂第９版）について

１.「類似薬選定のための薬剤分類」は、平成１１年の中医協（薬価制度改革の基本方針）に基づき、類似薬効比較方式に係る類似薬選定の透明化を図るために作成されている医療用医薬品成分の分類で、薬価算定における薬理作用類似薬を判断する上での基礎資料。

２．今般、平成３０年５月から平成３１年４月までに薬価収載された新薬６４成分について、薬価算定組織において検討作業を進め､「類似薬選定のための薬剤分類（改訂第９版）」としてとりまとめた。

類似薬選定のための薬剤分類

（改訂第9版）

薬価算定組織

２０１９年５月現在
（平成31年4月3日薬価基準収載分まで）

＜追加64成分（平成30年5月～平成31年4月収載分）＞

分類名	頁	成分名
112　催眠鎮静剤、抗不安剤	p.8～	デクスメデトミジン塩酸塩
113　抗てんかん剤	p.9～	ラコサミド
		ラコサミド
		ロラゼパム
116　抗パーキンソン剤	p.16～	ラサギリンメシル酸塩
119　その他の中枢神経系用薬	p.21～	メマンチン塩酸塩
		ミロガバリンベシル酸塩
		ナルメフェン塩酸塩水和物
131　眼科用剤	p.28～	オミデネパグ　イソプロピル
214　血圧降下剤	p.39～	エサキセレノン
218　高脂血症用剤	p.46～	ペマフィブラート
219　その他の循環器官用薬	p.48～	スクロオキシ水酸化鉄
		メチロシン
235　下剤・浣腸剤	p.63～	ラクツロース
		マクロゴール4000／塩化ナトリウム／炭酸水素ナトリウム／塩化カリウム
239　その他の消化器官用薬	p.68～	ベドリズマブ（遺伝子組換え）
248　混合ホルモン剤	p.69～	レボノルゲストレル／エチニルエストラジオール
249　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）	p.69～	レルゴリクス
259　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	p.74～	ビベグロン
265　寄生性皮ふ疾患用剤	p.85～	ミコナゾール
325　たん白アミノ酸製剤	p.99～	アミノ酸／糖／電解質／ビタミン
		アミノ酸／糖／電解質／ビタミン
339　その他の血液・体液用薬	p.103～	プラスグレル塩酸塩
396　糖尿病用薬	p.114～	アナグリプチン／メトホルミン塩酸塩
		シタグリプチンリン酸塩水和物／イプラグリフロジン L-プロリン
		リナグリプチン／エンパグリフロジン
399　他に分類されない代謝性医薬品	p.118～	ロモソズマブ（遺伝子組換え）
		エボカルセト
		ミガーラスタット塩酸塩
		コンドリアーゼ
		グセルクマブ（遺伝子組換え）
429　その他の腫瘍用薬	p.121～	エンザルタミド
		ダコミチニブ水和物
		ロルラチニブ
		ギルテリチニブフマル酸塩
		エンコラフェニブ
		ビニメチニブ
		アベマシクリブ

分類名	頁	成分名
		オビヌツズマブ（遺伝子組換え）
		ブリナツモマブ（遺伝子組換え）
		デュルバルマブ（遺伝子組換え）
		シロリムス
449　その他のアレルギー用薬	p.133～	イカチバント酢酸塩
611　主としてグラム陽性菌に作用するもの	p.136～	フィダキソマイシン
613　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	p.136～	タゾバクタムナトリウム／セフトロザン硫酸塩
624　合成抗菌剤	p.136～	テジゾリドリン酸エステル
		テジゾリドリン酸エステル
629　その他の化学療法剤	p.141～	ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物
625　ウイルスに作用するもの	p.142～	バルガンシクロビル塩酸塩
		レテルモビル
		ソホスブビル／ベルパタスビル
		リルピビリン塩酸塩／エムトリシタビン／テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩
		ラルテグラビルカリウム
		ビクテグラビルナトリウム／エムトリシタビン／テノホビル アラフェナミドフマル酸塩
		ドルテグラビルナトリウム／リルピビリン塩酸塩
		レテルモビル
631　ワクチン類	p.145～	組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
634　血液製剤類	p.146～	ルリオクトコグ アルファ ペゴル（遺伝子組換え）
		ダモクトコグアルファペゴル（遺伝子組換え）
		エミシズマブ（遺伝子組換え）
		ノナコグ ベータ ペゴル（遺伝子組換え）
641　抗原虫剤	p.151～	スピラマイシン
リウマチ治療用剤	p.161～	セルトリズマブ　ペゴル（遺伝子組換え）
		サリルマブ（遺伝子組換え）

分類表の見方

１．内注外区分	１：内用薬　　２：注射薬　　３：外用薬
２．分類名	原則として、従来の薬効分類名をもとにした。
３．主な適応症	薬事法上の承認に基づく「効能・効果」をもとに簡潔に記載。 但し、「効能・効果」が多岐にわたる場合は、同一「効能・効果」をもつ薬剤が比較的多い「効能・効果」をまとめて、当該「効能・効果」を「主な適応症」として代表させた。
４．薬理作用１、２、３	添付文書の「薬効薬理」欄の記述をもとに、主な薬理作用を挙げた。同一の薬理作用をもつ薬剤を同一枠内に記載。
５．組成・構造	添付文書等から特徴的な構造群名が用いられていれば記載。配合剤については「配合剤」と記載。
６．成分	添付文書による。
７．剤形区分、剤形	薬価算定上の剤形分類による。
８．用法	特に必要な場合、投与回数等を参考として記載。
９．線引き	以上１～８の項目を勘案して、範疇が異なる領域を線により区分。これが投与経路が同じで薬理作用が類似している薬理作用類似薬の範囲を示すこととなる。

111　全身麻酔剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	全身麻酔剤	全身麻酔の導入	麻酔作用	下行性抑制系活動の増強作用			ケタミン塩酸塩	注－１	注射薬		ケタラール	
				脳幹の網様体賦活系の抑制作用			チアミラールナトリウム	注－１	注射薬		0.5gイソゾール	
							チオペンタールナトリウム	注－１	注射薬		ラボナール注	
		全身麻酔の導入および維持	麻酔作用				プロポフォール	注－１ 注－２	注射薬 キット		ディプリバン注	
		麻酔の補助	鎮痛作用	神経遮断作用			ドロペリドール	注－１	注射薬		ドロレプタン	
3	全身麻酔剤	全身麻酔	麻酔作用	上行性網様体賦活系抑制作用		ハロゲン化エーテル系	イソフルラン	外－２	吸入剤		フォーレン	
							セボフルラン	外－２	吸入剤		セボフレン	
							デスフルラン	外－２	吸入剤		スープレン吸入麻酔	
							麻酔用エーテル	外－２	吸入剤		麻酔用エーテル	
							ハロタン	外－２	吸入剤		フローセン	
							亜酸化窒素	外－２	吸入剤		亜酸化窒素,笑気ガス	

112 抗不安剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	抗不安剤	神経症，心身症における不安・緊張・抑うつ・（睡眠障害）	抗不安作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	フルトプラゼパム	内－1	錠剤		レスタス錠	
							ロフラゼプ酸エチル	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		メイラックス細粒 メイラックス錠	
							オキサゾラム	内－2 内－2 内－1	散剤 細粒剤 錠剤		セレナール散 ペルサール細粒 セレナール錠	
							クロキサゾラム	内－2 内－1	散剤 錠剤		セパゾン散 セパゾン錠	
							クロルジアゼポキシド	内－2 内－1	散剤 錠剤		コントール散,バランス散 コントール錠,バランス錠	
							ジアゼパム	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		セルシン100倍散 セルシル錠 セルシンシロップ	
							メキサゾラム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		メレックス細粒 メレックス錠	
							メダゼパム	内－1	錠剤		レスミット錠	
							ブロマゼパム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		レキソタン細粒 レキソタン錠	
							ロラゼパム	内－1	錠剤		ワイパックス錠	
							エチゾラム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		デパス細粒 デパス錠	
							クロチアゼパム	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		リーゼ顆粒 リーゼ錠	
							クロラゼプ酸二カリウム	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		メンドン	
							フルタゾラム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		コレミナール細粒 コレミナール錠	
							アルプラゾラム	内－1	錠剤		コンスタン錠	
							フルジアゼパム	内－1	錠剤		エリスパン錠	
				セロトニン受容体刺激作用		アザピロン系	タンドスピロンクエン酸塩	内－1	錠剤		セディール錠	
						ジフェニルメタン系	ヒドロキシジン塩酸塩	内－1	錠剤		アタラックス	
							ヒドロキシジンパモ酸塩	内－2 内－1 内－1 内－3 内－3	散剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		アタラックスP10倍散 ハタナジン錠 アタラックスP アタラックスPシロップ アタラックスPﾄﾞﾗｲｼ	
							ガンマオリザノール	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ハイゼット細粒 ハイゼット錠	
		不安緊張状態の鎮静	鎮静作用	臭素イオンを遊離し,大脳皮質の知覚並びに運動領域の興奮抑制作用			臭化カリウム	内－2	末剤		臭化カリウム末	
							臭化ナトリウム	内－2	末剤		臭化ナトリウム末	
2	抗不安剤	神経症における不安・緊張・抑うつ	抗不安作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ジアゼパム	注－1	注射薬		セルシン注射液	
		麻酔前投薬、神経症における不安・緊張・抑うつ	抗不安作用			ジフェニルメタン系	ヒドロキシジン塩酸塩	注－1	注射薬		アタラックスP注射液	
3	抗不安剤	麻酔前投薬	抗不安作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ブロマゼパム	外－6	坐剤		セニラン坐剤	

112 催眠鎮静剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3（作用持続時間）	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	催眠鎮静剤	不眠症	睡眠作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用	短時間作用型	ベンゾジアゼピン系	トリアゾラム	内－1	錠剤		ハルシオン	
							リルマザホン塩酸塩	内－1	錠剤		リスミー錠	
							ロルメタゼパム	内－1	錠剤		ロラメット錠	
						シクロピロロン系	ゾピクロン	内－1	錠剤		アモバン錠	
							エスゾピクロン	内－1	錠剤		ルネスタ錠	
						イミダゾピリジン系	ゾルピデム酒石酸塩	内－1	錠剤		マイスリー錠	
						チエノトリアゾロジアゼピン系	ブロチゾラム	内－1	錠剤		レンドルミン錠	
					中間作用型	ベンゾジアゼピン系	エスタゾラム	内－2 内－1	散剤 錠剤		ユーロジン散 ユーロジン錠	
							フルニトラゼパム	内－1	錠剤		サイレース錠	
							ニトラゼパム	内－2 内－2 内－1	散剤 細粒剤 錠剤 錠剤		ネルボン散 ベンザリン細粒 ネルボン錠 ベンザリン錠	
					長時間作用型	ベンゾジアゼピン系	フルラゼパム塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ベノジールカプセル ダルメートカプセル	
							クアゼパム	内－1	錠剤		ドラール錠	
							ハロキサゾラム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ソメリン細粒 ソメリン錠	
				大脳皮質の知覚並びに運動領域興奮抑制作用	短時間作用型		ブロモバレリル尿素	内－2	末剤		ブロムワレリル尿素	
				Cl透過性上昇作用	短時間作用型	バルビツール酸系	ペントバルビタールカルシウム	内－1	錠剤		ラボナ錠	
					中間作用型	バルビツール酸系	アモバルビタール	内－2	末剤		イソミタール	
					長時間作用型	バルビツール酸系	バルビタール	内－2	末剤		バルビタール	
							フェノバルビタール	内－2 内－2 内－1 内－3	末剤 散剤 錠剤 液剤		ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ末(局) ﾌｪﾉﾊﾞﾙﾋﾞﾀｰﾙ散（局） フェノバール錠 ﾌｪﾉﾊﾞｰﾙｴﾘｷｼﾙ	
				中枢神経系(大脳皮質)抑制作用	短時間作用型		抱水クロラール	内－2	末剤		抱水クロラール「ホエイ」	
		脳波検査等における睡眠					トリクロホスナトリウ	内－3,4	ｼﾛｯﾌﾟ剤		ﾄﾘｸﾛﾘｰﾙｼﾛｯﾌﾟ	
2	催眠鎮静剤	鎮静	催眠鎮静作用	Cl-透過性上昇作用	中間作用型	バルビツール酸系	セコバルビタールナトリウム	注－1	注射薬		注射用アイオナールナトリウム	
					長時間作用型	バルビツール酸系	フェノバルビタール	注－1	注射薬		フェノバール	
		麻酔導入		ベンゾジアゼピン受容体刺激作用	短時間作用型	ベンゾジアゼピン系	ミダゾラム	注－1	注射薬		ドルミカム注	
					中間作用型	ベンゾジアゼピン	フルニトラゼパム	注－1	注射薬		サイレース注	
		集中治療における鎮静	鎮静作用	中枢性α2受容体刺激作用			デクスメデトミジン塩酸塩	注－1	注射薬		プレセデックス静注液200μg	
								注－2	キット		プレセデックス静注液200μg/50mLシリンジ	
3	催眠鎮静剤	催眠、不安・緊張状態の鎮静	催眠鎮静作用	透過性上昇作用	長時間作用型	バルビツール酸系	フェノバルビタールナトリウム	外－6	坐剤		ワコビタール坐剤	
				中枢神経系(大脳皮質)抑制作用	短時間作用型		抱水クロラール	外－6 外－9	坐剤 キット		エスクレ坐剤 エスクレ注腸用キット「500」	

113 抗てんかん剤

内注外区分	分類名	主な適応症(国際抗てんかん発作分類)	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	抗てんかん剤	複雑部分発作，単純部分発作，全般発作(特に欠神発作，ミオクロニー発作)，混合発作	抗痙攣作用	GABA分解酵素活性阻害作用		脂肪酸系	バルプロ酸ナトリウム	内－2 内－2 内－1 内－1 内－4	細粒剤 顆粒剤 錠剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		デパケン細粒 セレニカR顆粒 デパケン錠 デパケンR錠 デパケンシロップ	
		複雑部分発作，単純部分発作，全般発作	抗痙攣作用	電位依存性Naチャンネル遮断作用		ヒダントイン系	フェニトイン	内－2 内－2 内－2 内－1 内－1	散剤 散剤 散剤 錠剤 錠剤		アレビアチン散 ヒダントール散 フェニトイン散 アレビアチン錠 ビタントール錠	
		全般発作(特に強直間代発作)					エトトイン	内－2	末剤		アクセノン末	
		複雑部分発作，全般発作(特に強直性間代発作)				イミノスチルベン系	カルバマゼピン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		テグレトール細粒 テグレトール錠	
		複雑部分発作，単純部分発作，全般発作	抗痙攣作用	Cl-透過性上昇作用		バルビツール酸系	フェノバルビタール	内－2 内－2 内－1 内－3	末剤 散剤 錠剤 液剤		フェノバール末 フェノバール10倍散 フェノバール錠 フェノバルビタールエリキシル	
							プリミドン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		マイソリン細粒 マイソリン錠	
		複雑部分発作，全般発作(特にミオクロニー発作)	抗痙攣作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	クロナゼパム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ランドセン細粒 ランドセン錠	
		単純部分発作，全般発作					ニトラゼパム	内－2 内－2 内－1 内－1	散剤 細粒剤 錠剤 錠剤		ネルボン散 ベンザリン細粒 ネルボン錠 ベンザリン錠	
		他の薬剤と併用による複雑部分発作，単純部分発作，全般発作					クロバザム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		マイスタン細粒 マイスタン錠	
		全般発作(特に欠神発作)	抗痙攣作用	Caチャンネル遮断作用		オキサゾリジン系	トリメタジオン	内－2	散剤		ミノ・アレビアチン散	
		複雑部分発作，単純部分発作，全般発作	抗痙攣作用			フェニル尿素系	アセチルフェネトライド	内－2 内－1	末剤 錠剤		クランポール クランポール錠	
		複雑部分発作	抗痙攣作用			スルタム系	スルチアム	内－1	錠剤		オスポロット錠	
		全般発作(特に欠神発作)	抗痙攣作用			スクシミド系	エトスクシミド	内－2 内－4	散剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		エピレオプリマル散 サロンチンシロップ	
		複雑部分発作，単純部分発作，全般発作(特に強直間代発作)，混合発作	抗痙攣作用			ベンズイソキサゾール系	ゾニサミド	内－2 内－1	散剤 錠剤		エクセグラン	
		部分発作(他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者)	抗痙攣作用	電位依存性Caチャンネル阻害作用			ガバペンチン	内－1 内－3,4	錠剤 シロップ剤		ガバペン錠 ガバペンシロップ	
				電位依存性Naチャンネル抑制作用、電位依存性L型Caチャネル抑制作用、AMPA/カイニン酸型グルタミン酸受容体機能抑制作用、炭酸脱水酵素阻害作用、GABAA受容体機能増強作用			トピラマート	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		トピナ錠 トピナ細粒	
				電位依存性Naチャンネル抑制作用			ラコサミド	内－1 内－3,4	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ビムパット錠 ビムパットﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ	
		部分発作、強直間代発作(他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者)		AMPA型グルタミン酸受容体拮抗作用			ペランパネル水和物	内－1	錠剤		フィコンパ錠	

		部分発作（他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者）	抗痙攣作用	シナプス小胞たん白質2A（SV2A）との結合によるてんかん発作抑制作用			レベチラセタム	内－1	錠剤		イーケプラ錠	
								内－3,4	ドライシロップ剤		イーケプラドライシロップ	
		部分発作，強直間代発作、Lennox-Gastaut症候群における全般発作（他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者）	抗痙攣作用	電位依存性Naチャンネル抑制作用			ラモトリギン	内－1	錠剤 錠小児用		ラミクタール	
		他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないLennox-Gastaut症候群における強直発作及び脱力発作に対する抗てんかん薬との併用療					ルフィナミド	内－1	錠剤		イノベロン錠	
		クロバザム及びバルプロ酸ナトリウムで十分な効果が認められないDravet症候群患者における間代発作又は強直間代発作に対するクロバザム及びバルプロ酸ナトリウムとの併用療法	抗痙攣作用	GABA の取り込み阻害作用			スチリペントール	内－1 内－3,4	カプセル剤 ドライシロップ剤		ディアコミットカプセル ディアコミットドライシロップ	
		点頭てんかん	抗痙攣作用	GABAアミノ基転移酵素阻害作用			ビガバトリン	内－2	散剤		サブリル散分包	
		皮質性ミオクローヌスに対する抗てんかん剤などとの併用療法	抗ミオクローヌス作用				ピラセタム	内－3	液剤		ミオカーム内服液	
		複雑部分発作，単純部分発作，全般発作	配合剤（抗痙攣作用＋催眠鎮静作用）	電位依存性Naチャンネル遮断作用		配合剤	フェニトイン／フェノバルビタール／安息香酸ナトリウムカフェイン	内－1	錠剤		ヒダントール-D，-E，-F	
						配合剤	フェニトイン／フェノバルビタール	内－1	錠剤		複合アレビアチン	
2	抗てんかん剤	複雑部分発作，単純部分発作，全般発作	抗痙攣作用	Cl-透過性上昇作用		バルビツール酸系	フェノバルビタール	注－1	注射薬		10%フェノバール	
		新生児けいれん、てんかん重積発作					フェノバルビタールナトリウム	注－1	注射薬		ノーベルバール静注用	
		全般発作（てんかん発作重積症を含む）	抗痙攣作用	電位依存性Naチャンネル遮断作用		ヒダントイン系	フェニトインナトリウム	注－1	注射薬		アレビアチン注射液	
		てんかん重積状態、脳外科手術又は意識障害（頭部外傷等）時のてんかん発作の発現抑制等					ホスフェニトインナトリウム水和物	注－1	注射薬		ホストイン静注	
		てんかん重積状態		ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ミダゾラム	注－1	注射薬		ミダフレッサ静注	
							ロラゼパム	注－1	注射薬		ロラピタ静注	
		全般発作（てんかん様重積発作の抑制を含む）	抗痙攣作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ジアゼパム	注－1	注射薬		セルシン注射液	
		部分発作（二次性全般化発作を含む）	抗痙攣作用	シナプス小胞たん白質2A（SV2A）との結合によるてんかん発作抑制作用			レベチラセタム	注－1	注射薬		イーケプラ点滴静注	
				電位依存性Naチャンネル抑制作用			ラコサミド	注－1	注射薬		ビムパット点滴静注	
3	抗てんかん剤	熱性けいれん及びてんかんのけいれん発作の改善	抗痙攣作用	Cl-透過性上昇作用		バルビツール酸系	フェノバルビタール	外－6	坐剤		ワコビタール坐剤	
				ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ジアゼパム	外－6	坐剤		ダイアップ坐剤	

114 解熱鎮痛消炎剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	解熱鎮痛消炎剤	疼痛性疾患、炎症性疾患、熱性疾患	鎮痛作用／抗炎症作用／（解熱作用）	プロスタグランジン生合成阻害作用		アリール酢酸系	アセメタシン	内－1	錠剤		ランツジールコーワ錠	
							インドメタシン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		インドメタシンカプセル	
							ジクロフェナクナトリウム	内－1 内－1 内－1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ボルタレン錠 ボルタレンSRカプセル ナボールSRカプセル	
							モフェゾラク	内－1	錠剤		ジソペイン錠	
							インドメタシンファルネシル	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		インフリーカプセル	
							スリンダク	内－1	錠剤		クリノリル錠	
							ナブメトン	内－1	錠剤		レリフェン錠	
							プログルメタシンマレイン酸塩	内－1	錠剤		ミリダシン錠	
						アントラニル酸系	フルフェナム酸アルミニウム	内－1	錠剤		オパイリン錠	
							メフェナム酸	内－2 内－2 内－1 内－1 内－3	散剤 細粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 シロップ剤		ポンタール散 ポンタール細粒 ポンタール錠 ポンタールカプセル ポンタールシロップ	
						プロピオン酸系	チアプロフェン酸	内－1	錠剤		スルガム錠	
							ロキソプロフェンナトリウム	内－2 内－1 内－3	細粒剤 錠剤 液剤		ロキソニン細粒 ロキソニン錠	
							イブプロフェン	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		ブルフェン顆粒 ブルフェン錠	
							プラノプロフェン	内－1 内－1 内－3 内－3	錠剤 カプセル剤 シロップ剤 液剤		ニフラン錠	
							オキサプロジン	内－1	錠剤		アルボ	
							ザルトプロフェン	内－1	錠剤		ソレトン錠，ペオン錠	
							ナプロキセン	内－1	錠剤		ナイキサン錠	
							フルルビプロフェン	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		フロベン顆粒 フロベン錠	
						オキシカム系	アンピロキシカム	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		フルカムカプセル	
							ピロキシカム	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		バキソカプセル	
							メロキシカム	内－1	錠剤		モービック錠	
							ロルノキシカム	内－1	錠剤		ロルカム錠	
						ピラゾ酢酸系	エトドラク	内－1	錠剤		オステラック錠 ハイペン錠	
						サリチル酸系	アスピリン	内－2 内－1	末剤 錠剤		アスピリン末 アスピリン錠	
						コキシブ系	セレコキシブ	内－1	錠剤		セレコックス錠	
				体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用		サリチル酸系	サリチルアミド	内－2	末剤		サリチルアミド「イワキ」	
				起炎物質抑制作用			エピリゾール	内－2	顆粒剤		メブロンG	
							チアラミド塩酸塩	内－1	錠剤		ソランタール錠	
							プコローム	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		パラミヂンカプセル	
			配合剤（鎮痛作用／抗炎症作用／（解熱作用））	プロスタグランジン生合成阻害作用＋胃粘膜保護作用		配合剤	アスピリン／ダイアルミネート	内－1	錠		バファリン330mg錠	

		熱性疾患、疼痛性疾患	解熱作用／鎮痛作用	体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用		アニリン系	アセトアミノフェン	内－２ 内－２ 内－１ 内－３ 内－３	散剤 細粒剤 錠剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		アセトアミノフェン カロナール細粒 カロナール錠 カロナールシロップ アセトアミノフェンドライシロップ	
						ピラゾロン系	イソプロピルアンチピリン	内－２	散剤		イソプロピルアンチピリン ヨシピリン	
						サリチル酸系	エテンザミド	内－２	散剤		エテンザミド	
		熱性疾患	解熱作用	体温中枢調節作用		ピラゾロン系	スルピリン	内－２	末剤		スルピリン	
		疼痛性疾患	鎮痛作用	中枢鎮痛機構活性化作用			ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	内－１	錠剤		ノイロトロピン錠	
			配合剤（鎮痛作用）	中枢性痛覚抑制作用＋中枢興奮作用		配合剤	アンチピリン／カフェイン／クエン酸	内－２	末剤		ミグレニン	
				視床下部抑制作用＋中枢興奮作用		配合剤	シメトリド／無水カフェイン	内－２	顆粒剤		キョーリンAP2配合顆粒	
2	解熱鎮痛消炎剤	疼痛性疾患	鎮痛作用			プロピオン酸系	ケトプロフェン	注－１	注射薬		カピステン筋注、メジェイド筋注	
							フルルビプロフェンアキセチル	注－１	注射薬		ロピオン静注	
				体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用		サリチル酸系	サリチル酸ナトリウム	注－１	注射薬		サリチル酸Na静注	
				中枢鎮痛機構活性化作用			ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	注－１	注射薬		ノイロトロピン注射液	
			配合剤	プロスタグランジン生合成阻害作用＋鎮痛効果増強作用		配合剤	サリチル酸ナトリウム／コンドロイチン硫酸ナトリウム	注－１	注射薬		ロイサールS注射液	
				プロスタグランジン生合成阻害作用＋局所麻酔作用		配合剤	サリチル酸ナトリウム／ジブカイン	注－１ 注－２	注射薬 キット		ネオビタカイン注 ネオビタカイン注シリンジ	
		熱性疾患	解熱作用	体温中枢調節作用		ピラゾロン系	スルピリン	注－１	注射薬		メチロン注	
		熱性疾患、疼痛性疾患	解熱作用／鎮痛作用	体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用		アニリン系	アセトアミノフェン	注－１	注射薬		アセリオ静注液	
3	解熱鎮痛消炎剤	熱性疾患、疼痛性疾患、炎症性疾患	解熱作用／鎮痛作用／抗炎症作用	プロスタグランジン生合成阻害作用		アリール酢酸系	ジクロフェナクナトリウム	外－６ 外－１ 外－１ 外－１ 外－５	坐剤 クリーム剤 ローション剤 ゲル 貼付剤		ボルタレンサポ ボルタレンクリーム ボルタレンローション ボルタレンゲル ボルタレンテープ	
						プロピオン酸系	ケトプロフェン	外－６	坐剤		メナミン坐剤	
						アリール酢酸系	インドメタシン	外－６	坐剤		インダシン坐剤	
						オキシカム系	ピロキシカム	外－６	坐剤		バキソ坐剤	
		熱性疾患、疼痛性疾患	解熱作用／鎮痛作用	体温中枢調節作用＋中枢性痛覚抑制作用		アニリン系	アセトアミノフェン	外－６	坐剤		アンヒバ坐剤	

114　弱オピオイド類

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	弱オピオイド類	癌性疼痛	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用		ベンズアゾシン系	ペンタゾシン塩酸塩	内－1	錠剤		ソセゴン錠25mg	
		癌性疼痛、慢性疼痛（非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合）				フェノールエーテル系	トラマドール塩酸塩	内－1 内－1	錠剤 錠剤	1日4回 1日1回	トラマールOD錠 ワントラム錠	
		非がん性慢性疼痛、抜歯後の疼痛（非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合）	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用／中枢性痛覚抑制作用			トラマドール塩酸塩／アセトアミノフェン	内－1	錠剤		トラムセット配合錠	
2	弱オピオイド類	癌性疼痛、術後疼痛	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用		ベンザゾニン系	エプタゾシン臭化水素酸	注－1	注射薬		セダペイン注	
							ブプレノルフィン塩酸塩	注－1	注射薬		レペタン注	
						ベンズアゾシン系	ペンタゾシン	注－1	注射薬		ソセゴン注射液	
						フェノールエーテル	トラマドール塩酸塩	注－1	注射薬		クリスピン注1号	
3	弱オピオイド類	癌性疼痛、術後疼痛	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用			ブプレノルフィン塩酸塩	外－6	坐剤		レペタン坐薬	
		慢性疼痛における鎮痛（変形性関節症、腰痛症）	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用			ブプレノルフィン	外－5	貼付剤		ノルスパンテープ	

114・211・216　片頭痛用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	片頭痛用剤	片頭痛	血管収縮作用	抗セロトニン作用			ジメトチアジンメシル酸塩	内－1	錠剤		ミグリステン錠	
				ｾﾛﾄﾆﾝ5-HT1受容体刺激作用		トリプタン系	コハク酸スマトリプタン	内－1	錠剤		イミグラン錠	
							臭化水素酸エレトリプタン	内－1	錠剤		レルパックス錠20mg	
							ゾルミトリプタン	内－1	錠剤		ゾーミッグ錠	
							安息香酸リザトリプタン	内－1	錠剤		マクサルト錠10mg	
							ナラトリプタン塩酸塩	内－1	錠剤		アマージ錠	
			中枢神経興奮作用				カフェイン	内－2	末剤		カフェイン	
							安息香酸ナトリウムカフェイン	内－2	末剤		安息香酸ナトリウムカフェイン	
			血管収縮抑制作用	カルシウム拮抗作用		ピペラジン系	塩酸ロメリジン	内－1	錠剤		ミグシス錠	
			配合剤（血管収縮作用＋中枢神経興奮作用＋鎮痛作用）			配合剤	酒石酸エルゴタミン／無水カフェイン／イソプロピルアンチピリン	内－1	錠剤		クリアミンA錠 クリアミンS錠	
2	片頭痛用剤	片頭痛	脳血管収縮作用	ｾﾛﾄﾆﾝ5-HT1受容体刺激作用		トリプタン系	スマトリプタンコハク酸塩	注－1 注－2	注射薬キット		イミグラン注3 イミグランキット皮下注3mg	
3	片頭痛用剤	片頭痛	血管収縮作用	ｾﾛﾄﾆﾝ5-HT1受容体刺激作用		トリプタン系	スマトリプタン	外－2	噴霧剤（鼻腔内）		イミグラン点鼻液20	

１１５　興奮剤・覚醒剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	覚醒剤	ナルコレプシー	覚醒作用	ノルエピネフリン、ドパミン遊離取り込み阻害作用／MAO阻害作用			メタンフェタミン塩酸塩	内－１	錠剤		ヒロポン錠	
2	覚醒剤	ナルコレプシー	覚醒作用	ノルエピネフリン、ドパミン遊離取り込み阻害作用／MAO阻害作用			メタンフェタミン塩酸塩	注－１	注射薬		ヒロポン注射液	

116 抗パーキンソン剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤型区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
1	抗パーキンソン剤	パーキンソン病	ドパミン増加作用				レボドパ	内－2 内－1 内－1	散剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ドパストン散 ドパゾール錠 ドパールカプセル		
			配合剤(ドパミン増加作用＋レボドパ脱炭酸酵素阻害作用)			配合剤	レボドパ／ベンセラジド塩酸塩	内－1	錠剤		ネオドパゾール錠		
						配合剤	レボドパ／カルビドパ水和物	内－1	錠剤		ネオドパストン錠		
						配合剤	レボドパ／カルビドパ水和物	内－3	液剤		デュオドーパ配合経腸用液	★レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動の改善	
			配合剤(ドパミン増加作用＋レボドパ脱炭酸酵素阻害作用+COMT阻害作用)			配合剤	レボドパ/カルビドパ水和物/エンタカポン	内－1	錠剤		スタレボ配合錠		
			ドパミン受容体刺激作用	ドパミンD2受容体刺激作用			タリペキソール塩酸塩	内－1	錠剤		ドミン錠		
							プラミペキソール塩酸塩水和物	内－1	錠剤	1日2～3回	ビ･シフロール錠	★中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群(下肢静止不能症候群)	
								内－1	錠剤	1日1回	ミラペックスLA錠	★1日1回投与の徐放性製剤	
							ロピニロール塩酸塩	内－1	錠剤	1日3回	レキップ錠		
								内－1	錠剤	1日1回	レキップCR錠	★1日1回投与の徐放性製剤	
				ドパミンD1，D2受容体刺激作			カベルゴリン	内－1	錠剤		カバサール錠		
							ペルゴリドメシル酸塩	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤		ペルマックス錠		
			ノルアドレナリン増加作用				ドロキシドパ	内－2 内－1 内－1	細粒剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤		ドプス細粒 ドプスカプセル ドプスOD錠	★パーキンソン病におけるすくみ足、立ちくらみの改善	
			B型モノアミン酸化酵素阻害作用				セレギリン塩酸塩	内－1	錠剤		エフピー錠		
							ラサギリンメシル酸塩	内－1	錠剤		アジレクト錠		
			B型モノアミン酸化酵素阻害作用＋ドパミン増加作用				ゾニサミド	内－1	錠剤		トレリーフ錠	★レボドパ含有製剤に他の抗パーキンソン病薬を使用しても十分に効果が得られなかった場合	
			カテコール-O-メチル基転移酵素(COMT)阻害作用				エンタカポン	内－1	錠剤		コムタン錠	★レボドパ含有製剤との併用療法のみ	
			アデノシンA2A受容体拮抗作用				イストラデフィリン	内－1	錠剤		ノウリアスト錠	★レボドパ含有製剤との併用療法のみ	
		パーキンソン症候群	ドパミン受容体刺激作用	ドパミンD2受容体刺激作用		麦角アルカロイド系	ブロモクリプチンメシル酸塩	内－1	錠剤		パーロデル	★産褥性乳汁分泌抑制,乳汁漏出症／高プロ	
							アマンタジン塩酸塩	内－2 内－2 内－1	散剤 細粒剤 錠剤		塩酸アマンタジン1%散　シンメトレル細粒 シンメトレル錠	★脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善／(シンメトレル)A型インフルエンザウイルス感染症。ただしパーキンソン病はルシトン、ロティ(ファミ)を除く	
			アセチルコリン受容体拮抗作用				ブロメタジン塩酸塩	内－1	錠剤		ヒベルナ糖衣錠 ピレチア錠	★麻酔前投薬,人工(薬物)冬眠／感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽／アレルギー性鼻炎,抗薬酔,自律運動性遅延／中枢疾患に伴	
							ピロヘプチン塩酸塩	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		トリモール細粒 トリモール錠		
							トリヘキシフェニジル塩酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		アーテン散 アーテン錠		
							ビペリデン塩酸塩	内－2 内－2 内－1	散剤 細粒剤 錠剤		ビペリデン塩酸塩散 アキネトン細粒 アキネトン錠		
							マザチコール塩酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		ベントナ散 ベントナ錠	★向精神薬投与によるパーキンソン症候群	
			自発運動抑制作用				チアプリド塩酸塩	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		グラマリール細粒 グラマリール錠	★パーキンソニズムに伴うジスキネジア	
2	抗パーキンソン剤	パーキンソン病	ドパミン増加作用				レボドパ	注－1	注射薬		ドパストン注射液		
			アセチルコリン受容体拮抗作用				ブロメタジン塩酸塩	注－1	注射薬		ヒベルナ注		
							ビペリデン乳酸塩	注－1	注射薬		アキネトン注射液		
			ドパミンD1様及びD2様受容体刺激作用				アポモルヒネ塩酸塩	注－1	注射薬		アポカイン皮下注	★パーキンソン病におけるオフ症状の改善(レボドパ含有製剤の頻回投与及び他の抗パーキンソン病薬の増量等を行っても十分に効果が	
3	抗パーキンソン剤	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	ドパミンD2受容体刺激作用			ロチゴチン	外－5	貼付剤	1日1回	ニュープロパッチ	★中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群(下肢静止不能症候群)	

117　抗うつ剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	抗うつ剤	うつ病・うつ状態	モノアミン再取り込み阻害作			三環系	アミトリプチリン塩酸塩	内－1	錠剤		トリプタノール錠	
							イミプラミン塩酸塩	内－1	錠剤		トフラニール錠	
							トリミプラミンマレイン酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		スルモンチール散 スルモンチール錠	
							クロミプラミン塩酸塩	内－1	錠剤		アナフラニール錠	
							アモキサピン	内－2 内－1	細粒剤 カプセル剤		アモキサン細粒 アミキサンカプセル	
							ロフェプラミン塩酸塩	内－1	錠剤		アンプリット錠	
							ドスレピン塩酸塩	内－1	錠剤		プロチアデン錠	
							ノルトリプチリン塩酸塩	内－1	錠剤		ノリトレン錠	
						四環系	マプロチリン塩酸塩	内－1	錠剤		ルジオミール錠	
			α2-アドレナリン受容体遮断作用 セロトニン受容体遮断作用			四環系	ミアンセリン塩酸塩	内－1	錠剤		テトラミド錠	
							セチプチリンマレイン酸塩	内－1	錠剤		テシプール錠	
			セロトニン再取り込み阻害作用			トリアゾロピリジン系	トラゾドン塩酸塩	内－1	錠剤		レスリン錠	
			選択的セロトニンの再取り込み阻害作用				フルボキサミンマレイン酸塩	内－1	錠剤		ルボックス錠	
							パロキセチン塩酸塩水和物	内－1	錠剤		パキシル錠	
							セルトラリン塩酸塩	内－1	錠剤		ジェイゾロフト錠	
							エスシタロプラムシュウ酸塩	内－1	錠剤		レクサプロ錠	
			セロトニン、ノルアドレナリン再取り込み阻害作用				ミルナシプラン塩酸塩	内－1	錠剤		トレドミン錠	
							デュロキセチン塩酸塩	内－1	カプセル剤		サインバルタカプセル	
							ベンラファキシン塩酸塩	内－1	カプセル剤		イフェクサーSRカプセル	
			ノルアドレナリン作動性 セロトニン作動性				ミルタザピン	内－1	錠剤		レメロン錠 リフレックス錠	
			ドパミン受容体拮抗作用			ベンズアミド系	スルピリド	内－1 内－1 内－2	錠剤 カプセル剤 細粒剤			
			中枢神経興奮作用				ペモリン	内－1	錠剤		ベタナミン錠	
2	抗うつ剤	うつ病・うつ状態	モノアミン再取り込み阻害作			三環系	クロミプラミン塩酸塩	注－1	注射薬		アナフラニール注射	

117 精神神経用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	精神神経用剤	統合失調症	抗ドパミン作用			フェノチアジン系	ペルフェナジン	内－2 内－1	散剤 錠剤		トリオミン散 トリオミン錠	
							ペルフェナジンマレイン酸塩	内－1	錠剤		ピーゼットシー糖衣錠	
							ペルフェナジンフェンジゾ酸	内－2	散剤			
							プロクロルペラジンマレイン酸塩	内－1	錠剤		パソトミン倍散 ノバミン錠	
							プロペリシアジン	内－2 内－1 内－4	細粒剤 錠剤 液剤		ニューレプチル細粒 ニューレプチル錠 ニューレプチル液	
							クロルプロマジン塩酸塩	内－1 内－1	錠剤 錠剤		ウインタミン錠 コントミン糖衣錠	
							クロルプロマジンフェノールフタリン酸塩	内－2	細粒剤		ウインタミン細粒	
							レボメプロマジンマレイン酸塩	内－2 内－2 内－2 内－1	散剤 顆粒剤 細粒剤 錠剤		ヒルナミン散 プロクラジン顆粒 ヒルナミン細粒 ヒルナミン錠	
							フルフェナジンマレイン酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		フルメジン500倍散 フルメジン糖衣錠	
						チエピン系	ゾテピン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ロドピン細粒 ロドピン錠	
						イミノジベンジル系	クロカプラミン塩酸塩	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		クロフェクトン顆粒 クロフェクトン錠	
							モサプラミン塩酸塩	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		クレミン顆粒 クレミン錠	
						インドール系	オキシペルチン	内－2 内－1	散剤 錠剤		ホーリット散 ホーリット錠	
						ブチロフェノン系	ハロペリドール	内－2 内－1 内－4	細粒剤 錠剤 液剤		セレネース細粒 セレネース錠 セレネース液	
							ピモジド	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		オーラップ細粒 オーラップ錠	
							スピペロン	内－1	錠剤		スピロピタン錠	
							ピパンペロン塩酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		プロピタン散 プロピタン錠	
							チミペロン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		トロペロンS トロペロン錠	
							ブロムペリドール	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		インプロメン細粒 インプロメン錠	
						ベンザミド系	ネモナプリド	内－1	錠剤		エミレース錠	
							スルトプリド塩酸塩	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		バルネチール細粒 バルネチール錠	
							スルピリド	内－1 内－1 内－2	錠剤 カプセル剤 細粒剤		ドグマチール錠	

			抗ドパミン作用／抗セロトニン作用			ベンズイソキサゾール系	リスペリドン	内－2 内－1 内－3	細粒剤 錠剤 内用液		リスパダール細粒 リスパダール錠 リスパダール内用液	
							パリペリドン	内－1	錠剤		インヴェガ錠	
						チエノベンゾジアゼピン系	オランザピン	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		ジプレキサ錠 ジプレキサ細粒	
						ジベンゾチアゼピン系	クエチアピンフマル酸塩	内－1 内－2 内－1	錠剤 細粒剤 錠剤		セロクエル錠 セロクエル細粒 ビプレッソ徐放錠	
						ベンズイソチアゾール系	ペロスピロン塩酸塩水和物	内－1	錠剤		ルーラン錠	
							ブロナンセリン	内－1 内－2	錠剤 散剤		ロナセン錠 ロナセン散	
						ジベンゾジアゼピン系	クロザピン	内－1	錠剤		クロザリル錠	
							アセナピンマレイン酸塩	内－5	舌下錠		シクレスト舌下錠	
			ドパミンD2受容体部分アゴニスト作用			キノリノン系	アリピプラゾール	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 液剤		エビリファイ散 エビリファイ錠、OD錠 エビリファイ内用液	
							ブレクスピプラゾール	内－1	錠剤		レキサルティ錠	
			抗セロトニン作用／抗カテコールアミン作用				レセルピン	内－2 内－1	散剤 錠剤		レセルピン散 レセルピン錠 （アポプロン散・錠）	
		統合失調症の興奮状態，躁病,躁うつ病の躁状態	情動経路の誘発電位抑制作用				カルバマゼピン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		テグレトール細粒 テグレトール錠	
		躁病及び躁うつ病の躁状態	躁状態改善作用				炭酸リチウム	内－1	錠剤		リーマス	
2	精神神経用剤	統合失調症	抗ドパミン作用			フェノチアジン系	ペルフェナジン塩酸塩	注－1	注射薬		ピーゼットシー注	
							クロルプロマジン塩酸塩	注－1	注射薬		コントミン筋注	
							レボメプロマジン塩酸塩	注－1	注射薬		ヒルナミン注	
							フルフェナジンデカン酸塩	注－1	注射薬		フルデカシン注	
						ブチロフェノン系	ハロペリドール	注－1	注射薬		セレネース注	
							ハロペリドールデカン酸エステル	注－1	注射薬		ハロマンス注 ネオペリドール注	
							チミペロン	注－1	注射薬		トロペロン注	
						ベンザミド系	スルピリド	注－1	注射薬		ドグマチール注	
			抗ドパミン作用／抗セロトニン作用			ベンズイソキサゾール系	リスペリドン	注－2	キット		リスパダール　コンスタ筋注用	
							パリペリドンパルミチン酸エステル	注－2	キット		ゼプリオン水懸筋注シリンジ	
						チエノベンゾジアゼピン系	オランザピン	注－1	注射薬		ジプレキサ筋注用	
			ドパミンD2受容体部分アゴニスト作用			キノリノン系	アリピプラゾール水和物	注－1 注－2	注射薬 キット		エビリファイ持続性水懸筋注用 エビリファイ持続性水懸筋注用シリンジ	
			抗セロトニン作用／抗カテコールアミン作用				レセルピン	注－1	注射薬		レセルピン注 （アポプロン注）	

118 総合感冒剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	総合感冒剤	感冒若しくは上気道炎に伴う諸症状の改善	配合剤（感冒症状改善作用）			配合剤	サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン／クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－２	顆粒剤		ペレックス顆粒	
							サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン／クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－２	顆粒剤		ペレックス-1/6顆粒	
							サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン／メチレンジサリチル酸プロメタジン	内－２ 内－１	顆粒剤 錠剤		PL顆粒 ピーエイ錠	
							サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン／メチレンジサリチル酸プロメタジン	内－２	顆粒剤		幼児用PL顆粒	

119 その他の中枢神経系用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の中枢神経用薬	脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善	精神活動改善作用				アマンタジン塩酸塩	内－2 内－2 内－1	散剤 細粒剤 錠剤		塩酸ｱﾏﾝﾀｼﾞﾝ散-GE シンメトレル細粒 シンメトレル錠	
		高プロラクチン血性排卵障害,高プロラクチン血性下垂体腺腫(外科的処置を必要としない場合に限る),乳汁漏出症,産褥性乳汁分泌抑制	下垂体プロラクチン分泌細胞のドパミンD-2受容体刺激作用				テルグリド	内－1	錠剤		テルロン錠	
		高度肥満症における食事療法及び運動療法の補助	摂食中枢抑制作用				マジンドール	内－1	錠剤		サノレックス錠	
		筋萎縮性側索硬化症(ALS)の治療および病態進展の抑制	神経細胞保護作用				リルゾール	内－1	錠剤		リルテック錠	
		アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	アセチルコリンエステラーゼ可逆的阻害作用				ドネペジル塩酸塩	内－1 内－2 内－3	錠剤 細粒剤 ゼリー		アリセプト錠 アリセプト細粒 アリセプト内服ゼリー	
		軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	アセチルコリンエステラーゼ可逆的阻害作用	ﾆｺﾁﾝ性ｱｾﾁﾙｺﾘﾝ受容体ｱﾛｽﾃﾘｯｸ増強作用			ガランタミン臭化水素酸塩	内－1 内－3	錠剤 液剤		レミニール錠 レミニール内用液	
		中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	NMDA受容体拮抗作用				メマンチン塩酸塩	内－1 内－1 内－3	錠剤 錠剤 ドライシロップ剤		メマリー錠 メマリーOD錠 メマリードライシロップ	
		次の疾患における頭痛・頭重,倦怠感,心悸亢進,発汗等の自律神経症状：自律神経失調症,頭部・頸部損傷,更年期障害・卵巣欠落症状	自律神経緊張不均衡改善作用				トフィソパム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		グランダキシン細粒 グランダキシン錠	
		脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為,精神興奮,徘徊,せん妄の改善	自発運動抑制作用	抗ドパミン作用			チアプリド塩酸塩	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		グラマリール細粒 グラマリール錠	
		脊髄小脳変症における運動失調の改善	自発運動亢進作用				タルチレリン水和物	内－1	錠剤		セレジスト錠5	
		不眠症における入眠困難の改善	催眠作用	メラトニン受容体刺激作用			ラメルテオン	内－1	錠剤		ロゼレム錠	
		不眠症		オレキシン受容体拮抗作用			スボレキサント	内－1	錠剤		ベルソムラ錠	
		ナルコレプシーに伴う日中の過度の眠気	中枢神経興奮作用	覚醒作用			モダフィニル	内－1	錠剤		モディオダール錠	
		ナルコレプシー	中枢神経興奮作用	覚醒作用			メチルフェニデート塩酸塩	内－1	錠剤		リタリン錠	
		注意欠陥／多動性障害（AD/HD）	中枢神経興奮作用				メチルフェニデート塩酸塩	内－1	錠剤		コンサータ錠	
			選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害作用				アトモキセチン塩酸塩	内－1 内－3，4	カプセル剤 液剤		ストラテラカプセル ストラテラ内用液	
		小児期における注意欠陥／多動性障害（AD/HD）	選択的α2Aアドレナリン受容体作動薬				グアンファシン塩酸塩	内－1	錠剤		インチュニブ錠	
		次の患者におけるそう痒症の改善（既存治療で効果不十分な場合に限る）血液透析患者、慢性肝疾患患者		選択的オピオイドκ受容体作動作用			ナルフラフィン塩酸塩	内－1	カプセル剤 錠剤		レミッチカプセル レミッチOD錠	
		末梢性神経障害性疼痛	電位依存性カルシウムチャネルのα2δサブユニット結合によるカルシウム流入の抑制を介した興奮性神経伝達物質の遊離の抑制作用				プレガバリン	内－1 内－1	カプセル剤 錠剤		リリカカプセル リリカOD錠	
							ミロガバリンベシル酸塩	内－1	錠剤		タリージェ錠	
		中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）	電位依存性カルシウムチャンネル阻害作用				ガバペンチン　エナカルビル	内－1	錠剤		レグナイト錠	

		ハンチントン病に伴う舞踏運動	モノアミン小胞トランスポーター2（VMAT2）の選択的阻害作用				テトラベナジン	内－1	錠剤		コレアジン錠	
		アルコール依存症患者における断酒維持の補助	グルタミン酸作動性神経活動の抑制				アカンプロサートカルシウム	内－1	錠剤		レグテクト錠	
		アルコール依存症患者における飲酒量の低減	選択的オピオイド受容体調節作用				ナルメフェン塩酸塩水和物	内－1	錠剤		セリンクロ錠	
2	その他の中枢神経用薬	(1)頭部外傷、くも膜下出血に伴う昏睡,半昏睡を除く遷延性意識障害 (2)脊髄小脳変性症における運動失調の改善	意識障害改善作用／自発運動亢進作用				プロチレリン酒石酸塩	注－1	注射薬		ヒルトニン注射液	
		脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善	フリーラジカル消去作用				エダラボン	注－1 注－2	注射薬 キット		ラジカット注 ラジカット点滴静注バッグ	
		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	α4インテグリンと血管細胞接着分子（VCAM-1）の相互作用に対する阻害作用			ヒト型モノクローナル抗体	ナタリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		タイサブリ点滴静注	
		脊髄性筋萎縮症	SMNタンパク質の発現増加作用			アンチセンスオリゴヌクレオチド	ヌシネルセンナトリウム	注－1	注射薬		スピンラザ髄注	
3	その他の中枢神経用薬	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	アセチルコリンエステラーゼ阻害作用				リバスチグミン	外－5	貼付剤		イクセロンパッチ リバスタッチパッチ	

121　局所麻酔剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	局所麻酔剤	表面麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			リドカイン塩酸塩	内－３ 内－３	液剤 ゼリー		キシロカインビスカス	
2	局所麻酔剤	局所麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			ブピバカイン塩酸塩	注－１	注射薬		マーカイン注射液	
							ロピバカイン塩酸塩水和物	注－１	注射薬			
							リドカイン塩酸塩	注－１ 注－２	注射薬 キット		キシロカイン注射液	
							プロカイン塩酸塩	注－１	注射薬		塩酸プロカイン注射液	
							テトラカイン塩酸塩	注－１	注射薬		テトカイン「杏林」	
							メピバカイン塩酸塩	注－１ 注－２	注射薬 キット		塩酸メピバカイン注射液	
							レボブピバカイン塩酸塩	注－１ 注－２	注射薬 キット		ポプスカイン注 ポプスカイン注シリンジ	
			配合剤（神経遮断作用）	活動電位伝導抑制作用＋血管収縮作用（効果持続）		配合剤	リドカイン塩酸塩/アドレナリン	注－１	注射薬		キシロカイン注射液	
		脊椎麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			ブピバカイン塩酸塩	注－１	注射薬		ネオペルカミンS	
							ジブカイン塩酸塩	注－１	注射薬		ペルカミンエス注脊麻	
							リドカイン塩酸塩	注－１ 注－２	注射薬 キット		キシロカイン注射液	
							テトラカイン塩酸塩	注－１	注射薬		テトカイン「杏林」	
3	局所麻酔剤	表面麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			プロカイン塩酸塩	外－１	原末			
							ジブカイン塩酸塩	外－１	原末			
							リドカイン	外－２ 外－５	噴霧剤 貼付剤		キシロカインポンプスプレー ペンレス	
							リドカイン塩酸塩	外－１ 外－１	液剤 ゼリー		キシロカイン液 キシロカインゼリー	
							パラブチルアミノ安息香酸ジエチルアミノエチル塩酸塩	外－１	末剤		テーカイン原末	
		皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			リドカイン／プロピトカイン	外－１ 外－５	クリーム 貼付剤		エムラクリーム エムラパッチ	
		静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			リドカイン	外－５	貼付剤		ペンレス	

122 骨格筋弛緩剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な商品名	線引き
1	骨格筋弛緩剤	運動器疾患に伴う有痛性痙縮／筋緊張状態，痙性麻痺	脊髄反射抑制作用（多シナプス反射抑制）				クロルフェネシンカルバミン酸塩エステル	内－1	錠剤		リンラキサー錠	
							メトカルバモール	内－2	顆粒剤		ロバキシン	
							アフロクアロン	内－1	錠剤		アロフト	
							エペリゾン塩酸塩	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		ミオナール顆粒 ミオナール錠	
							チザニジン塩酸塩	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		テルネリン顆粒 テルネリン錠	
		痙性麻痺	脊髄反射抑制作用（単シナプス反射抑制）	GABA受容体親和作用			バクロフェン	内－1	錠剤		リオレサール錠	
		悪性症候群	筋小胞体からのCaイオン遊離抑制作用				ダントロレンナトリウム水和物	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ダントリウムカプセル	
2	骨格筋弛緩剤	麻酔時の筋弛緩，気管内挿管時の筋弛緩	神経終板に対する脱分極作用				スキサメトニウム塩化物水和物	注－1	注射薬		レラキシン	
			神経筋接合部遮断作用				ベクロニウム臭化物	注－1	注射薬		マスキュラックス静注用	
							ロクロニウム臭化物	注－1	注射薬		エスラックス静注	
		運動器疾患に伴う有痛性痙縮					プリジノールメシル酸塩	注－1	注射薬		コンラックス注	
		麻酔時における悪性高熱症，悪性症候群	筋小胞体からのCaイオン遊離抑制作用				ダントロレンナトリウム	注－1	注射薬		ダントリウム注射用	
		眼瞼けいれん、片側顔面けいれん、痙性斜頸	アセチルコリン放出抑制作用				A型ボツリヌス毒素	注－1	注射薬		ボトックス注100	
							B型ボツリヌス毒素	注－1	注射薬		ナーブロック筋注	
		脳脊髄疾患に由来する重度の痙性麻痺	脊髄反射抑制作用（単シナプス反射抑制）	GABA受容体親和作用			バクロフェン	注－1	注射薬		ギャバロン随注	

123 自律神経剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	自律神経剤（β受容体拮抗薬を除く）	慢性胃炎等の消化器機能異常	消化管運動亢進作用	アセチルコリン受容体刺激作用		四級アンモニウム塩	アクラトニウムナパジシル酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		アボビスカプセル50	
							ベタネコール塩化物	内－2	散剤		ベサコリン散	
		重症筋無力症	神経筋伝達障害改善作用	コリンエステラーゼ阻害作用		四級アンモニウム	ジスチグミン臭化物	内－1	錠剤		ウブレチド錠	
							ピリドスチグミン臭化物	内－1	錠剤		メスチノン「ロシュ」錠	
							アンベノニウム塩化物	内－1	錠剤		マイテラーゼ	
		慢性胃炎等の消化器機能異常，重症筋無力症	神経筋伝達障害改善作用	コリンエステラーゼ阻害作用			ネオスチグミン臭化物	内－2	散剤		ワゴスチグミン散（0．5%）	
2	自律神経剤（β受容体拮抗薬を除く）	麻酔後の腸管麻痺／慢性胃炎等の消化器機能異常	消化管運動亢進作用	アセチルコリン受容体刺激作用			アセチルコリン塩化物	注－1	注射薬		オビソート注射用	
				副交感神経刺激作用			カルニチン塩化物	注－1	注射薬		エントミン注	
		非脱分極性筋弛緩剤による遷延性呼吸抑制に対する拮抗	神経筋伝達障害改善作用	コリンエステラーゼ阻害作用			ネオスチグミンメチル硫酸塩	注－1	注射薬		ワゴスチグミン注	
		非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	配合剤（神経筋伝達障害改善作用）	コリンエステラーゼ阻害作用・副交感神経遮断作用		配合剤	ネオスチグミンメチル硫酸塩/アトロピン硫酸塩水和物	注－2	キット		アトワゴリバース静注シリンジ	

124　鎮けい剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	鎮痙剤	胃・十二指腸等の腹部平滑筋のけいれん、運動亢進および疼痛／過敏性腸症候群	消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制およびれん縮緩解作用	アセチルコリン拮抗作用（ムスカリン受容体拮抗作用）			アトロピン硫酸塩	内－２	末剤		硫酸アトロピン	
							ロートエキス	内－２	散剤		ロートエキス散	
							ブチルスコポラミン臭化物	内－１	錠剤		ブスコパン錠	
							N-メチルスコポラミンメチル硫酸	内－１	錠剤		ダイピン錠	
							ブトロピウム臭化物	内－２ 内－１ 内－１	顆粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		コリオパン顆粒 コリオパン錠 コリオパンカプセル	
							ピペリドレート塩酸塩	内－１	錠剤		ダクチル錠	
							チメピジウム臭化物	内－２ 内－１ 内－１	細粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		セスデン細粒 臭化チメピジウム30mg錠 セスデン	
							チキジウム臭化物	内－２	顆粒剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		チアトン	
							プロパンテリン臭化物	内－１	錠剤		プロ・バンサイン	
							メペンゾラート臭化物	内－１	錠剤		トランコリン錠	
		過敏性腸症候群	配合剤（消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制およびれん縮緩解作用）	アセチルコリン拮抗作用＋鎮静作用		配合剤	メペンゾラート臭化物／フェノバルビタール	内－１	錠剤		トランコロンP錠	
		胃・十二指腸等の腹部平滑筋のけいれん、運動亢進および疼痛	消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制およびれん縮緩解作用	COMT(catechol-O methyltransferase)阻害作用／Oddi括約筋弛緩作用			フロプロピオン	内－１ 内－１	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		コスパノン錠 コスパノンカプセル	
		子宮収縮の抑制	子宮平滑筋弛緩作用	β受容体刺激作用			イソクスプリン塩酸塩	内－１	錠剤		ズファジラン錠	
2	鎮痙剤	胃・十二指腸等の腹部平滑筋のけいれんおよび疼痛（麻酔前投薬の効能を含む。）	消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制およびれん縮緩解作用	アセチルコリン拮抗作用（ムスカリン受容体拮抗作用）			アトロピン硫酸塩	注－１ 注－２	注射薬 キット		硫酸アトロピン	
							スコポラミン臭化水素酸塩	注－１	注射薬		ハイスコ皮下注	
							ブチルスコポラミン臭化物	注－１ 注－２	注射薬 キット		ブスコパン注	
							チメピジウム臭化物	注－１	注射薬		セスデン注射液	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用			パパベリン塩酸塩	注－１	注射薬		塩酸パパベリン注射液	
		子癇	配合剤（骨格筋弛緩作用）	Mgによるアセチルコリン放出抑制作用		配合剤	硫酸マグネシウム／ブドウ糖	注－１	注射薬		マグネゾール	

129 その他の末梢神経系用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の末梢神経系用薬	トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの末梢神経障害の進行抑制	トランスサイレチン（TTR）4量体の乖離及び変性の抑制				タファミジスメグルミン	内-1	カプセル剤		ビンダケルカプセル	

１３１　眼科用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	眼科用剤	網膜色素変性症	暗順応改善作用	好気的代謝促進作用		カロチノイド	ヘレニエン	内－１	錠剤	１日10-20mg2～4分服	アダプチノール	
2	眼科用剤	中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	細胞内呼吸障害作用	レーザー光照射による活性酸素生成作用		光感受性物質	ベルテポルフィン	注－１	注射薬	静脈内投与	ビスダイン静注用15mg	
			$VEGF_{165}$選択的活性阻害作用			ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙを結合させたｵﾘｺﾞﾇｸﾚｵﾁﾞ	ペガプタニブナトリウム	注－２	注射薬（キット製品）	硝子体内注射	マクジェン硝子体内注射用キット	
			VEGF阻害作用			ヒト型マウス抗ヒトVEGFﾓﾉｸﾛｰﾅﾙ抗体のFab断片	ラニビズマブ（遺伝子組換え）	注－２	注射薬（キット製品）	硝子体内注射	ルセンティス硝子体内注射液	
						遺伝子組換え融合糖蛋白質	アフリベルセプト（遺伝子組換え）	注－１	注射薬	硝子体内注射	アイリーア硝子体内注射液	
		硝子体手術時の硝子体可視化	難水溶性等の物理学的性質に基づく硝子体可視化作用			ステロイド（フッ素付加）	トリアムシノロンアセトニド	注－１	注射薬	硝子体内注射	マキュエイド眼注用	
3	眼科用剤	結膜炎/角膜炎等	主として一般細菌に作用するもの	細胞壁合成阻害作用		セフェム系	セフメノキシム塩酸塩	外－３	点眼剤	溶解後１回１～２滴，１日４回	ベストロン点眼用	
				核酸（DNA）合成阻害作用		ニューキノロン系	レボフロキサシン	外－３	点眼剤	１回１滴，１日３回	クラビット点眼液	
							ノルフロキサシン	外－３	点眼剤	１回１滴，１日３回	ノフロ点眼液	
							ロメフロキサシン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日３回	ロメフロン眼科耳科用液	
							オフロキサシン	外－３	眼軟膏	１日３回，適量塗布。	タリビット眼軟膏	
									点眼剤	１回１滴，１日３回	タリビット点眼液	
							ガチフロキサシン水和物	外－３	点眼剤	1回1滴、1日3回（眼科周術期の無菌化療法の手術前は1回1滴、1日5回）	ガチフロ点眼液	
							トスフロキサシントシル酸塩	外－３	点眼剤	1回1滴、1日3回	オゼックス点眼液／トスフロ点眼液	
							モキシフロキサシン塩酸塩	外－３	点眼剤	1回1滴、1日3回（眼科周術期の無菌化療法の手術前は1回1滴、1日5回）	ベガモックス点眼液	
				蛋白合成阻害作用		アミノグリコシド系	ゲンタマイシン硫酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～４回	ゲンタシン点眼液	
							トブラマイシン	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４～５回	トブラシン点眼液	
							ジベカシン硫酸塩	外－３	点眼剤	１回２滴，１日４回	バニマイシン点眼液	
						ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ系	クロラムフェニコール	外－３	点眼剤	１日１～数回，適量	クロラムフェニコール点眼液Ｔ	
				結膜粘膜表層細胞新生促進作用/毛細管透過性抑制作用/細菌ﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ阻害作用			硫酸亜鉛	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～５回	オフサリンＰ	

		配合剤（主として一般細菌に作用するもの）	蛋白合成阻害＋細胞膜機能障害作用）		配合剤	クロラムフェニコール／コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	外－３	点眼剤	１回２～３滴，１日４～５回	コリマイＣ点眼液	
						エリスロマイシン／コリスチン	外－３	眼軟膏	１日数回	エコリシン眼軟膏	
			蛋白合成阻害＋抗炎症作用）		配合剤	フラジオマイシン硫酸塩／メチルプレドニゾロン	外－３	眼軟膏	１日１～数回，適量	ネオメドロールＥＥ軟膏	
						フラジオマイシン硫酸塩／リン酸ベタメタゾンナトリウム	外－３	眼軟膏	１日１～数回，適量	眼・耳科用リンデロンＡ軟膏	
								点眼剤	１回１～２滴，１日１～数回点眼。	眼・耳科用リンデロンＡ液	
		ｳｲﾙｽに作用するもの	ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ	核酸(DNA)合成阻害作用		アシクロビル	外－３	眼軟膏	１日５回，適量	ゾビラックス眼軟膏	
		主として真菌に作用するもの	真菌	抗真菌作用		ピマリシン	外－３	眼軟膏	１回適量，１日４～５回	ピマリシン眼軟膏	
								点眼剤	１回１～２滴，１日６～８回	ピマリシン点眼液	
	新生児膿漏眼の予防	殺菌作用	組織蛋白凝固沈殿作用			硝酸銀	外－３	点眼剤	クレーデ氏法により点眼。新生児に対し点眼後生理食塩液で洗浄。	硝酸銀	
	慢性結膜炎	涙液分泌抑制	結膜/角膜神経麻痺作用、三叉神経反射弓一過性遮断作用			オキシブプロカイン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日数回	ラクリミン点眼液	
	アレルギー性結膜炎	抗炎症作用	ｹﾐｶﾙﾒﾃﾞｨｴｰﾀ遊離抑制作用	抗ﾋｽﾀﾐﾝ作用/抗ﾛｲｺﾄﾘｴﾝ作用		クロモグリク酸ナトリウム	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	インタール点眼液	
						ペミロラストカリウム	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	アレギサール点眼液	
						トラニラスト	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	リザベン点眼液	
						アシタザノラスト水和物	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	ゼペリン点眼液	
						アンレキサノクス	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	エリックス点眼液	
				抗ﾛｲｺﾄﾘｴﾝ作用		イブジラスト	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	ケタス点眼液	
			ｹﾐｶﾙﾒﾃﾞｨｴｰﾀ受容体拮抗作用	抗ﾋｽﾀﾐﾝ作用		ケトチフェンフマル酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	ザジテン点眼液	
						オロパタジン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	パタノール点眼液	
						レボカバスチン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	リボスチン点眼液	
						エピナスチン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日４回	アレジオン点眼液	
			角膜上皮再生促進作用			グリチルリチン酸二カリウム	外－３	点眼剤	１回２～３滴，１日５～６回	ノイボルミチン	
						アズレン	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～５回	アゾテシン点眼液	
	春期カタル	免疫抑制作用	主にT細胞の分化・増殖抑制、Ｇ０→Ｇ１移行期に作用	カルシニューリンの活性化を阻害し、インターロイキン２（ＩＬ－２）等のサイトカイン産生抑制		シクロスポリン	外－３	点眼剤	１回１滴，１日３回点眼する	パピロックミニ点眼液０．１％	
						タクロリムス水和物	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回点眼する	タリムス点眼液	
	慢性結膜炎	抗炎症作用	角膜上皮再生作用			リゾチーム塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～６回	ムコゾーム点眼液	

術後炎症防止等	抗炎症作用	プロスタグランジン生合成抑制作用	（非ステロイド作用）	ﾌｪﾆﾙ酢酸系	ジクロフェナクナトリウム	外－３	点眼剤	眼手術前４回，眼手術後１日３回，１回１滴	ジクロード点眼液	
内眼部手術における術後炎症	抗炎症作用	プロスタグランジン生合成抑制作用	（非ステロイド作用）	ｱﾘｰﾙ酸系	ネパフェナク	外－３	点眼剤	眼手術前日から１回１滴１日３回点眼。手術日に限り、術前３回術後１回点眼。	ネバナック点眼液	
結膜炎等の炎症疾患の対症療法	抗炎症作用	プロスタグランジン生合成抑制作用	（非ステロイド作用）	ﾌﾟﾛﾋﾟｵﾝ酸系	プラノプロフェン	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日４回	ニフラン点眼液	
					ブロムフェナクナトリウム水和物	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日２回	ブロナック点眼液	
		白血球遊走抑制作用/虹彩毛様体腫脹抑制作用	（ステロイド作用）	ステロイド	デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～４回	DMゾロン点眼液	
					デキサメタゾン	外－３	眼軟膏		サンテゾーン０．０５％眼軟	
					リン酸デキサメタゾンナトリウム	外－３	点眼剤	１日１～３回，適量	点眼・点耳用デカドロン液	
					リン酸ベタメタゾンナトリウム	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～４回	リンデロン液	
					酢酸プレドニゾロン	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～４回	プレドニン眼軟膏	
					フルオロメトロン	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日数回宛	フルメトロン点眼液	
ﾋﾞﾀﾐﾝＢ２欠乏､代謝障害関与の角膜炎等	角膜組織呼吸亢進作用	組織呼吸関与補酵素の酸素消費能増加作用		補酵素型ビタミンＢ２	フラビンアデニンジヌクレオチド	外－３	眼軟膏	１回１～２滴，１日数回	フラビタン眼軟膏	
							点眼剤	１回１～２滴，１日２～４回	フラビタン点眼液	
角結膜上皮障害	角膜創傷治癒促進作用	上皮細胞接着・進展促進作用（保水性亢進作用）	ﾌｨﾌﾞﾛﾈｸﾁﾝ結合作用		ヒアルロン酸ナトリウム	外－３	点眼剤	１回１滴，１日５～６回	ヒアレイン	
									ヒアレインミニ	
角膜表層の保護	角膜保護作用/乾燥抑制作用/透明性保持作用	結膜嚢内滞留性亢進作用			コンドロイチン硫酸ナトリウム	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日２～４回	コンドロン点眼液	
	配合剤（角膜保護作用/乾燥抑制作用/透明性保持作用＋ﾋﾞﾀﾐﾝB2補給作用）	結膜嚢内滞留性亢進作用＋角膜へのFDA取込促進作用		配合剤	フラビンアデニンジヌクレオチトナトリウム／コンドロイチン硫酸ナトリ	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～６回	ムコファジン点眼液	
ドライアイ	ムチン/水分分泌促進作用	P2Y2受容体刺激作用			ジクアホソルナトリウム	外－３	点眼剤	１日６回	ジクアス点眼液	
	ムチン産生促進作用				レバミピド	外－３	点眼剤	１回１滴，１日４回点眼	ムコスタ点眼液ＵＤ	
表在性充血	末梢血管収縮作用/充血抑制作用	血管平滑筋α受容体刺激作用			ナファゾリン硝酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日２～３回	眼科用プリビナ	

		診断/治療を目的とする散瞳/調節麻痺	散瞳作用/調節麻痺作用	毛様体筋麻痺作用			アトロピン硫酸塩	外－３	眼軟膏	１日１～３回適量結膜のう	リュウアト１％眼軟膏	
									点眼剤	１回１～２滴，１日１～３回	日点アトロピン点眼液１％	
							トロピカミド	外－３	点眼剤	（散瞳）１回１～２滴，１日１回。（調節麻痺）３～５分おきに２～３回，１回１滴	ミドリンＭ	
				調節麻痺作用			シクロペントラート塩酸塩	外－３	点眼剤	１日１回１滴又は１滴点眼後５～１０分さらに１滴	サイプレジン１％点眼液	
				副交感神経遮断作用/散瞳作用/毛様筋麻痺作用			ホマトロピン臭化水素酸塩	外－３	点眼用末剤			
				瞳孔散大筋収縮/交感神経α1受容体刺激作用			フェニレフリン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴	ネオシネジンコーワ５％点眼液	
						配合剤	トロピカミド／フェニレフリン塩酸塩	外－３	点眼剤		ミドリンＰ点眼液	
		洗眼、殺菌・消毒	局所消毒作用				ポリビニルアルコールヨウ素液	外－３	点眼剤		ＰＡ・ヨード液	
							ホウ酸	外－３	点眼用末剤	〔眼軟膏〕１日１～４回。〔点眼液〕１回１～２滴，１日３～６回	ホウ酸	
							ホウ砂	外－３	点眼用末剤	１回１～２滴，１日３～６回	ホウ砂	
		涙液の補充				正常涙液類似液	ホウ酸／無機塩類	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日５～６回	人工涙液マイティア	
		緑内障	房水産生抑制作用/房水流出促進作用	アドレナリン受容体刺激作用		エピネフリンプロドラッグ	ジピベフリン塩酸塩	外－３	点眼剤	溶解後１回１滴，１日１～２回	ピバレフリン点眼液	
			房水産生抑制作用/房水流出促進作用	アドレナリンα_2受容体刺激作用			ブリモニジン酒石酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	アイファガン点眼液	
			配合剤（房水産生抑制作用/房水流出促進作用）	プロスタグランジン受容体刺激作用/交感神経β受容体遮断作用		配合剤	ラタノプロスト／チモロールマレイン酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	ザラカム配合点眼液	
							トラボプロスト／チモロールマレイン酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	デュオトラバ配合点眼液	
							タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	タプコム配合点眼液	
							カルテオロール塩酸塩／ラタノプロスト	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	ミケルナ配合点眼液	
			房水流出促進作用	交感神経α1受容体遮断作用			ブナゾシン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	デタントール０．０１％点眼液	
				プロスタグランジン受容体刺激作用		代謝型プロスタグランジン系	イソプロピルウノプロストン	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	レスキュラ点眼液	
						プロスタグランジンＦ２α系	ラタノプロスト	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	キサラタン点眼液	
							トラボプロスト	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	トラバタンズ点眼液	
							タフルプロスト	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	タプロス点眼液	
							ビマトプロスト	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	ルミガン点眼液	
					プロスタノイドEP2受容体刺激作用		オミデネパグ　イソプロピル	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	エイベリス点眼液	
				Ｒｈｏキナーゼ阻害作用			リパスジル塩酸塩水和物	外－３	点眼剤	１回１滴、１日２回	グラナテック点眼液	

			房水産生抑制作用	交感神経β受容体遮断作用			ニプラジロール	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	ハイパジールコーワ点眼液	
							レボブノロール塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１回	ミロル点眼液	
							カルテオロール塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	ミケラン点眼液	
							チモロールマレイン酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	チモプトール点眼液	
										１回１滴，１日１回	チモプトールＸＥ	
											リズモンＴＧ点眼液	
							ベタキソロール塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	ベトプティックＯ．５％点眼液	
				炭酸脱水酵素阻害作用(Na+能動輸送抑制作用)			ドルゾラミド塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日３回	トルソプト点眼液	
							ブリンゾラミド	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	エイゾプト懸濁性点眼液	
			配合剤（房水産生抑制作用）	炭酸脱水酵素阻害作用／交感神経β受容体遮断作用		配合剤	ドルゾラミド塩酸塩／チモロールマレイン酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	コソプト配合点眼液	
							ブリンゾラミド／チモロールマレイン酸塩	外－３	点眼剤	１回１滴，１日２回	アゾルガ配合懸濁性点眼液	
			縮瞳作用/房水流出増加作用	可逆性抗コリンエステラーゼ阻害作用			ジスチグミン臭化物	外－３	点眼剤	１回１滴，１日１～２回	ウブレチド点眼液	
				副交感神経刺激作用			ピロカルピン塩酸塩	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～５回	サンピロ	
											塩酸ピロカルピン	
		初期老人性白内障	水晶体タンパク変性抑制作用	ｷﾉｲﾄﾞ物質競合的阻害作用			ピレノキシン	外－３	点眼剤	溶解後１回１～２滴，１日３～５回	カタリンＫ点眼用	
			角膜障害軽減・回復促進作用	角膜コラーゲン合成促進/コラーゼ活性阻止作用			グルタチオン	外－３	点眼剤	溶解後１回１～２滴，１日３～５回	タチオン点眼用	
		調節性眼精疲労における微動調節の改善	毛様体筋賦活作用	網膜酸素消費量増強作用		ﾋﾞﾀﾐﾝB12	シアノコバラミン	外－３	点眼剤	１回１～２滴，１日３～５回	サンコバ点眼液	
		眼内レンズ挿入術･全層角膜移植術における手術補助	粘弾性、保水性等潤滑作用/前房形成作用/角膜内皮保護作用	前房形成･保持作用/角膜内皮保護作用			ヒアルロン酸ナトリウム	外－３	注入液		ヒーロン	
			配合剤（粘弾性、保水性等潤滑作用/前房形成作用/角膜内皮保護作用）			配合剤	ヒアルロン酸ナトリウム／コンドロイチン硫酸ナトリウム	外－３	注入液		ビスコート	
		レーザー術後眼圧上昇防止	房水産生抑制作用	毛様体上皮細胞α2受容体刺激作用			アプラクロニジン塩酸塩	外－３	点眼剤	レーザー照射１時間前，照射直後１滴ずつ	アイオピジン１％	
		眼科領域における表面麻酔	涙液分泌抑制作用	結膜/角膜神経麻痺作用、三叉神経反射弓の一過性遮断作用			オキシブプロカイン塩酸塩	外－３	点眼剤	１～４滴	ベノキシールＯ．４％液	
		眼科手術時の眼灌流/洗浄	角膜保護作用	角膜内皮障害防止作用			オキシグルタチオン	外－３	点眼剤		ビーエスエスプラス	
			配合剤（洗浄作用）	眼内灌流作用		配合剤	ブドウ糖／無機塩類	外－３	点眼剤		オペガードＭＡ	
			配合剤（調節機能改善作用）			配合剤	ネオスチグミン／無機塩類	外－３	点眼剤	１回２～３滴，１日４回	ミオピン点眼液	
	主として一般細菌に作用するもの	ＭＲＳＡに作用	細胞壁合成阻害作用			ｸﾞﾙｺﾍﾟﾌﾟﾀｲﾄﾞ系	パンコマイシン塩酸塩	外－３	眼軟膏		パンコマイシン眼軟膏	

１３２　耳鼻科用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	耳鼻科用剤	中耳/中枢障害による耳鳴	配合剤（内耳循環血量増加作用＋内耳血管ｶﾘｳﾑ騒音刺激による変動予防作用）	蝸牛放射状動脈枝血流速度上昇作用＋内耳電解質への作用		配合剤	パパベリン塩酸塩/ニコチン酸アミド	内－１	錠剤	１錠	ストミンA錠	
		慢性副鼻腔炎	病的副鼻腔分泌の正常化作用	線毛運動亢進作用			塩酸アンブロキソール	内－１ 内－２	錠剤 細粒剤		ムコサール錠 アンブロン細粒	
3	耳鼻科用剤	アレルギー性鼻炎	ｹﾐｶﾙﾒﾃﾞｨｴｰﾀ遊離抑制作用	抗ﾋｽﾀﾐﾝ作用、抗ﾛｲｺﾄﾘｴﾝ作用			クロモグリク酸ナトリウム	外－４	点鼻液		インタール点鼻液	
							アンレキサノクス	外－４	点鼻液		ソルファ点鼻液	
			ｹﾐｶﾙﾒﾃﾞｨｴｰﾀ受容体拮抗作用	抗ﾋｽﾀﾐﾝ作用			ケトチフェンフマル酸塩	外－４	点鼻液		ザジテン点鼻液	
							レボカバスチン塩酸塩	外－４	点鼻液		リボスチン点鼻液	
			抗炎症作用	血管収縮作用		ステロイド	プロピオン酸ベクロメタゾン	外－４	吸入剤		ﾘﾉｺｰﾄ/ﾍﾞｺﾅｰｾﾞ/ｱﾙﾃﾞｼﾝ	
							プロピオン酸フルチカゾン	外－４	点鼻液		フルナーゼ点鼻液	
							フルチカゾンフランカルボン酸エステル	外－４	点鼻液		アラミスト点鼻液	
							モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物	外－４	点鼻液		ナゾネックス点鼻液	
							デキサメタゾンシペシル酸エステル	外－４	耳鼻科用噴霧剤		エリザスカプセル外用	
		諸疾患の充血･うっ血	充血抑制作用	末梢血管収縮作用	交感神経α2受容体刺激作用		オキシメタゾリン塩酸塩	外－４	点鼻液		ナシビン	
							トラマゾリン塩酸塩	外－４	点鼻液		トーク	
							テトラヒドロゾリン塩酸塩	外－４	点鼻液		ABCスプレー	
							アドレナリン	外－４	点鼻液		ﾎﾞｽﾐﾝ液	
							ナファゾリン硝酸塩	外－４	点鼻液		0.05%プリビナ液「チバ」	
			配合剤（充血抑制作用＋抗炎症作用）	血管収縮作用		配合剤	テトラヒドロゾリン塩酸塩/プレドニゾロン	外－４	点鼻液		コールタイジン	
		外耳炎、中耳炎	主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))	細胞壁合成阻害作用	セフェム系	セフメノキシム塩酸塩	外－４	耳鼻科用液		ベストロン耳鼻科用	
						ホスホマイシン系	ホスホマイシンナトリウム	外－４	耳科用液		耳科用ホスミシンS	
					核酸(DNA)合成阻害作用	ニューキノロン系	オフロキサシン	外－４	耳科用液		タリビッド耳科用液	
							ロメフロキサシン塩酸塩	外－４	耳科用液		ロメフロン耳科用液	
					蛋白合成阻害作用	クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	外－４	耳科用液		クロロマイセチン耳科用	
		ＭＲＳＡの除菌	蛋白合成阻害作用	ｲｿﾛｲｼﾙ-tRNA合成酵素阻害作用/ｲｿﾛｲｼﾝAMP複合体生成阻害作用			ムピロシンカルシウム水和物	外－１	軟膏剤		ﾊﾞｸﾄﾛﾊﾞﾝ	

１３３　鎮暈剤

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	鎮暈剤	メニエル症候群等に伴うめまい/内耳障害に基づくめまい	自律神経調整作用	迷路機能亢進抑制作用	抗ヒスタミン作用	ジフェニルメタン系	ジメンヒドリナート	内－１	錠剤		ドラマミン	
			配合剤（自律神経調整作用）			配合剤	ジフェンヒドラミン/ジプロフィリン	内－１	錠剤		トラベルミン	
			循環改善作用	内耳血流量増加作用	脳血管拡張作用/ヒスタミン類似作用		ベタヒスチンメシル酸塩	内－１	錠剤		メリスロン	
				交感神経β2受容体刺激作用	内耳血流改善作用/ヒスタミン遊離抑制作用	カテコラミン類	dl－イソプレナリン塩酸塩	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		イソメニール	
				椎骨脳底動脈の循環改善作用			ジフェニドール塩酸塩	内－１ 内－２	錠剤 顆粒剤		セファドール	
2	鎮暈剤	メニエル症候群等に伴うめまい	配合剤（自律神経調整作用）	迷路機能亢進抑制作用	抗ヒスタミン作用	配合剤	ジフェンヒドラミン/ジプロフィリン	注－１	注射剤		トラベルミン	

211 強心剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	強心剤	心不全	心拍出量増加作用／心拍数減少作用	Na／Kポンプ遮断作用		強心配糖体	ジギトキシン	内－1	錠剤			
							ジゴキシン	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 液剤		ジゴシン散 ジゴキシン錠 ジゴシンエリキシル	
							メチルジゴキシン	内－1	錠剤		ラニラピッド錠	
							ラナトシドC	内－1	錠剤		ジギラノゲンC錠	
			心拍出量増加作用	ホスホジエステラーゼ阻害作用		キサンチン系	アミノフィリン	内－2 内－1	末剤 錠剤		ネオフィリン末 ネオフィリン錠	
							プロキシフィリン	内－2 内－1	末剤 錠剤		モノフィリン モノフィリン錠	
			心拍出量増加作用／心拍数増加	β受容体刺激作用			デノパミン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		カルグート細粒 カルグート錠5	
							dl－イソプレナリン塩酸塩	内－1	錠剤		プロタノールS錠	
			心拍出量増加作用／腎血流量増加作用	β受容体刺激作用		カテコールアミン系	ドカルパミン	内－2	顆粒剤		タナドーパ顆粒	
			心拍出量増加作用／血管拡張作用	ホスホジエステラーゼⅢ阻害作用／Ca感受性増強作用			ピモベンダン	内－1	カプセル剤		アカルディカプセル1．25	
			ATP産生賦活作用				ユビデカレノン	内－2 内－1 内－1	顆粒剤 錠剤 カプセル剤		ノイキノン顆粒 ノイキノン錠 ノイキノンカプセル	
2	強心剤	急性心不全	心拍出量増加作用／心拍数減少作用	Na/Kポンプ遮断作用		強心配糖体	ジゴキシン	注-1	注射薬		ジゴシン注	
							デスラノシド	注-1	注射薬		ジギラノゲン注	
			心拍出量増加作用／血管拡張作用	アデニル酸シクラーゼ活性作用			コルホルシンダロパート塩酸塩	注-1	注射薬		アデール注	
				選択的ホスホジエステラーゼⅢ阻害作用			オルプリノン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット		コアテック注5mg	
							ミルリノン	注-1	注射薬		ミルリーラ注射液10mg	
								注-2	キット		ミルリーラK注射液22．5mg	
			心拍出量増加作用／腎血管拡張作用	β受容体刺激作用		カテコールアミン系	ドパミン塩酸塩	注-1	注射薬		イノバン注	
								注-2	キット		カコージンD注200	
			心拍出量増加作用／心拍数増加作用				ドブタミン塩酸塩	注-1	注射薬		ドブトレックス注射液100mg	
								注-2	キット		ドブトレックスキット点滴静注用	
							l－イソプレナリン塩酸塩	注-1	注射薬		プロタノール－L注	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用		キサンチン系	ジプロフィリン	注-1	注射薬		ネオフィリンM注	
							プロキシフィリン	注-1	注射薬		モノフィリン注	
							アミノフィリン	注-1 注-2	注射薬 キット		ネオフィリン注	
			心拍出量増加作用／末梢血管拡張作用	サイクリックAMP直接増加作用			プクラデシンナトリウム	注-1	注射薬		アクトシン注	
		眠気，倦怠感，血管拡張性及び脊椎穿刺後頭痛	中枢興奮作用	ホスフォジエステラー阻害作用		キサンチン系	安息香酸ナトリウムカフェイン	注-1	注射薬		アンナカ注	

212 不整脈用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2（遮断解離スピード）	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	不整脈用剤	上室性不整脈、心室性不整脈	Na チャンネル遮断作用	速い			メキシレチン塩酸塩	内－1 内－1	錠剤 カプセル剤		メキシレート錠 メキシチールカプセル	
				中間			ピルメノール塩酸塩	内－1	カプセル剤		ピメノールカプセル	
				中間			シベンゾリンコハク酸塩	内－1	錠剤		シベノール錠	
				中間			アプリンジン塩酸塩	内－1	カプセル剤		アスペノンカプセル	
				中間			プロカインアミド塩酸塩	内－1	錠剤		アミサリン錠	
				中間			キニジン硫酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		硫酸キニジン 硫酸キニジン錠	
				遅い			ジソピラミド	内－1	カプセル剤		リスモダン	
				遅い			ジソピラミドリン酸塩	内－1	錠剤		リスモダンR錠	
				遅い			プロパフェノン塩酸塩	内－1	錠剤		プロノン錠	
				遅い			ピルシカイニド塩酸塩水和	内－1	カプセル剤		サンリズムカプセル	
				遅い			フレカイニド酢酸塩	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		タンボコール錠 タンボコール細粒	
			β遮断作用				アテノロール	内－1	錠剤		テノーミン	
							アセブトロール塩酸塩	内－1	カプセル剤		アセタノールカプセル	
							アロチノロール塩酸塩	内－1	錠剤		アルマール錠	
							カルテオロール塩酸塩	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ミケラン細粒 ミケラン錠	
							ブフェトロール塩酸塩	内－1	錠剤		アドビオール錠	
							プロプラノロール塩酸塩	内－1	錠剤		インダラル錠	
							ナドロール	内－1	錠剤		ナディック錠	
							ピンドロール	内－1	錠剤		カルビスケン錠	
							ビソプロロールフマル酸塩	内－1	錠剤		メインテート錠	
							メトプロロール酒石酸塩	内－1	錠剤		セロケン錠	
		心室頻拍、心室細動	Kチャンネル遮断作用／β遮断作用				ソタロール塩酸塩	内－1	錠剤		ソタコール錠	
		心室性頻拍、心室細動、心不全又は肥大型心筋症に伴う心房細動	Kチャンネル遮断作用/Naチャンネル遮断作用/Caチャンネル遮断作用/β受容体遮断作用				アミオダロン塩酸塩	内－1	錠剤		アミオダロン塩酸塩錠	
		心室性不整脈	Ca チャンネル遮断作用／Naチャンネル遮断作用				ベプリジル塩酸塩	内－1	錠剤		ベプリコール錠	
		上室性不整脈	Na／Kポンプ遮断作用				ジギトキシン	内－1	錠剤		ジギトキシン錠	
							ジゴキシン	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 液剤		ジゴキシン1000倍散 ジゴキシン錠 ジゴシンエリキシル	
							メチルジゴキシン	内－1	錠剤		ラニラピッド錠	
							ラナトシドC	内－1	錠剤		ジギラノゲンC錠	

2	不整脈用剤	上室性不整脈、心室性不整脈	Naチャンネル遮断作用	速い			メキシレチン塩酸塩	注-1	注射薬		メキシチール注射液	
				速い			リドカイン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット		キシロカイン注	
				中間			アプリンジン塩酸塩	注-1	注射薬		アスペノン注	
				中間			プロカインアミド塩酸塩	注-1	注射薬		アミサリン注	
				中間			シベンゾリンコハク酸塩	注-1	注射薬		シベノール注射液	
				遅い			ジソピラミドリン酸塩	注-1	注射薬		リスモダンP注	
				遅い			ピルシカイニド塩酸塩水和	注-1	注射薬		サンリズム注射液50	
				遅い			フレカイニド酢酸塩	注-1	注射薬		タンボコール注50mg	
			β受容体遮断作用				プロプラノロール塩酸塩	注-1	注射薬		インデラル注射液2mg	
			β１受容体遮断作用（選択性）				ランジオロール塩酸塩	注-1	注射薬		注射用オノアクト	
							エスモロール塩酸塩	注-1	注射薬			
		心室頻拍、心室細動	Kチャンネル遮断作用				ニフェカラント塩酸塩	注-1	注射薬		シンビット注	
			Kチャンネル遮断作用/Naチャンネル遮断作用/Caチャンネル遮断作用/β受容体遮断作用				アミオダロン塩酸塩	注-1	注射薬		アンカロン注	
		上室性不整脈	Caチャンネル遮断作用				ベラパミル塩酸塩	注-1	注射薬		ワソラン注	
							ジルチアゼム塩酸塩	注-1	注射薬		ヘルベッサー注用	
			Na/Kポンプ遮断作用				ジゴキシン	注-1	注射薬		ジゴシン注	
							デスラノシド	注-1	注射薬		ジギラノゲン注	

213 利尿剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	利尿剤	浮腫(うっ血性心不全を含む)／高血圧	利尿作用	遠位尿細管でのNa再吸収抑制作用			トリクロルメチアジド	内－1	錠剤		フルイトラン錠	
							ヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤			
							ベンチルヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤		ベハイド錠	
						非チアジド系	メチクラン	内－1	錠剤		アレステン錠	
							トリパミド	内－1	錠剤		ノルモナール錠15m	
							インダパミド	内－1	錠剤		ナトリックス錠1mg	
				抗ｱﾙﾄﾞｽﾃﾛﾝ作用			スピロノラクトン	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		アルダクトンA細粒 アルダクトンA錠	
				抗ｱﾙﾄﾞｽﾃﾛﾝ作用／尿細管直接作用			トリアムテレン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		トリテレンカプセル	
				ﾍﾝﾚﾙｰﾌﾟでのNa再吸収抑制作用			フロセミド	内－2 内－1 内－1	細粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ラシックス細粒 ラシックス錠 オイテンシンカプセル	
							メフルシド	内－1	錠剤		バイカロン錠	
				ﾍﾝﾚﾙｰﾌﾟでのNa再吸収抑制作用			ブメタニド	内－1	錠剤		ルネトロン錠	
							アゾセミド	内－1	錠剤		ダイアート錠	
							トラセミド	内－1	錠剤		ルプラック錠	
			利尿作用／眼圧低下作用／脳圧低下作用	炭酸脱水酵素抑制作用			アセタゾラミド	内－2 内－1	末剤 錠剤		ダイアモックス末 ダイアモックス錠	
		ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留		バソプレシンV2受容体拮抗作用			トルバプタン	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤		サムスカ錠 サムスカ顆粒	
		異所性抗利尿ホルモン産生腫瘍による抗利尿ホルモン不適合分泌症候群における低ナトリウム血症の改善	利尿作用	バソプレシンV2受容体拮抗作用			モザバプタン塩酸塩	内－1	錠剤		フィズリン錠	
		脳圧亢進時、緑内障、メニエル病	浸透圧利尿作用				イソソルビド	内－3	液剤		イソバイド	
2	利尿剤	浮腫(うっ血性心不全を含む)	利尿作用	ﾍﾝﾚﾙｰﾌﾟでのNa再吸収抑制作用			フロセミド	注-1	注射薬		ラシックス注射液	
							ブメタニド	注-1	注射薬		ルネトロン注射液	
				抗ｱﾙﾄﾞｽﾃﾛﾝ作用			カンレノ酸カリウム	注-1	注射薬		ソルダクトン100mg	
		緑内障、てんかん、メニエル病・メニエル症候群、アシドーシス	利尿作用／眼圧低下作用／脳圧低下作用	炭酸脱水酵素抑制作用			アセタゾラミドナトリウム	注-1	注射薬		注射用ダイアモックス	
		術中・術後・外傷後及び薬物中毒時の急性腎不全の予防・治療、眼内圧降下	浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用				Dーマンニトール注射液	注-1	注射薬		マンニゲン注射液	
			配合剤(浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用)			配合剤	Dーソルビトール/Dーマンニトール	注-1	注射薬		マンニットールS	

214　血圧降下剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	血圧降下剤	高血圧症	交感神経抑制作用	カテコールアミン枯渇作用			レセルピン	内－2 内－1	散剤 錠剤		レセルピン散 アポプロン錠	
				中枢性α受容体刺激作用			クロニジン塩酸塩	内－1	錠剤		カタプレス錠75	
							グアナベンズ酢酸塩	内－1	錠剤		ワイテンス錠	
							メチルドパ	内－1	錠剤		アルドメット錠125	
				α1受容体遮断作用			ブナゾシン塩酸塩	内－1	錠剤	2～3	デタントール錠	
							ブナゾシン塩酸塩	内－1	錠剤	1	デタントールR錠3m	
							ドキサゾシンメシル酸塩	内－1	錠剤	1	カルデナリン錠0．5mg	
							プラゾシン塩酸塩	内－1	錠剤	2～3	ミニプレス錠0．5mg	
							ウラピジル	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	2	エブランチル15	
							テラゾシン塩酸塩	内－1	錠剤	2	ハイトラシン錠0．25mg	
				β受容体遮断作用	ISA（－）		プロプラノロール塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤	1 3	インデラルLA	
					ISA（－）		ニプラジロール	内－1	錠剤	2	ハイパジールコーワ	
					ISA（－）		ナドロール	内－1	錠剤	1	ナデック錠30mg	
					ISA（＋）		ピンドロール	内－1 内－1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	3 1	カシムテンR錠 ブロクリン－Lカプセル5mg	
					ISA（＋）		カルテオロール塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	2～3	ミケランLA	
				β1受容体遮断作用 （選択性）	ISA（－）		ベタキソロール塩酸塩	内－1	錠剤	1	ケルロング錠5mg	
					ISA（－）		メトプロロール酒石酸塩	内－1 内－1	錠剤 錠剤	3 1	セロケン錠20mg セロケンL錠	
					ISA（－）		ベバントロール塩酸塩	内－1	錠剤	2	カルバン錠25	
					ISA（－）		アテノロール	内－1 内－3	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤	1	テノーミン25	
					ISA（－）		ビソプロロールフマル酸塩	内－1	錠剤		メインテート錠5mg	
					ISA（＋）		セリプロロール塩酸塩	内－1	錠剤	1	セレクトール錠100mg	
					ISA（＋）		アセブトロール塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	2	アセタノールカプセル100mg	
				αβ受容体遮断作用			ラベタロール塩酸	内－1	錠剤	3	トランデート錠50mg	
							アモスラロール塩酸塩	内－1	錠剤	2	ローガン錠10mg	
							アロチノロール塩酸塩	内－1	錠剤	2	アルマール錠5mg	
							カルベジロール	内－1	錠剤	1～2	アーチスト錠10mg	

			配合剤	利尿作用／カテコールアミン枯渇作用／血管透過性抑制作用		配合剤	ベンチルヒドロクロロチアジド／レセルピン／カルバゾクロム	内－1	錠剤		ベハイドRA錠	
			レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用	ACE阻害作用			エナラプリルマレイン酸塩	内－1 内－2	錠剤 細粒剤	1	レニベース錠2．5	
							リシノプリル	内－1	錠剤	1	ロンゲス錠5mg	
							カプトプリル	内－2 内－1 内－1	細粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	3 3 2	カプトリル細粒 カプトリル錠 カプトリルR	
							アラセプリル	内－1	錠剤	1～2	セタプリル錠12．5	
							デラプリル塩酸塩	内－1	錠剤	2	アデカット7．5mg錠	
							シラザプリル	内－1	錠剤	1	インヒベース錠0．2	
							ベナゼプリル塩酸塩	内－1	錠剤	1	チバセン錠2．5mg	
							イミダプリル塩酸塩	内－1	錠剤	1	ノバロック錠2．5	
							テモカプリル塩酸	内－1	錠剤	1	エースコール錠1mg	
							キナプリル塩酸塩	内－1	錠剤	1	コナン錠5mg	
							トランドラプリル	内－1	錠剤	1	オドリック錠	
							ペリンドプリルエルブミン	内－1	錠剤		コバシル錠2mg	
				アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用			ロサルタンカリウム	内－1	錠剤	1	ニューロタン錠25	
							バルサルタン	内－1	錠剤	1	ディオバン錠80	
							カンデサルタンシレキセチル	内－1	錠剤	1	ブロプレス錠2	
							テルミサルタン	内－1	錠剤	1	ミカルディス錠	
							オルメサルタン　メドキソミル	内－1	錠剤	1	オルメテック	
							イルベサルタン	内－1	錠剤	1	イルベタン錠50mg アバプロ錠50mg	
							アジルサルタン	内－1	錠剤	1	アジルバ錠	
				レニン阻害作用			アリスキレンフマル酸塩	内－1	錠剤	1	ラジレス錠150mg	
				鉱質コルチコイド受容体拮抗作用			エプレレノン	内－1	錠剤	1	セララ錠25mg	
							エサキセレノン	内－1	錠剤	1	ミネブロ錠	
			配合剤（レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用／利尿作用）	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用／遠位尿細管でのNa再吸収抑制作用		配合剤	ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤	1	プレミネント配合錠LD、同HD	
							カンデサルタンシレキセチル／ヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤	1	エカード配合錠LD、同HD	
							バルサルタン／ヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤	1	コディオ配合錠MD、同EX	
							テルミサルタン／ヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤	1	ミコンビ配合錠AP、同BP	
							イルベサルタン／トリクロルメチアジド	内－1	錠剤	1	イルトラ配合錠LD、同HD	

			配合剤(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用／血管平滑筋弛緩作用)	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用／Caチャネル遮断作用		配合剤	バルサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内－1	錠剤	1	エックスフォージ配合錠	
							オルメサルタン メドキソミル／アゼルニジピン	内－1	錠剤	1	レザルタス配合錠LD、同HD	
							カンデサルタン シレキセチル／アムロジピンベシル酸	内－1	錠剤	1	ユニシア配合錠LD、同HD	
							テルミサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内－1	錠剤	1	ミカムロ配合錠AP、同BP	
							イルベサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内－1	錠剤	1	アイミクス配合錠LD、同HD	
							バルサルタン／シルニジピン	内－1	錠剤	1	アテディオ配合錠	
							アジルサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内－1	錠剤	1	ザクラス配合錠LD、同HD	
			配合剤(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用／血管平滑筋弛緩作用／利尿作用)	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用／Caチャネル遮断作用／遠位尿細管でのNa再吸収抑制作用		配合剤	テルミサルタン／アムロジピンベシル酸塩／ヒドロクロロチアジド	内－1	錠剤	1	ミカトリオ配合錠	
			血管平滑筋弛緩作用	Caチャネル遮断作用	房室結節伝導抑制作用	ベンゾチアゼピン系	ジルチアゼム塩酸塩	内－1 内－1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	3 1	ヘルベッサー錠 ヘルベッサーR100	
						ジヒドロピリジン系	ニフェジピン	内－2 内－1 内－1	細粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	3	セパミット細粒 エマベリン錠 アダラート	
							ニフェジピン	内－1	錠剤	1	アダラートCR錠10	
							ニフェジピン	内－1	錠剤	2	アダラートL錠10mg	
							ニソルジピン	内－1	錠剤	1	バイミカード錠5mg	
							ニトレンジピン	内－1	錠剤	1	バイロテンシン錠5m	
							ベニジピン塩酸塩	内－1	錠剤	1～2	コニール錠	
							ベシル酸アムロジピン	内－1	錠剤	1	アムロジン錠	
							ニルバジピン	内－1	錠剤	2	ニバジール錠	
							マニジピン塩酸塩	内－1	錠剤	1		
							ニカルジピン塩酸塩	内－1 内－1 内－2	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 散剤	3 2 3	ラジストミンL錠 ペルジピンLA	
							マニジピン塩酸塩	内－1	錠剤	1	カルスロット錠5	
							バルニジピン塩酸	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1	ヒポカ5mgカプセル	
							エホニジピン塩酸	内－1	錠剤	1～2	ランデル錠10	
							フェロジピン	内－1	錠剤	2	スプレンジール錠2.5mg	
							シルニジピン	内－1	錠剤	1	アテレック錠5	
							アラニジピン	内－2 内－1	顆粒剤 カプセル剤	1	サプレスタ顆粒	
							アゼルニジピン	内－1	錠剤	1	カルブロック錠	

				血管平滑筋直接弛緩作用			ヒドララジン塩酸塩	内－2 内－1	散剤 錠剤		アプレジン散 アプレゾリン錠10m	
		肺動脈性肺高血圧症	肺血行動態の改善作用	血小板凝集抑制作用/血管拡張作用			ベラプロストナトリウム	内－1	錠剤 錠剤（徐放剤）	3～4 2	ドルナー ベラサスLA錠 ケアロードLA錠	
				プロスタグランジンⅠ2作用	プロスタサイクリン(IP)受容体アゴニスト作用		セレキシパグ	内－1	錠剤	2	ウプトラビ錠	
				エンドセリン受容体拮抗作用			ボセンタン水和物	内－1 内－1	錠剤 錠剤	2 2	トラクリア錠62.5mg トラクリア小児用分散錠	
							マシテンタン	内－1	錠剤	1	オプスミット錠	
					選択的エンドセリン（ET）$_A$受容体拮抗作用		アンブリセンタン	内－1	錠剤	1	ヴォリブリス錠2.5mg	
				ホスホジエステラーゼ5阻害作用			シルデナフィルクエン酸塩	内－1 内－3，4	錠剤 ドライシロップ剤	3 3	レバチオ錠 レバチオODフィルム レバチオ懸濁用ドライシロップ	
							タダラフィル	内－1	錠剤	1	アドシルカ錠20mg	
		慢性血栓塞栓性肺高血圧症	血管拡張作用	cGMP増加作用	グアニル酸シクラーゼ活性作用		リオシグアト	内－1	錠剤	3	アデムパス錠	
2	血圧降下剤	高血圧性緊急症	交感神経抑制作用	ｶﾃｺｰﾙｱﾐﾝ枯渇作用			レセルピン	注-1	注射薬		アポプロン注0．3mg	
			血管平滑筋直接弛緩作用 交感神経抑制作用				ヒドララジン塩酸塩	注-1	注射薬		注射用アプレゾリン	
			血管平滑筋弛緩作用	Caチャネル遮断作用			ニカルジピン塩酸	注-1	注射薬		ペルジピン2mg	
					房室結節伝導抑制作用		ジルチアゼム塩酸	注-1	注射薬		ヘルベッサー注射用	
		手術時の異常高血圧症／手術時の低血圧維持	血管平滑筋弛緩作用	cGMP増加作用	グアニル酸シクラーゼ活性作用		ニトロプルシドナトリウム	注-1	注射薬		ニトプロ注	
							ニトログリセリン	注-1	注射薬		ミリスロール注	
		外科手術時の低血圧維持（高血圧症又は軽度の虚血性心疾患合併時）	血管拡張作用＋血小板凝集抑制作用	プロスタグランジンE1作用			アルプロスタジルアルファデクス	注-1	注射薬		注射用プロスタンディン500	
		肺動脈性肺高血圧症	血管拡張作用＋血小板凝集抑制作用	プロスタグランジンⅠ2作用			エポプロステノールナトリウム	注-1	注射薬		静注用フローラン0．5mg	
							トレプロスチニル	注-1	注射薬		トレプロスト注射液	
3	血圧降下剤	高血圧症	交感神経抑制作用	β１受容体遮断作用（選択性）	ISA（－）		ビソプロロール	外-5	貼付剤		ビソノテープ	
		肺動脈性肺高血圧症	血管拡張作用＋血小板凝集抑制作用	プロスタグランジンⅠ2作用			イロプロスト	外-2	吸入剤		ベンテイビス吸入液	

216 血管収縮剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	血管収縮剤	低血圧	血管収縮作用	α受容体刺激作用			ミドドリン塩酸塩	内－1	錠剤		メトリジン錠2mg	
							アメジニウムメチル硫酸塩	内－1	錠剤		リズミック錠10mg	
				交感神経刺激作用			エチレフリン塩酸塩	内－1	錠剤		エホチール錠	
2	血管収縮剤	低血圧又はショック時の補助治療	血管収縮作用	交感神経刺激作用			エチレフリン塩酸塩	注-1	注射薬		エホチール注射液	
							フェニレフリン塩酸塩	注-1	注射薬		ネオシネジンコーワ注1号	
							アドレナリン	注-1 注-2	注射薬キット		ボスミン注	
							ノルアドレナリン	注-1	注射薬		ノルアドレナリン注	

217 虚血性心疾患用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	虚血性心疾患用剤	虚血性心疾患	交感神経抑制作用	β受容体遮断作用	ISA（－）		ブフェトロール塩酸塩	内－1	錠剤		アドビオール錠	
					ISA（－）		プロプラノロール塩酸塩	内－1	錠剤		インデラル錠10mg	
					ISA（－）		ナドロール	内－1	錠剤		ナディック錠30mg	
					ISA（－）		プロプラノロール塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		インデラルLA	
					ISA（－）		ニプラジロール	内－1	錠剤		ハイパジールコーワ錠	
					ISA（＋）		カルテオロール塩酸塩	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ミケラン細粒 ミケラン錠	
					ISA（＋）		ピンドロール	内－1	錠剤		ヒシクロピン錠	
				β1受容体遮断作用（選択性）	ISA（－）		アテノロール	内－1	錠剤		テノーミン25	
					ISA（－）		ビソプロロールフマル酸塩	内－1	錠剤		メインテート錠2．5	
					ISA（－）		メトプロロール酒石酸塩	内－1	錠剤		セロケン錠20mg	
					ISA（－）		ベタキソロール塩酸塩	内－1	錠剤		ケルロング錠5mg	
					ISA（＋）		アセブトロール塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		アセタノールカプセル100	
					ISA（＋）		セリプロロール塩酸塩	内－1	錠剤		セレクトール錠100mg	
				αβ受容体遮断作用			アロチノロール塩酸塩	内－1	錠剤		アルマール錠5	
							カルベジロール	内－1	錠剤		アーチスト錠10mg	
			血管平滑筋弛緩作用	cGMP増加作用			イソソルビド硝酸塩	内－1 内－1 内－1	錠剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ニトロール錠 ニトロールRカプセル	
							イソソルビドー硝酸塩	内－1	錠剤		アイトロール錠10m	
							ニトログリセリン	内－1	錠剤		バソレーターRB2.	
							ニコランジル	内－1	錠剤		シグマート錠2．5m	
				Ca拮抗作用	房室結節伝導抑制作用	フェニルアルキルアミン系	ベラパミル塩酸塩	内－1	錠剤		ワソラン錠	
						ベンゾチアゼピン系	ジルチアゼム塩酸塩	内－1 内－1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ヘルベッサー錠 ヘルベッサーR100	
						ジヒドロピリジン系	ニフェジピン	内－2 内－1 内－1	細粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		セパミット細粒 アダラートL錠 アダラート	
							エホニジピン塩酸塩	内－1	錠剤		ランデル錠10	
							ニソルジピン	内－1	錠剤		バイミカード錠5mg	
							ニトレンジピン	内－1	錠剤		バイロテンシン錠5	
							ベニジピン塩酸塩	内－1	錠剤		コニール錠2	
							アムロジピンベシル酸塩	内－1	錠剤		アムロジン錠2．5	
				Ca拮抗作用／Naチャンネル遮断作用			ベプリジル塩酸塩	内－1	錠剤		ベプリコール錠	
			抗血小板凝集抑制作用				ジピリダモール	内－1	錠剤 カプセル剤		ペルサンチン錠 ペルサンチンLカプセル	
							ジラゼプ塩酸塩	内－1	錠剤		コメリアンコーワ錠	
							トリメタジジン塩酸塩	内－1	錠剤		バスタレルF錠	
							トラピジル	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ロコルナール細粒 ロコルナール錠100mg	

2	虚血性心疾患用剤	虚血性心疾患	血管拡張作用	cGMP増加作用			ニコランジル	注-1	注射薬		シグマート注2mg	
							イソソルビド硝酸塩	注-1 注-2	注射薬キット		ニトロール注5mg	
							ニトログリセリン	注-1	注射薬		ミリスロール注	
			血小板凝集抑制作用＋血管拡張作用				ジピリダモール	注-1	注射薬		ペルサンチン注	
			交感神経抑制作用	β受容体遮断作用			プロプラノロール塩酸塩	注-1	注射薬		インデラル注射液	
3	虚血性心疾患用剤	虚血性心疾患	血管拡張作用	cGMP増加作用		硝酸系	ニトログリセリン	外-2	噴霧剤		ミオコールスプレー	
								外-5	貼付剤		ニトロダームTTS	
							イソソルビド硝酸塩	外-2	噴霧剤		ニトロールスプレー	
								外-5	貼付剤		リファタックテープ	
							亜硝酸アミル	外-2	吸入剤		亜硝酸アミル	

218 高脂血症用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	高脂血症用剤	高脂血症（主に高コレステロール血症）	コレステロール低下作用／トリグリセリド低下作用	リポ蛋白リパーゼ活性作用／トリグリセリドリパーゼ活性作用		フィブラート系	クリノフィブラート	内－1	錠剤		リポクリン錠	
							ベザフィブラート	内－1	錠剤		ベザトールSR錠	
							クロフィブラート	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		クロフィブラートカプセル	
							フェノフィブラート	内－1	錠剤		リピディル錠 トライコア錠	
							ペマフィブラート	内－1	錠剤		パルモディア錠	
				コレステロール異化排泄作用			プロブコール	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		シンレスタール細粒 シンレスタール錠	
				リポ蛋白リパーゼ活性作用／コレステロール異化排泄作用		ニコチン酸系	ニコモール	内－1	錠剤		コレキサミン錠	
							ニセリトロール	内－1	錠剤		ペリシット錠	
				リポタンパクリパーゼ活性化作用			エラスターゼ	内－1	錠剤		エラスチーム錠	
							イコサペント酸エチル	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		エパデール	
							イコサペント酸エチル／ドコサヘキサエン酸エチル	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ロトリガ粒状カプセル	
			コレステロール低下作用	コレステロール生合成阻害作用	HMG-CoA還元酵素阻害作用		プラバスタチンナトリウム	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		メバロチン細粒 メバロチン錠	
							シンバスタチン	内－1	錠剤		リポバス錠	
							フルバスタチンナトリウム	内－1	錠剤		ローコール錠	
							アトルバスタチンカルシウム水和物	内－1	錠剤		リピトール錠	
							ピタバスタチンカルシウム	内－1	錠剤		リバロ錠	
							ロスバスタチンカルシウム	内－1	錠剤		クレストール錠	
				コレステロール吸収抑制作用		胆汁酸吸着樹脂	コレスチラミン	内－3	ドライシロップ剤		クエストラン	
							コレスチミド	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		コレバイン顆粒 コレバイン錠	
							エゼチミブ	内－1	錠剤		ゼチーア錠	
						植物由来	ガンマオリザノール	内－2 内－1	細粒剤 錠剤		ハイゼット細粒 ハイゼット錠	
				VLDL／カイロミクロン形成阻害作用	ミクロソームトリグリセリド転送タンパク質（MTP）阻害作用		ロミタピドメシル酸塩	内－1	カプセル剤		ジャクスタピッドカプセル	
			配合剤（コレステロール低下作用）	コレステロール吸収抑制作用／コレステロール生合成阻害作用			エゼチミブ／アトルバスタチンカルシウム水和物	内－1	錠剤		アトーゼット配合錠	
		高トリグリセリド血症	トリグリセリド低下作用	リポタンパクリパーゼ活性作用			デキストラン硫酸ナトリウム	内－1	錠剤		MDSコーワ錠	
		高脂質血症に伴う随伴症状	コレステロール低下作用	コレステロール異化排泄作用			トコフェロールニコチン酸エステル	内－2 内－1	細粒剤 カプセル剤		ユベラN細粒 ユベラNカプセル	
2	高脂血症用剤	高コレステロール血症	コレステロール低下作用	LDL受容体分解阻害作用	PCSK9阻害作用		エボロクマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		レパーサ皮下注シリンジ	

								注－２	キット		レパーサ皮下注ペン	
							アリロクマブ（遺伝子組換え）	注－２	キット		プラルエント皮下注ペン	

219 その他の循環器官用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	その他の循環器官用剤	末梢循環障害	末梢血行改善作用	血小板凝集抑制作用			トコフェロールニコチン酸エステル	内－2 内－1	細粒剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ユベラN細粒 ユベラNカプセル	
							トコフェロール酢酸エステル	内－2 内－1 内－1	顆粒剤 錠剤 カプセル剤		ユベラ錠 ユベラ顆粒	
			末梢血管拡張作用	血管平滑筋直接弛緩作用			ヘプロニカート	内－1	錠剤		ヘプロニカート錠	
			血管拡張作用＋子宮筋弛緩作用	β受容体刺激作用			イソクスプリン塩酸塩	内－1	錠剤		ズファジラン錠	
		高カリウム血症	血中カリウム低下作用	NaイオンとKイオンの交換作用		イオン交換樹脂	ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	内－2 内－3	散剤 ドライシロップ剤		ケイキサレート散 ケイキサレードライシロップ	
				CaイオンとKイオンの交換作用		イオン交換樹脂	ポリスチレンスルホン酸カルシウム	内－2 内－3 内－3 内－3	散剤 ドライシロップ剤 ｾﾞﾘｰ 液剤		カリメート散 カリメートドライシロップ アーガメイトゼリー カリメート経口液	
		高リン血症	血中リン低下作用	高分子による吸着作用		イオン交換樹脂	セベラマー塩酸塩	内－1	錠剤		レナジェル錠 フォスブロック錠	
							ビキサロマー	内－1 内－2	カプセル剤 顆粒剤		キックリンカプセル キックリン顆粒	
				金属イオンとリン酸イオンの結合			炭酸ランタン水和物	内－5 内－2 内－1	チュアブル 顆粒剤 錠剤		ホスレノールチュアブル錠 ホスレノール顆粒分包 ホスレノールOD錠	
							クエン酸第二鉄水和物	内－1	錠剤		リオナ錠	
							スクロオキシ水酸化鉄	内－5	チュアブル		ピートルチュアブル	
								内－2	顆粒剤		ピートル顆粒分包	
		慢性動脈閉塞症	血管拡張作用	プロスタグランジンE1作用			リマプロストアルファデクス	内－1	錠剤		オパルモン錠 プロレナール錠	
		慢性脳循環障害	脳血流増加作用				イブジラスト	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ケタスカプセル	
							イフェンプロジル酒石酸塩	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		セロクラール錠 セロクラール細粒	
				コリンアセチルトランスフェラーゼ活性化作用			ニセルゴリン	内－2 内－1	散剤 錠剤		サアミオン散 サアミオン錠	
		高血圧症又は狭心症と、高コレステロール血症又は家族性高コレステロール血症を併発している患者		Caチャネル遮断作用＋HMG-CoA還元酵素阻害作用		配合剤	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	内－1	錠剤		カデュエット配合錠	
		褐色細胞腫のカテコールアミン分泌過剰状態の改善		カテコールアミン生合成阻害作用			メチロシン	内－1	カプセル剤		デムサーカプセル	

2	その他の循環器官用剤	慢性動脈閉塞症	血管拡張作用	プロスタグランジンE1作用			アルプロスタジル	注-1 注-2	注射薬 キット		リプル注 リプルキット注	
							アルプロスタジルアルファデクス	注-1	注射薬		タンデトロン注射用20	
		末梢循環障害	血管拡張作用＋子宮筋弛緩作用	β受容体刺激作用			イソクスプリン塩酸塩	注-1	注射薬		ズファジラン注	
		意識障害（脳虚血症状を含む）	配合剤（脳血流量／酸素消費量増加作用／頭蓋内圧降下作用）	浸透圧作用		配合剤	濃グリセリン／果糖	注-1	注射薬		グリセオール注	
			血管拡張作用	蛋白リン酸化酵素阻害作用			ファスジル塩酸塩水和物	注-1	注射薬		エリル注S	
			血小板凝集抑制作用	トロンボキサンA2阻害作用			オザグレルナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		カタクロット注 オキリコン注シリンジ	
		脳血栓症急性期	血液抗凝固作用	抗トロンビン作用			アルガトロバン	注-1 注-2	注射薬 キット		アルガトロバン注シリンジ10mg「NP」	
		術中・術後・外傷後及び薬物中毒時の急性腎不全の予防・治療、眼内圧降下	浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用				D－マンニトール	注-1	注射薬		マンニゲン注射液	
			配合剤（浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用）			配合剤	D－ソルビトール/D－マンニトール	注-1	注射薬		マンニットールS	
		未熟児動脈管開存症	動脈管閉鎖作用				インドメタシンナトリウム	注-1	注射薬		インダシン静注用	
							イブプロフェン L-リシン	注-1	注射薬		イブリーフ静注	

221 呼吸促進剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	呼吸促進剤	呼吸抑制時（急性）	末梢性化学受容器を介して呼吸中枢への選択的刺激作用				ドキサプラム塩酸塩	注－1	注射薬		ドプラム注射液	
			呼吸中枢刺激作用				ジモルホラミン	注－1	注射薬		テラプチク静注	
			オピエート受容体拮抗作用				ナロキソン塩酸塩	注－1	注射薬		塩酸ナロキソン注射液	
							レバロルファン酒石酸塩	注－1	注射薬		ロルファン注射液	
			ベンゾジアゼピン受容体拮抗作用				フルマゼニル	注－1	注射薬		アネキセート注	
3	呼吸促進剤	呼吸窮迫症候群	呼吸窮迫症改善作用	肺胞の気−液界面の表面張力を低下させて肺の虚脱を防止し,肺の安定した換気能力の維持作用		牛肺抽出物	肺サーファクタント	外－2	吸入剤		サーファクテン	

222－224　鎮咳剤・去痰剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1		鎮咳及び去痰	鎮咳作用／去痰作用	喀痰溶解作用／気道内分泌液増加作用／鎮咳作用			エプラジノン塩酸塩	内－1	錠剤		レスプレン錠	
				咳中枢抑制作用／気道内分泌液増加作用			チペピジンヒベンズ酸塩	内－2 内－1 内－3 内－4	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		アスベリン散 アスベリン錠 アスベリンシロップ アスベリンドライシロップ	
				咳中枢抑制作用／去痰作用			シャゼンソウエキス	内－2	末剤			
				配合剤（咳中枢抑制作用＋気道分泌促進作用＋喀痰粘度低下作用）		配合剤	ジヒドロコデインリン酸塩／エフェドリン塩酸塩／塩化アンモニウム	内－3	ｼﾛｯﾌﾟ剤		セキコデシロップ	
				配合剤（咳中枢抑制作用＋気道分泌促進作用）			デキストロメトルファン臭化水素酸塩／クレゾールスルホン酸カリウム	内－3	ｼﾛｯﾌﾟ剤		メジコンシロップ	
				配合剤（咳中枢抑制作用＋去痰作用）			キキョウ流エキス／シャゼンソウエキス／シャクヤクエキス	内－3	液剤		マルコホンA液	
							キキョウ流エキス／カンゾウエキス／シャゼンソウエキス／シャクヤクエキス／ジヒドロコデインリン酸塩	内－3	液剤		オピセゾールコデイン液	
		鎮咳	鎮咳作用	咳中枢抑制作用			ペントキシベリンクエン酸塩	内－1	錠剤		ペントキシベリンクエン酸塩錠	
							デキストロメトルファン臭化水素酸塩	内－2 内－2 内－1	散剤 細粒剤 錠剤		メジコン散 メジコン錠	
							ジメモルファンリン酸塩	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		アストミン散 アクトミン錠 アストミンシロップ	
							コデインリン酸塩	内－2 内－2 内－1	末剤 散剤 錠剤		リン酸コデイン リン酸コデイン10倍散 リン酸コデイン錠	
							ジヒドロコデインリン酸塩	内－2 内－2	末剤 散剤		リン酸ジヒドロコデイン	
							ノスカピン	内－2	末剤		ノスカピン	
							クロペラスチン	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		フスタゾール散 フスタゾール糖衣錠 フスタゾールシロップ	
							ベンプロペリンリン酸塩	内－1	錠剤		フラベリック錠	
							クロフェダノール塩酸塩	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		コルドリン顆粒 コロドリン錠	
				気管支拡張作用	β受容体刺激作用		メチルエフェドリン塩酸塩	内－2	散剤		ネオドリン散	
							エフェドリン塩酸塩	内－2 内－2 内－1	末剤 散剤 錠剤		塩酸エフェドリン 塩酸エフェドリン散 塩酸エフェドリン錠	

				配合剤（咳中枢抑制作用＋気管支拡張作用＋抗ヒスタミン作用）		配合剤	ジプロフィリン／メトキシフェナミン塩酸塩／ノスカピン／クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		アストーマｶﾌﾟｾﾙ	
							ジプロフィリン／エフェドリン塩酸塩10 mg／パパベリン塩酸塩／ノスカピン／ジフェンヒドラミン塩酸塩	内－1	錠剤		アストフィリン	
							dl-メチルエフェドリン塩酸塩／ノスカピン6 mg／クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－3	ｼﾛｯﾌﾟ剤		強力セキールシロップ	
							ジヒドロコデインリン酸塩／dl-メチルエフェドリン塩酸塩／クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－2 内－1 内－3	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		フスタコデイン クロフェドリンS錠 ライトゲンシロップT	
				配合剤（咳中枢抑制作用＋気管支拡張作用＋抗ヒスタミン作用＋鎮静作用＋鎮痛作用）		配合剤	ジプロフィリン／ジヒドロコデインリン酸塩／dl-メチルエフェドリン塩酸塩／ジフェンヒドラミンサリチル酸塩／アセトアミノフェン／ブロモバレリル	内－1	錠剤		カフコデ錠「モハン」	
				配合剤（咳中枢抑制作用＋気管支拡張作用＋鎮静作用）		配合剤	ブロキシフィリン／エフェドリン塩酸塩／フェノバルビタール	内－1	錠剤		アストモリジン配合胃溶錠	
		去痰	去痰作用	喀痰粘度低下作用			L-メチルシステイン塩酸塩	内－1	錠剤		ペクタイト錠	
							L-カルボシステイン	内－2 内－1 内－4 内-3,4	細粒剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ムコダイン細粒 ムコダイン錠 ムコダインシロップ	
							L-エチルシステイン塩酸塩	内－1	錠剤		チスタニン糖衣錠	
							フドステイン	内－1 内－3	錠剤 液剤		クリアナール錠 スペリア内用液	
				肺表面活性物質分泌促進作用／気道内分泌液増加作用			アンブロキソール塩酸塩	内－1 内－1 内－3 内-3,4 内－4	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤 液剤		ムコソルバン錠 ムコソルバンLｶﾌﾟｾﾙ ムコソルバンシロップ ムコソルバンドライシロップ ムコソルバン液	
							ブロムヘキシン塩酸塩	内－2 内－1 内－3	細粒剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		ビソルボン細粒 ビソルボン錠 ビソルボンシロップ	
				気道内分泌液増加作用			桜皮エキス	内－3	液剤		ブロチン液	
							セネガ	内－3	ｼﾛｯﾌﾟ剤		セネガｼﾛｯﾌﾟ	
				配合剤（気道分泌促進作用＋喀痰溶解作用）		配合剤	アンモニア水／ウイキョウ油	内－3	液剤		アンモニア・ウイキョウ精	
2		鎮咳及び去痰	鎮咳作用／去痰作用				グアイフェネシン	注－1	注射薬		フストジル注射液	
		鎮咳	気管支拡張作用	β受容体刺激作用（非選択性）			メチルエフェドリン塩酸塩	注－1	注射薬		メチエフ注射液	
							エフェドリン塩酸塩	注－1	注射薬		塩酸エフェドリン注射液	
			鎮咳作用				デキストロメトルファン臭化水素酸塩	注－1	注射薬		ハイフスタンM注	
		去痰	去痰作用	肺表面活性物質の分泌促進作用／気道内分泌液増加作用			ブロムヘキシン塩酸塩	注－1	注射薬		コフメジン注射液	
3		去痰	去痰作用	気道粘液溶解作用			アセチルシステイン	外－2	吸入剤		ムコフィリン液	
				気道内分泌液増加作用			ブロムヘキシン塩酸塩	外－2	吸入剤		ビソルボン吸入液	

225 気管支拡張剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	気管支拡張剤	気管支喘息	気管支拡張作用	β受容体刺激作用(非選択性)			トリメトキノール塩酸塩	内－2 内－1 内－4	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		イノリン散 イノリン錠 イノリンシロップ	
				β2受容体刺激作用(選択性)			サルブタモール硫酸塩	内－1 内－4	錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		ベネトリン錠 ベネトリンシロップ	
							テルブタリン硫酸塩	内－2 内－1 内－4	細粒剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		ブリカニール細粒 ブリカニール錠 ブリカニールシロップ	
							クレンブテロール塩酸塩	内－1	錠剤		スピロペント錠	
							プロカテロール塩酸塩	内－2 内－1 内－4 内－3，4	顆粒剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ドライシロップ剤		メプチン顆粒 メプチンミニ錠 メプチンシロップ メプチンドライシロップ	
							フェノテロール臭化水素酸塩	内－3 内－4	ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ベロテックシロップ ポルボノールドライシロップ	
							ツロブテロール塩酸塩	内－1 内－4	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ホクナリン錠 ホクナリンドライシロップ	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用			アミノフィリン	内－2 内－1	末剤 錠剤		ネオフィリン末 ネオフィリン錠	
							プロキシフィリン	内－2 内－1	末剤 錠剤		モノフィリン	
							テオフィリン	内－2 内－1 内－1 内－3,4 内－3,4	顆粒剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		テオドール顆粒 テオロング錠 スロービッド テオドールシロップ テオドールドライシロップ	
							無水カフェイン	内－4	液剤		レスピア静注・経口液	
2	気管支拡張剤	気管支喘息		β受容体刺激作用(非選択性)			イソプレナリン塩酸塩	注－1	注射薬		プロタノールL注	
				β2受容体刺激作用(選択性)			テルブタリン硫酸塩	注－1	注射薬		ブリカニール注射液	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用			アミノフィリン	注－1 注－2	注射薬 キット		アミノフィリン注射液 ネオフィリン注点滴用バッグ	
							プロキシフィリン	注－1	注射薬		モノフィリン注	
							ジプロフィリン	注－1	注射薬		ネオフィリンM注	
							アミノフィリン(小)	注－1	注射薬		アプニション注15mg	
							無水カフェイン	注－1	注射薬		レスピア静注・経口液	

3	気管支拡張剤	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	気管支拡張作用	β受容体刺激作用(非選択性)			トリメトキノール塩酸塩	外－2	吸入剤		イノリン吸入液	
							イソプレナリン塩酸塩	外－2	吸入剤		アスプール液	
				β2受容体刺激作用(選択性)	速効型		プロカテロール塩酸塩	外－2 外－9	吸入剤 キット		メプチン吸入液 メプチンクリックヘラー10μg	
							フェノテロール臭化水素酸	外－2	吸入剤		ベロテックエロゾル	
							サルブタモール硫酸塩	外－2	吸入剤		ベネトリン吸入液	
					持続型		ツロブテロール	外－5	貼付剤		ホクナリンテープ	
							サルメテロールキシナホ酸	外－2 外－9	吸入剤 キット		セレベント25ロタディスク、セレベント50ロタディスク セレベント50ディスカス	
							インダカテロールマレイン酸塩	外－2	吸入剤		オンブレス吸入用カプセル	
							ホルモテロールフマル酸塩水和物	外－9	キット		オーキシス9μgタービュヘイラー	
			配合剤(気管支拡張作用)	β受容体刺激作用／抗炎症作用		配合剤	サルメテロールキシナホ酸／フルチカゾンプロピオン酸エステル	外－2 外－9	吸入剤 キット		アドエアディスカス	
							ホルテモロールフマル酸塩水和物／ブテゾニド	外－9	キット		シムビコートタービュヘイラー	
							フルチカゾンプロピオン酸エステル／ホルモテロールフマル酸塩水和物	外－9	キット		フルティフォームエアゾール	
							ビランテロールトリフェニル酢酸塩／フルチカゾンフランカルボン酸エステル	外－9	キット		レルベアエリプタ	
				β受容体刺激作用／抗コリン作用		配合剤	インダカテロールマレイン酸塩／グリコピロニウム臭化	外－2	吸入剤		ウルティブロ吸入用カプセル	
							ウメクリジニウム臭化物／ビランテロールトリフェニル酢酸塩	外－9	キット		アノーロエリプタ	
							チオトロピウム臭化物水和物／オロダテロール塩酸塩	外－9	キット		スピオルトレスピマット	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用／気管支平滑筋弛緩作用		配合剤	dl-メチルエフェドリン塩酸塩／ジプロフィリン	外－6	坐剤		アニスーマ	
			抗炎症作用				フルチカゾンプロピオン酸エステル	外－2	吸入剤		フルタイドロタディスク、フルタイドディスカ	
							フルチカゾンフランカルボン酸エステル	外－2	吸入剤		アニュイティ	
							ブデソニド	外－2	吸入剤		パルミコートタービュヘイラー	
							ブデソニド(小)	外－2	吸入剤		パルミコート吸入液	
							シクレソニド	外－2	吸入剤		オルベスコインヘラー	
							モメタゾンフランカルボン酸エステル	外－9	キット		アズマネックスインヘラー	
							ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	外－2	吸入剤末剤		ベコタイド100インヘラー、 キュバール50エアゾール、 リノコート、 アルデシンAQ	

	気管支拡張剤	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	気管支拡張作用	抗コリン作用			イプラトロピウム臭化物	外－２	吸入剤		アトロベント	
					持続型		チオトロピウム臭化物水和	外－９ 外－２	キット 吸入剤		スピリーバレスピマット スピリーバ吸入用カプセル	
							グリコピロニウム臭化物	外－２	吸入剤		シーブリ吸入用カプセル	
							アクリジニウム臭化物	外－９	キット		エクリラジェヌエア	
							ウメクリジニウム臭化物	外－９	キット		エンクラッセエリプタ	

226 含そう剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	主な製品	線引き
3	含そう剤	咽頭炎,扁桃炎,口内炎,急性歯肉炎,舌炎,口腔創傷	創傷治癒促進作用	白血球遊走阻止作用／ヒスタミン遊離抑制作用			アズレンスルホン酸ナトリウム	外－８	含嗽剤		アズレン錠含嗽用「フジモト」 マズレニンG アズノール・ガーグル		
			配合剤（創傷治癒促進作用）			配合剤	アズレンスルホン酸ナトリウム／炭酸水素ナトリウム	外－８	含嗽剤		含嗽用ハチアズレ		
		口腔内の消毒	殺菌作用	細胞質膜破壊作用			ドミフェン臭化物	外－８	トローチ剤		オラドール含嗽液		
				蛋白質の酸化による細胞破壊作用			ポビドンヨード	外－８	含嗽剤		イソジンガーグル		
		歯科用：口腔内の消毒,抜歯創の感染予防	殺菌作用	蛋白変性作用			ベンゼトニウム塩化物	外－８	含嗽剤		ネオステングリーン		

229 その他の呼吸器官用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	その他の呼吸器官用薬	嚢胞性線維症における肺機能の改善	DNA選択的加水分解作用				ドルナーゼ アルファ（遺伝子組換え）	外－2	吸入剤		プルモザイム吸入液	

２３１　止しゃ剤・整腸剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	止しゃ剤、整腸剤	消化管内ガスによる腹部症状	消化管内ガス駆除作用	消泡作用			ジメチコン	内-1	錠剤	1日3回	ガスコン	
								内-2	散剤,細粒剤	1日3回	ガスコン	
								内-3	ｼﾛｯﾌﾟ剤	1日3回	ガスコンドロップ	
		下痢症	止瀉作用	抗コリン作用			ロペラミド塩酸塩	内-1	錠剤、ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1～2回	ロペミン	
								内-2	細粒剤	1日1～2回	ロペミン	
							ロペラミド塩酸塩（小）	内-2	細粒剤	1日2～3回	ロペミン	
				収れん作用			タンニン酸アルブミン	内-2	末剤	1日3～4回		
							次硝酸ビスマス	内-2	末剤	1日2～3回		
							次炭酸ビスマス	内-2	末剤	1日3～4回	次炭酸ビスマス「ホエイ」	
				吸着作用			薬用炭	内-2	末剤	1日数回		
							天然ケイ酸アルミニウム	内-2	末剤	1日3～4回	アドソルビン	
				腸内腐敗・発酵抑制作用／ぜん動抑制作用			ベルベリン塩化物	内-1	錠剤	1日3回	塩化ベルベリン錠	
							ベルベリン塩化物水和物／ゲンノショウコエキス	内-1	錠剤	1日3回	フェロベリン配合錠	
		腸内菌叢異常		腐敗細菌増殖抑制作用		（乳酸菌）	ビフィズス菌製剤（1）	内-2	散剤	1日3回	ビフィスゲン	
							ビフィズス菌製剤（2）	内-2	散剤	1日3回	ビフィダー	
							ビフィズス菌製剤（3）	内-2	散剤	1日3回	ミルフリーズ－5	
							ビフィズス菌製剤（4）	内-2	散	1日3回	ラックビー微粒	
							ビフィズス菌製剤	内-1	錠	1日3回		
							ラクトミン	内-2	末剤	1日3回	ビオフェルミン	
								内-2	散剤			
							カゼイ菌製剤	内-2	散剤	1日3回	ビオラクチス	
						（酪酸菌）	酪酸菌製剤	内-1	錠剤	1日3回	ミヤBM錠	
								内-2	細粒剤	1日3回	ミヤBM細粒	
		抗生物質・化学療法剤投与時の腸内菌叢異常	整腸作用	腐敗細菌増殖抑制作用			耐性乳酸菌製剤（2）	内-2	散剤	1日3回	エンテロノン－R	
							耐性乳酸菌製剤（3）	内-1	錠剤	1日3回	ビオフェルミンR	
								内-2	散剤	1日3回	ビオフェルミンR	
							耐性乳酸菌製剤（4）	内-2	散剤	1日3回	ラックビーR	
		腸内菌叢異常	配合剤（整腸作用）	腐敗細菌増殖抑制作用		配合剤	ビフィズス菌配合剤	内-2	散剤	1日3回	ビオスミン	
							酪酸菌配合剤	内-1	錠剤	1日3回	ビオスリー	
								内-2	散剤		ビオスリー	
		抗生物質・化学療法剤投与時の腸内菌叢異常					耐性乳酸菌配合剤	内-1	錠剤	1日3回	レベニン錠	
								内-2	散剤	1日3回	レベニン散	
		過敏性腸症候群	便通調整作用	消化管平滑筋直接作用			トリメブチンマレイン酸塩	内-1	錠剤	1日3回	セレキノン	
								内-2	細粒剤	1日3回	セレキノン	
				消化管内水分保持作用／消化管内容物輸送調節作用			ポリカルボフィルカルシウム	内-2	細粒剤	1日3回	コロネル	
								内-1	錠剤	1日3回		
2	止しゃ剤・整腸剤	下痢症	止瀉作用	殺菌・蠕動抑制作用			ベルベリン硫酸塩	注-1	注射薬	1日1回皮下又は筋注	ストプニン	

232-234 消化性潰瘍用剤・健胃消化剤・制酸剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	消化性潰瘍用剤等	胃潰瘍、十二指腸潰瘍	胃酸分泌抑制作用	ヒスタミンH2受容体遮断作用			シメチジン	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日2回	タガメット	
							ラニチジン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1～2回	ザンタック	
							ファモチジン	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日1～2回	ガスター	
							ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	内-1 内-2	カプセル剤 細粒	1日1～2回	アルタット アルタット細粒	
							ニザチジン	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤	1日1～2回	アシノン	
							ラフチジン	内-1	錠剤	1日1～2回	プロテカジン	
				プロトンポンプ阻害作用			オメプラゾール	内-1	錠剤	1日1回	オメプラール	
							ランソプラゾール	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤	1日1回	タケプロン	
							ラベプラゾールナトリウム	内-1	錠剤	1日1回	パリエット	
							エソメプラゾールマグネシウム水和物	内-1 内-3 内-4	カプセル剤 顆粒剤	1日1回	ネキシウムカプセル ネキシウム懸濁用顆粒	
							ボノプラザンフマル酸塩	内-1	錠剤	1日1回	タケキャブ	
		胃潰瘍	胃酸分泌抑制作用	ムスカリンM1受容体遮断作用 抗ガストリン作用		糖タンパク	ピレンゼピン塩酸塩 プログルミド	内-1 内-1	錠剤 錠剤	1日3～4回 1日3～4回	ガストロゼピン プロミド	
			粘膜保護作用			多糖体	アルギン酸ナトリウム	内-3 内-4	液剤 ドライシロップ剤	1日3～4回	アルロイドG	
						含アルミニウム	スクラルファート	内-2 内-2 内-3	細粒剤 顆粒剤 液剤	1日3回	アルサルミン	
							アルジオキサ	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3～4回	イサロン	
						イソプレノイド	ゲファルナート	内-1	カプセル剤	1日2～3回	ゲファニール	
						ベンズアミド	スルピリド	内-1 内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 細粒剤	1日3回	ドグマチール	
							メチルメチオニンスルホニウムクロライド	内-1	錠剤	1日3回	キャベジンU	
						アミノ酸	L－グルタミン	内-2	顆粒剤	1日3～4回	グルミン	
						イソプレノイド	テプレノン	内-1 内-2	カプセル剤 細粒剤	1日3回	セルベックス	
							エカベトナトリウム	内-2	顆粒剤	1日2回	ガストローム	
						亜鉛錯体	ポラプレジンク	内-2 内-1	顆粒 錠剤	1日2回	プロマック	
						アズレン誘導体	エグアレンナトリウム	内-2 内-1	顆粒 錠	1日2回	アズロキサ アズロキサ錠	
							セトラキサート塩酸塩	内-1 内-2	カプセル剤 細粒剤	1日3～4回	ノイエル	
							ベネキサートベータデクス塩酸塩	内-1	カプセル剤	1日2回	ウルグート	

						レバミピド	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3回	ムコスタ	
						ソファルコン	内-1 内-1 内-2	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 細粒剤	1日3回	ソロン	
						イルソグラジンマレイン酸塩	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日1～2回	ガスロンN	
					ﾋﾟﾍﾟﾘｼﾞﾙﾍﾞﾝｽﾞｱﾐﾄﾞ	トロキシピド	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3回	アプレース	
						アズレンスルホン酸ナトリウム	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3回	アズノール	
			ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝ様作用		ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝ誘導体	ミソプロストール	内-1	錠剤	1日4回	サイトテック	
胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の自他覚症状改善	配合剤（胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の自他覚症状改善）	酸中和作用＋ｱｾﾁﾙｺﾘﾝ受容体拮抗作用＋粘膜修復作用		配合剤	ｹｲ酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ/臭化ﾌﾟﾛﾊﾟﾝﾃﾘﾝ/銅ｸﾛﾛﾌｨﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ（2）	内-1	錠剤	1日3～4回	メサフィリン錠	
					ｹｲ酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ/臭化ﾌﾟﾛﾊﾟﾝﾃﾘﾝ/銅ｸﾛﾛﾌｨﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ（3）	内-2	散剤	1日3～4回	メサフィリン配合散	
	配合剤（制酸作用＋粘膜保護作用）	酸中和作用＋粘膜修復作用		配合剤	ﾒﾀｹｲ酸ｱﾙﾐﾝ酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ/ﾒﾁﾙﾒﾁｵﾆﾝｽﾙﾎﾆｳﾑｸﾛﾗｲﾄﾞ	内-2	散剤	1日3回	キャベジンUコーワ散	
	配合剤（制酸作用＋胃酸分泌抑制作用）	酸中和作用＋ｱｾﾁﾙｺﾘﾝ受容体拮抗作用		配合剤	水酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ/酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ/ｼﾞｻｲｸﾛﾐﾝ	内-2	顆粒剤	1日3～4回	コランチル顆粒	
	配合剤（粘膜保護作用＋粘膜保護作用）	粘膜修復作用＋粘膜修復作用		配合剤	アズレンスルホン酸ナトリウム/L－グルタミン	内-2 内-2 内-1	顆粒剤 細粒剤 錠剤	1日3～4回	マーズレン	
胃酸過多、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎	制酸作用	酸中和作用		ｱﾙﾐﾆｳﾑ塩	乾燥水酸化アルミニウムゲル	内-2	細粒剤	1日数回	アルミゲル	
					合成ケイ酸アルミニウム	内-2	末剤	1日3～4回	ノルモザン	
				ｶﾙｼｳﾑ塩	沈降炭酸カルシウム	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3～4回 1日3回	炭カル	
				ﾅﾄﾘｳﾑ塩	炭酸水素ナトリウム	内-2	末剤	1日数回		
				ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ塩	酸化マグネシウム	内-1 内-2 内-2	錠剤 末剤 細粒剤	1日数回 1日数回	マグラックス	
					炭酸マグネシウム	内-2	末剤	1日数回		
					水酸化マグネシウム	内-1 内-3	錠剤 液剤	1日数回	ミルマグ	
					ケイ酸マグネシウム	内-2	末剤	1日数回		
	配合剤（制酸作用＋制酸作用）	酸中和作用＋酸中和作用		配合剤	水酸化アルミニウムゲル／水酸化マグネシウム	内-3	液剤	1日数回	マーロックス	
胃炎等の疼痛	局所麻酔作用	活動電位伝達抑制作用			アミノ安息香酸エチル	内-2	末剤	1日3回	アミノ安息香酸エチル	
					オキセサゼイン	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3～4回 1日3～4回	ストロカイン錠 ストロカイン顆粒	
					ピペリジノアセチルアミノ安息香酸エチル	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日1～4回 1日1～4回	ニチカイン錠 ピペリジノアセチルアミノ安息香酸エチ	
低酸症	胃酸補充作用	胃酸様作用			希塩酸	内-3	液剤			
主に胃液分泌促進	食欲増進作用	苦味健胃作用			コンズランゴ	内-3	液剤	1日3回		
					ホミカ	内-2 内-3	末剤 散剤 液剤	1日3回 1日3回		
					センブリ	内-2	散剤	1日3回	センブリ	

		消化器不定愁訴（食欲不振、胃部不快感など）	配合剤（制酸作用+健胃作用+消化補助作用）	酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用+消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／炭酸ｶﾙｼｳﾑ／ﾒﾀｹｲ酸ｱﾙﾐﾝ酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ／ｵｳﾚﾝ／ｹｲﾋ／ｳｲｷｮｳ／ﾁｮｳｼﾞ／ｼｮｳｷｮｳ／ｻﾝｼｮｳ／ｶﾝｿﾞｳ／ﾀｶﾁﾞｱｽﾀｰｾﾞ	内-2	散剤	1日3回	S・M散	
							炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／炭酸ｶﾙｼｳﾑ／ﾒﾀｹｲ酸ｱﾙﾐﾝ酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ／ｵｳﾚﾝ／ｹｲﾋ／ｳｲｷｮｳ／ﾁｮｳｼﾞ／ｼｮｳｷｮｳ／ｻﾝｼｮｳ／ｶﾝｿﾞｳ／ﾋﾞｵｼﾞｱｽﾀｰｾﾞ	内-2	散剤	1日3回	マナミンTM散	
				酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用+炭水化物消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／炭酸マグネシウム／炭酸カルシウム／水酸化アルミ／ニガキ／オウバク／ケイヒ／ウイキョウ／ショウキョウ／カンゾウ／ジアスメン	内-2	散剤	1日3回	つくしA・M散	
							炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／炭酸ｶﾙｼｳﾑ／ﾒﾀｹｲ酸ｱﾙﾐﾝ酸ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ／ｵｳﾚﾝ／ｹｲﾋ／ｳｲｷｮｳ／ﾁｮｳｼﾞ／ｼｮｳｷｮｳ／ｻﾝｼｮｳ／ｶﾝｿﾞｳ／ｼﾞｱｽﾀｰｾﾞ	内-2	散剤	1日2～3回	FK散	
				酸中和作用+苦味健胃作用+炭水化物消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／ｹﾞﾝﾁｱﾅ／ｼﾞｱｽﾀｰｾﾞ	内-2	散剤	1日3回	ビットサン	
			配合剤（制酸作用+健胃作用）	酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用+鎮痙・鎮痛作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／ゲンチアナ／メントール／ロートエキス散	内-2	散剤	1日3回	ベルサン	
				酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用		配合剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／ｹﾞﾝﾁｱﾅ／ｹｲﾋ／ｼｮｳｷｮｳ／ｻﾝｼｮｳ／ﾒﾝﾄｰﾙ	内-2	散剤	1日3回	ビアサン	
				酸中和作用+苦味健胃作用		配合剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／センブリ	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日3回	センブリ・重曹錠	
				酸中和作用+苦味健胃作用		配合剤	炭酸水素ﾅﾄﾘｳﾑ／ニガ	内-2	散剤		健胃散「スズ」	
		タンパク質の消化異常	タンパク質消化補助作用	タンパク分解酵素作用			含糖ペプシン	内-2	末剤	1日3回		
		炭水化物の消化異常	炭水化物消化補助作用	炭水化物分解酵素作用			アスペルギルス属菌由来消化酵素	内-2	末剤	1日3回	タカヂアスターゼ	
							ジアスターゼ	内-2	末剤	1日3回		
		乳糖不耐症	乳糖消化補助作用	乳糖分解酵素作用			β－ガラクトシダーゼ（ペニシリウム）	内-2	細粒剤	1回	ミルラクト	
							ガラクトシダーゼ	内-2	散剤 顆粒剤	1回	ガランターゼ	
		消化異常	消化補助作用	膵消化酵素作用			パンクレアチン（ブタ）	内-2	末剤	1日3回		
		膵外分泌機能不全における膵消化酵素の補充	消化補助作用	膵消化酵素作用			パンクレリパーゼ	内-1 内-2	ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤	1日3回	リパクレオンカプセル	
		消化異常	配合剤（消化補助作用）	炭水化物分解酵素作用+ﾀﾝﾊﾟｸ分解酵素作用+膵消化酵素作用		配合剤	サナクターゼ配合剤	内-1	錠剤	1日3回	エクセラーゼ	
							ジアスターゼ配合剤（1）	内-1 内-2	ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤	1日3回 1日3回	タフマックE タフマックE	
							ジアスターゼ配合剤（2）	内-2	顆粒剤	1日3回		
							ビオヂアスターゼ1000配合剤	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	フェルターゼ	
							ビオヂアスターゼ2000配合剤	内-1 内-2	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤	1日3回	オーネス	
							膵臓性消化酵素配合剤（1）	内-2	顆粒剤	1日3回	ベリチーム	

2	消化性潰瘍用剤等	上部消化管出血	胃酸分泌抑制作用	ヒスタミンH2受容体遮断作用			シメチジン	注-1	注射薬	1日4回6時間ごとに緩徐に静注、点滴静注	タガメット	
							ラニチジン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	1日3～4回静注又は筋注	ザンタック	
							ファモチジン	注-1	注射薬	1日2回12時間ごとに緩徐に静注、点滴静注	ガスター	
							ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	注-1	注射薬	1日2回12時間ごとに緩徐に静注、点滴静注	アルタット	
		経口投与不可能な出血を伴う胃潰瘍、十二指腸潰瘍	胃酸分泌抑制作用	プロトンポンプ阻害作用			オメプラゾールナトリウム	注-1	注射薬	1日2回点滴静注、静注	オメプラール注用20	
							ランソプラゾール	注-1	注射薬	1日2回点滴静注、静注	タケプロン静注用	
		胃潰瘍、十二指腸潰瘍	粘膜保護作用	粘膜修復作用			スルピリド	注-1	注射薬	1日2回筋注	ドグマチール	
							メチルメチオニンスルホニウムクロライド	注-1	注射薬	1日1～2回静注	キャベジンU	
							幼牛血液抽出物	注-1	注射薬	1日1回	ソルコセリル	
		慢性胃炎	消化液分泌促進作用	副交感神経刺激作用			カルニチン塩化物	注-1	注射薬	1日1回皮下、筋注又は静注	エントミン	

235　下剤・浣腸剤

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	下剤、浣腸剤	便秘症	瀉下作用	浸透圧性作用（腸内水分吸収阻止）		塩類	酸化マグネシウム	内-1 内-2	錠剤 末剤	1日数回 1日数回		
							炭酸マグネシウム	内-2	末剤	1日数回		
							水酸化マグネシウム	内-1 内-3	錠剤 液剤	1日数回	ミルマグ錠 ミルマグ内用懸濁液	
							硫酸マグネシウム	内-2	末剤	1回		
						糖類	ラクツロース（小）	内-2 内-3	散剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤	1日3回 1日3回	モニラック モニラック	
				膨潤作用（腸内水分吸収阻止）			カルメロースナトリウム	内-2	末 顆粒剤	1日3回	バルコーゼ	
				腸管刺激作用		(リチノール酸)	ヒマシ油、加香ヒマシ油	内-3	液剤	とん用		
						ジフェノール系	ピコスルファートナトリウム	内-1 内-2 内-3	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤 液剤、ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤	1日1回 1日1回 1日1回	ラキソベロン ピコダルム ラキソベロン液、スナイリンﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ	
						ｱﾝﾄﾗｷﾉﾝ配糖体	カスカラサグラダ流エキス	内-3	液剤			
							センノシド	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日1回 1日1回	プルゼニド ソルドールE	
							センナエキス	内-1	錠剤	1日1回	ヨーデルS	
				浸透圧性作用			人工カルルス塩	内-2	末剤	1日1回		
			配合剤（瀉下作用）	腸管刺激作用+腸管刺激作用		配合剤	センナ／センナ実	内-2	顆粒剤	1日1～2回	アローゼン	
							ダイオウ／センナ	内-1	錠剤	1日3回	セチロ	
				腸管刺激作用+健胃作用+芳香健胃作用+殺菌収斂作用		配合剤	センナ／カンゾウ／ウイキョウ／イオウ	内-2	散剤	1日3回	複方カンゾウ散	
				界面活性作用+腸ぜん動促進作用		配合剤	ジオクチルソジウムスルホサクシネート／カサンスラノール	内-1	錠剤	1日1回、1日2～3回	ベンコール配合錠	
		乳幼児の便秘	瀉下作用	腸ぜん動促進作用	発酵作用		マルツエキス	内-4	液剤	1日2～3回	マルツエキス	
		大腸検査及び大腸手術時の前処置	腸管内容物排泄作用	腸管内への水分移行作用			クエン酸マグネシウム	内-2 内-3	散剤 液剤	水に溶かし服用	マグコロールP マグコロール	
			配合剤（腸管内容物排泄作用）	腸管内洗浄作用		配合剤	ナトリウム・カリウム配合剤	内-2	散剤	水に溶かし経口投与	ニフレック配合内用剤	
							ナトリウム・カリウム・アスコルビン酸配合剤	内-2	散剤	水に溶かし経口投与	モビプレップ配合内用剤	
							ピコスルファートナトリウム水和物・酸化マグネシウム・無水クエン酸	内-2	散剤	水に溶かし経口投与	ピコプレップ配合内用剤	
		大腸検査の前処置					リン酸二水素ナトリウム一水和物・無水リン酸水素二ナトリウム	内-1	錠剤	1回5錠	ビジクリア	

		慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）	瀉下作用	浸透圧性作用（腸内水分吸収阻止）			ラクツロース	内-3	ゼリー	1日2回	ラグノスNF経口ゼリー分包	
				浸透圧性水分保持作用			マクロゴール4000／塩化ナトリウム／炭酸水素ナトリウム／塩化カリウム	内-3 内-4	散剤	水に溶かし経口投与、1日1～3回	モビコール配合内用剤	
				胆汁酸再吸収抑制作用			エロビキシバット水和物	内-1	錠剤	1日1回	グーフィス錠	
				腸液分泌促進作用			ルビプロストン	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日2回	アミティーザカプセル	
		便秘型過敏性腸症候群					リナクロチド	内-1	錠剤	1日1回	リンゼス錠	
		オピオイド誘発性便秘症	抗便秘作用	末梢性μオピオイド受容体拮抗作用			ナルデメジントシル酸塩	内-1	錠剤	1日1回	スインプロイク錠	
3	下剤、浣腸剤	便秘	排便促進作用	直腸粘膜刺激作用			ビサコジル	外-6	坐剤	1日1～2回	テレミンソフト	
				潤滑・浸透圧性水分保持作用			グリセリン	外-7	浣腸剤	1回	グリセリン浣腸液	
			配合剤（排便促進作用）	炭酸ガス産生+炭酸ガス産生促進作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム/無水リン酸二水素ナトリウム	外-6	坐剤	1回	新レシカルボン	

２３６　利胆剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	利胆剤	胆石、胆汁うっ滞	利胆作用	胆汁酸様作用			ケノデオキシコール酸	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	１日２～３回	レガレン	
							ウルソデオキシコール酸	内-1	錠剤	１日３回	ウルソ	
								内-2	顆粒剤	１日３回	ウルソ	
			排胆作用	コリン様作用(Oddi括約筋弛緩作用)			トレピブトン	内-1	錠剤	１日３回	スパカール	
								内-2	細粒剤	１日３回	スパカール	
2	利胆剤	胆汁うっ滞	利胆作用	水分増大作用			デヒドロコール酸	注-1	注射薬	１日１回静注	デヒドロコール酸注	

239　鎮吐剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	鎮吐剤	消化器不定愁訴（悪心・嘔吐・食欲不振など）	消化管運動改善作用	ドパミン受容体拮抗作用		ﾍﾞﾝｽﾞｱﾐﾄﾞ	メトクロプラミド	内-1	錠剤	１日２～３回	プリンペラン錠	
								内-2	細粒剤	１日２～３回	プリンペラン細粒	
								内-3	ｼﾛｯﾌﾟ剤	１日２～３回	プリンペランシロップ	
				ドパミンD2受容体拮抗作用		ﾍﾞﾝﾂｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ	ドンペリドン	内-1	錠剤	１日３回	ナウゼリン	
								内-2	細粒剤	１日３回	ナウゼリン	
							ドンペリドン（小）	内-4	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤	１日３回	ナウゼリン	
				ﾄﾞﾊﾟﾐﾝD2受容体拮抗作用／ｱｾﾁﾙｺﾘﾝｴｽﾃﾗｰｾﾞ阻害作用		ﾍﾞﾝｽﾞｱﾐﾄﾞ	イトプリド塩酸塩	内-1	錠剤	１日３回	ガナトン	
				セロトニン5-HT4受容体刺激作用（アセチルコリン遊離促進）		ﾍﾞﾝｽﾞｱﾐﾄﾞ	モサプリドクエン酸塩	内-1	錠剤	１日３回	ガスモチン	
								内-2	散剤		ガスモチン	
				消化管平滑筋直接作用			トリメブチンマレイン酸塩	内-1	錠剤	１日３回	セレキノン	
								内-2	細粒剤		セレキノン	
		機能性ディスペプシアにおける食後膨満感、上腹部膨満感、早期満腹感	消化管運動改善作用	アセチルコリンエステラーゼ阻害作用			アコチアミド塩酸塩水和物	内-1	錠剤	１日３回	アコファイド錠	
		抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐	制吐作用	セロトニン5-HT3受容体拮抗作用			グラニセトロン塩酸塩	内-2	細粒	1日1回	カイトリル細粒	
								内-1	錠剤		カイトリル錠	
								内-3	ゼリー			
								内-2	細粒剤	１日１回	カイトリル	
							オンダンセトロン塩酸塩	内-1	錠剤	１日１回	オンダンセトロンOD フィルム	
							ラモセトロン塩酸塩	内-1	錠剤	１日１回	ナゼアOD	
							インジセトロン塩酸塩	内-1	錠剤	１日１回	シンセロン錠	
				サブスタンスP/ニューロキニン（NK1）受容体拮抗作用			アプレピタント	内-1	カプセル	１日１回	イメンドカプセル	
		消化管内ガスによる腹部症状	消化管内ガス駆除作用	消泡作用			ジメチコン	内-1	錠剤	１日３回	ガスコン	
								内-2	散剤,細粒	１日３回	ガスコン	
								内-3	ｼﾛｯﾌﾟ剤	１日３回	ガスコンドロップ	

2	鎮吐剤	消化器不定愁訴（悪心・嘔吐・食欲不振など）	消化管運動調整作用	ドパミン受容体拮抗作用			メトクロプラミド塩酸塩	注-1	注射薬	1日1～2回筋注又は静注	プリンペラン
		術前・術後の悪心・嘔吐	条件反射抑制作用	ドパミン受容体拮抗作用			プロクロルペラジン	注-1	注射薬	1日1回筋注	ノバミン
		抗癌剤投与による悪心・嘔吐	制吐作用	セロトニン5-HT3受容体拮抗作用			グラニセトロン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回静注又は点滴静注	カイトリル
								注-2	キット	1日1回点滴静注	カイトリル点滴静注用3mgバッグ
							アザセトロン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回静注	セロトーン
							オンダンセトロン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回緩徐に静注	ゾフラン
								注-2	キット		
							パロノセトロン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回静注又は点滴静注	アロキシ静注
								注-2	キット	1日1回静注又は点滴静注	アロキシ点滴静注バッグ
							ラモセトロン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回静注	ナゼア
				サブスタンスP/ニューロキニン（NK1）受容体拮抗作用			ホスアプレピタントメグルミン	注-1	注射薬	1日1回点滴静注	プロイメンド点滴静注用
3	鎮吐剤	消化器不定愁訴（悪心・嘔吐・食欲不振など）	消化管運動改善作用	ドパミンD2受容体拮抗作用			ドンペリドン	外-6	坐剤	1日2回	ナウゼリン
							ドンペリドン（小）	外-6	坐剤	1日2～3回	ナウゼリン

239　その他の消化器官用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	止しゃ剤・整腸剤	潰瘍性大腸炎	消炎作用	（免疫抑制作用）		5-ｱﾐﾉｻﾘﾁﾙ酸	メサラジン	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3回	ペンタサ錠 ペンタサ顆粒	
							メサラジン	内-1	錠剤	1日3回	アサコール錠	
							メサラジン	内-1	錠剤	1日1回	リアルダ錠	
							サラゾスルファピリジン	内-1	錠剤	1日4～6回	サラゾピリン	
		クローン病	抗炎症作用	ステロイドレセプター結合作用		ステロイド	ブデソニド	内-1	カプセル剤	1日1回	ゼンタコートカプセル	
	その他の消化器官用剤	頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善	唾液分泌促進作用	ムスカリン受容体刺激作用			ピロカルピン塩酸塩	内-1	錠剤		サラジェン	
		シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症状				ｷﾇｸﾘｼﾞﾝ誘導体	セビメリン塩酸塩水和物	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		エボザックカプセル	
		タバコ、医薬品等の誤飲時における催吐	催吐作用	5-HT_3受容体刺激作用		ｱﾙｶﾛｲﾄﾞ	トコン	内-2	末剤			
2	止しゃ剤・整腸剤	潰瘍性大腸炎	α4β7インテグリン阻害作用			ヒトα4β7インテグリンに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体	ベドリズマブ（遺伝子組換え）	注-1	注射薬		エンタイビオ	
3	止しゃ剤・整腸剤	潰瘍性大腸炎	消炎作用	（免疫抑制作用）		5-ｱﾐﾉｻﾘﾁﾙ酸	メサラジン	外-7 外-6	注腸剤 坐剤	1日1剤	ペンタサ ペンタサ坐剤	
							サラゾスルファピリジン	外-6	坐剤	1日2回	サラゾピリン	
				ステロイドレセプター結合作		ステロイド	ベタメタゾン	外-6	坐剤	1日1～2回	リンデロン	
							ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム	外-7	注腸液	1回	ステロネマ	
							ブデソニド	外-7	注腸剤	1日2回	レクタブル	

241－249 ホルモン剤・抗ホルモン剤

内注 外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	ホルモン剤・抗ホルモン剤	中枢性尿崩症・尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症	抗利尿作用	脳下垂体ホルモン；バソプレシン様（腎尿細管水再吸収促進）作用		ペプチド（バソプレシン誘導体）	デスモプレシン酢酸塩水和物	内-1	錠剤	1日1回 1日1～3回	ミニリンメルトOD錠	
		甲状腺機能低下症	甲状腺ホルモン補充作用			T3, T4	乾燥甲状腺(食用獣由来)	内-2	末剤	1日15～40mg開始、維持量1日40～200mg	チラーヂン	
						T3	リオチロニンナトリウム	内-1	錠剤	初回量1日 5～25ugを1～2週間間隔で少しずつ増量し、維持量1日25～75ug	チロナミン	
						T4	レボチロキシンナトリウム	内-1	錠剤	1日1回 0.025～0.4mg. 一般に0.025～0.1mg／kg開始、維持量 0.1～0.4mg	チラーヂンS	
							レボチロキシンナトリウム（小）	内-2	散剤	乳幼児：1日1回 10ug／kg. 未熟児：1日1回 5ug／kg開始、8日目から1回 10ug/kg	チラーヂンS	
		甲状腺機能亢進症	甲状腺機能抑制作用	抗甲状腺ホルモン作用			チアマゾール	内-1	錠剤	初期量1日30mgを3～4回で、重症の場合1日40～60mg、機能亢進症状がほぼ消失したなら1～4週間ごとに漸減し、維持量1日 5～10mgを1～2回	メルカゾール	
							プロピルチオウラシル	内-1	錠剤	初期量1日300mgを3～4回で、重症の場合1日400～600mg、機能亢進症状がほぼ消失したなら1～4週間ごとに漸減し、維持量1日 50～100mgを1～2回	チウラジール	
		著しい消耗状態	蛋白合成促進作用	蛋白同化ホルモン作用	ｽﾃﾛｲﾄﾞﾚｾﾌﾟﾀｰ結合／特異的蛋白生成促進作用	ステロイド	メテノロン酢酸エステル	内-1	錠剤	1回 100mg、1～2週間ごと	プリモボラン	
		塩喪失型先天性副腎皮質過形成症、アジソン病	ナトリウム貯留作用	硬質副腎皮質ホルモン（アルドステロン）作用		ステロイド（コルチゾン系）	フルドロコルチゾン酢酸エステル	内-1	錠剤	1日0.02～0.1mg、1日2～3回で	フロリネフ	
		副腎皮質機能不全、炎症性疾患、自己免疫疾患、臓器移植、腫瘍	抗炎症作用／免疫抑制作用	糖質副腎皮質ﾎﾙﾓﾝ作用	ｽﾃﾛｲﾄﾞﾚｾﾌﾟﾀｰ結合、特異的蛋白生成促進作用	ステロイド（コルチゾン系）	コルチゾン酢酸エステル	内-1	錠剤	1日12.5～150mg、1日1～4回で	コートン	
							ヒドロコルチゾン	内-1	錠剤	1日10～120mg、1日1～4回で	コートリル	
						ステロイド（ﾌﾟﾚﾄﾞﾆｿﾞﾛﾝ系）	プレドニゾロン	内-1	錠剤	1日 5～60mg、1日1～4回で	プレドニン	
								内-2	散剤	1日 5～60mg、1日1～4回で	プレドニゾロン	
							メチルプレドニゾロン	内-1	錠剤	1日 4～48mg、1日1～4回で	メドロール	
						ステロイド（フッ素付加）	トリアムシノロン	内-1	錠剤	1日 4～48mg、1日1～4回で	レダコート	
							デキサメタゾン	内-1	錠剤	1日 0.5～8mg、1日1～4回で	デカドロン	
								内-3	液剤	1日 0.15～4mg、1日1～4回で	デカドロンエリキシ	
								内-1	錠剤	1日40mg、1日1回、4日間	レナデックス	
							ベタメタゾン	内-1	錠剤	1日 0.5～8mg、1日1～4回で	リンデロン	
								内-2	散剤	1日 0.5～8mg、1日1～4回で	リンデロン	
								内-3	ｼﾛｯﾌﾟ剤	1日 0.15～4mg、1日1～4回で	リンデロン	

		副腎皮質ホルモン分泌過剰症	ｱﾙﾄﾞｽﾃﾛﾝ･ｺﾙﾁｿﾞｰﾙ分泌抑制作用	3b-hydroxysteroid脱水素酵素阻害作用		ステロイド	トリロスタン	内-1	錠剤	1日初期量 240mg、維持量240～480mg、3～4回で	デソパン	
			ステロイド分泌改善作用	副腎皮質ﾎﾙﾓﾝ合成阻害作用		非ステロイド	ミトタン	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1回500～1,000mg、1日3回から開始	オペプリム	
		透析施行中の腎性貧血	造血作用	骨髄 CFU-E（赤芽球ｺﾛﾆｰ形成細胞）増加作用		ステロイド（ｱﾝﾄﾞﾛｽﾀﾝ系）	メピチオスタン	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日20mg、2回で	チオデロン	
		蕁麻疹、湿疹・皮膚炎群、薬疹、アレルギー性鼻炎	配合剤（免疫抑制作用／鎮痒作用）	ﾎｽﾎﾘﾊﾟｰｾﾞA2阻害／抗ヒスタミン作用		配合剤	ベタメタゾン／d－マレイン酸クロルフェニラミン	内-1 内-3	錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤	1回1～2錠 1回 5～10mL	セレスタミン セレスタミン	
		男子性腺機能不全	アンドロゲン補充作用	アンドロゲン作用		ステロイド	メチルテストステロン	内-1	錠剤	1日20～50mg	エナルモン	
		前立腺肥大症	前立腺肥大抑制作用	抗アンドロゲン作用		ステロイド	クロルマジノン酢酸エステル	内-1	錠剤 徐放錠	1回25mg、1日2回 1回50mg、1日1回	プロスタール プロスタールL	
							アリルエストレノール	内-1	錠剤	1回25mg、1日2回		
				5α還元酵素阻害作用		ステロイド	デュタステリド	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1回0.5mg、1日1回	アボルブ	
		子宮内膜症	ゴナドトロピン分泌抑制作用	下垂体-卵巣系抑制作用		ステロイド	ダナゾール	内-1	錠剤	1日200～400mg、1日2回で	ボンゾール	
							ジエノゲスト	内-1	錠剤	1日2mgを2回に分けて	ディナゲスト	
		子宮筋腫	GnRH受容体拮抗作用	ゴナドトロピン分泌抑制作用		非ステロイド	レルゴリクス	内-1	錠剤	1日1回	レルミナ	
		排卵障害	ゴナドトロピン分泌促進／排卵誘発作用	視床下部下垂体ｴｽﾄﾛｹﾞﾝ受容体拮抗作用(ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ抑制消失)		非ステロイド	シクロフェニル	内-1	錠剤	1日400～600mg、1日2～3回で	セキソビット	
							クロミフェンクエン酸塩	内-1	錠剤	第1クール1日50mg、5日間で	クロミッド	
		更年期障害、卵巣機能低下	卵胞ホルモン補充作用	ｽﾃﾛｲﾄﾞﾚｾﾌﾟﾀｰ結合作用／特異的蛋白生成促進作用		ステロイド（ｴｽﾄﾘｵｰﾙ系）	エストリオール	内-1	錠剤	1回 0.1～ 1mg、1日1～2回	エストリール	
						ステロイド	結合型エストロゲン	内-1	錠剤	1日 0.625～ 1.25mg	プレマリン	
							エストラジオール	内-1	錠剤	1日0.5～1mg	ジュリナ	
		月経異常、黄体機能不全	黄体ホルモン補充作用	ｽﾃﾛｲﾄﾞﾚｾﾌﾟﾀｰ結合作用／特異的蛋白生成促進作用		ステロイド（合成黄体ﾎﾙﾓﾝ）	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	内-1	錠剤	1日 2.5～15mg、1日1～3回	ヒスロン	
							ジドロゲステロン	内-1	錠剤	1日 5～15mg、1日1～3回	デュファストン	
							クロルマジノン酢酸エステル	内-1	錠剤	1日 2～12mg、1日1～3回	ルトラール	
							ノルエチステロン	内-1	錠剤	1日 5～10mg、1日1～2回	ノアルテン	
			配合剤（黄体ホルモン補充作用／卵胞ホルモン補充作用／脳下垂体ゴナドトロピン分泌抑制作用／排卵抑制	黄体ホルモン作用／卵胞ホルモン作用		配合剤	ﾉﾙｹﾞｽﾄﾚﾙ／ｴﾁﾆﾙｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ	内-1	錠剤	1日1回、7～10日間／1日1回、月経周期の第5日～3週間	プラノバール配合錠	
		月経困難症					ノルエチステロン／エチニルエストラジオール	内-1	錠剤	1日1回、21日間、その後7日間休薬	ルナベル配合錠LD、同ULD	
							ﾄﾞﾛｽﾋﾟﾚﾉﾝ／ｴﾁﾆﾙｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ ﾍﾞｰﾀﾃﾞｸｽ	内-1	錠剤	1日1回（1シートに実薬24錠、偽薬4錠）	ヤーズ配合錠	
									錠剤	1日1回（25日目以降に3日間連続出血又は120日達した場合に4日間休薬）	ヤーズフレックス配合錠	
							ﾚﾎﾞﾉﾙｹﾞｽﾄﾚﾙ／ｴﾁﾆﾙｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ	内-1	錠剤	1日1回、21日間、その後7日間休薬又は1日1回、77日間、その後7日間休薬	ジェミーナ配合錠	
		末梢循環障害	循環改善作用	ｷﾆﾉｰｹﾞﾝ分解作用／ｷﾆﾝ遊離作用		糖蛋白	カリジノゲナーゼ	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回		

2	ホルモン剤・抗ホルモン剤	慢性関節リウマチ、点頭てんかん、気管支喘息、ネフローゼ症候群	副腎皮質ホルモン生成分泌促進作用	ACTH様副腎皮質刺激作用		ペプチド	テトラコサクチド酢酸エステル亜鉛	注-1	注射薬	1日1回、必要があれば2～3日行う(筋注、静注、点滴静	コートロシンZ注	
		成長ホルモン分泌不全性低身長症	成長促進作用	成長ホルモン作用(肝ソマトメジン生成分泌促進)		ペプチド(成長ホルモン)	ソマトロピン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1週間に0.175mg/kg、2～4回に分けて筋注、6～7回に分け	ジェノトロピン	
									注射薬	1週間に0.175mg/kg、6～7回に分けて皮下注	ペン用ノルディトロピン	
								注-2	キット	1週間に0.175mg/kg、2～4回に分けて筋注、6～7回に分け	ジェノトロピンカビクイック	
		成長ホルモン抵抗性小人症	成長促進作用	ソマトメジンC作用		ポリペプチド(天然型ヒトソマトメジンC)	メカセルミン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1～2回食前皮下注、1日1回朝食前	ソマゾン	
		HIV感染症に伴う体重減少	体重増加作用	肝ソマトメジン生成分泌促進作用		ペプチド(成長ホルモン)	ソマトロピン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回、皮下注、就寝前	セロスティム注5mg	
		先端肥大症・下垂体性巨人症	成長ホルモン分泌抑制作用	下垂体ｿﾏﾄｽﾀﾁﾝ受容体刺激作用		ペプチド(ソマトスタチン誘導体)	オクトレオチド酢酸エステル	注-1	注射薬	1日2～3回皮下注	サンドスタチン	
								注-1 注-2	注射薬 キット	4週毎に1回筋注	サンドスタチンLAR筋注用 サンドスタチンLAR筋注用キット	
							パシレオチドパモ酸塩	注-2	キット	4週毎に1回筋注	シグニフォーLAR 筋注用キット	
							ランレオチド酢酸塩	注-1	注射薬	4週毎に1回深部皮下注	ソマチュリン皮下注	
		先端巨大症	成長ホルモン受容体拮抗作				ペグビソマント(遺伝子組換	注-1	注射薬	1日1回皮下投与	ソマバート皮下注用	
		下垂体性尿崩症	抗利尿作用	遠位尿細管における水の再吸収促進作用		ペプチド	バソプレシン	注-1	注射薬	1日2～3回、皮下又は筋注	ピトレシン注射液	
		血友病A、von Willebrand病	止血作用	内因性第VIII因子・von Willebrand因子放出作用		ペプチド(ﾊﾞｿﾌﾟﾚｼﾝ誘導体)	デスモプレシン酢酸エステル	注-1	注射薬	10～20分かけて緩徐に静注	デスモプレシン	
		甲状腺機能亢進症	甲状腺機能抑制作用	抗甲状腺ホルモン作用			チアマゾール	注-1	注射薬	1日3～4回で、機能亢進症状がほぼ消失したなら1～4週間ごとに漸減	メルカゾール	
		著しい消耗状態	蛋白合成促進作用	蛋白同化ホルモン作用		ステロイド(ノルテストステロン系)	ナンドロロンデカン酸エステル	注-1	注射薬	1回25～35mg、3週間ごとに筋注	デカーデュラボリン25	
							メテノロンエナント酸エステル	注-1	注射薬	1回100mg、1～2週間ごとに筋注	プリモボラン・デポー50mg	
		急性低血圧・ショック、局所出血、局所麻酔薬の作用延長、気管支けいれん、心停止		交感神経α,β受容体刺激作用		カテコールアミン	アドレナリン	注-1 注-2	注射薬 キット	1回0.2～1mgを皮下注、筋注	ボスミン注	
								注-2	キット	1回0.15又は0.3mgを筋注	エピペン注射液	
		急性低血圧・ショック	血圧上昇作用	交感神経α受容体刺激作用		カテコールアミン	ノルアドレナリン	注-1	注射薬	点滴静注:1回1mg、皮下注射:1回 0.1～1mg	ノルアドリナリン	
		急性心不全	利尿作用／血管拡張作用	α型ヒト心房性Na利尿ペプチド受容体刺激作用			カルペリチド	注-1	注射薬	1分間当たり 0.1μg/kg を持続静注	ハンプ注射用1000	
		副腎皮質機能不全、炎症性疾患、自己免疫疾患、臓器移植、腫瘍	抗炎症作用／免疫抑制作用／代謝・循環改善作用	糖質副腎皮質ホルモン作用(ｽﾃﾛｲﾄﾞﾚｾﾌﾟﾀｰ結合、特異的蛋白生成促進)		ステロイド(コルチゾン系)	ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、点滴静注、筋注:1回50～100mgを1日1～4回、緊急時1回	ソル・コーテフ	
										1回250～1,000mgを静注又は点滴静注	ソル・コーテフ250	
							ヒドロコルチゾンリン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	1日1回又は数回、1回100～1,000mgを静注又は点滴静注	水溶性ハイドロコートン	
						ステロイド(プレドニゾロン系)	プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、筋注:1回10～50mg、3～6時間ごと、点滴静注:1回20～100mg、1日1～2回	水溶性プレドニン	
							メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	1回125～2000mgを緩徐に静注又は点滴静注	ソル・メドロール	
							メチルプレドニゾロン酢酸エステル	注-1	注射薬	筋注:1回40～120mg、1～2週おき	デポ・メドロール	

					ステロイド（フッ素付加）	トリアムシノロンアセトニド	注-1	注射薬	筋注：1回20～80mg、1～2週おき、関節腔内注射等：1回2～40mg、原則として投与間隔2週間以上.	筋注用ケナコルトーA(4%)	
						デキサメタゾンパルミチン酸エステル	注-1	注射薬	1回 4mg、2週に1回静注	リメタゾン	
						デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、筋注：1回 2～8mg、3～6時間ごと、点滴静注：1回 2～10mg、1日1～2回	コルソン(0.4%,0.5%)	
									1日1回又は数回 0.5～4mg/kg静注	デカドロンS(2%)	
						ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、筋注：1回 2～8mg、3～6時間ごと、点滴静注：1回 2～10mg、1日1～2回	リンデロン(0.4%)	
									1回 0.5～4mg/kg静注	リンデロン(2%)	
		アレルギー性鼻炎、慢性関節リウマチ、関節炎	配合剤（抗アレルギー、抗炎症、免疫抑制作用）	糖質副腎皮質ホルモン作用／糖質副腎皮質ホルモン作用		配合剤	ベタメタゾン酢酸エステル／ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	筋注：1回 0.1～1mL、症状により3～4時間ごと、関節腔内注射等：1回 0.1～1.5mL、原則として投与間隔2週間以上、局所皮内注射：1回1～3mL、鼻腔内注入：1回1～3mL、1日1～数回	リンデロン懸濁注	
		男子性腺機能不全、男子不妊症	男性ホルモン補充作用			ステロイド	テストステロンプロピオン酸エステル	注-1	注射薬	1回 25～50mg、1～3日間ごとに筋注	エナルモン	
							テストステロンエナント酸エステル	注-1	注射薬	1回100mg、7～10日間ごとに又は1回250mg、2～4週間ごとに筋注	エナルモンデポー	
		前立腺肥大症	前立腺重量抑制作用	抗アンドロゲン作用		ステロイド	ゲストノロンカプロン酸エステル	注-1	注射薬	1週1回200mg殿筋注	デポスタット	
		視床下部性性腺機能低下症	ゴナドトロピン分泌促進作用	下垂体受容体刺激作用		ペプチド（LH-RH）	ゴナドレリン酢酸エステル	注-1	注射薬	1日12回（2時間間隔）皮下注	ヒポクライン	
		低ゴナドトロピン性男子性性腺機能低下症における精子形成の誘導	ゴナドトロピン作用（精子形成作用）／卵胞ホルモン作用				ホリトロピンアルファ（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 キット	週3回皮下投与	ゴナールエフ
		中枢性思春期早発症	ゴナトトロピン分泌抑制作用	持続的下垂体前葉刺激作用(受容体 down regulation)		ペプチド（LH-RH誘導体）	リュープロレリン酢酸塩	注-1	注射用（徐放製剤）	4週1回30ug/kg皮下注	リュープリン
		更年期障害、乳汁分泌不全	細胞呼吸促進作用／創傷治癒促進作用				胎盤抽出物	注-1	注射薬	1日1回、毎日又は隔日皮下注	メルスモン
		更年期障害	配合剤（ホルモン補充作用）	卵胞ホルモン作用／アンドロゲン作用		配合剤	エストラジオール／テストステロン（1）	注-1	注射薬	2～4週ごとに1回1mL筋注	エスジン・デポー
							エストラジオール吉草酸エステル／テストステロンエナント酸エステル	注-1	注射薬	2～4週ごとに1回 1mL筋注	プリモジアン・デポー
		機能性子宮出血	配合剤（ホルモン補充作用）	黄体ホルモン作用／卵胞ホルモン作用		配合剤	ヒドロキシプロゲステロンカプロン酸エステル／エストラジオール安息香酸エステル	注-1	注射薬	1週間に1回1mL筋注	ルテスデポー注
		卵巣機能低下	卵胞ホルモン作用			ステロイド（ｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ系）	エストラジオール安息香酸エステル	注-1	注射薬（懸濁）	1回 0.1～5mg、隔日又は毎日1回筋注又は皮下注	オバホルモン水懸注
							エストラジオール吉草酸エステル	注-1	注射薬	1回 5～10mg、1～4週間ごとに筋注	プロギノン・デポー
						ステロイド（ｴｽﾄﾘｵｰﾙ系）	エストリオール	注-1	注射薬（懸濁）	1回 5～10mg、7～10日ごとに皮下又は筋注	ホーリン
						ステロイド（ｴｽﾄﾛｹﾞﾝ前駆体）	プラステロン硫酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	1回 100～200mg、週2～3回静注	マイリス
		月経異常、黄体機能不全	黄体ホルモン作用			ステロイド（ﾌﾟﾛｹﾞｽﾃﾛﾝ系）	プロゲステロン	注-1	注射薬	1日10～50mg、1～2回に分け筋注	プロゲストン
							ヒドロキシプロゲステロンカプロン酸エステル	注-1	注射薬	1週1回65～125mg筋注	プロゲデポー

		排卵誘発	卵胞成熟作用	卵胞ホルモン作用		ペプチド	下垂体性性腺刺激ホルモン	注-1	注射薬	1日卵胞成熟ホルモンとして、75～150I.U.を連続筋注	HMG注	
							精製下垂体性性腺刺激ホルモン	注-1	注射薬	1日卵胞成熟ホルモンとして、75～150I.U.を連続皮下注又は	フェルティノームP	
				黄体形成ホルモン作用		ペプチド	注射用ヒト絨毛性腺刺激ホルモン	注-1	注射薬	1日3000～ 5000単位を筋注	ゴナトロピン1000	
							コリオゴナドトロピン アルファ(遺伝子組換え)	注-2	キット	1日1回250μg皮下投与	オビドレル	
		子宮内膜症	下垂体反応性低下作用／ゴナドトロピン分泌抑制作用	持続的下垂体受容体刺激作用		ペプチド(LH-RH誘導体)	リュープロレリン酢酸塩	注-1	注射薬(徐放製剤)	4週に1回 皮下注	リュープリン	
								注-2	キット(徐放製剤)	4週に1回 皮下注	リュープリンキット	
							ブセレリン酢酸塩	注-2	キット	4週に1回 皮下投与	スプレキュアMP	
							ゴセレリン酢酸塩	注-2	キット(徐放製剤)	4週ごとに前腹部皮下投与	ゾラデックスデポ1.8mg	
		骨折の危険性の高い骨粗鬆症	骨形成促進作用				テリパラチド(遺伝子組換え)	注-2	キット	1日1回 24ヵ月まで	フォルテオ皮下注キット600μg	
							テリパラチド酢酸塩	注-1	注射薬	1週に1回皮下投与 72週まで	テリボン皮下注用	
		脂肪萎縮症	糖代謝改善作用、脂質代謝改善作用				メトレレプチン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回 皮下注	メトレレプチン皮下注用	
3	ホルモン剤・抗ホルモン剤	中枢性尿崩症	抗利尿作用	脳下垂体ホルモン;バソプレシン様(腎尿細管水再吸収促進)作用		ペプチド(バソプレシン誘導体)	デスモプレシン酢酸塩	外-2	噴霧剤(点鼻液)	1日1～2回鼻腔内に投与	デスモプレシン	
									噴霧剤(鼻腔内)	1日1～2回鼻腔内に投与	デスモプレシン・スプレー	
		夜尿症	抗利尿作用	脳下垂体ホルモン;バソプレシン様(腎尿細管水再吸収促進)作用		ペプチド(バソプレシン誘導体)	デスモプレシン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	1日1回鼻腔内に投与	デスモプレシン・スプレー10協和	
		局所出血、鼻粘膜の充血、局所麻酔薬の作用延長、気管支けいれん	末梢血管収縮／気管支拡張作用	交感神経α,β受容体刺激作用		カテコールアミン	アドレナリン	外-1	液剤	希釈し吸入、直接塗布、点鼻など	ボスミン	
		中枢性思春期早発症	ゴナドトロピン分泌抑制作用	持続的下垂体前葉刺激作用(受容体 down regulation)		ペプチド(GnRH誘導体)	ブセレリン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	1日3～6回	スプレキュア	
		更年期障害、卵巣欠落症状(ホルモン補充療法)	卵胞ホルモン補充作用	ｽﾃﾛｲﾄﾞﾚｾﾌﾟﾀｰ結合作用／特異的蛋白生成促進作用		ステロイド	エストラジオール	外-5	貼付剤	1枚を下腹部、背部のいずれかに貼付、2日ごとにはりかえる	エストラーナテープ	
							エストラジオール	外-1	軟膏(ゲル)剤	1日1回	ディビゲル	
			卵胞ホルモン補充作用／黄体ホルモン補充作用				エストラジオール／ノルエチステロン酢酸エステル	外-5	貼付剤(配合剤)	3～4日毎に1回	メノエイドコンビパッチ	
		子宮内膜症、子宮筋腫	ゴナトロピン分泌抑制作用	持続的下垂体前葉刺激作用(受容体 down regulation)		ペプチド(GnRH誘導体)	ブセレリン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	月経周期1～2日目から1日3回	スプレキュア	
							ナファレリン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	月経周期1～2日目から1日2回	ナサニール	
		過多月経	黄体ホルモン補充作用				レボノルゲストレル	外-6	膣剤	子宮腔内に装着する	ミレーナ	

251　泌尿器官用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	薬効分類番号	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	泌尿器官用剤	前立腺肥大に伴う排尿障害	配合剤（前立腺肥大の腺組織・周囲組織の浮腫性腫脹の消退）			配合剤	グルタミン酸／アラニン／アミノ酢酸	251	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	パラプロスト配合カプセル	
			配合剤（前立腺腫結合組織膨腫改善作用＋膀胱頸部周辺のうっ血・炎症消退作用＋膀胱排尿筋収縮力増強作用）			配合剤	オオウメガサソウエキス／ハコヤナギエキス/セイヨウオキナグサエキス／スギナエキス／コムギ胚芽油（1）	259	内－1	錠剤	1日3回	エビプロスタット配合錠	
			前立腺に対する消炎作用				セルニチンポーレンエキス	259	内－1	錠剤	1日2～3回	セルニルトン錠	
			α1受容体遮断作用				タムスロシン塩酸塩	259	内－1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1回	ハルナールD錠	
							シロドシン	259	内－1	錠剤	1日2回	ユリーフ錠	
							ナフトピジル	259	内－1	錠剤	1日1回	フリバス錠	
							ウラピジル	214,259	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日2回	エブランチルカプセル	
							テラゾシン塩酸塩	214	内－1	錠剤	1日 2回	ハイトラシン錠	
							プラゾシン塩酸塩	214	内－1	錠剤	1日2～3回	ミニプレス錠	
			ホスホジエステラーゼ5阻害作				タダラフィル	259	内－1	錠剤	1日1回	ザルティア錠	
		過活動膀胱、神経因性膀胱、不安定膀胱における頻尿・尿意切迫感・尿失禁	膀胱平滑筋弛緩作用（抗コリン作用（抗ムスカリン作用））				オキシブチニン塩酸塩	259	内－1	錠剤	1日3回	ポラキス錠	
						ベンジル酸誘導体	プロピベリン塩酸塩	259	内－1 内－2	錠剤 細粒剤	1日1回	バップフォー錠 バップフォー細粒	
							ソリフェナシンコハク酸	259	内－1	錠剤	1日1回	ベシケア錠	
							酒石酸トルテロジン	259	内-1	カプセル剤	1日1回	デトルシトールカプセ	
							イミダフェナシン	259	内-1	錠剤	1日2回	ウリトス錠 ステーブラ錠	
							フェソテロジンフマル酸	259	内-1	錠剤	1日1回	トビエース錠	
			選択的β3アドレナリン受容体刺激作用				ミラベグロン	259	内-1	錠剤	1日1回	ベタニス錠	
							ビベグロン	259	内-1	錠剤	1日1回	ベオーバ錠	
		神経性頻尿、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎に伴う頻尿・残尿感	膀胱平滑筋弛緩作用／膀胱充満時律動収縮抑制作用				フラボキサート塩酸塩	259	内－1 内－2	錠剤 顆粒	1日3回 1日3回	ブラダロン錠 ブラダロン顆粒	
		腹圧性尿失禁	膀胱平滑筋弛緩作用（β2受容体刺激作用）／尿道括約筋収縮作用				クレンブテロール塩酸塩	225,259	内－1 内－2	錠剤 顆粒	1日2回 1日2回	スピロペント錠 スピロペント顆粒	
		尿路結石	尿路結石生成の要因を抑制＋排泄促進及び症状の緩解				ウラジロガシエキス	259	内－1	錠剤	1日3回	ウロカルン錠	
3	泌尿器官用剤	前立腺及び膀胱疾患の経尿道的手術時，その他泌尿器科手術時並びに術後の洗浄	尿道、膀胱の開存性の維持／内視鏡視野の確保／切除組織片・血液の除去				D－ソルビトール	251	外－1	液剤（灌流）	手術など必要に応じて適宜増減	ウロマチックS	
		過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁	膀胱平滑筋弛緩作用（抗コリン作用（抗ムスカリン作用））				オキシブチニン塩酸塩	259	外－5	貼付剤	1日1回1枚を貼付	ネオキシテープ	

252 生殖器官用剤

内注外区分	分類名	主たる効能	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	生殖器官用剤	非特異性膣炎	自浄作用回復作用／膣粘膜細胞角化促進作用／炎症に対する膣抵抗増強作用				エストリオール	外－６	膣錠		ホーリンV錠	
			蛋白合成阻害作用			クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	外－６	膣錠		クロマイ膣錠	
		カンジダ起因膣炎、外陰膣炎	細胞質膜変性作用			アゾール系	クロトリマゾール	外－６	膣錠		エンペシド膣錠	
			細胞膜合成阻害作用			イミダゾール系	オキシコナゾール硝酸塩	外－６	膣錠		オキナゾールV100	
							ミコナゾール硝酸塩	外－６	膣坐剤		フロリード膣坐剤	
							イソコナゾール硝酸塩	外－６	膣錠		アデスタンG100	
		トリコモナス膣炎	抗原虫作用				チニダゾール	外－６	膣錠		ハイシジン膣錠	
							メトロニダゾール	外－６	膣錠		メトロニダゾール錠	

253 子宮収縮剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	子宮収縮剤	子宮収縮促進並びに子宮出血の予防・治療（胎盤娩出後、子宮復古不全、流産、人工妊娠	子宮平滑筋選択的収縮作用／出血量減少作用（胎盤娩出期短縮）				メチルエルゴメトリンマレイン酸塩	内－1	錠剤	1日2～4回	パルタンM錠	
		妊娠末期における陣痛誘発並びに陣痛促進	子宮頸管熟化作用／子宮収縮作用／分娩誘発作用			ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝE2誘導体	ジノプロストン	内－1	錠剤	1時間ごとに6回	プロスタグランジンE2	
2	子宮収縮剤	子宮収縮促進並びに子宮出血の予防・治療（胎盤娩出前後、弛緩出血、子宮復古不全、帝王切開術、流産、人工妊娠中絶）	子宮平滑筋選択的収縮作用／出血量減少作用（胎盤娩出期短縮）				エルゴメトリンマレイン酸塩	注－1	注射薬	1回0.2mg、皮下注、筋注又は静注	エルゴメトリン注射液F	
							メチルエルゴメトリンマレイン酸塩	注－1	注射薬	1回 0.1～0.2mg静注、又は1回0.2mg皮下注、筋	メチルエルゴメトリンマレイン酸塩注	
		子宮収縮の誘発、促進並びに子宮出血の治療（分娩誘発、微弱陣痛、弛緩出血、胎盤娩出前後、子宮復古不全、帝王切開術、流産、人工				ﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞ	オキシトシン	注－1	注射薬	点滴静注	アトニン－O	
		分娩後の子宮弛緩、産褥時の出血	子宮収縮作用			ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝF2α誘導体	ジノプロスト	注－1	注射薬	1回緩徐に静注	プロスタルモン・F注射薬50	
		妊娠末期における陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進、卵膜外投与（治療的流産）	子宮収縮作用／分娩誘発作用			ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝF2α誘導体	ジノプロスト	注－1	注射薬	点滴静注／持続静注	プロスタルモン・F注射薬100	
3	子宮収縮剤	妊娠中期の治療的流産	子宮収縮作用／子宮頸管拡大作用			ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝE1誘導体	ゲメプロスト	外－6	坐剤	3時間ごとに挿入	プレグランディンP	

255 痔疾用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	痔疾用剤	痔核の症状の緩解	血栓、出血抑制作用／浮腫抑制作用／創傷治癒促進作用				トリベノシド	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	ヘモクロン	
			循環機能調節作用／線維素溶解作用／抗炎症抗浮腫作用／組織修復作用				静脈血管叢エキス（雑食動物）	内－1	舌下錠	1日3回	ヘモリンガル	
			肉芽形成促進作用／消炎、鎮痛作用				メリロートエキス	内－1	錠剤	1日75～300mg、3回で	タカベンス錠	
			配合剤（消炎作用／抗浮腫作用＋血管壁透過性抑制作用／末梢循環促進作用／抗凝血作用／組織修復促進作用）			配合剤	ブロメライン／トコフェロール酢酸エステル	内－1	錠剤	1日3～4回	ヘモナーゼ	
2	痔疾用剤	内痔核	上痔静脈圧迫閉塞作用／止血作用／痔核の硬化萎縮作用				フェノール	注－1	注射薬	1回5mLを粘膜下に注射	パオスクレー	
			配合剤（炎症惹起作用／組織硬化作用／血流量減少作用）			配合剤	硫酸アルミニウムカリウム／タンニン酸	注－1	注射薬	1つの主痔核あたり2%溶液として9～13mL	ジオン注生食液付、同無痛化剤付	
3	痔疾用剤	痔核・裂肛の症状の緩解	配合剤（鎮痛作用＋粘膜保護作用）			配合剤	リドカイン／アミノ安息香酸エチル／次没食子酸ビスマス	外－6	坐剤	1日1個、1日1～3回肛門内に挿入	ヘルミチンS坐剤	
			配合剤（局所感染防御作用／肉芽形成促進作用＋抗炎症作用）			配合剤	大腸菌死菌／ヒドロコルチゾン	外－1 外－6	軟膏剤 坐剤	1日1～3回塗布又は注入 1日1～3回肛門内に挿入	強力ポステリザン（軟膏） ポステリザンF坐薬	
			配合剤（抗炎症作用＋殺菌作用＋鎮痛作用＋収斂、止血作用）			配合剤	ヒドロコルチゾン／硫酸フラジオマイシン／塩酸ジブカイン／エスクロシ	外－1 外－6	軟膏剤 坐剤	1日1～3回塗布又は注入 1日1～3回、1回1個肛門内に挿入	プロクトセディル軟膏 プロクトセディル坐薬	
			配合剤（抗炎症作用＋鎮痛作用）			配合剤	ジフルコルトロン吉草酸エステル／リドカイン	外－1 外－6	軟膏剤 坐剤	1日2回肛門内に注入 1日2回肛門内に挿入	ネリプロクト軟膏 ネリプロクト坐剤	
			配合剤（抗うっ血作用／血栓形成抑制作用／門脈血流量低下状態改善作用／浮腫抑制作用／血管透過性亢進抑制作用／創傷治癒促進作用＋末梢性			配合剤	トリベノシド／リドカイン	外－1 外－6	軟膏剤 坐剤	1日2回 1日2回朝夕塗布又は注入	ボラザG軟膏 ボラザG坐剤	
		肛門疾患における鎮痛・鎮痙，肛門のびらん・炎症	配合剤（鎮けい作用／鎮痛作用＋局所収斂作用／止血作用）			配合剤	ロートエキス／タンニン酸	外－6	坐剤	1日1～3回肛門内に挿入	ロートエキス・タンニン坐剤「サトウ」	

259 その他の泌尿器生殖器官用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	薬効分類番号	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1		切迫早産、切迫流産	子宮収縮抑制作用	子宮筋β２受容体刺激作用／オキシトシン誘発作用			リトドリン塩酸塩	259	内-1	錠剤	１日３回	ウテメリン錠	
2	その他の泌尿生殖器官用薬	切迫早産、切迫流産	子宮収縮抑制作用	子宮筋β２受容体刺激作用／オキシトシン誘発作用			リトドリン塩酸塩	259	注-1	注射薬	50mgを５%ブドウ糖注射液又は１０%マルトース注射液500mLに希釈し、毎分50μgから点滴静注開始	ウテメリン注	
				Ca2＋の細胞外流出促進作用			硫酸マグネシウム／ブドウ糖	259	注-1 注-2	注射薬 キット	初回量として4gを20分以上かけて静注後、毎時1gより持続静脈内投	マグセント注 マグセント注シリンジ	

２６１　外皮用殺菌消毒剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	外皮用殺菌用剤	皮膚等の消毒	主として一般細菌/真菌/ｳｲﾙｽに作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G-))/結核菌/真菌/ｳｲﾙｽに作用		塩素系	次亜塩素酸ナトリウム	外－1	液剤		ヤクラックスD	
						ヨウ素系	ヨウ素	外－1	液剤		プレポダイン	
							ポビドンヨード	外－1	液剤 ｸﾘｰﾑ剤 ゲル		イソジン イソジンゲル	
							ヨードホルム	外－1	末剤		ヨードホルム	
							ヨードチンキ	外－1	液剤		ヨードチンキ	
											希ヨードチンキ	
						アルコール系	イソプロパノール	外－1	液剤		消毒用イソプロピルアルコール	
							エタノール	外－1	液剤		エタノール	
											無水エタノール	
											消毒用エタノール	
						配合剤	イソプロパノール/メタノール変性アル	外－1	液剤		東豊消アル	
					細胞質ｱﾐﾉ基のｱﾙｷﾙ化作用	アルデヒド系	ホルマリン	外－1	液剤		ホルマリン	
				主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G-))/結核菌/真菌に作用		フェノール系	レゾルシン	外－1	末剤		レゾルシン	
							クレゾール石ケン	外－1	液剤		クレゾール石ケン液	
							フェノール	外－1	液剤		フェノール	
											フェノール水	
											液状フェノール	
											消毒用フェノール	
											消毒用フェノール水	
			主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G-))に作用		第四級アンモニウム塩系	ベンザルコニウム塩化物	外－1	液剤		ザルコニン／オスバン	
											濃塩化ベンザルコニウム液50	
							ベンゼトニウム塩化物	外－1	液剤		ベゼトン液／ハイアミン液	
						両面界面活性剤系	アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩	外－1	液剤		サテニジン	
					(比較的低濃度)細胞膜障害作用。(比較的高濃度)蛋白/核酸の沈着作用	ビグアナイド系	クロルヘキシジングルコン酸塩	外－1	液剤		ヘキザック／ヒビテン	
					細胞呼吸酵素阻害作用		アクリノール	外－1	末剤 液剤		アクリノール	
						過酸化物系	過マンガン酸カリウム	外－1	末剤		過マンガン酸カリウム	
							オキシドール	外－1	液剤		オキシドール	
						水銀系	マーキュロクロム	外－1	液剤		マーキュロクロム	
							クレオソート	外－1	末剤		クレオソート	
		ﾖｰﾄﾞﾁﾝｷ塗布皮膚面のヨウ素の脱色	配合剤			配合剤	チオ硫酸ナトリウム/エタノール	外－1	液剤		ハイポエタノール	

２６３　化膿性疾患用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	化膿性疾患用剤	膿皮症等／外傷等による二次感染	主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))に作用	蛋白合成阻害作用		フシジン酸ナトリウム	外－１	軟膏剤		フシジンレオ軟膏	
						ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	フラジオマイシン硫酸塩	外－５	貼付剤		ソフラチュール貼付剤	
			配合剤（主として一般細菌に作用するもの）		蛋白合成阻害作用＋創傷清浄化（壊死組織融解）/肉芽組織新生促進作用	配合剤	ﾌﾗｼﾞｵﾏｲｼﾝ硫酸塩/ﾄﾘﾌﾟｼﾝ	外－１	散剤		フランセチン・T	
				主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))に作用	葉酸合成阻害作用	サルファ剤	スルファジアジン	外－１	軟膏剤		テラジア	
					蛋白合成阻害作用	ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系	テトラサイクリン塩酸塩	外－１	軟膏剤		アクロマイシン	
						ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ系	クロラムフェニコール	外－１	軟膏剤 液剤		クロロマイセチン	
						ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ゲンタマイシン硫酸塩	外－１	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤		ゲンタシン	
			配合剤（主として一般細菌に作用するもの）		蛋白合成阻害作用＋抗炎症作用	配合剤	ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ/ﾌﾗｼﾞｵﾏｲｼﾝ硫酸塩/ﾌﾟﾚﾄﾞﾆｿﾞﾛﾝ	外－１	軟膏剤		クロマイーP	
					細胞壁合成阻害＋蛋白合成阻害	配合剤	ﾊﾞｼﾄﾗｼﾝ/ﾌﾗｼﾞｵﾏｲｼﾝ硫酸塩	外－１	軟膏剤		バラマイシン	
							ﾎﾟﾘﾐｷｼﾝB硫酸塩/ｵｷｼﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	外－１	軟膏剤		テラマイシン	
		外傷等による二次感染	主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))に作用	細胞膜機能障害作用	ﾎﾟﾘﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞ系	ポリミキシンB硫酸塩	外－１	散剤		硫酸ポリミキシンB	
		熱傷、皮膚潰瘍等による創面感染	主として一般細菌/真菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))/真菌に作用	葉酸合成阻害作用＋細胞膜/細胞壁障害作用	サルファ剤	スルファジアジン銀	外－１	ｸﾘｰﾑ剤		ゲーベン	
		ざ瘡		主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))に作用	核酸(DNA)合成阻害作用	ﾆｭｰｷﾉﾛﾝ系	ナジフロキサシン	外－１	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤 液剤		アクアチム軟膏 アクアチムクリーム アクアチムローション	
						キノロン系	オゼノキサシン	外－１	ローション剤		ゼビアックスローション	
					蛋白合成阻害作用	ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ系	クリンダマイシンリン酸エステル	外－１	ゲル ローション剤		ダラシンTゲル ダラシンTローション	
		ざ瘡／酒さ	配合剤（皮膚軟化/殺菌作用＋鎮痛/消炎作用）	角質−SH基縮合作用		配合剤	イオウ＋カンフル	外－１	液剤		イオウ・カンフルローション	

２６４　鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	湿疹，皮膚炎群等	抗炎症/鎮痛/鎮痒作用	ステロイド受容体と結合	(strongest)	ステロイド	クロベタゾールプロピオン酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日１～数回	デルモベート	
									液剤	１日１～数回 １日１回	デルモベート コムクロシャンプー	
							ジフロラゾン酢酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日１～数回	ジフラール	
					(very strong)	ステロイド	ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	リンデロン－DP	
							ジフルプレドナート	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	マイザー	
							ジフルコルトロン吉草酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～３回	ネリゾナ/ユニバーサル	
							フルオシノニド	外－１ 外－１ 外－２	軟膏剤 クリーム剤 液剤 噴霧剤	１日１～３回	トプシム	
							アムシノニド	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日１～数回	ビスダーム	
							ヒドロコルチゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	パンデル	
							ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エス	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日１～数回	アンテベート	
							モメタゾンフランカルボン酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	フルメタ	
							デキサメタゾンプロピオン酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	メサデルム	
					(strong)	ステロイド	ベタメタゾン吉草酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	リンデロン－V/ベトネベート	
							ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日数回	ベクラシン	
							デキサメタゾン吉草酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日１～数回	ボアラ	
							プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１～数回	リドメックス	
							フルオシノロンアセトニド	外－１ 外－１ 外－２	軟膏剤 クリーム剤 液剤 噴霧剤	１日１～数回	フルコート	
							デプロドンプロピオン酸エステル	外－１ 外－１ 外－５	軟膏剤 クリーム剤 液剤 貼付剤	１日１～数回 １２か２４時間ごと貼りか	エクラー	

					(medium)	ステロイド	トリアムシノロンアセトニド	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日2～3回	ケナコルトーA	
							ヒドロコルチゾン酪酸エステル	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日1～数回	ロコイド	
							クロベタゾン酪酸エステル	外－1 外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤 液剤	1日1～数回	キンダベート	
							アルクロメタゾンプロピオン酸エステル	外－1	軟膏剤	1日1～数回	アルメタ	
					(weak)	ステロイド	デキサメタゾン	外－1 外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤 液剤	1日2～3回		
							プレドニゾロン	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日1～数回	プレドニゾロン	
							フルドロキシコルチド	外－5	貼付剤	12か24時間ごと貼りか	ドレニゾン	
			配合剤(抗炎症/鎮痛/鎮痒作用)		(weak)	配合剤	デキサメタゾン/脱脂大豆乾留タール	外－1	軟膏剤	1日1～数回	グリメサゾン	
			鎮痒作用	温覚刺激作用			クロタミトン	外－1 外－1	ｸﾘｰﾑ剤	1日数回	オイラックス	
			配合剤(鎮痒作用)	温覚刺激作用＋ステロイド受容体と結合		配合剤	クロタミトン/ヒドロコルチゾン	外－1	ｸﾘｰﾑ剤	1日1～数回	オイラックスH	
			抗炎症/鎮痛作用	プロスタグランジン生合成阻害作用等		プロピオン酸系	イブプロフェンピコノール	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日数回。帯状疱疹:1日1～2回。	スタデルム	
							スプロフェン	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日数回。帯状疱疹:1日1～2回。	トパルジック	
						アントラニル酸系	ウフェナマート	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日数回	コンベック	
							グリチルレチン酸	外－1 外－1	ｸﾘｰﾑ剤 軟膏剤	1日数回	デルマクリン デルマクリンA軟膏	
			抗炎症作用	抗ヒスタミン作用		ｼﾞﾌｪﾝﾋﾄﾞﾗﾐﾝ系	ジフェンヒドラミン	外－1	ｸﾘｰﾑ剤	1日数回	レスタミン	
							ジフェンヒドラミンラウリル硫酸塩	外－1	軟膏剤	1日数回	ベナパスタ	
			配合剤(防腐/消毒/鎮痒作用＋収斂/保護作用)			配合剤	フェノール/亜鉛華リニメント	外－1	軟膏剤	1日1～数回	カチリ	
		湿疹、皮膚炎群等(湿潤を伴う又は二次感染併発)	局所感染防御/肉芽形成促進/抗炎症作用				混合死菌製剤	外－1	軟膏剤		エキザルベ	
			配合剤(抗炎症/鎮痛/鎮痒作用＋抗菌作用)	ステロイド受容体と結合＋蛋白合成阻害作用	(strong)	配合剤	フルオシノロンアセトニド/フラジオマイシン	外－1	軟膏剤	1日1～数回	フルコートF	
							ベタメタゾン吉草酸エステル/フラジオマイシン	外－1 外－1	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤	1日1～数回	ベトネベートN	
							ベタメタゾン吉草酸エステル/ゲンタマイシン	外－1 外－1 外－1	軟膏剤 液剤 クリーム剤	1日1～数回	リンデロンーVG リンデロンーVGクリーム	
					(medium)	配合剤	ヒドロコルチゾン酢酸塩/ジフェンヒドラミン/フラジオマイシン	外－1	軟膏剤	1日1～数回	強力レスタミンコーチゾン	
							ヒドロコルチゾン/オキシテトラサイクリン塩酸塩	外－1	軟膏剤	1日1～数回	テラ・コートリル	

		アトピー性皮膚炎	免疫抑制作用	サイトカイン産生抑制/肥満細胞・好酸球脱顆粒抑制/I抗原提示能抑制作用			タクロリムス水和物	外－1	軟膏剤	1日1～2回	プロトピック	
		角化性皮膚疾患	保護作用	ムコ多糖類新陳代謝亢進作用			ビタミンA油	外－1	軟膏剤	1日2～3回	ザーネ	
			配合剤（保護作用＋皮膚血行促進作用）	ムコ多糖類新陳代謝亢進＋微少循環系賦活作用		配合剤	ビタミンA/トコフェロール	外－1	軟膏剤	1日1～数回	ユベラ	
			表皮細胞増殖抑制/分化誘導作用	1,25-$(OH)_2D_3$受容体結合		活性型VD_3	タカルシトール	外－1 外－1	軟膏剤 クリーム剤 液剤	1日1～2回	ボンアルファ	
							カルシポトリオール マキサカルシトール	外－1 外－1 外－1	軟膏剤 軟膏剤 液剤剤	1日2回 1日2回	ドボネックス オキサロール	
			配合剤（表皮細胞増殖抑制/分化誘導作用＋抗炎症/鎮痛/鎮痒作用）	1,25-$(OH)_2D_3$受容体結合/ステロイド受容体結合		配合剤	カルシポトリオール水和物／ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	外－1	軟膏剤 ゲル剤	1日1回	ドボベット	
							マキサカルシトール／ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	外－1	軟膏剤	1日1回	マーデュオックス軟膏	
		皮膚刺激	局所刺激作用			生薬	カンタリスチンキ	外－1	液剤	少量（希釈）塗布	カンタリス	
							トウガラシチンキ	外－1	液剤	1日1～数回	トウガラシチンキ	
		湿疹、皮膚炎等の消炎・収斂等	収斂作用				カラミン	外－1	液剤	1日1～数回	カラミン	
			収斂/消炎/保護/防腐作用			無機塩類	酸化亜鉛	外－1	末剤	1日1～数回	酸化亜鉛	
							硫酸亜鉛	外－1	末剤		硫酸亜鉛	
							塩化亜鉛	外－1	末剤		塩化亜鉛	
							硫酸アルミニウムカリウム	外－1	末剤	希釈塗布	ミョウバン	
			配合剤（収斂/消炎/保護/防腐作			配合剤	酸化亜鉛/豚脂	外－1	軟膏剤	1日1～数回	ウイルソン	
							亜鉛華	外－1 外－5	軟膏剤 貼付剤	1日1～数回	サトウザルベ ボチシート	
							アクリノール/チンク油	外－1	軟膏剤	1日1～数回	アクリノール・チンク油	
							亜鉛華デンプン	外－1	末剤	1日1～数回	亜鉛華デンプン	
		皮膚・粘膜の炎症の消炎・収斂	収斂作用				タンニン酸	外－1	末剤		タンニン酸	
						過酸化物系	過マンガン酸カリウム	外－1	末剤		過マンガン酸カリウム	
			局所刺激作用				アンモニア水	外－1	液剤	希釈塗布	アンモニア水	
		筋肉痛等の鎮痛、消炎	抗炎症/鎮痛作用	プロスタグランジン生合成阻害作用等		アリール酢酸系	インドメタシン	外－1 外－1 外－1 外－5	軟膏剤 クリーム剤 液剤 貼付剤	1日数回 1日2回	インテバン カトレップ	
						プロピオン酸系	ケトプロフェン	外－1 外－1 外－1 外－5	クリーム剤 液剤 ゲル 貼付剤	1日数回 1日1回、2回	セクター エパテック モーラス	
							フルルビプロフェン	外－5	貼付剤	1日2回	アドフィード	
							ロキソプロフェンナトリウム水和物	外－1 外－5	ゲル 貼付剤	1日数回 1日1回	ロキソニン	
						オキシカム系	ピロキシカム	外－1	軟膏剤	1日数回	フェルデン	
						アリール酢酸系	ジクロフェナクナトリウム	外－1 外－1 外－1 外－5	ゲル クリーム剤 液剤 貼付剤	1日数回 1日1回	ナボール	
							フェルビナク	外－1 外－1 外－1 外－5	軟膏剤 クリーム剤 液剤 貼付剤	1日数回 1日2回	ナパゲルン セルタッチ	
							サリチル酸メチル	外－1	液剤	局所塗布	サリチル酸メチル	

			配合剤（抗炎症/鎮痛作用）			配合剤	サリチル酸メチル/グリチルレチン	外－1	軟膏剤	1日1～数回	スチックゼノールA	
							サリチル酸メチル/ジフェンヒドラミン/サリチル酸グリコール/l -メントール/d-カンフル/ニコチン酸ベンジル	外－2	噴霧剤	1日1～数回	エアーサロンパス	
							サリチル酸メチル/カンフル/ハッカ油/ユーカリ油	外－1	軟膏剤	1日1～数回	ローテル	
							サリチル酸メチル/dl-カンフル/l-メントール	外－5	貼付剤	1日1～2回	MS冷シップ	
							サリチル酸グリコール/メントール	外－5	貼付剤	1日1～2回	GSプラスターC	
							サリチル酸メチル/dl-カンフル/トウガラシエキス	外－5	貼付剤	1日1～2回	MS温シップ	
							サリチル酸メチル/メントール/カンフル/ジフェンヒドラミン/ハッカ油/ノニル酸ワニリルアミド	外－5	貼付剤	1日1～2回	ハリホット	
							サリチル酸グリコール/ノニル酸ワニリルアミド	外－5	貼付剤	1日1～2回	GSプラスターH	
							エスフルルビプロフェン／ハッカ油	外－5	貼付剤	1日1回	ロコアテープ	
			抗炎症/鎮痛作用	局所血管拡張作用			カンフル	外－1	液剤	塗布又は塗擦	カンフル精	
							dーカンフル	外－1	末剤	塗布又は塗擦	dーカンフル	
							dlーカンフル	外－1	末剤	塗布又は塗擦	dlーカンフル	
		外傷後の腫脹・筋肉痛等	抗炎症/鎮痛/血流量増加作用等				ヘパリン類似物質	外－1 外－1 外－1 外－1 外－1	ゲル 軟膏剤 クリーム剤 液剤 スプレー剤	1日1～数回	ヒルドイド	
			配合剤（抗炎症/鎮痛/血流量増加作用等）			配合剤	ヘパリン類似物質/サリチル酸/副腎エキス	外－1	クリーム剤	1日1～数回	ゼスタック	
		表皮に欠損のない打撲	局所血管収縮/局所保護作用				酢酸鉛	外－1	末剤	湿布	酢酸鉛	

２６５　感染性皮膚疾患用剤

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
3	感染性皮膚疾患用剤	白癬，カンジダ症	皮膚糸状菌、カンジダ、真菌に抗菌作用	細胞膜合成阻害作用	ｽｸｱﾚﾝｴﾎﾟｷｼﾀﾞｰｾﾞ選択阻害作用	アリルアミン系	テルビナフィン塩酸塩	外－１ 外－１ 外－２	クリーム剤 液剤 噴霧剤	１日１回	ラミシール ラミシール外用スプレー		
					エルゴステロール合成阻害作用	イミダゾール系	クロトリマゾール	外－１ 外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日２～３回	タオンゲル／エンペシド		
								外－８	トローチ	１日５回	エンペシドトローチ	HIV感染症患者における口腔カンジダ症(軽症，中等症)	
							オキシコナゾール硝酸塩	外－１ 外－１	クリーム剤 液剤	１日２～３回	デリマイン		
							ビホナゾール	外－１ 外－１	クリーム剤 液剤	１日１回	マイコスポール		
							ケトコナゾール	外－１ 外－１ 外－２	クリーム剤 液剤 噴霧剤	１日１回	ニゾラール	脂漏性皮膚炎	
							ラノコナゾール	外－１ 外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１回	アスタット		
							ネチコナゾール塩酸塩	外－１ 外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤 液剤	１日１回	アトラント		
							ミコナゾール硝酸塩	外－１	クリーム剤	１日２～３回	フロリードＤ		
							ミコナゾール	外－８	錠剤	１日１回	オラビ錠口腔用	カンジダ属における口腔咽頭カンジダ症	
							イソコナゾール硝酸塩	外－１	クリーム剤	１日２～３回	アデスタン		
							スルコナゾール硝酸塩	外－１ 外－１	クリーム剤 液剤	１日２～３回	エクセルダーム		
							ルリコナゾール	外－１ 外－１ 外－１	クリーム剤 液剤 軟膏	１日１回	ルリコン ルリコン軟膏		
						モルホリン系	アモロルフィン塩酸塩	外－１	クリーム剤	１日１回	ペキロン		
		白癬、疥癬	抗菌作用/角質軟化作用	角質-SH基縮合作用			イオウ	外－１	末剤	１日１～２回	イオウ		
		白癬	皮膚糸状菌に抗菌作用	細胞膜合成阻害作用	ｽｸｱﾚﾝｴﾎﾟｷｼﾀﾞｰｾﾞ選択阻害作用	ベンジルアミン系	ブテナフィン塩酸塩	外－１ 外－１ 外－２	クリーム剤 液剤 噴霧剤	１日１回	メンタックス		
						チオカルバメート	リラナフタート	外－１ 外－１	クリーム剤 液剤	１日１回	ゼフナート		
							トルナフタート	外－１ 外－１	軟膏剤 液剤	１日２～３回	ハイアラージン		
		爪白癬	皮膚糸状菌(トリコフィトン属)に抗菌作用	細胞膜合成阻害作用	エルゴステロール合成阻害作用	トリアゾール系	エフィナコナゾール	外－１	液剤	１日１回	クレナフィン爪外用液		
						イミダゾール系	ルリコナゾール	外－１	液剤	１日１回	ルコナック爪外用液		
		単純疱疹／帯状疱疹	ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ	核酸(DNA)合成阻害作用			ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日数回	ゾビラックス	★単純疱疹のみ	
							ﾋﾞﾀﾞﾗﾋﾞﾝ	外－１ 外－１	軟膏剤 クリーム剤	１日１～４回	アラセナ－Ａ		
	ウイルスに作用するもの	尖圭ｺﾝｼﾞﾛｰﾏ	免疫賦活作用	ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ等産生促進作用/細胞性免疫応答賦活化作用			ｲﾐｷﾓﾄﾞ	外－１	クリーム剤	１日１回週３回	ベセルナクリーム	外性器又は肛門周囲に限る	

２６６　皮膚軟化剤（腐しょく剤を含む。）

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	皮膚軟化剤	角化症等	角質水分保持量増加作用/角質溶解作用			尿素	尿素	外－１	軟膏剤 ｸﾘｰﾑ剤 液剤 末剤	１日２～３回	ケラチナミン	
			角質溶解作用/防腐作用	細胞膨潤軟化作用		有機酸	サリチル酸	外－１ 外－５	末剤 軟膏剤 貼付剤	１日１～２回 ２～５日ごと	サリチル酸 スピール膏Ｍ	
		脂漏等の角質溶解	蛋白凝固/角質溶解作用				レゾルシン	外－１	末剤	１日１～２回	レゾルシン	
		手足のき裂性・落屑性皮膚炎	配合剤（皮膚乾燥防止作用＋皮膚腐食/軟化作用）			配合剤	グリセリン＋水酸化カリウム	外－１	液剤	１日１～数回	グリセリンカリ液	

２６７　毛髪用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	毛髪用剤	円形脱毛症	局所血管拡張作用				アセチルコリン塩化物	注－1	注射薬	1回0.1g数カ所に週1回皮内注	オビソート注	
3	毛髪用剤	円形脱毛症における脱毛防止・発毛促進	局所血管拡張・発毛促進作用	副交感神経刺激作用			カルプロニウム塩化物	外－1	液剤	1日2～3回適量塗布	フロジン液	
		発毛促進	局所刺激作用			生薬	カンタリスチンキ	外－1	液剤	少量（希釈）塗布	カンタリス	
							トウガラシチンキ	外－1	液剤	1日1～数回	トウガラシチンキ	

２６４・２６９・３９５・４１２　皮膚潰瘍用剤

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	皮膚潰瘍用剤	皮膚潰瘍	損傷皮膚組織修復作用/収斂作用				アルミニウムクロロヒドロキシアラントイネート	外－1	軟膏剤		アルキサ軟膏	
			創傷治癒促進作用	血管新生作用等			トレチノイントコフェリル	外－1	軟膏剤	1日1～2回	オルセノン	
					サイクリックAMP誘導体増加作用	サイクリックAMP誘導体	ブクラデシンナトリウム	外－1	軟膏剤	1日1～2回	アクトシン	
					血小板凝集能抑制作用	プロスタグランジンE1誘導体	アルプロスタジルアルファデクス	外－1	軟膏剤	1日2回	プロスタンディン	
					FGF受容体特異的結合作用	線維芽細胞成長因子	トラフェルミン（遺伝子組換え）	外－2	噴霧剤	1日1回	フィブラストスプレー	
				組織呼吸促進作用			幼牛血液抽出物	外－1	軟膏剤	1日1～2回		
			配合剤（創傷治癒促進作用）	殺菌作用＋創面清浄化作用		配合剤	ヨウ素	外－1 外－1	散剤 軟膏	1日1回（2回）	カデックス カデックス軟膏	
				浮腫改善/線維芽細胞活性化作用＋殺菌作用		配合剤	精製白糖/ポビドンヨード	外－1	軟膏剤	1日1～2回	ユーパスタ/イワデクト	
			抗炎症作用/組織修復作用	膿粘液分解作用/出血抑制作用			リゾチーム塩酸塩	外－1 外－5	軟膏剤 貼付剤		リフラップ軟膏 ピスタロン軟膏 リフラップシート	
				抗壊死/抗浮腫/蛋白産生阻止/表皮形成促進作用			ベンダザック	外－1	軟膏剤	1日数回	ジルダザック	
		熱傷	硬組織形成誘導作用				水酸化カルシウム	外－1	液剤		石灰水	
		熱傷等の壊死組織除去等	壊死組織除去作用				ブロメライン	外－1	軟膏剤		ブロメライン軟膏	

２６９　その他の外皮用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の外皮用剤	乾癬	表皮細胞増殖抑制/分化誘導作用			ﾃﾄﾗｴﾝ誘導体	エトレチナート	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤	１日１～３回	チガソン	
		局所療法で効果不十分な尋常性乾癬、関節症性乾癬	ホスホジエステラーゼ4（PDE4）阻害作用				アプレミラスト	内－1	錠剤	1日2回	オテズラ錠	
		白斑	光感受性増強作用				メトキサレン	内－1	錠剤	1日20mg2時間後日光浴等	オクソラレン	
3	その他の外皮用剤	白斑	光感受性増強作用				メトキサレン	外－1	軟膏剤 液剤	塗布し，1～2時間後日光浴	オクソラレン	
		尋常性ざ瘡	毛包上皮細胞異常角化抑制作用				アダパレン	外－1	ゲル剤	1日1回塗布	ディフェリンゲル	
			角層剥離作用/抗菌作用				過酸化ベンゾイル	外－1	ゲル剤	1日1回塗布	ベピオゲル	
			配合剤（タンパク合成阻害作用+角層剥離作用／抗菌作用）			配合剤	クリンダマイシンリン酸エステル水和物／過酸化ベンゾイル	外－1	ゲル剤	1日1回塗布	デュアック配合ゲル	
			配合剤（毛包上皮細胞異常角化抑制作用+角層剥離作用／抗菌作用）			配合剤	アダパレン／過酸化ベンゾイル	外－1	ゲル剤	1日1回塗布	エピデュオゲル	
		がん性皮膚潰瘍部位の殺菌・臭気の軽減	核酸（DNA）障害作用				メトロニダゾール	外－1	ゲル剤	1日1～2回塗布	ロゼックスゲル	

270－279 歯科用薬剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	歯科用局所麻酔剤	歯科領域における浸潤麻酔・伝達麻酔	局所麻酔作用	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用	アニリド系	メピバカイン塩酸塩	注－1	注射薬			
							ﾘﾄﾞｶｲﾝ塩酸塩／ｴﾋﾟﾈﾌﾘﾝ酒石酸水素塩	注－1	注射薬		オーラ	
							ﾘﾄﾞｶｲﾝ塩酸塩／アドレナリン	注－1	注射薬		キシレステシンA	
							ﾌﾟﾛﾋﾟﾄｶｲﾝ塩酸塩／ﾌｪﾘﾌﾟﾚｼﾝ	注－1	注射薬		歯科用シタネストーオクタプレシン	
3	歯科用局所麻酔剤	歯科領域における表面麻酔	局所麻酔作用	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用	エステル型	ｱﾐﾉ安息香酸ｴﾁﾙ	外－1	ｾﾞﾘｰ 液剤		ビーゾカイン ハリケイン	
							ﾃﾄﾗｶｲﾝ塩酸塩	外－5	貼付剤		コーパロン	
			配合剤（局所麻酔作用）			配合剤	ｱﾐﾉ安息香酸ｴﾁﾙ／ﾊﾟﾗﾌﾞﾁﾙｱﾐﾉ安息香酸ｼﾞｴﾁﾙｱﾐﾉｴﾁﾙ塩酸塩	外－1	ﾊﾟｽﾀ剤		ネオザロカインパスタ	
							ｱﾐﾉ安息香酸ｴﾁﾙ／ｼﾞﾌﾟｶｲﾝ塩酸塩	外－1	軟膏剤		プロネスパスタアロ	
	歯科用殺菌剤	慢性辺縁性歯周炎	主として一般細菌に作用	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))に作用	蛋白合成阻害作用	ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	外－1	軟膏剤		ペリオクリン	
		急性歯肉炎					ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	外－1	ﾊﾟｽﾀ剤		テトラサイクリンCMCペイスト	
		抜歯創等の感染予防					ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	外－8	トローチ		アクロマイシントローチ	
							ｵｷｼﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	外－8	錠剤		オキシテトラコーン	
						ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ﾌﾗｼﾞｵﾏｲｼﾝ硫酸塩	外－8	含嗽剤		デンターグルF	
				主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))/真菌			ﾍﾟﾝｾﾞﾄﾆｳﾑ塩化物	外－8	含嗽剤		ネオステリングリーン	
			配合剤（殺菌作用+抗炎症作用）	細網内皮系機能抑制作用+蛋白合成阻害作用		配合剤	ｴﾋﾞｼﾞﾋﾄﾞﾛｺﾚｽﾃﾘﾝ／ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	外－1	軟膏剤		テトラサイクリン・プレステロン歯科用軟	
	その他の歯科口腔用薬	辺縁性歯周炎	配合剤（抗炎症作用+抗菌作用+鎮痛作用）			配合剤	ﾋﾄﾞﾛｺﾙﾁｿﾞﾝ酢酸ｴｽﾃﾙ／ﾋﾉｷﾁｵｰﾙ	外－1	軟膏剤		ヒノポロン	
			配合剤（殺菌作用＋抗炎症作用）	細胞破壊作用＋抗ﾋｽﾀﾐﾝ作用		配合剤	クロルヘキシジン塩酸塩/ジフェンヒドラミン	外－1	軟膏剤		デスパコーワ	
		口内炎	主として一般細菌に作用	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))に作用	蛋白合成阻害作用	ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系	テトラサイクリン塩酸塩	外－8	ﾄﾛｰﾁ剤		アクロマイシン	
			抗炎症/鎮痛作用	ｽﾃﾛｲﾄﾞ受容体と結合		ステロイド	トリアムシノロンアセトニド	外－1 外－5	軟膏剤 貼付剤		口腔用ケナログ アフタッチ	
							デキサメタゾン	外－1	軟膏剤		デキサルチン／アフタゾロン	
							ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	外－2	噴霧剤		サルコート	
		咽頭炎，扁桃炎／口内炎	抗炎症/創傷治癒促進/抗ｱﾚﾙｷﾞｰ作用				アズレンスルホン酸ナトリウム	外－8	ﾄﾛｰﾁ剤		アズノールST	
			主として一般細菌/真菌に作用	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/真菌に作用			セチルピリジニウム塩化物	外－8	ﾄﾛｰﾁ剤		スプロールトローチ	
							デカリニウム塩化物	外－8	ﾄﾛｰﾁ剤		SPトローチ	
			主として一般細菌に作用	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(−))に作用	脂肪可溶化/蛋白変性作用	陽イオン界面活性剤	ドミフェン臭化物	外－8	ﾄﾛｰﾁ剤		オラドール	
					有機成分（酵素蛋白）酸化分解作用		複方ヨード・グリセリン	外－1	液剤		複方ヨード・グリセリン	
		口腔乾燥症	唾液成分の補充				リン酸二カリウム／無機塩類	外－2	噴霧剤		サリベート	
		歯周疾患の外科的手術後の創面包帯	配合剤（創面保護作用+鎮痛作用）			配合剤	酸化亜鉛／ﾁｮｳｼﾞ油	外－1	軟膏剤		サージカルパックN／ペリオドンタルパッ	
		歯科領域における手術後の止血	止血作用/創傷充填作用	凝血物形成促進作用			酸化ｾﾙﾛｰｽ	外－5	貼付剤		デントセル、サージセル	
		口腔粘膜損傷の止血	配合剤（止血作用+局所麻酔作用）			配合剤	塩化ｱﾙﾐﾆｳﾑ／ｾﾁﾙﾋﾟﾘｼﾞﾆｳﾑ塩化物	外－1	ｾﾞﾘｰ 液剤		歯科用TDゼット・ゼリー 歯科用TDゼット	
		歯周炎による歯槽骨の欠損	歯周組織再生促進作用	FGF受容体特異的結合作用			トラフェルミン（遺伝子組換え）	外－9	キット		リグロス	

290 その他の個々の器官系用医薬品

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の個々の器官系用医薬品	乳児血管腫	β受容体遮断作用				プロプラノロール塩酸塩	内－4	シロップ剤		ヘマンジオルシロップ小児用	
2	その他の個々の器官系用医	デュピュイトラン拘縮	コラーゲン分解作用				コラゲナーゼ（クロストリジウム　ヒストリチク	注−1	注射薬		ザイヤフレックス注射用	

311－318 ビタミン剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	ビタミン剤	ビタミンA欠乏症	ビタミンA補充作用	網膜機能維持・上皮組織分化誘導作用		レチノイド	ビタミンA	内-1 内-2	錠剤 末剤	1日2,000～4,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単位 1日2,000～4,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単位	チョコラA錠 チョコラA末	
							レチノールパルミチン酸エステル	内-3	液剤	1日2,000～4,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単位（補給）、1日3,000～100,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単	チョコラA滴	
		ビタミンA欠乏症、ビタミンD欠乏症	ビタミンA・D補充作用	網膜機能維持・上皮組織分化誘導／カルシウム代謝調節作用			肝油（魚由来）	内-3	液剤（油）	1日2,000～4,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単位（補給）、1日3,000～100,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単	肝油	
		ビタミンD代謝異常、副甲状腺機能低下症	ビタミンD補充作用	カルシウム代謝調節作用		活性型ﾋﾞﾀﾐﾝD_3	カルシトリオール	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1回	ロカルトロール	
						活性型ﾋﾞﾀﾐﾝD_3誘導体	アルファカルシドール	内-1 内-2 内-3	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 散剤 液剤	1日1回 1日1回 1日1回	アルファロール アルファロール アルファロール	
		骨粗鬆症	ビタミンD補充作用	カルシウム代謝調節作用		活性型ﾋﾞﾀﾐﾝD3誘導体	エルデカルシトール	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1回		
		二次性副甲状腺機能亢進症	活性型ビタミンD_3補充作用	副甲状腺ホルモン分泌抑制作用		活性型ﾋﾞﾀﾐﾝD_3誘導体	ファレカルシトリオール	内-1	錠剤	1日1回	ホーネル錠、フルスタン錠	
		ビタミンB1欠乏症	ビタミンB1補充作用	α-ケトグルタル酸脱炭酸酵素補酵素作用		ビタミンB1(ｺｶﾙﾎﾞｷｼﾗｰｾﾞ前駆体)	チアミン塩化物塩酸塩	内-2	散剤	1日1～3回	塩酸チアミン散	
						ビタミンB1誘導体	セトチアミン塩酸塩(ｼﾞｾﾁｱﾐﾝ塩酸塩)	内-1	錠剤	1日5～100mg	ジセタミン	
							オクトチアミン	内-1	錠剤	1日25～100mg	ノイビタ	
							チアミンジスルフィド	内-1	錠剤	1日1～3回	アクチビン	
							ビスベンチアミン	内-1	錠剤	1日5～100mg	ベストン	
							フルスルチアミン	内-1	錠剤	1日5～100mg	アリナミンF	
							ベンフォチアミン	内-1	錠剤	1日5～100mg		
		ビタミンB2欠乏症	ビタミンB2補充作用	酸化還元酵素補酵素作用		ビタミンB2	リボフラビン酪酸エステル	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日2～3回 1日2～3回	ハイボン ハイボン	
						ビタミンB2補酵素	フラビンアデニンジヌクレオチド	内-1 内-3	錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤	1日1～3回 1日1～3回	フラビタン フラビタン	
		ニコチン酸欠乏症	抗ペラグラ因子補充作用	NAD,NADP;脱水素酵素反応補酵素作用		NAD,NADP前駆体	ニコチン酸アミド	内-2	散剤	1日25～200mg	ニコチン酸アミド散	
		パントテン酸欠乏症	パントテン酸補充作用	CoA;脂肪,タンパク質,炭水化物代謝補酵素作用		CoA構成成分	パントテン酸カルシウム	内-2	散剤	1日1～3回	パンカル散	
						CoA前駆体	パンテチン	内-1 内-2	錠剤 散剤 細粒剤	1日1～3回 1日1～3回	パントシン パントシン	
		ビタミンB6欠乏症	ビタミンB6補充作用	ｱﾐﾉ酸・ﾀﾝﾊﾟｸ質代謝補酵素		ビタミンB6	ピリドキシン塩酸塩	内-1 内-2	錠剤 散剤 末剤	1日10～100mg 1日10～100mg	アデロキシン アデロキシン	
						ビタミンB6補酵素型	ピリドキサールリン酸エステル	内-1	錠剤	1日1～3回	ピロミジン	
							リン酸ピリドキサールカルシウム	内-2	散剤	1日1～3回	アデロキザール	
		葉酸欠乏症	葉酸補充作用	核酸代謝補酵素作用			葉酸	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日2～3回 1日2～3回	フォリアミン 葉酸10倍散	
		ビタミンB12欠乏症、巨赤芽球性貧血、悪性貧血に伴う神経障害	ビタミンB12補充作用	核酸代謝・ﾍﾑ合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	コバマミド	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1～3回	ハイコバール	
		末梢性神経障害	神経再生促進作用	核酸代謝・ﾍﾑ合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	メコバラミン	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	メチコバール	

								内-2	細粒剤	1日3回	メチコバール	
		ﾋﾞﾀﾐﾝB群、ﾀﾝﾊﾟｸ質の摂取不良	栄養補充作用	ビタミンB・タンパク補給			乾燥酵母	内-2	末剤	1日3回	乾燥酵母ｴﾋﾞｵｽ	
		ビタミンC欠乏症	ビタミンC補充作用	還元作用			アスコルビン酸	内-2	散剤 顆粒剤 末剤	1日1～数回	ハイシー	
		ビタミンE欠乏症、末梢循環障害、過酸化脂質の増加防止	ビタミンE補充作用	抗酸化作用			トコフェロール酢酸エステル	内-1 内-2	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤	1日2～3回 1日2～3回	ユベラ ユベラ	
		ビタミンK欠乏症	止血機構賦活作用	プロトロンビン合成促進作用		ビタミンK1	フィトナジオン	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日5～15mg 1日5～15mg	ケーワン	
						ビタミンK2	メナテトレノン	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日2回	ケイツー	
							メナテトレノン（小）	内-3	ｼﾛｯﾌﾟ剤	1日1回	ケイツー	
		ビオチン欠乏性湿疹・皮膚炎	皮膚炎改善作用	ｶﾙﾎﾞｷｼﾙ基転移反応補酵素作用			ビオチン	内-2 内-3	散剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤	1日1～3回 1日1～3回	ビオチン散 ビオチンドライシロッ	
		ビタミン欠乏症	配合剤（ビタミンB群補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝB1+B6 +B12作用		配合剤	ﾁｱﾐﾝ硝酸塩／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾝ塩酸塩／ﾋﾄﾞﾛｷｿｺﾊﾞﾗﾐﾝ酢酸塩	内-1	錠剤	1日1回	トリドセラン	
							ﾁｱﾐﾝｼﾞｽﾙﾌｨﾄﾞ／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾝ塩酸塩／ｼｱﾉｺﾊﾞﾗﾐﾝ（2）	内-1	錠剤	1日1～3回	アリチア	
							ﾁｱﾐﾝｼﾞｽﾙﾌｨﾄﾞ／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｻｰﾙﾘﾝ酸ｴｽﾃﾙ／ﾋﾄﾞﾛｷｿｺﾊﾞﾗﾐﾝ（3）	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1～3回	O･S･T･ミックス	
							ﾍﾞﾝﾌｫﾁｱﾐﾝ／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾝ塩酸塩／ｼｱﾉｺﾊﾞﾗﾐﾝ（1）	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1～3回	ビタメジン	
								内-2	散剤	1日0.25～0.75g	ビタメジン	
				ﾋﾞﾀﾐﾝB1+B2 +B6+B12作用		配合剤	ｵｸﾄﾁｱﾐﾝ／ﾘﾎﾞﾌﾗﾋﾞﾝ／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾝ塩酸塩／ｼｱﾉｺﾊﾞﾗﾐﾝ	内-1	錠剤	1日1～3回	ノイロビタン	
							ﾌﾙｽﾙﾁｱﾐﾝ塩酸塩／ﾘﾎﾞﾌﾗﾋﾞﾝ／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｻｰﾙﾘﾝ酸ｴｽﾃﾙ／ﾋﾄﾞﾛｷｿｺﾊﾞﾗﾐﾝ酢酸塩（1）	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1～3回	ビタノイリン	
				ﾋﾞﾀﾐﾝB2 +B6作用		配合剤	リボフラビン／ピリドキシン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1～3回	強力ビフロキシン	
				ﾋﾞﾀﾐﾝB2 +B6+ﾆｺﾁﾝ酸+ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸作用		配合剤	リボフラビン／ピリドキシン塩酸塩／ニコチン酸アミド／パントテン酸カルシウム	内-2	顆粒剤	1日1～3回	デルパント	
			配合剤（ﾋﾞﾀﾐﾝC補充作用+ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝC+ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸作用		配合剤	ｱｽｺﾙﾋﾞﾝ酸／ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸ｶﾙｼｳﾑ（1）	内-1	錠剤	1日1～3回	シナール	
								内-2	顆粒剤	1日1～3回	シナール	
			配合剤（ビタミン補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝ A+B1+B2+B6+B12+C+D+E+ﾆｺﾁﾝ酸+ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸作用		配合剤	ﾚﾁﾉｰﾙﾊﾟﾙﾐﾁﾝ酸ｴｽﾃﾙ／ﾁｱﾐﾝ硝酸塩／ﾘﾎﾞﾌﾗﾋﾞﾝ／ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾝ塩酸塩／ｼｱﾉｺﾊﾞﾗﾐﾝ／ｱｽｺﾙﾋﾞﾝ酸／ｴﾙｺﾞｶﾙｼﾌｪﾛｰﾙ／ﾄｺﾌｪﾛｰﾙ酢酸ｴｽｴﾙ／ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸ｶﾙｼｳﾑ／ﾆｺﾁﾝ酸ｱﾐﾄﾞ／葉酸	内-2	末剤	1日1～2g	パンビタン	
2	ビタミン剤	ビタミンA欠乏症	ビタミンA補充作用	網膜機能維持・上皮組織分化誘導作用		レチノイド	レチノールパルミチン酸エステル	注-1	注射薬	1日3,000～100,000ﾋﾞﾀﾐﾝA単	チョコラA	
		二次性副甲状腺機能亢進症	活性型ビタミンD3補充作用	副甲状腺ホルモン分泌抑制作用		活性型ビタミンD_3誘導体	マキサカルシトール	注-1	注射薬	1回2.5～10ugを週3回、透析回路静脈側に注入	オキサロール注	
							カルシトリオール	注-1	注射薬	1回0.5～1.5ugを週3回、静注	ロカルトロール注	

		ビタミンB1欠乏症	ビタミンB1補充作用	α−ケトグルタル酸脱炭酸酵素補酵素作用		ビタミンB1	チアミン塩化物塩酸塩	注−1	注射薬	1日1～50mg皮下・筋注又は静注	アベリー	
						ビタミンB1誘導体	フルスルチアミン塩酸塩	注−1	注射薬	1日 5～100mg静注	アリナミンF	
							チアミンジスルフィド	注−1	注射薬	1日5～100mg皮下、筋注又は緩徐に静注	バイオゲン	
							プロスルチアミン	注−1	注射薬	1日10mg静注	アリナミン	
						ビタミンB1補酵素型	コカルボキシラーゼ	注−1	注射薬	1日1～50mg皮下、筋注又は静注	アリチラーゼ	
		ビタミンB2欠乏症	ビタミンB2補充作用	酸化還元酵素補酵素作用		ビタミンB2	リボフラビンリン酸エステルナトリウム	注−1	注射薬	1日2～30mg皮下、筋注又は静注	ビスラーゼ	
						ビタミンB2補酵素型	フラビンアデニンジヌクレオチド	注−1	注射薬	1日1～2回皮下、筋注又は静注	フラビタン	
		ニコチン酸欠乏症	ニコチン酸補充作用	NAD,NADP;脱水素酵素反応補酵素作用		NAD,NADP前駆体	ニコチン酸	注−1	注射薬	1日10～100mg皮下、筋注又は静注	ナイクリン	
		パントテン酸欠乏症	パントテン酸補充作用	CoA;脂肪,タンパク質,炭水化物代謝補酵素作用		CoA前駆体	パンテチン	注−1	注射薬	1日1～2回筋注又は静注	パントシン	
							パンテノール	注−1	注射薬	1日1～2回筋注又は静注	パントール	
		ビタミンB6欠乏症		ｱﾐﾉ酸･ﾀﾝﾊﾟｸ質代謝補酵素作用		ビタミンB6	ピリドキシン塩酸塩	注−1	注射薬	1日1～2回皮下、筋注又は静注	アデロキシン	
						ビタミンB6補酵素型	ピリドキサールリン酸エステル	注−1	注射薬	1日1～2回皮下、筋注又は静注	ピロミジン	
		葉酸欠乏症	葉酸補充作用	核酸代謝補酵素作用			葉酸	注−1	注射薬	1日1回皮下又は筋注	フォリアミン	
		ビタミンB12欠乏症、巨赤芽球性貧血、悪性貧血に伴う神経障害	ビタミンB12補充作用	核酸代謝･ﾍﾑ合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	ヒドロキソコバラミン酢酸塩	注−1	注射薬	1回 1mgまで、筋注又は静注	フレスミンS	
							シアノコバラミン	注−1	注射薬	1回 1mg、皮下注、筋注又は静注	シアノコバラミン	
		末梢性神経障害、ビタミンB12欠乏による巨赤芽球性	ビタミンB12補充作用＋神経再生促進作用	核酸代謝･ﾍﾑ合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	メコバラミン	注−1 注−2	注射薬 キット	1日1回0.5mg、週3回筋注又は静 1日1回0.5mg、週3回筋注又は静注	メチコバール ハイトコバミンM注500μgシリンジ	
		ビタミンC欠乏症	ビタミンC補充作用	還元作用			アスコルビン酸	注−1	注射薬	1日1～数回、皮下注、筋注又は静注	ビスコリン	
		ビタミンK欠乏症	止血機構賦活作用	プロトロンビン合成促進作用		ビタミンK1	フィトナジオン	注−1	注射薬	1日5～15mg等、皮下、筋注又は静注	ケーアイン	
						ビタミンK2	メナテトレノン	注−1	注射薬	1日1回10～20mg、静注	ケイツーN静注	
		ビオチン欠乏性湿疹・皮膚炎	ビオチン補充作用	ｶﾙﾎﾞｷｼﾙ基転移反応補酵素作用			ビオチン	注−1	注射薬	1日0.5～2mg 皮下、筋注又は静注	ビオチン	

		ビタミン欠乏症	配合剤（ﾋﾞﾀﾐﾝC+L-ｼｽﾃｲﾝ補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝC+ﾁｵｰﾙ酵素（SH酵素）賦活作用		配合剤	アスコルビン酸/Lーシステイン	注-1	注射薬	1日1～2回、皮下、筋注又は静注	クリストファン	
			配合剤（ﾋﾞﾀﾐﾝB1+B2+C補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝB1+B2+C作用		配合剤	チアミン塩酸塩/リボフラビンリン酸エステルナトリウム/アスコルビン酸	注-1	注射薬	1日5～10mLを糖液等に混じ、静注又は点滴静注	ビスコン	
			配合剤（ﾋﾞﾀﾐﾝB群補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝB1+B6+B12作用		配合剤	チアミン塩酸塩/ピリドキシン塩酸塩/シアノコバラミン	注-1	注射薬	1日1回2mL、皮下、筋注又は静注	ダイビタミックス	
							チアミンジスルフィド/ピリドキシン塩酸塩/ヒドロキソコバラミン酢酸塩	注-1	注射薬	1日1回10mLを緩徐に静注	ネオラミン・スリービー	
							ﾁｱﾐﾝﾓﾉﾌｫｽﾌｪｲﾄﾁﾞｽﾙﾌｨﾄﾞ/ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾝ塩酸塩/ｼｱﾉｺﾊﾞﾗﾐﾝ	注-1	注射薬	1日1ﾊﾞｲｱﾙ、緩徐々に静注又は点滴静注	ビタメジン	
			配合剤（ビタミン類補充作用）	ﾋﾞﾀﾐﾝB1+B2+B6+ﾆｺﾁﾝ酸+ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸+ﾋﾞﾀﾐﾝC作用		配合剤	チアミン塩酸塩/リボフラビンリン酸エステルナトリウム/ピリドキシン塩酸塩/ニコチン酸アミド/パンテノール/アスコルビン酸	注-1	注射薬	1日1～3回、皮下、筋注又は静注	シーパラ	
		高カロリー静脈栄養時のビタミン補給	配合剤（ビタミン類補充作用（葉酸、ﾋﾞﾀﾐﾝB12、ﾋﾞｵﾁﾝ、ﾋﾞﾀﾐﾝKなし））			配合剤	ﾋﾞﾀﾐﾝA/ﾋﾞﾀﾐﾝB1/ﾋﾞﾀﾐﾝB2/ﾆｺﾁﾝ酸/ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB6/ﾋﾞﾀﾐﾝC/ﾋﾞﾀﾐﾝD/ﾋﾞﾀﾐﾝE	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回、点滴静注 1日1回、点滴静	M.V.I. M.V.I.キット	
			配合剤（ビタミン類補充作用（ﾋﾞﾀﾐﾝKなし））			配合剤	葉酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB12/ﾋﾞｵﾁﾝ	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	M.V.I.-3	
							ﾋﾞﾀﾐﾝA/ﾋﾞﾀﾐﾝB1/ﾋﾞﾀﾐﾝB2/ﾆｺﾁﾝ酸/ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB6/ﾋﾞﾀﾐﾝC/ﾋﾞﾀﾐﾝD/ﾋﾞﾀﾐﾝE	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	ネオM.V.I.-9	
							ﾋﾞﾀﾐﾝA/ﾋﾞﾀﾐﾝB1/ﾋﾞﾀﾐﾝB2/ﾆｺﾁﾝ酸/ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB6/葉酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB12/ﾋﾞﾀﾐﾝC/ﾋﾞﾀﾐﾝD/ﾋﾞﾀﾐﾝE/ﾋﾞ	注-2	キット	1日1回、点滴静注	M.V.I.-12ｷｯﾄ	
			配合剤（ビタミン類補充作用）			配合剤	ﾋﾞﾀﾐﾝA/ﾋﾞﾀﾐﾝB1/ﾋﾞﾀﾐﾝB2/ﾆｺﾁﾝ酸/ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB6/葉酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB12/ﾋﾞﾀﾐﾝC/ﾋﾞﾀﾐﾝD/ﾋﾞﾀﾐﾝE/ﾋﾞｵﾁﾝ/ﾋﾞﾀﾐﾝK (2)	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	オーツカMV注	
							ﾋﾞﾀﾐﾝA/ﾋﾞﾀﾐﾝB1/ﾋﾞﾀﾐﾝB2/ﾆｺﾁﾝ酸/ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB6/葉酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB12/ﾋﾞﾀﾐﾝC/ﾋﾞﾀﾐﾝD/ﾋﾞﾀﾐﾝE/ﾋﾞｵﾁﾝ/ﾋﾞﾀﾐﾝK (6)	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	マルタミン	
							ﾋﾞﾀﾐﾝA/ﾋﾞﾀﾐﾝB1/ﾋﾞﾀﾐﾝB2/ﾆｺﾁﾝ酸/ﾊﾟﾝﾄﾃﾝ酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB6/葉酸/ﾋﾞﾀﾐﾝB12/ﾋﾞﾀﾐﾝC/ﾋﾞﾀﾐﾝD/ﾋﾞﾀﾐﾝE/ﾋﾞｵﾁﾝ/ﾋﾞﾀﾐﾝK (4)(7)	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回、点滴静注 1日1回、点滴静	ネオラミン・ﾏﾙﾁV ビタジェクト	

１２４・３２１・３２２・３３１　無機質製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	無機質製剤	低カルシウム血症	カルシウムの補給			カルシウム製剤	乳酸カルシウム	内－2	末剤		乳酸カルシウム	
							グルコン酸カルシウム	内－2	末剤		カルチコール	
							塩化カルシウム	内－2	末剤		塩化カルシウム	
							L－アスパラギン酸カルシウム	内－1	錠剤		アスパラ－CA	
							リン酸水素カルシウム	内－2	末剤		リン酸水素カルシウム	
		RANKL阻害剤（デノスマブ（遺伝子組換え）等）投与に伴う低カルシウム血症	カルシウムの補給（ビタミンD補充療法）			配合剤	沈降炭酸カルシウム/コレカルシフェロール/炭酸マグネシウム	内－1	錠剤		デノタスチュアブル配合錠	
		甲状腺腫、甲状腺機能低下症	ヨードの補給			ヨウ素製剤	ヨウ化カリウム	内－1 内－2	丸剤 末剤		ヨウ化カリウム	
							ヨウ素レシチン	内－1 内－2	錠剤 散剤		ヨウレチン	
		鉄欠乏性貧血	鉄の補給			鉄製剤	硫酸鉄	内－1	錠剤		フェロ・グラデュメット	
							フマル酸第一鉄	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		フェルム	
							溶性ピロリン酸第二鉄	内－3	ｼﾛｯﾌﾟ剤		インクレミン	
							クエン酸第一鉄ナトリウム	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤		フェロミア	
		低カリウム血症				カリウム製剤	塩化カリウム	内－1 内－2 内－3	錠剤 末剤 液剤		スローケー	
							酢酸カリウム	内－3	液剤		酢酸カリウム液	
							L－アスパラギン酸カリウム	内－1 内－2	錠剤 散剤		アスパラK	
							グルコン酸カリウム	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		グルコンサンK	
		脱水症等における電解質の補給	配合剤（水分、ｶﾘｳﾑ、ﾏｸﾞﾈｼｳﾑの補給）			配合剤	ナトリウム/カリウム/マグネシウム	内－2	顆粒剤		ソリターT	
		低カリウム状態におけるカリウム補給	配合剤（カリウム、マグネシウムの補給）			配合剤	アスパラギン酸カリウム/マグネシウム	内－1	錠剤		アスパラ	
		低リン血症	配合剤（リンの補充）			配合剤	リン酸二水素ナトリウム一水和物／無水リン酸水素二ナトリウム	内－2	顆粒剤		ホスリボン配合顆粒	
2	無機質製剤	低カルシウム血症	カルシウムの補給			カルシウム製剤	グルコン酸カルシウム	注－1	注射薬		カルチコール	
							塩化カルシウム	注－1	注射薬		塩カル	
		鉄欠乏性貧血	鉄の補給			鉄製剤	含糖酸化鉄	注－1	注射薬		フェジン	
		低カリウム血症	カリウムの補給			カリウム製剤	塩化カリウム	注－1	注射薬		K. C. L.	
							L－アスパラギン酸カリウム	注－1 注－2	注射薬 キット		アスパラK アスパラギン酸カリウム注10mEqキット「テルモ」（10mL）	
		低マグネシウム血症	マグネシウムの補給			マグネシウム製剤	硫酸マグネシウム	注－1 注－2	注射薬 キット		コンクライトーMg メディジェクトMg	
		電解質補液の電解質補正	リン酸の補正			リン酸塩	リン酸二カリウム	注－2	キット		リン酸2カリウム注	
			ナトリウムの補正			ﾅﾄﾘｳﾑ製剤	塩化ナトリウム	注－1 注－2	注射薬 キット		10%塩化ナトリウム注射液	
							乳酸ナトリウム	注－1	注射薬		コンクライトーL	
			カリウムの補正			カリウム製剤	塩化カリウム	注－1 注－2	注射薬 キット		コンクライトーK KCL注10mEqキット「テルモ」（10mL） KCL注20mEqキット「テルモ」（20mL）	
			低ｸﾛﾙｱﾙｶﾛｰｼｽの是正			ｱﾝﾓﾆｳﾑ製剤	塩化アンモニウム	注－1	注射薬		コンクライトA	

		低カリウム状態におけるカリウム補給	配合剤（カリウム、マグネシウムの補給）			配合剤	アスパラギン酸カリウム/マグネシウム	注－１	注射薬		アスパラ	
		高カロリー静脈栄養時の亜鉛、鉄、銅、マンガン、ヨウ素の補	配合剤（微量元素の補給）			配合剤	塩化マンガン/硫酸亜鉛	注－１ 注－２	注射薬 キット		エレメンミック エレメンミック注キット	
		アシドーシス	アシドーシス改善作用	酸性物質の中和作用			炭酸水素ナトリウム	注－１ 注－２	注射薬 キット		メイロン	
			配合剤（アシドーシス改善作用）	血中CO2減少作用		配合剤	トロメタモール/塩化ナトリウム/塩化カリウム/氷酢酸	注－１	注射薬		サムセット	

３２３　糖類剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	糖類剤	経口的栄養補給，ブドウ糖負荷試験	経口的栄養補給，ブドウ糖負荷試験			六炭糖	ブドウ糖	内－２	末剤		ブドウ糖	
2	糖類剤	脱水症，低血糖等	水・エネルギー補給			六炭糖	ブドウ糖	注－１ 注－２	注射薬 キット		糖液 メディジェクト	
		注射剤の溶解希釈剤				六炭糖	ブドウ糖(5%)	注－２	キット		糖液ｷｯﾄ5%	
		糖尿病等のエネルギー補給	水・エネルギー補給			六炭糖	果糖	注－１	注射薬		レボーゼ	
						二糖類	マルトース	注－１	注射薬		マルトス-10	
						五炭糖アルコール	キシリトール	注－１ 注－２	注射薬 キット		キリット/キシリット	

３２５　たん白アミノ酸・脂肪製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	たん白アミノ酸・脂肪製剤	低タンパク血症等におけるアミノ酸補給				アミノ酸	総合アミノ酸製剤	内－２	顆粒剤		ESポリタミン配合顆粒	
		低タンパク血症等における腎不全時のアミノ酸補給				アミノ酸	腎不全用アミノ酸製剤	内－２	顆粒剤		アミユー配合顆粒	
		未代償性肝硬変患者の低ｱﾙﾌﾞﾐﾝ血症改善				分岐鎖アミノ酸	イソロイシン/ロイシン/バリン	内－２ 内－３	顆粒剤 ゼリー		リーバクト配合顆粒 リーバクト配合経口ゼリー	
		栄養管理				経腸栄養剤	消化態	内－２	散剤		エレンタールP乳幼児用配合内用剤	
								内－２	散剤		エレンタール配合内用剤	
								内－３	液剤		ツインラインNF配合経腸	
							半消化態	内－３	液剤		エンシュア・リキッド	
								内－３ 内－３	半固形剤 液剤		ラコールNF配合経腸用半固形剤 ラコールNF配合経腸用液	
								内－３	液剤		エネーボ配合経腸用液	
							肝不全用成分栄養剤	内－２	散剤		アミノレバンEN配合散 ヘパンED配合内用剤	
2	たん白アミノ酸・脂肪製剤	慢性肝障害時における脳症の改善				アミノ酸	肝不全用アミノ酸製剤	注－１	注射薬		アミノレバン点滴静注 モリヘパミン点滴静注	
		低タンパク血症等における腎不全時のアミノ酸補給				アミノ酸	腎不全用アミノ酸製剤	注－１	注射薬		キドミン輸液 ネオアミユー輸液	
		低タンパク血症等におけるアミノ酸補給	配合剤			配合剤	小児用高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤	注－１	注射薬		プレアミン－P注射液	
							高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤	注－１	注射薬		モリプロンF輸液	
							総合アミノ酸製剤（ソルビトール加）	注－１	注射薬		ハイ・プレアミンS	
							総合アミノ酸製剤（ブドウ糖加）	注－１	注射薬		プラスアミノ輸液	
		低タンパク血症等におけるアミノ酸・電解質・水分の補給	配合剤			配合剤	アミノ酸/糖/電解質	注－１	注射薬		アミカリック輸液	
								注－２	キット		アミノフリード輸液	
							アミノ酸/糖/電解質/ﾋﾞﾀﾐﾝB1	注－２	キット		ビーフリード輸液 アミグランド輸液 パレセーフ輸液	
							アミノ酸/糖/電解質/水溶性ビタミン	注－２	キット		パレプラス輸液	
		経中心静脈栄養の場合のアミノ酸・電解質・水分・カロリー補給	配合剤			配合剤	アミノ酸/糖/電解質	注－２	キット		ピーエヌツイン1号輸液	
							アミノ酸/糖/電解質/ﾋﾞﾀﾐﾝ	注－２	キット		フルカリック1号輸液 ネオパレン1号輸液 エルネオパNF1号輸液	
								注－２	キット		ワンパル1号輸液	
								注－２	キット		ワンパル2号輸液	
		術前術後，急・慢性消化器疾患等における栄養補給	熱量・必須脂肪酸補給			ダイズ脂肪	ダイズ油注射液	注－１	注射薬		イントラリピッド輸液 イントラリポス輸液	

３２７　特殊ミルク製剤

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	特殊ミルク製剤	フェニルケトン尿症					フェニルアラニン除去ミルク	内－２	末剤		フェニルアラニン除去ミルク	
		メープルシロップ尿症					ロイシン・イソロイシン・バリン除去ミルク	内－２	末剤		ロイシン・イソロイシン・バリン除去ミルク	

３３１　血液代用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	血液代用剤	注射剤の溶解希釈/細胞外液の欠乏					生理食塩液	注－1	注射薬		生食注	
								注－2	キット		生食注TN	
		細胞外液の補給					リンゲル液	注－1	注射薬		リンゲル液	
		細胞外液の補給/代謝性ｱｼﾄﾞｰｼｽ補正					乳酸リンゲル液	注－1	注射薬		ラクテック	
						ブドウ糖加	乳酸リンゲル液	注－1	注射薬		ラクテックD	
						ソルビトール加	乳酸リンゲル液	注－1	注射薬		ラクテックG	
						マルトース加	乳酸リンゲル液	注－1	注射薬		ラクトリンゲルM	
							酢酸リンゲル液	注－1	注射薬		ｳﾞｨｰﾝF	
						ブドウ糖加	酢酸リンゲル液	注－1	注射薬		ｳﾞｨｰﾝD	
		血漿増量	血漿増量作用/末梢血管血流改善作用	粘稠度低下作用		デキストラン製剤	デキストラン40/乳酸リンゲル	注－1	注射薬		低分子デキストランL注、サヴィオゾール	
							デキストラン40/ブドウ糖	注－1	注射薬		低分子デキストラン糖注	
				粘稠度低下作用/浸透圧維持作用			ﾋﾄﾞﾛｷｼｴﾁﾙﾃﾞﾝﾌﾟﾝ70000	注－1	注射薬		サリンヘス、ヘスパンダー	
							ﾋﾄﾞﾛｷｼｴﾁﾙﾃﾞﾝﾌﾟﾝ130000	注－1	注射薬		ボルベン輸液	
		水分/電解質の補給					開始液	注－1	注射薬		KN補液1A，1B	
							脱水補充液	注－1	注射薬		KN補液2A，2B	
						低濃度糖	維持液	注－1	注射薬		KN補液3A，3B	
						高濃度糖	維持液	注－1	注射薬		KN補液MG3	
							維持液（複合糖加）	注－1	注射薬		トリフリード	
						電解質高張	維持液	注－1	注射薬		ソリタックスーH	
							術後回復液	注－1	注射薬		KN補液4A，4B	
							電解質キシリトール輸液	注－1	注射薬		クリニザルツB，S	

３３２　止血剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	止血剤	出血傾向・出血	止血作用	毛細管抵抗増強作用	血管透過性抑制作用		カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム	内－１ 内－２ 内－２	錠剤 散剤 細粒		アドナ	
							アドレノクロムグアニルヒドラゾンメシル酸塩	内－１	錠剤		S・アドクノン	
			配合剤（止血作用）			配合剤	カルバゾクロム/アスコルビン酸	内－１	錠剤		オフタルムK	
			止血作用	抗プラスミン作用			トラネキサム酸	内－１ 内－１ 内－２ 内－２ 内－３ 内－４	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 散剤 細粒剤 シロップ シロップ		トランサミン	
		上部消化管出血	止血作用	トロンビン作用			トロンビン	内－２	細粒剤		トロンビン	
2	止血剤	出血傾向/出血	止血作用	毛細管抵抗増強作用	血管透過性抑制作用		カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム	注－１	注射薬		アドナ	
				抗プラスミン作用			トラネキサム酸	注－１ 注－２	注射薬 キット		トランサミン 10%トランサボン注 シリンジ	
				トロンビン様作用		酵素	ヘモコアグラーゼ	注－１	注射薬		レプチラーゼS	
		ヘパリン過量投与時の中和	ヘパリン拮抗作用	ヘパリン拮抗作用		強塩基性ポリペプチド	プロタミン硫酸塩	注－１	注射薬		硫酸プロタミン	
		食道静脈瘤		血管内皮細胞障害作用			モノエタノールアミンオレイン酸塩	注－１	注射薬		オルダミン	
		一次性下肢静脈瘤（伏在静脈瘤の本幹を除く）硬化退縮	止血作用	血管内皮細胞障害作用/組織繊維化作用			ポリドカノール	注－１	注射薬		ポリドカスクレロール	
3	止血剤	出血	止血作用	トロンビン作用			トロンビン	外－１ 外－９	ﾊﾟｳﾀﾞｰ剤 キット		トロンビン トロンビン液モチダソフトボトル	
				出血部位被覆作用、血小板機能亢進作用、フィブリン形成促進作用、赤血球凝集作用		アルギン酸系	アルギン酸ナトリウム	外－１	ﾊﾟｳﾀﾞｰ剤		アルト	
		止血、創腔充填	止血作用	凝結塊形成作用		セルロース系	酸化セルロース	外－５	貼付剤		オキシセル/サージセル	
		止血、褥瘡潰瘍	止血/癒着防止作用				ゼラチン	外－５	貼付剤		スポンゼル、ゼルフォーム	

３３３・３３９　血液凝固・血小板凝集阻止剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	血液凝固・血小板凝集阻止剤	血栓塞栓症	血液凝固阻止作用	抗ビタミンK作用		クマリン系	ワルファリンカリウム	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤		ワーファリン	
		非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	血液凝固阻止作用	直接トロンビン阻害作用			ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		プラザキサ	
			血液凝固阻止作用	第Ｘa因子阻害作用			リバーロキサバン	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		イグザレルト錠 イグザレルト細粒分包	
							アピキサバン	内－1	錠剤		エリキュース錠	
		下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制					エドキサバントシル酸塩水和物	内－1	錠剤		リクシアナ錠	
		慢性動脈閉塞症に伴う虚血性諸症状の改善/心臓弁置換後の血栓・塞栓の抑制	血小板凝集抑制作用	ADP受容体拮抗作用			チクロピジン塩酸塩	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		パナルジン錠 パナルジン細粒	
		虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症を除く）後の再発抑制					クロピドグレル硫酸塩	内－1	錠剤		プラビックス錠	
		経皮的冠動脈形成術が適用される虚血性心疾患					プラスグレル塩酸塩	内－1	錠剤		エフィエント錠	
								内－1	錠剤		エフィエントOD錠	
							チカグレロル	内－1	錠剤		ブリリンタ錠	
		慢性動脈閉塞症に伴う虚血性諸症状の改善/心臓弁置換後の血栓・塞栓の抑制		ﾌﾟﾛｽﾀｸﾞﾗﾝｼﾞﾝI2放出促進・増強作用			ジピリダモール	内－1 内－1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		ペルサンチン錠 ペルサンチン-Lカプセル	
			血小板凝集抑制作用/血管拡張作用	ｱﾃﾞﾆﾙｼｸﾗｰｾﾞ増加作用		PGI2誘導体	ベラプロストナトリウム	内－1	錠剤		ドルナー錠 プロサイリン錠	
						PGE1誘導体	リマプロストアルファデクス	内－1	錠剤		オパルモン錠 プロレナール錠	
				EPA含量増加作用		EPA	イコサペント酸エチル	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		エパデールS	
				5HT2受容体拮抗作用			サルポグレラート塩酸塩	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		アンプラーグ錠 アンプラーグ細粒	
				ﾎｽﾎｼﾞｴｽﾃﾗｰｾﾞ阻害作用			シロスタゾール	内－1 内－2 内－3	錠剤 散剤 ゼリー		プレタール	
		狭心症等の血栓形成抑制	血小板凝集抑制作用	トロンボキサンA2産生抑制作用	ｼｸﾛｵｷｼｹﾞﾅｰｾﾞ阻害作用		アスピリン	内－1	錠剤		バイアスピリン錠	
			配合剤（血小板凝集抑制作用）			配合剤	アスピリン/ダイアルミネート	内－1	錠剤		バファリン配合錠A81	
		経皮的冠動脈形成術が適用される虚血性心疾患	配合剤（血小板凝集抑制作用／血小板凝集抑制作用）	トロンボキサンA2産生抑制作用／ADP受容体拮抗作用		配合剤	アスピリン／クロピドグレル硫酸塩	内－1	錠剤		コンプラビン配合錠	
		経皮的冠動脈形成術が適用される虚血性心疾患（胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往がある患者に限る）	配合剤（血小板凝集抑制作用／胃酸分泌抑制作用）	トロンボキサンA2産生抑制作用／プロトンポンプ阻害作用		配合剤	アスピリン／ランソプラゾール	内－1	錠剤		タケルダ配合錠	
		待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善	トロンボポエチン受容体刺激作用				ルストロンボパグ	内－1	錠剤		ムルプレタ錠	

2	血液凝固・血小板凝集阻止剤	採取血液の凝固防止	血液凝固阻止作用	血液凝固第Ⅳ因子(カルシウムイオン)捕捉作用		オキシカルボン酸系	輸血用クエン酸ナトリウム	注－1	注射薬		チトラミン	
		汎発性血管内血液凝固症(DIC)		血液凝固因子活性阻害作用/アンチトロンビンⅢ結合作	非選択的Ｘa及びトロンビン阻害	未分画ヘパリン	ヘパリンカルシウム	注－1 注－2	注射薬 キット		ヘパリン	
							ヘパリンナトリウム	注－1	注射薬		ノボ・ヘパリン	
					選択的Ｘa阻害	低分子ヘパリン	ダナパロイドナトリウム	注－1	注射薬		オルガラン	
				トロンビン活性阻害作用、プロテインC活性化作用	アンチトロンビンⅢ非依存性血液凝固阻止作用	糖蛋白質	トロンボモデュリン　アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		リコモジュリン	
		下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制		アンチトロンビンⅢ結合作用	選択的Ｘa阻害		フォンダパリヌクスナトリウム	注－1	注射薬		アリクストラ	
						低分子ヘパリン	エノキサパリンナトリウム	注－2	キット		クレキサン皮下注キット	
		血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析）				低分子ヘパリン	ダルテパリンナトリウム	注－1 注－2	注射薬 キット		フラグミン ダルテパリンNaシリンジ5000「HK」	
							パルナパリンナトリウム	注－1 注－2	注射薬 キット		ローヘパ ローヘパ注シリンジ	
							レビパリンナトリウム	注－1	注射薬		クリパリン/ローモリン	

３３９　その他の血液・体液用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の血液・体液用薬	放射線による白血球減少症	白血球増加作用	白血球減少抑制作用			アデニン	内－1	錠剤		ロイコン	
			造血機能回復効果	血液幹細胞増加作用			セファランチン	内－1 内－2	錠剤 末剤		セファランチン	
2	その他の血液・体液用薬	骨髄移植後の顆粒球数増進	顆粒球・単球増加作用	G-CSF/M-CSF作用			ミリモスチム	注－1	注射薬		ロイコプロール	
		放射線・抗がん剤投与等による白血球減少症	白血球増加作用	CSFの内因的な誘導促進作用			結核菌熱水抽出物	注－1	注射薬		アンサー	
				白血球減少抑制作用			アデニン	注－1	注射薬		ロイコン	
			造血機能回復作用	血液幹細胞増加作用			セファランチン	注－1	注射薬 +L2		セファランチン	
		抗がん剤投与等による好中球減少症	好中球増加作用	G-CSF作用		G-CSF	フィルグラスチム（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		グラン	
							レノグラスチム（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ノイトロジン	
							ナルトグラスチム（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ノイアップ	
						ペグ化G-CSF	ペグフィルグラスチム（遺伝子組換え）	注－2	キット		ジーラスタ皮下注	
		自家末梢血幹細胞移植のための造血幹細胞の末梢血中への動員促進	CXCケモカイン受容体4拮抗作用				プレリキサホル	注－1	注射薬		モゾビル皮下注	
		腎性貧血（透析施行中等を含む）	赤血球増加作用	造血前駆細胞に対するコロニー形成亢進作用		ヒトエリスロポエチン	エポエチンアルファ（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		エスポー	
							エポエチン　ベータ（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		エポジン	
							ダルベポエチン　アルファ（遺伝子組換え）	注－2	キット		ネスプ注射液プラシリンジ	
							エポエチン　ベータ　ペゴル（遺伝子組換え）	注－2	キット		ミルセラ注シリンジ	
		穿頭・開頭手術時の洗浄、脊髄疾患手術時の洗浄及び神経内視鏡手術時の灌流	配合剤			配合剤	ブドウ糖・塩化ナトリウム・塩化カリウム・塩化マグネシウム・塩化カルシウム水和物・リン酸二水素カリウム・炭酸水素ナトリウム	注－2	キット		アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液	
		ダビガトランの抗凝固作用の中和	血液凝固阻止剤の中和作用	ダビガトランの中和作用			イダルシズマブ（遺伝子組換	注－1	注射薬		プリズバインド	

３４１　人工腎臓用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	人工腎臓用剤	急性・慢性腎不全	透析原理による血液浄化	重炭酸による体液の酸塩基平衡の是正		Ca通常濃度		注－1	透析ろ過用剤		キンダリー液AF－1号	
								注－1	透析ろ過用剤		AK－ソリタ・C	
					ブドウ糖添加による透析液の浸透圧上昇	Ca通常濃度		注－1	透析ろ過用剤		キンダリー液AF－2号	
								注－1	透析ろ過用剤		キンダリー液AF－2P号	
								注－1	透析ろ過用剤		キンダリー2D号	
						Ca低濃度		注－1	透析ろ過用剤		AK－ソリタ・FL	
								注－1	透析ろ過用剤		AK－ソリタ・FP	
								注－1	透析ろ過用剤		キンダリー3D号	
								注－1	透析ろ過用剤		Dドライ透析剤2.75S	
				酢酸による体液の酸塩基平衡の是正				注－1	透析ろ過用剤		AK－ソリタ・M	
					ブドウ糖添加による透析液の浸透圧上昇			注－1	透析ろ過用剤		AK－ソリタ	
								注－1	透析ろ過用剤		キンダリー液2号	
								注－1	透析ろ過用剤		AK－ソリタ・B	
			ろ過と液補充による血液浄化	重炭酸による体液の酸塩基平衡の是正/血清電解質濃度の是正				注－1	透析ろ過用剤		バイフィルーS、バイフィル専用炭酸水素ナトリウム補充液、バイフィル専用炭酸水素ナトリウム補充液	
				血清電解質濃度の是正				注－1	透析ろ過用剤		HF－ソリタ、サブラッドA	
				重炭酸による体液の酸塩基平衡の是正				注－1	透析ろ過用剤		サブラッドB	

３４２　腹膜透析用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	腹膜透析用剤	急性・慢性腎不全	ブドウ糖低濃度	Ca通常濃度	Mg通常濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ダイアニール１．５	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート360	
					Mg低濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル15A	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル15A	
				Ca低濃度	Mg通常濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート360LCa	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート360LCa	
					Mg低濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル15B	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル15B	
			ブドウ糖中濃度	Ca通常濃度	Mg通常濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ダイアニール２．５	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート400	
					Mg低濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル25A	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル25A	
				Ca低濃度	Mg通常濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート400LCa	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート400LCa	
					Mg低濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル25B	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ガンブロソル25B	
			ブドウ糖高濃度	Ca通常濃度	Mg通常濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ダイアニール４．25	
								注－1	透析ろ過用		ペリソリタG	
				Ca低濃度	Mg通常濃度	排尿用ﾊﾞｯｸﾞなし		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート460LCa	
						排尿用ﾊﾞｯｸﾞ付き		注－1	透析ろ過用剤		ペリセート460LCa	
		慢性腎不全	膠質浸透圧物質による浸透圧			排液用ﾊﾞｯｸﾞなし	ｲｺﾃﾞｷｽﾄﾘﾝ配合剤	注－1	透析ろ過用剤		エクストラニール	
						排液用ﾊﾞｯｸﾞ付き	ｲｺﾃﾞｷｽﾄﾘﾝ配合剤	注－1	透析ろ過用剤		エクストラニール	

391 肝臓疾患用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	肝臓疾患用剤	高ビリルビン血症（閉塞性黄疸を除く）における肝機能の改善	虚血、低酸素条件下で肝機能恒常性維持作用				アミノエチルスルホン酸	内－2	散剤	1日3回	タウリン散「大正」	
		慢性肝疾患における肝機能の改善	代謝改善、重金属解毒作用	チオール基による代謝障害阻止作用／肝臓保護作用／抗アレルギー作用			チオプロニン	内－1	錠剤	1日3回	チオラ錠100	
			細胞の代謝反応促進作用				プロトポルフィリンニナトリウム	内－1	錠剤	1日3回		
			肝解毒機能増強作用／抗脂肝作用／肝細胞再生促進作用				ジクロロ酢酸ジイソプロピルアミン散	内－1 内－2	錠剤 散剤	1日2～3回 1日2～3回	リバオール リバオール	
			細胞内酵素活性維持作用／細胞内脂質異常改善作用／血中タンパク分画改善作用				ポリエンホスファチジルコリン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	EPL	
			肝実質細胞保護作用／肝実質再生促進作用				肝臓加水分解物	内－1	錠剤	1日3回	レナルチン腸溶錠	
		代償性肝硬変における肝機能の改善	肝タンパク代謝改善作用	蛋白合成・蛋白代謝改善による肝機能賦活作用／肝繊維化進展抑制作用			マロチラート	内－1	錠剤	1日3回	カンテック錠	
		HBe抗原陽性B型慢性肝炎におけるウイルスマーカーの改善	免疫賦活作用	ウィルス感染細胞破壊作用／抗体産生能増強による抗原排除促進作用			プロパゲルマニウム	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	セロシオン	
		高アンモニア血症	血中アンモニア低下作用	腸管内pH低下作用／アンモニア生成吸収抑制作用			ラクツロース	内－2 内－3 内－3	散剤 シロップ剤 ゼリー	1日3回 1日3回 1日3回	ラクツロース・末「日研」 ラクツロース・シラップ「日研」 カロリールゼリー	
							ラクチトール水和物	内－2	末剤	1日3回	ポルトラック	
			配合剤（血中アンモニア増加抑制作用）	血中アンモニア濃度調整作用		配合剤	L－アルギニン／L-アルギニン塩酸塩	内－2	顆粒剤	1日3～6回	アルギU顆粒	
		尿素サイクル異常症	血中アンモニア増加抑制作用	血中アンモニア濃度調整作用			フェニル酪酸ナトリウム	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤	1日3～6回 1日3～6回	ブフェニール錠 ブフェニール顆粒	
		N-アセチルグルタミン酸合成酵素欠損症、イソ吉草酸血症、メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症による高アンモニア血症	カルバモイルリン酸合成酵素Ⅰ活性化作用	血中アンモニア濃度調整作用			カルグルミン酸	内－1	錠剤	1日2～4回	カーバグル分散錠	
		肝性脳症における高アンモニア血症の改善	核酸（RNA）合成阻害作用				リファキシミン	内－1	錠剤	1日3回	リフキシマ錠	
2	肝臓疾患用剤	小児ストロフルス，湿疹・皮膚炎，蕁麻疹，皮膚そう痒症，口内炎，フリクテン，薬疹・中毒疹。慢性肝疾患における肝機能異常の改善	配合剤（抗炎症作用／解毒作用／抗ウィルス作用＋偽アルドステロン症抑制作用）			配合剤	グリチルリチン／グリシン／システイン	注－1 注－2	注射薬 キット	1日1回静注 1日1回静注	強力ネオミノファーゲンシー	
		高アンモニア血症	血中アンモニア低下作用	肝アルギナーゼ活性化作用			グルタミン酸アルギニン	注－1	注射薬	1日1～数回点滴静注	アルギメート	
			血中アンモニア増加抑制作用	血中アンモニア代謝促進作用			塩酸L－アルギニン	注－1	注射薬	1時間以上かけて点滴静注	アルギU注	
		慢性肝疾患における肝機能の改善	肝再生（肝細胞増殖）促進作用／抗脂肝作用				胎盤加水分解物	注－1	注射薬	1日1回皮下又は筋注	ラエンネック	
			細胞成分の保護、活性化作用	酸化還元反応への関与		還元型グルタチオン	グルタチオン	注－1	注射薬	1日1回筋注又は静注	グルタチオン	
			配合剤（蛋白質合成促進作用＋肝組織血流増加作用＋生体内代謝亢進作用）			配合剤	肝臓エキス／フラビンアデニンジヌクレオチド	注－1	注射薬	1日1～2回皮下、筋又は静注	アデラビン	

392 解毒剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	解毒剤	鉛中毒	鉛中毒解毒作用	鉛イオンとキレート形成			エデト酸カルシウムニナトリウム	内ー1	錠剤	1日2～3回	ブライアン錠	
		薬物中毒、アセトン血性嘔吐症（自家中毒、周期性嘔吐症）、金属中毒、妊娠悪阻、晩期妊娠中毒	薬物中毒解毒作用	助酵素的応、メルカプツール酸の生成／その他の解毒機構への関与／SH酵素・その他の細胞成分の保護活性化／酸化還元反応への関与		還元型グルタチオン	グルタチオン	内ー1 内ー2	錠剤 散剤	1日1～3回 1日1～3回	タチオン タチオン	
		薬物中毒（アセトアミノフェン過量摂取時の解毒）	薬物中毒解毒作用			グルタチオン前駆体	アセチルシステイン	内ー3	液剤	初回に140mg/kg、その後4時間毎に70mg/kgを17回、経口もしくは経胃又は経十二指腸投与	アセチルシステイン内用液17．6%「あゆみ」	
		ウイルソン病(肝レンズ核変性症）	重金属解毒作用	血清銅と可溶性キレート形成による尿排泄促進作用			D－ペニシラミン	内ー1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1～数回	メタルカプターゼ	
							トリエンチン塩酸塩	内ー1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日2～4回（ペニシラミンに不耐性の場合）	メタライト	
				銅吸収阻害作用			酢酸亜鉛水和物	内ー1	錠剤	1日3回	ノベルジン錠	
		輸血による慢性鉄過剰症（注射用鉄キレートが不適当な場合）	鉄排泄作用				デフェラシロクス	内ー1 内ー2	錠剤 顆粒剤	1日1回 1日1回	エクジェイド懸濁用錠 ジャドニュ顆粒	
		慢性腎不全（進行性）における尿毒症症状の改善および透析導入の遅	腎不全病態悪化抑制作用	消化管内での尿毒症毒素吸着・排泄作用		多孔質炭素	球形吸着炭	内ー1 内ー2	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤 細粒剤	1日3回 1日3回 1日3回	クレメジン	
		自家中毒・薬物中毒における吸着及び解毒	自家中毒・薬物中毒解毒作用				薬用炭	内ー2	末剤	1日数回	薬用炭	
		葉酸代謝拮抗剤の毒性軽減	抗葉酸代謝拮抗剤	核酸合成再開作用			ホリナートカルシウム	内ー1	錠剤	1日4回（6時間間隔）	ロイコボリン	
		ﾎﾘﾅｰﾄ・ﾃｶﾞﾌｰﾙ・ｳﾗｼﾙ療法;結腸・直腸癌に対するﾃｶﾞﾌｰﾙ・ｳﾗｼﾙの抗腫瘍効果の増強	抗腫瘍効果増強作用	チミジル酸合成酵素の解離遅延作用	還元物（5,10-メチレンテトラヒドロ葉酸）がFdUMPとチミジル酸合成酵素と三元複合体を形成		ホリナートカルシウム	内ー1	錠剤	1日3回	ユーゼル錠25mg	

2	解毒剤	薬物中毒、アセトン血性嘔吐症（自家中毒、周期性嘔吐症）、慢性肝疾患における肝機能の改善	薬物中毒解毒作用	助酵素的応、メルカプツール酸の生成／その他の解毒機構への関与／チオール酵素（SH酵素）・その他の細胞成分の保護活性化／酸化還元反応に関与		還元型グルタチオン	グルタチオン	注－1	注射薬	1日1回筋注及び静注	グルタチン注射用	
		薬物中毒の際の排泄促進（ただし、pHの上昇により尿中排泄の促進される薬物に限る）	薬物中毒解毒作用	制酸作用／中和作用			炭酸水素ナトリウム	注－1 注－2	注射薬キット	1日1回静注	重ソー注	
		ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物との包接体の形成				スガマデクスナトリウム	注－1	注射薬	1日1回静注	ブリディオン静注	
		ヒ素、水銀、鉛、銅、金、ビスマス、クロム、アンチモンの中毒	重金属解毒解毒作用	体内チオール基系酵素と金属イオンとの結合阻害作用／重金属と結合し可溶性キレート形成による体外排泄作用			ジメルカプロール	注－1	注射薬	1日目は6時間間隔で4回、2日目以降は1日1回筋注	バル筋注	
		鉛中毒	鉛解毒作用	金属イオンとキレート形成			エデト酸カルシウムニナトリウム	注－1	注射薬	最初の5日間点滴静注	ブライアン点滴静注	
		シアンおよびシアン化合物による中毒、ヒ素剤による中毒	解毒作用	ミトコンドリア内の酵素、ロダナーゼにより、シアンと反応し、チオシアン酸塩を生成			チオ硫酸ナトリウム	注－1	注射薬	静注	デトキソール	
		シアン及びシアン化合物による中毒		水酸イオンとシアンイオンの置換によるシアノコバラミンの形成・尿中排泄作用			ヒドロキソコバラミン	注－1	注射薬	静注	シアノキット	
		エチレングリコール中毒、メタノール中毒	毒性代謝物生成抑制作用	肝臓アルコールデヒドロゲナーゼ阻害作用			ホメピゾール	注－1	注射薬	12時間毎に点滴静注	ホメピゾール点滴静注	
		中毒性メトヘモグロビン血症	メトヘモグロビン還元作用				メチルチオニニウム塩化物水和物	注－1	注射薬	5分以上かけて静脈内投与	メチレンブルー静注	
		有機リン剤の解毒	有機リン剤中毒解毒作用				ヨウ化プラリドキシム	注－1	注射薬	静注	パム静注	
		原発性及び続発性ヘモクロマトーシスにおける鉄排泄増加	鉄排泄作用	生体内で貯蔵鉄と特異的に結合し、キレート化合物ferrioxamineBを形成し腎より排泄			メシル酸デフェロキサミン	注－1	注射薬	1日1～2回で、筋注	デスフェラール注射用	
		イホスファミド投与による泌尿器系障害発現抑制	イホスファミド尿中代謝物の膀胱への接触抑制				メスナ	注－1	注射薬	1日3回静注	ウロミテキサン注	
		葉酸代謝拮抗薬の毒性軽減	抗葉酸代謝拮抗剤	核酸合成再開作用			ホリナートカルシウム	注－1	注射薬	1日4回（6時間間隔）	ロイコボリン注	
		レボホリナート、フルオロウラシル療法；胃がん（手術不能又は再発）および結腸、直腸がんに対するフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強	抗腫瘍効果増強作用	チミジル酸合成酵素の解離遅延作用	還元物（5.10-メチレンテトラヒドロ葉酸）がFdUMPとチミジル酸合成酵素と三元複合体を形成		レボホリナートカルシウム	注－1	注射薬	静注、1週間ごとに6回繰り返した後、2週間休薬	アイソボリン点滴静注用	
		チオクト酸の重要が増大した際の補給（激しい肉体労働時）、Leigh症候群（亜急性壊死脳脊髄炎）	代謝性薬物中毒解毒作用	生体内エネルギー産生亢進作用	TCAサイクルの代謝活性亢進		チオクト酸	注－1	注射薬	1日1回10～25mg、静注、筋注又は皮下注	チオトミン注	
		アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出	トポイソメラーゼⅡ阻害作用				デクスラゾキサン	注－1	注射薬	血管外漏出後6時間以内。3日間連続投与。	サビーン点滴静注用	

393 習慣性中毒用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	商品名	線引き
1	習慣性中毒用剤	慢性アルコール中毒者及び過飲酒者に対する抗酒療法	抗酒作用	飲酒時の血中アルデヒド濃度を上昇	アルデヒド脱水酵素阻害		シアナミド	内－３	液剤	１日１～２回	シアナマイド液－Wf	
							ジスルフィラム	内－２	末剤	１日１～３	ノックビン	

394 痛風治療剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	痛風治療剤	痛風発作の緩解及び予防	痛風発作緩解作用	白血球の尿酸貪食作用／貪食好中球の脱顆粒阻止による白血球メーバ様運動抑制作用			コルヒチン	内－1	錠剤	1日6～8回	コルヒチン錠	
		痛風	血中尿酸値抑制作用	尿酸排泄促進作用	尿酸の尿細管再吸収抑制作用	安息香酸誘導体	プロベネシド	内－1	錠剤	1日2～4回	ベネシッド錠	
		痛風、高尿酸血症を伴う高血圧症の場合における高尿酸血症の改善					ベンズブロマロン	内－1	錠剤	1日1～3回	ユリノーム錠	
				尿酸生合成の抑制	キサンチンオキシダーゼ阻害作用（還元型）		アロプリノール	内－1	錠剤	1日2～3回	ザイロリック錠	
		痛風・高尿酸血症			キサンチンオキシダーゼ阻害作用（酸化型、還元型）		フェブキソスタット	内－1	錠剤	1日1回	フェブリク錠	
							トピロキソスタット	内－1	錠剤	1日2回	トピロリック錠 ウリアデック錠	
		痛風並びに高尿酸血症における酸性尿の改善、アシドーシス	配合剤（代謝産物の重炭酸塩が生体において塩基として作用することによる酸性尿、アシドーシス改善作用）			配合剤	クエン酸カリウム／クエン酸ナトリウム	内－1 内－2	錠剤 散剤	酸性尿：1日3回、アシドーシス：1日3～4回	ウラリット配合錠 ウラリットーU配合散	

395 酵素製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	酵素製剤	脳血栓症、末梢動、静脈閉塞症	血栓溶解作用				ウロキナーゼ	注ー1	注射薬	用時静注／点滴静注／冠動注	ウロナーゼ静注用	
		急性心筋梗塞における冠動脈血栓の溶解					モンテプラーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	静注	クリアクター注	
							アルテプラーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	静注	アクチバシン注	
		ゴーシェ病の諸症状（貧血、血小板減少症、肝脾腫及び骨症状）の改善	グルコセレブロシダーゼ作用				イミグルセラーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	セレザイム注200U	
							ベラグルセラーゼ　アルファ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	ビプリブ点滴静注用	
		ファブリー病	ガラクトシダーゼ作用				アガルシダーゼ ベータ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	ファブラザイム点滴静注用5mg	
							アガルシダーゼ アルファ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	リプレガル点滴静注用	
		ムコ多糖症Ⅰ型	α-L-イズロニダーゼ作用				ラロニダーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	アウドラザイム点滴静注液	
		ムコ多糖症Ⅱ型	イズロン酸-2-スルファターゼ作用				イデュルスルファーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	エラプレース点滴静注液	
		ムコ多糖症ⅣA型	N-アセチルガラクトサミン-6-スルファターゼ作用				エロスルファーゼ　アルファ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	ビミジム点滴静注液	
		ムコ多糖症Ⅵ型	アリルスルファターゼB作用				ガルスルファーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	ナグラザイム点滴静注液	
		糖原性Ⅱ型	酸性α-グルコシダーゼ作用				アルグルコシダーゼ　アルファ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	マイオザイム点滴静注用	
		低ホスファターゼ症	組織非特異型アルカリホスファターゼ作用				アスホターゼ　アルファ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	皮下注	ストレンジック皮下注	
		ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症（コレステロールエステル蓄積症、ウォルマン病）	ライソゾーム酸性リパーゼ作用				セベリパーゼ　アルファ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	カヌマ点滴静注液	
		慢性動脈閉塞症（バージャー病、閉塞性動脈硬化症）の虚血性諸症状の改善、振動病における末梢循環障害の改善、突発性難聴における聴力の回復と自覚症状の改善	末梢循環改善作用	フィブリノゲン低下作用作用／フィブリノーゲン/フィブリン分解産物(FDP)の増加 ／ ユーグロブリン溶解時間短縮作用 ／プラスミノゲン量及びα２ープラスミンインヒビターの減少作用 等			バトロキソビン	注ー1	注射薬	点滴静注	デフィブラーゼ	
		がん化学療法に伴う高尿酸血症	尿酸直接分解作用				ラスブリカーゼ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬	点滴静注	ラスリテック点滴静注用	

396 糖尿病用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	糖尿病用薬	インスリン非依存型糖尿病（2型糖尿病）	膵β細胞刺激によるインスリン分泌促進作用			スルホニルウレア	アセトヘキサミド	内－1	錠剤	1日1回又は2回	ジメリン錠	
							クロルプロパミド	内－1	錠剤	1日1回	アベマイド錠	
							グリクロピラミド	内－1	錠剤	1日1回	デアメリンS錠	
							トルブタミド	内－1 内－2	錠剤 散剤	1日1回又は2回 1日1回又は2回	ヘキストラスチノン錠 ヘキストラスチノン散	
							グリベンクラミド	内－1	錠剤	1日1回又は2回	オイグルコン錠 ダオニール錠	
							グリクラジド	内－1	錠剤	1日1回又は2回	グリミクロン錠	
							グリメピリド	内－1	錠剤	1日1～2回	アマリール錠	
			膵β細胞刺激によるインスリン分泌促進作用（短時間速			フェニルアラニン誘導体	ナテグリニド	内－1	錠剤	1日3回	スターシス錠 ファスティック錠	
						ベンジルコハク酸誘導体	ミチグリニドカルシウム水和物	内－1	錠剤	1日3回	グルファスト錠	
						安息香酸誘導体	レパグリニド	内－1	錠剤	1日3回	シュアポスト錠	
			インスリン抵抗性改善作用	細胞内インスリン情報伝達機構正常化作用／末梢（骨格筋、脂肪組織）での糖代謝増強作用		チアゾリジン誘導体	ピオグリタゾン塩酸塩	内－1	錠剤	1日1回	アクトス錠	
				肝の糖新生抑制作用／腸管からのグルコース吸収抑制作用／末梢での糖利用促進作用		ビグアナイド	メトホルミン塩酸塩	内－1	錠剤	1日2～3回	グリコラン錠 メトグルコ錠	
							ブホルミン塩酸塩	内－1	錠剤	1日2～3回	ジベトス錠	
			ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用	インクレチン分解抑制作用			シタグリプチンリン酸塩水和物	内－1	錠剤	1日1回	ジャヌビア錠 グラクティブ錠	
							アログリプチン安息香酸塩	内－1	錠剤	1日1回	ネシーナ錠	
							ビルダグリプチン	内－1	錠剤	1日2回	エクア錠	
							リナグリプチン	内－1	錠剤	1日1回	トラゼンタ錠	
							テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物	内－1	錠剤	1日1回	テネリア錠	
							アナグリプチン	内－1	錠剤	1日2回	スイニー錠	
							サキサグリプチン水和物	内－1	錠剤	1日1回	オングリザ錠	
							トレラグリプチンコハク酸塩	内－1	錠剤	1週間に1回	ザファテック錠	
							オマリグリプチン	内－1	錠剤	1週間に1回	マリゼブ錠	
			SGLT2阻害作用				イプラグリフロジンL-プロリン	内－1	錠剤	1日1回	スーグラ錠	
							トホグリフロジン水和物	内－1	錠剤	1日1回	デベルザ錠 アプルウェイ錠	
							ダパグリフロジンプロピレングリコール水	内－1	錠剤	1日1回	フォシーガ錠	
							ルセオグリフロジン水和物	内－1	錠剤	1日1回	ルセフィ錠	
							カナグリフロジン水和物	内－1	錠剤	1日1回	カナグル錠	
							エンパグリフロジン	内－1	錠剤	1日1回	ジャディアンス錠	

			配合剤（インスリン抵抗性改善作用）	細胞内インスリン情報伝達機構正常化作用／末梢（骨格筋、脂肪組織）での糖代謝増強作用＋肝の糖新生抑制作用／腸管からのグルコース吸収抑制作用／末梢での糖利用促進作用		配合剤	ピオグリタゾン塩酸塩／メトホルミン塩酸塩	内－1	錠剤	1日1回	メタクト配合錠LD,同HD	
			配合剤（インスリン抵抗性改善作用／膵β細胞刺激によるインスリン分泌促進作用）			配合剤	ピオグリタゾン塩酸塩／グリメピリド	内－1	錠剤	1日1回	ソニアス配合錠LD,同HD	
			配合剤（膵β細胞刺激によるインスリン分泌促進作用（短時間速効型）／αグルコシダーゼ阻害作用）			配合剤	ミチグリニドカルシウム水和物／ボグリボース	内－1	錠剤	1日3回	グルベス配合錠	
			配合剤（ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用／インスリン抵抗性改善作用）			配合剤	アログリプチン安息香酸塩／ピオグリタゾン塩酸塩	内－1	錠剤	1日1回	リオベル配合錠LD,同HD	
			配合剤（ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用／インスリン抵抗性改善作用）	インクレチン分解抑制作用＋肝の糖新生抑制作用／腸管からのグルコース吸収抑制作用／末梢での糖利用促進作用		配合剤	ビルダグリプチン/メトホルミン塩酸塩	内－1	錠剤	1日2回	エクメット配合錠LD,同HD	
							アログリプチン安息香酸塩／メトホルミン塩酸塩	内－1	錠剤	1日1回	イニシンク配合錠	
							アナグリプチン／メトホルミン塩酸塩	内－1	錠剤	1日2回	メトアナ配合錠LD,同HD	
			配合剤（ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用／SGLT2阻害作用）	インクレチン分解抑制作用		配合剤	テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物／カナグリフロジン水和物	内－1	錠剤	1日1回	カナリア配合錠	
							シタグリプチンリン酸塩水和物／イプラグリフロジン L-プロリン	内－1	錠剤	1日1回	スージャヌ配合錠	
							リナグリプチン／エンパグリフロジン	内－1	錠剤	1日1回	トラディアンス配合錠AP,同BP	
		糖尿病の食後過血糖	αグルコシダーゼ（腸管での二糖類から単糖類への分解酵素）阻害作用				アカルボース	内－1	錠剤	1日3回	グルコバイ	
							ボグリボース	内－1	錠剤	1日3回	ベイスン	
							ミグリトール	内－1	錠剤	1日3回	セイブル	
		糖尿病による末梢神経障害に伴う自覚症状	神経内ソルビトールの蓄積抑制作用	アルドース還元酵素阻害作用			エパルレスタット	内－1	錠剤	1日3回	キネダック錠	
			血漿内βエンドルフィン増加作用／サブスタチンP遊離抑制作用／神経細胞膜Na+電流抑制作用				メキシレチン塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	メキシチールカプセル	

2	糖尿病用薬	糖尿病（インスリン療法）	インスリン補充作用	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用		ポリペプチド（ヒトインスリン(遺伝子組換え)）	インスリン（遺伝子組換えヒトインスリン）	注-1 注-2	注射薬 キット	初期：1日3回食前皮下注 初期：1日3回食前皮下注	ヒューマリンR注 ヒューマカートRキット	
							中性インスリン（遺伝子組換えヒトインスリ	注-1	注射薬	初期：1日3回食前皮下注	ペンフィルR注	
							イソフェンインスリン水性懸濁液（遺伝子組換えヒトインスリ	注-1	注射薬	初期：1日1回朝食前30分以内皮下注	ヒューマリンN	
			配合(混合)剤（インスリン補充作用）	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用		配合(混合)剤	水溶性インスリン／イソフェンインスリン（遺伝子組換えヒトインスリン）	注-1	注射薬	初期：1日2回朝夕食前30分以内皮下注	ペンフィル30R	
			インスリン補充作用	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用		ポリペプチド（ヒトインスリンアナログ）	インスリン　リスプロ（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 キット	初期：1日3回食直前15分以内皮下注 初期：1日3回食直前15分以内皮下注	ヒューマログ注バイアル100単位/mL、ヒューマログ注カート、ヒューマログ注ミリオペン、ヒューマログ注ミリオペンHD ヒューマログ注キット	
							インスリン　アスパルト（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 キット	初期：1日3回食直前15分以内皮下注 初期：1日3回食直前15分以内皮下注	ノボラピッド注100単位/mL、ノボラピッド注150、ノボラピッド ノボラピッド注フレックスペン	
							インスリン　グルリジン（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 カート キット	1日3回食直前15分以内皮下注 1日3回食直前15分以内皮下注	アピドラ注 アピドラ注カート アピドラ注ソロスター	
							インスリン　グラルギン（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回朝食前又は就寝前皮下注 1日1回朝食前又は就寝前皮下注	ランタス注バイアル1000 ランタス注キット300	
								注-2	キット	1日1回皮下注	ランタスXR注ソロスター	
							インスリン　デテミル（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回食前又は就寝前皮下注	レベミル注 レベミル注フレックスペン　イノレット	
							インスリン　デグルデク（遺伝子組換え）	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回皮下注	トレシーバ注　ペンフィル トレシーバ注　フレックスタッチ	
			配合(混合)剤（インスリン補充作用）	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用		ポリペプチド（ヒトインスリンアナログ）配合（混合）剤	インスリン　リスプロ/中間型インスリン　リスプロ	注-1 注-2	注射薬 キット	初期：1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注 初期：1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ヒューマログミックス25注カート ヒューマログミックス25注キット	
								注-1	注射薬	初期：1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ヒューマログミックス50注カート	

								注-2	キット	初期：1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ヒューマログミックス50注キット	
							インスリン　アスパルト/中間型インスリンアスパルト	注-1	注射薬	初期：1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ノボラピッド30ミックス注	
								注-2	キット	初期：1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ノボラピッド30ミックス注　フレックスペン	
								注-2	キット	初期：1日2回朝食直前、夕食直前皮下注	ノボラピッド50ミックス注　フレックスペン	
								注-2	キット	初期：1日3回食直前皮下注	ノボラピッド70ミックス注　フレックスペン	
							インスリン　デグルデク（遺伝子組換え）/インスリン　アスパルト（遺伝子組換え）	注-1	注射薬	1日1回主たる食事の直前、又は1日2回朝食直前、夕食直前	ライゾデグ配合注ペンフィル	
								注-2	キット		ライゾデグ配合注フレックスタッチ	
		2型糖尿病	血糖低下作用	GLP-1受容体アゴニスト		GLP-1受容体アナログ	リラグルチド（遺伝子組換え）	注-2	キット	1回0.9mgを1日1回朝又は夕に皮下注	ビクトーザ皮下注	
							エキセナチド	注-2	キット	1回10μgを1日2回朝夕食前に皮下注	バイエッタ皮下注	
								注-2	キット	2mgを週に1回、皮下注射	ビデュリオン皮下注用	
							リキシセナチド	注-2	キット	1回20μgを1日1回朝食前に皮下注	リキスミア皮下注	
							デュラグルチド（遺伝子組換え）	注-2	キット	0.75mgを週に1回、皮下注射	トルリシティ皮下注アテオス	
		インスリン受容体異常症	血糖低下作用	ソマトメジンC受容体刺激作用		ポリペプチド（天然型ヒトソマトメジンC）	メカセルミン（遺伝子組換え）	注-1	注射薬	1回 0.1～0.4mg/kg皮下注	ソマゾン注射用	

244・247・248・311・398・399　骨代謝疾患用剤（カルシウム剤を除く）

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	骨代謝疾患用剤（ｶﾙｼｳﾑ剤除	骨粗鬆症／骨粗鬆症における骨量減少・疼痛	骨形成促進作用	蛋白同化ホルモン作用		ステロイド	メテノロン	内-1	錠剤	1日10～20mg、2～3回	プリモボラン	
			骨吸収抑制作用／骨形成促進作用	カルシトニン分泌促進作用		イソフラボン系	イプリフラボン	内-1	錠剤	1日3回	オステン	
			骨形成促進作用／骨吸収抑制作用	ビタミンD作用	骨代謝回転改善作用	活性型ビタミンD3	カルシトリオール	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日2回	ロカルトロール	
						活性型ビタミンD3誘導体	アルファカルシドール	内-1	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1回	アルファロール	
								内-2	散剤	1日1回	アルファロール	
								内-3	液剤	1日1回	アルファロール	
				ビタミンK作用	オステオカルシンγ-カルボキシグルタミン酸残基生成作用	ビタミンK2	メナテトレノン	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	グラケーカプセル15mg	
			骨吸収抑制作用	破骨細胞活性抑制作用		ビスホスホン酸塩	エチドロン酸二ナトリウム	内-1	錠剤	1日1回2週間投与後10～12週間休薬、周期的間歇投与	ダイドロネル錠200	
							アレンドロン酸ナトリウム水和物	内-1	錠剤	1日1回起床時	フォサマック錠5、ボナロン錠5mg	
								内-1	錠剤	1週間に1回起床時	フォサマック錠35mg、ボナロン錠35mg	
								内-3	ゼリー		ボナロンゼリー	
							リセドロン酸ナトリウム水和物	内-1	錠剤	1日1回起床時 1週間に1回起床時 月1回起床時	アクトネル錠2.5mg、ベネット錠2.5mg アクトネル錠17.5mg、ベネット錠17.5mg アクトネル錠75mg、ベネット錠75mg	
							ミノドロン酸水和物	内-1	錠剤	1日1回起床時 4週に1回起床時	リカルボン錠1mg、ボノテオ錠1mg リカルボン錠50mg、ボノテオ錠50mg	
							イバンドロン酸ナトリウム水和物	内-1	錠剤	月1回起床時	ボンビバ錠100mg	
		閉経後骨粗鬆症	骨吸収抑制作用	卵胞ホルモン作用		ステロイド	エストリオール	内-1	錠剤	1回1.0mg　1日2回	エストリール	
			配合剤（骨吸収抑制作用）	卵胞ホルモン補充作用/黄体ホルモン補充作用		配合剤	エストラジオール・レボノルゲストレル	内－1	錠剤	1日1錠	ウェールナラ配合錠	
			骨吸収抑制作用		選択的エストロゲン受容体モジュレーター	ベンゾチオフェン系	ラロキシフェン塩酸塩	内－1	錠剤	1日1回	エビスタ錠60mg	
							バゼドキシフェン酢酸塩	内－1	錠剤	1日1回	ビビアント錠20mg	
2	骨代謝疾患用剤（ｶﾙｼｳﾑ剤除	骨粗鬆症／骨粗鬆症における疼痛	骨形成促進作用	蛋白同化ホルモン作用		ステロイド	メテノロン	注-1	注射薬	1回100mg、1～2週間ごとに筋注	プリモボランデポー	
			配合剤（骨吸収抑制作用）	卵胞ホルモン作用+男性ホルモン作用		配合剤	エストラジオール吉草酸エステル／テストステロンエナント酸エステル	注-1	注射薬	2～4週ごとに1回1mL筋注	ダイホルモンデポー	
			骨吸収抑制作用／骨形成促進作用／血清Ca低下作用			カルシトニン誘導体	エルカトニン	注-1	注射薬	週2回筋注ほか	エルシトニン注10[疼痛改善]、エルシトニン注20S[骨粗鬆	
								注-2	キット	週2回筋注ほか	ラスカルトン10ディスポ	

			骨吸収抑制作用	破骨細胞活性抑制作用		ビスホスホン酸塩	アレンドロン酸ナトリウム水和物	注-1 注-2	注射薬 キット	4週に1回点滴静注	ボナロン点滴静注 ボナロン点滴静注バッグ	
							イバンドロン酸ナトリウム水和物	注-2	キット	1ヶ月に1回静注	ボンビバ静注シリンジ	
							ゾレドロン酸水和物	注-1	注射薬	1年に1回	リクラスト点滴静注液	
				破骨細胞活性抑制作用（RANK－RANKL結合阻害作用）			デノスマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット	6ヶ月に1回皮下投与	プラリア皮下注	
			骨形成促進作用／骨吸収抑制作用	スクレロスチン阻害作用			ロモソズマブ（遺伝子組換え）	注-1	注射薬	1ヶ月に1回皮下注	イベニティ皮下注シリンジ	
		悪性腫瘍による高Ca血症	血清Ca低下作用／骨吸収抑制作用	破骨細胞活性抑制作用		ビスホスホン酸塩	パミドロン酸二ナトリウム	注-1	注射薬	4時間以上かけて単回点滴静注	アレディア注	
							ゾレドロン酸水和物	注-1	注射薬	15分以上かけて点滴静脈内投与	ゾメタ注射液4mg	
			血清Ca低下作用／骨吸収抑制作用／骨形成促進作用			カルシトニン誘導体	エルカトニン	注-1	注射薬	週2回筋注ほか	エルシトニン注40	
		多発性骨髄腫による骨病変及び固形癌骨転移による骨病変	骨吸収抑制作用	破骨細胞活性抑制作用（RANK－RANKL結合阻害作用）			デノスマブ（遺伝子組換え）	注-1	注射薬	4週に1回皮下投与	ランマーク皮下注	

399　他に分類されない代謝性医薬品

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	備考	線引き
1	他に分類されない代謝性医薬品	頭部外傷後遺症	脳代謝賦活作用	リン酸供与体として各種の酵素を介し、糖質、脂肪、蛋白質の代謝に関与			アデノシン三リン酸二ナトリウム	内－１ 内－２	錠剤 顆粒剤	1日3回 1日3回	アデホスコーワ腸溶錠 アデホスコーワ顆粒	★メニエル病及び内耳障害に基づくめまい、心不全に伴う諸症状の改善	
			中枢神経賦活作用	脳代謝促進作用	脳内グルコース代謝亢進作		メクロフェノキサート塩酸	内－１	錠剤		ルシドリール錠		
					ヘキソキナーゼ活性化作用		γ－アミノ酪酸	内－１	錠剤		ガンマロン錠		
		慢性膵炎における急性症状の寛解	非ペプタイド蛋白分解酵素阻害作用				カモスタットメシル酸塩	内－１	錠剤	1日3回	フオイパン錠	★術後逆流食道炎（ﾌｵｲﾊﾟﾝのみ）	
		高インスリン血性低血糖症	インスリン分泌抑制作用				ジアゾキシド	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日2回又は3回	ジアゾキシドカプセル		
		湿疹、蕁麻疹、薬疹、中毒疹、尋常性座瘡、多型滲出性紅斑	皮膚代謝の正常化作用／抗アレルギー作用／解毒作用	チオール酵素（SH酵素）賦活作用			L－システイン	内－１ 内－２	錠剤 末剤	1日2～3回	ハイチオール錠 ハイチオール散	★放射線障害による白血球減少症	
		カルニチン欠乏症	ミトコンドリア機能賦活作用	組織内における慢性的なカルニチン欠乏状態是正作用	過剰蓄積したプロピオニル基をプロピオニルカルニチンとして体外（尿中）へ排泄し、有害なプロピオニル基からミトコンドリア機能を保護し代謝		レボカルニチン	内－３、４ 内－１	液剤 錠剤	1日3回	エルカルチンFF内用液 エルカルチンFF錠		
		ジヒドロビオプテリン合成酵素欠損、ジヒドロプテリジン還元酵素欠損に基づく高フェニルアラニン血症（異型高フェニルアラニン血症）における血清フェニルアラニン値の低下	肝臓、脳においてフェニルアラニン水酸化酵素、チロシン水酸化酵素、トリプトファン水酸化酵素の補酵素として働くことによるフェニルアラニン値低下作用				サプロプテリン塩酸塩	内－２	顆粒剤	1日1～3回	ビオプテン顆粒		
		腎移植における拒否反応の抑制	プリン合成阻害	肝で6－メルカプトプリンに代謝され、プリン代謝拮抗作用	DNA, RNA合成阻害作用	プリン誘導体	アザチオプリン	内－１	錠剤	1日初期量 2～3mg/kg、維持量0.5～1mg/kg	イムラン錠	★肝、肺、心移植	
				プリンのde novo系合成を阻害する G1, S, G2期に作用		イミダゾール系	ミゾリビン	内－１	錠剤	1日初期量 2～3mg/kg、維持量0.5～1mg/kg、1日1～3回	プレディニン錠	★原発性糸球体疾患を原因とするネフローゼ症候群、ループス腎炎、慢性関節	
		腎移植後の難治性拒絶反応の治療	プリン合成阻害	プリンの*de novo*系合成を阻害する、G1, S, G2期に作用	肝エステラーゼによりミコフェノール酸に代謝され、イノシンモノホスフェート脱水素酵素阻害作用		ミコフェノール酸モフェチル	内－１ 内－３	ｶﾌﾟｾﾙ剤 散剤	1日2回12時間毎	セルセプトカプセル セルセプト懸濁用散	★既存治療薬が投与できず、難治性拒絶反応を診断された場合	
		腎、肝、心、肺、膵移植における拒絶反応の抑制、骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の抑制	免疫抑制作用	主にT細胞の分化・増殖抑制、G0→G1移行期に作用	カルシニューリンの活性化を阻害し、インターロイキン2（IL-2）等のサイトカイン産生抑制作用		シクロスポリン	内－１ 内－２ 内－３	ｶﾌﾟｾﾙ剤 細粒剤 液剤	1日2回	サンディミュンカプセル ネオーラルカプセル シクロスポリン細粒 サンディミュン内用液	★ベーチェット病（眼症状のある場合）、尋常性乾癬（皮疹が全身の30%以上に及ぶものあるいは難治	
							タクロリムス水和物	内－１ 内－２	ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤	1日2回	プログラフカプセル プログラフ顆粒	★重症筋無力症、関節リウマチ（既存治療で効果不十分な	
								内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1回朝	グラセプターカプセル		
		心移植における拒絶反応の抑制	免疫抑制作用	主に、T細胞の分化・増殖抑制、G1→S移行期に作用			エベロリムス	内－１	錠剤	1日2回	サーティカン錠	★心移植	
		皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	抗炎症作用、免疫調節作用				ヒドロキシクロロキン硫酸塩	内－１	錠剤	1日1回	プラケニル錠		
		維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体活性化作用	PTH分泌抑制作用			シナカルセト塩酸塩	内－１	錠剤	1日1回	レグパラ錠		
							エボカルセト	内－１	錠剤	1日1回	オルケディア錠		
		特発性肺線維症	サイトカイン産生調節作用	増殖抑制作用			ピルフェニドン	内－１	錠剤	1日3回	ピレスパ錠	肺線維化抑制薬	
			チロシンキナーゼ阻害作用	抗線維化及び抗炎症作用			ニンテダニブエタンスルホン酸塩	内－１	カプセル剤	1日2回	オフェブカプセル		

		慢性特発性血小板減少性紫斑病	トロンボポエチン受容体刺激作用				エルトロンボパグ オラミン	内－1	錠剤	1日1回	レボレード錠		
		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	スフィンゴシン1-リン酸受容体機能的アンタゴニスト				フィンゴリモド塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日1回	イムセラカプセル ジレニアカプセル		
			神経細胞保護作用、抗炎症作用				フマル酸ジメチル	内－1	カプセル剤	1日2回	テクフィデラカプセル		
		ニーマン・ピック病C型	グリコシルセラミド合成酵素阻害作用				ミグルスタット	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤	1日3回	ブレーザベスカプセル		
		ホモシスチン尿症	メチル基供与によるホモシステイン低下作用				ベタイン	内－2	末剤	1日2回	サイスタダン原末		
		腎性シスチン症	ジスルフィド交換反応による細胞内シスチン濃度低下作				システアミン酒石酸塩	内－1	カプセル剤	1日4回	ニシスタゴンカプセル		
		高チロシン血症Ⅰ型	4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ（HPPD）阻害作用				ニチシノン	内－1	カプセル剤	1日2回	オーファディンカプセル		
		ゴーシェ病の諸症状（貧血、血小板減少症、肝脾腫及び骨症状）の改善	グルコシルセラミド合成酵素阻害作用				エリグルスタット酒石酸塩	内－1	カプセル剤	1日2回	サデルガカプセル		
		ミガーラスタットに反応性のあるGLA遺伝子変異を伴うファブリー病	変異型αガラクトシダーゼAのリソソームへの輸送促進作用				ミガーラスタット塩酸塩	内－1	カプセル剤	隔日投与	ガラフォルドカプセル		
2	他に分類されない代謝性医薬品	進行する感音性難聴（音響外傷を含む）	結合織成分補充作用	尿量増加作用／尿蛋白減少作用／結合織コラーゲン繊維再生促進作用／コラーゲン線維安定化作用			コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	注－1	注射薬	1日1回、静注又は筋注	コンドロイチン注	★症候性神経痛、腰痛、関節痛、肩関節周囲炎（五十肩）	
		頭部外傷後遺症	脳代謝賦活作用	リン酸供与体として各種の酵素を介し、糖質、脂肪、蛋白質の代謝に関与			アデノシン三リン酸二ナトリウム	注－1	注射薬	1日1～2回静注、筋注、皮下注又は1日1回点滴静注	アデシノンP注射液10mg	★心不全に伴う諸症状の改善、筋ジストロフィー症及びその類縁疾患、急性灰白髄炎、脳性小児麻痺	
		頭部外傷に伴う意識障害	脳血流増加作用／脳代謝改善作用	上行性網様賦活系及び錐体外路系活性作用			シチコリン	注－1 注－2	注射薬 キット	1日1～2回点滴静注	ニコリン	★急性膵炎等に対する蛋白分解酵素剤との併用療法	
		変形性膝関節症、肩関節周囲炎、（スペニール）慢性関節リウマチにおける膝関節痛	上皮細胞の接着・進展促進作用	履歴			ヒアルロン酸ナトリウム	注－1 注－2	注射薬 キット	1週間ごとに連続5回投与 1週間ごとに連続5回投与	アルツ アルツディスポ		
		保存的非薬物治療及び経口薬物治療が十分奏効しない疼痛を有する変形性膝関節症の患者の疼痛緩和	関節液の補填				ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマー／ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマービニルスルホン架	注－2	キット	1週間ごとに連続3回投与	サイビスクディスポ		
		保存療法で十分な改善が得られない後縦靱帯下脱出型の腰椎椎間板ヘルニア	グリコサミノグリカン分解作用				コンドリアーゼ	注－1	注射薬	単回投与	ヘルニコア椎間板注用1.25単位		
		急性膵炎、慢性再発性膵炎の急性増悪期、術後の急性膵炎	蛋白分解酵素阻害作用／血液凝固系阻害作用／血小板凝集抑制作用				ガベキサートメシル酸塩	注－1	注射薬	点滴静注	注射用エフオーワイ	★汎発性血管内血液凝固症（DIC）	
			膵酵素阻害作用／蛋白分解酵素阻害作用				ウリナスタチン	注－1	注射薬	1日1～3回点滴静注	ミラクリッド	★急性循環不全(出血性ｼｮｯｸほか）	
			蛋白分解酵素阻害作用／血液凝固系阻害作用／血小板凝集抑制作用				ナファモスタットメシル酸塩	注－1	注射薬	約2時間前後かけて1～2回点滴静注ほか	注射用フサン	★汎発性血管内血液凝固症（DIC）、出血性病変又は出血傾向を有する患者の	
		透析施行中の腎性貧血	造血作用	造血前駆細胞に対するコロニー形成亢進作用			エポエチンα（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット	緩徐に静注	エスポー注射液	劇、★未熟児貧血	
		透析導入前、透析施行中の腎性貧血	造血作用	造血前駆細胞に対するコロニー形成亢進作用			エポエチンβ（遺伝子組換え）	注－2	キット	静注、皮下注	エポジン注	劇、★連続携行式腹膜灌流(CAPD)施行中の腎性貧血、貯血量が800 mL以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血	

		慢性特発性血小板減少性紫斑病	トロンボポエチン受容体刺激作用	巨核球系前駆細胞直接作用			ロミプロスチム（遺伝子組換え）	注－1	注射薬	週1回皮下注	ロミプレート皮下注250μg調製用		
		カルニチン欠乏症	ミトコンドリア機能賦活作用	組織内における慢性的なカルニチン欠乏状態是正作用	過剰蓄積したプロピオニル基をプロピオニルカルニチンとして体外（尿中）へ排泄し、有害なプロピオニル基からミトコンドリア機能を保護し代謝賦活		レボカルニチン	注－1 注－2	注射薬	通常、1回3～6時間ごとに点滴静注 血液透析に伴うカルニチン欠乏症に対しては、透析終了時に透析回路静脈側に注入（静注）	エルカルチンFF静注 エルカルチンFF静注シリンジ		
		腎、肝、心、肺、膵移植における拒絶反応の抑制、骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の抑制	免疫抑制作用	主にT細胞の分化・増殖を抑制、G0→G1移行期に作用	カルシニューリンの活性化を阻害し、IL-2等のサイトカイン産生を抑制		シクロスポリン	注－1	注射薬	点滴静注	サンディミュン注射液		
							タクロリムス水和物	注－1	注射薬	点滴静注	プログラフ注射液		
		腎移植後の拒絶反応（促進型及び急性）の治療	免疫抑制作用	リンパ球の分化、増殖抑制作用			グスペリムス塩酸塩	注－1	注射薬	1日1回点滴静注	スパニジン注射液		
		全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善	好中球エラスターゼ阻害作用				シベレスタットナトリウム水和物	注－1	注射薬	24時間静脈内持続投与	注射用エラスポール100		
		既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬	IL-12/23p40阻害作用			ヒトIL-12及びIL-23のp40サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	ウステキヌマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ステラーラ点滴静注130 mg	★クローン病（導入療法）のみ	
								注－2	キット		ステラーラ皮下注45mgシリンジ	★クローン病（維持療法）	
			IL-23p19阻害作用			ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナ	グセルクマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		トレムフィア皮下注100mgシリンジ		
			IL-17A阻害作用			ヒトIL-17Aに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	セクキヌマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		コセンティクス皮下注シリンジ		
						ヒトIL-17Aに対する遺伝子組換えヒト化IgG4モノクローナル抗体	イキセキズマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		トルツ皮下注80mgシリンジ トルツ皮下注80mgオートインジェクター		
			IL-17 受容体A阻害作用			ヒトIL-17受容体Aに対する遺伝子組換えヒトIgG2モノクローナル抗体	ブロダルマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		ルミセフ皮下注シリンジ		
		以下のクリオピリン関連周期性症候群 ・家族性関連自己炎症症候群 ・マックス・ウェルズ症候群 ・新生児期発症多臓器系炎症性疾患	IL-1β阻害作用			448 個のアミノ酸残基からなるH鎖（γ1鎖）2 分子及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖（κ鎖）2分子で構成される糖タンパク質（分子量：約148，000）	カナキヌマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		イラリス皮下注用		
		多発性硬化症の再発予防	免疫調節作用				グラチラマー酢酸塩	注－2	キット	1日1回皮下注	コパキソン皮下注シリンジ		
		血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体活性化作用	PTH分泌抑制作用			エテルカルセチド塩酸塩	注－1	注射薬	週3回透析終了時の返血時に投	パーサビブ静注透析用		
		全身性エリテマトーデス	抗Bリンパ球刺激因子（BLyS）作用			可溶型Bリンパ球刺激因子（BLyS）に対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	ベリムマブ（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		ベンリスタ点滴静注用 ベンリスタ皮下注200mgオートインジェクター ベンリスタ皮下注200mgシリンジ		

421－429　腫瘍用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
1	腫瘍用薬	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	核酸合成阻害作用	DNAアルキル化／架橋形成作用	ナイトロジェン・マスタード系	シクロホスファミド	内－1	錠剤		エンドキサン錠		
								内－2	末剤		経口用エンドキサン原末		
							メルファラン	内－1	錠剤		アルケラン錠		
						アルキルスルホネート系	ブスルファン	内－2	散剤		マブリン散		
					DNAアルキル化／DNA傷害作用	イミダゾテトラジン系	テモゾロミド	内－1	カプセル剤		テモダールカプセル		
					核酸合成過程の代謝阻害（ジヒドロ葉酸還元阻害作	葉酸系	メトトレキサート	内－1	錠剤		メソトレキセート錠		
					核酸合成過程の代謝阻害（DNAポリメラーゼ活性阻害作用）	ピリミジン(ｼﾄｼﾝｱﾗﾋﾞﾉｼﾄﾞ)系	シタラビンオクホスファート	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		スタラシドカプセル		
					核酸合成過程の代謝阻害（TMP合成阻害作用）	ピリミジン（ﾌｯ化ﾋﾟﾘﾐｼﾞﾝ）系	フルオロウラシル	内－1	錠剤		5－FU錠		
								内－3	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		フルオロウラシルシロップ用		
							ドキシフルリジン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		フルツロンカプセル		
							テガフール	内－1	ﾌﾟｾﾙ剤		フトラフールカプセル		
								内－2	顆粒剤		フトラフール腸溶顆		
							カペシタビン	内－1	錠剤		ゼローダ錠		
					核酸合成過程の代謝阻害（プリン環生合成阻害作用、ヌクレオチド転換阻害作用）	プリン系	メルカプトプリン	内－2	散剤		ロイケリン散		
					核酸合成過程の代謝阻害（DNA・RNAポリメラーゼ活性阻害作用）		フルダラビンリン酸エステル	内－1	錠剤		フルダラ錠		
					核酸合成過程の代謝阻害（リボヌクレオチドレダクターゼ阻害作用）	尿素置換体	ヒドロキシカルバミド	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ハイドレアカプセル		
				巨核球の分化・成熟抑制作用			アナグレリド塩酸塩水和物	内－1	カプセル剤		アグリリンカプセル		
			配合剤（抗腫瘍作用）	核酸合成阻害作用	核酸合成過程の代謝阻害（TMP合成阻害作用）／5-FU代謝阻害作用	配合剤	テガフール／ウラシル	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ユーエフティ配合カプセル		
								内－2	顆粒		ユーエフティE配合顆粒		
					核酸合成過程の代謝阻害（TMP合成阻害作用）／5-FU代謝阻害作用／消化管粘膜細胞における5-FUﾘﾝ酸化抑制作用	配合剤	テガフール／ギメラシル／オテラシルカリウム	内－1 内－1 内－2	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤 顆粒剤		ティーエスワン配合カプセル ティーエスワン配合OD錠 ティーエスワン配合顆粒		
					核酸への取り込みによる抗腫瘍作用／トリフルリジン代謝阻害作用	配合剤	トリフルリジン／チピラシル塩酸塩	内－1	錠剤		ロンサーフ配合錠		
			抗腫瘍作用	核酸合成阻害／ホルモン様作用	DNAアルキル化／架橋形成作用、エストロゲン作用	ナイトロジェン・マスタードとエストロゲンの化合物	エストラムスチンリン酸エステルナトリウム	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		エストラサイトカプセル		
				殺細胞作用	DNA-Ⅱ型トポイソメラーゼ阻害作用	ビスジオキソピペラジン系	ソブゾキサン	内－2	細粒剤		ペラゾリン細粒		
						エピポドフィロトキシン系	エトポシド	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ラステットSカプセル ベプシドカプセル		
				核酸及び蛋白合成阻害作用		メチルヒドラジン系	プロカルバジン塩酸塩	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		塩酸プロカルバジンカプセル		
				分化誘導作用	PML-RAR-αⅡ融合遺伝子の抑制作用	ビタミンA活性代謝物	トレチノイン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ベサノイドカプセル		
							タミバロテン	内－1	錠剤		アムノレイク錠		
				抗腫瘍免疫能賦活作用		放線菌ペプチド	ウベニメクス	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ベスタチンカプセル	併用のみ	

				ホルモン様作用	抗エストロゲン作用	トリフェニルエチレン系	タモキシフェンクエン酸塩	内－1	錠剤		ノルバデックス錠		
							クエン酸トレミフェン	内－1	錠剤		フェアストン錠		
						黄体ホルモン	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	内－1	錠剤		ヒスロンH錠		
						アンドロスタン系	メピチオスタン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		チオデロンカプセル		
					アンドロゲンからのエストロゲン生成抑制作用（アロマターゼ阻害作用）	トリアゾール系	アナストロゾール	内－1	錠剤		アリミデックス錠		
							レトロゾール	内－1	錠剤		フェマーラ錠		
						ステロイド系	エキセメスタン	内－1	錠剤		アロマシン錠		
					抗アンドロゲン作用	トリフルオロメチルフェニル	フルタミド	内－1	錠剤		オダイン錠		
							ビカルタミド	内－1	錠剤		カソデックス錠		
					抗アンドロゲン作用／アンドロゲン受容体シグナル伝達阻害作用		エンザルタミド	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		イクスタンジカプセル		
								内－1	錠剤		イクスタンジ錠		
					アンドロゲン合成酵素阻害作用		アビラテロン酢酸エステル	内－1	錠剤		ザイティガ錠		
					抗アンドロゲン作用	卵胞ホルモン	エチニルエストラジオール	内－1	錠剤		プロセキソール錠		
						黄体ホルモン	クロルマジノン酢酸エステル	内－1	錠剤		プロスタール錠		
					脳下垂体性ゴナドトロピン分泌抑制作用	男性ホルモン	メチルテストステロン	内－1	錠剤		エナルモン錠		
					ステロイド合成阻害作用		ミトタン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		オペプリム		
				チロシンキナーゼ阻害作用	Bcr-Ablﾁﾛｼﾝｷﾅｰｾﾞ阻害	2-ﾌｪﾆﾙｱﾐﾉﾋﾟﾘﾐｼﾞﾝ系	イマチニブメシル酸塩	内－1	錠剤		グリベック錠		
							ニロチニブ塩酸塩水和物	内－1	カプセル剤		タシグナカプセル		
							ダサチニブ水和物	内－1	錠剤		スプリセル錠		
							ボスチニブ水和物	内－1	錠剤		ボシュリフ錠		
							ポナチニブ水和物	内－1	錠剤		アイクルシグ錠		
					上皮成長因子受容体（EGFR）ﾁﾛｼﾝｷﾅｰｾﾞ阻害	4-ｱﾆﾘﾉｷﾅｿﾞﾘﾝ系	ゲフィチニブ	内－1	錠剤		イレッサ錠		
							エルロチニブ塩酸塩	内－1	錠剤		タルセバ錠		
					不可逆的ErbB受容体チロシンキナーゼ阻害作用		アファチニブマレイン酸塩	内－1	錠剤		ジオトリフ錠		
							ダコミチニブ水和物	内－1	錠剤		ビジンプロ錠		
					活性化変異及びT790M変異を有するEGFRチロシンキナーゼ阻害作用		オシメルチニブメシル酸塩	内－1	錠剤		タグリッソ錠		
					EGFR/HER2デュアルチロシンキナーゼ阻害作用		ラパチニブトシル酸塩水和物	内－1	錠剤		タイケルブ錠		
					腫瘍細胞増殖抑制作用（Rafキナーゼ阻害）、血管新生抑制作用（VEGFR阻害）	ビアリル尿素系	ソラフェニブトシル酸塩	内－1	錠剤		ネクサバール錠		
					腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		スニチニブリンゴ酸塩	内－1	カプセル剤		スーテントカプセル		
					腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用（VEGFR阻害）		アキシチニブ	内－1	錠剤		インライタ錠		
					腫瘍細胞増殖抑制作用（Rafキナーゼ阻害）、血管新生抑制作用（VEGFR阻害）	ビアリル尿素系	ソラフェニブトシル酸塩	内－1	錠剤		ネクサバール錠	★甲状腺癌	
					腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		レンバチニブメシル酸塩	内－1	カプセル剤		レンビマカプセル	★甲状腺癌	
							バンデタニブ	内－1	錠剤		カプレルサ錠		
					血管内皮増殖因子受容体（VEGFR）阻害、血小板由来増殖因子受容体（PDGFR）阻害、幹細胞因子受容体（c-Kit）阻害作用		パゾパニブ塩酸塩	内－1	錠剤		ヴォトリエント錠		
					血管新生阻害作用、腫瘍細胞増殖抑制作用、間質細胞シグナル伝達阻害作用		レゴラフェニブ水和物	内－1	錠剤		スチバーガ錠		

					未分化リンパ腫キナーゼ（ALK）阻害作用		クリゾチニブ	内－1	カプセル剤		ザーコリカプセル		
							アレクチニブ塩酸塩	内－1	カプセル剤		アレセンサカプセル		
							セリチニブ	内－1	カプセル剤		ジカディアカプセル		
							ロルラチニブ	内－1	錠剤		ローブレナ錠		
					ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害作用		ルキソリチニブリン酸塩	内－1	錠剤		ジャカビ錠		
					ブルトン型チロシンキナーゼ阻害作用		イブルチニブ	内－1	カプセル剤		イムブルビカカプセル		
					FMS様チロシンキナーゼ3（FLT3）阻害作用		ギルテリチニブフマル酸塩	内－1	錠剤		ゾスパタ錠		
				セリン／スレオニンキナーゼ阻害作用	BRAF阻害作用		ベムラフェニブ	内－1	錠剤		ゼルボラフ錠		
							ダブラフェニブメシル酸塩	内－1	カプセル剤		タフィンラーカプセル		
							エンコラフェニブ	内－1	カプセル剤		ビラフトビカプセル		
					MEK阻害作用		トラメチニブ　ジメチルスルホキシド付加物	内－1	錠剤		メキニスト錠		
							ビニメチニブ	内－1	錠剤		メクトビ錠		
				mTOR阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		エベロリムス	内－1	錠剤		アフィニトール錠		
								内－1	錠剤		アフィニトール分散錠	★結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫のみ	
							シロリムス	内－1	錠剤		ラパリムス錠	★リンパ脈管筋腫症	
				サイクリン依存性キナーゼ阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用		パルボシクリブ	内－1	カプセル剤		イブランスカプセル		
							アベマシクリブ	内－1	錠剤		ベージニオ錠		
				骨髄腫細胞増殖抑制作用			サリドマイド	内－1	カプセル剤		サレドカプセル		
							レナリドミド水和物	内－1	カプセル剤		レブラミドカプセル		
							ポマリドミド	内－1	カプセル剤		ポマリストカプセル		
				プロテアソーム阻害作用			イキサゾミブクエン酸エステル	内－1	カプセル剤		ニンラーロカプセル		
				ヒストン脱アセチル化酵素阻害作用			パノビノスタット乳酸塩	内－1	カプセル剤		ファリーダックカプセル		
							ポリノスタット	内－1	カプセル剤		ゾリンザカプセル		
				レチノイドX受容体結合作用	アポトーシス誘導作用、細胞周期停止作用	合成レチノイド	ベキサロテン	内－1	カプセル剤		タルグレチンカプセル		
				プリンヌクレオシドホスホリラーゼ阻害作用	アポトーシス誘導作用、腫瘍細胞増殖抑制作用		フォロデシン塩酸塩	内－1	カプセル剤		ムンデシンカプセル		
				PARP阻害作用	細胞増殖抑制作用		オラパリブ	内－1	錠剤		リムパーザ錠		
2	腫瘍用薬	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	核酸合成阻害作用	DNAアルキル化／架橋形成作用	ナイトロジェン・マスタード系	シクロホスファミド	注－1	注射薬		注射用エンドキサン		
							メルファラン	注－1	注射薬		アルケラン静注用	★造血幹細胞移植時の前処置	
							イホスファミド	注－1	注射薬		注射用イホマイド		

						アルキルスルホネート系	ブスルファン	注－1	注射薬		ブスルフェクス点滴静注用	★同種造血幹細胞移植の前処置	
						ナイトロジェン・マスタード系／ベンゾイミダゾール系	ベンダムスチン塩酸塩	注－1	注射薬		トレアキシン点滴静注用		
						ニトロソウレア系	ストレプトゾシン	注－1	注射薬	点滴静注	ザノサー点滴静注用	★膵・消化管神経内分泌腫瘍	
							ニムスチン塩酸塩	注－1	注射薬		ニドラン注射用		
							ラニムスチン	注－1	注射薬		注射用サイメリン		
						トリアゼン系	ダカルバジン	注－1	注射薬		ダカルバジン注用		
					DNAアルキル化／DNA傷害作用	イミダゾテトラジン系	テモゾロミド	注－1	注射薬	点滴静注	テモダール点滴静注用		
					核酸合成過程の代謝阻害（ジヒドロ葉酸還元阻害作	葉酸系	メトトレキサート	注－1	注射薬		メソトレキセート点滴静注液		
							プララトレキサート	注－1	注射薬		ジフォルタ注射液		
					核酸合成過程の代謝阻害（TMP合成阻害作用）	ピリミジン（ﾌｯ化ﾋﾟﾘﾐｼﾞﾝ）系	フルオロウラシル	注－1	注射薬		5－FU注		
							テガフール	注－1	注射薬		フトラフール注		
					核酸合成過程の代謝阻害（DNAポリメラーゼ活性阻害作用）	ピリミジン（ｼﾄｼﾝｱﾗﾋﾞﾉｼﾄﾞ）系	シタラビン	注－1	注射薬		キロサイド注		
							ゲムシタビン塩酸塩	注－1	注射薬		ジェムザール注射用		
							エノシタビン	注－1	注射薬		サンラビン点滴静注		
						プリン系	ネララビン	注－1	注射薬		アラノンジー静注用		
					核酸合成過程の代謝阻害（DNAポリメラーゼ活性阻害作用、リボヌクレオチドレダクターゼ阻害作用）	プリン系	クロファラビン	注－1	注射薬		エポルトラ点滴静注		
					タンパク質合成阻害作用（RNAへの取り込みによる殺細胞作用）		アザシチジン	注－1	注射薬	皮下注、点滴静注	ビダーザ注射用		
					核酸合成過程の代謝阻害（DNA・RNAポリメラーゼ活性阻害作用）	プリン系	フルダラビンリン酸エステル	注－1	注射薬		フルダラ静注用		
					核酸合成過程の代謝阻害（アデノシンデアミナーゼ阻害作用）		ペントスタチン	注－1	注射薬		コホリン静注用		
							クラドリビン	注－1	注射薬		ロイスタチン注		
					核酸合成過程の代謝阻害（ジヒドロ葉酸還元阻害作用、TMP合成阻害作用、グリシンアミド・リボヌクレオチド・ホルミントランスフェラーゼ阻害作用）		ペメトレキセドナトリウム水和物	注－1	注射薬		アリムタ注射用		
					DNA－Ⅰ型トポイソメラーゼ阻害作用	カンプトテシン系	イリノテカン塩酸塩水和物	注－1	注射薬		カンプト点滴静注、トポテシン点滴静注		
							ノギテカン塩酸塩	注－1	注射薬		ハイカムチン注射用		
					DNA－Ⅱ型トポイソメラーゼ阻害作用	エピポドフィロトキシン系	エトポシド	注－1	注射薬		ベプシド注、ラステット注		
					DNAと結合	アントラサイクリン系	ダウノルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		ダウノマイシン静注		
							ドキソルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		アドリアシン注用		
							ドキソルビシン塩酸塩（リポソーム製剤）	注－1	注射薬		ドキシル注	★エイズ関連カポジ肉腫	
							アクラルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		アクラシノン注射用		
							エピルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		ファルモルビシン注射用		
							イダルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		イダマイシン静注用		
							ピラルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		テラルビシン注射用 ピノルビン注射用		
							アムルビシン塩酸塩	注－1	注射薬		カルセド注射用		

					DNAｸﾞｱﾆﾝと結合し複合体形成	アクチノマイシン系	アクチノマイシンD	注ー1	注射薬		コスメゲン静注用		
					ｼﾄｼﾝの多いDNA部分と結合		ゲムツズマブオゾガマイシン（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		マイロターグ点滴静注用		
					二本鎖DNA切断作用（CD22に選択的に結合）	抗体薬物複合体	イノツズマブ オゾガマイシン（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		ベスポンサ点滴静注用		
					DNA傷害作用	ブレオマイシン系	ブレオマイシン塩酸塩	注ー1	注射薬		ブレオ注射用		
							ペプロマイシン塩酸塩	注ー1	注射薬		ペプレオ注射用		
					DNA/RNAと架橋形成作用	アントラサイクリン系	ミトキサントロン塩酸塩	注ー1	注射薬		ノバントロン注		
					DNAアルキル化／架橋形成作用	マイトマイシン系	マイトマイシンC	注ー1	注射薬		マイトマイシン注用		
					DNA内/DNA間架橋形成作用	白金錯化合物	シスプラチン	注ー1	注射薬		ブリプラチン注、ランダ注		
							カルボプラチン	注ー1	注射薬		パラプラチン注射液		
							ネダプラチン	注ー1	注射薬		アクプラ静注用		
							オキサリプラチン	注ー1	注射薬		エルプラット点滴静注液	★結腸・直腸癌	
							シスプラチン	注ー1	注射薬	肝動注	動注用アイエーコー		
							ミリプラチン水和物	注ー1	注射薬	肝動注	ミリプラ動注用		
					ヌクレオチド除去修復機構阻害		トラベクテジン	注ー1	注射薬		ヨンデリス点滴静注用		
				細胞分裂阻止作用	微小管機能阻害作用	ビンカアルカロイド系	硫酸ビンブラスチン	注ー1	注射薬		エクザール注射用		
							ビンクリスチン硫酸塩	注ー1	注射薬		オンコビン注射用		
							ビンデシン硫酸塩	注ー1	注射薬		注射用フィルデシン		
							ビノレルビン酒石酸塩	注ー1	注射薬		ナベルビン注		
						タキソイド系	ドセタキセル水和物	注ー1	注射薬		タキソテール点滴静注用		
							パクリタキセル	注ー1	注射薬		タキソール注射液		
							パクリタキセル	注ー1	注射薬		アブラキサン点滴静注用	パクリタキセルとヒト血清アルブミンを結合させた医薬品	
							カバジタキセル　アセトン付加物	注ー1	注射薬		ジェブタナ点滴静注		
					チューブリン重合阻害を介した微小管機能阻害作用		エリブリンメシル酸塩	注ー1	注射薬		ハラヴェン静注		
					微小管機能阻害作用（CD30に選択的に結合）	抗体薬物複合体	ブレンツキシマブ　ベドチン（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		アドセトリス点滴静注用		
				アポトーシス誘導作用	PML-RAR-α蛋白質分解誘導作用		三酸化ヒ素	注ー1	注射薬		トリセノックス注		
				抗体依存性細胞傷害作用		抗HER2ヒト型ﾓﾉｸﾛｰﾅﾙ抗体	トラスツズマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		ハーセプチン注射用		
							ペルツズマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		パージェタ点滴静注		
						ﾏｳｽｰﾋﾄｷﾒﾗ型ﾓﾉｸﾛｰﾅﾙ抗体	リツキシマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		リツキサン注		
						ヒト型モノクローナル抗体	オビヌツズマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		ガザイバ点滴静注		
							オファツムマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		アーゼラ点滴静注液		
							アレムツズマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		マブキャンパス点滴静注		
							モガムリズマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		ポテリジオ点滴静注	成人T細胞白血病リンパ腫	
						抗SLAMF7ヒト型モノクローナル抗体	エロツズマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		エムプリシティ点滴静注		
						抗CD38ヒト型モノクローナル抗体	ダラツムマブ（遺伝子組換え）	注ー1	注射薬		ダラザレックス点滴静注		

				T細胞依存性細胞傷害作用		CD3とCD19に対するヒト化二重特異性抗体	ブリナツモマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ビーリンサイト点滴静注用		
				ヒト上皮細胞増殖因子受容体（EGFR）阻害作用		マウス-ヒトキメラ型モノクローナル抗体（糖タンパク質）	セツキシマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		アービタックス注射液		
						ヒト型モノクローナル抗体（糖タンパク質）	パニツムマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ベクティビックス点滴静注		
				プロテアソーム阻害作用			ボルテゾミブ	注－1	注射薬		ベルケイド注射用		
							カルフィルゾミブ	注－1	注射薬		カイプロリス点滴静注用		
				ヒストン脱アセチル化酵素阻害作用			ロミデプシン	注－1	注射薬		イストダックス点滴静注用		
				mTOR阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		テムシロリムス	注－1	注射薬		トーリセル点滴静注		
				細胞分裂阻止作用及び抗体依存性細胞傷害作用		抗体薬物複合体	トラスツズマブ　エムタンシン（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		カドサイラ点滴静注用		
				PD-1/PD-1リガンド結合阻害作用	がん抗原特異的なT 細胞の活性化及びがん細胞に対する細胞傷害活性の増強	ヒト型モノクローナル抗体	ニボルマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		オプジーボ点滴静注		
							ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		キイトルーダ点滴静注		
							アベルマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		バベンチオ点滴静注		
							アテゾリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		テセントリク点滴静注		
							デュルバルマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		イミフィンジ点滴静注		
				CTLA-4結合阻害作用			イピリムマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ヤーボイ点滴静注液		
	腫瘍用薬 放射性医薬品	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	^{90}Yにより標識された抗CD20抗体がCD20陽性のB細胞性腫瘍に集積し、β線を放出		マウスモノクローナル抗体	ｲﾌﾞﾘﾂﾓﾏﾌﾞ　ﾁｳｷｾﾀﾝ（遺伝子組換え）、塩化ｲｯﾄﾘｳﾑ（^{90}Y）	注－1	注射薬		ゼヴァリン　イットリウム（^{90}Y）静注用		
				^{223}Raが骨転移巣に集積し、α線を放出			塩化ラジウム（^{223}Ra）	注－1	注射薬		ゾーフィゴ静注		
	腫瘍用薬	悪性腫瘍	その他	免疫強化作用	抗腫瘍免疫能賦活作用	菌体成分	溶連菌抽出物	注－1	注射薬		ピシバニール注射用		
							レンチナン	注－1	注射薬		レンチナン静注用	併用のみ
					細胞増殖抑制作用／ヒトNK活性増強作用	天然型インターフェロンアルファ	インターフェロンアルファ（NAMALWA）	注－1	注射薬		スミフェロン注	
						天然型インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	注－1	注射薬		フエロン注射用	
						遺伝子組換え型インターフェロンガンマ	インターフェロンガンマ-1a（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		イムノマックス-γ注	菌状息肉症
					細胞障害性キラー細胞誘導作用／免疫賦活作用	遺伝子組換え型インターロイキン-2	テセロイキン（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		イムネース注	
				細胞栄養遮断作用	アスパラギン脱アミノ化作用	酵素系	L－アスパラギナーゼ	注－1	注射薬		ロイナーゼ注用	
				細胞内呼吸障害作用	レーザー光照射による活性酸素生成作用	光感受性物質	ポルフィマーナトリウム	注－1	注射薬		フォトフリン静注用	
							タラポルフィンナトリウム	注－1	注射薬		注射用レザフィリン	
				血管新生阻害作用	血管内皮増殖因子（VEGF）阻害作用	ヒト型モノクローナル抗体	ベバシズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		アバスチン点滴静注用	
					血管内皮増殖因子（VEGF-A、VEGF-B及びPIGF）阻害作用	ヒト遺伝子組換え融合糖タンパク質	アフリベルセプト ベータ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ザルトラップ点滴静注	
					血管内皮増殖因子受容体2（VEGFR-2）阻害作用	ヒト型モノクローナル抗体	ラムシルマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		サイラムザ点滴静注液	

				抗悪性腫瘍薬作用増強作用	チミジル酸合成酵素の解離遅延作用	葉酸系	レボホリナートカルシウム	注－1	注射薬		アイソボリン点滴静注用		
				ホルモン様作用	抗アンドロゲン作用	LH-RH誘導体（GnRHアゴニスト）	ゴセレリン酢酸塩	注－2	キット		ゾラデックス		
							リュープロレリン酢酸塩	注－1 注－2	注射薬 キット		リュープリン注射用		
						LH-RH誘導体（GnRHアンタゴニスト）	デガレリクス酢酸塩	注－1	注射薬		ゴナックス皮下注用		
					抗エストロゲン作用		フルベストラント	注－2	キット		フェソロデックス筋注		
				抗がん剤の作用持続作用			ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	注－1	注射薬		ミリプラ用懸濁用液	ミリプラチン水和物の懸濁用液	
				胸膜の炎症惹起作用・胸膜癒着作用			滅菌調整タルク	注－1	注射薬		ユニタルク胸膜腔内注入用懸濁剤		
3	腫瘍用薬	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	核酸合成阻害作用	核酸合成過程の代謝阻害（TMP合成阻害作用）	ピリミジン（ﾌｯ化ﾋﾟﾘﾐｼﾞﾝ）系	フルオロウラシル	外－1	軟膏剤		5-FU軟膏		
							テガフール	外－6	坐剤		フトラフール坐剤		
					DNA傷害作用	ブレオマイシン系	ブレオマイシン	外－1	軟膏剤		ブレオS軟膏		
					DNAアルキル化作用	ニトロソウレア系	カルムスチン	外－5	貼付剤		ギリアデル脳内留置用剤		
				mTOR阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用		シロリムス	外－1	ゲル剤		ラパリムスゲル		
			その他	細胞障害作用			乾燥BCG膀胱内用（日本株）	外－1	液剤		イムノブラダー膀注用		

430 放射性医薬品

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤型区分	剤型	用法	主な製品名	線引き
1	放射性医薬品	甲状腺の診断、検査	甲状腺ﾎﾙﾓﾝ合成作用	甲状腺への取り込み作用		^{123}I	ﾖｳ化ﾅﾄﾘｳﾑ(^{123}I)	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ヨードカプセル-123	
						^{131}I	ﾖｳ化ﾅﾄﾘｳﾑ(^{131}I)	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ラジオカップ	
		甲状腺機能亢進症の治療、甲状腺癌の治療	甲状腺ﾎﾙﾓﾝ合成作用	甲状腺への取り込み作用		^{131}I	ﾖｳ化ﾅﾄﾘｳﾑ(^{131}I)	内-1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		・ヨウ化ナトリウムカプセル ・テリオダイド	
2	放射性医薬品	甲状腺疾患の診断				^{99m}Tc	過ﾃｸﾈﾁｳﾑ酸ﾅﾄﾘｳﾑ(^{99m}Tc)注射液ｼﾞｪﾈﾚｰﾀ	注-1	注射薬(ｼﾞｪﾈﾚｰﾀ)		・ウルトラテクネカウ ・メジテック ・エルマティックⅢ	
							過ﾃｸﾈﾁｳﾑ酸ﾅﾄﾘｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	・テクネシンチ注-10M ・テクネシンチ注-20M ・ﾃｸﾈｿﾞｰﾙ	
		局所脳血流診断				^{123}I	N-ｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙ-4-ﾖｰﾄﾞｱﾝﾌｪﾀﾐﾝ(^{123}I)塩酸塩	注-1	注射液	静注	パーヒューザミン注	
						^{99m}Tc	ｴﾁﾚﾝｼﾞｼｽﾃｨﾈｰﾄｵｷｿﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)ｼﾞｴﾁﾙｴｽﾃﾙ注射液	注-2	キット	静注	ニューロライト注射液 第一	
						^{99m}Tc	ｴﾁﾚﾝｼﾞｼｽﾃｨﾈｰﾄｵｷｿﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)ｼﾞｴﾁﾙｴｽﾃﾙ注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	ニューロライト 第一	
						^{99m}Tc	ｴｷｻﾒﾀｼﾞﾑﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	セレブロテックキット	
		外科的治療が考慮される部分てんかん患者におけるてんかん焦点の診断	中枢性ﾍﾞﾝｿﾞｼﾞｱｾﾞﾋﾟﾝ受容体結合作用(選択性)			^{123}I	ｲｵﾏｾﾞﾆﾙ(^{123}I)注射液	注-2	キット	静注	ベンゾダイン注	
		パーキンソン症候群、レビー小体型認知症診断におけるドパミントランスポーターシンチグラフィ	ドパミントランスポータ結合作用(選択性)			^{123}I	イオフルパン(^{123}I)	注-2	キット	静注	ダットスキャン静注	
		脳脊髄液腔病変診断				^{111}In	ｼﾞｴﾁﾚﾝﾄﾘｱﾐﾝ五酢酸ｲﾝｼﾞｳﾑ(^{111}In)	注-1	注射薬	脳脊髄液腔内投与	インジウムDTPA(^{111}In)注	
		腎疾患診断	腎静態ｼﾝﾁｸﾞﾗﾌｨ			^{99m}Tc	ｼﾞﾒﾙｶﾌﾟﾄｺﾊｸ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	キドニーシンチTc-99m注	
						^{99m}Tc	ｼﾞﾒﾙｶﾌﾟﾄｺﾊｸ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	・キドニーシンチキット ・テクネDMSAキット	
			腎動態ｼﾝﾁｸﾞﾗﾌｨ			^{99m}Tc	ｼﾞｴﾁﾚﾝﾄﾘｱﾐﾝ五酢酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネDTPAキット	
		腎・尿路疾患診断				^{99m}Tc	ﾒﾙｶﾌﾟﾄｱｾﾁﾙｸﾞﾘｼﾙｸﾞﾘｼﾙｸﾞﾘｼﾝﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-2	キット	静注	テクネMAG_3注射液	
						^{99m}Tc	ﾒﾙｶﾌﾟﾄｱｾﾁﾙｸﾞﾘｼﾙｸﾞﾘｼﾙｸﾞﾘｼﾝﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネMAG_3キット	
		副腎疾患部位診断				^{131}I	ﾖｳ化ﾒﾁﾙﾉﾙｺﾚｽﾃﾉｰﾙ(^{131}I)注射液	注-1	注射薬	静注	アドステロール-I131注射液	

心臓疾患診断 （心筋病変の診断）	交感神経ｼﾝﾁｸﾞﾗﾌｨ			^{123}I	メタヨードベンジルグアニジン（^{123}I）	注-1	注射薬	静注	ミオMIBG-I123注射液	
	脂肪酸代謝ｼﾝﾁｸﾞﾗﾌｨ			^{123}I	ﾖｰﾄﾞﾌｪﾆﾙﾒﾁﾙﾍﾟﾝﾀﾃﾞｶﾝ酸	注-2	キット	静注	カルディオダイン注	
	心筋血流イメージング			^{201}Tl	塩化ﾀﾘｳﾑ(^{201}Tl)	注-1	注射薬	静注	・塩化ﾀﾘｳﾑ(^{201}Tl)注NMP ・塩化ﾀﾘｳﾑ-Tl201注射液	
				^{99m}Tc	ﾃﾄﾛﾎｽﾐﾝﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-2	キット	静注	マイオビュー注シリンジ	
				^{99m}Tc	ﾍｷｻｷｽﾒﾄｷｼｲｿﾌﾟﾁﾙｲｿﾆﾄﾘﾙﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-2	キット	静注	カーディオライト注射液 第一	
				^{99m}Tc	ﾃﾄﾛﾎｽﾐﾝﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液 （調製用）	注-1	注射薬	静注	マイオビュー「注射用」	
				^{99m}Tc	ﾍｷｻｷｽﾒﾄｷｼｲｿﾌﾟﾁﾙｲｿﾆﾄﾘﾙﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液（調製用）	注-1	注射薬	静注	カーディオライト 第一	
心臓疾患診断 （血管病変の診断）				^{99m}Tc	人血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝｼﾞｴﾁﾚﾝﾄﾘｱﾐﾝ五酢酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	プールシンチ注	
				^{99m}Tc	ﾃｸﾈﾁｳﾑ人血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝ注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネアルブミンキット	
				^{99m}Tc	ﾋﾟﾛﾘﾝ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液 （調製用）	注-1	注射薬	静注	テクネピロリン酸キット	
肺血流診断				^{99m}Tc	ﾃｸﾈﾁｳﾑ大凝集人血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝ(^{99m}Tc)注射液（調製用）	注-1	注射薬	静注	テクネMAAキット	
肺・脳血流診断				^{81m}Kr	ｸﾘﾌﾟﾄﾝ(^{81m}Kr)	注-1	注射薬		ｸﾘﾌﾟﾄﾝ(^{81m}Kr)ｼﾞｪﾈﾚｰﾀ	
骨疾患診断				^{99m}Tc	ﾋﾄﾞﾛｷｼﾒﾁﾚﾝｼﾞﾎｽﾎﾝ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1 注-2	注射薬 キット	静注	クリアボーン注	
				^{99m}Tc	ﾒﾁﾚﾝｼﾞﾎｽﾎﾝ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-2	キット	静注	テクネMDP注射液	
				^{99m}Tc	ﾋﾄﾞﾛｷｼﾒﾁﾚﾝｼﾞﾎｽﾎﾝ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液（調製用）	注-1	注射薬	静注	クリアボーンキット	
				^{99m}Tc	ﾒﾁﾚﾝｼﾞﾎｽﾎﾝ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液 （調製用）	注-1	注射薬	静注	テクネMDPキット	
肝機能診断				^{99m}Tc	ｶﾞﾗｸﾄｼﾙ人血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝｼﾞｴﾁﾚﾝﾄﾘｱﾐﾝ五酢酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	アシアロシンチ注	
肝胆道系機能診断				^{99m}Tc	N-ﾋﾟﾘﾄﾞｷｼﾙ-5-ﾒﾁﾙﾄﾘﾌﾟﾄﾌｧﾝﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	ヘパティメージ注	
肝脾疾患診断				^{99m}Tc	ﾃｸﾈﾁｳﾑｽｽﾞｺﾛｲﾄﾞ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	スズコロイドTc-99m注セット	
				^{99m}Tc	ﾃｸﾈﾁｳﾑｽｽﾞｺﾛｲﾄﾞ(^{99m}Tc)注射液 （調製用）	注-1	注射薬	静注	スズコロイドTc-99m注調製用キット	
				^{99m}Tc	ﾌｨﾁﾝ酸ﾃｸﾈﾁｳﾑ(^{99m}Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	テクネフチン酸キット	

		悪性腫瘍診断 （全腫瘍が適応）				^{67}Ga	ｸｴﾝ酸ｶﾞﾘｳﾑ(^{67}Ga)	注-1 注-2	注射薬 キット	静注	・ｸｴﾝ酸ｶﾞﾘｳﾑ(^{67}Ga)注NMP ・ｸｴﾝ酸ｶﾞﾘｳﾑ-Ga67注射液	
		固形癌患者における骨シンチグラフィで陽性像を呈する骨転移部位の疼痛緩和	電離放射線による骨疼痛緩和			^{89}Sr	塩化ｽﾄﾛﾝﾁｳﾑ（^{89}Sr）注射液	注-1	注射薬		メタストロン注	
		イブリツモマブ　チウキセタン（遺伝子組換え）の集積部位の確認	γ線放出格種である111Inで標識した抗CD20抗体（イブリツモマブチウキセタン（遺伝子組換え））を用いたシンチグラフィ			^{111}In	ｲﾌﾞﾘﾂﾓﾏﾌﾞ　ﾁｳｷｾﾀﾝ（遺伝子組換え）、塩化ｲﾝｼﾞｳﾑ（^{111}In）	注-1	注射薬	静注	ゼヴァリン　インジウム（^{111}In）静注用セット	
		造血骨髄の診断				^{111}In	塩化ｲﾝｼﾞｳﾑ(^{111}In)	注-1	注射薬	静注	塩化インジウム(^{111}In)注	
		循環血液、血漿量測定 （画像を伴わない検査）				^{51}Cr	ｸﾛﾑ酸ﾅﾄﾘｳﾑ（51Cr）注射液	注-1	注射薬	静注	放射性ｸﾛﾑ酸ﾅﾄﾘｳﾑ注射液	
						^{131}I	ﾖｳ化人血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝ(^{131}I)	注-1	注射薬	静注	放射性ﾖｳ化人血清ｱﾙﾌﾞﾐﾝ注射液	
		神経内分泌腫瘍の診断	ソマトスタチン受容体結合作用			^{111}In	ペンテトレオチド、塩化インジウム(^{111}In)	注-1	注射薬	静注	オクトレオスキャン静注用セット	

441－449 アレルギー用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	アレルギー用薬	アレルギー性鼻炎，アレルギー性皮膚疾患	ケミカルメディエータ受容体拮抗作用	抗ヒスタミン作用			ジフェンヒドラミン塩酸塩	内－1	錠剤		ベナ錠 レスタミンコーワ錠	
							クレマスチンフマル酸塩	内－2 内－1 内－4 内－4	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		タベジール散 タベジール錠 タベジールシロップ	
							ホモクロルシクリジン塩酸塩	内－1	錠剤		ホモクロミン錠	
							ヒドロキシジン塩酸塩	内－1	錠剤		アタラックス錠	
							ヒドロキシジンパモ酸塩	内－1 内－2 内－3	錠剤 散剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		アタラックス-P散	
							シプロヘプタジン塩酸塩	内－2 内－1 内－4	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		ペリアクチン散 ペロアクチン錠 ペリアクチンシロップ	
							プロメタジン塩酸塩	内－1	錠剤		ヒベルナ糖衣錠 ピレチア錠	
							アリメマジン酒石酸塩	内－4	ｼﾛｯﾌﾟ剤		アリメジンシロップ	
							d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－2 内－1 内－4 内－3	散剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ポララミン散 ポララミン錠 ポララミンシロップ ポララミンドライシロップ	
							クロルフェニラミンマレイン酸塩	内－2 内－2 内－1	末剤 散剤 錠剤		プロダミン アレルギン散 ヒスタール錠	
							オキサトミド	内－1 内－4	錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		セルテクト錠 オキサトミドシロップ	
							ベポタスチンベシル酸塩	内－1	錠剤		タリオン錠	
							オロパタジン塩酸塩	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤		アレロック錠 アレロック顆粒	
							メキタジン	内－2 内－1 内－4 内－3	細粒剤 錠剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ゼスラン小児用細粒 ゼスラン錠 ゼスラン小児用シロップ	
							フマル酸エメダスチン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ダレンカプセル	
							フェキソフェナジン塩酸塩	内－1 内－3，4	錠剤 ドライシロップ剤		アレグラ錠 アレグラドライシロップ	
							アゼラスチン塩酸塩	内－1	錠剤		アゼプチン錠	
							エピナスチン塩酸塩	内－1 内－4	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		アレジオン錠 アレジオンドライシロップ	
							セチリジン塩酸塩	内－1 内－4	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ジルテック錠 ジルテックドライシロッ	
							レボセチリジン塩酸塩	内－1 内－3，4	錠剤 シロップ剤		ザイザル錠 ザイザルシロップ	
							ケトチフェンフマル酸塩	内－1 内－1 内－3 内－4	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ザジデンカプセル ザジテンシロップ ザジテンドライシロップ	
							エバスチン	内－1	錠剤		エバステル錠	
							ロラタジン	内－1 内－3，4	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		クラリチン錠 クラリチンドライシロップ	

							デスロラタジン	内－1	錠剤		デザレックス錠	
							ビラスチン	内－1	錠剤		ビラノア錠	
							ルパタジンフマル酸塩	内－1	錠剤		ルパフィン錠	
			配合剤（ケミカルメディエータ受容体拮抗作用）	抗ヒスタミン作用／α交感神経刺激作用		配合剤	フェキソフェナジン塩酸塩／塩酸プソイドエフェドリン	内－1	錠剤		ディレグラ配合錠	
		アレルギー性鼻炎，アレルギー性皮膚疾患／気管支喘息	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	ヒスタミン遊離抑制作用／ロイコトリエン遊離抑制作用			トラニラスト	内－2 内－1 内－4	細粒剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		リザベン細粒 リザベンカプセル リザベンﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ	
							ペミロラストカリウム	内－1 内－4	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		アレギサール錠 アレギサールドライシロップ	
				ロイコトリエン遊離抑制作用			イブジラスト	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ケタスカプセル	
		食物アレルギーに基づくアトピー性皮膚炎	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	腸管内ヒスタミン遊離抑制作用／腸管内ロイコトリエン遊離抑制作用			クロモグリク酸ナトリウム	内－2	細粒剤		インタール細粒	
		アレルギー性鼻炎，アレルギー性皮膚疾患，気管支喘息	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	インターロイキン産生抑制作用			スプラタストトシル酸塩	内－1 内－4	ｶﾌﾟｾﾙ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		アイピーディカプセル アイピーディドライシロップ	
		アレルギー性鼻炎／気管支喘息	ケミカルメディエータ拮抗作用	ロイコトリエン受容体拮抗作用			プランルカスト水和物	内－1 内－1 内－4	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		オノンカプセル プランルカスト錠 オノンドライシロップ	
							モンテルカストナトリウム	内－1 内－5 内－2	錠剤 ﾁｭｱﾌﾞﾙ 細粒剤		シングレア錠 シングレアチュアブル錠 シングレア細粒	
				トロンボキサンA2受容体拮抗作用			ラマトロバン	内－1	錠剤		バイナス錠	
							セラトロダスト	内－2 内－1	顆粒剤 錠剤		ブロニカ顆粒 ブロニカ錠	
		気管支喘息	ケミカルメディエータ合成阻害作用	トロンボキサンA2合成酵素阻害作用			オザグレル塩酸塩水和物	内－1	錠剤		ベガ錠 ドメナン錠	
		アレルギー性皮膚疾患	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	抗プラスミン作用			トラネキサム酸	内－2 内－2 内－1 内－1 内－3，4	細粒剤 散剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤		プレタスミン細粒 トランサミン散 トランサミン錠 トランサミンカプセル トランサミンシロップ	
		スギ花粉症(減感作療法)	特異的減感作作用				標準化スギ花粉エキス	内－5	舌下液		シダトレンスギ花粉舌下液	
							スギ花粉エキス	内－5	舌下錠		シダキュアスギ花粉舌下錠	
		ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎（減感作療法）					コナヒョウヒダニエキス原末及びヤケヒョウヒダニエキス原末	内－5	舌下錠		アシテアダニ舌下錠	
							コナヒョウヒダニ抽出エキス及びヤケヒョウヒダニ抽出エキス	内－5	舌下錠		ミティキュアダニ舌下錠	

2	アレルギー用薬	アレルギー性鼻炎／アレルギー性皮膚炎／慢性蕁麻疹	ケミカルメディエータ拮抗作用				ジフェンヒドラミン塩酸塩	注－1	注射薬		レスミン注射液	
							プロメタジン塩酸塩	注－1	注射薬		ヒベルナ注	
							クロルフェニラミンマレイン酸塩	注－1	注射薬		ポララミン注	
			配合剤（ケミカルメディエータ拮抗作用）	抗ヒスタミン作用＋催眠鎮静作用		配合剤	ジフェンヒドラミン塩酸塩/臭化カルシウム	注－1	注射薬		レスカルミン注	
		アレルギー性皮膚炎／薬疹	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	ホスホリパーゼA2阻害作用			グリチルリチン、グリシン、システイン配合剤	注－1	注射薬		強力ネオミノファーゲンシー静注	
		蕁麻疹、薬疹	抗プラスミン作用				トラネキサム酸	注－1	注射薬		トランサミン注	
		アレルギー性鼻炎，アレルギー性皮膚炎	ケミカルメディエータ受容体調節作用	好酸球浸潤抑制作用			ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	注－1	注射薬		ノイロトロピン注射液	
		気管支喘息	抗IgE作用				オマリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ゾレア皮下注用	
			抗IL-5作用				メポリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ヌーカラ皮下注用	
			抗IL-5受容体作用				ベンラリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ファセンラ皮下注	
		スギ花粉症(減感作療法)	特異的減感作作用				標準化スギ花粉エキス	注－1	注射薬		治療用標準化アレルゲンエキス皮下注「トリイ」	
		気管支喘息（減感作療法）（ブタクサ花粉）ｱﾚﾙｷﾞｰ性鼻炎					アレルゲン治療エキス	注－1	注射薬		治療用アレルゲンエキス皮下注「トリイ」	
		ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎、気管支喘息（減感作療法）					コナヒョウヒダニエキス及びヤケヒョウヒダニエキス	注－1	注射薬		治療用ダニアレルゲンエキス皮下注「トリイ」	
		アトピー性皮膚炎	IL-4/IL-13シグナル伝達阻害作用				デュピルマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		デュピクセント皮下注シリンジ	
		遺伝性血管性浮腫	ブラジキニン受容体拮抗作用				イカチバント酢酸塩	注－2	キット		フィラジル皮下注シリンジ	
3	アレルギー用薬	アレルギー性鼻炎	ケミカルメディエータ受容体拮抗作用	抗ヒスタミン作用			エメダスチンフマル酸塩	外－5	貼付剤		アレサガテープ	

６１１-６１５・６１９・６２１－６２４・６２９　主として一般細菌に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	薬効分類番号	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
1	主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))に作用	細胞壁合成阻害作用			ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系	ﾍﾞﾝｼﾞﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝﾍﾞﾝｻﾞﾁﾝ	611	内－２	顆粒剤		バイシリンＧ		
						ｸﾞﾙｺﾍﾟﾌﾟﾀｲﾄﾞ系	ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ塩酸塩	611	内－２	散剤		塩酸バンコマイシン	非吸収性、★MRSA	
			RNAポリメラーゼ阻害作用				ﾌｨﾀﾞｷｿﾏｲｼﾝ	611	内－１	錠剤		ダフクリア錠	非吸収性	
			蛋白合成阻害作用			ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ系	ｸﾘﾝﾀﾞﾏｲｼﾝ塩酸塩	611	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ダラシン		
							ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ塩酸塩	611	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		リンコシン		
						ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系	ｱｾﾁﾙｽﾋﾟﾗﾏｲｼﾝ	614	内－１	錠剤		アセチルスピラマイシン		
		ＶＲＥ/ＭＲＳＡに作用	蛋白合成阻害作用			ｵｷｻｿﾞﾘｼﾞﾉﾝ系	ﾘﾈｿﾞﾘﾄﾞ	624	内－１	錠剤		ザイボックス		
		ＭＲＳＡに作用					ﾃｼﾞｿﾞﾘﾄﾞﾘﾝ酸ｴｽﾃﾙ	624	内－１	錠剤		シベクトロ錠		
		主としてｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))に作用	細胞膜機能障害作用			ﾎﾟﾘﾍﾟﾌﾟﾀｲﾄﾞ系	ｺﾘｽﾁﾝﾒﾀﾝｽﾙﾎﾝ酸ﾅﾄﾘｳﾑ	612	内－２ 内－２ 内－１	散剤 顆粒剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤		コリマイシンＳ メタコリマイシン	非吸収性	
							ﾎﾟﾘﾐｷｼﾝB硫酸塩	612	内－１	錠剤		硫酸ポリミキシン	非吸収性	
			蛋白合成阻害作用			ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ｶﾅﾏｲｼﾝ一硫酸塩	612	内－１ 内－４ 内－４	ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		カナマイシン	非吸収性	
			核酸（DNA)合成阻害作用			キノロン系	ﾋﾟﾍﾟﾐﾄﾞ酸三水和物	624	内－１	錠剤		ドルコール		
		主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))に作用	細胞壁合成阻害作用			ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系（１）	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ	613	内－１ 内－４	ｶﾌﾟｾﾙ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ビクシリン		
							ｱﾓｷｼｼﾘﾝ水和物	613	内－１ 内－１ 内－２	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 細粒剤		アモリン		
							ﾊﾞｶﾝﾋﾟｼﾘﾝ塩酸塩	613	内－１	錠剤		ペングローブ		
						ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系（２）	ｽﾙﾀﾐｼﾘﾝﾄｼﾙ酸塩 ｽﾙﾀﾐｼﾘﾝﾄｼﾙ酸塩(小)	613 613	内－１ 内－２	錠剤 細粒剤		ユナシン		
						ｾﾌｪﾑ系（１）	ｾﾌｧﾚｷｼﾝ	613	内－１ 内－２ 内－１ 内－３ 内－４	錠剤 顆粒剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ケフレックス		
							ｾﾌｧﾚｷｼﾝ(小)	613	内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
							ｾﾌｧｸﾛﾙ ｾﾌｧｸﾛﾙ(小)	613 613	内－１ 内－２ 内－２	ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤 細粒剤		ケフラール		
							ｾﾌﾛｷｻｼﾞﾝ(小)	613	内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		オラスポア		
						ｾﾌｪﾑ系（２）	ｾﾌﾛｷｼﾑｱｷｾﾁﾙ	613	内－１	錠剤		オラセフ		
							ｾﾌｫﾁｱﾑﾍｷｾﾁﾙ塩酸塩	613	内－１	錠剤		パンスポリン		
						ｾﾌｪﾑ系（３）	ｾﾌﾎﾟﾄﾞｷｼﾑﾌﾟﾛｷｾﾁﾙ ｾﾌﾎﾟﾄﾞｷｼﾑﾌﾟﾛｷｾﾁﾙ(小)	613 613	内－１ 内－４	錠剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		バナン		
							ｾﾌｨｷｼﾑ ｾﾌｨｷｼﾑ(小)	613 613	内－１ 内－２	ｶﾌﾟｾﾙ剤 細粒剤		セフスパン		
							ｾﾌﾃﾗﾑﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ ｾﾌﾃﾗﾑﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ(小)	613 613	内－１ 内－２	錠剤 細粒剤		トミロン		
							ｾﾌｼﾞﾆﾙ ｾﾌｼﾞﾆﾙ(小)	613 613	内－１ 内－２	ｶﾌﾟｾﾙ剤 細粒剤		セフゾン		
							ｾﾌﾁﾌﾟﾃﾝ	612	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		セフテム		
							ｾﾌｼﾞﾄﾚﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ ｾﾌｼﾞﾄﾚﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ(小)	613 613	内－１ 内－２	錠剤 細粒剤		メイアクト		

						ｾﾌｶﾍﾟﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ塩酸塩	613	内－１	錠剤		フロモックス		
						ｾﾌｶﾍﾟﾝﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ塩酸塩(小)	613	内－２	細粒剤				
					ﾍﾟﾈﾑ系	ﾌｧﾛﾍﾟﾈﾑﾅﾄﾘｳﾑ	613	内－１	錠剤		ファロム		
						ﾌｧﾛﾍﾟﾈﾑﾅﾄﾘｳﾑ(小)	613	内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
					ｶﾙﾊﾞﾍﾟﾈﾑ系	ﾃﾋﾞﾍﾟﾈﾑ　ﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ	613	内－２	細粒剤		オラペネム		
					ﾎｽﾎﾏｲｼﾝ系	ﾎｽﾎﾏｲｼﾝｶﾙｼｳﾑ	613	内－１	錠剤		ホスミシン		
								内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤				
						ﾎｽﾎﾏｲｼﾝｶﾙｼｳﾑ(小)	613	内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
		配合剤（細胞壁合成阻害作用			配合剤	ｱﾓｷｼｼﾘﾝ/ｸﾗﾌﾞﾗﾝ酸ｶﾘｳﾑ	613	内－１	錠剤		オーグメンチン		
						ｱﾓｷｼｼﾘﾝ/ｸﾗﾌﾞﾗﾝ酸ｶﾘｳﾑ(小)	613	内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		クラバモックス		
						ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ/ｸﾛｷｻｼﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ	619	内－１	錠剤		ビクシリン		
		葉酸合成阻害作用			ｻﾙﾌｧ剤	ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｻｿﾞｰﾙ	621	内－２	末剤		シノミン		
						ｽﾙﾌｧﾒﾁｿﾞｰﾙ	621	内－２	末剤				
		配合剤（葉酸合成阻害作用+葉酸活性阻害作用）			配合剤	ｽﾙﾌｧﾒﾄｷｻｿﾞｰﾙ/ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑ	629	内－１	錠剤		バクタ		
								内－２	顆粒剤				
	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏに作用	蛋白合成阻害作用			ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系（１）	ｴﾘｽﾛﾏｲｼﾝ	614	内－１	錠剤		アイロタイシン		
						ｴﾘｽﾛﾏｲｼﾝｴﾁﾙｺﾊｸ酸ｴｽﾃﾙ	614	内－２	顆粒剤		エリスロシン		
								内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
						ｴﾘｽﾛﾏｲｼﾝｽﾃｱﾘﾝ酸塩	614	内－１	錠剤		エリスロシン		
					ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系（２）	ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ	614	内－１	錠剤		クラリシッド	★HIV感染者のMAC症発症抑制	
						ｸﾗﾘｽﾛﾏｲｼﾝ(小)	614	内－１	錠剤				
								内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
						ﾛｷｼｽﾛﾏｲｼﾝ	614	内－１	錠剤		ルリッド		
					ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系（３）	ｱｼﾞｽﾛﾏｲｼﾝ水和物	614	内－１	錠剤		ジスロマック	★HIV感染者のMAC症発症抑制（600mg	
							614	内－３	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
						ｱｼﾞｽﾛﾏｲｼﾝ水和物(小)	614	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤				
								内－２	細粒剤				
					ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系（４）	ｼﾞｮｻﾏｲｼﾝ	614	内－１	錠剤		ジョサマイシン		
						ｼﾞｮｻﾏｲｼﾝﾌﾟﾛﾋﾟｵﾝ酸ｴｽﾃﾙ(小)	614	内－４	ｼﾛｯﾌﾟ剤		ジョサマイ		
								内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤				
	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))/ﾘｹｯﾁｱ/ｸﾗﾐｼﾞｱに作	蛋白合成阻害作用			ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ系	ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ	615	内－１	錠剤		クロロマイセチン		
					ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系（１）	ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	615	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		アクロマイシン		
						ﾃﾞﾒﾁﾙｸﾛﾙﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ塩酸	615	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		レダマイシン		
					ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系（２）	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	615	内－１	錠剤		ミノマイシン		
								内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤				
						ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ塩酸塩(小)	615	内－２	顆粒剤				
						ﾄﾞｷｼｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	615	内－１	錠剤		ビブラマイシン		
		核酸（DNA)合成阻害作用			ｷﾉﾛﾝ系	ﾉﾙﾌﾛｷｻｼﾝ	624	内－１	錠剤		バクシダール		
						ﾉﾙﾌﾛｷｻｼﾝ(小)	624	内－１	錠剤				
						ﾛﾒﾌﾛｷｻｼﾝ塩酸塩	624	内－１	錠剤		ロメバクト		
								内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤				
						ｵﾌﾛｷｻｼﾝ	624	内－１	錠剤		タリビット		
						ｼﾌﾟﾛﾌﾛｷｻｼﾝ塩酸塩	624	内－１	錠剤		シプロキサン		
						ﾌﾟﾙﾘﾌﾛｷｻｼﾝ	624	内－１	錠剤		スオード		
						ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ水和物	624	内－１	錠剤		クラビット		
							624	内－２	細粒剤				
						ﾄｽﾌﾛｷｻｼﾝﾄｼﾙ酸塩水和物	624	内－１	錠剤 錠小児用		オゼックス		
							624	内－２	細粒剤				
						ﾓｷｼﾌﾛｷｻｼﾝ塩酸塩	624	内－１	錠剤		アベロックス		
						ｶﾞﾚﾉｷｻｼﾝﾒｼﾙ酸塩水和物	624	内－１	錠剤		ジェニナック		
						ｼﾀﾌﾛｷｻｼﾝ水和物	624	内－１	錠剤		グレースビット		

								624	内－２	細粒剤				
2	主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))に作用	細胞壁合成阻害作用			ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系	ﾍﾞﾝｼﾞﾙﾍﾟﾆｼﾘﾝｶﾘｳﾑ	611	注－１	注射薬		ペニシリンＧカリウム		
			蛋白合成阻害作用			ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ系	ﾘﾝｺﾏｲｼﾝ塩酸塩	611	注－１	注射薬		リンコシン	★主として嫌気性	
							ｸﾘﾝﾀﾞﾏｲｼﾝﾘﾝ酸ｴｽﾃﾙ	611	注－１ 注－２	注射薬 キット		ダラシン	★主として嫌気性菌	
		ＭＲＳＡに作用	細胞壁合成阻害作用			ｸﾞﾙｺﾍﾟﾌﾟﾀｲﾄﾞ系	ﾃｲｺﾌﾟﾗﾆﾝ	611	注－１	注射薬		タゴシッド		
							ﾊﾞﾝｺﾏｲｼﾝ塩酸塩	611	注－１	注射薬		塩酸バンコマイシ		
			蛋白合成阻害作用			ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ｱﾙﾍﾞｶｼﾝ硫酸塩	611	注－１	注射薬		ハベカシン		
			細胞膜脱分極作用			環状リポペプチド系	ダプトマイシン	611	注－１	注射薬		キュビシン静注用		
			蛋白合成阻害作用			ｵｷｻｿﾞﾘｼﾞﾉﾝ系	テジゾリドリン酸エステル	624	注－１	注射薬		シベクトロ点滴静注用		
		ＶＲＥ/ＭＲＳＡに作用	蛋白合成阻害作用			ｵｷｻｿﾞﾘｼﾞﾉﾝ系	ﾘﾈｿﾞﾘﾄﾞ	624	注－１	注射薬		ザイボックス		
		ＶＲＥに作用	配合剤（蛋白合成阻害作用）			配合剤	ｷﾇﾌﾟﾘｽﾁﾝ/ﾀﾞﾙﾎﾌﾟﾘｽﾁﾝ	611	注－１	注射薬		注射用シナシッド		
		主としてｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))に作用	細胞壁合成阻害作用			ﾓﾉﾊﾞｸﾀﾑ系	ｱｽﾞﾄﾚｵﾅﾑ	612	注－１	注射薬		アザクタム		
			細胞膜機能障害作用			ポリペプタイド系	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	612	注－１	注射薬		オルドレブ点滴静注用		
			蛋白合成阻害作用			ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ﾄﾌﾞﾗﾏｲｼﾝ	612	注－１	注射薬		トブラシン		
							ｱﾐｶｼﾝ硫酸塩	612	注－１	注射薬		硫酸アミカシン		
							ｲｾﾊﾞﾏｲｼﾝ硫酸塩	612	注－１	注射薬		エクサシン		
						(ｱﾐﾉｻｲｸﾘﾄｰﾙ系)	ｽﾍﾟｸﾁﾉﾏｲｼﾝ塩酸塩	612	注－１	注射薬		トロビシン		
						ｸﾞﾘｼﾙｻｲｸﾘﾝ系	ﾁｹﾞｻｲｸﾘﾝ	612	注－１	注射薬		タイガシル点滴静注用	★本剤に感性の大腸菌,ｼﾄﾛﾊﾞｸﾀｰ属,ｸﾚﾌﾞｼｴﾗ属,ｴﾝﾃﾛﾊﾞｸ	
			蛋白変性作用			ﾍｷｻﾐﾝ系	ﾍｷｻﾐﾝ	251	注－１	注射薬		ヘキサミン		
		主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))に作用	細胞壁合成阻害作用			ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系（１）	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１	注射薬		ビクシリン		
			配合剤（細胞壁合成阻害作用）			配合剤	ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ/ｸﾛｷｻｼﾘﾝ	619	注－１	注射薬		ビクシリンＳ		
							ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		ペントシリン		
						ｾﾌｪﾑ系（１）	ｾﾌｧｿﾞﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		セファメジンα		
							ｾﾌｧﾛﾁﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１	注射薬		ケフリン		
						ｾﾌｪﾑ系（２）	ｾﾌｫﾁﾑ塩酸塩	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		パンスポリン		
						ｾﾌｪﾑ系（３）	ｾﾌﾒﾉｷｼﾑ塩酸塩	613	注－１	注射薬		ベストコール		
							ｾﾌｫﾀｷｼﾑﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１	注射薬		クラフォラン		
							ｾﾌﾄﾘｱｷｿﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		ロセフィン静注用 ロセフィン点滴静注用バッグ		
						ｾﾌｪﾑ系（４）	ｾﾌｪﾋﾟﾑ塩酸塩	613	注－１	注射薬		注射用マキシピーム		
							ｾﾌｫｿﾞﾌﾟﾗﾝ塩酸塩	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		ファーストシン		
							ｾﾌﾀｼﾞｼﾞﾑ	613	注－１	注射薬		モダシン		
							ｾﾌﾋﾟﾛﾑ硫酸塩	613	注－１	注射薬		セフピロム硫酸塩静注用		
							ｾﾌﾐﾉｸｽﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１	注射薬		メイセリン		
							ｾﾌﾒﾀｿﾞｰﾙﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		セフメタゾン		
						ｾﾌｪﾑ系（６）	ﾌﾛﾓｷｾﾌﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		フルマリン		
							ﾗﾀﾓｷｾﾌﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１	注射薬				
						ﾎｽﾎﾏｲｼﾝ系	ﾎｽﾎﾏｲｼﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		ホスミシン		
						ｶﾙﾊﾞﾍﾟﾈﾑ系	ﾒﾛﾍﾟﾈﾑ三水和物	613	注－１	注射薬		メロペン		

									注－２	キット				
							ﾋﾟｱﾍﾞﾈﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		オメガシン点滴用０．３ｇ オメガシン点滴用０．３ｇバック		
							ﾄﾞﾘﾍﾞﾈﾑ水和物	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		フィニバックス点滴用０．２５％ フィニバックスキット点滴用０．２５％		
			配合剤（細胞壁合成阻害作用+不活性化阻害作用）			配合剤	ｲﾐﾍﾟﾈﾑ/ｼﾗｽﾀﾁﾝ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		チエナム		
							ﾊﾟﾆﾍﾟﾈﾑ/ﾍﾞﾀﾐﾌﾟﾛﾝ	613	注－１	注射薬		カルベニン		
			配合剤（細胞壁合成阻害作用+βﾗｸﾀﾏｰｾﾞ阻害作用）			配合剤	ｽﾙﾊﾞｸﾀﾑ/ｱﾝﾋﾟｼﾘﾝ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		ユナシン－Ｓ ユナシン－Ｓキット静注用		
							ｽﾙﾊﾞｸﾀﾑ/ｾﾌｫﾍﾟﾗｿﾞﾝ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		スルベラゾン		
							ﾀｿﾞﾊﾞｸﾀﾑﾅﾄﾘｳﾑ/ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾘﾝﾅﾄﾘｳﾑ	613	注－１ 注－２	注射薬 キット		ゾシン		
							ﾀｿﾞﾊﾞｸﾀﾑﾅﾄﾘｳﾑ/ｾﾌﾄﾛｻﾞﾝ硫酸塩	613	注－１	注射薬		ザバクサ		
			核酸(DNA)合成阻害作用			ｷﾉﾛﾝ系	ｼﾌﾟﾛﾌﾛｷｻｼﾝ	624	注－１	注射薬		シプロキサン		
							ﾊﾟｽﾞﾌﾛｷｻｼﾝﾒｼﾙ酸塩	624	注－２	キット		パシル／パズクロ		
							ﾚﾎﾞﾌﾛｷｻｼﾝ水和物	624	注－1 注－２	注射薬 キット		クラビット		
			蛋白合成阻害作用			ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ｹﾞﾝﾀﾏｲｼﾝ硫酸塩	613	注－１	注射薬		ゲンタシン		
							ｼﾞﾍﾞｶｼﾝ硫酸塩	613	注－１	注射薬		パニマイシン		
		主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ﾏｲｺﾌﾟﾗｽﾞﾏに作用	蛋白合成阻害作用			ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系	ｴﾘｽﾛﾏｲｼﾝﾗｸﾄﾋﾞｵﾝ酸塩	614	注－１	注射薬		エリスロシン		
							アジスロマイシン水和物	614	注－１	注射薬		ジスロマック点滴静注用		
		主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))/ﾘｹｯﾁｬ/ｸﾗﾐｼﾞｱに作	蛋白合成阻害作用			ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙ系	ｸﾛﾗﾑﾌｪﾆｺｰﾙｺﾊｸ酸ｴｽﾃﾙﾅﾄﾘｳﾑ	615	注－１	注射薬		クロロマイセチンサクシネート		
						ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系	ﾐﾉｻｲｸﾘﾝ塩酸塩	615	注－１	注射薬		ミノマイシン		
3	主として一般細菌に作用するもの	主としてｸﾞﾗﾑ陽性菌(G(+))/ｸﾞﾗﾑ陰性菌(G(-))に作用	細胞壁合成阻害作用			ｾﾌｪﾑ系	ｾﾌﾁｿﾞｷｼﾑﾅﾄﾘｳﾑ	613	外－６	坐剤		エポセリン		
		嚢胞性線維症における緑膿菌による呼吸器感染に伴う症状の改	蛋白合成阻害作用			ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	トブラマイシン	612	外－２	吸入液		トービイ吸入液		

６１６　主として抗酸菌に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	主として抗酸菌に作用するもの	結核菌	細胞壁合成阻害作用				ｻｲｸﾛｾﾘﾝ	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		サイクロセリン	
			葉酸合成阻害作用				ｱﾙﾐﾉﾊﾟﾗｱﾐﾉｻﾘﾁﾙ酸ｶﾙｼｳﾑ	内－２	顆粒剤		アルミノニッパスカルシウム	
							ﾊﾟﾗｱﾐﾉｻﾘﾁﾙ酸ｶﾙｼｳﾑ	内－２	顆粒剤		ニッパスカルシウム	
			ﾐｺｰﾙ酸合成阻害作用				ｲｿﾆｱｼﾞﾄﾞ	内－１ 内－２	錠剤 末剤		イスコチン	
							ｲｿﾆｱｼﾞﾄﾞﾒﾀﾝｽﾙﾎﾝ酸ﾅﾄﾘｳﾑ	内－２ 内－１	末剤 錠剤		ネオイスコチン	
							ｴﾁｵﾅﾐﾄﾞ	内－１	錠剤		ツベルミン	
							デラマニド	内－１	錠剤		デルティバ錠	
			アデノシン5’-三リン酸（ATP）合成酵素阻害作用				ベダキリンフマル酸塩	内－１	錠剤		サチュロ錠	
			核酸（RNA）合成阻害作用				ｴﾀﾝﾌﾞﾄｰﾙ塩酸塩	内－１	錠剤		エサンブトール	
			細胞内pH低下作用				ﾋﾟﾗｼﾞﾅﾐﾄﾞ	内－２	末剤		ピラマイド	
		肺結核及びその他の結核症、ＭＡＣ症を含む非結核性抗酸菌症、ハンセン病 結核症、ＭＡＣ症を含む非結核性抗酸菌症、HIV感染患者における播種性ＭＡＣ症の発症抑制	核酸（RNA)合成阻害作用				ﾘﾌｧﾝﾋﾟｼﾝ	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		リファジン	
				リファンピシン耐性結核菌のＤＮＡへのチミジン取り込み阻害作用			ﾘﾌｧﾌﾞﾁﾝ	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ミコブティン	
		らい菌	核酸（DNA)合成阻害作用				クロファジミン	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ランプレン	
2	主として抗酸菌に作用するもの	結核菌	蛋白合成阻害作用			ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系	ｽﾄﾚﾌﾟﾄﾏｲｼﾝ硫酸塩	注－１	注射薬		硫酸ストレプトマイシン	
							ｶﾅﾏｲｼﾝ硫酸塩	注－１	注射薬		硫酸カナマイシン	
						ﾍﾟﾌﾟﾀｲﾄﾞ系	ｴﾝﾋﾞｵﾏｲｼﾝ硫酸塩	注－１	注射薬		ツベラクチン	
			ﾐｺｰﾙ酸合成阻害作用				ｲｿﾆｱｼﾞﾄﾞ	注－１	注射薬		イスコチン	

６１７　主として真菌に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	薬効分類番号	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
1	主として真菌に作用するも	ｶﾝｼﾞﾀﾞ	細胞膜機能障害作用			ﾎﾟﾘｴﾝ系	ｱﾑﾎﾃﾘｼﾝB	617	内－１	錠剤		ファンギジン	非吸収性	
							ｱﾑﾎﾃﾘｼﾝB(小)	917	内－４	ｼﾛｯﾌﾟ剤				
			細胞膜合成阻害作用			ｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ系	ﾐｺﾅｿﾞｰﾙ	629	内－４	ｹﾞﾙ		フロリード		
		ｶﾝｼﾞﾀﾞ、真菌	細胞膜合成阻害作用			ﾄﾘｱｿﾞｰﾙ系	ﾌﾙｺﾅｿﾞｰﾙ	629	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		ジフルカン		
									内－３，４	ドライシロップ剤		ジフルカンドライシロップ		
							ﾎﾟﾘｺﾅｿﾞｰﾙ	617	内－１	錠剤		ブイフェンド錠		
									内－３，４	ドライシロップ剤		ブイフェンドドライシロップ		
			核酸（DNA）合成阻害作用			ﾋﾟﾘﾐｼﾞﾝ系	ﾌﾙｼﾄｼﾝ	629	内－１	錠剤		アンコチル		
		ｶﾝｼﾞﾀﾞ、皮膚糸状菌	細胞膜合成阻害作用			ｱﾘﾙｱﾐﾝ系	ﾃﾙﾋﾞﾅﾌｨﾝ塩酸塩	629	内－１	錠剤		ラミシール		
		ｶﾝｼﾞﾀﾞ、真菌、皮膚糸状菌	細胞膜合成阻害作用			ﾄﾘｱｿﾞｰﾙ系	ｲﾄﾗｺﾅｿﾞｰﾙ	629	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤		イトリゾール		
									内－３	液剤				
		皮膚糸状菌					ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物	629	内－1	カプセル剤		ネイリンカプセル	★爪白癬のみ	
		ニューモシスチス・イロベチー	ミトコンドリア電子伝達系阻害作用				ｱﾄﾊﾞｺﾝ	629	内－３	液剤		サムチレール内用懸濁液		
2	主として真菌に作用するもの	ｶﾝｼﾞﾀﾞ、真菌	細胞膜機能障害作用			ﾎﾟﾘｴﾝ系	ｱﾑﾎﾃﾘｼﾝB	617	注－１	注射薬		ファンギゾン		
							ｱﾑﾎﾃﾘｼﾝB（ﾘﾎﾟｿｰﾑ製剤）	617	注－１	注射薬		アムビゾーム点滴静注用	リポソーム製剤	
			細胞膜合成阻害作用			ｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ系	ﾐｺﾅｿﾞｰﾙ	629	注－１	注射薬		フロリード		
						ﾄﾘｱｿﾞｰﾙ系	ﾌﾙｺﾅｿﾞｰﾙ	629	注－１	注射薬		ジフルカン静注液		
							ﾎｽﾌﾙｺﾅｿﾞｰﾙ	629	注－１	注射薬		プロジフ注射液１００		
							ﾎﾟﾘｺﾅｿﾞｰﾙ	617	注－１	注射薬		ブイフェンド		
							ｲﾄﾗｺﾅｿﾞｰﾙ	629	注－１	注射薬		イトリゾール		
			細胞壁合成阻害作用			ｷｬﾝﾃﾞｨﾝ系	ﾐｶﾌｧﾝｷﾞﾝﾅﾄﾘｳﾑ	617	注－１	注射薬		ファンガード点滴		
							ｶｽﾎﾟﾌｧﾝｷﾞﾝ酢酸塩	617	注－１	注射薬		カンサイダス点滴静注用		

６２５　ウイルスに作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
1	ｳｲﾙｽに作用するもの	ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ	核酸（DNA)合成阻害作用	核酸型ポリメラーゼ阻害作用			ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	内－１ 内－２ 内－３ 内－４	錠剤 顆粒剤 ｼﾛｯﾌﾟ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		ゾビラックス		
							ﾊﾞﾗｼｸﾛﾋﾞﾙ塩酸塩	内－１ 内－２	錠剤 顆粒剤		バルトレックス		
							ﾌｧﾑｼｸﾛﾋﾞﾙ	内－１	錠剤		ファムビル錠		
				ヘリカーゼ・プライマーゼ複合体阻害作用			アメナメビル	内－１	錠剤		アメナリーフ錠		
		ｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ	核酸（DNA)合成阻害作用				ﾊﾞﾙｶﾞﾝｼｸﾛﾋﾞﾙ塩酸塩	内－１	錠剤		バリキサ錠		
								内－３，４	ドライシロップ剤		バリキサドライシロップ		
			サイトメガロウイルスターミナーゼ阻害作用				レテルモビル	内－１	錠剤		プレバイミス錠		
		B型肝炎ｳｲﾙｽ	HBV逆転写酵素阻害/HBV DNA鎖伸長阻止作用			ﾇｸﾚｵｼﾄﾞ系	ﾗﾐﾌﾞｼﾞﾝ	内－１	錠剤		ゼフィックス錠		
							ｱﾃﾞﾎﾋﾞﾙﾋﾟﾎﾞｷｼﾙ	内－１	錠剤		ヘプセラ錠		
			HBV DNA 合成阻害作用			ﾇｸﾚｵｼﾄﾞ系	ｴﾝﾃｶﾋﾞﾙ水和物	内－１	錠剤		バラクルード錠	★B型肝炎ウイルスの増殖を伴い肝機能の異常が確認されたB型慢性肝炎疾患におけるB型肝炎ウイルスの増殖抑制	
							テノホビル　ジソプロキシルフマル酸塩	内－１	錠剤		テノゼット錠		
							テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩	内－１	錠剤		ベムリディ錠		
		C型肝炎ｳｲﾙｽ	抗HCV作用				ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ ﾘﾊﾞﾋﾞﾘﾝ	内－１ 内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤		レベトールカプセル コペガス錠	★ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ α-2b，ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ α-2b又はｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ βとの併用療法のみ ★ﾍﾟｸﾞｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ α-2aとの併用療法のみ	
			抗HCV作用	HCV NS3-4Aプロテアーゼ選択的阻害作用			アスナプレビル	内－１	カプセル剤		スンベプラカプセル	インターフェロン併用不要	
							グラゾプレビル水和物	内－１	錠剤		グラジナ錠	インターフェロン併用不要	
			配合剤（HCV NS5A複製複合体阻害作用+HCV NS3-4Aプロテアーゼ選択的阻害作用）			配合剤	グレカプレビル水和物／ピブレンタスビル	内－１	錠剤		マヴィレット配合錠	インターフェロン併用不要	
			抗HCV作用	HCV NS5A複製複合体阻害作用			ダクラタスビル塩酸塩	内－１	錠剤		ダクルインザ錠	インターフェロン併用不要	
							エルバスビル	内－１	錠剤		エレルサ錠	インターフェロン併用不要	
			配合剤（HCV NS5A複製複合体阻害作用+HCV NS5Bポリメラーゼ阻害作用）			配合剤	レジパスビル　アセトン付加物／ソホスブビル	内－１	錠剤		ハーボニー配合錠	インターフェロン併用不要	
							ソホスブビル／ベルパタスビル	内－１	錠剤		エブクルーサ配合錠	インターフェロン併用不要	
			配合剤（HCV NS5A複製複合体阻害作用+HCV NS3-4Aプロテアーゼ選択的阻害作用+HCV NS5Bポリメラーゼ阻害作用）			配合剤	ダクラタスビル塩酸塩／アスナプレビル／ベクラブビル塩酸塩	内－１	錠剤		ジメンシー配合錠	インターフェロン併用不要	
			抗HCV作用	HCV NS5Bポリメラーゼ阻害作用			ソホスブビル	内－１	錠剤		ソバルディ錠	インターフェロン併用不要	
		ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ	M2蛋白機能阻害作用				ｱﾏﾝﾀｼﾞﾝ塩酸塩	内－１	錠剤		シンメトレル		

								内－２	細粒剤				
			ﾉｲﾗﾐﾆﾀﾞｰｾﾞ阻害作用				ｵｾﾙﾀﾐﾋﾞﾙﾘﾝ酸塩	内－１ 内－４	ｶﾌﾟｾﾙ剤 ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		タミフル タミフルドライシロップ		
			キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害作用				バロキサビル マルボキシル	内－１	錠剤		ゾフルーザ錠		
		ﾋﾄ免疫不全ｳｲﾙｽ	HIV逆転写酵素阻害作用			ﾇｸﾚｵｼﾄﾞ系	ｼﾞﾄﾞﾌﾞｼﾞﾝ	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		レトロビル		
							ﾗﾐﾌﾞｼﾞﾝ	内－１	錠剤		エピビル		
							ｱﾊﾞｶﾋﾞﾙ硫酸塩	内－１	錠剤		ザイアジェン		
							ﾃﾉﾎﾋﾞﾙ ｼﾞｿﾌﾞﾛｷｼﾙﾌﾏﾙ酸塩	内－１	錠剤		ビリアード錠３００ｍｇ		
							ｴﾑﾄﾘﾝﾀﾋﾞﾝ	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		エムトリバカプセル２００ｍｇ		
			配合剤（HIV逆転写酵素阻害作用）			配合剤	ジドブジン／ラミブジン	内－１	錠剤		コンビビル		
							ﾗﾐﾌﾞｼﾞﾝ/ｱﾊﾞｶﾋﾞﾙ硫酸	内－１	錠剤		エプジコム錠		
							ﾃﾉﾎﾋﾞﾙ ｼﾞｿﾌﾞﾛｷｼﾙﾌﾏﾙ酸塩/ｴﾑﾄﾘｼﾀﾋﾞﾝ	内－１	錠剤		ツルバダ錠		
							エムトリシタビン／テノホビル アラフェナミドフマル酸塩	内－１	錠剤		デシコビ配合錠		
							リルピビリン塩酸塩/エムトリシタビン/テノホビル　ジソプロキシルフマル酸塩	内－１	錠剤		コムプレラ配合錠		
							リルピビリン塩酸塩/エムトリシタビン/テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩	内－１	錠剤		オデフシィ配合錠		
			HIV逆転写酵素阻害作用			非ﾇｸﾚｵｼﾄﾞ系	ﾈﾋﾞﾗﾋﾟﾝ	内－１	錠剤		ビラミューン		
							ｴﾌｧﾋﾞﾚﾝﾂ	内－１	錠剤		ストックリン		
							ｴﾄﾗﾋﾞﾘﾝ	内－１	錠剤		インテレンス錠		
							ﾘﾙﾋﾟﾋﾞﾘﾝ塩酸塩	内－１	錠剤		エジュラント錠		
			HIVﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ阻害作用				ﾘﾄﾅﾋﾞﾙ	内－１	錠剤		ノービア		
							ﾈﾙﾌｨﾅﾋﾞﾙﾒｼﾙ酸塩	内－１	錠剤		ビラセプト		
							ﾎｽｱﾝﾌﾟﾚﾅﾋﾞﾙｶﾙｼｳﾑ水和物	内－１	錠剤		レクシウ゛ァ錠７００		
							ﾀﾞﾙﾅﾋﾞﾙ ｴﾀﾉｰﾙ付加物	内－１	錠剤		プリジスタ錠	★ﾘﾄﾅﾋﾞﾙとの併用療法（他の抗HIV治療で効果不十分な場合）	
							ﾀﾞﾙﾅﾋﾞﾙ ｴﾀﾉｰﾙ付加物	内－１	錠剤		プリジスタナイーブ錠	★ﾘﾄﾅﾋﾞﾙとの併用療法（初回治療患者限定）	
							ｱﾀｻﾞﾅﾋﾞﾙ硫酸塩	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		レイアタッツカプセル１５０ｍｇ		
			配合剤（HIVﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ阻害作用）	HIVﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞ阻害作用＋活性物質代謝拮抗作用		配合剤	ﾛﾋﾟﾅﾋﾞﾙ/ﾘﾄﾅﾋﾞﾙ	内－１ 内－３	錠剤 液剤		カレトラ		
							ダルナビル エタノール付加物／コビシスタット	内－１	錠剤		プレジコビックス配合錠		
			HIVｲﾝﾃｸﾞﾗｰｾﾞ阻害作用				ﾗﾙﾃｸﾞﾗﾋﾞﾙｶﾘｳﾑ	内－１	錠剤		アイセントレス錠	400mg錠：1回1錠1日2回投与 600mg錠：1回2錠1日1回投与	
							ドルテグラビルナトリウム	内－１	錠剤		テビケイ錠		
			配合剤（HIVインテグラーゼ阻害作用＋ヌクレオシド系HIV逆転写酵素阻害作用）			配合剤	ドルテグラビルナトリウム／アバカビル硫酸塩／ラミブジン	内－１	錠剤		トリーメク配合錠		
							ビクテグラビルナトリウム／エムトリシタビン／テノホビル アラフェナミドフマル酸塩	内－１	錠剤		ビクタルビ配合錠		

			配合剤（HIVｲﾝﾃｸﾞﾗｰｾﾞ阻害作用＋活性物質代謝拮抗作用＋ヌクレオシド系HIV逆転写酵素阻害作用）			配合剤	ｴﾙﾋﾞﾃｸﾞﾗﾋﾞﾙ/ｺﾋﾞｼｽﾀｯﾄ/ｴﾑﾄﾘｼﾀﾋﾞﾝ/ﾃﾉﾎﾋﾞﾙ ｼﾞｿﾌﾟﾛｷｼﾙﾌﾏﾙ酸塩	内－１	錠剤		スタリビルド配合錠		
							ｴﾙﾋﾞﾃｸﾞﾗﾋﾞﾙ/ｺﾋﾞｼｽﾀｯﾄ/ｴﾑﾄﾘｼﾀﾋﾞﾝ/ﾃﾉﾎﾋﾞﾙ ｱﾗﾌｪﾅﾐﾄﾞﾌﾏﾙ酸塩	内－１	錠剤		ゲンボイヤ配合錠		
			配合剤（HIVインテグラーゼ阻害作用＋非ヌクレオシド系HIV逆転写酵素阻害作用）			配合剤	ドルテグラビルナトリウム／リルピビリン塩酸塩	内－１	錠剤		ジャルカ配合錠		
		SSPEｳｲﾙｽ	核酸(RNA)合成阻害作用				ｲﾉｼﾝﾌﾟﾗﾉﾍﾟｸｽ	内－１	錠剤		イソプリノシン		
		CCR5指向性HIV－1	CCｹﾓｶｲﾝ受容体5（CCR5）阻害作用				ﾏﾗﾋﾞﾛｸ	内－１	錠剤		シーエルセントリ錠		
2	ｳｲﾙｽに作用するもの	ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ	核酸（DNA)合成阻害作用				ｱｼｸﾛﾋﾞﾙ	注－１	注射薬		ゾビラックス		
								注－２	キット				
							ﾋﾞﾀﾞﾗﾋﾞﾝ	注－１	注射薬		アラセナーＡ		
		ｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ	核酸（DNA)合成阻害作用				ｶﾞﾝｼｸﾛﾋﾞﾙ塩酸塩	注－１	注射薬		デノシン		
							ﾎｽｶﾙﾈｯﾄﾅﾄﾘｳﾑ水和物	注－１	注射薬		ホスカビル		
			サイトメガロウイルスターミナーゼ阻害作用				レテルモビル	注－１	注射薬		プレバイミス点滴静注		
		RSｳｲﾙｽ	タンパク質合成阻害作用			ﾋﾄ/ﾏｳｽｷﾒﾗ型ﾓﾉｸﾛﾅｰﾙ抗体	ﾊﾟﾘﾋﾞｽﾞﾏﾌﾞ（遺伝子組換え）	注－１	注射薬		シナジス筋注用５０ｍｇ		
		A型又はB型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ感染症	ﾉｲﾗﾐﾆﾀﾞｰｾﾞ阻害作用				ﾍﾟﾗﾐﾋﾞﾙ水和物	注－１	注射薬		ラピアクタ点滴用バイアル ラピアクタ点滴用バッグ		
3	ｳｲﾙｽに作用するもの	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞｳｲﾙｽ	ﾉｲﾗﾐﾆﾀﾞｰｾﾞ阻害作用				ｻﾞﾅﾐﾋﾞﾙ水和物	外－２	吸入剤		リレンザ		
							ラニナミビルオクタン酸エステル水和物	外－９	吸入剤(キット)		イナビル		

６３１－６３３　ワクチン類、毒素及びﾄｷｿｲﾄﾞ類、抗毒素類

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	ﾜｸﾁﾝ類	肺炎球菌感染症の予防	抗肺炎球菌抗体産生作用				肺炎球菌ワクチン	注－1	注射薬		ニューモバックス	
		狂犬病の予防	抗狂犬病ウイルス抗体産生作用				乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	注－1	注射薬		組織培養不活性化狂犬病ワクチン	
		Ｂ型肝炎の予防	抗HBs抗体産生作用				組換え沈降Ｂ型肝炎ワクチン（酵母由来）	注－1	注射薬		ヘプタバックスーⅡ	
								注－2	キット		ヘプタバックスーⅡ水性懸濁注シリンジ	
							組換え沈降Ｂ型肝炎ワクチン（チャイニーズ・ハムスター卵巣細胞由来）	注－1	注射薬		ｒ－ＨＢワクチン	
		侵襲性髄膜炎菌感染症の予防	抗髄膜炎菌抗体産生作用				４価髄膜炎菌ワクチン（ジフテリアトキソイド結合体）	注－1	注射薬		メナクトラ筋注	
	毒素及びﾄｷｿｲﾄﾞ類	破傷風の予防	抗破傷風菌抗体産生作用				沈降破傷風トキソイド	注－1 注－2	注射薬 キット		沈降破傷風トキソイド 沈降破傷風トキソイドキット	
	抗毒素類	ジフテリアの治療	ジフテリア毒素の中和作用				乾燥ジフテリアウマ抗毒素	注－1	注射薬		乾燥ジフテリア抗毒素	
		破傷風の治療・予防	破傷風毒素の中和作用				乾燥破傷風ウマ抗毒素	注－1	注射薬		乾燥破傷風ウマ抗毒素	
		ボツリヌス感染症の治療・予防	ボツリヌス毒素の中和作用				乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	注－1	注射薬		乾燥Ａ．Ｂ．Ｅ．Ｆボツリヌスウマ抗毒	
		はぶ咬傷治療	はぶ毒素の中和作用				乾燥はぶウマ抗毒素	注－1	注射薬		乾燥はぶウマ抗毒素	
		まむし咬傷治療	まむし毒素の中和作用				乾燥まむしウマ抗毒素	注－1	注射薬		乾燥まむしウマ抗毒	
		クロストリジウム・ディフィシル感染症の再発抑制	クロストリジウム・ディフィシル産生トキシンBの中和作用				ベズロトクスマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ジーンプラバ点滴静注	

６３４　輸血用血液製剤・血漿分画製剤・血球由来製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	備考	線引き
2	輸血用血液製	輸血適応症	全血液成分の補充			全血製剤	人全血液	注－1	注射薬		人全血液-LR「日赤」		
							人全血液（放射線照射）	注－1	注射薬		照射人全血液-LR「日		
		血中赤血球不足 （貧血症等）	赤血球の補充			赤血球製剤	人赤血球濃厚液	注－1	注射薬		赤血球濃厚液-LR「日		
							解凍人赤血球濃厚液	注－1	注射薬		解凍赤血球-LR「日赤」		
							人赤血球濃厚液（放射線照射）	注－1	注射薬		照射赤血球濃厚液-LR「日赤」		
							解凍人赤血球濃厚液（放射線照射）	注－1	注射薬		照射解凍赤血球-LR「日赤」		
		血漿成分による副作用を避ける場合の輸血	赤血球の補充			赤血球製剤	洗浄人赤血球浮遊液	注－1	注射薬		洗浄赤血球-LR「日赤」		
							洗浄人赤血球浮遊液（放射線照射）	注－1	注射薬		照射洗浄赤血球-LR「日赤」		
		ABO型血液型不適合による新生児溶血性疾患	赤血球の補充			合成血製剤	合成血	注－1	注射薬		合成血-LR「日赤」		
							合成血（放射線照射）	注－1	注射薬		照射合成血-LR「日赤」		
		血小板減少症	血小板の補充			血小板製剤	人血小板濃厚液	注－1	注射薬		濃厚血小板		
							人血小板濃厚液（放射線照射）	注－1	注射薬		照射濃厚血小板		
		抗HLA抗体陽性血小板減少症	血小板の補充			血小板製剤	人血小板濃厚液HLA	注－1	注射薬		濃厚血小板HLA		
							人血小板濃厚液HLA（放射線照射）	注－1	注射薬		照射濃厚血小板HLA		
		循環血漿量減少の改善				血漿製剤	新鮮凍結人血漿	注－1	注射薬		新鮮凍結血漿-LA「日赤」	晶質液、膠質液の使用で十分な効果が得られず緊急を要する場合,★血液凝固因子障害に基づく出血	
	血漿分画製剤	低アルブミン血症	循環血漿量の確保			アルブミン製剤	加熱人血漿たん白	注－1	注射薬		プラスマネート／プラズマプロテインフラクション	★出血性ｼｮｯｸ	
							人血清アルブミン	注－1	注射薬		アルブミン	★出血性ｼｮｯｸ	
							人血清アルブミン（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		メドウェイ	★出血性ｼｮｯｸ	
		ウイルス性疾患の予防	抗体活性	抗原中和作用		グロブリン製剤	人免疫グロブリン	注－1	注射薬		ガンマグロブリン	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症、重症感染症における抗生物質との併用	
		重症感染症における抗生物質との併用	抗体活性	抗原中和作用/貪食増強作用/免疫調整作用		グロブリン製剤	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	注－1	注射薬		献血グロブリン注射用	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症	
							乾燥スルホ化人免疫グロブリン	注－1	注射薬		献血ベニロン-I静注用	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症、特発性血小板減少性紫斑病、川崎病急性期、ｷﾞﾗﾝﾊﾞﾚｰ症候群	
							乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	注－1	注射薬		献血グロベニン-I静注用	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症、特発性血小板減少性紫斑病、川崎病急性期	
							ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	注－1	注射薬		献血ヴェノグロブリンIH静注	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症、特発性血小板減少性紫斑病、川崎病急性期	
							乾燥pH4処理人免疫グロブリン	注－1	注射薬		サングロポール点滴静注用	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症、特発性血小板減少性紫斑病	
							pH4処理酸性人免疫グロブリン	注－1	注射薬		日赤ポリグロビンN静注	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症、特発性血小板減少性紫斑病、川崎病急性期	
							乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	注－1	注射薬		ガンマガード静注用	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症	
							pH4処理酸性人免疫グロブリン（皮下注射）	注－1	注射薬		ハイゼントラ皮下注	★低/無ｶﾞﾝﾏｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ血症	
		破傷風の発症予防・症状軽減	抗破傷風抗体活性	破傷風毒素中和作用		抗破傷風グロブリン製剤	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	注－1	注射薬				
							抗破傷風人免疫グロブリン	注－1	注射薬				

								注－2	キット		テタガムP筋注シリンジ		
							ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン	注－1	注射薬		テタノブリン-IH		
		B型肝炎発症予防	抗HBs抗体活性	HBV中和作用		抗HBsグロブリン製剤	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	注－1	注射薬		ヘブスブリン/乾燥HBグロブリン		
							抗HBs人免疫グロブリン	注－1	注射薬		ヘパトセーラ/抗HBs人免疫グロブリン		
							乾燥ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン	注－1	注射薬		ヘブスブリン-I		
		母体血中での抗D抗体の産生抑制	抗D抗体抑制作用	抗D抗体産生抑制作用		抗Dグロブリン製剤	乾燥抗D（Rho）人免疫グロブリン	注－1	注射薬		乾燥抗D人免疫ｸﾞﾛﾌﾞﾘﾝ		
		血液凝固因子障害に基づく出血	止血作用	血液凝固第VIII因子の補充		血液凝固第VIII因子	乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子	注－1	注射薬		クロスエイトMC静注用 コンコエイト-HT コンファクトF注射用		
						血液凝固第VIII因子（遺伝子組換え）	オクトコグ　アルファ（遺伝子組換え）	注－2	キット		コージネイトFSバイオセット注		
							ルリオクトコグ　アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		アドベイト注射用		
							ツロクトコグ アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ノボエイト静注用		
							エフラロクトコグ　アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		イロクテイト静注用		
							オクトコグ　ベータ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		コバールトリイ静注用		
							ルリオクトコグ アルファペゴル（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		アディノベイト静注用		
								注－2	キット		アディノベイト静注用キット		
							ロノクトコグ アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		エイフスチラ静注用		
							ダモクトコグアルファペゴル（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ジビイ静注用		
				血液凝固第VIII因子の補因子機能の代替		活性型血液凝固第IX因子と血液凝固第X因子に対するヒト化二重特異性抗体	エミシズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ヘムライブラ皮下注		
				血液凝固第VIII、IX因子迂回作用		血液凝固抗体迂回活性複合体製剤	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	注－1	注射薬		ファイバ「イムノ」		
						活性化人血液凝固第VII因子、人血液凝固第X因子	乾燥濃縮人血液凝固第X因子加活性化第VII因子	注－1	注射薬		バイクロット配合静注用		
						血液凝固第VII因子製剤（遺伝子組換え）	エプタコグ　アルファ（活性型）（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		注射用ﾉﾎﾞｾﾌﾞﾝ		
				血液凝固第IX因子の補充		血液凝固第IX因子製剤	乾燥濃縮人血液凝固第IX因子	注－1	注射薬		ノバクト-M/クリスマシン-M		
							ノナコグアルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ベネフィクス		
							エフトレノナコグ　アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		オルプロリクス静注用		
							ノナコグ　ガンマ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		リクスビス静注用		
							アルプトレペノナコグ アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		イデルビオン静注用		
							ノナコグ ベータ ペゴル（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		レフィキシア静注用		
						血液凝固第IX因子複合体製剤	乾燥人血液凝固第IX因子複合体	注－1	注射薬		PPSB-HT		
						血液凝固第XIII因子	ヒト血漿由来乾燥血液凝固第XIII因子	注－1	注射薬		フィブロガミンP		
				血液凝固第XIII因子Aサブユニットの補充		血液凝固第XIII因子Aサブユニット	カトリデカコグ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ノボサーティーン静注用		
				フィブリノーゲンの補充		フィブリノーゲン製剤	乾燥人フィブリノゲン	注－1	注射薬		フィブリノゲン-HT		

		ビタミンK拮抗薬投与中の患者における出血	止血作用	血液凝固第Ⅱ、第Ⅶ、第Ⅸ、第Ⅹ因子の補充		人プロトロンビン複合体製剤	乾燥濃縮人プロトロンビン複合体	注－1	注射薬		ケイセントラ静注用		
		アンチトロンビン欠乏・低下症	血栓形成抑制作用	トロンビン活性阻害作用		アンチトロンビン製剤	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	注－1	注射薬		アンスロビンP		
							アンチトロンビン　ガンマ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		アコアラン静注用		
		先天性ﾌﾟﾛﾃｲﾝC欠乏症による深部静脈血栓症等	血栓形成局所で抗凝固作用、線溶亢進作用	活性化ﾌﾟﾛﾃｲﾝCの補充		活性化プロテインC製剤	乾燥濃縮人活性化プロテインC	注－1	注射薬		注射用アナクトC		
		遺伝性血管神経性浮腫	血管透過性亢進の抑制作用	活性化補体第1成分阻止作用		C1インアクチベータ製剤	乾燥濃縮人C1−インアクチベーター	注－1	注射薬		ベリナートP		
		ヘモグロビン血症・尿症	遊離ヘモグロビンの処理作用	ハプトグロビン−ヘモグロビン複合体の生成		ハプトグロビン製剤	人ハプトグロビン	注－1	注射薬		ハプトグロビン		
		気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患	配合剤（好酸球浸潤抑制作用）	ヒスタミン耐性獲得作用+ヒスタミン遊離抑制作用		配合剤	ヒスタミン加人免疫グロブリン（乾燥）	注－1	注射薬		ヒスタグロビン		
	血球由来製剤	急性ポルフィリン症患者における急性発作症状の改善	δ－アミノレブリン酸合成酵素活性阻害作用			ヒトヘミン製剤	ヘミン	注－1	注射薬		ノーモサング点滴静注		

６３９　インターフェロン類

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝ類	ウイルス性肝炎	抗ウイルス作用	ウイルス蛋白合成阻害作用、免疫賦活作用		天然型インターフェロンアルファ	インターフェロン アルファ（NAMALWA）	注－１	注射薬		スミフェロン	
						遺伝子組換え型ペグインターフェロンアルファ	ペグインターフェロン アルファ－2a（遺伝子組換え）	注－１	注射薬		ペガシス皮下注90μｇ	
							ペグインターフェロン アルファ－2b（遺伝子組換え）	注－１	注射薬		ペグイントロン皮下注用	
						天然型インターフェロンベータ	インターフェロン ベータ	注－１	注射薬		フエロン／IFNβ	
		多発性硬化症の再発予防	症状進行抑制作用	T細胞ｻﾌﾟﾚｯｻｰ機能改善/ｲﾝﾀｰﾌｪﾛﾝγ産生抑制作用		遺伝子組換え型インターフェロンベータ	インターフェロン ベーター1b（遺伝子組換え）	注－１	注射薬		ベタフェロン皮下注	
							インターフェロン ベーター1a（遺伝子組換え）	注－２	キット		アボネックス筋注用	
		悪性腫瘍	抗腫瘍作用	腫瘍細胞増殖抑制作用、免疫賦活作用		遺伝子組換え型インターフェロンガンマ	インターフェロン ガンマ-1a（遺伝子組換え）	注－１	注射薬		イムノマックスーγ／ビオガンマ	
						インターロイキン2製剤	テセロイキン（遺伝子組換え）	注－１	注射薬		イムネース	

６３９　その他の生物学的製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	その他の生物学的製剤	再生不良性貧血	免疫抑制作用	T細胞抑制作用		ウサギ免疫グロブリン製剤	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン	注－1	注射薬		サイモグロブリン点滴静注用	
		腎移植に伴なう拒否反応	腎移植に伴なう拒否反応	T細胞抑制作用		ヒト／マウスキメラ型モノクロナール抗体	バシリキシマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		シムレクト静注用20mg	
								注－1	注射薬		シムレクト小児用静注用10mg	
		発作性夜間ヘモグロビン尿症における溶血	ヒト補体蛋白（hc5）と結合することによりC5の開裂を阻害し、C5b-9の生成を抑制（溶血抑制）				エクリズマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		ソリリス点滴静注	

６４１　原虫に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	原虫に作用するもの	ﾏﾗﾘｱ原虫	核酸(DNA)障害作用			ｷﾆｰﾈ製剤	キニーネエチル炭酸エステル	内－２	末剤		エチル炭酸キニーネ	
							キニーネ塩酸塩	内－２	末剤		塩酸キニーネ	
							キニーネ硫酸塩	内－２	末剤		硫酸キニーネ	
			ヘム重合阻害作用				メフロキン塩酸塩	内－１	錠剤		メファキン「エスエス」錠275	
	配合剤（原虫に作用するもの）	ﾏﾗﾘｱ原虫	ミトコンドリア電子伝達系阻害作用＋ジヒドロ葉酸レダクターゼ阻害作用			配合剤	アトバコン／プログアニル塩酸塩	内－１ 内－１	錠剤 錠剤		マラロン配合錠 マラロン小児用配合錠	
			反応性代謝物産生＋ヘム重合阻害作用			配合剤	アルテメテル／ルメファントリン	内－１	錠剤		リアメット配合錠	
	原虫に作用するもの	ﾄﾘｺﾓﾅｽ原虫	核酸(DNA)障害作用				メトロニダゾール	内－１	錠剤		フラジール	
							チニダゾール	内－１	錠剤		ハイシジン	
		腸管ｱﾒｰﾊﾞ	蛋白合成阻害作用				パロモマイシン硫酸塩	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		アメパロモカプセ	
		三日熱マラリア及び卵形マラリア	休眠体原虫に対するミトコンドリア電子伝達系阻害作用、活性酸素による酸化的				プリマキンリン酸塩	内－１	錠剤		プリマキン錠15mg「サノフィ」	
		トキソプラズマ	蛋白合成阻害作用				スピラマイシン	内－１	錠剤		スピラマイシン錠150万単位「サノフィ」	
2	原虫に作用するもの	ﾆｭｰﾓｼｽﾁｽ･ｶﾘﾆ	ｸﾞﾙｺｰｽ代謝抑制作用				ペンタミジンイセチオン酸塩	注－１	注射薬		ベナンバックス	
		偏性嫌気性菌/アメーバ赤痢	核酸（DNA）障害作用				メトロニダゾール	注－１	注射薬		アネメトロ点滴静注液	
	配合剤（原虫に作用するも	ﾆｭｰﾓｼｽﾁｽ･ｶﾘﾆ	葉酸合成阻害作用 +葉酸活性抑制作用			配合剤	スルファメトキサゾール／トリメトプリム	注－１	注射薬		バクトラミン	

６４２　寄生虫に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	寄生虫に作用するもの	吸虫	膜構造不安定化作用				ﾌﾟﾗｼﾞｶﾝﾃﾙ	内－１	錠剤		ビルトリシド錠	
		回虫	運動性消失作用			ｻﾝﾄﾆﾝ系	ｻﾝﾄﾆﾝ	内－２	末剤		サントニン原末	
		ﾌｨﾗﾘｱ	酸素消費抑制作用			ﾋﾟﾍﾟﾗｼﾞﾝ	ｼﾞｴﾁﾙｶﾙﾊﾞﾏｼﾞﾝｸｴﾝ酸塩	内－１	錠剤		スパトニン錠	
		包虫	微小管形成阻害作用			ﾍﾞﾝｽﾞｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ系	ｱﾙﾍﾞﾝﾀﾞｿﾞｰﾙ	内－１	錠剤		エスカゾール錠	
		糞線虫	細胞膜過分極作用			ｱﾍﾞﾙﾒｸﾁﾝ系	ｲﾍﾞﾙﾒｸﾁﾝ	内－１	錠剤		ストロメクトール錠	
		鞭虫	微小管形成阻害作用			ﾍﾞﾝｽﾞｲﾐﾀﾞｿﾞｰﾙ系	ﾒﾍﾞﾝﾀﾞｿﾞｰﾙ	内－１	錠剤		メベンダゾール錠	
		蟯虫、回虫、鉤虫、条虫	蛋白凝固作用			ﾁﾓｰﾙ系	ﾁﾓｰﾙ	内－２	末剤		チモール	
		蟯虫、回虫、鉤虫、東洋毛様線虫	神経-筋伝達遮断作用				ﾋﾟﾗﾝﾃﾙﾊﾟﾓ酸塩	内－１	錠剤		コンバントリン錠	
								内－４	ﾄﾞﾗｲｼﾛｯﾌﾟ剤		コンバントリンドライシロップ	
3	寄生虫に作用するもの	疥癬虫	神経遮断作用	細胞膜脱分極作用		ピレスロイド系	フェノトリン	外－１	ローション剤		スミスリンローション	

721・729・799　造影用剤　（放射性医薬品を除く）

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	造影用剤	消化管造影					アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン	内-3	液剤	経口投与又は注腸	ガストログラフィン	
							硫酸バリウム	内-2	散剤	経口投与又は注	ウムブラゾルーA	
								内-3	液剤	経口投与又は注	バリトップゾル	
						配合剤	硫酸バリウム／炭酸ガス	内-3	液剤		バリトップ	
							クエン酸鉄アンモニウム	内-2	散剤	溶解し服用	フェリセルツ	
							塩化マンガン四水和物	内-3	液剤	経口投与	ボースデル	
		消化管造影補助	発泡作用			糖類	Dーソルビトール	内-3 内-2	液剤 散剤	X線造影剤に添加し服用	Dーソルビトール液 Dーソルビトール	
		配合剤（消化管造影補助）				配合剤	炭酸水素ナトリウム／酒石酸	内-2	顆粒	経口投与	ガストラストK	
		胃内視鏡検査における胃内粘液の溶解除去	蛋白分解作用				プロナーゼ	内-2	散剤	水に溶かし経口投与	プロナーゼMS	
		大腸コンピューター断層撮像の補助	X線吸収作用				硫酸バリウム	内-3	液剤	経口投与	コロンフォート内用懸濁液	
2	造影用剤	尿路・血管造影				イオン性	アミドトリゾ酸メグルミン	注-1	注射薬	適宜点滴静注な	アンギオグラフイン	
							イオタラム酸ナトリウム	注-1	注射薬		コンレイ400注	
							イオタラム酸メグルミン	注-1	注射薬		DIPコンレイ注	
							アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン	注-1	注射薬	適宜点滴静注など	ウログラフイン60%	
							イオキサグル酸	注-1	注射薬	（一部点滴）	ヘキサブリックス320	
						非イオン性	イオパミドール	注-1 注-2	注射薬 キット		イオパミロン150 モイオパミン300シリンジ	
							イオヘキソール	注-1 注-2	注射薬 キット		オムニパーク140 オムニパーク240シリン	
							イオベルソール	注-1 注-2	注射薬 キット		オプチレイ160 オプチレイ240シリンジ	
							イオメプロール	注-1 注-2	注射薬 キット		イオメロン300 イオメロン300シリンジ	
							イオプロミド	注-1 注-2	注射薬 キット		プロスコープ150 プロスコープ300シリンジ	
							イオジキサノール	注-1	注射薬		ビジパーク	
		子宮卵管、関節、脊髄撮影				非イオン性	イオトロラン	注-1	注射薬	撮影部位に投与	イソビスト	
		胆のう・胆管造影				イオン性	イオトロクス酸メグルミン	注-1	注射薬	点滴静注	ビリスコピンDIC50	
		リンパ、子宮卵管撮影				油性	ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	注-1	注射薬	末梢ﾘﾝﾊﾟ管内に注入ほか	リピオドールウルトラフルイド	
		脳・脊髄、躯幹部・四肢の造影				イオン性	ガドペンテト酸メグルミン	注-1 注-2	注射薬 キット	静注	マグネビスト マグネビストシリンジ	
							ガドテル酸メグルミン	注-2	キット		マグネスコープシリンジ	
						非イオン性	ガドジアミド水和物	注-1 注-2	注射薬 キット	静注	オムニスキャン オムニスキャンシリンジ	
							ガドテリドール	注-1 注-2	注射薬 キット	静注	プロハンス注 プロハンス静注シリンジ	
							ガドブトロール	注-2	キット	静注	ガドビスト静注1.0mol/Lシリンジ	

		肝臓造影				超常磁性酸化鉄コロイド	フェルカルボトラン	注-1	注射薬	静注	リゾビスト	
							ガドキセト酸ナトリウム	注-1	注射薬	静注	EOB・プリモビスト	
		肝腫瘤性病変の造影	共振作用				ペルフルブタン	注-1	注射薬	静注	ソナゾイド	
		心エコー図検査における造影	配合剤（消失作用）			配合剤	ガラクトース／パルミチン酸	注-1	注射薬	静注	レボビスト	
3	造影用剤	脳血流の測定					キセノン吸入剤（非放射性）	外-2	吸入剤	専用吸入装置に装着し使用。吸	ゼノンコールド	
		注腸消化管造影					アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミ	外-7	液剤	注腸	ガストログラフィン	
							硫酸バリウム	外-7	液剤	注腸	バリエネマLC	
			配合剤			配合剤	硫酸バリウム／炭酸ガス	外-7	液剤	注腸	バリトップ	

722 検査用試薬 ・ 729診断用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	検査用試薬・診断用薬	膵外分泌機能検査					ベンチロミド	内－３	液剤		膵外分泌機能検査用PFD内服液	
		下垂体ACTH分泌予備能の測定	ACTH分泌作用				メチラポン	内－１	ｶﾌﾟｾﾙ剤		メトピロンカプセル	
		糖尿病診断時の糖負荷試験	インスリン分泌作用				デンプン部分加水分解物液	内－３	液剤		トレーランG液	
		ヘリコバクター・ピロリの感染診断					尿素（13C）	内－１	錠剤		ユービット錠	
		悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍組織の可視化	腫瘍細胞内への蓄積				アミノレブリン酸塩酸塩	内－２	末剤		アラベル内用剤 アラグリオ内用剤	
		経尿道的膀胱腫瘍切除術時における筋層非浸潤性膀胱癌の可視化	腫瘍細胞内への蓄積				アミノレブリン酸塩酸塩	内－２	顆粒剤		アラグリオ顆粒剤分包	
2	検査用試薬・診断用薬	下垂体LH分泌機能検査	視床下部作用	ゴナドトロピン分泌作用			ゴナドレリン酢酸塩	注－１	注射薬		LH－RH注射液タナベ	
		下垂体TSH分泌機能検査／下垂体プロラクチン分泌機能検査		TSH、プロラクチン分泌作用			酒石酸プロチレリン	注－１	注射薬		ヒルトニン注射液	
							プロチレリン	注－１	注射薬		TRH注射液タナベ	
		副腎皮質機能検査	ACTH分泌作用				テトラコサクチド酢酸塩	注－１	注射薬			
							テトラコサクチド酢酸亜鉛	注－１	注射薬			
		下垂体機能検査	視床下部作用	成長ホルモン分泌刺激作用			アルギニン塩酸塩	注－１	注射薬		アルギニン注「モリシタ」	
		下垂体成長ホルモン分泌機能検査					ソマトレリン酢酸塩	注－１	注射薬		注射用GRF住友50	
		成長ホルモン分泌不全症の診断					プラルモレリン塩酸塩	注－１	注射薬		注射用GHRP科研100	
		成長ホルモン分泌機能検査、インスリノーマ診断、肝糖原検査	グリコーゲン分解および糖新生作用	アデニル酸シクラーゼ活性化作用			グルカゴン	注－１	注射薬			
		視床下部・下垂体・副腎皮質系ホルモン分泌機能検査	ACTH分泌作用	ACTHおよび副腎皮質糖質ステロイドホルモン分泌作用			コルチコレリン（ヒト）	注－１	注射薬		ヒトCRH注「ミツビシ」	
		結核診断検査	ツベルクリン反応				精製ツベルクリン	注－１	注射薬		一般／確認診断用精製ツベルクリン（PPD）	
		Ellsworth-Howard試験（副甲状腺機能検査）					テリパラチド酢酸塩	注－１	注射薬		ヒトPTH注（旭化成）	
		肝機能検査	肝排泄作用				インドシアニングリーン	注－１	注射薬		ジアグノグリーン注	
		腎機能検査	尿中排泄作用				インジゴカルミン	注－１	注射薬		インジゴカルミン注第一	
							パラアミノ馬尿酸ナトリウム	注－１	注射薬		パラアミノ馬尿酸ソーダ注射液10％	
							フェノールスルホンフタレイン	注－１	注射薬		フェノールスルホンフタレイン注第一	
			糸球体ろ過作用				イヌリン	注－１	注射薬		イヌリード注	
		重症筋無力症の診断、筋弛緩剤投与後の遷延性呼吸抑制の作用機序の鑑別診断	コリンエステラーゼ阻害作用				エドロホニウム塩化物	注－１	注射薬		アンチレクス	
		アレルギー性疾患のアレルゲンの確認	アレルギー反応				診断用アレルゲンエキス	注－１	注射薬		診断用アレルゲンエキス「トリヰ」	
							診断用コナヒョウヒダニエキス及びヤケヒョウヒダニエキス	注－１	注射薬		スクラッチダニアレルゲンエキス「トリイ」	
		アレルゲンによる皮膚反応の陽性対照					ヒスタミン二塩酸塩	注－１	注射薬		アレルゲンスクラッチエキス陽性対照液「トリイ」ヒスタミン二塩酸塩	
		ぶどう膜・網膜・視神経等の疾患の診断					フルオレセイン	注－１	注射薬		フルオレサイト注射液1号	
		網脈絡膜血管の造影					インドシアニングリーン	注－１	注射薬		オフサグリーン静注用	
		褐色細胞腫の診断	エピネフリンによる昇圧遮断作用	α受容体遮断作用			フェントラミンメシル酸塩	注－１	注射薬		レギチーン注射液	
		コンピューター断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善		選択的β１受容体遮断作用			ランジオロール塩酸塩	注－１	注射薬		コアベータ静注用	

3	検査用試薬・診断用薬	アレルギー性鼻炎及び気管支喘息のアレルゲンの確認	アレルギー反応				ハウスダストアレルゲン	外			アレルゲンディスク「トリイ」ハウスダスト	
		アレルギー性鼻炎及び気管支喘息のアレルゲンの確認	アレルギー反応				ブタクサアレルゲン	外			アレルゲンディスク「トリイ」ブタクサ花粉	
		アレルギー性皮膚疾患のアレルゲンの確認	アレルギー反応				パッチテスト用アレルゲン	外			パッチテスト試薬、パッチテストパネル（S）	
		外眼部・前眼部及び涙器疾患の検査					フルオレセインナトリウム	外			フルオル試験紙	
		気道過敏性検査	アセチルコリン受容体刺激作用				メタコリン塩化物	外			プロボコリン吸入粉末溶解用 ケンブラン吸入粉末溶解用	

229・799　その他に分類されない治療を主目的としない医薬品

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	その他に分類されない治療を主目的としない医薬品	ニコチン依存症の喫煙者に対する禁煙の補助	α4β2ニコチン受容体部分作動作用				バレニクリン酒石酸塩	内－1	錠剤		チャンピックス	
		上部消化管内視鏡検査における胃蠕動運動の抑制	胃の蠕動運動抑制作用				l−メントール	内－3	液剤		ミンクリア内用散布液0.8%	
2	その他に分類されない治療を主目的としない医薬品	心臓外科手術時心筋保護	配合剤（心筋保護作用）			配合剤	塩化ナトリウム・塩化カリウム配合剤	注－1	注射薬		ミオテクター	
		心筋血流シンチグラフィによる心臓疾患の診断を行う場合の負荷誘導	血管拡張作用				アデノシン	注－1	注射薬		アデノスキャン注60mg	
		分化型甲状腺癌で甲状腺全摘又は準全摘術を施行された患者における、放射性ヨウ素シンチグラフィーと血清サイログロブリン（Tg）試験の併用又はTg試験単独による診断の補助	甲状腺由来細胞へのヨウ素摂取促進作用並びに甲状腺ホルモン及びTg産生促進作用				ヒトチロトロピン　アルファ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		タイロゲン筋注用	
3	その他に分類されない治療を主目的としない医薬品	外科用接着	重合硬化作用				シアノアクリレート液	外－1	液剤		アロンアルファA「三共」	
		癒着防止	癒着防止作用				ゼラチン	外－5	貼付剤		ゼルフィルム	
		組織接着	配合剤（フィブリン塊生成作用）			配合剤	フィブリノゲン加第XIII因子	外－9	キット		ベリプラストP　コンビセット	
							フィブリノゲン配合剤	外－5	貼付剤		タコシール	
		吸入用呼吸器官用剤の溶解剤	界面活性作用				チロキサポール	外－2	吸入剤		アレベール	
		禁煙の補助	ニコチン経皮吸収による禁煙時の離脱症状軽減作用				ニコチン	外－5	貼付剤		ニコチネル	

811 あへんアルカロイド系製剤 ・ 812 コカアルカロイド系製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	アヘンアルカロイド系製剤	激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管ぜん動運動の抑制	鎮痛作用	消化管平滑筋を収縮,胃及び腸管運動抑制作用			アヘン	内－2 内－2 内－3	末剤 散剤 液剤		アヘン末 アヘン散 アヘンチンキ	
		激しい咳嗽発作における鎮咳／肺結核、急・慢性気管支炎、肺がん、塵肺時等の鎮咳	鎮咳作用	咳嗽中枢に対する抑制作用			コデインリン酸塩	内－2 内－2 内－1	末剤 散剤 錠剤		リン酸コデイン リン酸コデイン10倍散 リン酸コデイン錠	
							ジヒドロコデインリン酸塩	内－2 内－2	末剤 散剤		リン酸ジヒドロコデイン	
							オキシメテバノール	内－1	錠剤		メテバニール錠	
		癌性疼痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			モルヒネ塩酸塩	内－2 内－1 内－1 内－3 内－1 内－3	末剤 錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 液剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 液剤		塩酸モルヒネ	
							アヘンアルカロイド塩酸塩（モルヒネ47～52%,他のアルカロイド33～38.5%）	内－2	末剤		パンオピン「タケダ」	
							エチルモルヒネ塩酸塩	内－2	末剤		塩酸エチルモルヒネ	
							モルヒネ硫酸塩	内－1 内－1 内－2 内－2	錠剤 ｶﾌﾟｾﾙ剤 顆粒剤 細粒剤		MSコンチン錠 カディアンカプセル カディアンスティック	
							オキシコドン塩酸塩	内－1 内－2	錠剤 散剤		オキシコンチン錠 オキノーム散	
							ヒドロモルフォン塩酸塩	内－1	錠剤		ナルラピド錠 ナルサス錠	
		次の呼吸器疾患に伴う咳嗽：肺結核,急・慢性気管支炎,肺がん,塵肺,感冒	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			オキシメテバノール	内－1	錠剤		メテバニール錠	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静,激しい咳嗽発作における鎮咳,激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管ぜん動運動の抑制	配合剤（鎮痛作用）	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		配合剤	アヘン／トコン	内－2	散剤		ドーフル散	

2	アヘンアルカロイド系製剤	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい、中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			モルヒネ塩酸塩	注－1 注－2	注射薬 キット		塩酸モルヒネ注射液	
							アヘンアルカロイド塩酸塩	注－1	注射薬		オピアル注射液	
							オキシコドン塩酸塩水和物	注－1	注射薬		オキファスト注	
							ヒドロモルフォン塩酸塩	注－1	注射薬		ナルベイン注	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	配合剤（鎮痛作用＋鎮咳作用）	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用＋副交感神経抑制作用		配合剤	アヘンアルカロイド／スコポラミン臭化水素酸塩	注－1	注射薬		パンスコ注	
						配合剤	アヘンアルカロイド／アトロピン硫酸塩	注－1	注射薬		パンアト注射液	
						配合剤	モルヒネ塩酸塩／アトロピン硫酸塩	注－1	注射薬		モヒアト注射液	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	配合剤（鎮痛作用＋鎮咳作用）	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用＋鎮咳作用		配合剤	オキシコドン塩酸塩／ヒドロコタルニン塩酸塩	注－1	注射薬		パビナール注「タケダ」	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	配合剤（鎮痛作用＋鎮咳作用）	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用＋副交感神経抑制作用＋鎮咳作用		配合剤	オキシコドン塩酸塩／ヒドロコタルニン塩酸塩／アトロピン硫酸塩	注－1	注射薬		パビナール･アトロピン注	
3	アヘンアルカロイド系製剤	癌性疼痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮			モルヒネ塩酸塩	外－6	坐剤		アンペック坐剤	
	コカアルカロイド系製剤	表面麻酔	局所麻酔作用	神経における活動電位の伝導抑制作用			コカイン塩酸塩	外-1	末剤		塩酸コカイン「シオノギ」	

821　合成麻薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	合成麻薬	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	鎮痛・鎮けい作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		フェニルピペリジン系	ペチジン塩酸塩	内－２	末剤		オピスタン原末	
		強オピオイド鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ピペリジン系	フェンタニルクエン酸塩	内－５	バッカル		イーフェンバッカル錠	
								内－５	舌下錠		アブストラル舌下錠	
		他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			メサドン塩酸塩	内－１	錠剤		メサペイン錠	
							タペンタドール塩酸塩	内－１	錠剤		タペンタ錠	
2	合成麻薬	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい／麻酔前投薬,麻酔の補助	鎮痛・鎮けい作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		フェニルピペリジン系	ペチジン塩酸塩	注－１	注射薬		オピスタン注射液	
			鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ピペリジン系	フェンタニルクエン酸塩	注－１	注射薬		フェンタネスト	
		全身麻酔の導入及び維持における鎮痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ピペリジン系	レミフェンタニル塩酸塩	注－１	注射薬		アルチバ	
		(1)激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい (2)麻酔前投薬 (3)麻酔の補助	配合剤（鎮痛・鎮けい作用＋呼吸抑制防止作用）	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		配合剤	ペチジン塩酸塩／レバロルファン酒石酸塩	注－１	注射薬		ペチロルファン注射液	
		手術,検査及び処置時の全身麻酔, 並びに局所麻酔の補助	配合剤（鎮痛作用＋鎮静作用）	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		配合剤	ドロペリドール／フェンタニルクエン酸塩	注－１	注射薬		タラモナール	
3	合成麻薬	癌性疼痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ピペリジン系	フェンタニル	外－５	貼付剤		デュロテップパッチ	
								外－５	貼付剤		ワンデュロパッチ	
							フェンタニルクエン酸塩	外－５	貼付剤		フェントステープ	

リウマチ治療用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	リウマチ治療用剤	慢性関節リウマチ	免疫調節作用				アクタリット	内－1	錠剤		オークル錠 ,モーバー錠	
							ブシラミン	内－1	錠剤		リマチル	
							D－ペニシラミン	内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤		メタルカプターゼ	
							ロベンザリットニナトリウム	内－1	錠剤		カルフェニール錠	
							オーラノフィン	内－1	錠剤		リドーラ錠	
							ﾒﾄﾄﾚｷｻｰﾄ	内－1 内－1	ｶﾌﾟｾﾙ剤 錠剤		リウマトレックスカプセル	
							サラゾスルファピリジン	内－1	錠剤		アザルフィジンEN	
							ミゾリビン	内－1	錠剤		ブレディニン錠	
				ｼﾞﾋﾄﾞﾛｵﾛﾃｰﾄﾃﾞﾋﾄﾞﾛｹﾞﾅｰｾﾞ阻害作用		イソキサゾール系	レフルノミド	内－1	錠剤		アラバ錠10mg	
							イグラチモド	内－1	錠剤		コルベット錠、ケアラム	
				チロシンキナーゼ阻害作用	ヤヌスキナーゼ（JAK)阻害作用		トファシチニブクエン酸塩	内－1	錠剤		ゼルヤンツ錠	
							バリシチニブ	内－1	錠剤		オルミエント錠	

2	リウマチ治療用剤	関節リウマチ	免疫調節作用				金チオリンゴ酸ナトリウム	注－1	注射薬		シオゾール	
		関節リウマチ（既存治療で効果不十分な場合に限る）	免疫調節作用	TNF阻害作用	TNFα阻害作用	ヒト/マウスキメラ型抗ヒトTNFαモノクローナル抗体（糖タンパク質）	インフリキシマブ（遺伝子組換え）	注－1	注射薬		レミケード点滴静注用100	
						ヒト型抗ヒトTNFαモノクローナル抗体（糖タンパク質）	アダリムマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット	皮下注	ヒュミラ皮下注（シリンジ、ペン）	
						ヒト型ヒトTNFαIgG1モノクローナル抗体	ゴリムマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット	皮下注	シンポニー皮下注シリンジ	
						ヒト型抗ヒトTNFαモノクローナル抗体のFab'断片の誘導体	セルトリズマブ　ペゴル（遺伝子組換え）	注－2	キット		シムジア皮下注（シリンジ、オートクリックス）	
					TNFα及びLTα阻害作用	ヒト型可溶性TNFレセプター融合蛋白	エタネルセプト(遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		エンブレル皮下注用 エンブレル皮下注（シリンジ、ペン）	
				IL-6シグナル伝達阻害作用		ヒト型抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体	トシリズマブ（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		アクテムラ点滴静注用 アクテムラ皮下注（シリンジ、オートインジェクター）	
							サリルマブ（遺伝子組換え）	注－2	キット		ケブザラ皮下注（シリンジ、オートインジェクター）	
				T細胞選択的共刺激調節作用		ヒト型可溶性CTLA4-IgG1融合蛋	アバタセプト（遺伝子組換え）	注－1 注－2	注射薬 キット		オレンシア点滴静注用 オレンシア皮下注シリンジ	

再生医療等製品の保険償還価格の算定について

類　別		ヒト細胞加工製品（ヒト体細胞加工製品）
成　分　名		チサゲンレクルユーセル
収載希望者		ノバルティスファーマ（株）
販　売　名 （規格単位）		キムリア点滴静注（１患者当たり）
効能、効果 又は性能		１．　再発又は難治性のＣＤ１９陽性のＢ細胞性急性リンパ芽球性白血病 ２．　再発又は難治性のＣＤ１９陽性のびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫
主な用法及び用量 又は使用方法		（１）再発又は難治性のＣＤ１９陽性のＢ細胞性急性リンパ芽球性白血病に用いる場合 通常、２５歳以下（投与時）の患者には、体重に応じて以下の投与量を単回静脈内投与する。 ・体重５０ｋｇ以下の場合には、ＣＡＲ発現生Ｔ細胞として０．２×１０^{6}～５．０×１０^{6}個／ｋｇ ・体重５０ｋｇ超の場合には、ＣＡＲ発現生Ｔ細胞として０．１×１０^{8}～２．５×１０^{8}個（体重問わず） （２）再発又は難治性のＣＤ１９陽性のびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に用いる場合 通常、成人には、ＣＡＲ発現生Ｔ細胞として０．６×１０^{8}～６．０×１０^{8}個（体重問わず）を単回静脈内投与する。
算定	算定方式	原価計算方式
算定	原価計算 製品総原価	２３，６３２，０６２円
算定	原価計算 営業利益	４，１３７，６９４円 （流通経費を除く価格の１４．９％）
算定	原価計算 流通経費	６８２，０００円 （消費税を除く価格の２．４％（収載希望者の自己申告に基づく）））
算定	原価計算 消費税	２，２７６，１４０円
算定	補正加算	有用性加算（Ｉ）（Ａ＝３５％）、市場性加算（Ｉ）（Ａ＝１０％）、加算係数＝０．２ （加算前）　（加算後） １患者当たり　３０，７２７，８９６円　→　３３，４９３，４０７円
算定	外国平均価格調整	なし
算定薬価		１患者当たり　３３，４９３，４０７円

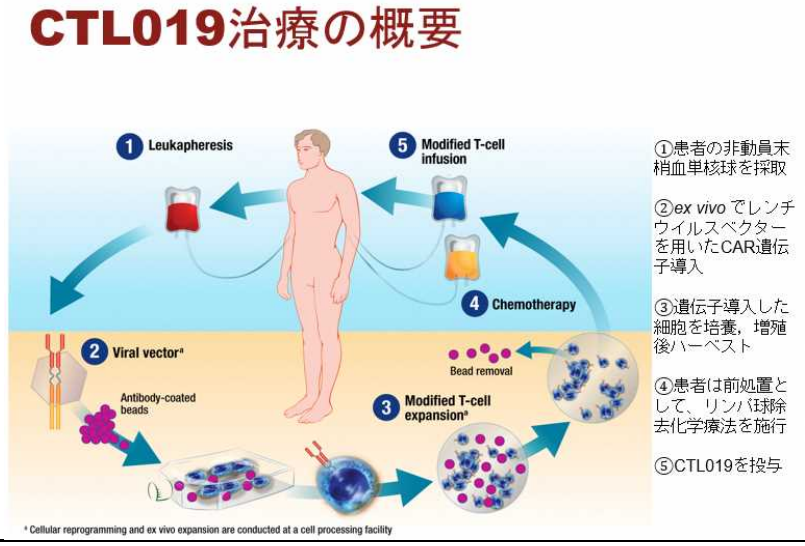
外国価格	収載希望者による市場規模予測
なし （参考） 米国（CMS）　439,388.306 ドル　48,332,714 円 米国（AWP）【B-ALL】570,000.00 ドル　62,700,000 円 米国（AWP）【DLBCL】447,600.00 ドル　49,236,000 円 英国（NHS）　282,000 ポンド　41,172,000 円 独国（Lauer-Taxce）320,000 ユーロ　41,280,000 円 （注１）為替ﾚｰﾄは平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の平均 （注２）米国(AWP)は従来参照していた RED BOOK の価格	予測年度　予測本剤投与患者数　予測販売金額 （ピーク時） ８年度　２１６人　７２億円 最初に承認された国（年月）： 米国（２０１７年８月）

製造販売承認日	平成３１年　３月２６日	薬価基準収載予定日	令和元年　５月２２日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

<table>
<tr><td colspan="2">算定方式</td><td>原価計算方式</td><td>第一回算定組織</td><td>平成３１年　４月１８日</td></tr>
<tr><td rowspan="6">原価計算方式を採用する妥当性</td><td colspan="2"></td><td>新薬</td><td>類似薬がない根拠</td></tr>
<tr><td colspan="2">成分名</td><td>チサゲンレクルユーセル</td><td rowspan="5">本品と同様の効能・効果、薬理作用、組成及び化学構造等を有する既収載品はないことから、新薬算定最類似薬はないと判断した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">イ．効能・効果</td><td>１．再発又は難治性のＣＤ１９陽性のＢ細胞性急性リンパ芽球性白血病
２．再発又は難治性のＣＤ１９陽性のびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫</td></tr>
<tr><td colspan="2">ロ．薬理作用</td><td>ＣＡＲ導入Ｔ細胞依存性細胞傷害作用</td></tr>
<tr><td colspan="2">ハ．組成及び化学構造</td><td>抗ＣＤ１９キメラ抗原受容体（ＣＡＲ）発現遺伝子を患者自身のＴ細胞に導入したＣＡＲ発現生Ｔ細胞</td></tr>
<tr><td colspan="2">ニ．投与形態
剤形
用法</td><td>注射
注射剤
静脈内投与</td></tr>
<tr><td rowspan="9">補正加算</td><td>画期性加算
（７０～１２０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">有用性加算（Ⅰ）
（３５～６０％）</td><td colspan="3">該当する（Ａ＝３５％）
イ．新規作用機序（異なる標的部位）：①-b＝1p
ハ．治療方法の改善（不十分例）：③-a＝1p
合計：５ｐ（有用性加算（Ⅰ））＋１ｐ＋１ｐ　＝　７ｐ</td></tr>
<tr><td colspan="3">以下を踏まえ、有用性加算（Ⅰ）Ａ＝３５％が妥当と判断した。
・本品は、主要組織適合遺伝子複合体（ＭＨＣ）に拘束されることなくＣＤ１９陽性Ｂ細胞に特異的に結合し、抗腫瘍効果を発揮する。さらに、投与したＴ細胞自身が体内で活性化、増殖、生存して免疫監視機構が働き続けるため、１回の投与で持続的な抗腫瘍効果が期待できる。
・本品の臨床試験は、再発又は難治性のＢ細胞性急性リンパ芽球性白血病患者及び再発又は難治性のびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫患者を対象としたものであり、既存の治療方法で効果不十分な症例において、有用性が示されている。</td></tr>
<tr><td>有用性加算（Ⅱ）
（５～３０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">市場性加算（Ⅰ）
（１０～２０％）</td><td colspan="3">該当する（Ａ＝１０％）</td></tr>
<tr><td colspan="3">本品は希少疾病用再生医療等製品の指定を受けている。本品と同一の効能・効果を有する薬剤はないものの、Ｂ細胞性急性リンパ芽球性白血病及びびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対する治療薬は既に存在することから、Ａ＝１０％が妥当と判断した。</td></tr>
<tr><td>市場性加算（Ⅱ）
（　５　％　）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td>小児加算
（５～２０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td>先駆け審査指定制度加算
（１０～２０％）</td><td colspan="3">該当しない</td></tr>
<tr><td colspan="2">新薬創出・適応外薬解消等促進加算</td><td colspan="3">該当する（主な理由：希少疾病用再生医療等製品として指定）</td></tr>
<tr><td colspan="2">費用対効果評価への該当性</td><td colspan="3">該当する（Ｈ３）</td></tr>
<tr><td colspan="2">当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">上記不服意見に対する見解</td><td>第二回算定組織</td><td colspan="2">平成　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

製品概要

販売名	キムリア点滴静注
使用目的	本品はCAR-T細胞療法に使用される再生医療等製品であり、患者末梢血由来のT細胞の遺伝子を改変してキメラ抗原受容体（CAR）を発現させたものである。医薬品と同様に薬理的作用による治療効果を期待して、点滴で静脈内に投与される。 本品に導入されるCARは、主にB細胞で発現する糖タンパク質のCD19を特異的に認識する一本鎖抗体ドメイン、及び細胞内シグナル伝達ドメイン等から構成される。一本鎖抗体ドメインがCD19を発現した細胞を認識すると、細胞内シグナル伝達ドメインに増殖、標的細胞に対する攻撃、及び細胞の持続・残存等に関する信号が伝達される。 これらの作用により、本品はCD19陽性のB細胞性の腫瘍において、腫瘍細胞を死滅させる効果が長期に持続することが期待されている。
主な使用方法	
主な有用性	再発又は難治性のCD19陽性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病の小児患者では、従来の標準治療では深い寛解の持続が難しい場合もある。 3歳（スクリーニング時）～21歳以下（初回診断時）の再発又は難治性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病患者を対象とした国際共同第II相試験において、主要評価項目とされた全寛解率（完全寛解又は血球数回復が不十分な完全寛解）は中間解析時点(N=50)で82.0%［98.9%信頼区間：64.5%, 93.3%］であった。 また、再発又は難治性のCD19陽性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の患者では、従来の標準治療ではそれまでの治療に抵抗性であったり、再発を繰り返す場合もあることから、治療選択肢が限られる。 18歳以上の再発又は難治性の成人びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者を対象とした国際共同第II相試験において、主要評価項目とされた奏効率（完全奏効又は部分奏効）は、中間解析時点（N=51）で58.8%［99.06%信頼区間：39.8%, 76.1%］であった。
承認条件	1．緊急時に十分対応できる医療施設において、造血器悪性腫瘍及び造血幹細胞移植に関する十分な知識・経験を持つ医師のもとで、サイトカイン放出症候群の管理等の適切な対応がなされる体制下で本品を使用すること。 2．国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用の成績に関する調査を実施することにより、本品使用患者の背景情報を把握するとともに、本品の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本品の適正使用に必要な措置を講じること。

キムリア点滴静注の投与に係る技術料について

＜手順＞	＜準用技術＞
末梢血単核球の採取	K921　造血幹細胞採取（一連につき） ２　末梢血幹細胞採取 ロ　自家移植の場合　17,440点
↓	
T細胞へのCAR遺伝子の導入 細胞の培養増殖	製造施設 （薬価）
↓	
リンパ球除去化学療法	G004 点滴注射等
↓	
投与	K922　造血幹細胞移植 ２　末梢血幹細胞移植 ロ　自家移植の場合　30,850点

※　診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について
別添１　医科診療報酬点数表に関する事項（平成30年３月５日保医発0305第１号）

第10部　手術
＜通則＞
　第１節手術料に掲げられていない手術のうち、簡単な手術の手術料は算定できないが、特殊な手術（点数表にあっても、手技が従来の手術と著しく異なる場合等を含む。）の手術料は、その都度当局に内議し、最も近似する手術として準用が通知された算定方法により算定する。
　例えば、従来一般的に開胸又は開腹により行われていた手術を内視鏡下において行った場合等はこれに該当する。

中医協　総－４－１
元．５．１５

最適使用推進ガイドライン（案）

チサゲンレクルユーセル

（販売名：キムリア点滴静注）

～B 細胞性急性リンパ芽球性白血病

及びびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫～

令和元年〇月

厚生労働省

目次

1．はじめに 2
2．本品の特徴、作用機序 5
3．臨床成績 6
4．施設について 14
5．投与対象となる患者 16
6．投与に際して留意すべき事項 19

1. はじめに

再生医療等製品の有効性・安全性の確保のためには、添付文書等に基づいた適正な使用が求められる。さらに、近年の科学技術の進歩により革新的な新規作用機序を示す再生医療等製品が承認される中で、これらの再生医療等製品を真に必要な患者に提供することが喫緊の課題となっており、経済財政運営と改革の基本方針 2016（平成 28 年 6 月 2 日閣議決定）においても革新的医薬品等の使用の最適化推進を図ることとされている。

新規作用機序を示す再生医療等製品は、薬理作用や安全性プロファイルが既存の医薬品等と明らかに異なることがある。このため、有効性及び安全性に関する情報が十分蓄積するまでの間、当該再生医療等製品の恩恵を強く受けることが期待される患者に対して使用するとともに、副作用が発現した際に必要な対応をとることが可能な一定の要件を満たす医療機関で使用することが重要である。

したがって、本ガイドラインでは、開発段階やこれまでに得られている医学薬学的・科学的見地に基づき、以下の再生医療等製品の最適な使用を推進する観点から必要な要件、考え方及び留意事項を示す。

なお、本ガイドラインは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構、一般社団法人日本血液学会、一般社団法人日本小児血液・がん学会、一般社団法人日本輸血・細胞治療学会、一般社団法人日本造血細胞移植学会、血液疾患免疫療法学会、日本遺伝子細胞治療学会、公益社団法人日本臨床腫瘍学会、一般社団法人日本臨床内科医会の協力のもと作成した。

対象となる再生医療等製品：キムリア点滴静注（一般的名称：チサゲンレクルユーセル）

対象となる効能、効果又は性能：1. 再発又は難治性の CD19 陽性の B 細胞性急性リンパ芽球性白血病。ただし、以下のいずれかの場合に限る。

- 初発の患者では標準的な化学療法を 2 回以上施行したが寛解が得られない場合
- 再発の患者では化学療法を 1 回以上施行したが寛解が得られない場合
- 同種造血幹細胞移植の適応とならない又は同種造血幹細胞移植後に再発した場合

2. 再発又は難治性の CD19 陽性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫。ただし、以下のいずれかの場合であって、自家造血幹細胞移植の適応とならない又は自家造血幹細胞移植後に再発した患者に限る。

- 初発の患者では化学療法を 2 回以上、再発の患者では再発後に化学療法を 1 回以上施行し、化学療法により完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した場合

- 濾胞性リンパ腫が形質転換した患者では通算 2 回以上の化学療法を施行し、形質転換後には化学療法を 1 回以上施行したが、形質転換後の化学療法により完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した場合

対象となる用法及び用量又は使用方法： ＜医療機関での白血球アフェレーシス～製造施設への輸送＞

1. 白血球アフェレーシス

十分量の T リンパ球を含む非動員末梢血単核球を採取する。

2. 白血球アフェレーシス産物の凍結保存

採取後速やかに白血球アフェレーシス産物を調製し、液体窒素気相下で凍結保存する。

3. 白血球アフェレーシス産物の輸送

凍結保存した白血球アフェレーシス産物を、梱包して本品製造施設へ輸送する。

＜医療機関での受入れ～投与＞

4. 本品の受領及び保存

凍結した状態で本品を受領し、使用直前まで液体窒素気相下で凍結保存する。

5. 投与前の前処置

本品の投与予定日前の 1 週間以内の末梢血白血球数が 1,000/μL を超える場合、本品投与の 2 日前までに以下のリンパ球除去化学療法を前処置として行う。前処置の化学療法の特性や患者の状態を考慮の上、前処置から本品投与までに必要な間隔を設定する。

(1) 再発又は難治性の CD19 陽性の B 細胞性急性リンパ芽球性白血病に用いる場合のリンパ球除去化学療法

- シクロホスファミド水和物 500 mg/m^2 を 1 日 1 回 2 日間点滴静注及びフルダラビンリン酸エステル 30 mg/m^2 を 1 日 1 回 4 日間点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。
- シクロホスファミド水和物による Grade 4 注)の出血性膀胱炎の既往がある、又はシクロホスファミド水和物に抵抗性を示した患者には、シタラビン 500 mg/m^2 を 1 日 1 回 2 日間点滴静注及びエトポシド 150 mg/m^2 を 1 日 1 回 3 日間点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。

(2) 再発又は難治性の CD19 陽性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に用いる場合のリンパ球除去化学療法

- シクロホスファミド水和物 250 mg/m^2 を 1 日 1 回 3 日間点滴静注及びフルダラビンリン酸エステル 25 mg/m^2 を 1 日 1 回 3 日間点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。

- シクロホスファミド水和物による Grade 4 注)の出血性膀胱炎の既往がある、又はシクロホスファミド水和物に抵抗性を示した患者には、ベンダムスチン塩酸塩 90 mg/m^2 を 1 日 1 回 2 日間点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。

  注） Grade は CTCAE v4.03 に準じる。

6. 本品の投与

投与直前に本品を解凍し、適応症に応じて下記のとおり単回静脈内投与する。

(1) 再発又は難治性の CD19 陽性の B 細胞性急性リンパ芽球性白血病に用いる場合

通常、25 歳以下（投与時）の患者には、体重に応じて以下の投与量を単回静脈内投与する。

- 体重 50 kg 以下の場合には、CAR 発現生 T 細胞として 0.2×10^6～5.0×10^6 個/kg
- 体重 50 kg 超の場合には、CAR 発現生 T 細胞として 0.1×10^8～2.5×10^8 個（体重問わず）

(2) 再発又は難治性の CD19 陽性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に用いる場合

通常、成人には、CAR 発現生 T 細胞として 0.6×10^8～6.0×10^8 個（体重問わず）を単回静脈内投与する。

製造販売業者：ノバルティスファーマ株式会社

（参考：本品の投与による副作用の治療に用いる薬剤について）

トシリズマブ（遺伝子組換え）注の効能又は効果、用法及び用量

効能又は効果：腫瘍特異的 T 細胞輸注療法に伴うサイトカイン放出症候群

用法及び用量：通常、トシリズマブ（遺伝子組換え）として体重 30 kg 以上は 1 回 8 mg/kg、体重 30 kg 未満は 1 回 12 mg/kg を点滴静注する。

2．本品の特徴、作用機序

キムリア点滴静注（一般名：チサゲンレクルユーセル、以下、「本品」という）は、患者末梢血由来のT細胞に、遺伝子組換えレンチウイルスベクターを用いてCD19を特異的に認識するキメラ抗原受容体（CAR）を導入し、培養・増殖させたT細胞を構成細胞とし、医薬品と同様に薬理的作用による治療効果を期待して、点滴で静脈内に投与される再生医療等製品である。

本品に遺伝子導入されるCARは、CD19を特異的に認識するマウス由来scFv、ヒトCD8αヒンジ及び膜貫通ドメイン、並びに細胞内シグナル伝達ドメインであるCD3-ζ及び4-1BBから構成され、CD19を発現した細胞を認識すると、導入T細胞に対して増殖、活性化、標的細胞に対する攻撃及び細胞の持続・残存に関する信号を伝達する。本品のこれらの作用により、CD19陽性のB細胞性の腫瘍に対し、腫瘍細胞を死滅させる効果が長期に持続することが期待される。

本品の製造に先立ち白血球アフェレーシスを、本品の投与予定日前の1週間以内の末梢血白血球数が1,000/μLを超える場合には移植細胞の生着促進等を目的としたリンパ球除去化学療法（以下、「LD化学療法」という）を行う必要があり、さらに本品の投与によりサイトカイン放出症候群（以下、「CRS」という）等の重篤な又は死亡に至る可能性がある副作用が認められる可能性がある。したがって、アフェレーシスの実施中、LD化学療法の実施中、本品の投与中及び投与後には、患者の観察を十分に行い、異常が認められた場合には、発現した事象に応じた専門的な知識と経験を持つ医師により、必要に応じてICU等において集学的な全身管理を含む適切な措置を行う必要がある。

3. 臨床成績

【有効性】

3.1 小児及び若年成人（AYA）の再発又は難治性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病

小児及びAYAの再発又は難治性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病（以下、「B-ALL」という）の承認時に評価を行った主な臨床試験の成績を示す。

国際共同第Ⅱ相試験（CTL019B2202試験）

3歳（スクリーニング時）～21歳（B-ALLの初回診断時）[注1]の再発又は難治性のB-ALL患者を対象に、本品の有効性及び安全性を検討する非盲検非対照国際共同第II相試験が実施された[注2]。

再発又は難治性のB-ALL患者として、以下の①～⑤のいずれかに該当する患者が組み入れられた。

①2回以上の骨髄再発が認められた、②同種造血幹細胞移植（以下、「HSCT」という）後に骨髄再発し、本品投与時点で同種HSCTから6カ月以上経過している、③同種HSCTの適応がない、④標準の化学療法レジメンを2サイクル受けた後でも寛解を達成しないと定義される初発難治性、又は再発した白血病に対して標準の化学療法を1サイクル受けた後でも寛解を達成しないと定義される化学療法難治性、⑤フィラデルフィア染色体陽性の患者の場合には、チロシンキナーゼ阻害剤（TKI）不耐又は禁忌、2種類以上のTKIを受けても奏効が得られない。なお、髄外単独病変の再発は除外された。

本品の用法及び用量又は使用方法は、体重50 kg以下の場合には目標用量（本品の製造において目標とされる用量）2.0×10^6～5.0×10^6個/kg（許容用量（本品の投与が許容される用量）：0.2×10^6～5.0×10^6個/kg）、体重50 kg超の場合には目標用量1.0×10^8～2.5×10^8個（許容用量：0.1×10^8～2.5×10^8個）を単回静脈内投与することとされた。

なお、生体内での本品の生着と増殖を促進することを目的として、本品の投与予定日の1週間前以内の末梢血白血球数が1,000/μLを超える場合、本品投与の2日前までに以下のLD化学療法を前処置として行うこととされた。

（1）前処置の化学療法（LD化学療法）

投与前の前処置として以下の化学療法剤を用いた（ただし、本品の投与前の1週間以内の白血球数が1,000/μL以下の場合には不要とした）。化学療法の完了から本品投与までに2～14日の間隔を設けた。なお、患者の状態により適宜減量した。

- フルダラビンリン酸エステル（30 mg/m^{2}を1日1回、計4日静注）、及びシクロホスファミド水和物（500 mg/m^{2}を1日1回、計2日静注。シクロホスファミド水和物の投与は最初のフルダラビンリン酸エステル投与と同時に開始する。）
- シクロホスファミド水和物によるGrade 4の出血性膀胱炎の既往がある場合、又

[注1] 3～23歳までの患者が組み入れられた。なお、B-ALL患者を対象に、本品の有効性及び安全性を検討する非盲検非対照海外第Ⅱ相試験（B2205J試験）では、3～25歳までの患者が組入れられた。

[注2] 登録から本品投与までの期間の中央値（範囲）は45日（30日～105日）であった。

はシクロホスファミド水和物を含むレジメンに対して化学療法抵抗性であった場合は、以下のレジメンを使用した。

- シタラビン（500 mg/m^2 を 1 日 1 回、計 2 日静注）及びエトポシド（150 mg/m^2 を 1 日 1 回、計 3 日静注。エトポシドの投与は最初のシタラビン投与と同時に開始する。）

（2）国際共同第 II 相試験の臨床成績

主要評価項目とされたNCCNガイドライン2013年度版を参考に製造販売業者が作成した効果判定基準に基づく中央判定による全寛解率（完全寛解（以下、「CR」という）又は血球数回復が不完全な完全寛解（以下、「CRi」という）を達成した患者の割合）の中間解析時点の結果は、表1のとおりであった。

表 1　全寛解率の中間解析結果
（中央判定、中間解析時点の有効性の対象集団、2016 年 8 月 17 日データカットオフ）

	例数（%）
	全体集団 50 例
CR	34（68.0）
CRi	7（14.0）
無効又は再発	4（8.0）
不明	5（10.0）
寛解（CR 及び CRi） （全寛解率［98.9%CI*］（%））	41 （82.0［64.5, 93.3］）

*：Clopper-Pearson 法

さらに、中央判定による全寛解率の最終解析時点の結果は、表2のとおりであった。

表 2　全寛解率の最終解析結果
（中央判定、有効性の解析対象集団、2017 年 4 月 25 日データカットオフ）

	例数（%）	
	全体集団 75 例	日本人集団 2 例
CR	45（60.0）	0
CRi	16（21.3）	1（50.0）
無効又は再発	6（8.0）	1（50.0）
不明	8（10.7）	0
寛解（CR 及び CRi） （全寛解率［95%CI*］（%））	61 （81.3［70.7, 89.4］）	1 （50.0［1.3, 98.7］）

*：Clopper-Pearson 法

3.2　再発又は難治性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫

再発又は難治性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫（以下、「DLBCL」という）の承

認時に評価を行った主な臨床試験の成績を示す。

国際共同第Ⅱ相試験（CTL019C2201 試験）

18 歳以上の再発又は難治性の成人 DLBCL 患者を対象に、本品の有効性及び安全性を検討する非盲検非対照国際共同第 II 相試験が実施された。

再発又は難治性の CD19 陽性の DLBCL として、主に以下の①又は②のいずれかに該当し、かつ自家造血幹細胞移植施行後に再発した又は自家造血幹細胞移植の適応とならない患者が組み入れられた[注3]。

①2 つ以上の化学療法歴（リツキシマブ（遺伝子組換え）及びアントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤を含む）がある患者、②濾胞性リンパ腫が DLBCL に組織学的形質転換した患者で、濾胞性リンパ腫に対する化学療法から通算して 2 つ以上かつ形質転換してから少なくとも 1 つ以上の化学療法歴（リツキシマブ（遺伝子組換え）及びアントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤を含む）がある患者。

本品の用法及び用量又は使用方法は、目標用量（本品の製造において目標とされる用量）5.0×10^8 個（許容用量（本品の投与が許容される用量）：1.0×10^8～5.0×10^8 個）を単回静脈内投与することとされた。

なお、生体内での本品の生着と増殖を促進することを目的として、本品の投与予定日の 1 週間前以内の末梢血白血球数が 1,000/μL を超える場合、本品投与の 2 日前までに以下の LD 化学療法を前処置として行うこととされた。

（1）前処置の化学療法（LD 化学療法）

投与前の前処置として以下の化学療法剤を用いた（ただし、本品投与前の 1 週間以内の白血球数が 1,000/μL 以下の場合には不要とした）。化学療法の完了から本品投与までに 2～14 日の間隔を設けた。なお、患者の状態により適宜減量した。

- フルダラビンリン酸エステル（25 mg/m^2 を 1 日 1 回、計 3 日静注）、及びシクロホスファミド水和物（250 mg/m^2 を 1 日 1 回、計 3 日静注。シクロホスファミド水和物の投与は最初のフルダラビンリン酸エステル投与と同時に開始する。）
- シクロホスファミド水和物による Grade 4 の出血性膀胱炎の既往がある場合、又は、シクロホスファミド水和物を含むレジメンに対して化学療法抵抗性の場合は、以下のレジメンを使用した。
  - ベンダムスチン塩酸塩 90 mg/m^2 を 1 日 1 回、計 2 日静注

（2）国際共同第 II 相試験の臨床成績

主要評価項目とされた国際悪性リンパ腫会議により纏められた Lugano 基準に基づく中央判定による奏効率（完全奏効（以下、「CR」という）又は部分奏効（以下、「PR」という）が達成された患者の割合）の中間解析時点の結果は、表 3 のとおりであった。

[注3] 登録から本品投与までの期間の中央値（範囲）は 54 日（30 日～357 日）であった。

表 3　奏効率の中間解析結果
（中央判定、中間解析対象集団、2016 年 12 月 20 日データカットオフ）

	例数（%）	
	全体集団 51 例	日本人集団 2 例
CR	22（43.1）	1（50.0）
PR	8（15.7）	1（50.0）
SD	6（11.8）	0
PD	12（23.5）	0
不明	3（5.9）	0
奏効（CR+PR） （奏効率［99.06%CI*］（%））	30 （58.8［39.8, 76.1］）	2 （100［6.9, 100］）

*：Clopper-Pearson 法

さらに、中央判定による奏効率の主要解析時点の結果は、表 4 のとおりであった。

表 4　奏効率の主要解析結果
（中央判定、有効性の解析対象集団、2017 年 3 月 8 日データカットオフ）

	例数（%）	
	全体集団 81 例	日本人集団 2 例
CR	32（39.5）	1（50.0）
PR	11（13.6）	1（50.0）
SD	11（13.6）	0
PD	18（22.2）	0
不明	9（11.1）	0
奏効（CR+PR） （奏効率［95%CI*］（%））	43 （53.1［41.7, 64.3］）	2 （100［15.8, 100］）

*：Clopper-Pearson 法

【安全性】

国際共同第Ⅱ相試験（CTL019B2202 試験、データカットオフ日：2017 年 4 月 25 日）

有害事象は 75/75 例（100%）に認められ、副作用は 71/75 例（94.7%）に認められた。発現率が 5%以上の副作用は表 5 のとおりであった。

表 5　発現率が 5%以上の副作用

器官別大分類 基本語 （MedDRA/J ver.20.0）	例数（%） 75 例 全 Grade		 Grade 3 以上	
全副作用	71	(94.7)	55	(73.3)
血液およびリンパ系障害				
発熱性好中球減少症	20	(26.7)	20	(26.7)
貧血	13	(17.3)	3	(4.0)

播種性血管内凝固	5	(6.7)	1	(1.3)
貪食細胞性組織球症	5	(6.7)	3	(4.0)
血小板減少症	5	(6.7)	5	(6.7)
好中球減少症	4	(5.3)	3	(4.0)
心臓障害				
頻脈	16	(21.3)	3	(4.0)
胃腸障害				
悪心	10	(13.3)	1	(1.3)
嘔吐	10	(13.3)	0	
腹痛	8	(10.7)	2	(2.7)
下痢	8	(10.7)	0	
一般・全身障害および投与部位の状態				
発熱	19	(25.3)	7	(9.3)
疲労	9	(12.0)	0	
顔面浮腫	5	(6.7)	1	(1.3)
免疫系障害				
サイトカイン放出症候群	58	(77.3)	35	(46.7)
低γグロブリン血症	22	(29.3)	2	(2.7)
免疫不全症	4	(5.3)	4	(5.3)
臨床検査				
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加	13	(17.3)	7	(9.3)
血小板数減少	12	(16.0)	7	(9.3)
白血球数減少	12	(16.0)	7	(9.3)
アラニンアミノトランスフェラーゼ増加	11	(14.7)	4	(5.3)
血中ビリルビン増加	11	(14.7)	8	(10.7)
リンパ球数減少	11	(14.7)	10	(13.3)
好中球数減少	10	(13.3)	8	(10.7)
国際標準比増加	7	(9.3)	0	
活性化部分トロンボプラスチン時間延長	6	(8.0)	1	(1.3)
血中免疫グロブリンＡ減少	6	(8.0)	1	(1.3)
血中フィブリノゲン減少	5	(6.7)	1	(1.3)
血中免疫グロブリンM減少	5	(6.7)	1	(1.3)
血中クレアチニン増加	4	(5.3)	3	(4.0)
代謝および栄養障害				
食欲減退	15	(20.0)	7	(9.3)
低リン酸血症	10	(13.3)	6	(8.0)
低カルシウム血症	9	(12.0)	3	(4.0)
低カリウム血症	9	(12.0)	6	(8.0)

水分過負荷	6	(8.0)	4	(5.3)
低アルブミン血症	5	(6.7)	1	(1.3)
高尿酸血症	4	(5.3)	1	(1.3)
筋骨格系および結合組織障害				
筋肉痛	7	(9.3)	0	
四肢痛	6	(8.0)	0	
神経系障害				
頭痛	13	(17.3)	2	(2.7)
脳症	6	(8.0)	4	(5.3)
精神障害				
譫妄	7	(9.3)	3	(4.0)
錯乱状態	6	(8.0)	0	
腎および尿路障害				
急性腎障害	8	(10.7)	6	(8.0)
呼吸器，胸郭および縦隔障害				
低酸素症	11	(14.7)	8	(10.7)
肺水腫	9	(12.0)	5	(6.7)
胸水	8	(10.7)	3	(4.0)
頻呼吸	7	(9.3)	3	(4.0)
血管障害				
低血圧	19	(25.3)	13	(17.3)
高血圧	5	(6.7)	1	(1.3)

本品投与後から 30 日以内に 2/75 例（2.7%）の死亡が認められた。死因は、疾患進行及び脳出血各 1 例であり、そのうち脳出血 1 例では、本品及び LD 化学療法のいずれか又は両方との因果関係は否定されなかった。また、本品投与後 30 日超において、17/75 例（22.7%）の死亡が認められ、死因は疾患進行 12 例、脳炎、全身性真菌症、細菌性下気道感染、肝胆道系疾患及び死因不明各 1 例であり、そのうち、脳炎 1 例は本品及び LD 化学療法のいずれか又は両方との因果関係が否定されず、全身性真菌症 1 例については本品との因果関係が否定されなかった。日本人患者における有害事象による死亡は認められなかった。

国際共同第Ⅱ相試験（CTL019C2201 試験、データカットオフ日：2017 年 12 月 8 日）

有害事象は 111/111 例（100%）に認められ、副作用は 99/111 例（89.2%）に認められた。発現率が 5%以上の副作用は表 6 のとおりであった。

表 6　発現率が 5%以上の副作用

器官別大分類 基本語 （MedDRA/J ver.20.1）	例数（%） 111 例 全 Grade		Grade 3 以上	
全副作用	99	(89.2)	70	(63.1)
血液およびリンパ系障害				
貧血	21	(18.9)	16	(14.4)
発熱性好中球減少症	14	(12.6)	14	(12.6)
好中球減少症	7	(6.3)	7	(6.3)
心臓障害				
頻脈	11	(9.9)	3	(2.7)
胃腸障害				
下痢	11	(9.9)	1	(0.9)
悪心	10	(9.0)	1	(0.9)
一般・全身障害および投与部位の状態				
発熱	28	(25.2)	4	(3.6)
疲労	15	(13.5)	4	(3.6)
悪寒	9	(8.1)	0	
免疫系障害				
サイトカイン放出症候群	64	(57.7)	24	(21.6)
低γグロブリン血症	7	(6.3)	2	(1.8)
臨床検査				
好中球数減少	22	(19.8)	22	(19.8)
血小板数減少	19	(17.1)	13	(11.7)
白血球数減少	17	(15.3)	15	(13.5)
血中クレアチニン増加	7	(6.3)	4	(3.6)
神経系障害				
頭痛	10	(9.0)	1	(0.9)
脳症	7	(6.3)	5	(4.5)
浮動性めまい	6	(5.4)	0	
精神障害				
錯乱状態	6	(5.4)	1	(0.9)
腎および尿路障害				

急性腎障害	6	(5.4)	4	(3.6)
呼吸器，胸郭および縦隔障害				
呼吸困難	8	(7.2)	2	(1.8)
低酸素症	6	(5.4)	3	(2.7)
血管障害				
低血圧	23	(20.7)	9	(8.1)

本品投与後から 30 日以内において、3/111 例（2.7%）の死亡が認められた。死因は、疾患進行 3 例であり、いずれも本品又は LD 化学療法との因果関係は否定された。また、本品投与後 30 日超において、50/111 例（45.0%）の死亡が認められた。死因は、疾患進行 42 例、多臓器機能不全症候群 2 例、脳出血、出血性十二指腸潰瘍、神経内分泌癌、肺出血、慢性腎臓病及び敗血症各 1 例であり、そのうち肺出血 1 例は本品及び LD 化学療法のいずれか又は両方との因果関係が否定されなかった。日本人患者において、有害事象による死亡は認められなかった。

4. 施設について

本品の製造には白血球のアフェレーシスが必要なこと、LD 化学療法や本品の投与に際して重篤な有害事象が認められる可能性が高いことから、本品の投与が適切な患者を診断・特定し、本品の投与により重篤な副作用が発現した際に対応することが必要である。したがって、以下の①～③のすべてを満たす施設において使用する必要がある。

① 施設について

① **-1** 下記の（1 ）～（5）のすべてに該当する施設であること

（1） 日本造血細胞移植学会が定める移植施設認定基準の全ての項目を満たす診療科(認定カテゴリー1)又は認定カテゴリー1 に準ずる診療科(認定基準のうち、移植コーディネーターの配置に係る基準以外を満たす診療科）を有すること。

（2） 有害事象に対する全身管理が可能な ICU 又は PICU 等を有していること（A301 特定集中治療室管理料（1 日につき）「1」特定集中治療室管理料 1 から「4」特定集中治療室管理料 4 のいずれか、又は A301-4 小児特定集中治療室管理料（1 日につき）「1」7 日以内の期間又は「2」8 日以上の期間のいずれかを届け出ている医療機関)。

（3） 本品の製造に必要な細胞調製及び検査が適切に行えるよう、設備、手順書が整備されているとともに、通算 2 年以上かつ 10 件以上の細胞調製実績を有する医療スタッフ（医師、臨床検査技師、衛生検査技師、臨床工学技士、薬剤師又は看護師）が 1 名以上配置されていること。

（4） アフェレーシス機器の使用に熟知した医療スタッフ（医師、看護師又は臨床工学技士）が配置されており、アフェレーシス中には少なくとも 1 名の医療スタッフ（医師、看護師又は臨床工学技士）による常時監視体制及び医師への連絡体制が整っていること。

（5） 本品の有効性及び安全性に関する情報を収集するため、関連学会との連携の下で運営される本品の「患者登録システム（レジストリ)」に患者登録を行うとともに、本品に課せられている製造販売後調査を適切に実施することが可能であること。

① **-2** B-ALL 又は DLBCL の診断、治療、及び不具合・副作用発現時の対応に十分な知識と経験を有し、製造販売業者が実施する、本品の使用にあたっての講習を修了した医師が、治療の責任者を含めて複数名配置されていること。具体的には、表 7 の（1）～（3）のすべてに該当する医師が治療の責任者として 1 名配置されているとともに、表 7 の（1）に該当する医師が 1 名以上配置されていること。

表 7　治療の責任者等に関する要件

(1) 医師免許取得後、6 年以上の臨床経験を有し、うち 3 年以上は、血液悪性腫瘍の研修を行っていること。又は、医師免許取得後、7 年以上の臨床経験を有し、うち 5 年以上の小児血液悪性腫瘍の研修を行っていること。
(2) 造血細胞移植に関する内科又は小児科研修による診療実績が通算 1 年以上あり、必要な経験と学識技術を習得していること。
(3) 同種造血細胞移植の診療実績が 5 例以上あること

② 院内の再生医療等製品に関する情報管理の体制について

再生医療等製品に関する情報管理に従事する担当者が配置され、製造販売業者からの情報窓口、有効性・安全性等に関する情報の管理及び医師等に対する情報提供、不具合・副作用が発生した場合の報告に係る業務等が速やかに行われる体制が整っていること。

③ 不具合・副作用への対応について

③ -1 施設体制に関する要件

重篤な不具合・副作用が発生した際に、24 時間診療体制の下、当該施設又は連携施設において、発現した副作用に応じて入院管理及び必要な検査の結果が当日中に得られ、直ちに対応可能な体制が整っていること。特に、CRS の緊急時に備えて、トシリズマブ（遺伝子組換え）の在庫を本品投与前に確保されていること。

③-2 医療従事者による不具合・副作用への対応に関する要件

B-ALL 又は DLBCL の診療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者が不具合・副作用のモニタリングを含め主治医と情報を共有できるチーム医療体制が整備されていること。なお、その体制について、患者とその家族に十分に周知されていること。

③ -3 不具合・副作用の診断や対応に関して

不具合・副作用に対して、当該施設又は連携施設の専門性を有する医師と連携（副作用の診断や対応に関して指導及び支援を受けられる条件にあること）し、直ちに適切な処置ができる体制が整っていること。

5. 投与対象となる患者

5.1 B-ALL

【有効性に関する事項】

① 下記の患者において本品の有効性が確認されている。

以下のいずれかの条件を満たす CD19 陽性の再発又は難治性の B-ALL 患者

- 2 回以上の骨髄再発が認められた
- 同種 HSCT 後に骨髄再発し、本品投与時点で同種 HSCT から 6 カ月以上経過している
- 同種 HSCT の適応とならない（併存疾患がある、何らかの禁忌がある、適切なドナーがいない、移植歴がある場合）
- 標準の化学療法レジメンを 2 サイクル受けた後でも完全寛解を達成しないと定義される初発難治性、又は再発した白血病に対して標準の化学療法を 1 サイクル受けた後でも完全寛解を達成しないと定義される化学療法難治性
- フィラデルフィア染色体陽性の患者では TKI 不耐もしくは禁忌又は 2 種類以上の TKI を受けても奏効が得られない

② 下記に該当する患者に対する本品の投与については、本品の投与対象とならない。

- フローサイトメトリー法又は免疫組織染色法等により検査を行い、CD19 抗原が陽性であることが確認されない患者
- 本品の投与時に 26 歳以上の患者
- 髄外単独病変の再発の患者
- 骨髄機能不全を合併する遺伝性疾患（ファンコニ貧血、重症先天性好中球減少症、Shwachman-Diamond 症候群等、ただし、ダウン症候群は除く）の患者
- バーキットリンパ腫/白血病の患者
- 他の悪性腫瘍を合併している患者
- Grade 2～4 の急性移植片対宿主病を合併している患者
- 広汎性 (注4) 慢性移植片対宿主病を合併している患者
- 他の抗悪性腫瘍剤と併用して投与される患者
- 同種 HSCT を受けてから 6 カ月未満の患者
- 本品の投与歴のある患者

(注4) 以下の①～③のいずれかに該当する場合と定義

① 全身の皮膚症状（体表面の 50%以上）がある

② 局所的な皮膚症状及び/又は肝機能不全、及び、以下のうちいずれか 1 つ以上の症状がある

- 肝組織に活動性の慢性肝炎，架橋壊死，肝硬変がある場合
- 眼症状（シルマー試験で 5 mm 未満）がある場合
- 口唇生検で小唾液腺又は口腔粘膜に病変がある場合
- 他の標的臓器に病変がある場合

③ 2 つ以上の標的臓器に病変がある場合

③　小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン（2016 年版）（日本小児血液・がん学会編）において、初発の患者で標準的な化学療法を 1 回施行した後に同種 HSCT の適応を検討する対象として、1 歳以上の患者で、かつ hypodiploid（低二倍体）又は微小残存病変（MRD）が持続している患者等、再発リスクが高い場合が示されている。この場合、「同種 HSCT の適応とならない又は同種 HSCT 後に再発した場合」として、本品の投与を考慮できる。

【安全性に関する事項】

①　下記に該当する場合は本品の投与が禁忌・禁止とされていることから、投与を行わないこと。

- 一度解凍した本品を再凍した場合
- 患者に本品の成分に対する過敏症の既往歴がある場合
- 原材料として用いた非動員末梢血単核球が、患者本人以外のものである場合

②　下記に該当する患者に対する本品の投与及び使用方法については、本品の安全性が確立されておらず、本品の投与対象とならない。

- カルノフスキースコア（16 歳以上の場合）又はランスキースコア（15 歳以下の場合）で 50 未満の患者 (注5)

(注5)　カルノフスキースコア及びランスキースコア

	カルノフスキースコア	ランスキースコア
正常な活動及び作業を行うことができる。		正常な活動を行うことができる。
100	正常で愁訴なし。疾患を認めない	完全に活動的
90	正常な活動を行うことができる。疾患の軽微な徴候又は症状	身体的に激しい遊びがわずかに制限される
80	努力を伴う正常な活動。疾患の若干の徴候又は症状	激しい遊びが制限される。疲れやすいが、それ以外は活動的
作業できない。自宅で生活し，最も必要な自分自身のことの世話ができる。		軽度から中等度の制限
70	自分の世話ができる。正常な活動又は活動的な作業を行うことができない。	活動的な遊びが大きく制限され，かつその時間が短い。
60	たまの補助を必要とするが、最も必要な自分自身の世話をすることができる。	起きている時間が 50%以下で、補助/監視が付いて活動的な遊びは限られる
50	かなりの補助及び頻回の医療的ケアを必要とする	すべての活動的な遊びにかなりの補助が必要、おとなしい遊びは十分に行うことができる。
自身の世話ができない。施設や病院のケアと同等の世話が必要。		中等度から重度の制限。
40	体が不自由である。特別な世話又は補助を必要とする。	おとなしい遊びを始めることができる。
30	著しく体が不自由である。死は差し迫っていないが、入院が指示される。	おとなしい遊びにかなりの補助が必要。
20	重症。入院が必要。活動的な支持療法が必要。	他者が始めた非常に受動的な活動に制限される（テレビなど）。
10	瀕死。致命的な経過が急速に進行する。	完全に体が不自由である。受動的な遊びさえもできない。
0	死亡。	無反応。

- 制御不能で生命の危険がある感染症を有している患者（本品の投与前 72 時間以内に血液培養陽性である場合、抗菌薬や抗真菌剤の投与にもかかわらず増悪傾向を示す場合等）

5.2 DLBCL

【有効性に関する事項】

① 下記の患者において本品の有効性が確認されている。
以下のいずれかの条件を満たす、再発又は難治性の CD19 陽性の DLBCL 患者であって、自家 HSCT の適応とならない（併存疾患がある、何らかの禁忌がある、造血幹細胞の採取ができない）又は自家 HSCT 後に再発した患者

- 初発の患者では化学療法を 2 ライン以上、再発の患者では再発後に化学療法を 1 ライン以上施行し、化学療法により完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した
- 濾胞性リンパ腫が形質転換した患者では通算 2 ライン以上の化学療法を施行し、形質転換後には化学療法を少なくとも 1 ライン施行し、化学療法により完全奏効が得られなかった又は完全奏効が得られたが再発した

② 下記に該当する患者に対する本品の投与については、本品の投与対象とならない。

- フローサイトメトリー法又は免疫組織染色法等により検査を行い、CD19 抗原が陽性であることが確認されない患者
- リツキシマブ（遺伝子組換え）及びアントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法歴のない患者
- 同種 HSCT の治療歴のある患者
- T 細胞豊富型/組織球豊富型大細胞型 B 細胞性リンパ腫（THRBCL）、皮膚原発大細胞型 B 細胞性リンパ腫、縦隔原発 B 細胞性リンパ腫（PMBCL）、EBV 陽性 DLBCL（高齢者）、リヒター症候群及びバーキットリンパ腫を有する患者
- 他の悪性疾患を合併している患者
- 本品の投与歴のある患者

【安全性に関する事項】

① 下記に該当する場合は本品の投与が禁忌・禁止とされていることから、投与を行わないこと。

- 一度解凍した本品を再凍結した場合
- 患者に本品の成分に対する過敏症の既往歴がある場合
- 原材料として用いた非動員末梢血単核球が、患者本人以外のものである場合

② 下記に該当する患者に対する本品の投与については、本品の安全性が確立されておらず、本品の投与対象とならない。

- ECOG Performance Status が 2-4 (注6) の患者
- 制御不能で生命の危険がある感染症を有している患者（本品の投与前 72 時間以内に血液培養陽性である場合、抗菌薬や抗真菌剤の投与にもかかわらず増悪傾向を示す場合等）

6. 投与に際して留意すべき事項

① 添付文書等に加え、製造販売業者が提供する資材等に基づき本品の特性及び適正使用のために必要な情報を十分に理解してから使用すること。

② 治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分に説明し、同意を得てから投与すること。

③ 主な副作用のマネジメントについて

- 本品投与時に infusion reaction（発熱、悪寒、悪心等）があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察するとともに、重篤な infusion reaction が認められた場合には、適切な処置（酸素吸入、昇圧剤等）を行うこと。また、infusion reaction を軽減させるため、本品投与の約 30～60 分前に、抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤の前投与を行うこと。また、生命を脅かす緊急事態の場合を除き、副腎皮質ステロイドは使用しないこと。
- CRSがあらわれることがあるので、本品の投与中及び投与後は臨床症状（高熱、悪寒、筋肉痛、関節痛、悪心、嘔吐、下痢、発汗、発疹、食欲不振、疲労、頭痛、低血圧、脳症、呼吸困難、頻呼吸、低酸素症等）、一過性の心不全及び不整脈、腎不全、AST増加、ALT増加、ビリルビン増加の確認等、観察を十分に行うこと。また、CRSの徴候が認められた場合には、他の合併症との鑑別を行うとともに、製造販売業者が提供する最新のCRS管理アルゴリズム及びCRSに対する最新の情報に従い、適切な処置を行うこと。なお、B2202試験及びC2201試験において、本品の投与開始からCRSの初回発現までの期間の中央値（範囲）は、それぞれ3.0日（1～22日）及び3.0日（1～51日）であり、表8の管理アルゴリズムを用いて治療された。

(注6) ECOG の Performance Status（PS）

Score	定義
0	全く問題なく活動できる。発病前と同じ日常生活が制限なく行える。
1	肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる。 例：軽い家事、事務作業
2	歩行可能で自分の身の回りのことはすべて可能だが作業はできない。日中の 50%以上はベッド外で過ごす。
3	限られた自分の身の回りのことしかできない。日中の 50%以上をベッドか椅子で過ごす。
4	全く動けない。自分の身の回りのことは全くできない。完全にベッドか椅子で過ごす。

表 8　CRS が発現した際の管理アルゴリズムの概略

段階	CRS の重症度（症状及び状況等）	対処法
本品の投与から数時間～数日	前駆症状：微熱、疲労、食欲不振	・経過観察、培養検査等により感染症の可能性を除外する。 ・発熱性好中球減少症を考慮した抗菌剤の投与。 ・対症療法を行う。
第一選択の治療	症状の進行：高熱、低酸素症、中等度の低血圧	・酸素、補液、低用量の昇圧薬、解熱剤を投与する。
第二選択の治療	下記の症状の進行が認められる場合： ・ 輸液と中～高用量の昇圧薬の投与にもかかわらず血行動態不安定 ・ 肺浸潤を含む呼吸窮迫の悪化 ・ 高流量酸素及び／又は人工呼吸管理を必要とする状態 ・ 急速な臨床的悪化	・トシリズマブ（体重が 30 kg 未満の患者では 12 mg/kg、30 kg を超える患者では 8 mg/kg*の 1 回目の投与を行う。
第三選択の治療	トシリズマブの効果を待っている間に臨床的改善が認められない場合	・トシリズマブの 1 回目の投与後 12～18 時間以内に改善が認められない場合、副腎皮質ステロイドの投与を検討する。 ・メチルプレドニゾロン 2 mg/kg から開始し、続いて 2 mg/kg/day を投与する。
第四選択の治療	第三選択の治療に対する反応を待っている間に臨床的改善が見られない場合	・副腎皮質ステロイドに対する反応が 24 時間以内に見られない場合、トシリズマブ（体重が 30 kg 未満の患者では 12 mg/kg、30 kg を超える患者では 8 mg/kg*の 2 回目の投与を検討する。
第五選択の治療	第四選択の治療に対する反応を待っている間に臨床的改善が見られない場合	・副腎皮質ステロイド及びトシリズマブの 2 回目の投与に対する反応が 24 時間以内に見られない場合又は臨床症状が悪化した場合、トシリズマブ（体重が 30 kg 未満の患者では 12 mg/kg、30 kg を超える患者では 8 mg/kg*の 3 回目の投与を検討する。
第六選択の治療	第五選択の治療に対する反応を待っている間に臨床的改善が見られない場合	・シクロホスファミド、抗胸腺細胞グロブリン又はアレムツズマブ（遺伝子組換え）等の抗 T 細胞療法を検討する。

*臨床試験では 800 mg/body を超えた用量で投与された患者が認められた

*トシリズマブの投与にあたっては、トシリズマブの添付文書、適正使用ガイド、製造販売業者が提供する最新のCRS管理アルゴリズム等を熟読すること。

- 神経障害があらわれることがあるので、本品の投与中及び投与後には臨床症状（脳症、せん妄、不安、浮動性めまい、振戦、意識障害、失見当識、頭痛、錯乱、激越、痙攣発作、無言症、失語症等）の確認等、観察を十分に行うこと。
- 本品の投与後数週間以上にわたり、白血球減少、好中球減少、貧血、血小板減少、発熱性好中球減少等の骨髄抑制があらわれ、死亡に至る例が報告されているので、本品の投与にあたっては、定期的に血液検査を行い、患者の状態を十

分に観察すること。

- 感染症があらわれることがあるので、本品の投与にあたっては、臨床症状の確認等、観察を十分に行うこと。また、本品の投与前に活動性の感染症が認められた場合は、感染症の治療を優先し、患者の状態が安定した後、本品を投与すること。さらに、低γグロブリン血症があらわれることがあるので、本品の投与前及び投与後は定期的に血液検査を行い、患者の状態を十分に観察し、必要に応じて免疫グロブリン製剤の投与を行うこと。
- B型肝炎又はC型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者において、肝炎ウイルスが再活性化される可能性がある。HIV感染者においてはウイルスが増加する可能性がある。白血球アフェレーシスを実施する前に肝炎ウイルス感染、HIV感染の有無を確認すること。肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者に本品を投与する場合は、肝機能検査値や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化やC型肝炎の悪化の徴候や症状の発現に注意すること。
- 腫瘍崩壊症候群があらわれることがあるので、本品の投与にあたっては、血清中電解質濃度の測定及び腎機能検査を行うなど、観察を十分に行うこと。
- 意識変容、意識低下、協調運動障害等があらわれることがあるので、本品投与後の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。

最適使用推進ガイドラインの取扱いに係る通知について

（平成 29 年９月 13 日中央社会保険医療協議会了承）

１．本制度の趣旨

医薬品は、添付文書等に基づいた適正な使用が求められる。また、昨今、革新的かつ非常に高額な医薬品が登場しているが、こうした医薬品に対して、国民負担や医療保険財政に与える影響が懸念されており、経済財政運営と改革の基本方針 2016 においても、革新的医薬品の使用の最適化推進を図ることとされている。

また、革新的な新規作用機序を有する医薬品は、薬理作用や安全性プロファイルが既存の医薬品と明らかに異なることがある。したがって、有効性及び安全性に関する情報が十分蓄積するまでの間、当該医薬品の恩恵を強く受けることが期待される患者に対して使用するとともに、副作用が発現した際に必要な対応を迅速にとることが可能な一定の要件を満たす医療機関で使用することが重要である。

そのため、新規作用機序を有する革新的な医薬品については、当該医薬品の最適な使用を推進する観点から必要な患者及び医療機関等の要件、考え方及び留意事項を示すガイドライン（以下「GL」という。）を審査と並行して作成する。

２．対象医薬品

本制度の趣旨を踏まえ、以下の観点を総合的に判断。投与対象となる患者数が非常に多く、多施設で使用される可能性が高い医薬品を対象とする。

① 薬理作用が既存の医薬品と比較して大きく異なる
② 安全性のプロファイルが既存の医薬品と比較して大きく異なり、使用の上で特別な注意が必要
③ 既存の医薬品と比較した有効性が著しく高い
④ 既存の医薬品と比較した臨床的位置づけが異なり、より広い患者に使用される可能性が高い
⑤ 他の疾患を対象とした開発（効能又は効果の追加）等による使用患者の拡大の可能性

３．手続き

- 対象となると考えられる医薬品が承認申請された場合、直近の薬事・食品衛生審議会の担当部会に報告。
- 関係学会等及び PMDA に GL 案の検討を依頼。
- 対象医薬品の承認について審議等を行う部会で GL 案を事務局が説明、了承を得る。
- 対象医薬品の薬価収載の審議を行う中央社会保険医療協議会（以下「中医協」）総会で GL 案を事務局が報告、了承を得る。
  ※効能追加等の一部変更承認の場合には、中医協には事後的に報告する。
- 対象医薬品の薬価収載までに、保険適用上の留意事項と GL を通知。

最適使用推進ＧＬが策定された再生医療等製品の保険適用上の留意事項について

１　概要

○　最適使用推進ＧＬが策定された医薬品については、平成 28 年 11 月 16 日中医協総会において、最適使用推進ＧＬの内容を踏まえた保険適用上の留意事項を通知することとされた。

○　今般、再生医療等製品のキムリア点滴静注について、医薬品と同様に最適使用推進ＧＬが策定されたので、これに係る保険適用上の留意事項を検討したい。

２　対象品目の概要

品目	企業	ＧＬが策定された効能・効果
キムリア点滴静注	ノバルティスファーマ	1.　再発又は難治性のＣＤ１９陽性のＢ細胞性急性リンパ芽球性白血病 2.　再発又は難治性のＣＤ１９陽性のびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫

３　留意事項の内容

（１）　基本的考え方として、対象品目について、最適使用推進ＧＬに従って使用する旨を明記。

（２）　診療報酬明細書の摘要欄に記載を求める事項

医療施設の要件のいずれに該当するか。

（参考）最適使用推進ガイドライン（案）チサゲンレクルユーセル～Ｂ細胞性急性リンパ芽球性白血病及びびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫～（抄）

4. 施設について

本品の製造には白血球のアフェレーシスが必要なこと、LD 化学療法や本品の投与に際して重篤な有害事象が認められる可能性が高いことから、本品の投与が適切な患者を診断・特定し、本品の投与により重篤な副作用が発現した際に対応することが必要である。したがって、以下の①～③のすべてを満たす施設において使用する必要がある。

① 施設について

① -1　下記の（1）～（5）のすべてに該当する施設であること

(1) 日本造血細胞移植学会が定める移植施設認定基準の全ての項目を満たす診療科（認定カテゴリー1）又は認定カテゴリー1 に準ずる診療科（認定基準のうち、移植コーディネーターの配置に係る基準以外を満たす診療科）を有すること。

４　留意事項通知の発出日及び適用日

発出日：令和元年５月 21 日

適用日：令和元年５月 22 日

ＤＰＣにおける高額な新規の医薬品等への対応について

1　新規に薬価収載された医薬品等については、DPC/PDPSにおける診療報酬点数表に反映されないことから、一定の基準に該当する医薬品等を使用した患者については、包括評価の対象外とし、次期診療報酬改定までの間、出来高算定することとしている。
　包括評価の対象外とするか否かは個別DPC（診断群分類）毎に判定し、また、前年度に使用実績のない医薬品等は、当該医薬品等の標準的な使用における薬剤費（併用する医薬品含む）の見込み額が、使用していない症例の薬剤費の84%tileを包括評価の対象外とすることとしている。

2　平成31年２月21日、３月26日に新たに効能又は効果及び用法又は用量が追加された医薬品並びに令和元年５月22日に薬価収載を予定している医薬品等のうち以下に掲げるものは、上記基準に該当する。よって、これらの薬剤を使用した患者であって当該薬剤に対応する診断群分類に該当するものについては、次期診療報酬改定までの間、出来高算定することとしてはどうか。

区分	銘　柄　名	成分名	規格単位	薬　価	効能効果	用 法 用 量	１回投与当たりの標準的な費用（A）	出来高算定対象		平均在院日数を加味した１入院当たり標準的費用		包括範囲薬剤の84%tile値
								診断群分類番号	（告示）番号	仮想投与回数（日数）（B）	標準的費用（A×B）	
一変	ヒュミラ皮下注40 mgシリンジ0.4 mL ヒュミラ皮下注80 mgシリンジ0.8 mL ヒュミラ皮下注40 mgペン0.4 mL ヒュミラ皮下注80 mgペン0.8 mL	アダリムマブ（遺伝子組換え）	40mg0.4mL1筒 80mg0.8mL1筒 40mg0.4mL1キット 80mg0.8mL1キット	62,384円 121,236円 62,596円 121,448円	化膿性汗腺炎	通常、成人にはアダリムマブ（遺伝子組換え）として初回に160mgを、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを毎週1回、皮下注射する。	242,472円/回（初回） 121,236円/回（2回目） 62,384円/回（3回目以降）	080010 膿皮症 080210 ざ瘡、皮膚の障害（その他）				
								080010xxxx0xxx	3228	1.00回	242,472円	42,290円
								080010xxxx1xxx	3229	3.00回	426,092円	105,418円
								080210xxxxxxxx	3249	1.00回	242,472円	9,326円
一変	デュピクセント皮下注300 mgシリンジ	デュピルマブ（遺伝子組換え）	300mg2mL1筒	81,640円	気管支喘息（既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症又は難治の患者に限る）	通常、成人及び12歳以上の小児にはデュピルマブ（遺伝子組換え）として初回に600mgを皮下投与し、その後は１回300mgを２週間隔で皮下投与する。	163,280円/回（初回） 81,640円/回（2回目以降）	040100 喘息				
								040100xxxxx00x	2183	1.00回	163,280円	15,180円
								040100xxxxx01x	2184	1.00回	163,280円	37,253円
								040100xxxxx10x	2185	1.00回	163,280円	71,705円
								040100xxxxx11x	2186	2.00回	244,920円	141,478円
								040100xxxxx2xx	2187	2.00回	244,920円	234,227円
一変	オノアクト点滴静注用50mg オノアクト点滴静注用150mg	ランジオロール塩酸塩	50mg1瓶 150mg1瓶	4,823円 13,362円	生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急を要する場合：心室細動、血行動態不安定な心室頻拍	ランジオロール塩酸塩として、1μg/kg/minの速度で静脈内持続投与を開始する。投与中は心拍数、血圧を測定し1～10μg/kg/minの用量で適宜調節する。なお、心室細動又は血行動態不安定な心室頻拍が再発し本剤投与が必要な場合には、心拍数、血圧を測定し最大40μg/kg/minまで増量できる。	129,904円/回	050070 頻脈性不整脈				
								050070xx99000x	2345	1.00回	129,904円	18,847円
								050070xx99001x	2346	1.00回	129,904円	108,689円
								050070xx99100x	2349	1.00回	129,904円	50,304円
								050070xx9930xx	2352	1.00回	129,904円	13,728円
								050070xx9700xx	2353	1.00回	129,904円	41,830円
								050070xx01x0xx	2356	1.00回	129,904円	10,700円
								050070xx01x10x	2357	1.00回	129,904円	31,723円

区分	銘　柄　名	成分名	規格単位	薬 価	効能効果	用 法 用 量	１回投与当たりの標準的な費用（A）	出来高算定対象		平均在院日数を加味した１入院当たり標準的費用		包括範囲薬剤の84%tile値
								診断群分類番号	（告示）番号	仮想投与回数（日数）（B）	標準的費用（A×B）	
一変	リツキサン点滴静注100mg リツキサン点滴静注500mg	リツキシマブ（遺伝子組換え）	100mg10mL1瓶 500mg50mL1瓶	32,212円 157,855円	ＣＤ２０陽性の慢性リンパ性白血病	他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人には、リツキシマブ（遺伝子組換え）として初回に１回量375mg/m2、2回目以降は１回量500mg/m2を、併用する抗悪性腫瘍剤の投与サイクルに合わせて、１サイクルあたり１回点滴静注する。最大投与回数は６回とする。	190,067円/回 （初回） 254,491円/回 （2回目以降） このほかに併用薬の費用がかかる。	130050 慢性白血病、骨髄増殖性疾患				
								130050xx99x3xx	3890	1.00回	362,482円	205,721円
								130050xx97x20x	3895	2.00回	788,108円	717,533円
新薬 (6)	レブコビ筋注2.4mg	エラペグアデマーゼ（遺伝子組換え）	2.4mg1.5mL1瓶	846,349円	アデノシンデアミナーゼ欠損症	通常、エラペグアデマーゼ（遺伝子組換え）として0.2mg/kgを1週間に1回筋肉内注射する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1回あたりの最大投与量は0.3mg/kgとする。ただし、速やかにアデノシンデアミナーゼ活性を上昇させる必要がある場合には、1回0.2mg/kgを1週間に2回筋肉内注射することができる。	4,231,745円/回	130150 原発性免疫不全症候群				
								130150xx99x1xx	3947	1.00回	4,231,745円	597,602円
								130150xx97x0xx	3948	6.00回	25,390,470円	1,539,874円
新薬 (8)	リサイオ点滴静注液100mg	チオテパ	100mg2.5mL1瓶	189,816円	小児悪性固形腫瘍における自家造血幹細胞移植の前治療	メルファランとの併用において、通常、チオテパとして1日1回200 mg/m2を24時間かけて点滴静注する。これを2日間連続で行い、5日間休薬した後、さらに同用量を2日間連続で行う。なお、患者の状態により適宜減量する。	379,632円/回 このほかに併用薬の費用がかかる。	010010 脳腫瘍 02001x 角膜・眼及び付属器の悪性腫瘍 03001x 頭頸部悪性腫瘍 040010 縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍 060030 小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍 070030 脊椎・脊髄腫瘍 100180 副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍 180050 その他の悪性腫瘍				
								010010xx9904xx	8	4.00回	1,550,244円	331,890円
								010010xx9905xx	9	4.00回	1,550,244円	261,882円
								010010xx9906xx	10	2.00回	790,980円	8,930円
								010010xx9907xx	11	4.00回	1,550,244円	346,848円
								010010xx9908xx	12	4.00回	1,550,244円	984,161円
								010010xx97x4xx	19	4.00回	1,550,244円	645,257円
								010010xx97x5xx	20	4.00回	1,550,244円	557,270円
								010010xx97x6xx	21	4.00回	1,550,244円	87,220円
								010010xx97x7xx	22	4.00回	1,550,244円	888,080円
								010010xx97x8xx	23	4.00回	1,550,244円	1,127,040円
								010010xx01x4xx	31	4.00回	1,550,244円	1,012,458円
								010010xx01x5xx	32	4.00回	1,550,244円	488,322円
								010010xx01x6xx	33	4.00回	1,550,244円	201,098円
								010010xx01x7xx	34	4.00回	1,550,244円	1,089,031円
								010010xx01x8xx	35	4.00回	1,550,244円	1,225,227円
								02001xxx99x1xx	1799	4.00回	1,550,244円	194,852円
								03001xxx99x3xx	1871	4.00回	1,550,244円	256,918円
								03001xxx99x4xx	1872	4.00回	1,550,244円	190,636円
								03001xxx99x5xx	1873	4.00回	1,550,244円	389,614円
								03001xxx97x3xx	1879	4.00回	1,550,244円	443,100円
								03001xxx97x4xx	1880	4.00回	1,550,244円	352,991円
								03001xxx97x5xx	1881	4.00回	1,550,244円	684,394円

区分	銘　柄　名	成分名	規格単位	薬 価	効能効果	用 法 用 量	１回投与当たりの標準的な費用（A）	出来高算定対象		平均在院日数を加味した１入院当たり標準的費用		包括範囲薬剤の84%tile値
								診断群分類番号	（告示）番号	仮想投与回数（日数）（B）	標準的費用（A×B）	
2ページの続き								03001xxx97x60x	1882	4.00回	1,550,244円	1,334,384円
								03001xxx0103xx	1888	4.00回	1,550,244円	489,608円
								03001xxx0104xx	1889	4.00回	1,550,244円	299,948円
								03001xxx0113xx	1893	4.00回	1,550,244円	551,906円
								03001xxx0114xx	1894	4.00回	1,550,244円	521,913円
								040010xx99x2xx	1949	4.00回	1,550,244円	140,336円
								040010xx99x30x	1950	4.00回	1,550,244円	172,322円
								040010xx99x31x	1951	4.00回	1,550,244円	248,258円
								040010xx97x2xx	1953	4.00回	1,550,244円	331,280円
								040010xx97x3xx	1954	4.00回	1,550,244円	673,658円
								060030xx99x2xx	2588	4.00回	1,550,244円	123,078円
								060030xx99x3xx	2589	3.00回	1,170,612円	298,516円
								060030xx99x4xx	2590	2.00回	790,980円	198,382円
								060030xx99x5xx	2591	2.00回	790,980円	455,612円
								060030xx97x2xx	2595	4.00回	1,550,244円	430,924円
								060030xx97x30x	2596	4.00回	1,550,244円	336,187円
								060030xx97x31x	2597	4.00回	1,550,244円	807,409円
								060030xx97x4xx	2598	4.00回	1,550,244円	320,587円
								060030xx01x3xx	2602	4.00回	1,550,244円	569,512円
								060030xx01x4xx	2603	4.00回	1,550,244円	296,946円
								070030xx9901xx	3017	4.00回	1,550,244円	252,437円
								070030xx97x1xx	3020	4.00回	1,550,244円	584,198円
								070030xx01x1xx	3022	4.00回	1,550,244円	543,939円
								100180xx990x0x	3458	2.00回	790,980円	17,580円
								100180xx990x1x	3459	4.00回	1,550,244円	85,750円
								100180xx991xxx	3460	2.00回	790,980円	18,078円
								100180xx97x1xx	3462	4.00回	1,550,244円	565,135円
								100180xx02xxxx	3463	4.00回	1,550,244円	14,784円
								100180xx01xxxx	3464	4.00回	1,550,244円	34,640円
								180050xx99xxxx	4293	4.00回	1,550,244円	102,705円
								180050xx97xxxx	4294	4.00回	1,550,244円	112,577円
新薬(9)	ラビピュール筋注用	乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	1瓶（溶解液付）	11,867円	狂犬病の予防及び発病阻止	1.0mLを1回量として、適切な間隔をおいて4～6回筋肉内に接種する。	11,867円/回	161060 詳細不明の損傷等				
								161060xx99x0xx	4268	2.00回	23,734円	5,810円
								161060xx97x0xx	4270	3.00回	35,601円	26,200円

新薬･･･薬価収載予定の医薬品。()内は資料番号に対応　　一変･･･効能効果･用法用量の一部変更　　公知･･･事前評価済公知申請

区分	銘　柄　名	成分名	規格単位	薬 価	効能効果	用 法 用 量	１回投与当たりの標準的な費用（A）	出来高算定対象		平均在院日数を加味した１入院当たり標準的費用		包括範囲薬剤の84%tile値
								診断群分類番号	（告示）番号	仮想投与回数（日数）（B）	標準的費用（A×B）	
新薬	キムリア点滴静注	チサゲンレクルユーセル	1患者当たり	33,493,407円	1.再発又は難治性のCD19陽性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病 2.再発又は難治性のCD19陽性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	(1)再発又は難治性のCD19陽性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病に用いる場合 通常、25歳以下（投与時）の患者には、体重に応じて以下の投与量を単回静脈内投与する。 ・体重50kg以下の場合には、CAR発現生T細胞として0.2×10^{6}～5.0×10^{6}個/kg ・体重50kg超の場合には、CAR発現生T細胞として0.1×10^{8}～2.5×10^{8}個（体重問わず） (2)再発又は難治性のCD19陽性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に用いる場合 通常、成人には、CAR発現生T細胞として0.6×10^{8}～6.0×10^{8}個（体重問わず）を単回静脈内投与する。 （一部省略）	33,493,407円/回	130010 急性白血病 130030 非ホジキンリンパ腫				
								130010xx99x2xx	3832	1.00回	33,493,407円	382,287円
								130010xx99x3xx	3833	1.00回	33,493,407円	405,148円
								130010xx99x5xx	3834	1.00回	33,493,407円	1,082,410円
								130010xx99x6xx	3835	1.00回	33,493,407円	697,532円
								130010xx97x2xx	3838	1.00回	33,493,407円	1,132,160円
								130010xx97x3xx	3839	1.00回	33,493,407円	1,639,216円
								130010xx97x4xx	3840	1.00回	33,493,407円	2,438,746円
								130010xx97x5xx	3841	1.00回	33,493,407円	3,679,981円
								130010xx97x6xx	3842	1.00回	33,493,407円	1,794,044円
								130010xx97x7xx	3843	1.00回	33,493,407円	4,910,401円
								130030xx99x2xx	3852	1.00回	33,493,407円	152,698円
								130030xx99x30x	3853	1.00回	33,493,407円	292,270円
								130030xx99x31x	3854	1.00回	33,493,407円	613,787円
								130030xx99x40x	3855	1.00回	33,493,407円	473,656円
								130030xx99x41x	3856	1.00回	33,493,407円	853,268円
								130030xx99x50x	3857	1.00回	33,493,407円	717,426円
								130030xx99x51x	3858	1.00回	33,493,407円	1,150,918円
								130030xx99x6xx	3859	1.00回	33,493,407円	1,249,102円
								130030xx99x7xx	3860	1.00回	33,493,407円	1,400,967円
								130030xx99x8xx	3861	1.00回	33,493,407円	4,878,729円
								130030xx97x2xx	3865	1.00回	33,493,407円	1,048,903円
								130030xx97x3xx	3866	1.00回	33,493,407円	784,589円
								130030xx97x40x	3867	1.00回	33,493,407円	1,049,149円
								130030xx97x41x	3868	1.00回	33,493,407円	2,090,834円
								130030xx97x50x	3869	1.00回	33,493,407円	1,377,634円
								130030xx97x51x	3870	1.00回	33,493,407円	2,339,490円
								130030xx97x6xx	3871	1.00回	33,493,407円	2,833,812円
								130030xx97x7xx	3872	1.00回	33,493,407円	4,564,040円

3　令和元年５月22日に薬価収載を予定している医薬品のうち、類似薬効比較方式により薬価が設定され、かつ、当該類似薬に特化した診断群分類が既に設定されている以下に掲げるものは、当該診断群分類に反映させることとしてはどうか。

区分	銘　柄　名	成分名	規格単位	薬　価	効能効果	用 法 用 量	１回投与当たりの標準的な費用（A）	反映させる診断群分類
新薬(3)	スマイラフ錠50mg スマイラフ錠100mg	ペフィシチニブ臭化水素酸塩	50mg1錠 100mg1錠	1,741.0円 3,379.9円	既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）	通常、成人にはペフィシチニブとして150mgを1日1回食後に経口投与する。なお、患者の状態に応じて100mgを1日1回投与できる。	5,121円/回	070470 関節リウマチ 本剤は類似薬効比較方式（Ⅰ）により薬価が算定され、類似薬が「バリシチニブ」であったことから、070470 関節リウマチ の「バリシチニブ」による分岐に反映させる。
新薬(4)	アーリーダ錠60mg	アパルタミド	60mg1錠	2,281.9円	遠隔転移を有しない去勢抵抗性前立腺癌	通常、成人にはアパルタミドとして1日1回240mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	9,128円/回	110080 前立腺の悪性腫瘍 本剤は類似薬効比較方式（Ⅰ）により薬価が算定され、類似薬が「エンザルタミド」であったことから、110080 前立腺の悪性腫瘍 の「エンザルタミド」による分岐に反映させる。
新薬(7)	スキリージ皮下注75mgシリンジ0.83mL	リサンキズマブ（遺伝子組換え）	75mg0.83mL1筒	239,374円	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症	通常、成人にはリサンキズマブ（遺伝子組換え）として、1回150mgを初回、4週後、以降12週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態に応じて1回75mgを投与することができる。	478,748円/回	080140 炎症性角化症 本剤は類似薬効比較方式（Ⅰ）により薬価が算定され、類似薬が「グセルクマブ（遺伝子組換え）」であったことから、080140 炎症性角化症 の「グセルクマブ」による分岐に反映させる。

新薬・・・薬価収載予定の医薬品。()内は資料番号に対応　　一変・・・効能効果・用法用量の一部変更　　公知・・・事前評価済公知申請

中医協　総－５（参考）
元　．　５　．　１　５

中医協　総－３（一部抜粋）
２５．１２．２５

※（参考）現行のいわゆる「高額薬剤判定」の運用方法について

○ 新たに保険収載・効能追加となった高額薬剤については、医療の技術革新の導入が阻害されないよう、一定の基準に該当する薬剤を使用した患者については、当該薬剤の十分な使用実績データが収集されDPC包括評価が可能となるまでの期間、包括評価の対象外としている（以下、当該対応を「高額薬剤判定」という。）。

○ 「高額薬剤判定」は、包括評価の対象外となる薬剤および当該薬剤が使用される診断群分類を告示するいわゆる「高額薬剤告示」への追加および診断群分類の定義（傷病名・手術・処置等）を定める「定義告示」への追加の２つの作業からなり、新薬の薬価収載に合わせ、年４回実施している（なお、緊急に薬価収載された新薬については、必要に応じて追加的な判定作業を実施する）。

○ 高額薬剤判定の具体的な作業は次の通り。

【高額薬剤告示への追加】

○ 新たに保険適用される以下の医薬品について、その効能・効果から当該医薬品を使用する可能性のある 診断群分類（14 桁コード）を抽出する。

① 新薬

② 効能効果・用法用量の一部変更（薬事・食品衛生審議会で審査・報告されたもの）

③ 事前評価済公知申請

○ 各診断群分類について、該当医薬品を入院初日から退院まで添付文書に記載された用法・用量に従って投与した場合の投与回数（仮想投与回数）から、当該医薬品の１入院あたり薬剤費を算出する。

○ 当該１入院あたりの薬剤費が、各診断群分類で使用されている１入院あたり薬剤費の 84%tile 値を超えている場合、当該医薬品を高額薬剤として指定する。

【定義告示への追加】

○ 類似薬効比較方式で算定された新薬であり、当該算定の際の比較薬が該当する診断群分類の定義テーブルにおいて分岐として定義されている場合は、当該新薬を定義テーブルに追加する。

中医協	総－６
元．５．１５	

患者・国民に身近な医療の在り方について

- <u>患者・国民から見た医療について</u>
  - 患者・国民から見た医療について
  - 紹介状なしの大病院受診時の定額負担について

- <u>かかりつけ医機能等の在り方について</u>
  - かかりつけ医機能について
  - かかりつけ歯科医機能について
  - かかりつけ薬剤師・薬局機能について

- <u>患者にとって必要な情報提供や相談支援の在り方について</u>
  - 患者への情報提供について
  - 患者相談・支援について
  - 安全・安心な医療の提供について

患者・国民から見た医療について

○　わが国の医療の状況に対する全体的な満足度については、複数の調査において、経年的に上昇傾向

○　国民1人当たりの医療費負担について、「重いと感じる」「やや重いと感じる」人が約7割を占め、医療費負担の重さを感じる点については、「保険料」が約6割と最も多い

○　外来の受診回数については、乳幼児期から年齢が上がるにつれて減少傾向となり、20-24歳で最小となった後、増加傾向となり、80-84歳で最大となる

○　外来の受診回数が多い疾患については、年齢層ごとに異なる傾向を示す

○　紹介状なしで外来受診する患者の割合については、全体的に減少傾向であり、特に、平成30年度改定より定額負担の仕組みの対象となった病院において、大きく減少

○　大病院受診時定額負担の仕組みの認知度について、仕組みがあることを知っていた人の割合は、いずれの病院区分においても6割を超えており、特に選定療養費徴収不可病院においては、約8割と最も高い

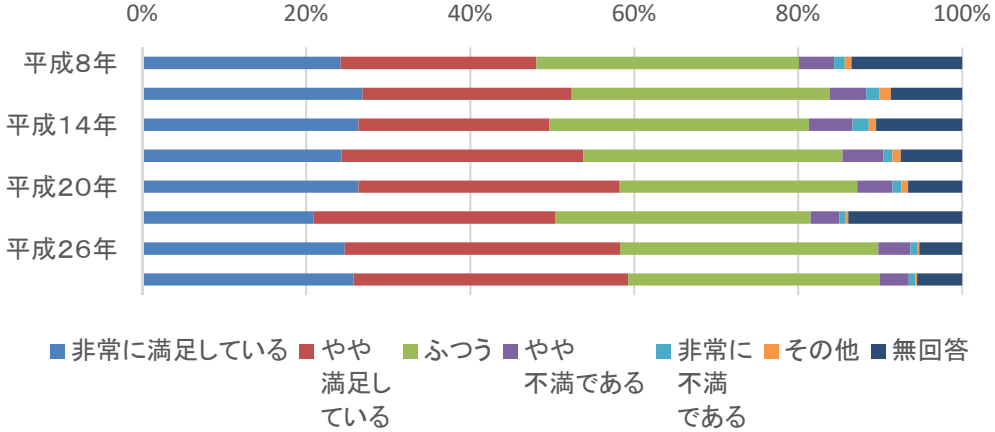
○　初診患者における定額負担の仕組み対象病院を受診した理由については、「どの診療科に行けば良いか分からないが、この病院は診療科の種類が多く、様々な病気に対応してくれるから」との回答割合が最も高かった

わが国の医療の状況に対する満足度について

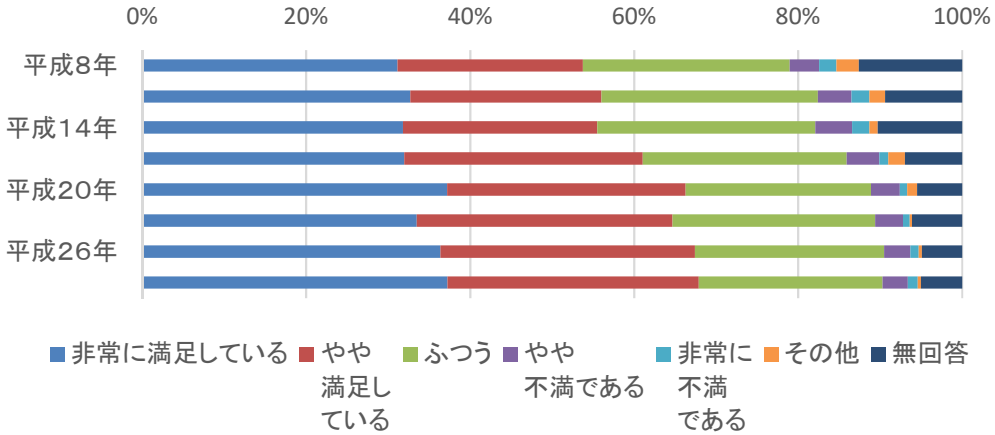
○　受療行動調査において、わが国の病院に対する全体的な満足度は、「非常に満足している」「やや満足している」が、外来患者で約5～6割、入院患者で約6割を占めており、経年的に増加傾向。

○　他の調査においても、わが国の医療に対する満足度は、概ね上昇傾向。

・　病院に対する全体的な満足度（外来患者）

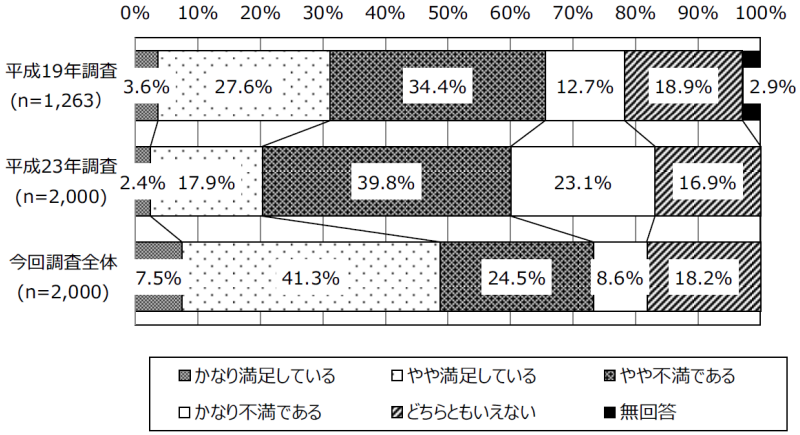


・　病院に対する全体的な満足度（入院患者）



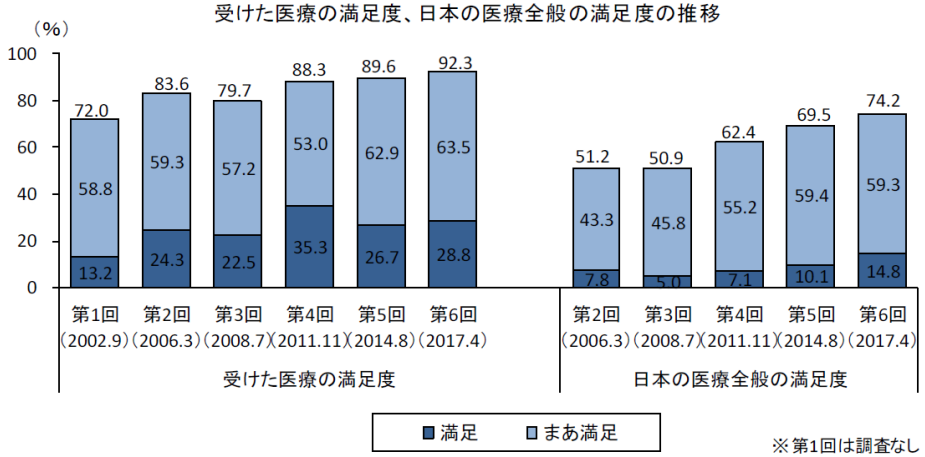
出典：平成29年度受療行動調査

図表 54　わが国の医療の状況に対する満足度（n=2,000 人）



出典：医療・医療保険制度に関する国民意識調査（健康保険組合連合会）

受けた医療の満足度、日本の医療全般の満足度の推移



※第1回は調査なし

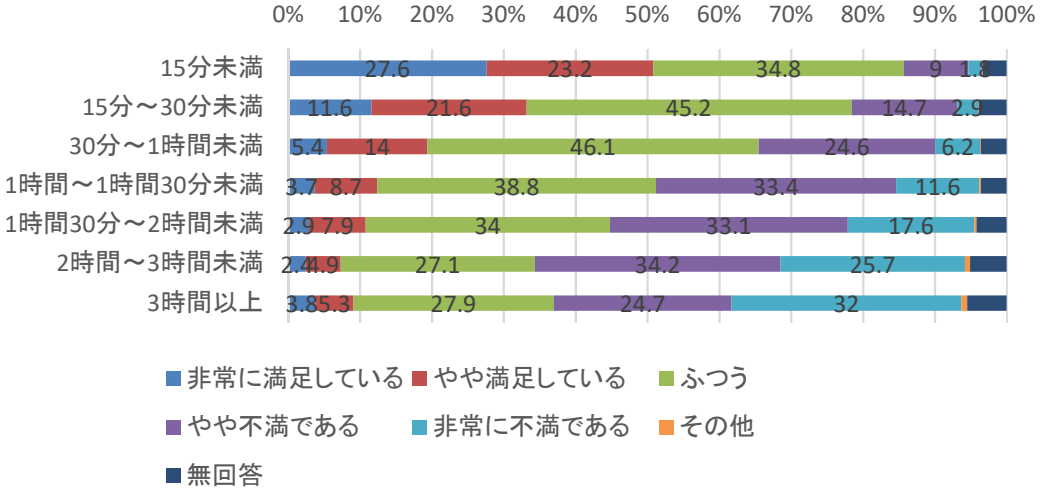
出典：第6回日本の医療に関する意識調査（日医総研ワーキングペーパー）

患者の満足度について

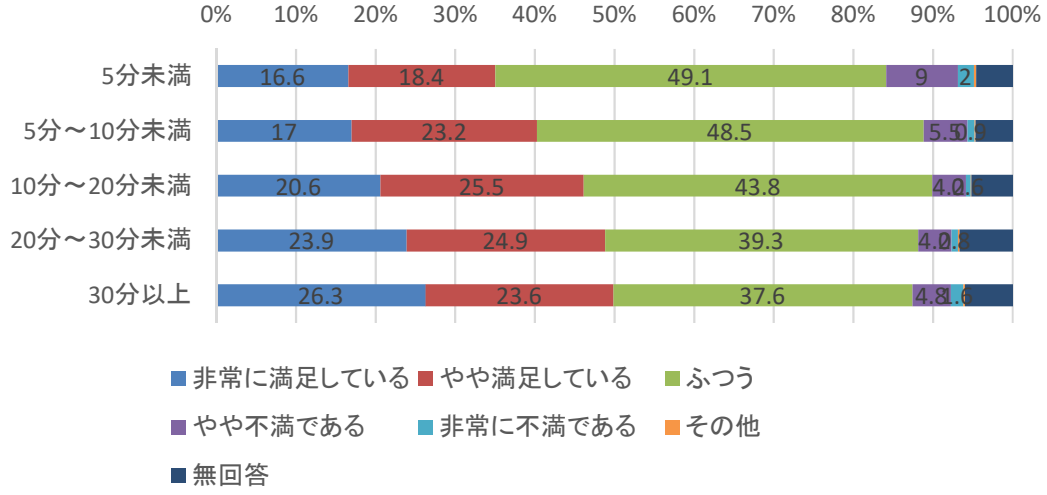
○　診察までの待ち時間に対する満足度は、待ち時間が短いほど高く、診察時間に対する満足度は、診察時間が長いほど高い傾向。

○　診療・治療内容に対する満足度は、予定された注射や処置、リハビリテーション等を実施された場合に、若干高い傾向。

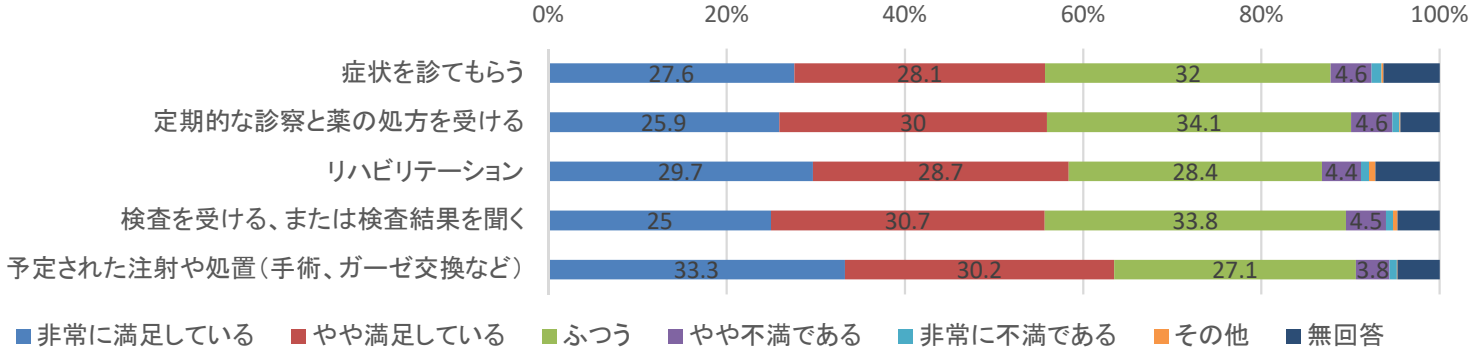
・　診察までの待ち時間に対する満足度



・　診察時間に対する満足度



・　診療・治療内容に対する満足度

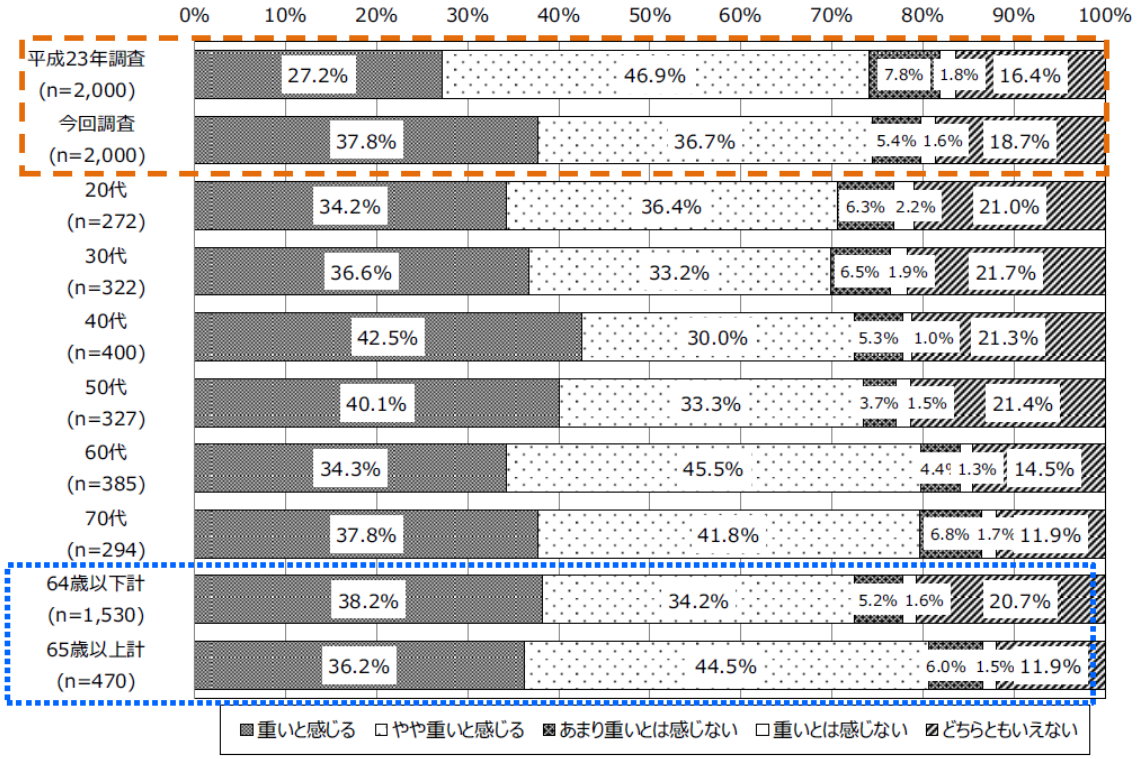


出典：平成29年受療行動調査

医療費負担に関する意識について

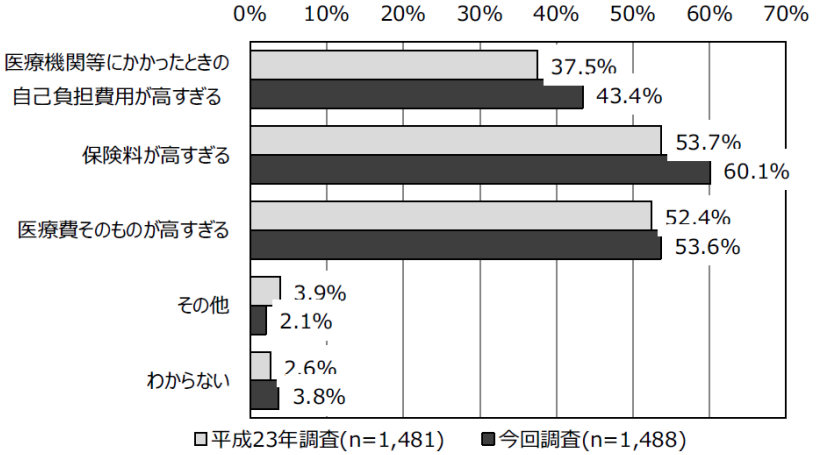
○　国民1人当たりの医療費負担について、「重いと感じる」「やや重いと感じる」人が、約7割を占める。
○　医療費負担の重さを感じる点については、「保険料」60.1%が最も多く、以下、「医療費そのもの」53.6%、「自己負担費用」43.4%と続く。

・　国民1人当たりの医療費負担について（n=2,000人）



・　医療費の負担について重いと思う点

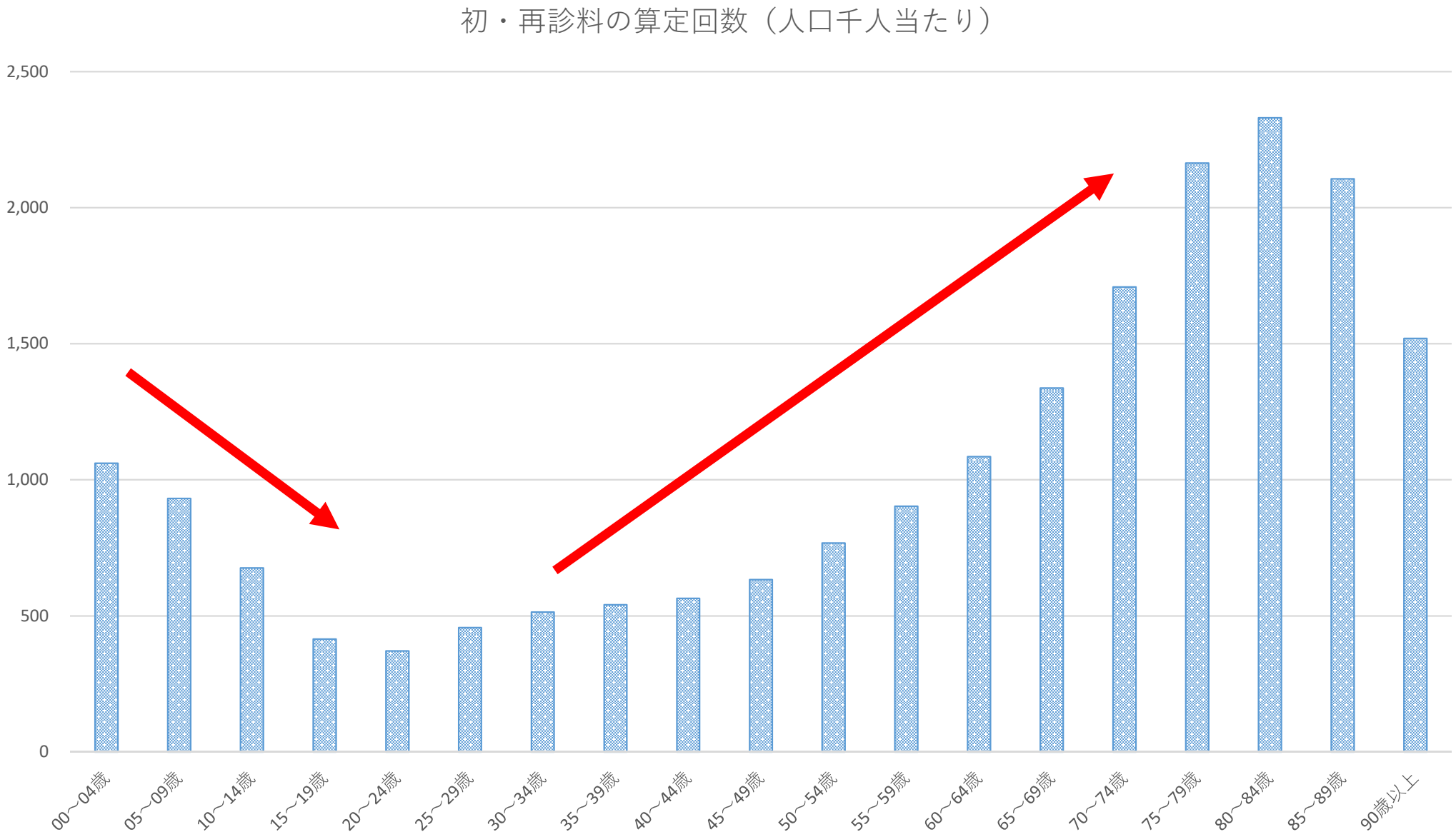
（n=「重いと感じる」「やや重いと感じる」と回答した 1,488 人）【複数回答】



出典：医療・医療保険制度に関する国民意識調査（健康保険組合連合会）

外来機能：年齢別の算定回数

○　乳幼児期から年齢が上がるにつれて受診回数は減少し、20～24歳で最小となる
○　その後、年齢が上がるにつれて受診回数が増加し、80～84歳に最大となる

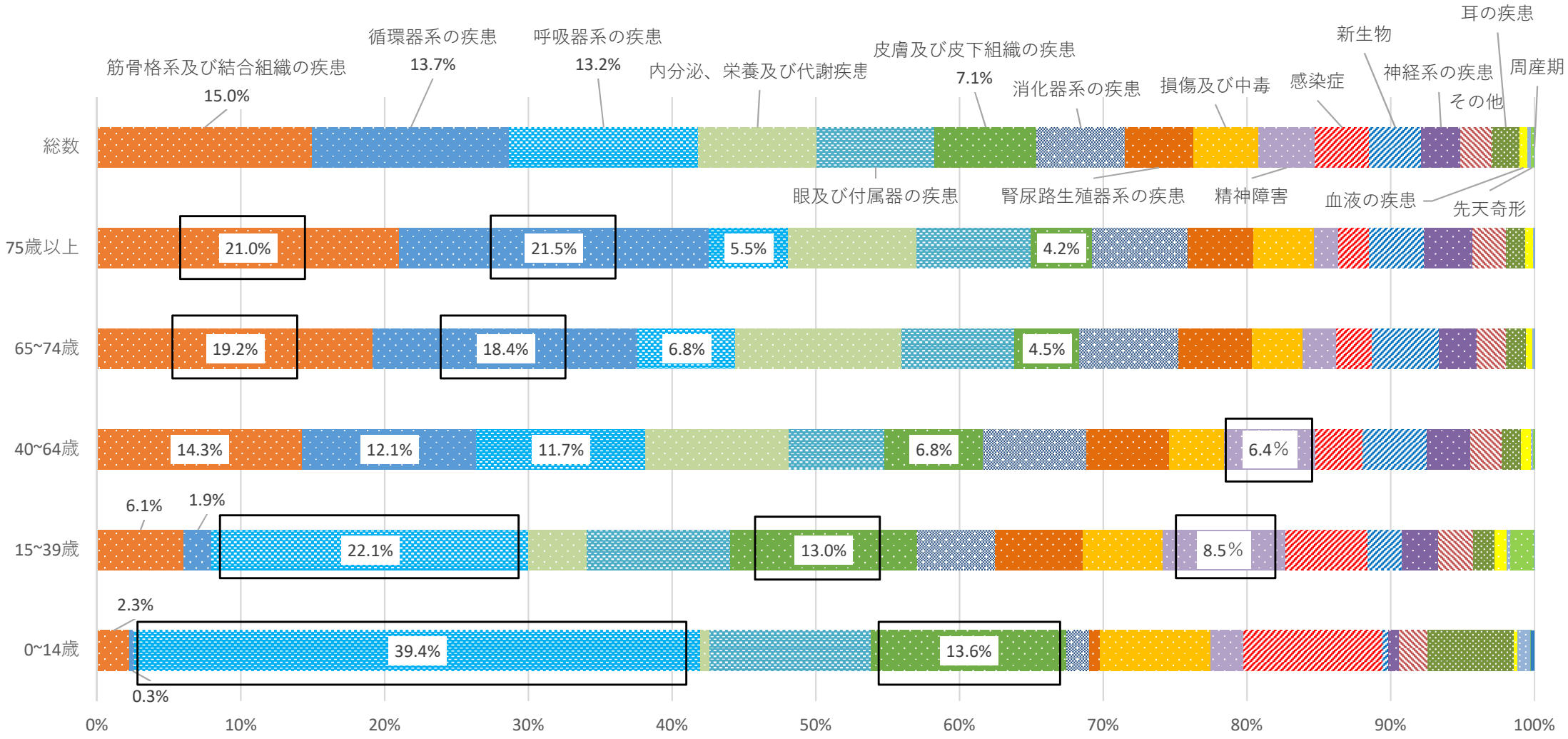


出典：平成29年度社会医療診療行為別統計、国立社会保障・人口問題研究所　より医療課作成

外来機能：初・再診料の算定回数が多い疾患分類

○　若年層では呼吸器や皮膚に係る疾患が多く、年齢を経ると筋骨格系や循環器に係る疾患が多くなる
○　15～64歳では、他の年齢層に比べ、精神障害の割合が高い

初・再診料を算定した疾患分類

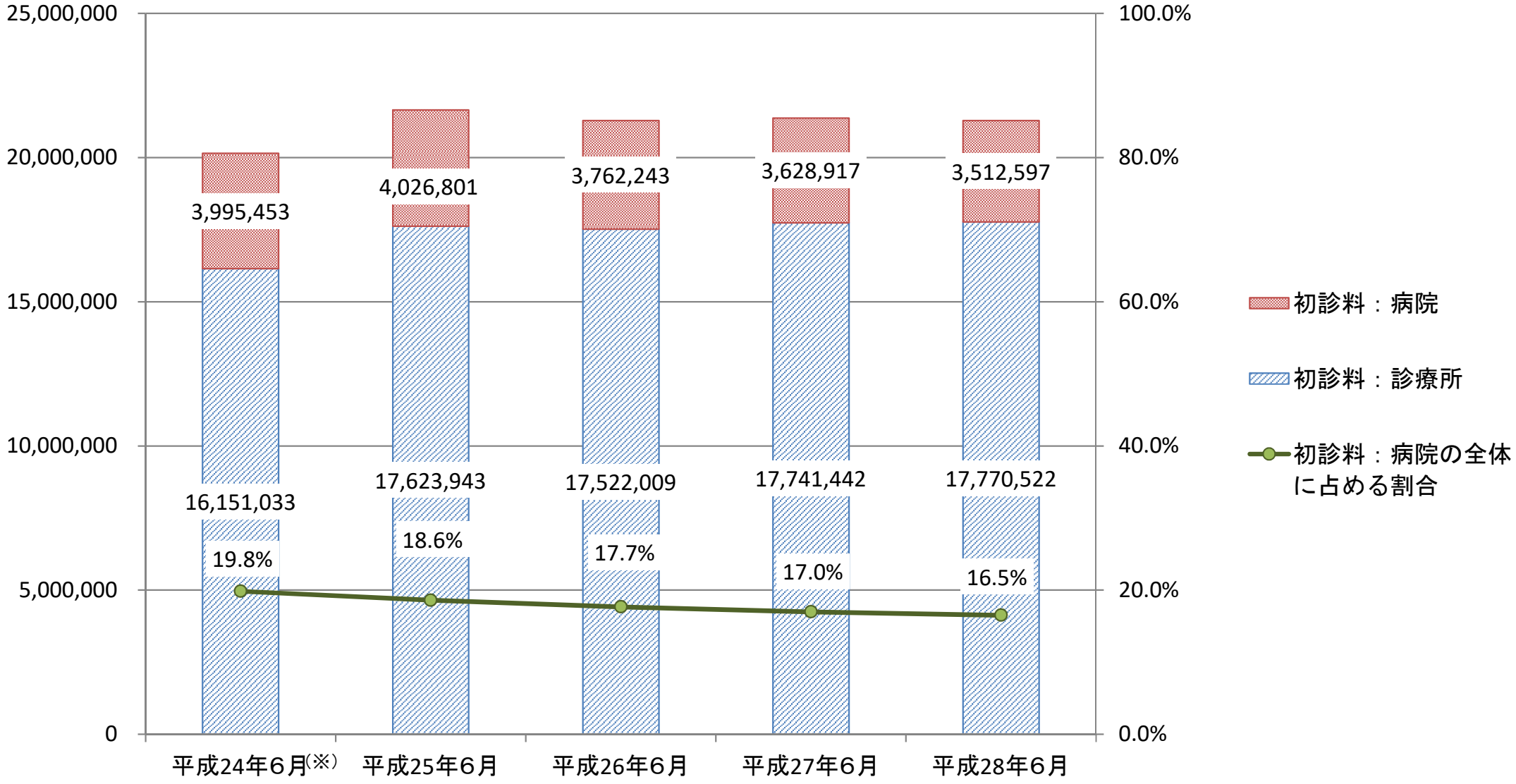


出典：平成29年度社会医療診療行為別統計

病院・診療所別の初診料の算定回数の年次推移

○　初診料の算定回数は、診療所が病院に比べ多く、また、病院の割合は減少傾向。

（単位：回）

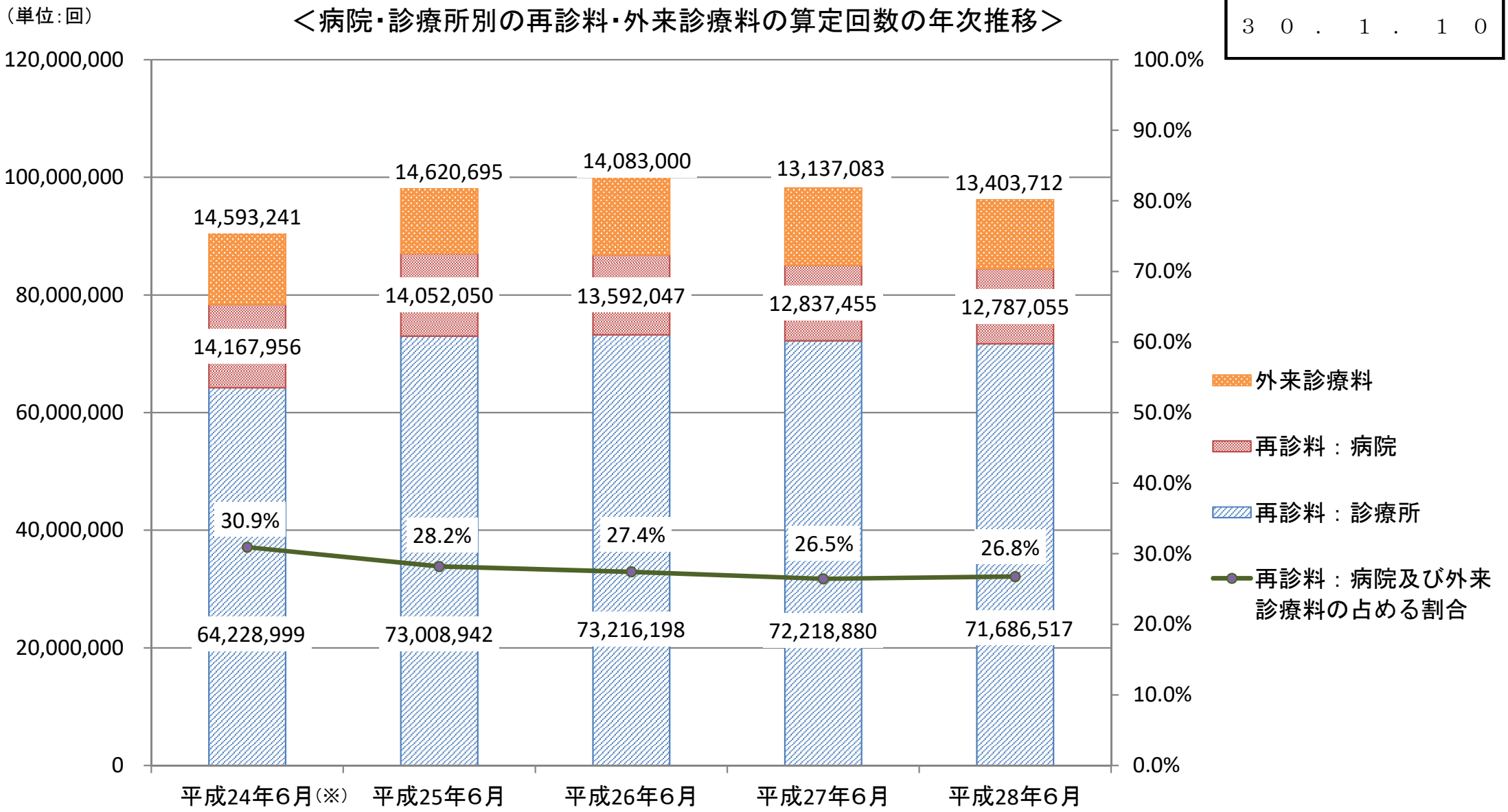


※平成24年までは診療所は抽出調査、平成25年以降は全数調査

出典：社会医療診療行為別統計（各年6月審査分）

病院・診療所別の再診料・外来診療料の算定回数の年次推移

○　再診料・外来診療料の算定回数は、全体として減少傾向であり、病院の占める割合も減少傾向。



※平成24年までは診療所は抽出調査、平成25年以降は全数調査

出典：社会医療診療行為別統計（各年6月審査分）

紹介状なしで大病院を受診する場合等の定額負担

○　保険医療機関相互間の機能の分担及び業務の連携の更なる推進のため、平成28年度から一定規模以上の病院について、定額の徴収を責務とした。（対象となる病院は特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）

○　平成30年度改定において、対象となる病院を特定機能病院及び許可病床400床以上の地域医療支援病院に拡大した。

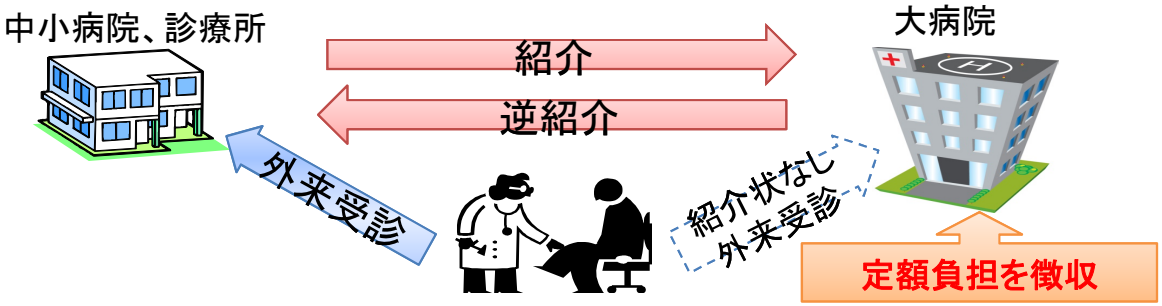
※　定額負担は、徴収する金額の最低金額として設定するとともに、初診については5,000円（歯科は3,000円）、再診については2,500円（歯科は1,500円）とされている。

※　緊急その他やむを得ない事情がある場合については、定額負担を求めないこととしている。その他、定額負担を求めなくても良い場合が定められている。

［緊急その他やむを得ない事情がある場合］
救急の患者、公費負担医療の対象患者、無料低額診療事業の対象患者、HIV感染者

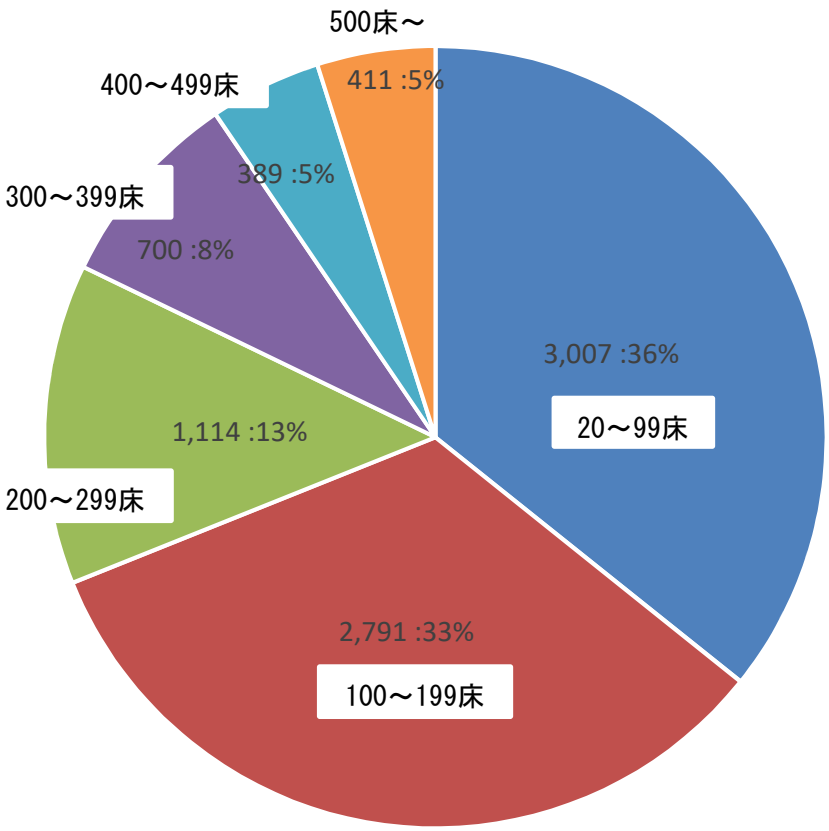
［その他、定額負担を求めなくて良い場合］
自施設の他の診療科を受診中の患者、医科と歯科の間で院内紹介した患者
特定健診、がん検診等の結果により精密検査の指示があった患者　　等

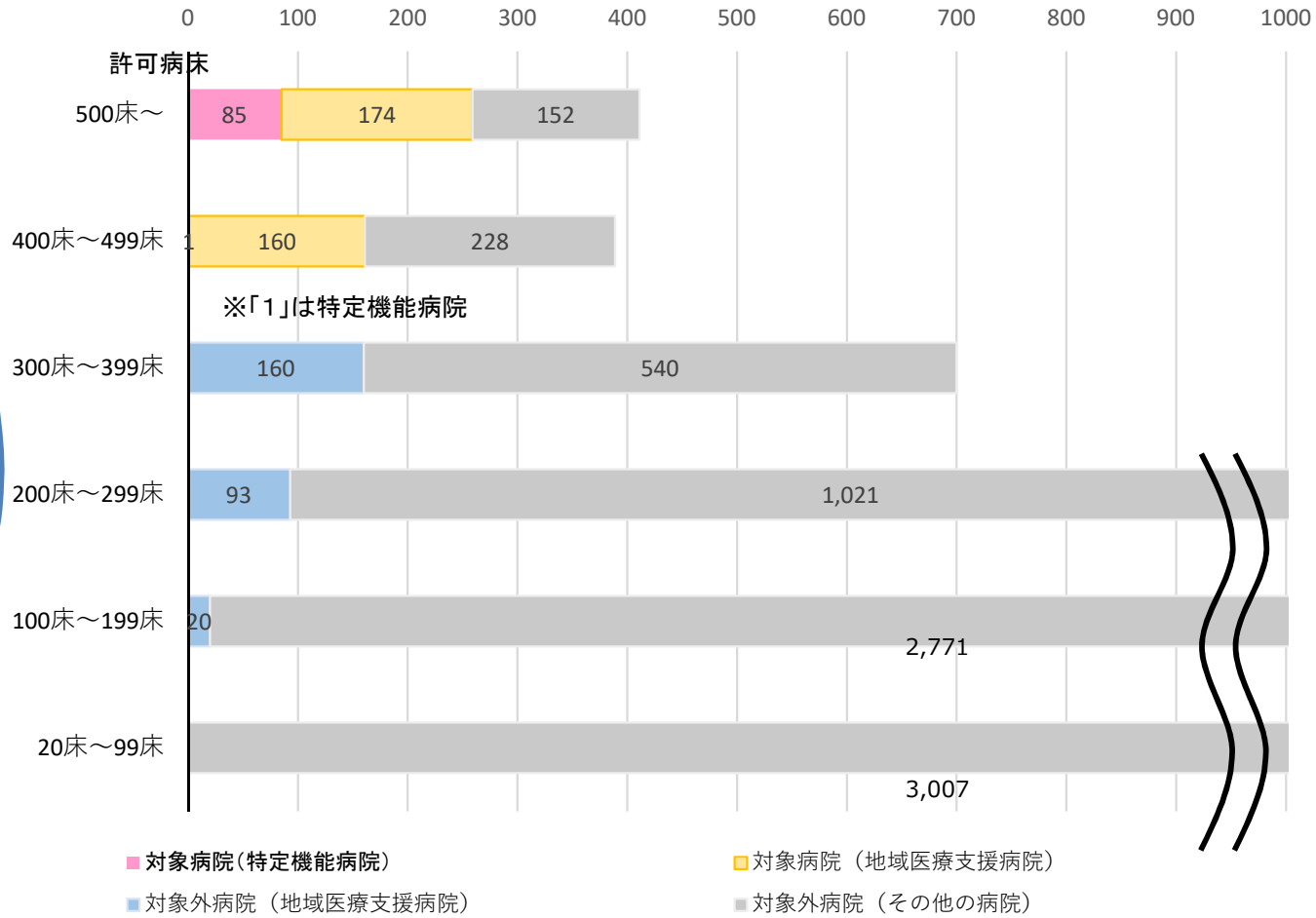
○　なお、一般病床200床以上の病院については、緊急その他やむを得ない事情がある場合を除き、選定療養として特別の料金を徴収することができることとされている。



病床規模別病院数・定額負担の対象病院数

○　病院を病床規模で見ると、全病院の約7割が200床未満であり、200床～399床が約21%、400床以上は約10%。
○　紹介状なしで大病院を受診した場合に定額負担の徴収が義務づけられている病院は420病院。
（特定機能病院：86　地域医療支援病院：334　※特定機能病院は平成31年4月、地域医療支援病院は平成30年12月時点）





出典：平成29年医療施設調査、特定機能病院一覧等を基に医療課において作成

定額負担調査（施設調査）の結果

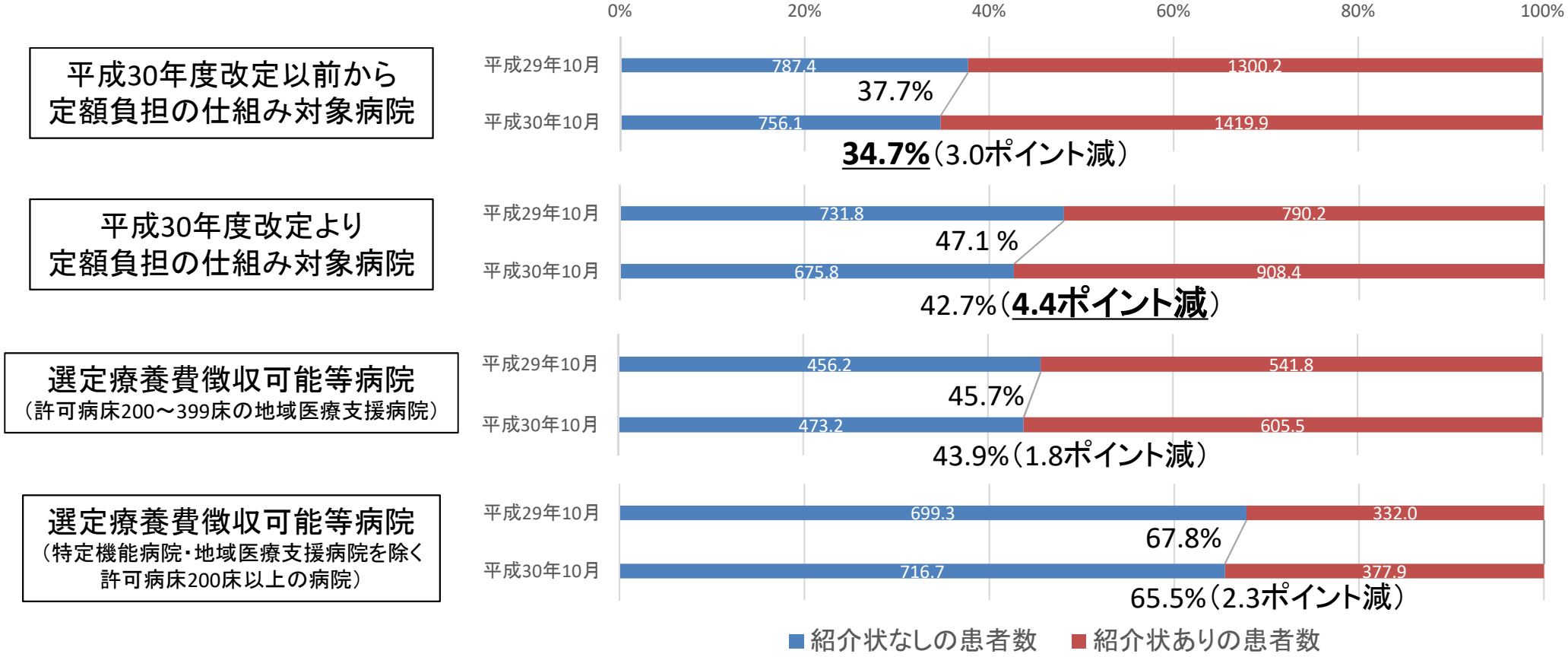
＜初診患者数に占める紹介状なしの患者比率＞（報告書p34～38）

中医協　検－２－１
３１．３．２７（改）

○　平成30年10月の「紹介状なしの患者比率」を病院区分で比較すると、平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院が最も比率が低かった。

○　前年同月の比率との比較では、平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院が▲4.4ポイントと最も大きく比率が低下していた。

○　初診患者における紹介状の有無について



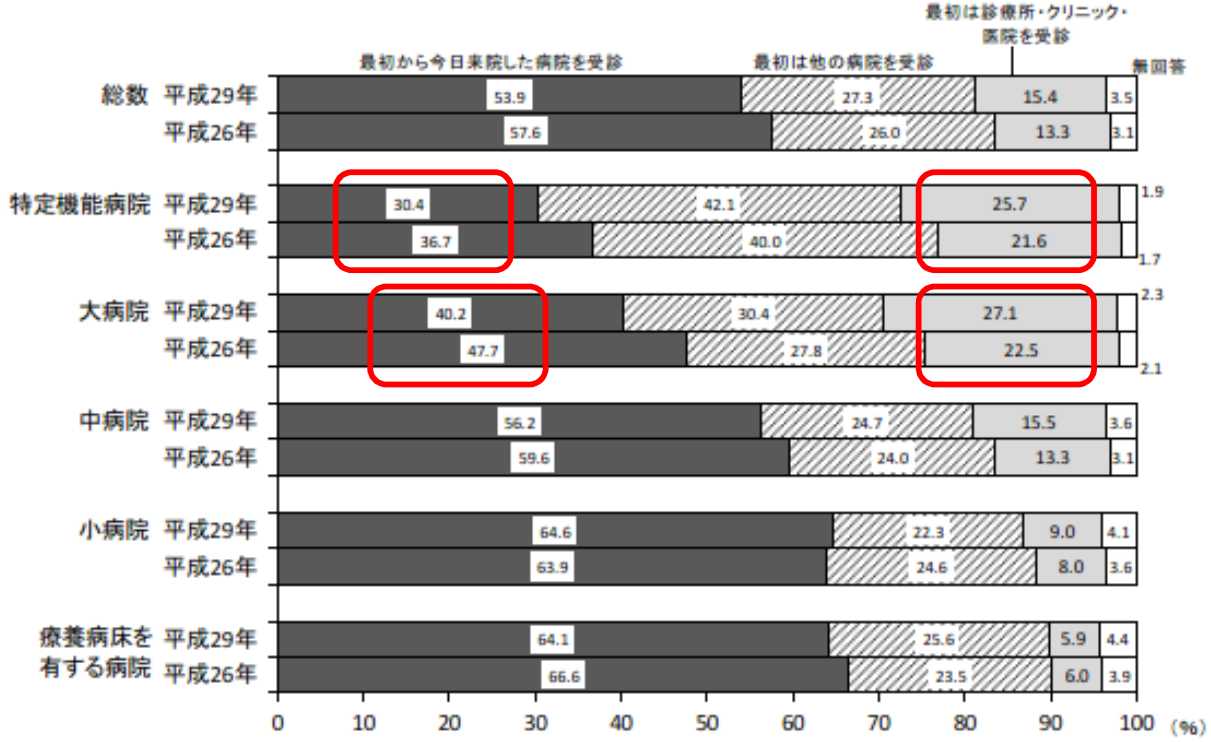
平成29年受療行動調査

平成29年受療行動調査において、外来患者における最初の受診場所を病院の種類別に見ると、

○　特定機能病院では、「最初から今日来院した病院を受診」が30.4ポイント（前回（平成26年）調査より▲6.3ポイント）、「最初は診療所・クリニック・医院を受診」は25.7ポイント（＋4.1ポイント）、500床以上の大病院では、「最初から今日来院した病院を受診」が40.2ポイント（▲7.5ポイント）、「最初は診療所・クリニック・医院を受診」は27.1ポイント（＋4.6ポイント）であった。

○　大病院受診時定額負担の導入前であった前回調査と比べると、特定機能病院及び大病院において、他の種類の病院よりも、「最初から今日来院した病院を受診」が大きく低下し、「最初は診療所・クリニック・医院を受診」については、大きく上昇している。

図７　病院の種類別にみた外来患者の最初の受診場所（基本集計）

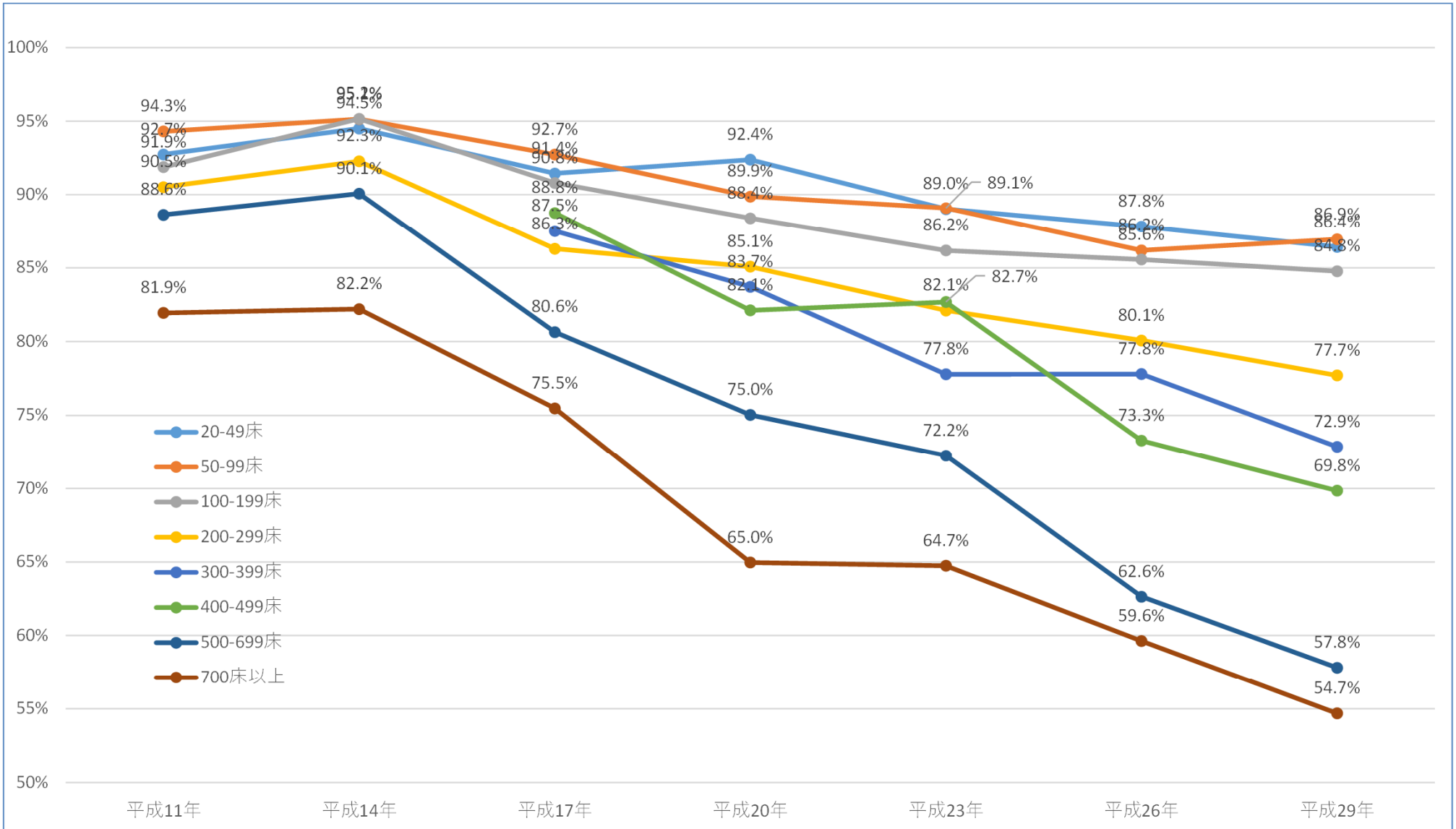


注：「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者の数値である。

大病院・・・特定機能病院、療養病床を有する病院を除いた一般病院で病床規模が500床以上
中病院・・・特定機能病院、療養病床を有する病院を除いた一般病院で病床規模が100～499床
小病院・・・特定機能病院、療養病床を有する病院を除いた一般病院で病床規模が20～99床
療養病床を有する病院・・・医療法第７条第２項第４号に規定する病院の病床であって、主として長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床を有する病院

紹介無しで外来受診した患者の割合の推移

○　紹介無しで外来受診した患者の割合は全体的に減少傾向にある。
○　病床数が多い病院において、比較的減少傾向が顕著である。



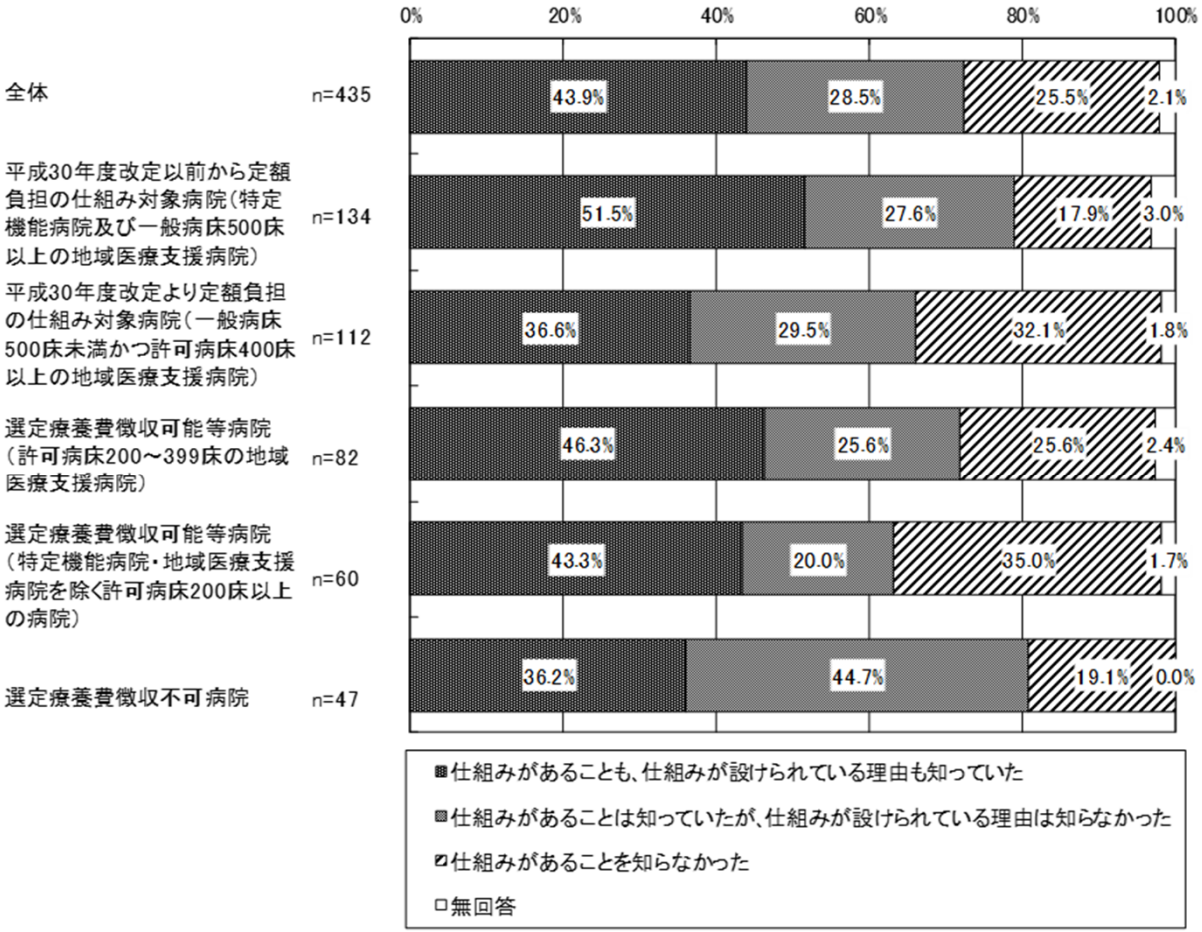
出典：平成８年～平成２９年患者調査を基に作成。
注１：平成８年～平成１４年については「３００～４９９床」をまとめて集計しているため、平成１７年以降より「３００～３９９床」、「４００～４９９床」に分けて表示。
注２：平成２３年患者調査については、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値。

定額負担調査（患者調査）の結果①

＜大病院受診時定額負担の仕組みについて①＞（報告書p60）

大病院受診時定額負担の仕組みの認知度について、「仕組みがあることも仕組みが設けられている理由も知っていた」又は「仕組みがあることは知っていたが、仕組みが設けられている理由は知らなかった」を選択した患者の割合(合計）はいずれの病院区分においても、60%を超えており、選定療養費徴収不可病院においては、80.9%で最も割合が高かった。

図表 77　大病院受診時定額負担の仕組みの認知度【初診患者】



（注）初診・再診のどちらであるかを問う設問において、「初診」との回答があった患者を集計対象とした。

定額負担調査（患者調査）の結果③

＜調査対象医療機関を受診した理由＞（報告書p65～67）

中医協　検－２－１
３１．３．２７（改）

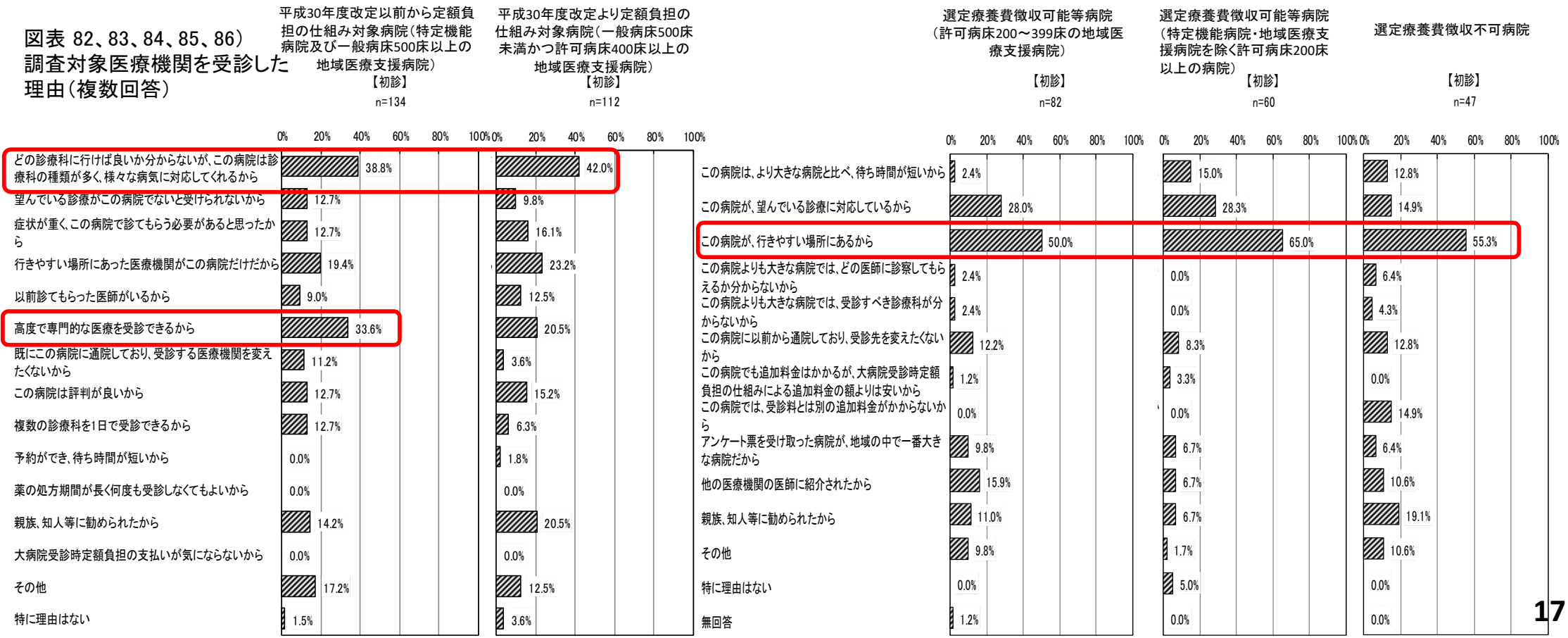
初診患者の調査対象医療機関を受診した理由について、病院区分ごとに見ると、

○　定額負担の仕組み対象病院においては、「どの診療科に行けば良いか分からないが、この病院は診療科の種類が多く、様々な病気に対応してくれるから」との回答割合が最も高かった。

○　平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）では、「高度で専門的な医療を受診できるから」との回答割合も比較的高かった。

○　定額負担の仕組み対象病院以外の病院では、「この病院が行きやすい場所にあるから」との回答割合が最も高かった。

図表 82、83、84、85、86）
調査対象医療機関を受診した理由（複数回答）



徴収を認められない患者及び徴収を求めないことができる患者

中医協　総－２
２９．１１．８

	対象から除く患者
料金の徴収を行うことは認められない	○　救急の患者 ○　国の公費負担医療制度の受給対象者 ○　地方単独の公費負担医療の受給対象者（事業の趣旨が特定の障害、特定の疾病等に着目しているものに限る） ○　無料低額診療事業実施医療機関における当該制度の対象者 ○　エイズ拠点病院におけるHIV感染者
金額の支払を求めないことができる	①　自施設の他の診療科を受診している患者 ②　医科と歯科との間で院内紹介された患者 ③　特定健康診査、がん検診等の結果により精密検査受診の指示を受けた患者 ④　救急医療事業、周産期事業等における休日夜間受診患者 ⑤　外来受診から継続して入院した患者 ⑥　地域に他に当該診療科を標榜する保険医療機関がなく、当該保険医療機関が外来診療を実質的に担っているような診療科を受診する患者 ⑦　治験協力者である患者 ⑧　災害により被害を受けた患者 ⑨　労働災害、公務災害、交通事故、自費診療の患者 ⑩　その他、保険医療機関が当該保険医療機関を直接受診する必要性を特に認めた患者

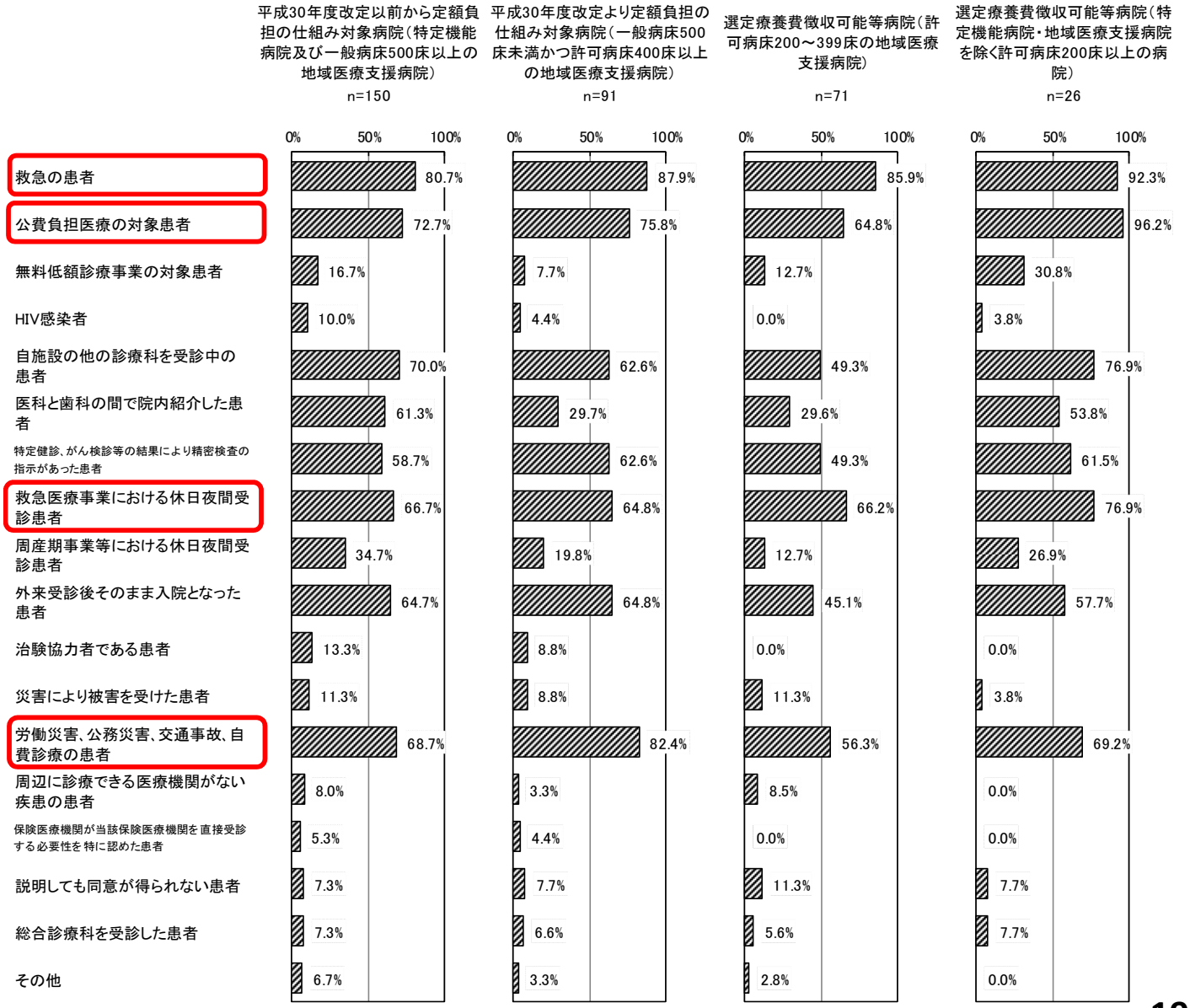
定額負担調査（施設調査）の結果⑤

＜初診時に定額負担を徴収しなかった患者の事由＞（報告書p39）

紹介状を持たない初診の患者であるものの、定額負担を徴収しなかった事由について調査したところ、「救急の患者」、「公費負担医療の対象患者」、「救急医療事業における休日夜間受診患者」、「労働災害、公務災害、交通事故、自費診療の患者」については、いずれの病院区分においても、該当する病院の割合が50%を超えていた。

（平成30年11月1日～14日の間で調査）

図表 48　紹介状を持たない初診の患者であるものの、定額負担を徴収しなかった施設割合（複数回答）



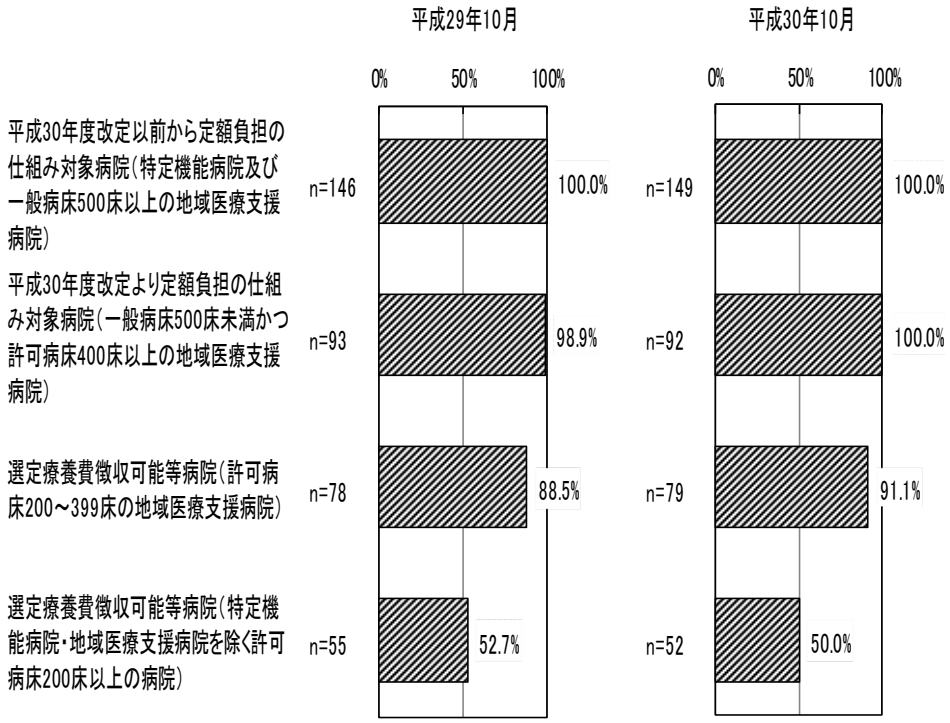
（注）平成30年10月時点において初診時の定額負担を導入していると回答した病院を集計対象とした。

定額負担調査（施設調査）の結果①

＜初診時の定額負担の導入状況及び初診時の定額負担の金額＞（報告書p22,24）

平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）のうち、平成29年10月時点から初診時の定額負担を導入している病院は98.9%であり、初診時の定額負担の金額(平均値）は平成29年10月時点で3,131.6円、平成30年10月時点では5,352.2円であった。

図表 12　初診時の定額負担の導入状況



（注）・「平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）」の中には、平成29年10月より後に地域医療支援病院に指定された等の理由から、平成29年10月時点では定額負担の仕組み対象ではなかった病院がある。
・「平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）」の中には、発送名簿作成時点以降に減床して許可病床400床未満となった等の理由から、平成30年10月時点では定額負担の仕組み対象ではなくなった病院がある。
・上記を踏まえ、本図においては、地域医療支援病院に指定された・減床した等のある病院については、「平成29年10月時点」「平成30年10月時点」でどの区分に該当するかによって集計を行った。

図表 14　初診時の定額負担の金額

		施設数（件）	平均値	標準偏差	中央値	最大値	最小値
平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）	平成29年10月	146	5,451.6	697.7	5,400	10,800	5,000
	平成30年10月	149	5,489.5	816.2	5,400	10,800	5,000
平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）	平成29年10月	92	3,131.6	1,118.9	2,850	5,400	1,080
	平成30年10月	92	5,352.2	129.8	5,400	5,400	5,000
選定療養費徴収可能等病院（許可病床200～399床の地域医療支援病院）	平成29年10月	66	2,611.3	853.6	2,700	5,400	810
	平成30年10月	70	2,729.8	924.5	2,700	5,400	810
選定療養費徴収可能等病院（特定機能病院・地域医療支援病院を除く許可病床200床以上の病院）	平成29年10月	29	2,582.5	1,573.5	2,160	8,640	972
	平成30年10月	26	2,618.9	1,640.8	2,160	8,640	972

（注）・初診時の定額負担の金額について記入のあった施設を集計対象とした。
・「平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）」の中には、平成29年10月より後に地域医療支援病院に指定された等の理由から、平成29年10月時点では定額負担の仕組み対象ではなかった病院がある。
・「平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）」の中には、発送名簿作成時点以降に減床して許可病床400床未満となった等の理由から、平成30年10月時点では定額負担の仕組み対象ではなくなった病院がある。
・上記を踏まえ、本図においては、地域医療支援病院に指定された・減床した等のある病院については、「平成29 年10月時点」「平成30年10月時点」でどの区分に該当するかによって集計を行った。

定額負担調査（施設調査）の結果②

＜初診時の定額負担の金額分布＞（報告書p25）

平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）における初診時の定額負担の金額分布について、平成30年10月時点で「5,000円以上6,000円未満」が96.6%、「6,000円以上」が3.4%であった。

平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）については、平成30年10月時点で「5,000円以上6,000円未満」が100%であった。

図表 15　初診時の定額負担の金額分布

		施設数（件）	1,000円未満	1,000円以上2,000円未満	2,000円以上3,000円未満	3,000円以上4,000円未満	4,000円以上5,000円未満	5,000円以上6,000円未満	6,000円以上	無回答
平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）	平成29年10月	146	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	97.3%	2.7%	0.0%
	平成30年10月	149	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	96.6%	3.4%	0.0%
平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）	平成29年10月	92	0.0%	5.4%	44.6%	30.4%	5.4%	14.1%	0.0%	0.0%
	平成30年10月	92	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
選定療養費徴収可能等病院（許可病床200～399床の地域医療支援病院）	平成29年10月	69	2.9%	15.9%	36.2%	37.7%	1.4%	1.4%	0.0%	4.3%
	平成30年10月	72	2.8%	15.3%	33.3%	40.3%	1.4%	4.2%	0.0%	2.8%
選定療養費徴収可能等病院（特定機能病院・地域医療支援病院を除く許可病床200床以上の病院）	平成29年10月	29	3.4%	31.0%	34.5%	20.7%	0.0%	6.9%	3.4%	0.0%
	平成30年10月	26	3.8%	26.9%	38.5%	19.2%	0.0%	7.7%	3.8%	0.0%

（注）・初診時の定額負担を導入していると回答した施設を集計対象とした。
・「平成30年度改定以前から定額負担の仕組み対象病院（特定機能病院及び一般病床500床以上の地域医療支援病院）」の中には、平成29年10月より後に地域医療支援病院に指定された等の理由から、平成29年10月時点では定額負担の仕組み対象ではなかった病院がある。
・「平成30年度改定より定額負担の仕組み対象病院（一般病床500床未満かつ許可病床400床以上の地域医療支援病院）」の中には、発送名簿作成時点以降に減床して許可病床400床未満となった等の理由から、平成30年10月時点では定額負担の仕組み対象ではなくなった病院がある。
・上記を踏まえ、本図においては、地域医療支援病院に指定された・減床した等のある病院については、「平成29年10月時点」「平成30年10月時点」でどの区分に該当するかによって集計を行った。

定額負担調査（患者調査）の結果④

＜大病院の受診時の追加料金に関する意識＞（報告書p70,71）

中医協　検－２－１
３１．３．２７（改）

紹介状なしでの初診外来受診時における、大病院受診時定額負担としての許容金額について、

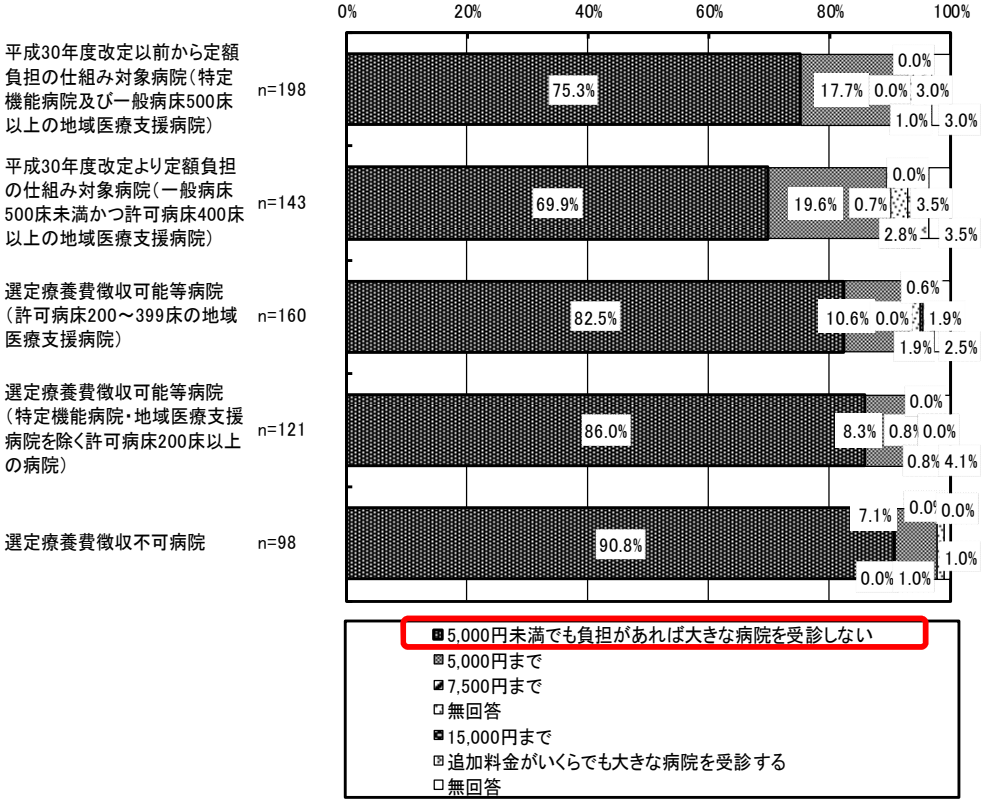
○　初診ケースA（比較的軽い症状）の場合、全ての病院区分で「5,000円未満でも負担があれば大きな病院を受診しない」の回答割合が最も高く、「5,000円まで」の回答を加えた割合は全ての病院区分で90%程度であり、選定療養費徴収不可病院で97.9%であった。

○　初診ケースB（比較的重い症状）の場合、全ての病院区分で「5,000円まで」の回答割合が最も高かったが、「追加料金がいくらでも大きな病院を受診する」との回答も一定の割合存在した。

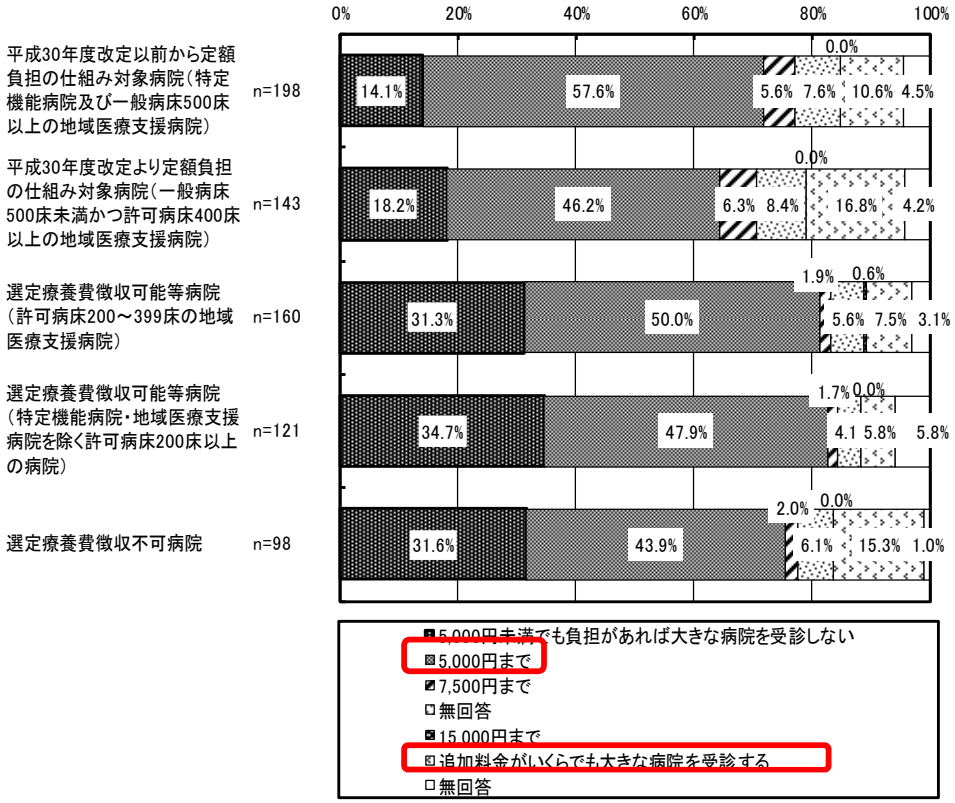
＜初診ケースA＞前日から、のどのいがらっぽさや痛み、鼻水が出て、少し体調が悪いと感じている。

＜初診ケースB＞数日前に、胸のあたりに圧迫感や締め付けられるような感じと、冷や汗が出たり呼吸しにくかったりする状態が続いた。その後症状は落ち着いたが、心配だ。

図表 87　初診ケースA時の紹介状なしでの初診外来受診時における、大病院受診時定額負担の許容金額



図表 88　初診ケースB時の紹介状なしでの初診外来受診時における、大病院受診時定額負担の許容金額



病床数が要件に含まれる診療報酬項目

○　病床規模に応じた医療機関の機能等を踏まえ、以下のとおり病床数が施設基準等の要件に含まれる項目が存在する。

	主な項目
許可病床数400床以上	初診料・外来診療料における特定の点数（209点、54点※1）の算定要件 ※1　通常の点数はそれぞれ282点、73点
	地域包括ケア病棟入院料における届出可能な病棟数の制限
許可病床数400床未満	在宅患者共同診療料の算定要件
一般病床数200床以上	外来診療料の算定要件
一般病床数200床未満	再診料の算定要件
許可病床数200床以上	在宅療養後方支援病院の要件、療養病棟入院基本料等においてデータ提出が要件
許可病床数200床未満	機能強化加算、地域包括診療料、在宅時医学総合管理料等の算定要件
	処方料、処方せん料における加算の要件、データ提出加算における特定の点数（加算１　200点、２　210点※2）の算定要件　※2　許可病床数200症以上はそれぞれ150点、160点
許可病床数100床以上	精神疾患診療体制加算の算定要件
	精神科急性期医師配置加算の算定要件※3 ※3　精神病床を除く許可病床数が100床以上の場合

かかりつけ医機能等の在り方について

- かかりつけ医機能について
- かかりつけ歯科医機能について
- かかりつけ薬剤師・薬局機能について

かかりつけ医機能について

○　平成30年度検証調査における、かかりつけ医に関する患者及び施設の認識は以下のとおり

- かかりつけ医を決めているのは、初診患者の5～6割、再診患者の9割
- 患者がかかりつけ医に求める役割のうち多いのは「どんな病気でもまずは相談に乗ってくれる」、次いで「必要時に専門医、専門医療機関に紹介してくれる」
- 施設が有すると考えているかかりつけ医機能のうち多いのは「必要時に専門医、専門医療機関に紹介する」、次いで「要介護認定に関する主治医意見書を作成する」「生活習慣病の予防を含めた健康な生活のための助言や指導を行う」

○　医療機関のかかり方について、「最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する」という意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は約5割を占めた

○　医療機関間の適切な役割分担を図る観点から、平成30年度診療報酬改定において、かかりつけ医機能に関連する以下の評価等を充実

- かかりつけ医機能を有する医療機関における初診機能
- 地域包括診療料等の施設基準の緩和

「かかりつけ医」と「かかりつけ医機能」

－　日本医師会・四病院団体協議会合同提言（平成25年8月8日）より抜粋　－

「かかりつけ医」とは（定義）

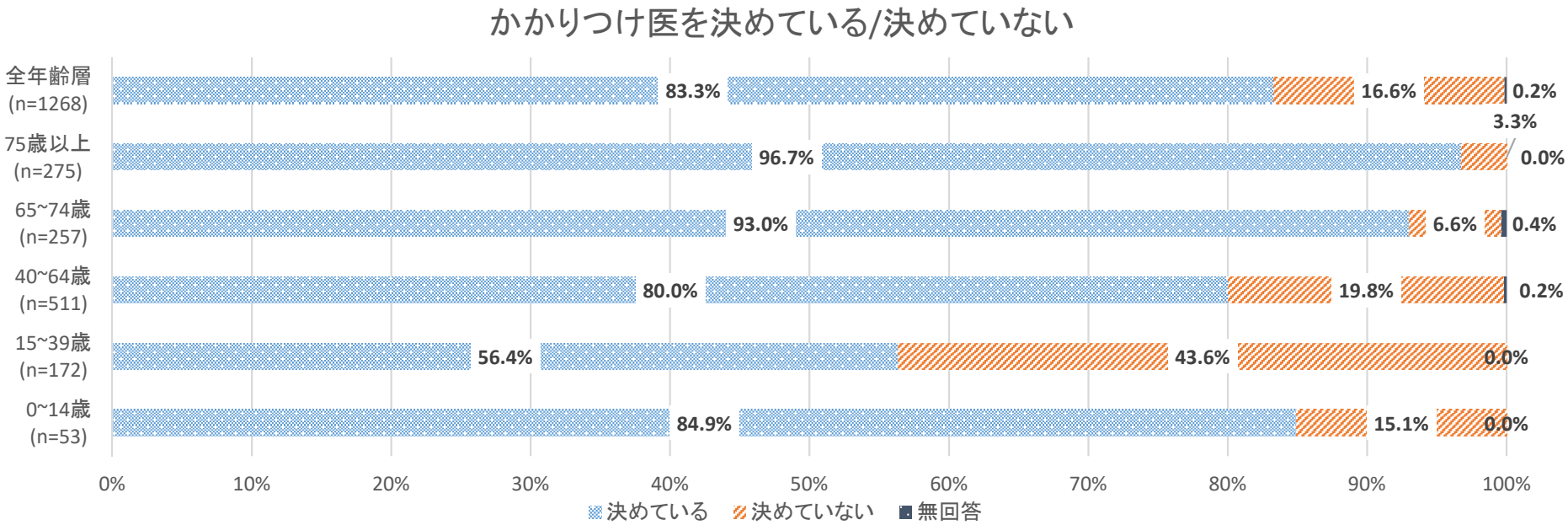
なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

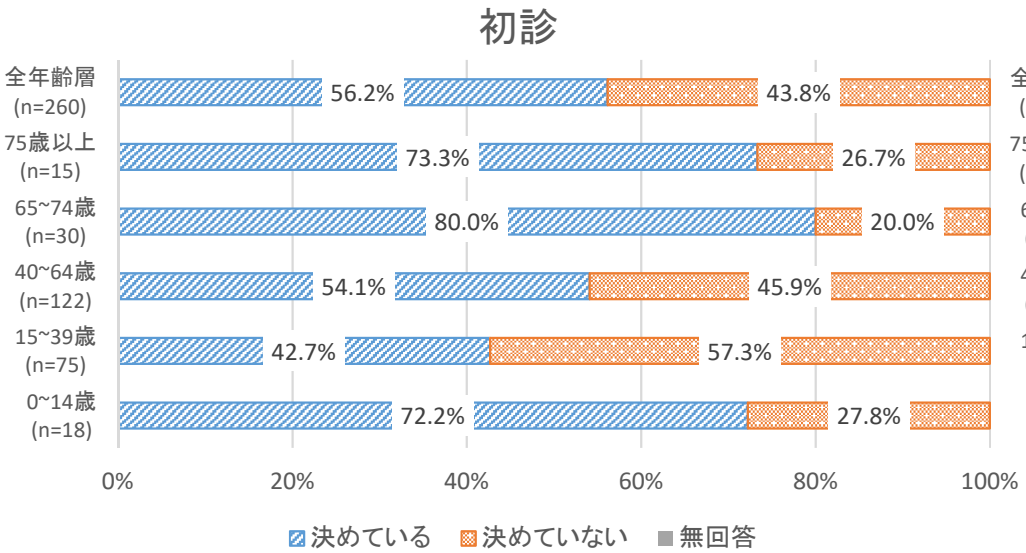
「かかりつけ医機能」

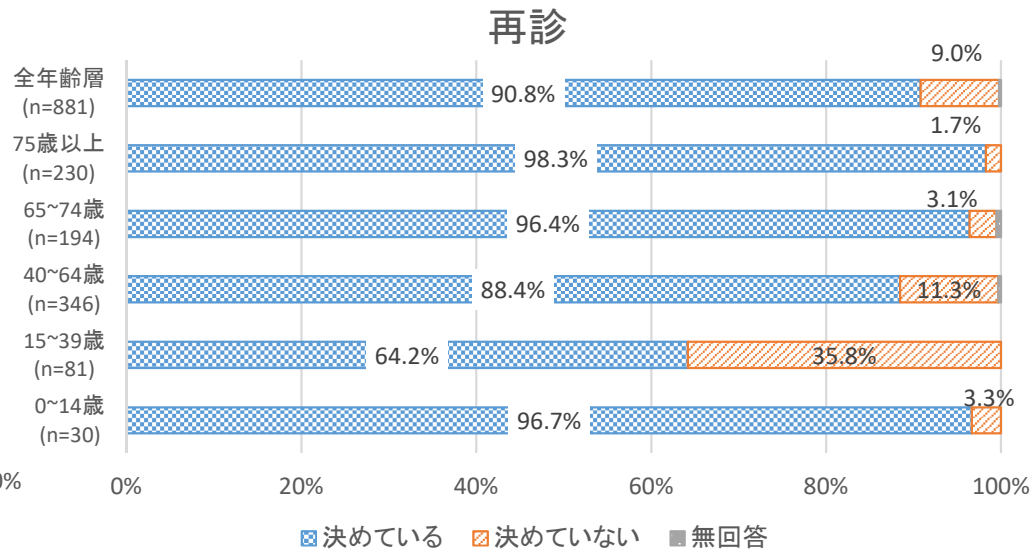
- かかりつけ医は、日常行う診療においては、患者の生活背景を把握し、適切な診療及び保健指導を行い、自己の専門性を超えて診療や指導を行えない場合には、地域の医師、医療機関等と協力して解決策を提供する。
- かかりつけ医は、自己の診療時間外も患者にとって最善の医療が継続されるよう、地域の医師、医療機関等と必要な情報を共有し、お互いに協力して休日や夜間も患者に対応できる体制を構築する。
- かかりつけ医は、日常行う診療のほかに、地域住民との信頼関係を構築し、健康相談、健診・がん検診、母子保健、学校保健、産業保健、地域保健等の地域における医療を取り巻く社会的活動、行政活動に積極的に参加するとともに保健・介護・福祉関係者との連携を行う。また、地域の高齢者が少しでも長く地域で生活できるよう在宅医療を推進する。
- 患者や家族に対して、医療に関する適切かつわかりやすい情報の提供を行う。

かかりつけ医を決めている患者の割合

- ○ 回答患者のうち、全年齢層で約83%の患者がかかりつけ医を決めている。
- ○ 年齢層別に見ると、75歳以上は約97%がかかりつけ医を決めている一方で、15～39歳の患者は約56%と、差がある。
- ○ 初診患者に比べ、再診患者において、かかりつけ医を決めている割合が全年齢層で高い。





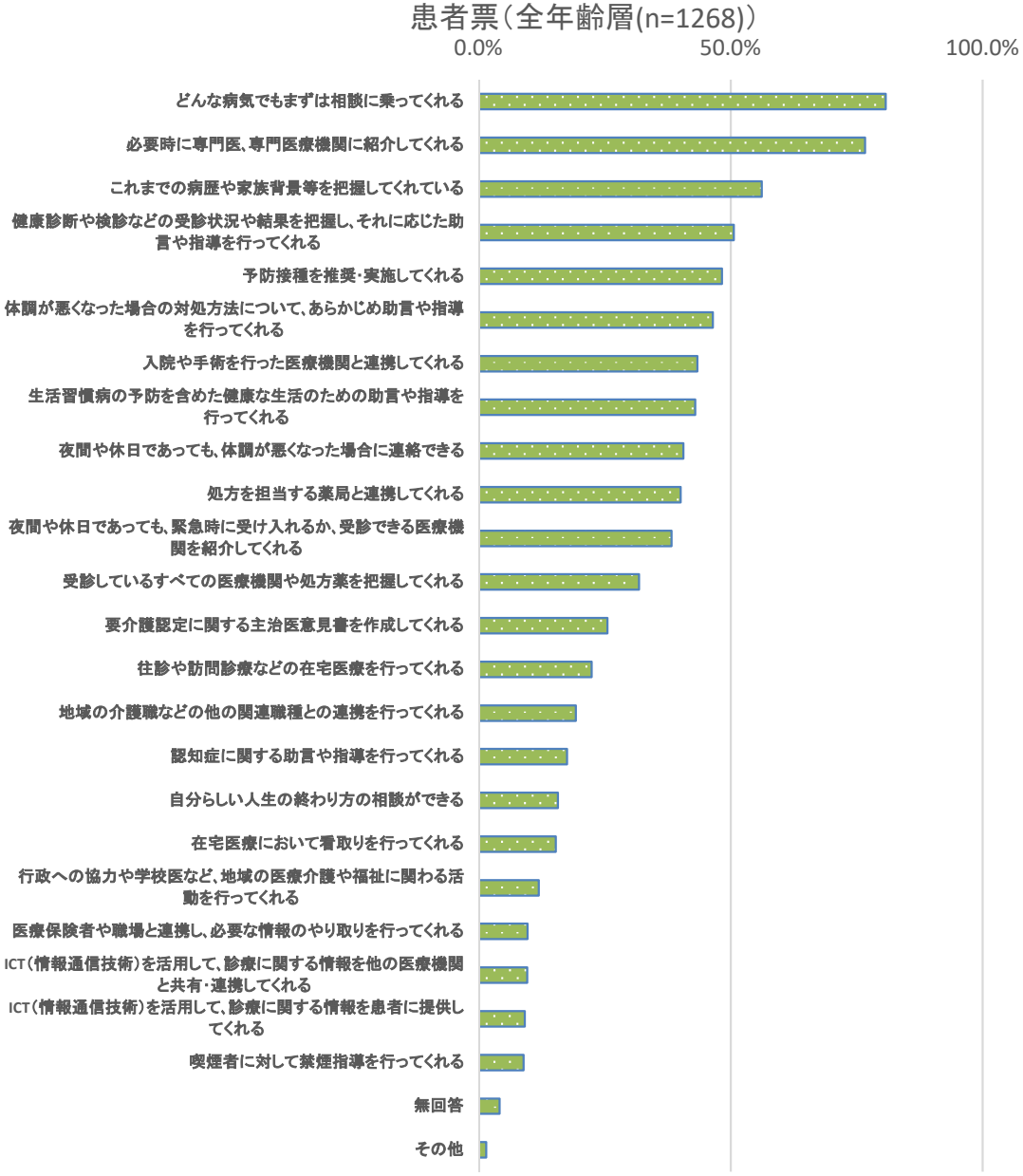


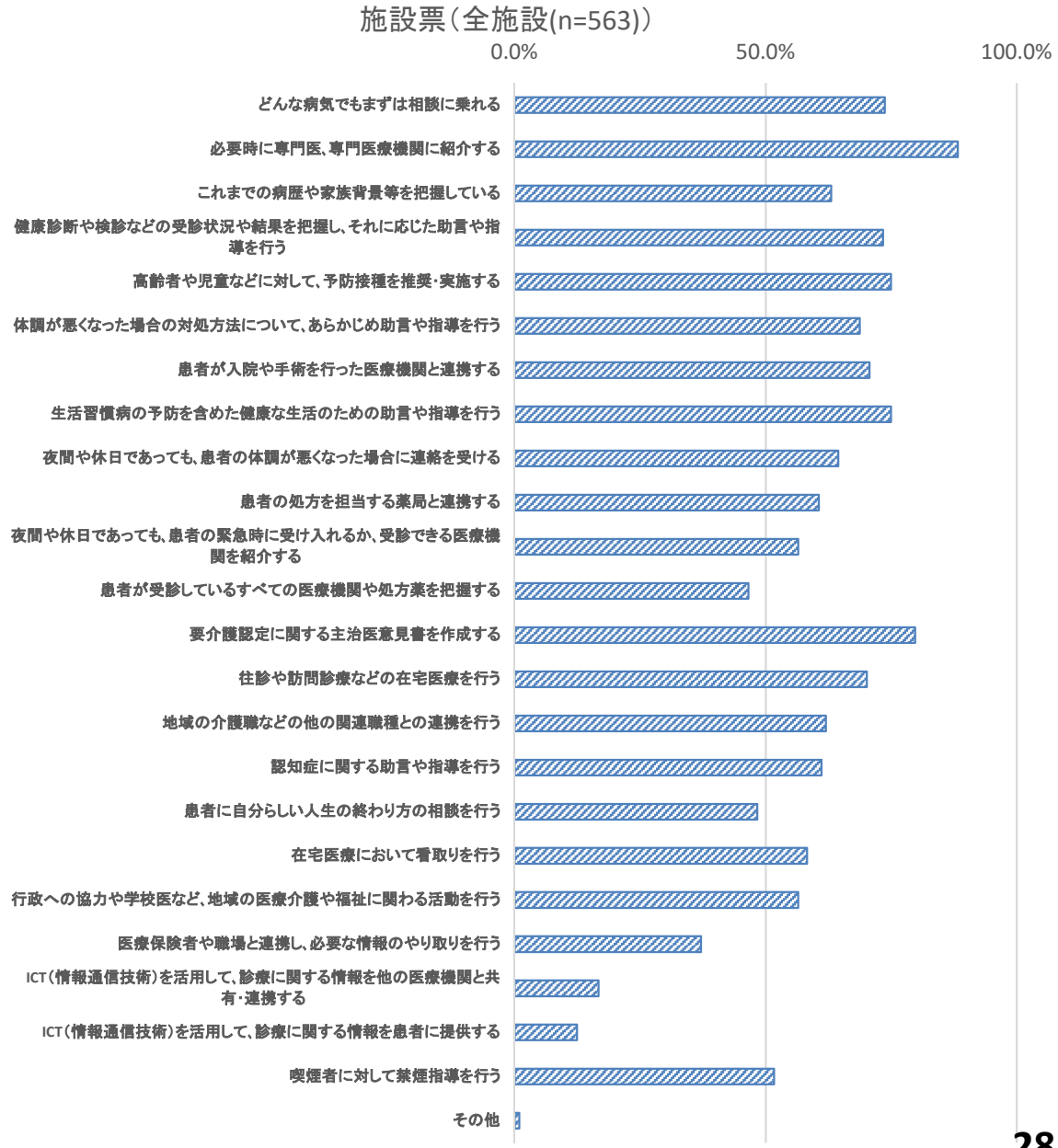
出典：平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査　かかりつけ医に関する意識調査（患者票）

患者がかかりつけ医に求める役割と施設が有するかかりつけ医機能について

○ 回答患者がかかりつけ医に求める役割は、「どんな病気でもまずは相談に乗ってくれる」が最多。

○ 回答施設が有しているかかりつけ医機能は、「必要時に専門医、専門医療機関に紹介する」が最多。





出典：平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査　かかりつけ医に関する意識調査

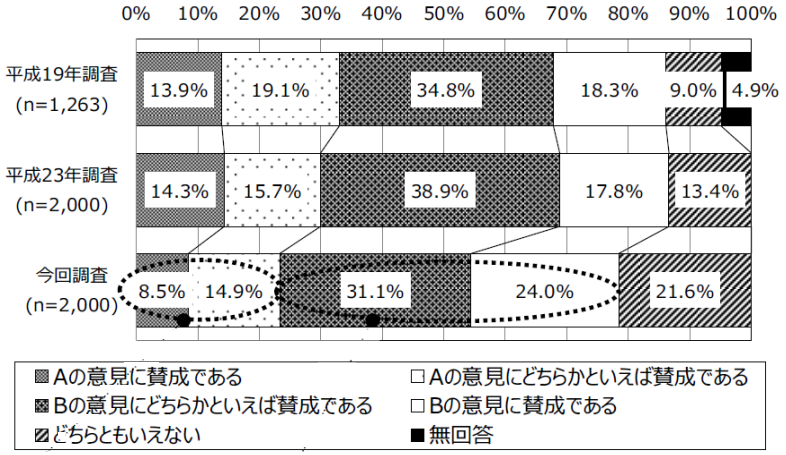
医療機関のかかり方に関する考え方について

○ 「A:病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する」「B:最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する」の2通りの考え方を提示したところ、Aの意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は約2割、Bの意見に「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人は約5割であった。

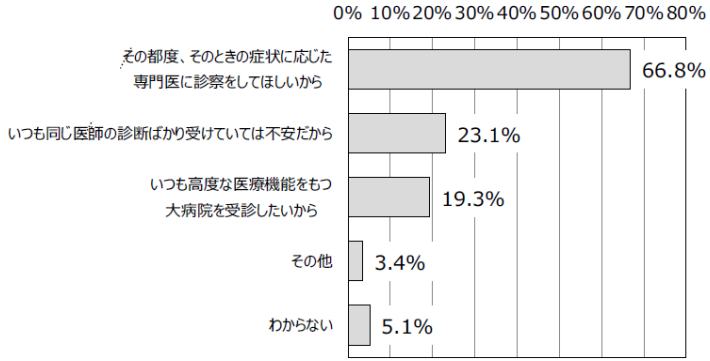
○ また、経年的に見ると、Aの意見に賛意を示す回答者は減少傾向であった。

図表 36 医療機関の受診の在り方に関する意見（n=2,000 人）

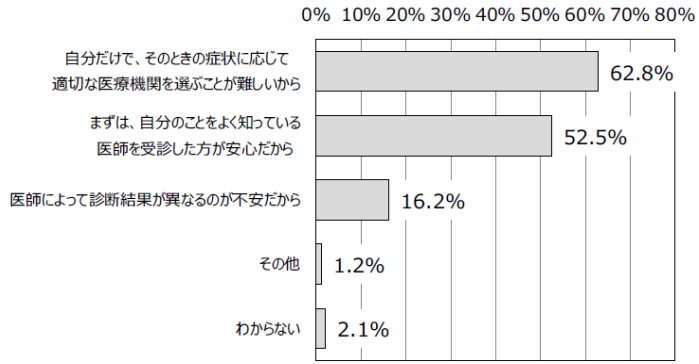
A. 病気の症状の程度に関わらず、医療機関の規模とは関係なしに自分の選んだ医療機関を受診する。
B. 最初に決まった医師を受診し、その医師の判断で、必要に応じて病院等の専門医療機関を受診する。



図表 37 「A の意見に賛成である」「どちらかといえば賛成である」理由（n=467 人）【複数回答】



図表 38 「B の意見に賛成である」「どちらかといえば賛成である」理由（n=1,102 人）【複数回答】



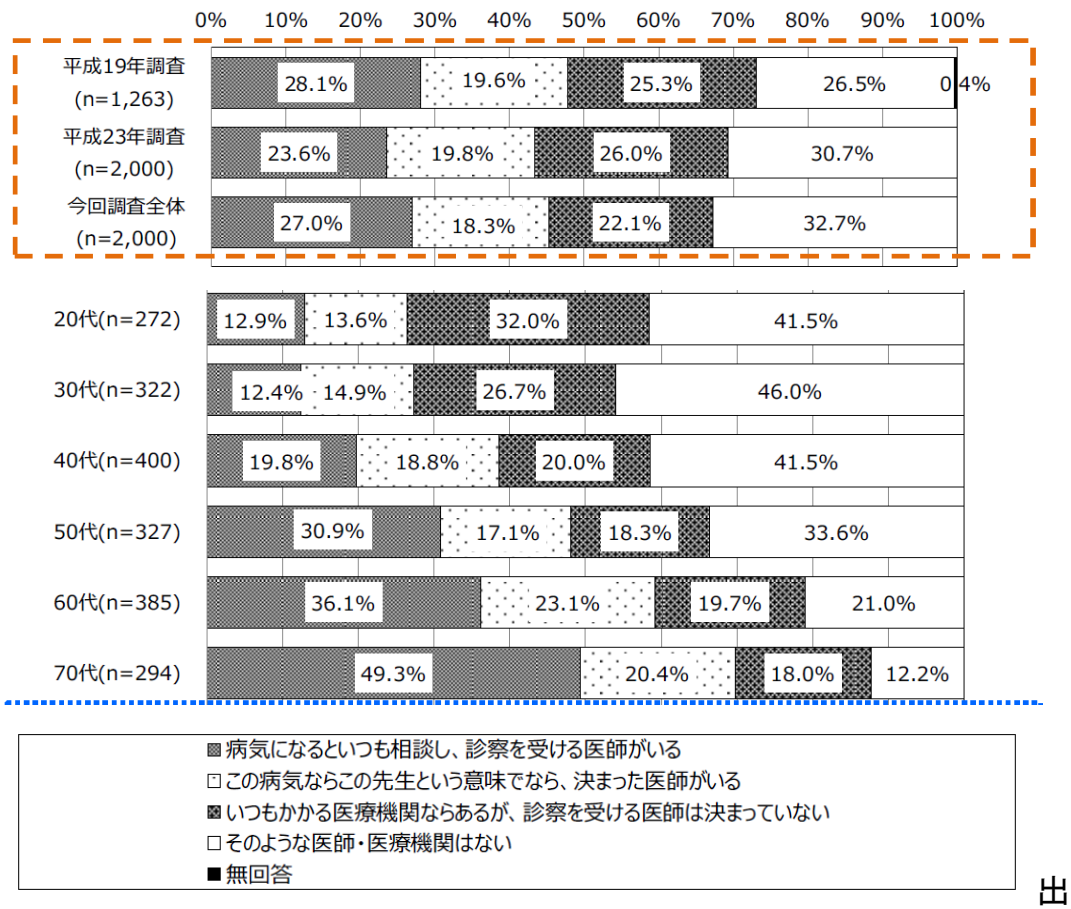
出典:医療・医療保険制度に関する国民意識調査（健康保険組合連合会）

日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関の有無等について ①

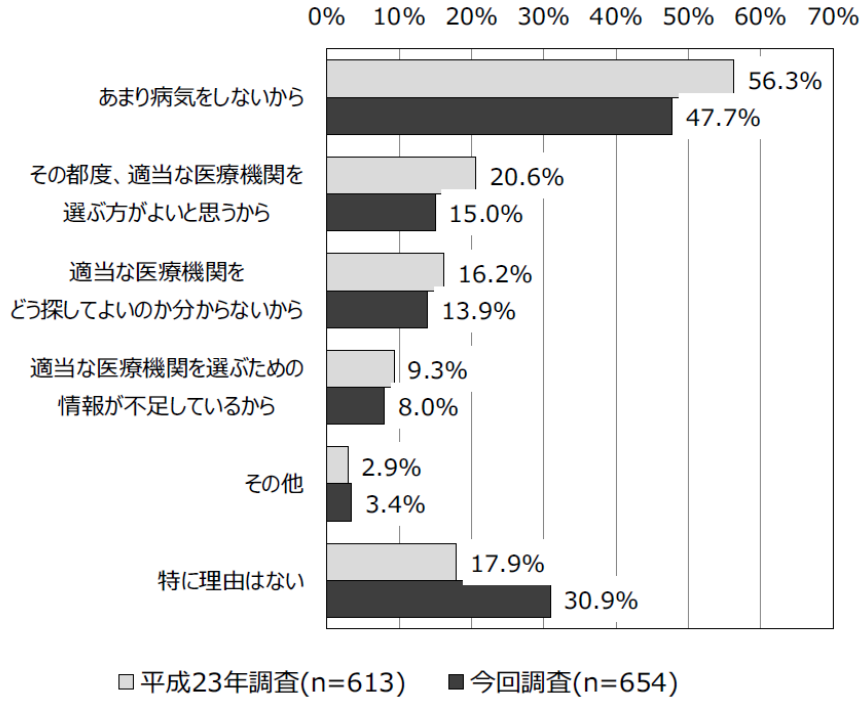
○ 日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関の有無について、「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」人が約3割を占める。

○ 一方で、「日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関はない」人も約3割を占めており、その理由としては、「その都度適当な医療機関を選ぶ方が良い」「適当な医療機関をどう探して良いのか分からない」「適当な医療機関を選ぶための情報が不足している」との回答が見られた（※「あまり病気をしないから」という理由を除く。）。

図表 21　日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関の有無（n=2,000 人）



図表 23　日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関を持たない理由
（n=日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関はないと回答した 654 人）



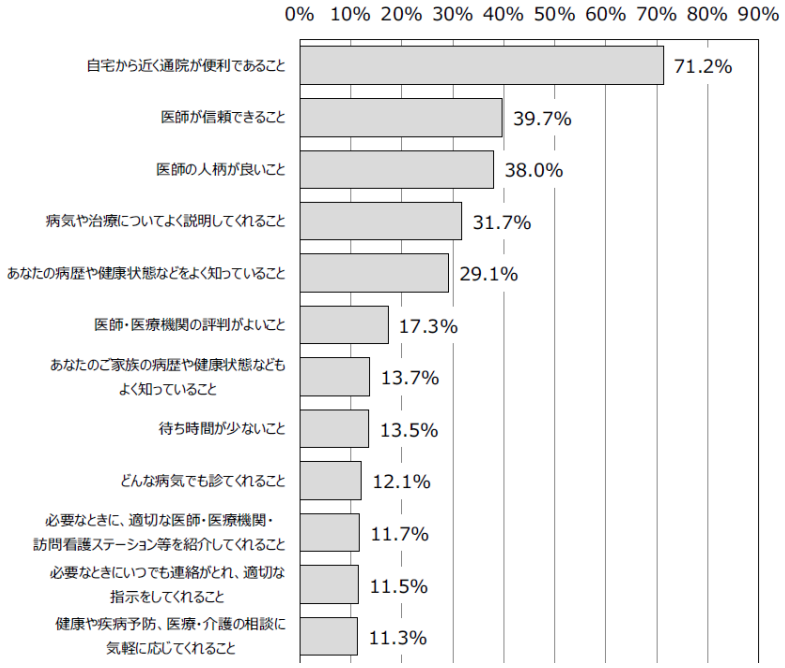
出典：医療・医療保険制度に関する国民意識調査（健康保険組合連合会）

日頃から決まって診察を受ける医師・医療機関の有無等について ②

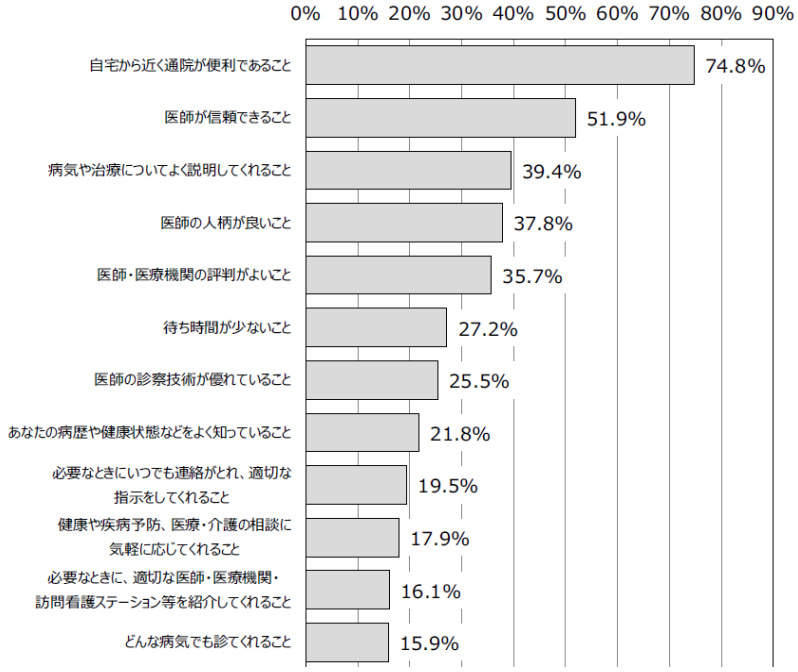
○ 「病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいる」と回答した人が、その医師に決めた理由としては、「自宅から近く通院が便利である」が最も多く、次いで「医師が信頼できる」「医師の人柄が良い」「病気や治療についてよく説明してくれる」「回答者の病歴や健康状態をよく知っている」という順であった。

○ 全回答者が、決まって診察を受ける医師・医療機関に期待することのうち、上位4項目は上記の理由とほぼ同様であった。

図表 24　日頃から決まって診察を受ける医師を決めた主な理由
（n=病気になるといつも相談し、診察を受ける医師がいると回答した 539 人）【複数回答】



図表 25　決まって診察を受ける医師・医療機関に期待すること（n=2,000 人）【複数回答】



出典：医療・医療保険制度に関する国民意識調査（健康保険組合連合会）

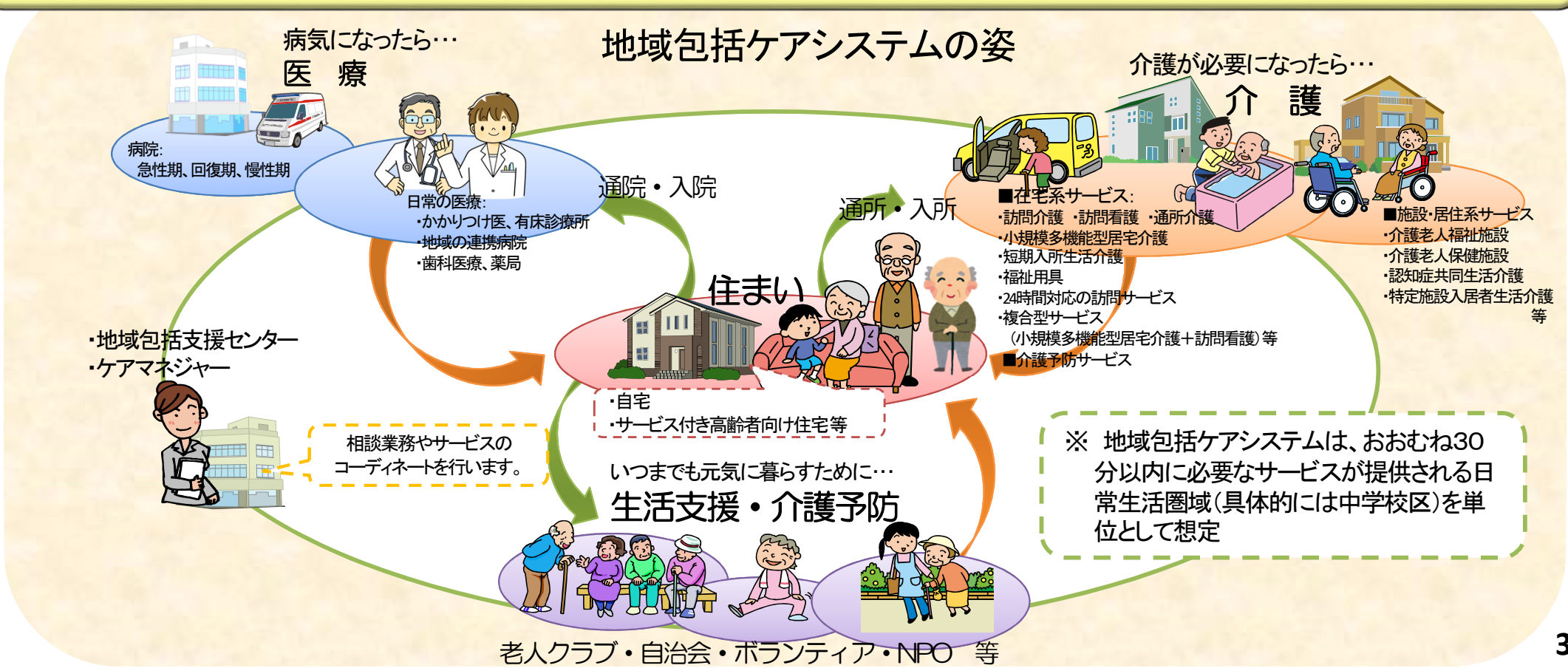
地域包括ケアシステムの構築について

○　団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を実現**。

○　今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。

○　人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**。

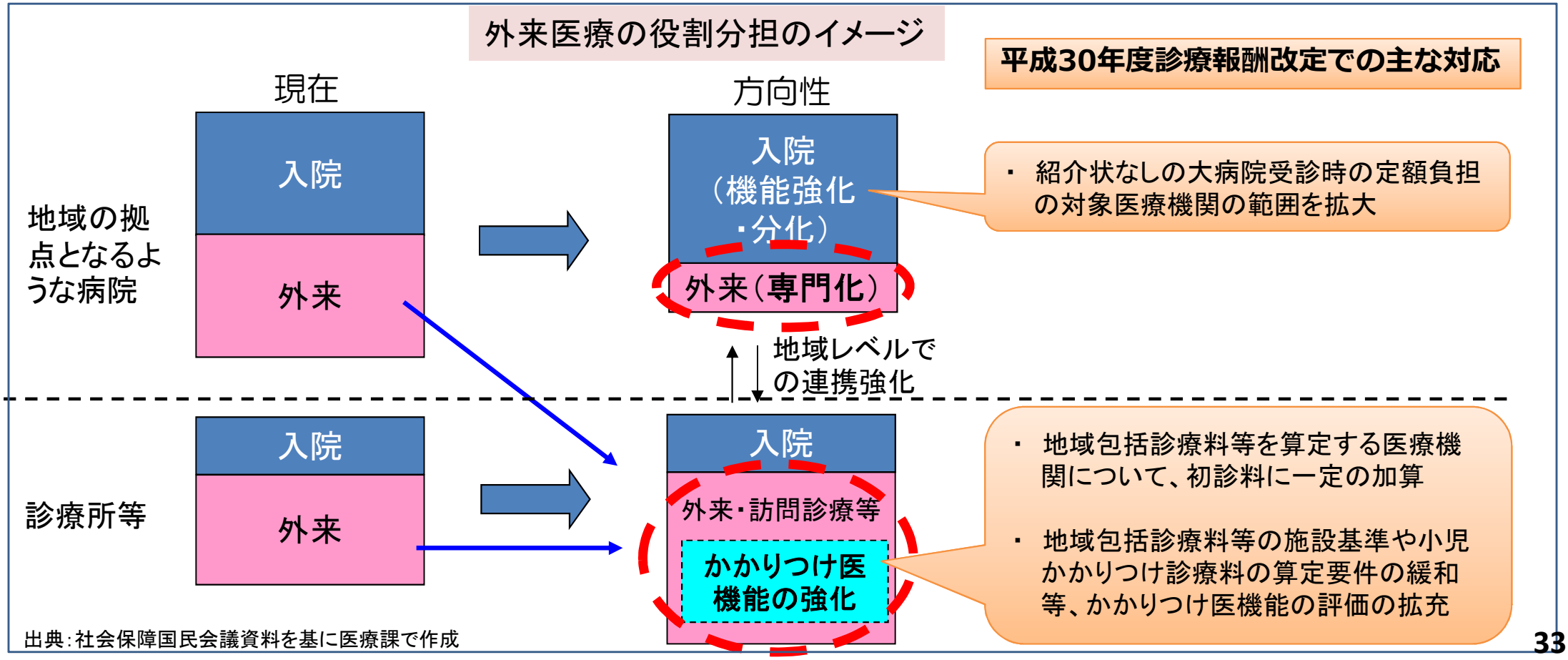
○　地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要。



外来医療の今後の方向性（イメージ）

社会保障制度改革国民会議報告書（H25年8月6日）抜粋

- ○ 新しい提供体制は、利用者である患者が大病院、重装備病院への選好を今の形で続けたままでは機能しない
- ○ フリーアクセスの基本は守りつつ、限りある医療資源を効率的に活用するという医療提供体制改革に即した観点からは、医療機関間の適切な役割分担を図るため、「緩やかなゲートキーパー機能」の導入は必要
- ○ 大病院の外来は紹介患者を中心とし、一般的な外来受診は「かかりつけ医」に相談することを基本とするシステムの普及、定着は必須
- ○ 医療の提供を受ける患者の側に、大病院にすぐに行かなくとも、気軽に相談できるという安心感を与える医療体制の方が望ましい



出典：社会保障国民会議資料を基に医療課で作成

かかりつけ医機能評価の充実

- かかりつけ医とかかりつけ歯科医の間の情報共有の評価

- 末期のがん患者についてケアマネージャーと在宅主治医との連携を強化

- がん患者に対しての治療と仕事の両立のために産業医と情報共有・連携を評価

情報共有・連携

情報共有・連携

連携

情報提供

訪問診療への移行

- 生活習慣病管理料の療養計画書の記載項目（様式）に、保険者からの依頼に応じて情報提供を行うことを要件化

- かかりつけ医機能を有する医療機関における初診機能の評価
- 地域包括診療料(※)等の施設基準の緩和
  (※)複数の慢性疾患を持つ患者に対する継続的で全人的な医療を行うことを評価
- 小児かかりつけ診療料の算定要件の緩和

- 外来から訪問診療に移行した患者への在宅医療の提供実績の評価

かかりつけ医機能を有する医療機関における初診の評価等

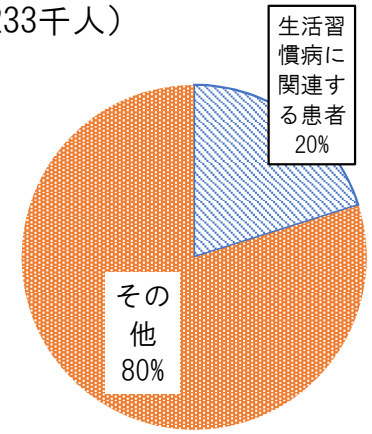
➢ かかりつけ医機能に係る診療報酬を届け出ている医療機関において、専門医療機関への受診の要否の判断等を含めた、初診時における診療機能を評価する観点から、加算を新設する。

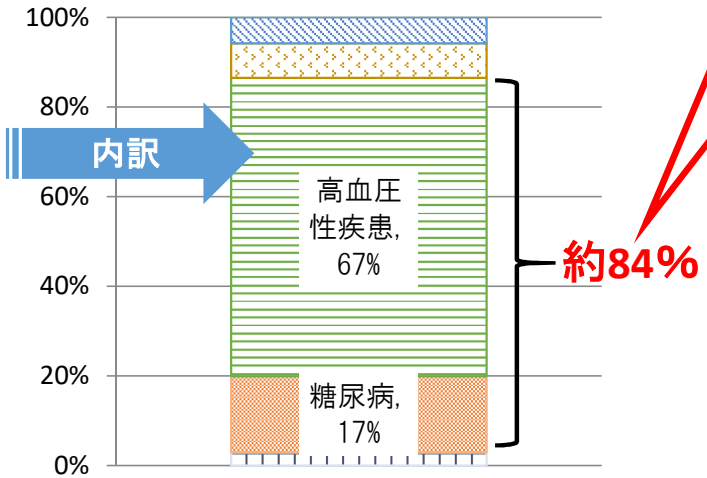
初診料
小児かかりつけ診療料（初診時）

（新）　機能強化加算　80点

［算定要件］
地域包括診療加算、地域包括診療料、小児かかりつけ診療料、在宅時医学総合管理料（在宅療養支援診療所又は在宅療養支援病院に限る。）、施設入居時等医学総合管理料（在宅療養支援診療所又は在宅療養支援病院に限る。）を届け出をしている保険医療機関（診療所又は 200床未満の保険医療機関に限る。）において、初診を行った場合に、所定の点数に加算する。

＜一般診療所の推計外来患者数＞
（ 4, 233千人）





［評価の対象となる患者の範囲（イメージ）］

再診の患者	初診の患者
地域包括診療料等の対象患者（生活習慣病や認知症を有する患者　等）	機能強化加算の対象患者

地域包括診療料等の見直し

地域包括診療料等の見直し

➢　かかりつけ医機能を推進する観点から、医師の配置基準の緩和と在宅への移行実績を評価

現行

【地域包括診療料等】

地域包括診療料　1,503点

認知症地域包括診療料　1,515点

［施設基準（抜粋）］
以下の全ての要件を満たしていること。
ア　診療所の場合
（イ）時間外対応加算1の届出
（ロ）常勤医師2名以上の配置
（ハ）在宅療養支援診療所
イ　病院の場合
（イ）地域包括ケア病棟入院料の届出
（ロ）在宅療養支援病院の届出

改定後

【地域包括診療料等】
（新）　地域包括診療料1　1,560点
地域包括診療料2　1,503点
（新）　認知症地域包括診療料1　1,580点
認知症地域包括診療料2　1,515点

［施設基準（抜粋）］
(1) 診療料については、以下の全ての要件を満たしていること。
ア　診療所の場合
（イ）時間外対応加算1の届出
（ロ）常勤換算2名以上の医師の配置、うち常勤医師が1名以上
（ハ）在宅療養支援診療所
イ　病院の場合
（イ）地域包括ケア病棟入院料の届出を行っていること。
（ロ）在宅療養支援病院の届出を行っていること。

(2) 診療料1を算定する場合には、外来中心の医療機関であり、当該医療機関での外来診療を経て訪問診療に移行した患者数が10人以上であること。

小児かかりつけ診療料の見直し

➢　小児科医師の負担を軽減し、一層の普及を図る観点から、在宅当番医制等により地域における夜間・休日の小児科外来診療に定期的に協力する常勤小児科医が配置された医療機関について、時間外の相談対応について、地域の在宅当番医等を案内することでもよいこととする。

地域包括診療加算等の見直し

➢ かかりつけ医機能を推進する観点から、24時間対応や医師配置基準の緩和と在宅への移行実績を評価

現行

【地域包括診療料等】

地域包括診療加算　20点

認知症地域包括診療加算　30点

［施設基準（抜粋）］

(1) 在宅医療の提供及び当該患者に対し24時間の対応を実施している旨を院内掲示していること。

(2) 以下のいずれかを満たしていること。
- ア 時間外対応加算1又は2の届出
- イ 常勤の医師を2名以上配置
- ウ 在宅療養支援診療所

改定後

【地域包括診療料等】

（新）	地域包括診療加算1	25点
	地域包括診療加算2	18点
（新）	認知症地域包括診療加算1	35点
	認知症地域包括診療加算2	28点

［施設基準（抜粋）］

(1) 在宅医療の提供及び当該患者に対し24時間の往診等の体制を確保していること。（在宅療養支援診療所以外の診療所については連携医療機関の協力を得て行うものを含む。）

(2) 以下のいずれかの要件を満たしていること。
- ア 時間外対応加算1又は2の届出
- イ 常勤換算2名以上の医師の配置、うち常勤医師が1名以上
- ウ 在宅療養支援診療所

(3) 加算1を算定する場合には、外来中心の医療機関であり、当該医療機関での外来診療を経て訪問診療に移行した患者数が3人（在宅療養支援診療所の場合は10人）以上であること。

➢ 地域包括診療料等の要件である患者の受診医療機関や処方薬の把握について看護師等が実施可能であることを明確化する。

かかりつけ医機能等の評価

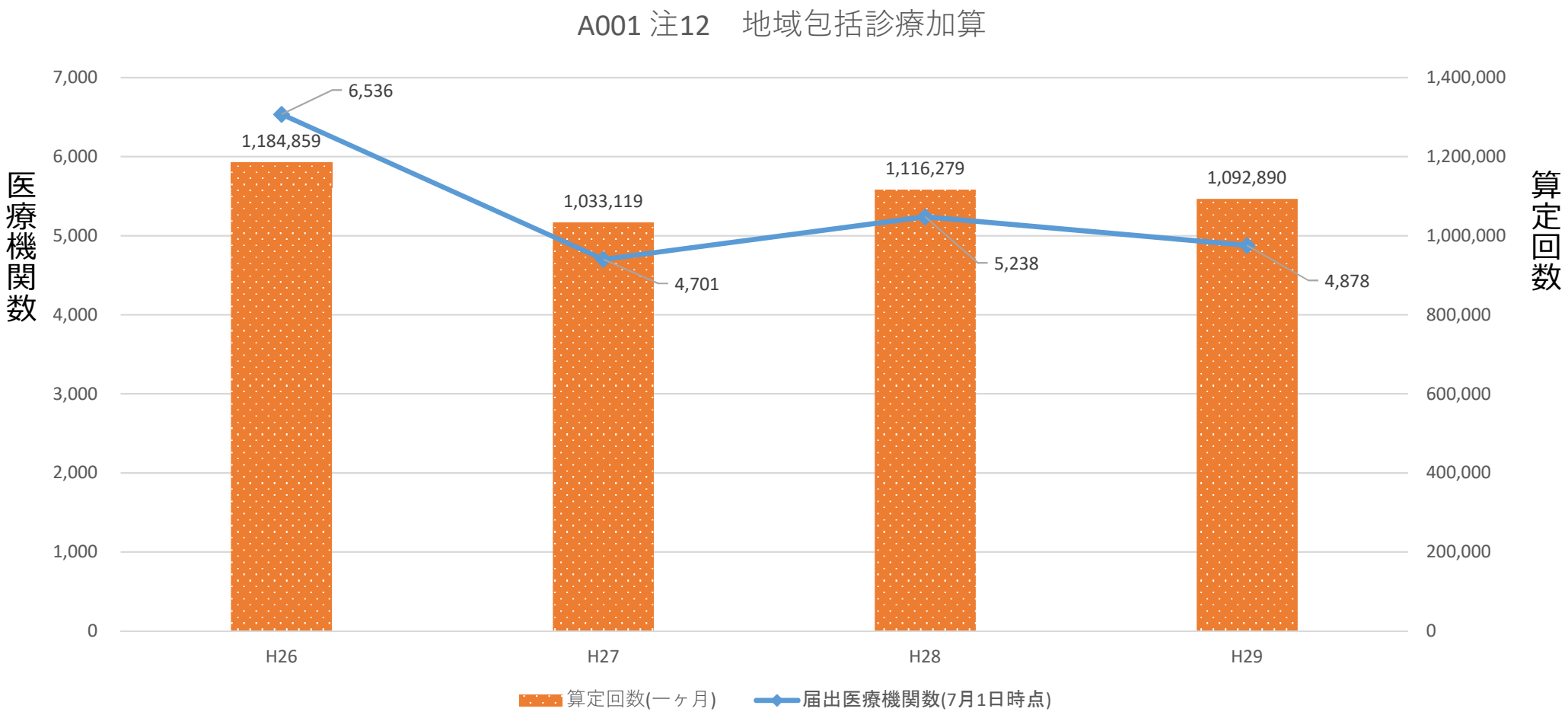
○　かかりつけ医等による、患者への全人的な医療の提供や専門医への紹介について診療報酬で評価を行っている。
○　平成30年度診療報酬改定においても、当該評価項目の追加を行っている。

A000注12	初診料　機能強化加算　80点　※平成30年度新設
A001注12	再診料　イ　地域包括診療加算１　25点　ロ　地域包括診療加算２　18点
B000 1	特定疾患療養管理料　診療所の場合　225点
B000 2	特定疾患療養管理料　許可病床数が100床未満の病院の場合　147点
B000 3	特定疾患療養管理料　許可病床数が100床以上200症未満の病院の場合　87点
B001-2-2 1	地域連携小児夜間・休日診療料　地域連携小児夜間・休日診療料１　450点
B001-2-2 2	地域連携小児夜間・休日診療料　地域連携小児夜間・休日診療料２　600点
B001-2-4	地域連携夜間・休日診療料　200点
B001-2-9 1	地域包括診療料（月１回）　地域包括診療料１　1,560点
B001-2-9 2	地域包括診療料（月１回）　地域包括診療料２　1,503点
B001-2-10 1	認知症地域包括診療料（月１回）　認知症地域包括診療料１　1,580点
B001-2-10 2	認知症地域包括診療料（月１回）　認知症地域包括診療料２　1,515点
B001-2-11 1	小児かかりつけ診療料（１日につき）　処方箋を交付する場合 イ　初診時　602点　ロ　再診時　413点
B001-2-11 2	小児かかりつけ診療料（１日につき）　処方箋を交付しない場合 イ　初診時　712点　ロ　最新時　523点
B001-9	療養・就労両立支援指導料　1000点　※平成30年度新設
B004 1	退院時共同指導料１　在宅療養支援診療所の場合　1,500点
B004 2	退院時共同指導料１　1以外の場合　900点
B005	退院時共同指導料２　400点
B005-6 1	がん治療連携計画策定料　がん治療連携計画策定量１　750点
B005-6 2	がん治療連携計画策定料　がん治療連携計画策定量２　300点
B005-6-2	がん治療連携指導料　300点
B005-7 1	認知症専門診断管理料　認知症専門診断管理料１ イ　基幹型又は地域型の場合　700点　ロ　連携型の場合　500点
B005-7 2	認知症専門診断管理料　認知症専門診断管理料２　300点
C002	在宅時医学総合管理料
C002-2	施設入居時等医学総合管理料

A001注12 地域包括診療加算

○　地域包括診療加算について、届出医療機関数及び算定回数は減少傾向～横ばい。

A001注12	再診料 イ　地域包括診療加算１　25点 ロ　地域包括診療加算２　18点	主治医機能を持った診療所の医師が、複数の慢性疾患を有する患者に対し、継続的かつ全人的な医療を行うことについて評価したもの。

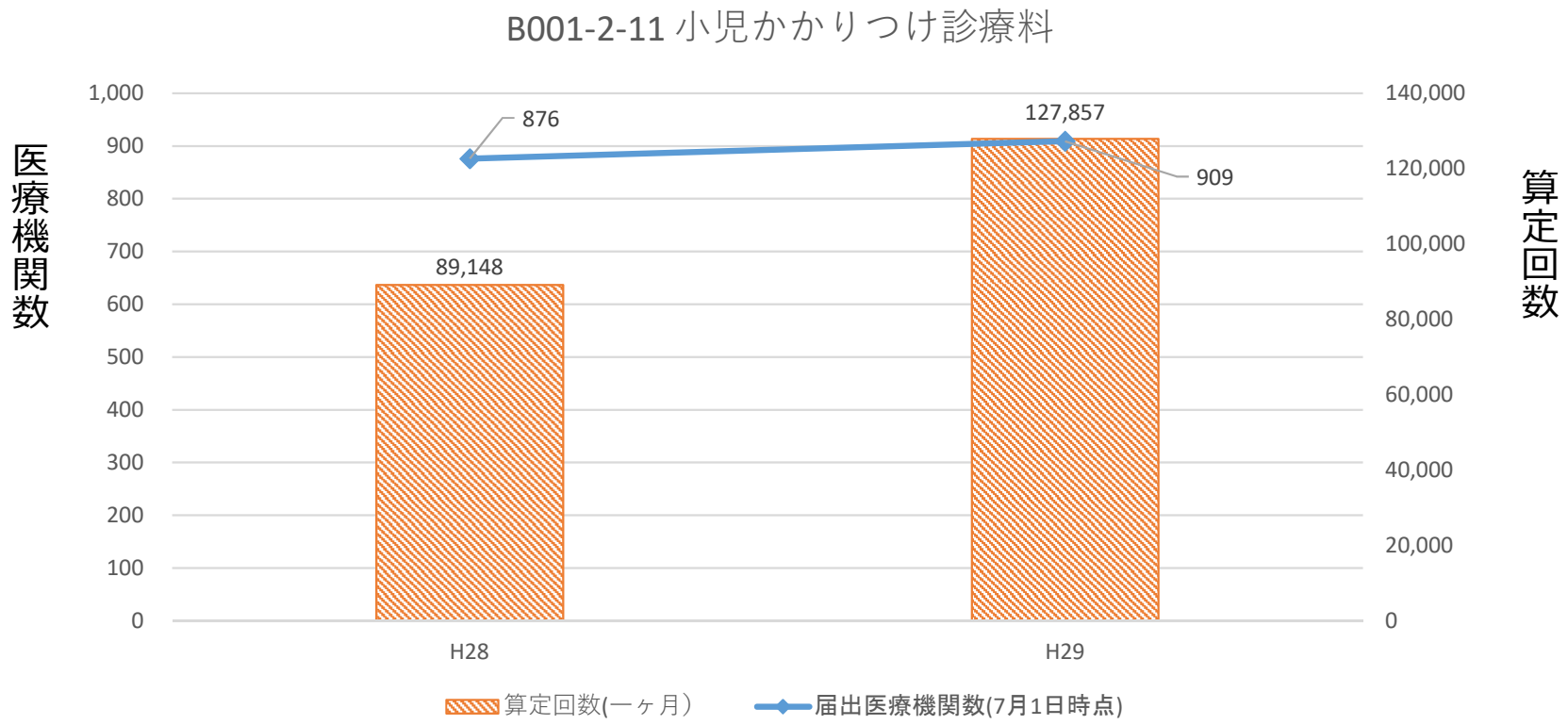


出典：社会医療診療行為別統計（平成27年より）、社会医療診療行為別調査（平成26年まで）　（各年６月審査分）
保険局医療課調べ（各年７月１日現在）

B001-2-11 小児かかりつけ診療料

○　小児かかりつけ診療料について、届出医療機関数は横ばい、算定回数は増加傾向。

B001-2-11 1	小児かかりつけ診療料（１日につき） 処方箋を交付する場合 イ　初診時　602点 ロ　再診時　413点	かかりつけ医として、緊急時や明らかに専門外の場合を除き継続的かつ全人的な医療を行う事について評価したもの。 当該診療料を算定する患者からの電話等による緊急の相談等に対しては、原則として当該保険医療機関において常時対応を行う。
B001-2-11 2	小児かかりつけ診療料（１日につき） 処方箋を交付しない場合 イ　初診時　712点 ロ　再診時　523点	

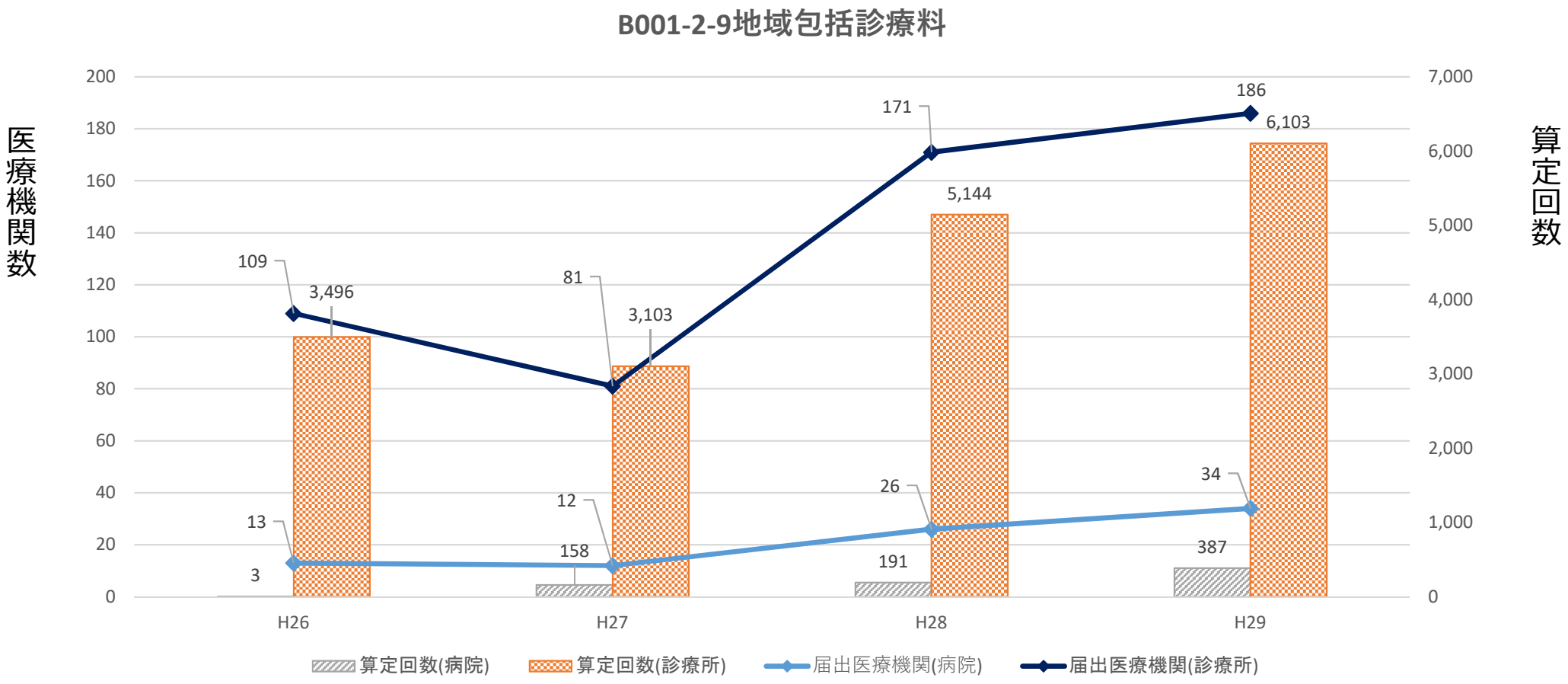


出典：社会医療診療行為別統計（平成27年より）、社会医療診療行為別調査（平成26年まで）　（各年６月審査分）
保険局医療課調べ（各年７月１日現在）

B001-2-9 地域包括診療料

○　地域包括診療料について、病院・診療所共に、届出医療機関数及び算定回数は増加傾向。

B001-2-9 1	地域包括診療料（月１回） 　地域包括診療料１　1,560点	主治医機能を持った中小病院及び診療所の医師が、複数の慢性疾患を有する患者に対し、継続的かつ全人的な医療を行う事を評価したもの。
B001-2-9 2	地域包括診療料（月１回） 　地域包括診療料２　1,503点	

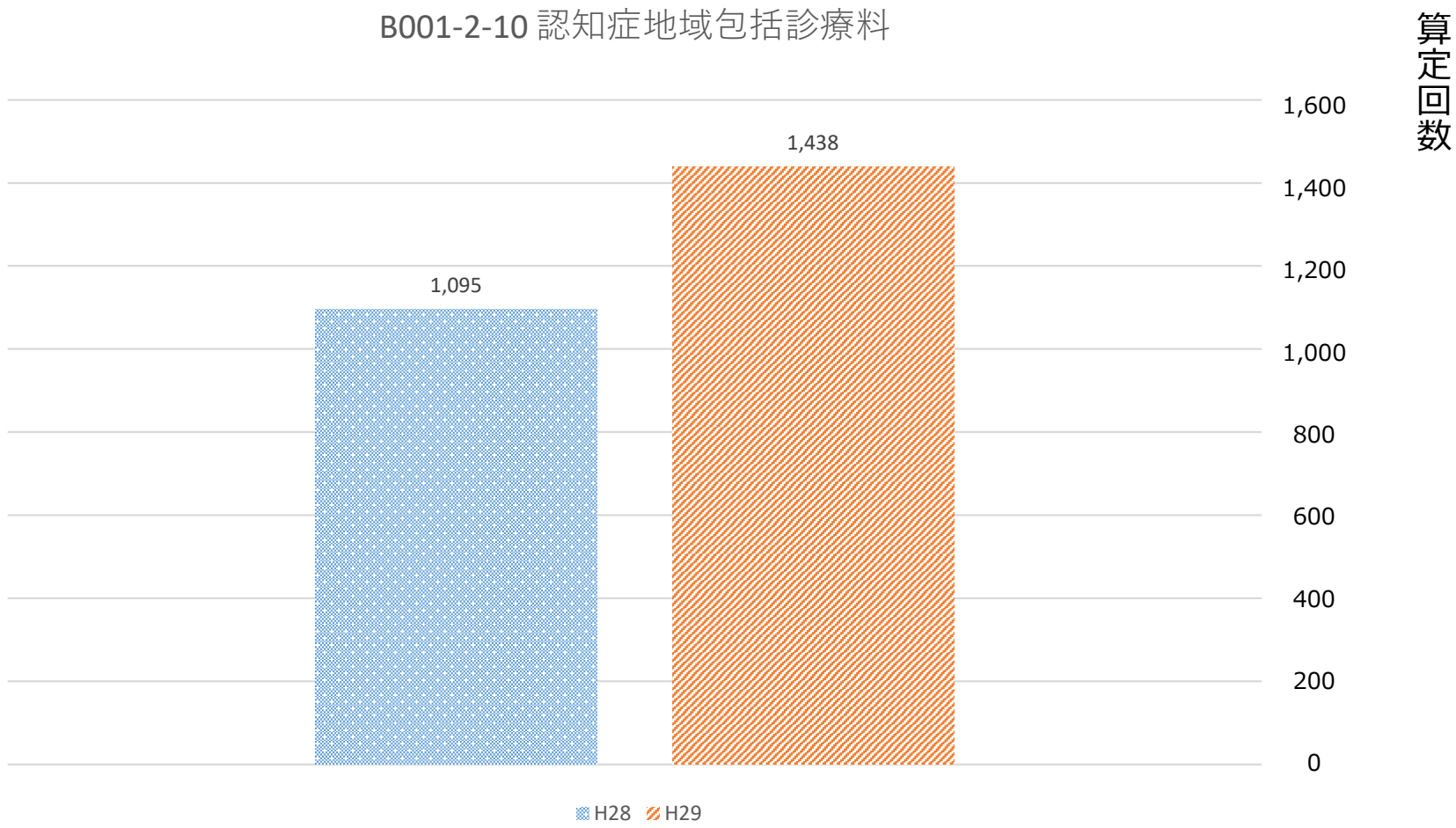


出典：社会医療診療行為別統計（平成27年より）、社会医療診療行為別調査（平成26年まで）　（各年６月審査分）
保険局医療課調べ（各年７月１日現在）

B001-2-10 認知症地域包括診療料

○　認知症地域包括診療料について、算定回数は少ないものの、増加傾向。

B001-2-10 1	認知症地域包括診療料（月１回） 　認知症地域包括診療料１　1,580点	外来の機能分化の観点から、主治医機能を持った医師が、認知症患者であって要件を満たす患者に対し、継続的かつ全人的な医療を行う事を評価したもの。
B001-2-10 2	認知症地域包括診療料（月１回） 　認知症地域包括診療料２　1,515点	



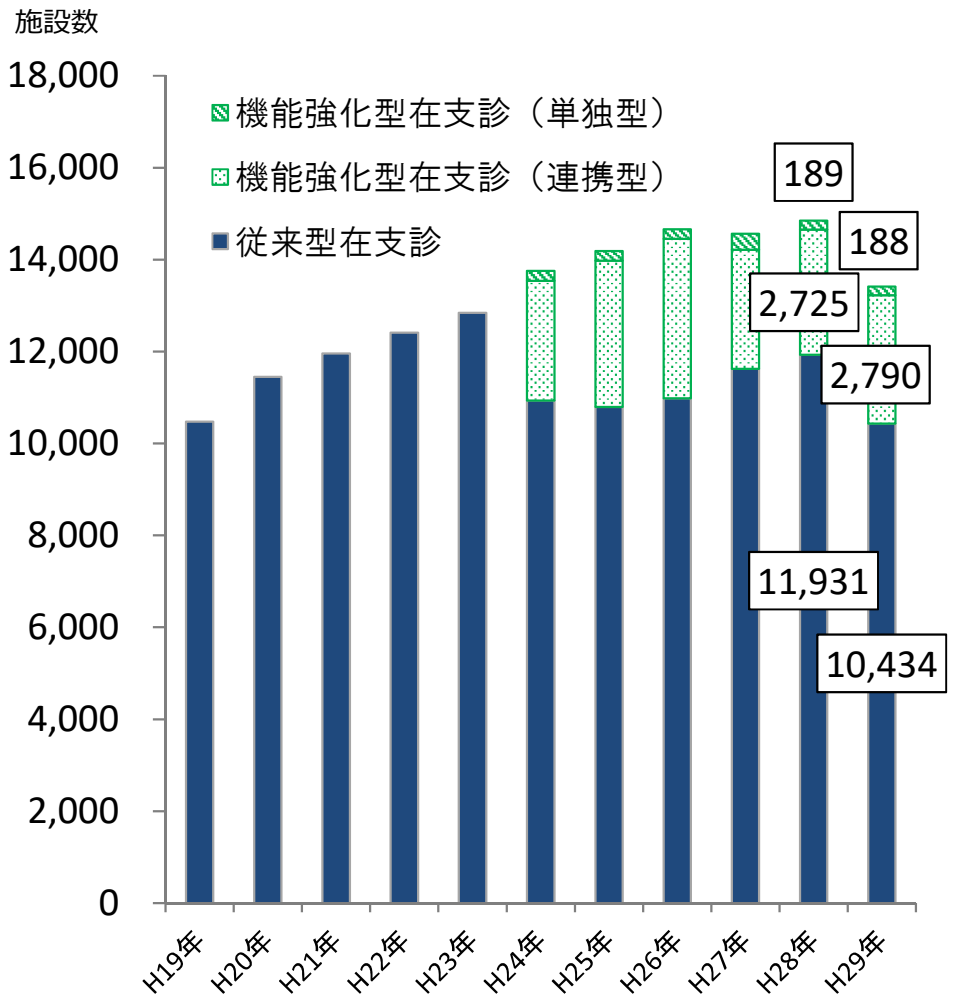
出典：社会医療診療行為別統計（平成27年より）、社会医療診療行為別調査（平成26年まで）　（各年６月審査分）
保険局医療課調べ（各年７月１日現在）

在宅療養支援診療所・病院の届出数の推移

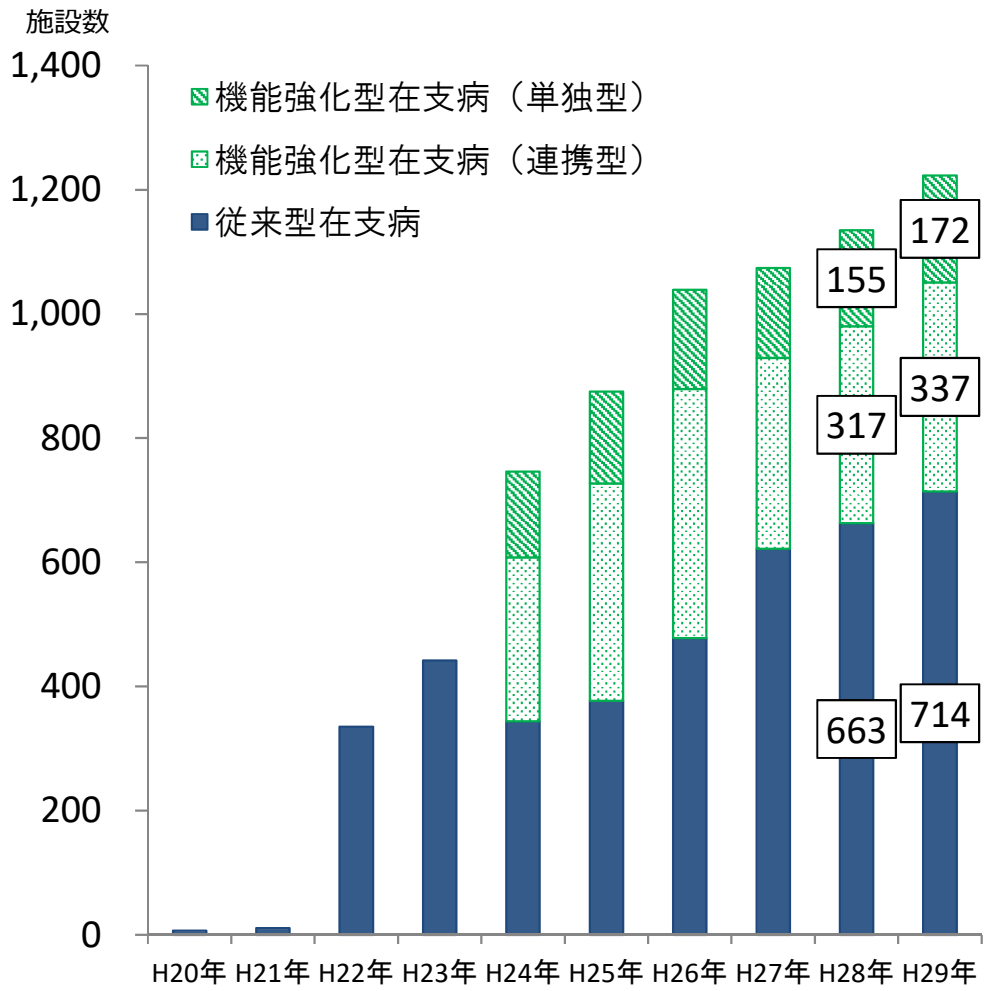
中医協　総－3
31.4.24

○ 在宅療養支援診療所は、増加傾向であったが、近年は概ね横ばい。在宅療養支援病院は、増加傾向。

＜在宅療養支援診療所＞



＜在宅療養支援病院＞

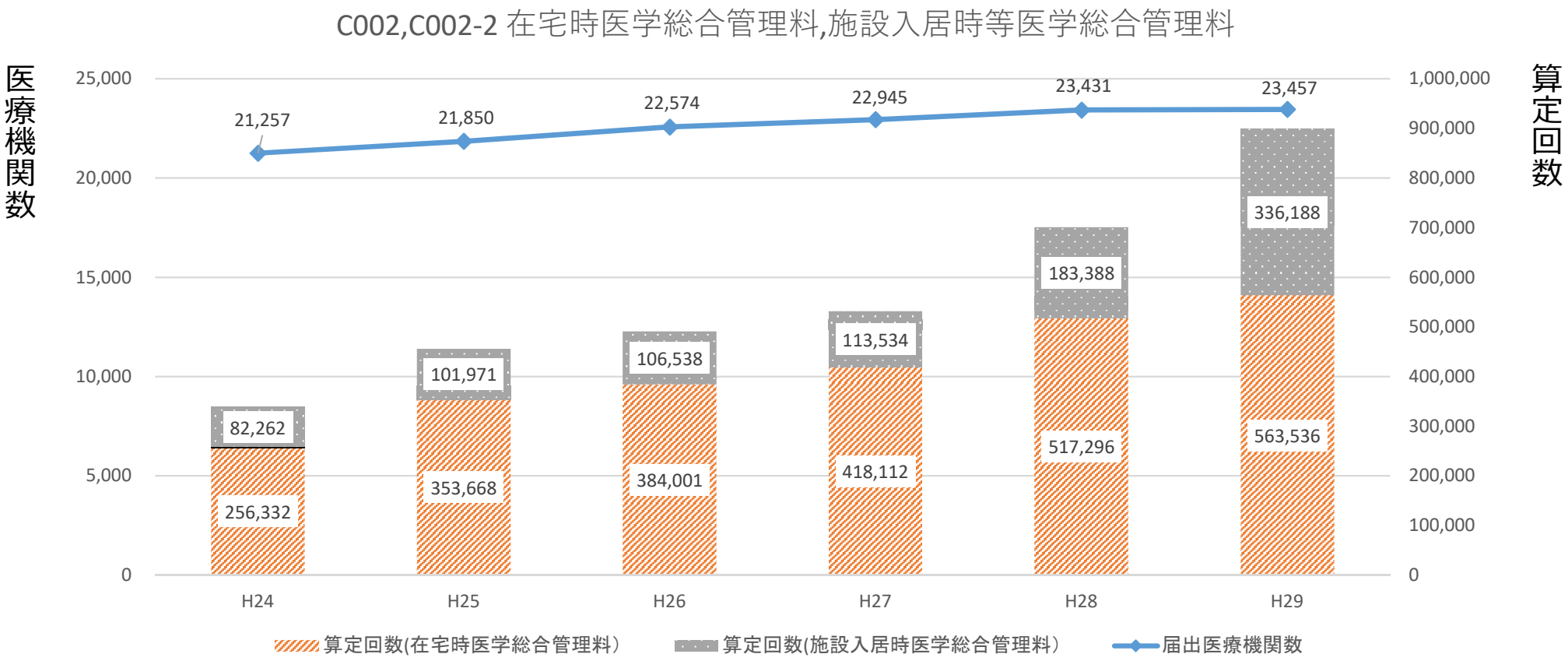


出典：保険局医療課調べ（各年7月1日時点）

C002 在宅時医学総合管理料　C002-2 施設入居時等医学総合管理料

○　在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料について、届出医療機関数及び算定回数は増加傾向。

C002	在宅時医学総合管理料	在宅での療養を行っている患者に対するかかりつけ医機能の確立及び在宅での療養の推進を図るもの。 在宅又は施設で療養を行っている患者であって、通院困難な者に対して、個別の患者毎に総合的な在宅療養計画を作成し、総合的な医学管理料を行った場合の評価。
C002-2	施設入居時等医学総合管理料	



出典：社会医療診療行為別統計（平成27年より）、社会医療診療行為別調査（平成26年まで）　（各年６月審査分）
保険局医療課調べ（各年７月１日現在）

かかりつけ歯科医機能について

○　直近で受療した歯科医師・歯科医院を選んだ理由は、「かかりつけの歯科医だから」が最も多く、約46%であった。

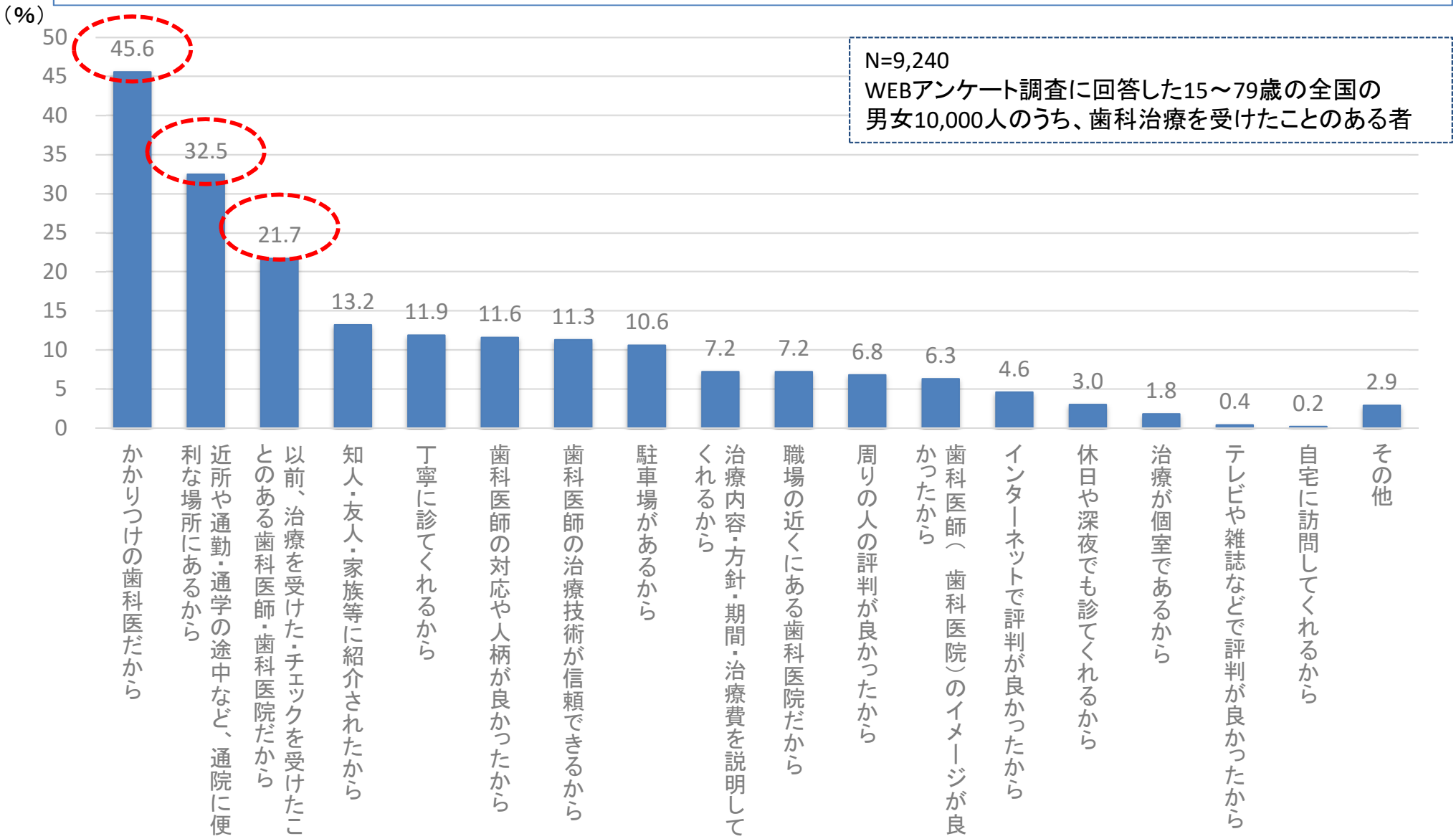
○　かかりつけ歯科医がいる者の割合は約63%であった。

○　かかりつけ歯科医の機能として、口腔疾患の重症化予防のための継続的な管理を通じて、地域住民の健康の維持・増進に寄与すること等が挙げられる。

○　平成30年度診療報酬改定において、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の施設基準にかかる要件の見直しを行った。

歯科医師・歯科医院を選んだ理由

○　直近で受療した歯科医師・歯科医院を選んだ理由は、「かかりつけの歯科医だから」が最も多く、45.6%であった。次いで、「近所や通勤・通学の途中など、通院に便利な場所にあるから」「以前、治療を受けた・チェックを受けたことのある歯科医師・歯科医院だから」であった。

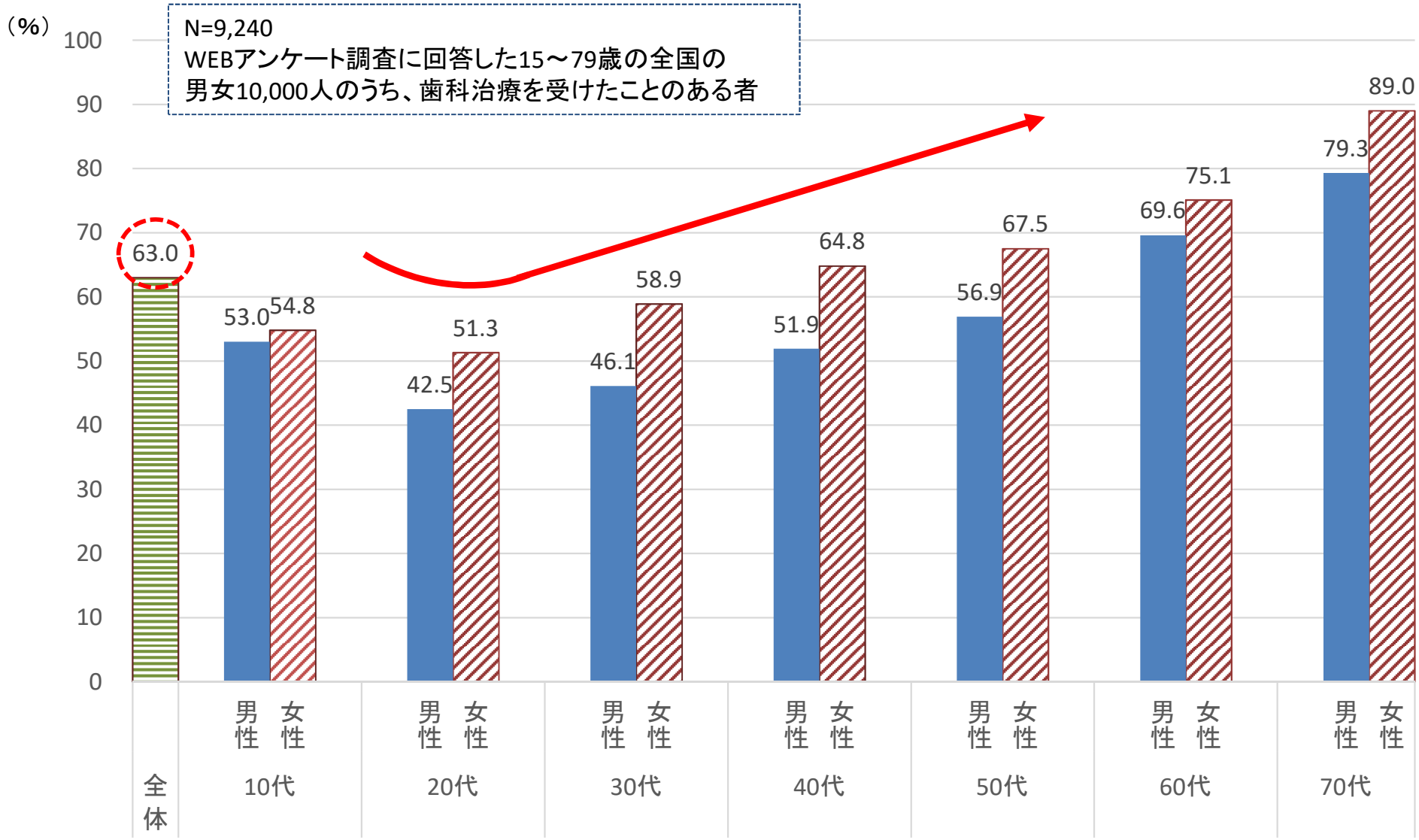


N=9,240
WEBアンケート調査に回答した15～79歳の全国の男女10,000人のうち、歯科治療を受けたことのある者

出典：2018年歯科医療に関する一般生活者意識調査（日本歯科医師会）

かかりつけ歯科医の有無

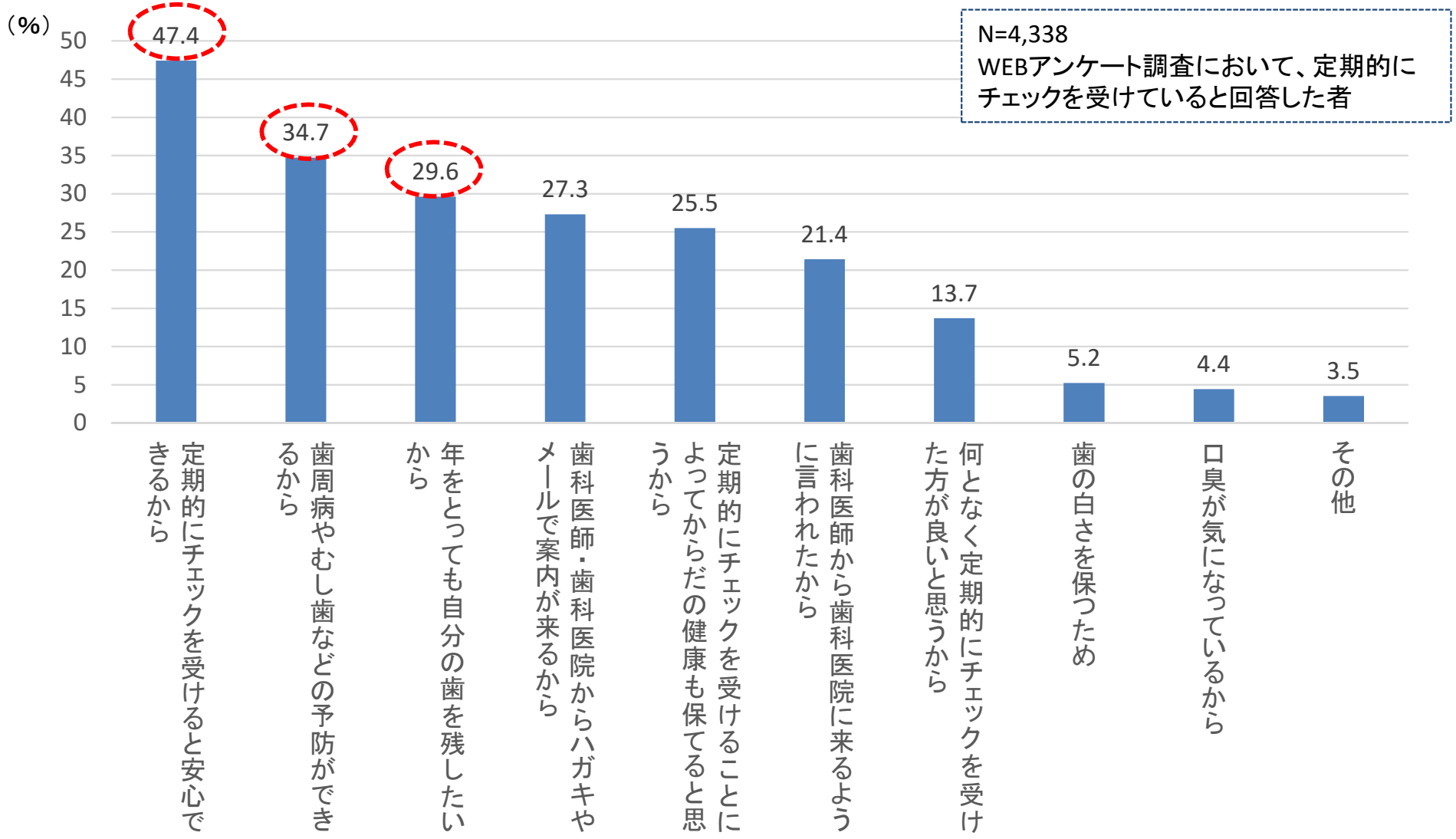
○ かかりつけ歯科医がいる者の割合は63.0%であった。
○ かかりつけ歯科医がいる者の割合は、全年齢階級において男性よりも女性の方が高かった。



出典：2018年歯科医療に関する一般生活者意識調査（日本歯科医師会）

定期的に受診する理由

○　定期的にチェックを受ける理由を尋ねたところ、「定期的にチェックを受けると安心できるから」が47.4%と最も多く、次いで、「歯周病やむし歯などの予防ができるから」、「年をとっても自分の歯を残したいから」であった。



出典：2018年歯科医療に関する一般生活者意識調査（日本歯科医師会）

かかりつけ歯科医の効果について

新しいう蝕の発生と フォローアップ回数の関連

○ 歯科診療所に通院している2～18歳を対象とした調査において、フォローアップ回数が10回を超えると1回と比較して、有意に新しいう蝕ができにくくなっていた。

フォローアップの回数

1回	1.0	
2-4回	0.608	p=0.134
5-9回	0.415	p=0.065
10回以上	0.473	p=0.010

対象：2002年から2008年に歯科診療所に通院している2歳から18歳の651人
分析方法：「新しくできたむし歯の数」を目的変数として ロジスティック回帰分析を実施

出典：Effect of Preventive Oral Hygiene Measures on the Development of New Carious lesions, (Oral Health Prev. Dent, 12, 2014)

かかりつけ歯科医の有無と 現在歯数との関連

○ 65歳以上の高齢者を対象とした調査において、3年以上同じ「かかりつけ歯科医」がいない者は現在歯数20本未満となるリスクが高くなっていた。

現在歯数が20本未満と関連する要因

		男性	女性
3年以上同じかかりつけ歯科医	あり	1.0	1.0
	なし	10.21（3.06～34.08）	6.66（1.43～30.97）

対象：65歳以上の高齢者
現在歯数19本以下の高齢者79人（男性19人、女性60人）
現在歯数20本以上の高齢者85人をコントロール
調査方法：質問紙調査
※「かかりつけ歯科医」：「かかりつけの歯医者（3年以上同じ）がありますか」の問いに対して「はい」「いいえ」で回答する形式により把握。

出典：高齢者で歯を20本以上保つ要因について～北海道道東地域におけるケース・コントロール研究～（口衛誌61, 2011）

かかりつけ歯科医の機能・役割

○　**かかりつけ歯科医は、地域包括ケアシステムの一翼を担い、地域保健活動や外来受診患者の口腔疾患の重症化予防のための継続的な管理を通じて、地域住民の健康の維持・増進に寄与すべきである。**

患者の身体状況・住まい等が変わっても、関係者と連携しつつ切れ目なくサービスを提供するなど、ライフステージに応じ、患者のニーズにきめ細やかに対応し、安全・安心な歯科保健医療サービスを提供することが求められる。

○　すなわち、かかりつけ歯科医は以下に示す3つの機能を有することで、住民・患者ニーズへのきめ細やかな対応、切れ目ない提供体制の確保、他職種との連携を実現することが求められる。

Ⅰ　住民・患者ニーズへのきめ細やかな対応

- 歯科疾患の予防・重症化予防や口腔機能に着目した歯科医療の提供
- 患者に対する歯科医療機関の医療安全体制等の情報提供
- 地域保健活動への参画や、住民に対する健康教育、歯科健診等の実施

Ⅱ　切れ目ない提供体制の確保

- 外来診療に加え、患者の状態に応じた、病院や在宅等への訪問歯科診療の実施（訪問歯科診療を実施していない場合は、当該診療を実施している歯科医療機関と連携体制を確保するなど、役割分担の明確化）
- 休日・夜間等の対応困難なケースにおいては、対応可能な歯科医療機関を事前に紹介するなど、歯科医療機関間の連携体制の確保

Ⅲ 他職種との連携

- 医師や看護師等の医療関係職種、介護支援専門員（ケアマネージャー）等の介護関係職種等と口腔内状況の情報共有等が可能な連携体制の確保
- 食支援等の日常生活の支援を目的とした他職種連携の場への参画

出典:「歯科医師の資質向上等に関する検討会」中間報告書　～「歯科保健医療ビジョン」の提言～　平成29年12月25日

かかりつけ歯科医機能評価の充実

○　かかりつけ歯科医機能をより一層推進する観点から、かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の見直しや、かかりつけ医との情報共有・連携の評価を行う。

・ う蝕・歯周病の継続管理の算定実績の明確化

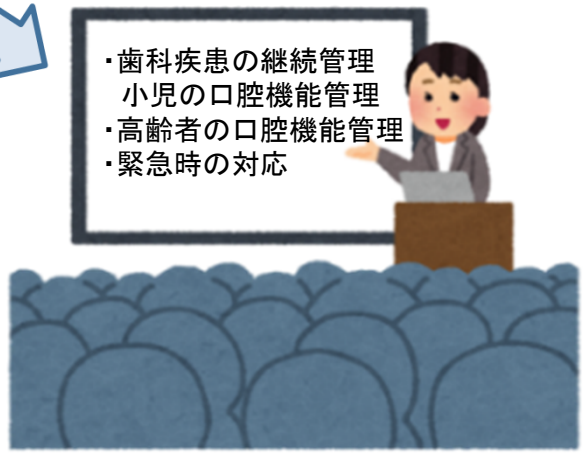
連携

・ 学校歯科医等の実績を評価

・ 在宅療養支援歯科診療所との連携を評価

連携

・ 在宅医療、介護に関する連携等を評価
・多職種連携の評価　等



・ 研修内容の見直し

歯科訪問診療への移行

・ 外来から歯科訪問診療に移行した場合を評価

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所①

○　平成30年度診療報酬改定において、う蝕や歯周病の重症化予防に関する継続的な管理実績を要件として追加する等の要件の見直しを行った。

【施設基準】 ※令和2年3月31日まで経過措置　　※下線部はH30改定で見直しを行った主な内容

○　過去1年間に歯周病安定期治療（Ⅰ）又は歯周病安定期治療(Ⅱ)をあわせて30回以上算定実績。
○　過去1年間にフッ化物歯面塗布処置又は歯科疾患管理料のエナメル質初期う蝕管理加算をあわせて10回以上算定実績。
○　クラウン・ブリッジ維持管理料を算定する旨の届出。
○　歯科初診料の注1に規定する施設基準の届出。
○　過去1年間に歯科訪問診療1若しくは歯科訪問診療2の算定回数又は連携する在宅療養支援歯科診療所1若しくは在宅療養支援歯科診療所2に依頼した歯科訪問診療の回数があわせて5回以上であること。
○　過去1年間に診療情報提供料又は診療情報連携共有料をあわせて5回以上算定している実績があること。
○　当該医療機関に、歯科疾患の重症化予防に資する継続管理に関する研修（口腔機能の管理を含む）、高齢者の心身の特性及び緊急時対応等の適切な研修を修了した歯科医師が1名以上在籍していること。
○　以下のうちの3つ以上に該当していること。
・過去1年間に、居宅療養管理指導を提供した実績があること。
・地域ケア会議に年1回以上出席。
・介護認定審査会の委員の経験。
・在宅医療に関するサービス担当者会議、病院・介護保険施設等で実施される多職種連携会議等に参加。
・栄養サポートチーム等連携加算1又は栄養サポートチーム等連携加算2を算定実績。
・在宅医療・介護等に関する研修を受講。
・過去1年間に、退院時共同指導料1、退院前在宅療養指導管理料、在宅患者連携指導料又は在宅患者緊急時等カンファレンス料の算定があること。
・認知症対応力向上研修等、認知症に関する研修を受講。
・自治体等が実施する事業に協力。
・学校歯科医等に就任。
・歯科診療特別対応加算又は初診時歯科診療導入加算の算定実績。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所②

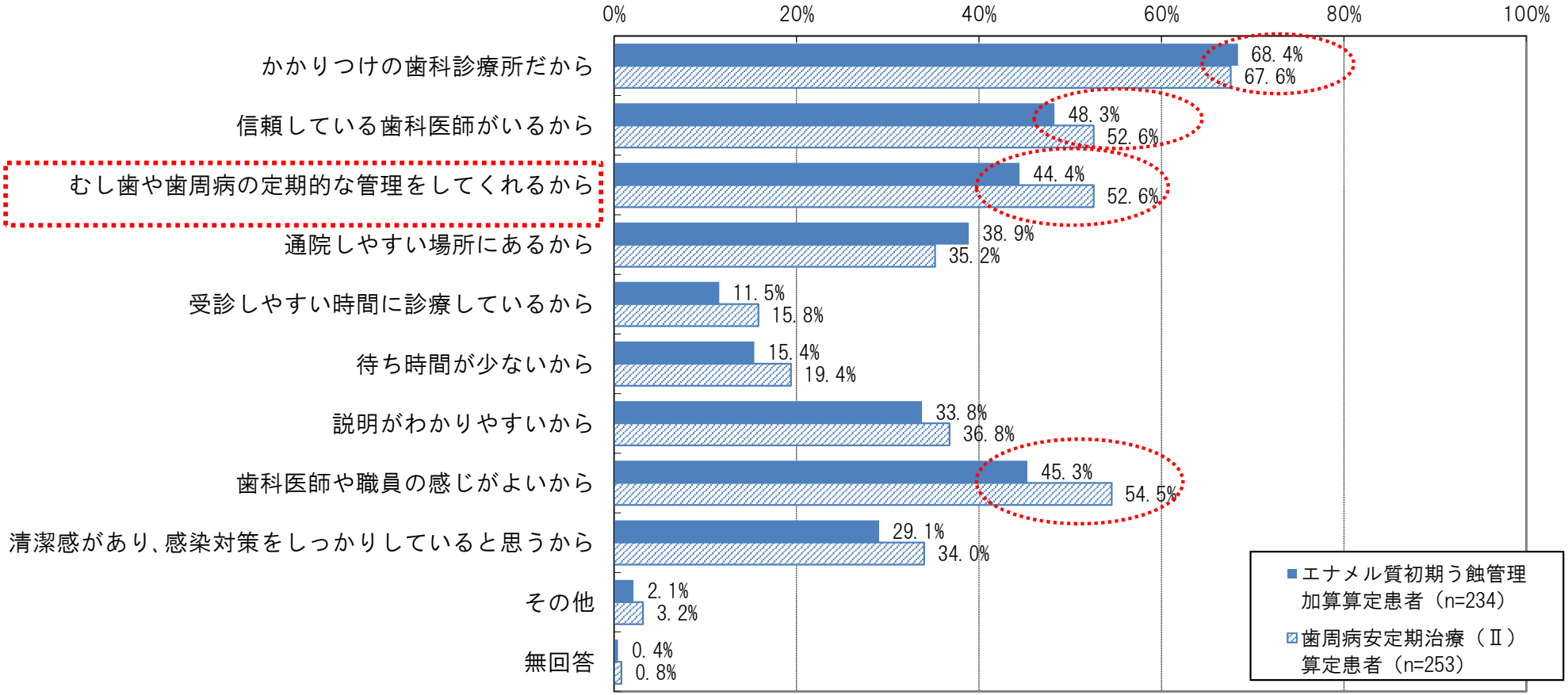
○　かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所について、
平成28年7月1日現在の届出医療機関数は3,834施設、
平成29年7月1日現在の届出医療機関数は7,525施設であった。

＜かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の診療報酬上の評価＞

区分	かかりつけ機能強化型歯科診療所	その他
エナメル質初期う蝕管理加算	260点	―
歯科訪問診療補助加算	同一建物居住者以外の場合115点、 同一建物居住者の場合50点	同一建物居住者以外の場合90点、 同一建物居住者の場合30点
歯科訪問診療移行加算	150点	100点
在宅患者 訪問口腔リハビリテーション 指導管理料	右記　＋75点	10歯未満　350点 10歯以上20歯未満　450点 20歯以上　550点
小児在宅患者 訪問口腔リハビリテーション 指導管理料	右記　＋75点	450点
歯周病安定期治療(Ⅱ)	10歯未満　380点 10歯以上20歯未満　550点 20歯以上　830点	―

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所を選んだ理由

○　かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所に通院中の患者が当該歯科診療所を選んだ理由は、「かかりつけの歯科診療所だから」の他に、「歯科医師や職員の感じがよいから」「信頼している歯科医師がいるから」「むし歯や歯周病の定期的な管理をしてくれるから」が多かった。



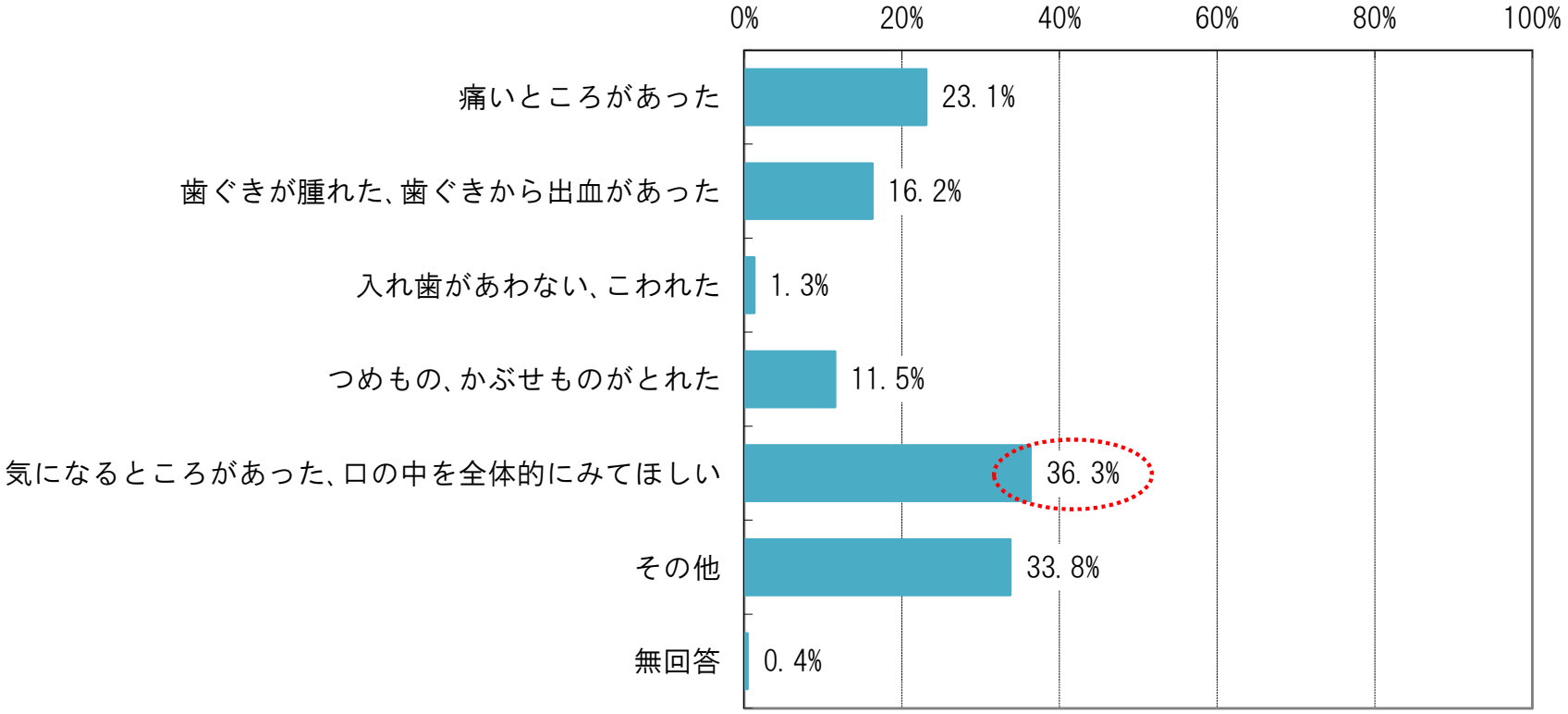
回答者：かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所を受診し、H28.8.1～10.31の間にエナメル質初期う蝕管理加算又は歯周病安定期治療（Ⅱ）を算定した患者

出典：診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成28年度）　※結果は暫定版であり、今後変更があり得る。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所に通院したきっかけ

○　かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所に通院中の患者について、現在の通院のきっかけは「気になるところがあった、口の中を全体的にみてほしい」が約36%で最も多かった。

現在の通院について、受診したきっかけ



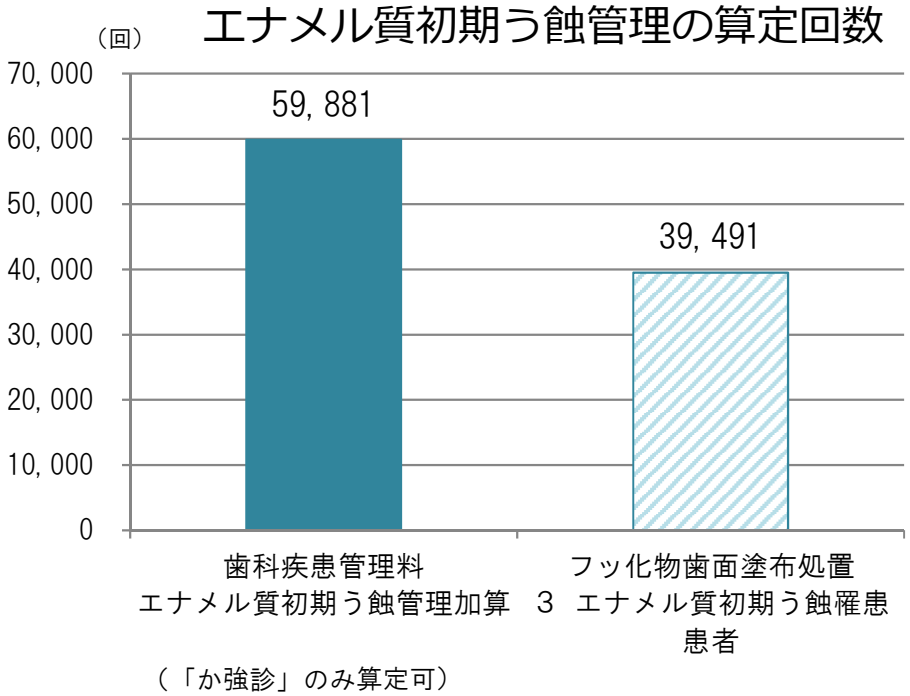
回答者：かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所を受診し、H28.8.1～10.31の間にエナメル質初期う蝕管理加算又は歯周病安定期治療（Ⅱ）を算定した患者

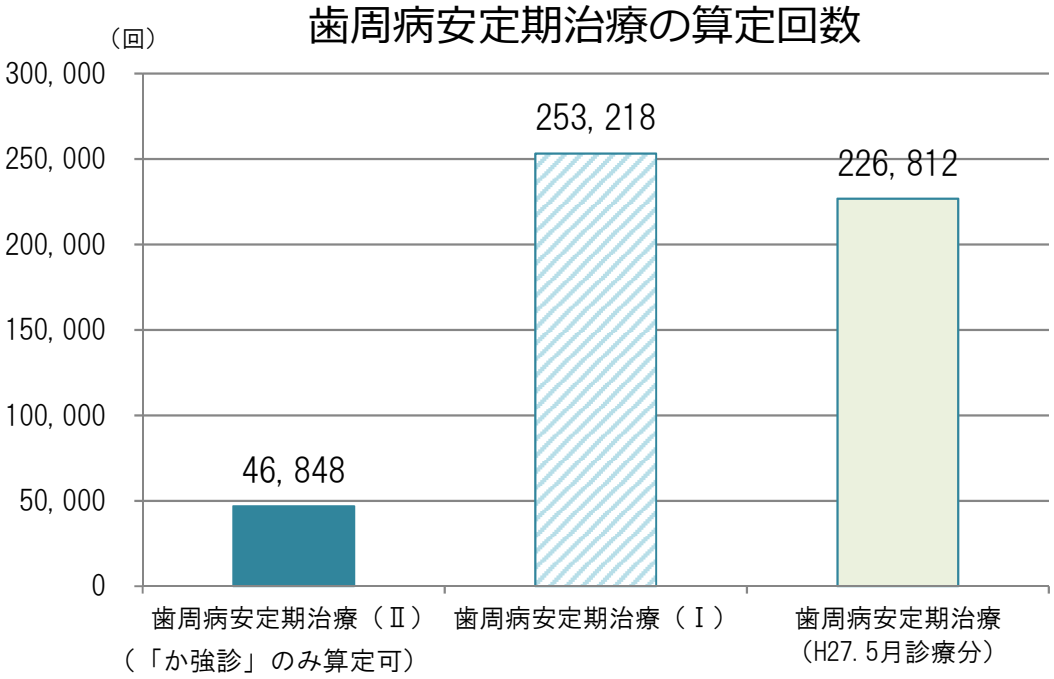
出典：診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成28年度）　※結果は暫定版であり、今後変更があり得る。

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の状況

○ 平成29年4月現在のかかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所（「か強診」）の届出数は7,031施設であり、歯科診療所の約10%であった。

○ エナメル質初期う蝕管理の算定回数は、「か強診」のみ算定可能な「エナメル質初期う蝕管理加算」の方が多いが、歯周病安定期治療についてはすべての歯科医療機関が算定可能な歯周病安定期治療（Ⅰ）の方が多かった。





出典：NDBデータH28.5月診療分（保険局医療課調べ）

かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の届出施設数（H29年4月1日現在）：7, 031施設
※H28. 5. 1時点：2, 636施設
（参考：平成28年4月1日現在　歯科保険医療機関数（診療所）：69, 618施設）　保険局医療課調べ

歯科初診料、再診料の注1に関する届出

○　平成30年度診療報酬改定において、院内感染対策を推進する観点から歯科初診料及び歯科再診料の見直しを行った。

○　平成31年４月１日現在の届出医療機関数は、65,211施設（約95%）であった。

※保険局医療課において集計した速報値

【施設基準】

1　歯科外来診療における院内感染防止対策につき十分な体制が整備されていること。
（患者ごとの交換、専用の機器を用いた洗浄・滅菌処理）

2　歯科外来診療における院内感染防止対策につき十分な機器を有していること。

3　歯科外来診療における院内感染防止対策に係る研修を受けた常勤の歯科医師が1名以上配置されていること。

4　歯科外来診療の院内感染防止対策に係る院内掲示を行っていること。

＜歯科初診料の届出にかかる診療報酬上の評価＞

区分	届出あり	届出なし
歯科初診料	237点	226点
歯科再診料	48点	41点

かかりつけ薬剤師・薬局機能について

○ 「薬機法等制度改正に関するとりまとめ」において、医薬分業の現状、今後のあり方等がまとめられている

○ かかりつけ薬剤師は、日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、薬に関していつでも気軽に相談できる薬剤師。服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導、医療機関との連携等が期待されている

○ 患者が薬局を選ぶ上で考慮する理由として、医療機関から近いことを挙げる割合は全年代を通じて多い。ただし、年齢があがるにつれて、信頼できる薬剤師の存在等を挙げる割合が増える

○ 受診する医療機関が増えるほど、来局する薬局数も増える傾向にある。3箇所以上の薬局に来局する患者もいる

○ かかりつけ薬剤師指導料の算定実績は全体の約1.5%程度で、算定回数は最近は横ばい

○ かかりつけ薬剤師を持つ患者では、①残薬整理、②検査値の活用、③調剤後の電話での状況確認、④時間内／時間外を問わない相談について、「受けたことがある」、又は「受けたことがないが今後受けてみたい」と回答したのは7割～8割程度

○ かかりつけ薬剤師では、処方医への疑義照会や重複投薬防止の取組の割合が通常よりも高いというデータがある

○ お薬手帳を持っていくと患者負担が少なくなることを約7割の患者が知っており、6ヶ月以内に薬局を再来局した患者では、約7割がお薬手帳を持参していた

医薬分業が目指すもの

○　医薬分業とは、医師が患者に処方箋を交付し、薬剤師がその処方箋に基づき調剤を行い、医師と薬剤師がそれぞれの専門分野で業務を分担することによって、医療の質の向上を図ることを目指すもの

医師と薬剤師が相互に専門性を発揮することによる効果

○　薬剤師が、薬剤服用歴（服薬状況、副作用やアレルギー歴などの状況、相談内容等）の確認などにより、患者の服薬情報を一元的・継続的に把握した上で、薬剤師の持つ薬理学、薬物動態学、製剤学などの薬学的知見に基づいて薬学的管理・指導が行われることにより、複数診療科受診による重複投薬、相互作用の有無の確認などが可能となること。

○　薬剤師が、処方した医師・歯科医師と連携して、薬の効果、副作用、用法などについて患者に説明（服薬指導）することにより、患者の薬に対する理解が深まり、調剤された薬を適切に服用することが期待できること。

↓

薬物療法の有効性、安全性の向上

↓

医療の質の向上

医薬分業の今後のあり方について①

「薬剤師が本来の役割を果たし地域の患者を支援するための医薬分業のあり方について（薬機法等制度改正に関するとりまとめ）」（平成30年12月25日厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会）から診療報酬に関連し得る主な内容を抜粋

１．医薬分業の現状

○　（前略）厚生労働省の調査では、薬局において応需した処方箋のうち約2.8%について疑義照会が行われ、応需処方箋の約1.0%が処方変更につながっていることが示されるなど、一定の役割を果たしてきた。その一方で近年、これまで長らく薬局においては概して調剤における薬剤の調製などの対物中心の業務が行われるにとどまり、薬剤師による薬学的管理・指導が十分に行われているとはいえず、そのような状況下での医薬分業については、患者にとってのメリットが感じられないとの指摘や、公的医療保険財源や患者の負担に見合ったものになっていないとの指摘がされるようになってきている。

○　（前略）1970年代以降、診療報酬で処方箋料の引上げや薬価差解消等の措置がとられたこともあり、処方箋受取率は上昇を続け、現在では処方箋受取率７割 、薬局数は５万９千を超えている。費用面では、調剤技術料は調剤報酬改定での引上げもあって直近で1.8兆円に達しており、収益を内部留保として積み上げている薬局もある。

○　このような中で、厚生労働省は、平成27年に患者本位の医薬分業の実現に向けて「患者のための薬局ビジョン」を策定し、かかりつけ薬剤師・薬局を推進して、薬剤師の業務を対物業務から対人業務を中心とした業務へシフトさせ、薬剤師がその専門性を発揮するよう、医療保険制度等における対応も含めて施策を進めてきた。

○　今回、本部会では、薬剤師・薬局のあり方と併せて医薬分業のあり方に関して議論してきたが、医薬分業により、医療機関では医師が自由に処方できることや医薬品の在庫負担がないことに加え、複数の医療機関を受診している患者について重複投薬・相互作用や残薬の確認をすることで、患者の安全につながっているという指摘がある一方で、現在の医薬分業は、政策誘導をした結果の形式的な分業であって多くの薬剤師・薬局において本来の機能を果たせておらず、医薬分業のメリットを患者も他の職種も実感できていないという指摘や、単純に薬剤の調製などの対物中心の業務を行うだけで業が成り立っており、多くの薬剤師・薬局が患者や他の職種から意義を理解されていないという危機感がないという指摘、さらには、薬剤師のあり方を見直せば医薬分業があるべき姿になるとは限らず、この際院内調剤の評価を見直し、院内処方へ一定の回帰を考えるべきであるという指摘があった。このことは関係者により重く受け止められるべきである。

医薬分業の今後のあり方について②

「薬剤師が本来の役割を果たし地域の患者を支援するための医薬分業のあり方について（薬機法等制度改正に関するとりまとめ）」（平成30年12月25日厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会）から診療報酬に関連し得る主な内容を抜粋

２．今後の地域における薬物療法の提供に当たっての患者支援のあり方

○　（前略）患者は、外来、在宅、入院、介護施設など複数の療養環境を移行することから、療養環境に関わらず、医師と薬剤師が密に連携し、他の職種や関係機関の協力を得ながら、患者の服薬状況等の情報を一元的・継続的に把握し、最適な薬学的管理やそれに基づく指導を実施することが重要となっている。

○　（前略）がんの薬物療法に関して、経口薬が増加して外来で処方される機会が多くなっているなど、専門性が高い薬学的管理が継続的に必要となる薬物療法が提供される機会が増加している。このような状況に適切に対応するためには、臨床現場で専門性が高く、実践的な経験を有する医療機関の薬剤師が中心的な役割を果たしつつも、地域の実情に応じて、一定の資質を有する薬局の薬剤師が医療機関の薬剤師と連携しながら対応することが望ましいと考えられる。

○　（前略）薬剤師・薬局が経済的な利益の追求や効率性にのみ目を奪われ、このような機能を果たさず、調剤における薬剤の調製などの対物中心の業務にとどまる場合には、患者にとってメリットが感じられないものとなり、今後の患者に対する医薬分業の地域医療における意義は非常に小さくなると言わざるを得ない。

○　本部会での議論では、現在の薬局薬剤師と比較して、医療機関の薬剤師は医療への貢献度が他の職種から見てもわかりやすく、その役割が見える存在になっている一方で、医療機関の薬剤師業務が十分評価されておらず、医療機関の薬剤師の総数が薬局の薬剤師に比較して増えていないとの指摘があった。

○　今後、薬局薬剤師と医療機関の薬剤師が連携して、外来や入退院時に患者情報等の共有を行いながら切れ目のない薬学的管理と患者支援を行うことが一層求められると考えられるが、そのためには、医療機関の薬剤師の役割はさらに重要になってくる。

医薬分業の今後のあり方について③

「薬剤師が本来の役割を果たし地域の患者を支援するための医薬分業のあり方について（薬機法等制度改正に関するとりまとめ）」（平成30年12月25日厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会）から診療報酬に関連し得る主な内容を抜粋

３．おわりに

○　本部会では、今回、薬剤師・薬局のあり方と医薬分業のあり方に関して幅広く議論してきたが、これには、薬剤師法や薬機法上の措置のほか、医療保険制度や介護保険制度における報酬上の措置、医療法における医療計画上の措置など関連制度が密接に関係する。そのため、それら関連制度の検討に当たっては、今回の本部会での議論を踏まえることが期待される。

○　（前略）医療保険制度における対応においては、平成28年度改定以降の調剤報酬改定において、患者本位の医薬分業となるよう、累次にわたる改定で見直しを進めるとされたが、今回の制度部会での議論も十分踏まえ、患者のための薬局ビジョンに掲げた医薬分業のあるべき姿に向けて、診療報酬・調剤報酬において医療機関の薬剤師や薬局薬剤師を適切に評価することが期待される。

かかりつけ薬剤師・薬局

かかりつけ薬剤師

日頃から患者と継続的に関わることで信頼関係を構築し、薬に関していつでも気軽に相談できる薬剤師

＜かかりつけ薬剤師・薬局に求められること＞

- 地域における必要な医薬品（要指導医薬品等を含む。）の供給拠点であること
- 医薬品、薬物治療等に関して、安心して相談できる身近な存在であること
- 患者からの選択に応えられるよう、かかりつけ医との連携の上で、在宅医療も含め、患者に安全で安心な薬物療法を提供すること
- **地域における総合的な医療・介護サービス（地域包括ケア）を提供する一員**として、患者ごとに最適な薬学的管理・指導を行うこと

「患者のための薬局ビジョン」より

「患者のための薬局ビジョン」 ～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～

平成27年10月23日公表

健康サポート薬局

健康サポート機能

☆ 国民の**病気の予防や健康サポートに貢献**

- 要指導医薬品等を適切に選択できるような供給機能や助言の体制
- 健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介 等

高度薬学管理機能

☆ **高度な薬学的管理ニーズ**への対応

- 専門機関と連携し抗がん剤の副作用対応や抗HIV薬の選択などを支援　等

かかりつけ薬剤師・薬局

服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導

☆ **副作用や効果**の継続的な確認

☆ **多剤・重複投薬や相互作用の防止**

○ ＩＣＴ（電子版お薬手帳等）を活用し、

- 患者がかかる**全ての医療機関の処方情報を把握**
- 一般用医薬品等を含めた服薬情報を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導

24時間対応・在宅対応

☆ **夜間・休日、在宅医療**への対応

- 24時間の対応
- 在宅患者への薬学的管理・服薬指導

※ 地域の薬局・地区薬剤師会との連携のほか、へき地等では、相談受付等に当たり地域包括支援センター等との連携も可能

医療機関等との連携

☆ 疑義照会・処方提案

☆ 副作用・服薬状況のフィードバック

☆ 医療情報連携ネットワークでの情報共有

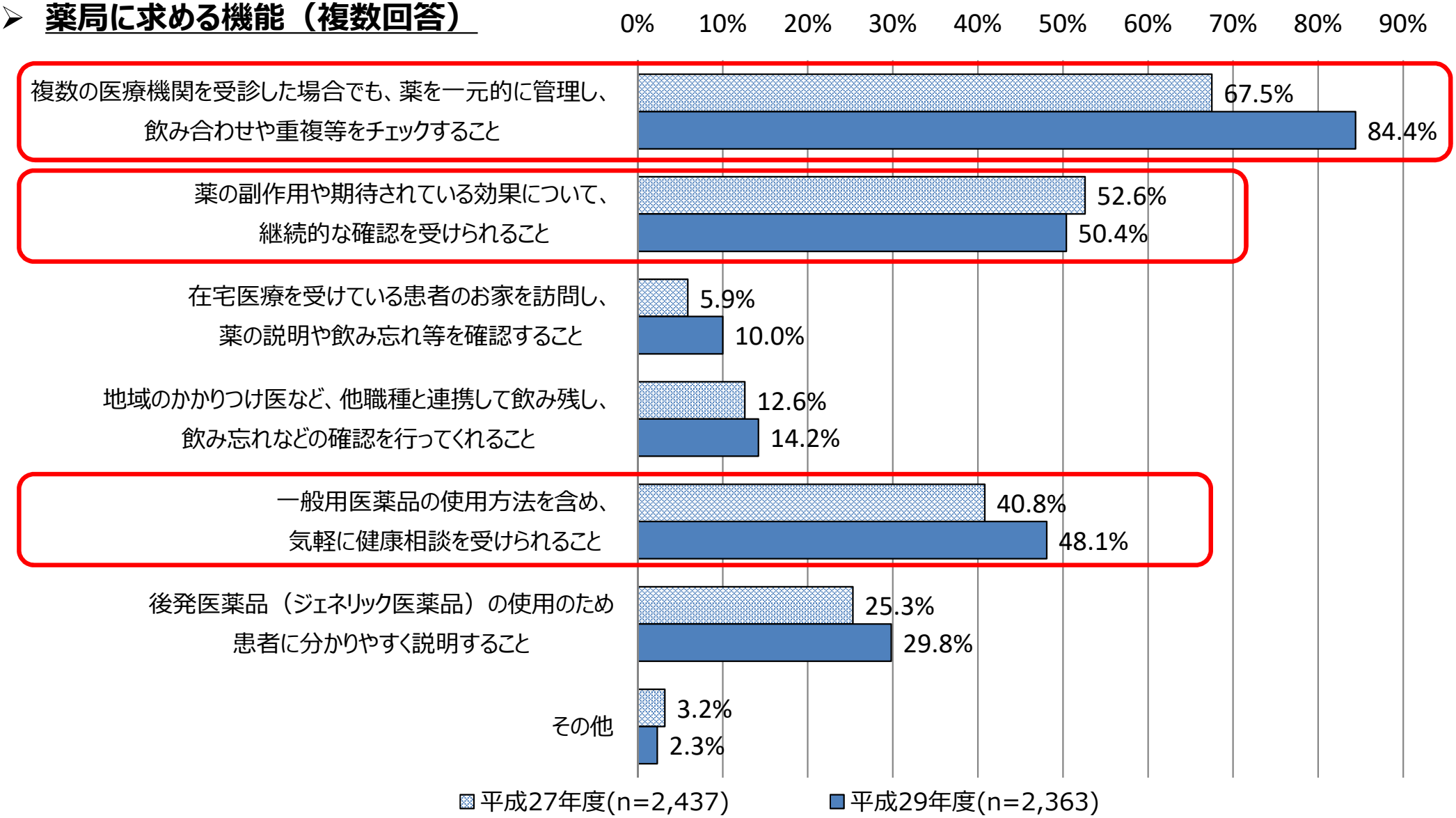
☆ 医薬品等に関する相談や健康相談への対応

☆ 医療機関への受診勧奨

患者が薬局に求める機能

○　患者が薬局に求める機能としては、薬の一元的・継続的な確認や気軽に健康相談を受けられることの回答が多く、2年前に比べて増加傾向にある。

➢ **薬局に求める機能（複数回答）**



医療課委託調査（薬局の機能に係る実態調査、平成27・29年度）

かかりつけ薬剤師・薬局が必要となる患者像

「患者のための薬局ビジョン」から抜粋・要約

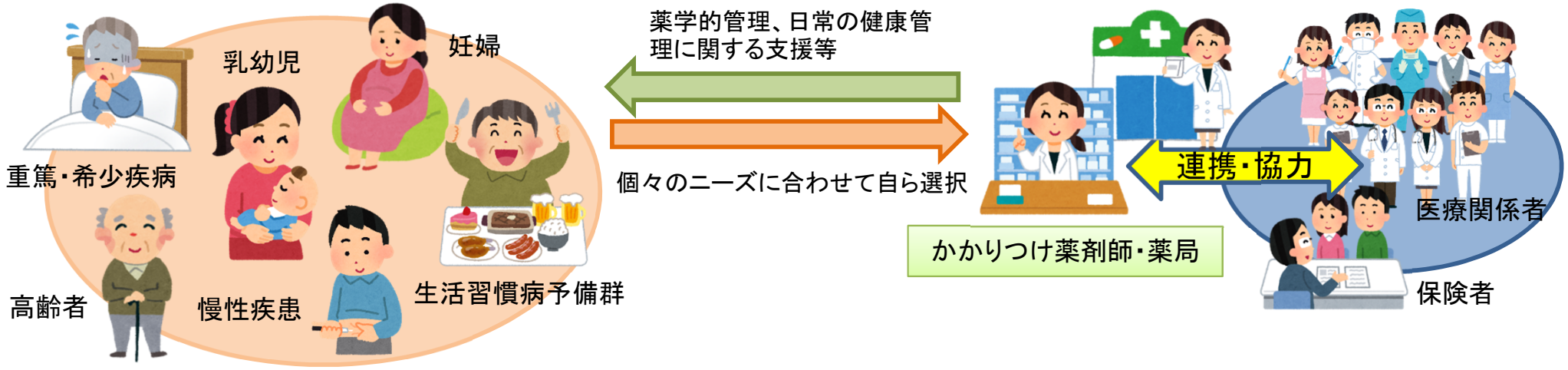
（１）特にかかりつけ薬剤師・薬局が重要な場合

以下のような服薬情報の一元的・継続的な把握の必要性が高い患者

① 高齢者
② 生活習慣病などの慢性疾患を有する患者
③ 重篤あるいは希少な疾患等の患者
④ 妊婦
⑤ 乳幼児　など

（２）かかりつけ薬剤師・薬局を選ぶことが望ましい場合（日頃からの健康管理に関する支援等として）

① 生活習慣病の予備群
② 日常の健康管理が求められる層

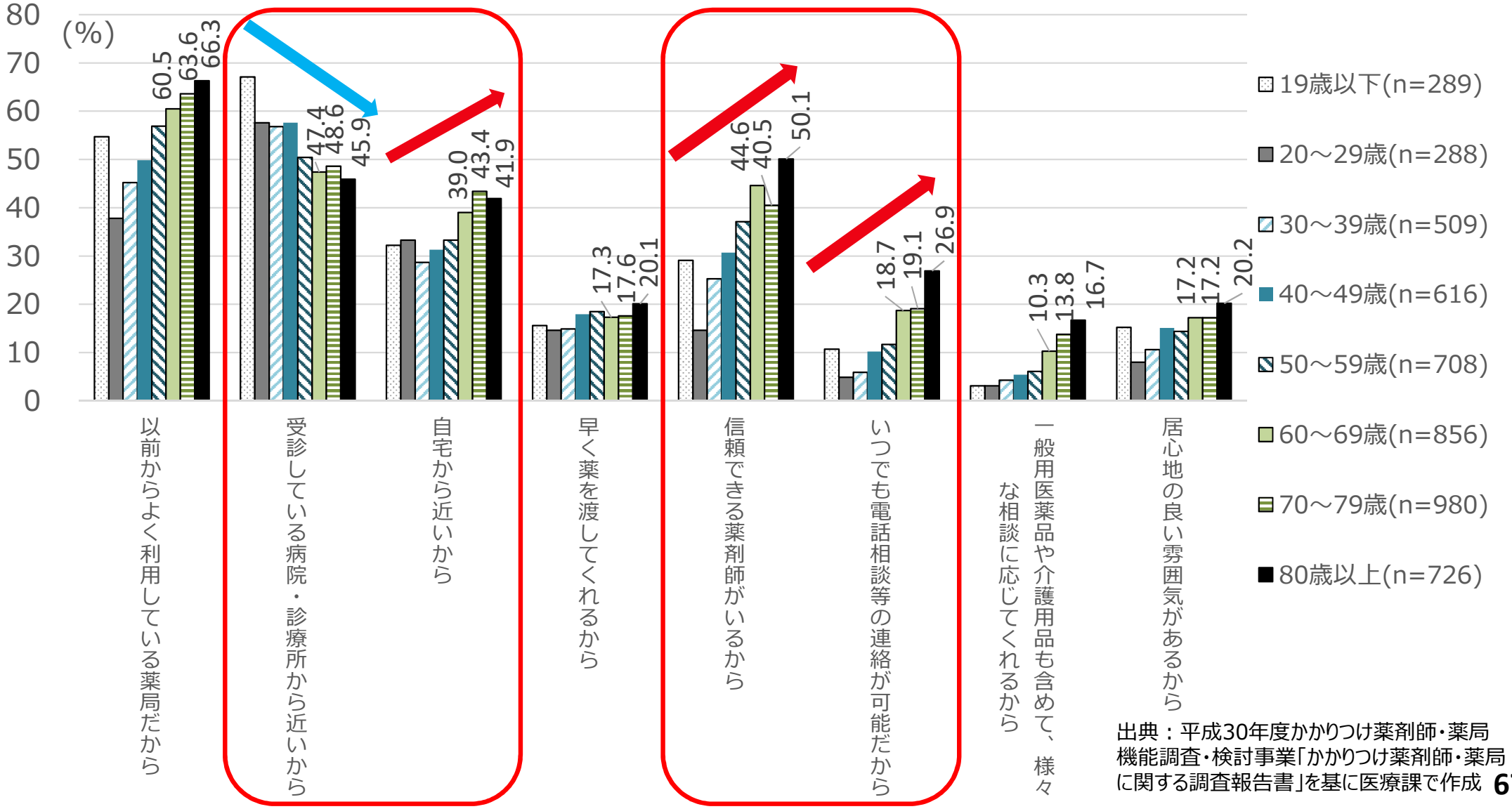


服薬情報の一元的・継続的な把握の必要性が高い患者、
日常の健康管理が求められる層

患者が薬局を選択する理由

○　薬局を選ぶ観点は、医療機関から近いことが全年代を通じて多いが、年齢があがるにつれてその割合は減少傾向。
○　一方で、年齢があがるにつれて、自宅から近いこと、信頼できる薬剤師がいること、いつでも電話相談等が可能であることなどの割合が増加傾向。

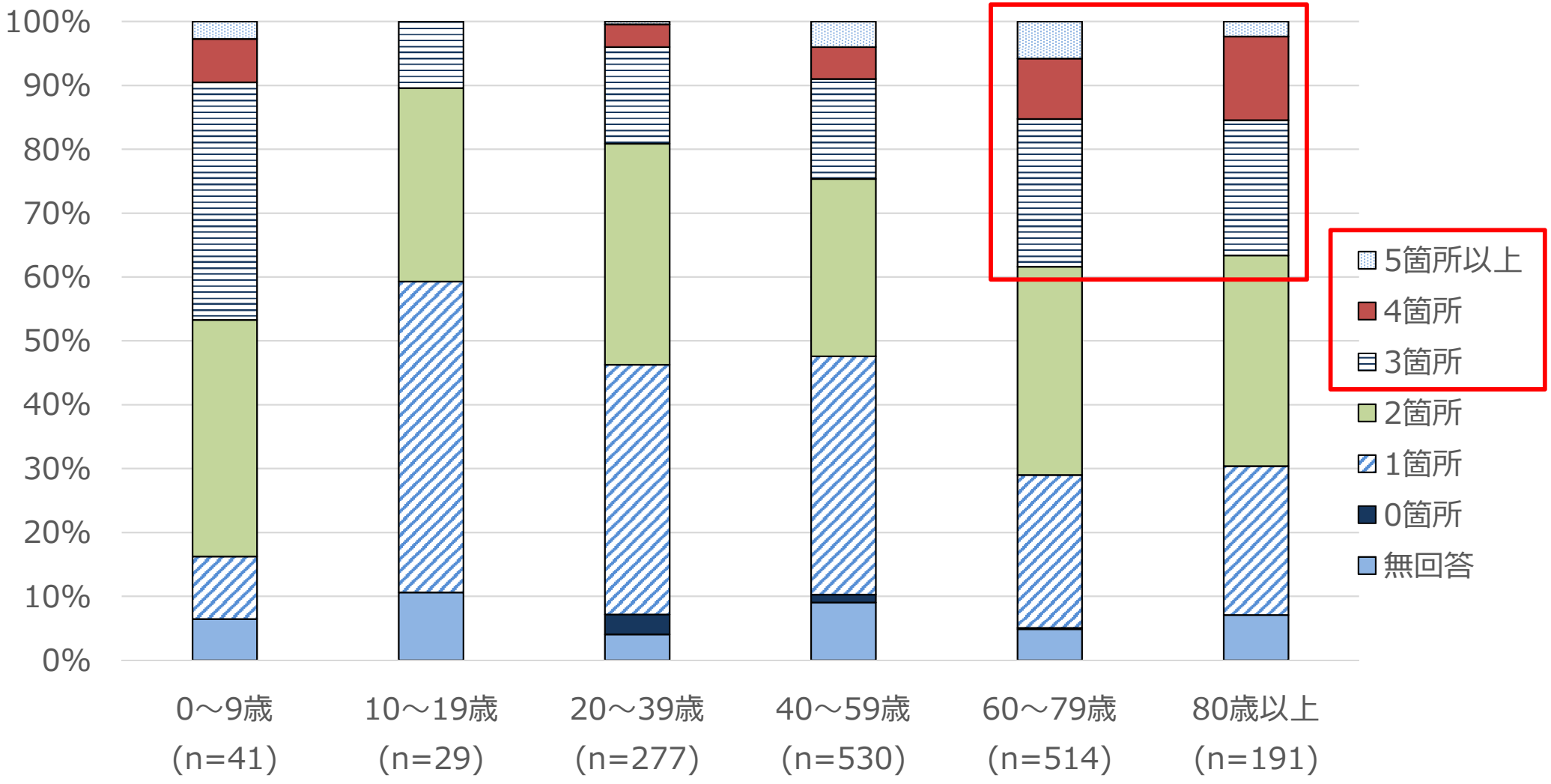
➢ **利用する薬局を選ぶ観点（複数回答 患者調査）**



出典：平成30年度かかりつけ薬剤師・薬局機能調査・検討事業「かかりつけ薬剤師・薬局に関する調査報告書」を基に医療課で作成

年齢別の医療機関受診数（６ヶ月）

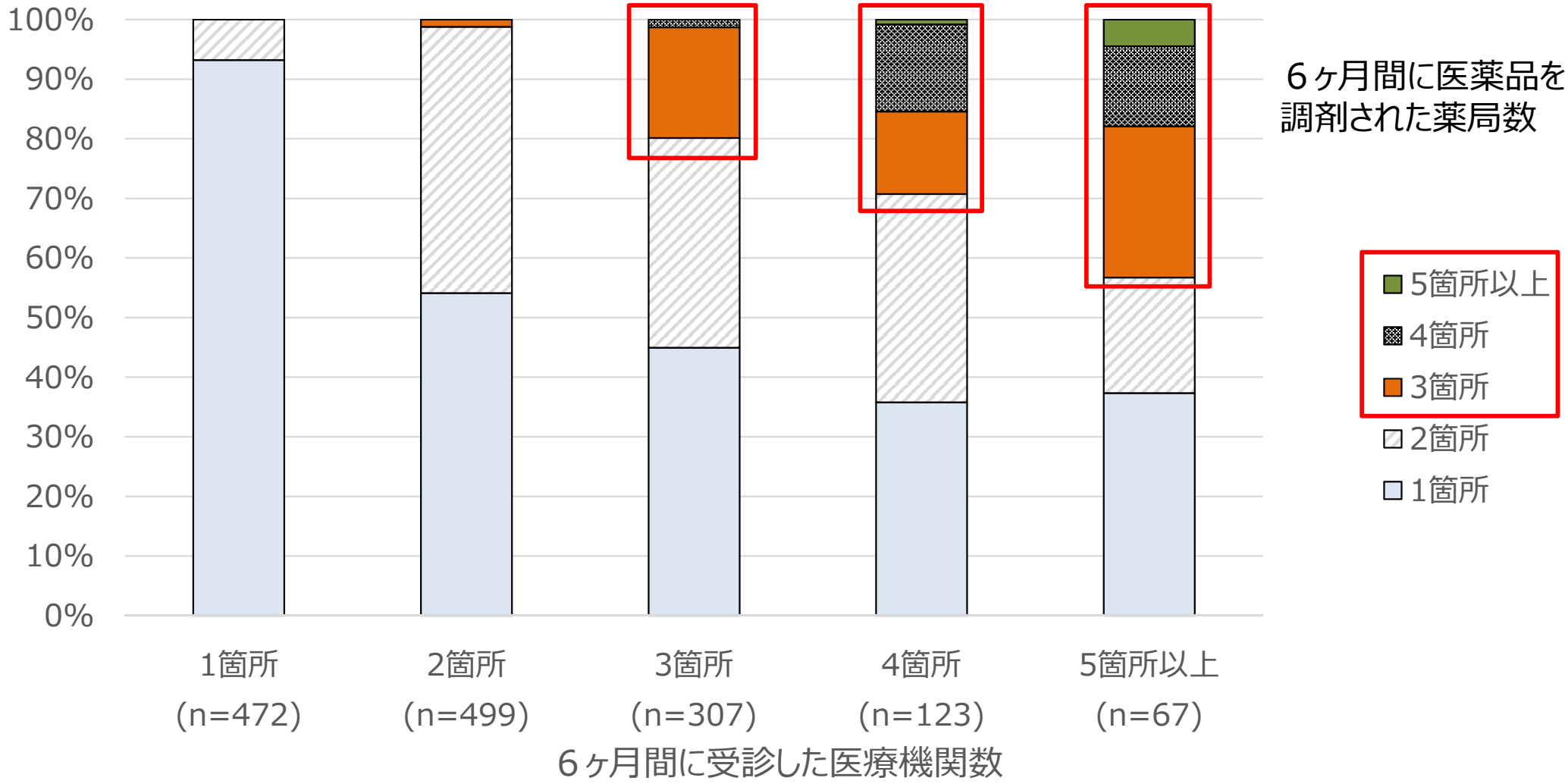
○　高齢者では、複数の医療機関を受診する割合が多い。



出典：薬局の機能に係る実態調査（平成30年度医療課委託調査）に基づき医療課が作成

受診医療機関別の来局薬局数（６ヶ月間）

○　受診する医療機関が増えるほど、来局する薬局数も増える傾向にある。
○　３箇所以上の薬局に来局する患者が一定数いる。
（３箇所の医療機関を受診する場合で約20%、４箇所の医療機関を受診する場合で約30%、5箇所以上の医療機関を受診する場合で約40%いた。）



出典：薬局の機能に係る実態調査（平成30年度医療課委託調査）に基づき医療課が作成

かかりつけ薬剤師の評価

かかりつけ薬剤師の評価

➢ 患者が選択した「かかりつけ薬剤師」が、処方医と連携して患者の服薬状況を一元的・継続的に把握した上で患者に対して服薬指導等を行う業務を薬学管理料として評価する。

かかりつけ薬剤師指導料　　73点（1回につき）

※ 薬剤服用歴管理指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料又は在宅患者訪問薬剤管理指導料（当該患者の薬学的管理指導計画に係る疾病と別の疾病又は負傷に係る臨時の投薬が行われた場合を除く。）と同時に算定できない。

[算定要件]

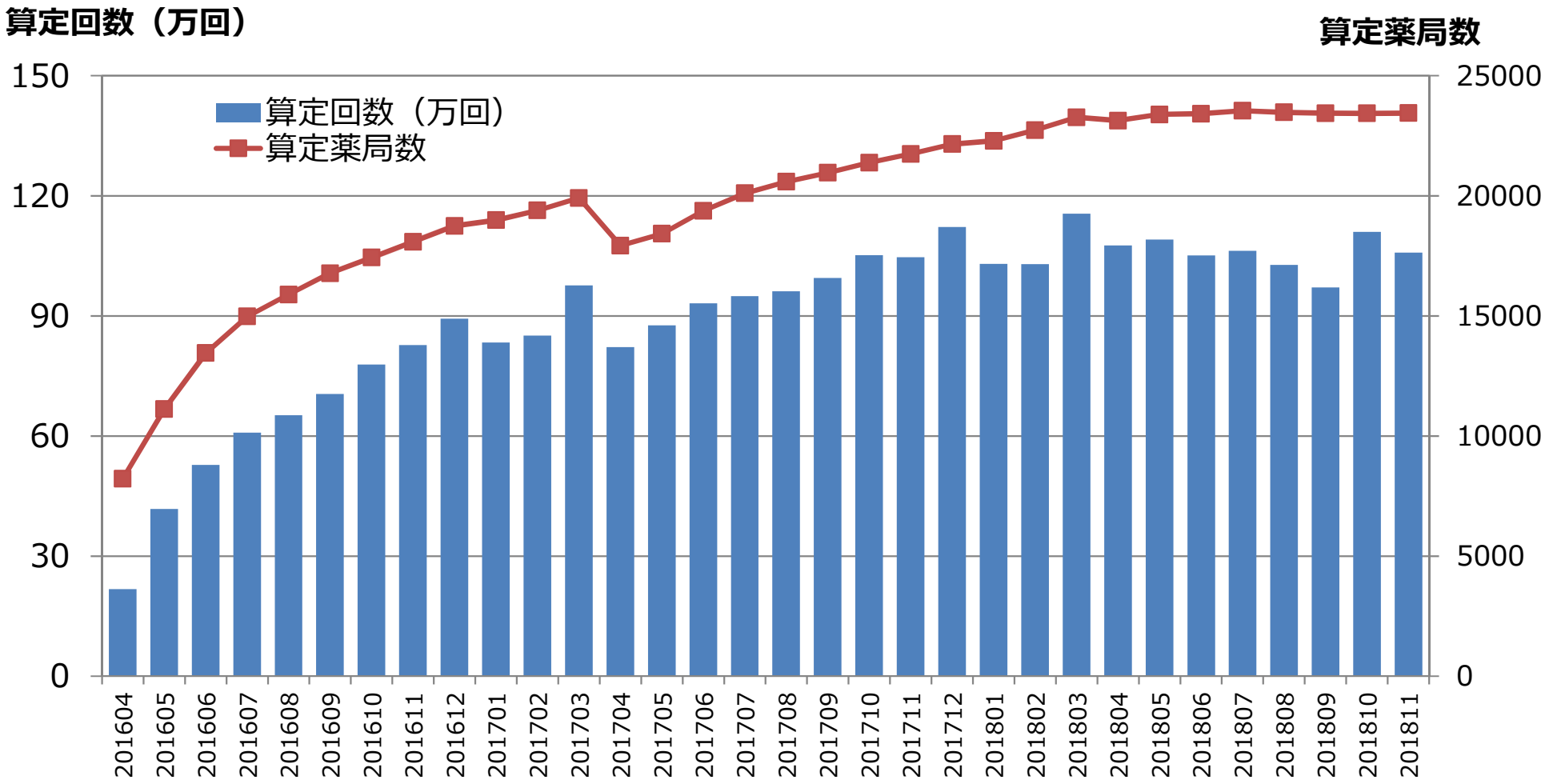
① 患者が選択した保険薬剤師が患者の同意を得た上で、同意を得た後の次の来局時以降に算定できる。
② 同意については、当該患者の署名付きの同意書を作成した上で保管し、その旨を薬剤服用歴に記載する。
③ 同意取得は、当該薬局に複数回来局している患者に行う。患者1人に対して、1人の保険薬剤師のみがかかりつけ薬剤師指導料を算定できる。かかりつけ薬剤師以外の保険薬剤師が指導等を行った場合は当該指導料を算定できない（要件を満たせば、薬剤服用歴管理指導料は算定できる。）。
④ 手帳等にかかりつけ薬剤師の氏名、勤務先の保険薬局の名称及び連絡先を記載する。
⑤ 担当患者に対して以下の業務を実施すること。
　ア 薬剤服用歴管理指導料に係る業務
　イ 患者が受診している全ての保険医療機関、服用薬等の情報を把握
　ウ 担当患者から24時間相談に応じる体制をとり、患者に開局時間外の連絡先を伝え、勤務表を交付（やむを得ない場合は当該薬局の別の薬剤師でも可）
　エ 調剤後も患者の服薬状況、指導等の内容を処方医に情報提供し、必要に応じて処方提案
　オ 必要に応じて患家を訪問して服用薬の整理等を実施
　カ 必要に応じ、患者の同意を得て、患者が入手している血液・生化学検査結果の情報を参考に薬学的管理及び指導を実施

[施設基準]

以下の要件を全て満たす保険薬剤師を配置していること。
(1) 以下の経験等を全て満たしていること。
　ア 施設基準の届出時点において、保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験があること。
　イ 当該保険薬局に週32時間以上（32時間以上勤務する他の保険薬剤師を届け出た保険薬局において、育児・介護休業法の規定により労働時間が短縮された場合にあっては、週 24時間以上かつ週4日以上である場合を含む。）勤務していること。
　ウ 施設基準の届出時点において、当該保険薬局に1年以上在籍していること。
(2) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得していること。
(3) 医療に係る地域活動の取組に参画していること。

かかりつけ薬剤師指導料の算定状況（2018年11月まで）

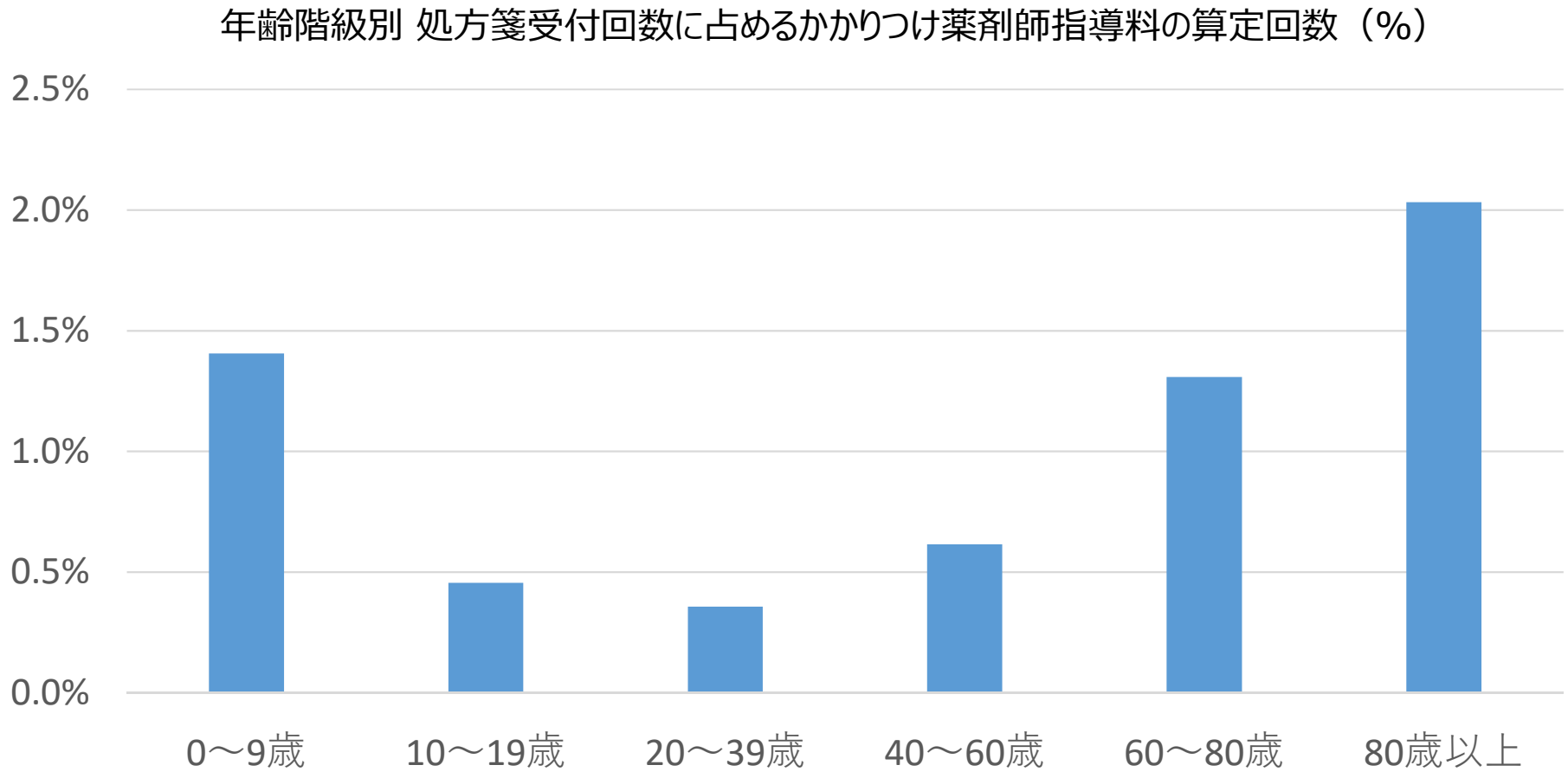
○　かかりつけ薬剤師指導料の算定回数、算定薬局数は最近は横ばい。平成30年11月の算定回数は、全処方箋枚数7,068万枚の1.50%に相当する。



〔出典〕「最近の調剤医療費（電算処理分）の動向」（厚生労働省保険局調査課）特別集計

年齢別のかかりつけ薬剤師指導料等の算定回数

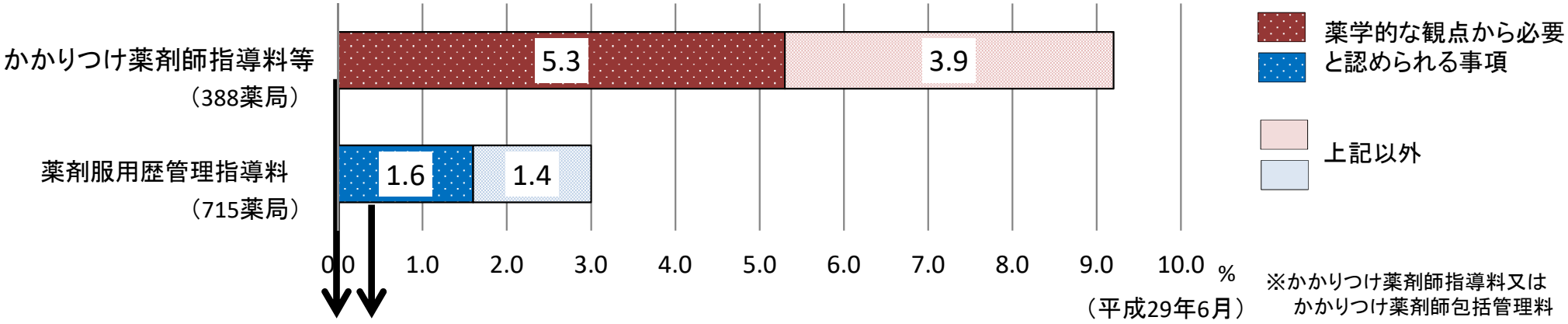
○　10歳未満、60歳以上でかかりつけ薬剤師指導料等*の算定回数の割合が多い。



出典：平成29年社会医療診療行為別統計　６月審査分
*かかりつけ薬剤指導料及びかかりつけ薬剤師包括指導料の合計

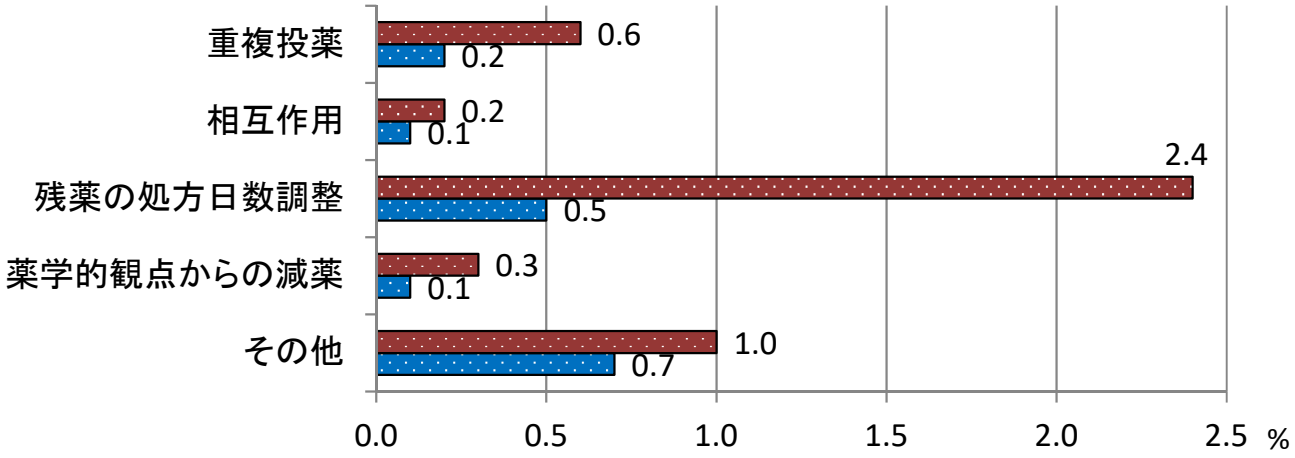
かかりつけ薬剤師とそれ以外の場合の疑義照会の取組

○　疑義照会の割合は、かかりつけ薬剤師指導料等を算定した場合で9.2%、薬剤服用歴管理指導料を算定した場合で3.0%であった。
○　疑義照会の内容別に分けても前者の方がそれぞれ高い傾向にあり、かかりつけ薬剤師の方が医師との連携が図れていることがうかがえる。

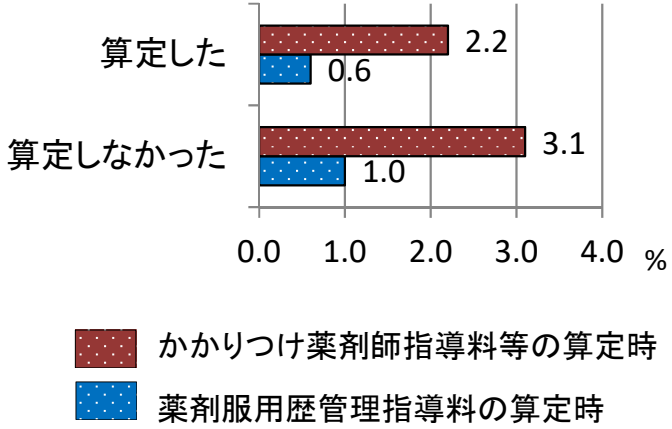


「薬学的な観点から必要と認められる事項」の内訳

● 疑義照会の内容



● 重複投薬・相互作用等防止加算の算定

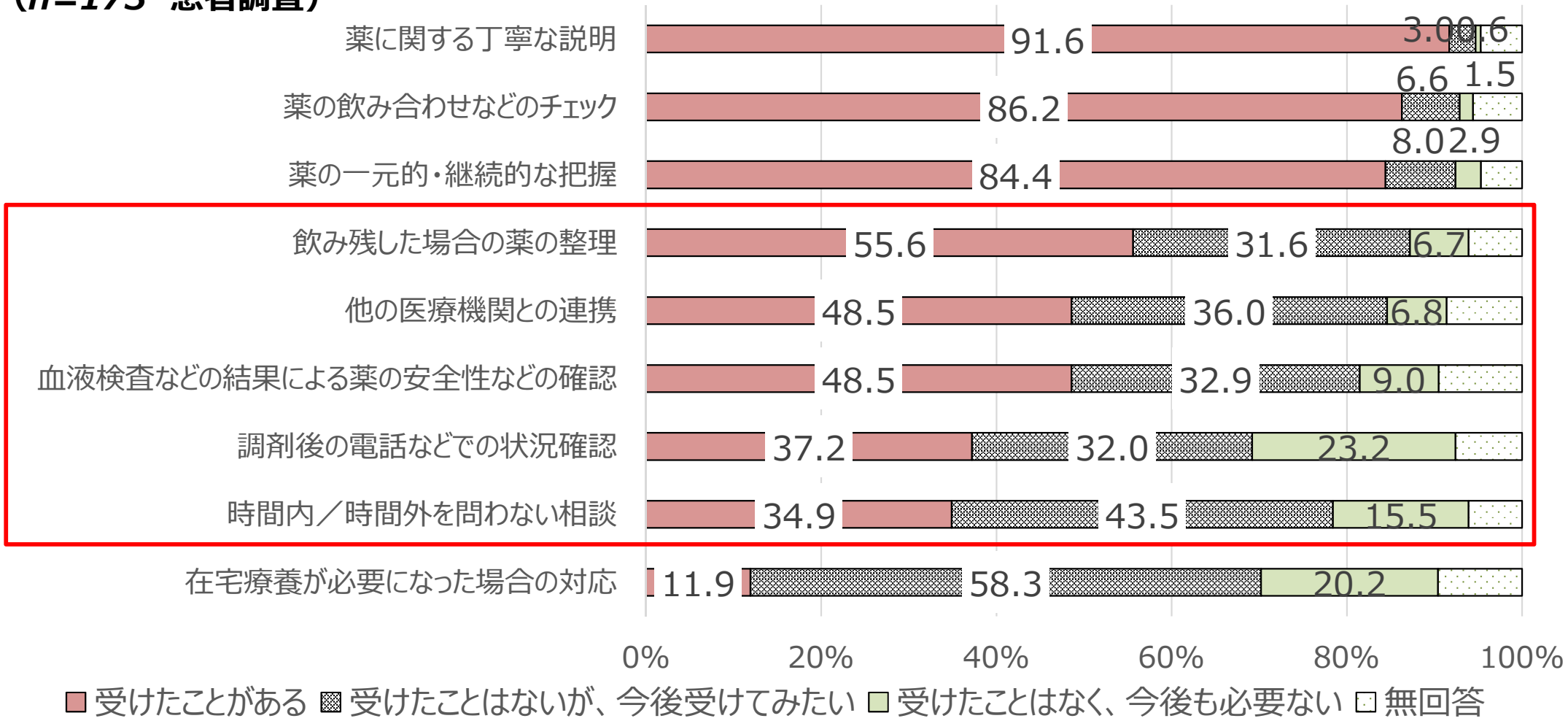


出典）診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(H29かかりつけ薬剤師調査)

かかりつけ薬剤師による薬学管理の状況等

○　かかりつけ薬剤師指導料の同意書のサインをしたことがある患者では、①残薬整理、②検査値の活用、③調剤後の電話での状況確認、④時間内／時間外を問わない相談を受けたことがあるのは４割～５割程度であり、受けたことがないが今後受けてみたいとの回答を含めると７割～８割程度であった。

かかりつけ薬剤師指導料の同意書にサインをしたことがある患者に対する薬学管理の状況等
（*n=173*　患者調査）



出典：薬局の機能に係る実態調査（平成30年度医療課委託調査）に基づき医療課が作成

お薬手帳について

意義と役割

利用者自身が、

- ①自分の服用している医薬品について把握するとともに正しく理解し、②服用した時に気付いた副作用や薬の効果等の体の変化や服用したかどうか等を記録することで、医薬品に対する意識を高める。
- 複数の医療機関を受診する際及び薬局にて調剤を行う際に、③利用者がそれぞれの医療機関の医師及び薬局の薬剤師等にお薬手帳を提示することにより、相互作用や重複投与を防ぎ、医薬品のより安全で有効な薬物療法につなげる。

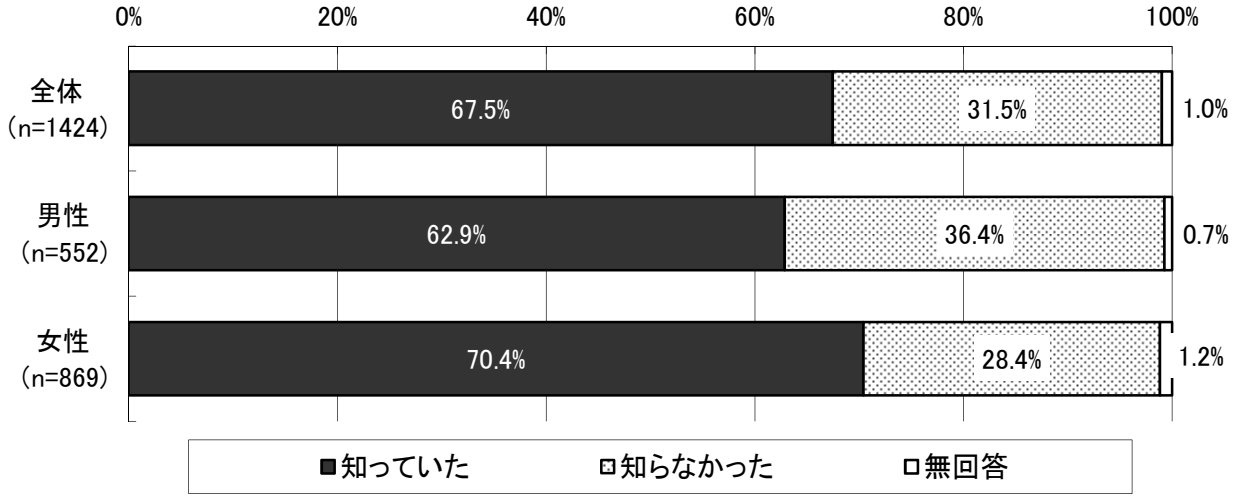
お薬手帳の取扱い（薬剤服用歴管理指導料の算定要件抜粋）

- 手帳の当該欄については、保険薬局において適切に記載されていることを確認するとともに、記載されていない場合には、患者に聴取の上記入するか、患者本人による記入を指導するなどして、手帳が有効に活用されるよう努める。
- 患者に対して、手帳を保有することの意義、役割及び利用方法等について十分な説明を行い、患者の理解を得た上で提供する。

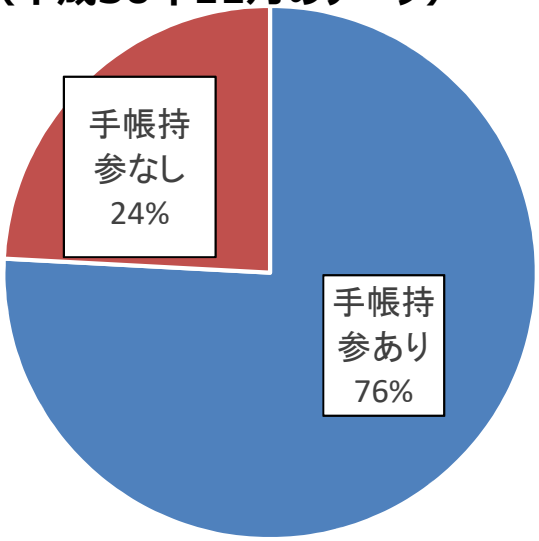
お薬手帳の活用状況

○　お薬手帳を持っていくと患者負担が少なくなることを約７割の患者が知っていた。
○　６ヶ月以内に同一薬局を再度来局した患者では、７割以上がお薬手帳を持参していた。

お薬手帳を持っていくと患者負担が少なくなることの認知状況（男女別） 1）



手帳の持参状況（６ヶ月以内に同一薬局に再度来局した患者）（平成30年11月のデータ） 2）



薬剤服用歴管理指導料

【薬剤服用歴管理指導料】
1　原則6月以内に再度処方箋を持参した患者に行った場合　41点
2　1の患者以外の患者に対して行った場合　53点
3　特別養護老人ホーム入所者に対して行った場合　41点

注1　1及び2については、患者に対して、次に掲げる指導等の全てを行った場合に、処方箋受付1回につき所定点数を算定する。ただし、手帳を持参していない患者又は区分番号00の1に掲げる調剤基本料1以外の調剤基本料を算定する保険薬局に処方箋を持参した患者に対して、次に掲げる指導等の全てを行った場合は、53点を算定する。

1）　出典：診療報酬改定の結果検証に係る特別集計（H29かかりつけ薬剤師調査）
2）　出典：「最近の調剤医療費（電算処理分）の動向」（厚生労働省保険局調査課）特別集計

患者・国民から見た医療について
かかりつけ医機能等の在り方について

【論点】

○　医療機関の機能の分担及び業務の連携の更なる推進のため、紹介状なしの大病院受診時の定額負担の在り方について、どのように考えるか。

○　医療機関間の適切な役割分担を図るため、患者・国民が求める役割等を踏まえたかかりつけ医機能の在り方について、どのように考えるか。

○　かかりつけ医機能の評価について、これまでの診療報酬改定における対応を踏まえ、専門医との連携や他職種との連携等を含め、どのように考えるか。

○　かかりつけ歯科医機能の評価について、口腔疾患の重症化予防のための継続的な管理を通じた地域住民の健康の維持・増進を図る観点から、これまでの診療報酬改定における対応を踏まえ、どのように考えるか。

○　かかりつけ薬剤師・薬局の推進について、現在の普及状況や複数の薬局を利用する患者が一定数いることなどを踏まえ、どのように考えるか。

患者にとって必要な情報提供や相談支援等の在り方について

- 患者への情報提供について
- 患者相談・支援について
- 安全・安心な医療の提供について

患者への情報提供について

○　都道府県は、医療機関及び薬局の情報を患者・国民へ提供するためのホームページを設けているが、その認知度は低い。一方で、利用者のうち、役だったと回答した者の割合は、約9割と高い

○　一部の加算や指導料等において、文書による交付・説明を要件としている

○　薬局・医療機関では、薬剤情報提供文書の他、患者向けRMP資材等が活用される場合がある

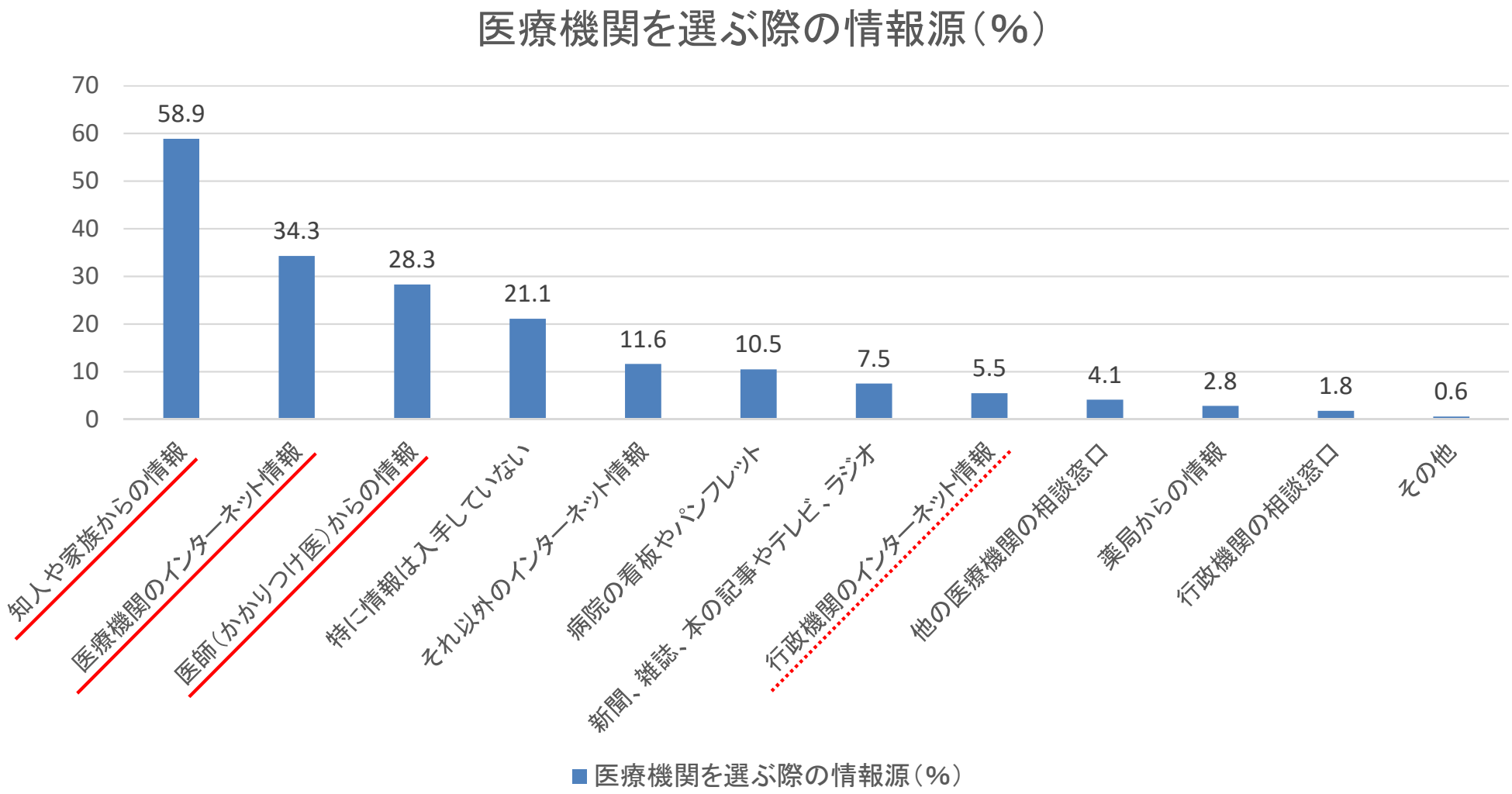
○　電子レセプト請求を行っている病院、診療所、保険薬局については、明細書の無料発行を義務づけている※

※　診療所については、正当な理由がある場合、当分の間、患者から求められたときに交付する、交付を有償で行う、交付を要さないなどの措置が設けられている

○　全ての患者に明細書を発行していない診療所数は減少傾向であり、明細書を受け取れることに関する患者の認知度も高い

医療機関を選ぶ際の情報源

(N=2875　複数回答)



出典：平成29年度厚生労働科学研究（研究代表者：福井次矢、研究課題：医療情報の適切な評価・提供及び公表等の推進に関する研究）

医療機能情報提供制度について（平成19年4月～）

医療機関等に対して、医療を受ける者が医療機関等の選択を適切に行うために必要な情報（医療機能情報）について、都道府県への報告を義務付け、都道府県がその情報を集約し、わかりやすく提供する制度

現行制度

医療機関等
- 医療機能情報を都道府県に報告
- 医療機能情報を医療機関等において閲覧に供すること（インターネット可）
- 正確かつ適切な情報の提供
- 患者等からの相談に適切に応ずること（努力義務）

→

都道府県
- 集約した情報をインターネット等でわかりやすく提供
- 医療安全支援センター等による相談対応・助言

→

住民
- インターネット上の公表システム（医療情報ネット）に必要な情報を入力すると、目的に応じた医療機関が検索可能

医療機能情報の具体例

① **管理・運営・サービス等に関する事項**（基本情報（診療科目、診療日、診療時間、病床数等）、アクセス方法、外国語対応、費用負担等）

② **提供サービスや医療連携体制に関する事項**（専門医（広告可能なもの）、保有設備、対応可能な疾患・治療内容・在宅医療・介護サービス、セカンドオピニオン対応、クリティカルパス実施、地域医療連携体制（医療機関等以外との連携含む）等）

○地域医療連携体制の項目にかかりつけ医機能を追加

平成31年3月14日（平成31年厚生労働省令第23号及び平成31年厚生労働省告示第65号）公布及び告示

かかりつけ医機能

- 地域包括診療加算
- 地域包括診療料
- 小児かかりつけ診療料
- 機能強化加算
- 日常的な医学管理と重症化予防
- 地域の医療機関等との連携
- 在宅療養支援、介護等との連携
- 適切かつわかりやすい情報の提供

③ **医療の実績、結果等に関する事項**（医療安全対策、院内感染対策、診療情報管理体制、治療結果分析の有無、患者数、平均在院日数等）

医療機関を駅からさがす

医療機関の駅および条件を検索

各項目の検索条件を選択し、[検索]ボタンをクリックしてください。

・複数の選択肢がある項目にて未選択の場合は、各項目における全ての選択肢が検索対象となります。

・「路線から駅を表示して選択」は、路線名をクリックすると、一覧表の下から駅の選択肢が表示されます。

路線から駅を表示して選択

JR東海	東海道新幹線	JR中央本線	JR飯田線	JR東海道本線	JR武豊線	JR関西本線
名古屋鉄道	名鉄名古屋本線	名鉄豊川線	名鉄西尾線	名鉄蒲郡線	名鉄三河線	名鉄豊田線
	名鉄空港線	名鉄常滑線	名鉄河和線	名鉄知多新線	名鉄築港線	名鉄瀬戸線
	名鉄津島線	名鉄尾西線	名鉄犬山線	名鉄広見線	名鉄小牧線	
名古屋市交通局	名古屋市営地下鉄東山線	名古屋市営地下鉄名城線	名古屋市営地下鉄名港線	名古屋市営地下鉄鶴舞線	名古屋市営地下鉄桜通線	名古屋市営地下鉄上飯田線
豊橋鉄道	豊橋鉄道渥美線	豊橋鉄道東田本線				
その他	近鉄名古屋線	あおなみ線	東海交通事業城北線	愛知環状鉄道線	リニモ	ゆとりーとライン

医療機関の機能、対応することができる疾患・治療内容および条件を検索

各項目の検索条件を選択し、[検索]ボタンをクリックしてください。

・複数の選択肢がある項目にて未選択の場合は、各項目における全ての選択肢が検索対象となります。

・「医療機能を選択」は、機能名をクリックすると、一覧表の下から関連する選択肢が表示されます。

・「対応することができる疾患・治療内容から選択」は、領域名をクリックすると、一覧表の下から関連する選択肢が表示されます。

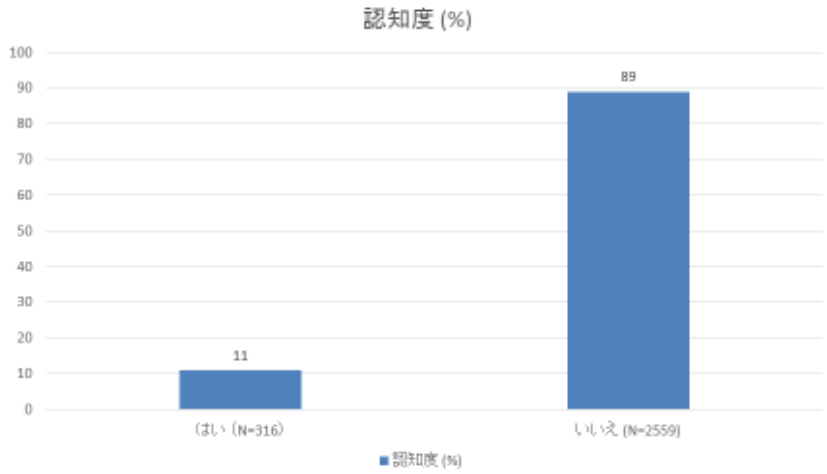
医療機能を選択

医療機関内サービス	対応することができる外国語の種類	保険医療機関、公費負担医療機関及びその他の病院の種類
専門医の種類	保有する施設設備	対応することができる短期滞在手術
専門外来の有無及び内容	健康診断及び健康相談の実施	対応することができる予防接種
対応することができる在宅医療	対応することができる介護サービス	併設している介護施設
セカンド・オピニオンに関する状況	地域医療連携体制、地域の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に対する窓口設置の有無	医療の実績、結果に関する事項

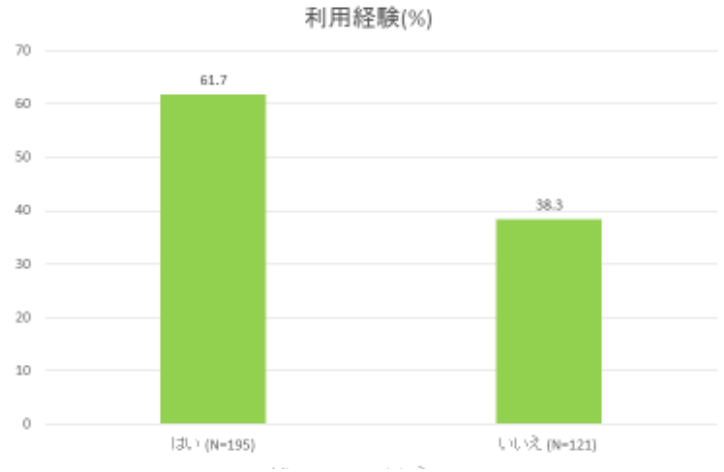
医療機能情報提供制度の利用実態

○　医療機能情報提供制度の認知度は11%。利用者のうち91%は役立ったと評価している。

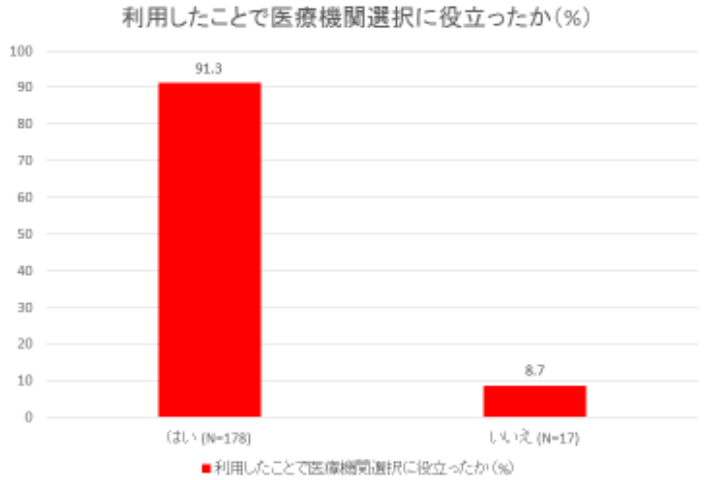
医療機関検索サイトを知っていますか？
（N=2875　単一回答）



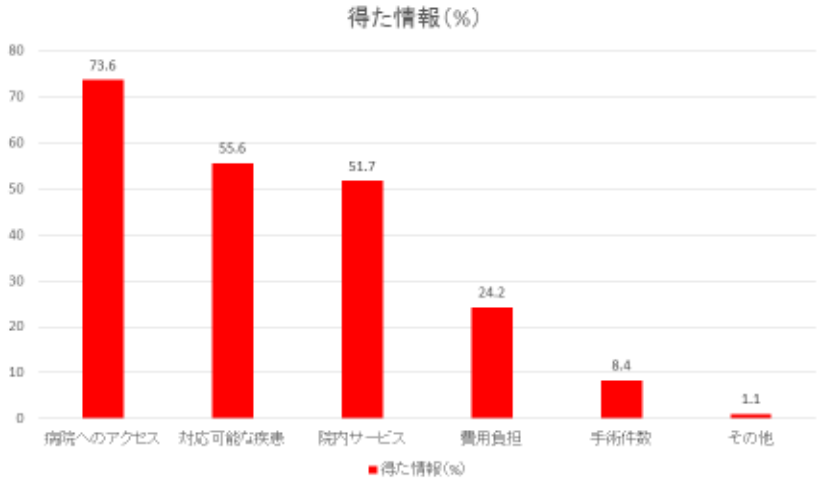
医療機関検索サイトを利用したことがありますか？
（知っている人；N=316）



医療機関検索サイトは医療機関選びに役立ったか？
（利用したことある人；N=195）



医療機関検索サイトから得た情報
（利用したことある人；N=195　複数回答）



出典：平成29年度厚生労働科学研究（研究代表者：福井次矢、研究課題：医療情報の適切な評価・提供及び公表等の推進に関する研究）

薬局機能情報提供制度の概要

平成30年6月28日
第10回医療情報の提供内容等のあり方に関する検討会　資料1－3

薬局

薬局の開設者に対し、薬局機能に関する一定の情報について、報告を義務化

都道府県

集約した情報をインターネット等でわかりやすく提供

住民

○「一定の情報」は薬局でも閲覧可能
○正確かつ適切な情報の積極的な提供を行うよう努める責務
○患者等からの相談に応ずる必要な措置

※該当条文　：　医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第八条の二

薬局機能情報提供制度における対象項目

平成30年6月28日
第10回医療情報の提供内容等のあり方に関する検討会　資料1－3

※医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則別表第一より。
　平成29年の省令改正により、情報提供項目を拡充。

第一　管理、運営、サービス等に関する事項

一　基本情報

（１）　薬局の名称
（２）　薬局開設者
（３）　薬局の管理者
（４）　薬局の所在地
（５）　電話番号及びファクシミリ番号
（６）　営業日
（７）　開店時間
（８）　開店時間外で相談できる時間

二　薬局へのアクセス

（１）　薬局までの主な利用交通手段
（２）　薬局の駐車場
　(i)　駐車場の有無
　(ii)　駐車台数
　(iii)　有料又は無料の別
（３）　ホームページアドレス
（４）　電子メールアドレス

三　薬局サービス等

（１）　健康サポート薬局である旨の表示の有無
（２）　相談に対する対応の可否
（３）　薬剤師不在時間の有無
（４）　対応することができる外国語の種類
（５）　障害者に対する配慮
（６）　車椅子の利用者に対する配慮
（７）　受動喫煙を防止するための措置

四　費用負担

（１）　医療保険及び公費負担等の取扱い
（２）　クレジットカードによる料金の支払の可否

薬局機能情報提供制度における対象項目

平成30年6月28日
第10回医療情報の提供内容等のあり方に関する検討会　資料1－3

※平成29年省令改正による追加事項を**赤字**で記載

第二　提供サービスや地域連携体制に関する事項

一　業務内容、提供サービス

（１）　認定薬剤師（中立的かつ公共性のある団体により認定され、又はそれらと同等の制度に基づいて認定された薬剤師をいう。）の種類及び人数

（２）　健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師の人数

（３）　薬局の業務内容

（ｉ）　無菌製剤処理に係る調剤の実施の可否

（ii）　一包化薬に係る調剤の実施の可否

（iii）　麻薬に係る調剤の実施の可否

（iv）　浸煎せん薬及び湯薬に係る調剤の実施の可否

（ｖ）　薬局製剤実施の可否

（vi）　医療を受ける者の居宅等において行う調剤業務の実施の可否

（vii）　薬剤服用歴管理の実施

イ　薬剤服用歴管理の実施の有無

ロ　電磁的記録による薬剤服用歴管理の実施の有無

（viii）　薬剤情報を記載するための手帳の交付

イ　薬剤情報を記載するための手帳の交付の可否

ロ　薬剤情報を電磁的記録により記載するための手帳を所持する者の対応の可否

（４）　地域医療連携体制

（ｉ）　医療連携の有無**（例：地域におけるプレアボイドの取組）**

（ii）　地域医療情報連携ネットワークへの参加の有無

（iii）　退院時の情報を共有する体制の有無

（iv）　受診勧奨に係る情報等を医療機関に提供する体制の有無

（ｖ）　地域住民への啓発活動への参加の有無

二　実績、結果等に関する事項

（１）　薬局の薬剤師数

（２）　医療安全対策の実施

（ｉ）　副作用等に係る報告の実施件数

（ii）　医療安全対策に係る事業への参加の有無

（３）　情報開示の体制

（４）　症例を検討するための会議等の開催の有無

（５）　処方せんを応需した者（以下この表において「患者」という。）の数

（６）　医療を受ける者の居宅等において行う調剤業務の実施件数

（７）　健康サポート薬局に係る研修を修了した薬剤師が地域ケア会議（行政職員をはじめとした地域の関係者から構成される会議体をいう。）その他地域包括ケアシステムのための会議に参加した回数

（８）　患者の服薬情報等を医療機関に提供した回数

（９）　患者満足度の調査

（ｉ）　患者満足度の調査の実施の有無

（ii）　患者満足度の調査結果の提供の有無

薬局機能情報提供ページ（例：東京都）

平成30年6月28日
第10回医療情報の提供内容等のあり方に関する検討会　資料1－3

かかりつけ薬局リストに登録　　閉じる

[redacted]薬局　　最終更新日 2018/05/08 13:33

〒 111-0051[redacted]

☎ （開店時間内・開店時間外）[redacted]

MAP

基本情報 | 薬局へのアクセス | 薬局サービス等 | 費用負担 | 業務内容、提供サービス | 実績、結果等に関する事項

名称 » 開設者 » 管理者 » 所在地 » 電話 » 営業日及び開店時間（対面販売） » 休業日

薬局の名称　利用される場合は直接薬局へご

フリガナ	[redacted]ヤッキョク
名称	[redacted]薬局
略称フリガナ	[redacted]ヤッキョク
略称	[redacted]薬局
ローマ字	[redacted] Ｙａｋ

薬局開設者

フリガナ	カブシキガイシャファ
開設者氏名	株式会社[redacted]

薬局の管理者

フリガナ	[redacted]
管理者氏名	[redacted]

薬局の所在地

郵便番号	111-0051
フリガナ	タイトウククラマエ４
所在地（ビル名）	台東区蔵前４丁目２１
英語表記	４－２１－９　Ｋｕｒ

地図　航空写真

アパホテル 浅草 蔵前　ホテルマイステイズ浅草　Nui. HOSTEL & BAR LOUNGE　蔵前公園　ダンデライオン ノート ファクトリー　警視庁蔵前警察署　東京都立蔵前工業高　同愛記念病院　永寿総合病院柳橋分院　都営大江戸線　隅田川緑道公園

地図データ ©2018 Google, ZENRIN　利用規約

1 薬局[redacted]
(開店時間内)[redacted]
(開店時間外)[redacted]

2 [redacted]薬局
(開店時間内)[redacted]

3 [redacted]薬局
(開店時間内)[redacted]
(開店時間外)[redacted]

4 薬局[redacted]
(開店時間内)[redacted]
(開店時間外)03-3851-4193
[redacted]

[redacted]薬局
(開店時間内)[redacted]
(開店時間外)[redacted]

文書による交付・説明を要件としている加算、指導料等

○　一部の加算や指導料等は、患者や家族への文書による説明や交付が要件となっている。
○　診療、検査や施術の必要性、危険性等について説明を行い、文書を交付する。

・主に入院中に算定

A100一般病棟入院基本料注11
A101療養病棟入院基本料
A108有床診療所入院基本料
A109有床診療所療養病床入院基本料
A206在宅患者緊急入院診療加算
A207-2医師事務作業補助体制加算
A226-2緩和ケア診療加算
A226-3有床診療所緩和ケア診療加算
A227-2精神科措置入院退院支援加算
A230-4精神科リエゾンチーム加算
A231-3重度アルコール依存症入院医療管理加算
A233-2栄養サポートチーム加算
A246入退院支援加算
A308-3地域包括ケア病棟入院料
A311精神科救急入院料
A311-4児童・思春期精神科入院医療管理料
A400短期滞在手術等基本料
B001・16喘息治療管理料
B004退院時共同指導料１
B005退院時共同指導料２
B014退院時薬剤情報管理指導料
C103在宅酸素療法指導管理料
I014医療保護入院等診療料
J001-5長期療養患者褥瘡等処置
K656-2腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
K920輸血
L100神経ブロック
M000-2放射性同位元素内用療法管理料

・調剤報酬において定められているもの

薬剤服用歴管理指導料１～３
かかりつけ薬剤師指導料
かかりつけ薬剤師包括管理料

・主に外来にて算定

A001再診料注10時間外対応加算
A001再診料注11地域包括診療加算
A001再診料注14薬剤適正使用連携加算
B001・23がん患者指導管理料
B001・24外来緩和ケア管理料
B001-2小児科外来診療料
B001-2-8外来放射線照射診療料
B001-2-9地域包括診療料
B001-2-11小児かかりつけ診療料
B001-3生活習慣病管理料
B001-3-2ニコチン依存症管理料
B001-4手術前医学管理料
B005-6がん治療連携計画策定料
B005-7認知症専門診断管理料
B005-7-3認知症サポート指導料
B005-10ハイリスク妊産婦連携指導料
B010-2診療情報連携共有料
B011-3薬剤情報提供料
B013療養費同意書交付料
在宅患者診療・指導料通則
C002在宅時医学総合管理料
C003在宅がん医療総合診療料
C005 在宅患者訪問看護・指導料
C101在宅自己注射指導管理料
D291-2小児食物アレルギー負荷検査
D291-3内服・点滴誘発試験
リハビリテーション通則
H000心大血管疾患リハビリテーション料
I008-2精神科ショート・ケア
I016精神科在宅患者支援管理料
M001体外照射
M001-4粒子線治療
第6部注射通則　外来化学療法加算

※法令に定められているもの（医療法）

入院診療計画書

・歯科点数表において定められているもの

B000-4　歯科疾患管理料に係る管理計画書（初回、継続）
B000-4　歯科疾患管理料フッ化物洗口指導加算
B000-4　歯科疾患管理料小児口腔機能管理加算
B000-4　歯科疾患管理料口腔機能管理加算
B000-5　周術期等口腔機能管理計画策定料
B000-6　周術期等口腔機能管理料(Ⅰ)
B000-7　周術期等口腔機能管理料(Ⅱ)
B000-8　周術期等口腔機能管理料（Ⅲ）
B001-2　歯科衛生実地指導料
B002　歯科特定疾患療養管理料
B004-1-3　がん患者指導管理料
B004-9　介護支援等連携指導料
B006-3　がん治療連携計画策定料
B006-3-2　がん治療連携指導料
B006-3-4　療養・就労両立支援指導料
B011-3　薬剤情報提供料
B013　新製有床義歯管理料
B013-3　広範囲顎骨支持型補綴物管理料
B014 退院時共同指導料１
B015 退院時共同指導料２
C000　歯科訪問診療料（在宅療養者以外）
C000　歯科訪問診療料　地域医療連携体制加算
C001　訪問歯科衛生指導料
C001-3　歯科疾患在宅療養管理料
F100　処方料
第6部注射通則　外来化学療法加算
G004　点滴注射　血漿成分製剤加算
G005　中心静脈注射　血漿成分製剤加算
I011-2　歯周病安定期治療（Ⅰ）
I011-2-2　歯周病安定期治療（Ⅱ）
M000-2　クラウン・ブリッジ維持管理料
M025-2　広範囲顎骨支持型補綴
N000　歯科矯正診断料
N001　顎口腔機能診断料
N002　歯科矯正管理料　※医科点数表を準用するものを除く

患者に交付する文書の様式例

○　A226-2 緩和ケア診療加算

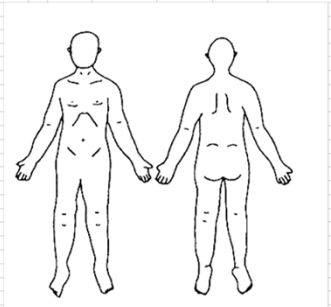
（別紙様式3）

緩和ケア実施計画書

氏名	（ふりがな）	年齢	ID
生年月日	明・大・昭・平　年　月　日	歳	
主訴			
診断	1）　5）		
	2）　6）		
	3）　7）		
	4）　8）		
現病歴	年　月　日		
既往歴	年　月　日		

身体症状

	【重症度】	【症状の性質、分布】
1. 痛み	□なし □軽 □中 □重	
2. 呼吸困難	□なし □軽 □中 □重	
3. 倦怠感	□なし □軽 □中 □重	
4. 発熱	□なし □軽 □中 □重	
5. 口渇	□なし □軽 □中 □重	
6. 咳・痰	□なし □軽 □中 □重	
7. 食欲不振	□なし □軽 □中 □重	
8. 嘔気・嘔吐	□なし □軽 □中 □重	
9. 腹部膨満感	□なし □軽 □中 □重	
10. 便秘	□なし □軽 □中 □重	
11. 尿閉、失禁	□なし □軽 □中 □重	
12. 浮腫	□なし □軽 □中 □重	
13. 栄養障害	□なし □軽 □中 □重	
14. その他（具体的に）		



身体活動状態

全般　□0. 問題なし　□1. 軽度の症状があるも、軽い労働は可能　□2. 時に介助が必要、一日の半分以上は起きている
□3. しばしば介助が必要、一日の半分以上臥床している　□4. 常に介助が必要、終日臥床している
歩行　□問題なし　□要介助　□不可　　排便　□問題なし　□ポータブル　□要介助
食事　□問題なし　□要介助　□不可　　入浴　□問題なし　□要介助　□不可

精神状態	【重症度】
1. 不安	□なし □軽 □中 □重
2. 抑うつ	□なし □軽 □中 □重
3. せん妄	□なし □軽 □中 □重
4. 不眠	□なし □軽 □中 □重
5. 眠気	□なし □軽 □中 □重
6. その他（具体的に）	

その他の問題
□家族
□経済
□仕事・趣味・交際などの活動や生きがい
□その他

本人の希望	家族の希望

治療目標（優先順に）	①	②	③

緩和治療・検査計画
□薬物療法
□精神療法（カウンセリング、リラクセーション）
□理学・作業療法
□栄養食事管理
□その他

備考

説明日　年　月　日

本人の署名	家族の署名（続柄　）
主治医	精神科医
緩和ケア医	緩和ケア担当看護師
緩和ケア担当薬剤師	（緩和ケア担当管理栄養士）

○　B001-3 生活習慣病管理料

（別紙様式9）

生活習慣病　療養計画書　初回用　（記入日：　年　月　日）

患者氏名：　（男・女）	主病：
生年月日：明・大・昭・平　年　月　日生（　才）	□糖尿病　□高血圧症　□脂質異常症

ねらい：検査結果を理解できること・自分の生活上の問題点を抽出し、目標を設定できること

【検査・問診】

【検査項目】
□身　長　（　cm）
□体　重：現在（　kg）→目標（　kg）
□BMI　（　）
□腹　囲：現在（　cm）→目標（　cm）
□栄養状態　（低栄養状態の恐れ　良好　肥満）
□収縮期／拡張期血圧：現在（　／　mmHg）
→目標（　／　mmHg）
□運動負荷心電図
□その他　（　）

【血液検査項目】（採血日　月　日）
□血糖（□空腹時　□随時　□食後（　）時間）
（　mg/dl）
□HbA1c：現在　（　%）→目標（　%）
□総コレステロール　（　mg/dl）
□中性脂肪　（　mg/dl）
□HDLコレステロール（　mg/dl）
□LDLコレステロール（　mg/dl）
□その他　（　）

【問　診】　□食事の状況　□運動の状況　□たばこ　□その他の生活
【①達成目標】：患者と相談した目標
（　）
【②行動目標】：患者と相談した目標
（　）

医師氏名	（印）

【重点を置く領域と指導項目】

□食事
□食事摂取量を適正にする　□食塩・調味料を控える
□野菜・きのこ・海藻など食物繊維の摂取を増やす　□外食の際の注意事項（　）
□油を使った料理（揚げ物や炒め物等）の摂取を減らす　□その他（　）
□節酒：〔減らす（種類・量：　を週　回）〕
□間食：〔減らす（種類・量：　を週　回）〕
□食べ方：（ゆっくり食べる・その他（　））
□食事時間：朝食、昼食、夕食を規則正しくとる
担当者の氏名　（印）

□運動
□運動処方：種類（ウォーキング・　）
時間（30分以上・　）、頻度（ほぼ毎日・週　日）
強度（息がはずむが会話が可能な強さ or 脈拍　拍/分 or　）
□日常生活の活動量増加（例：1日1万歩・　）
□運動時の注意事項など（　）
担当者の氏名　（印）

□たばこ
□非喫煙者である
□禁煙・節煙の有効性　□禁煙の実施方法等
担当者の氏名　（印）

□その他
□仕事　□余暇　□睡眠の確保（質・量）□減量
□家庭での計測（歩数、体重、血圧、腹囲等）
□その他（　）
担当者の氏名　（印）

【服薬指導】□処方なし　□薬の説明
担当者の氏名　（印）

【療養を行うにあたっての問題点】		
【他の施設の利用状況について】		
【特定健康診査の受診の有無】	□有	□無
【特定保健指導の利用の有無】	□有	□無
【保険者からの情報提供の求めに対する協力の同意】	□有	□無

※実施項目は、□にチェック、（　）内には具体的に記入
※担当者が同一の場合、すべての欄に署名する必要はない。

患者署名	
医師氏名	（印）

薬局・医療機関で患者に提供される医薬品に関する文書等①

○　薬局・医療機関では主に薬剤情報提供文書が使用されている。

薬剤情報提供文書

➢医薬品の名称、写真、効能・効果、服薬方法、副作用等が簡潔に記載された文書。

☆ 八王子　花子　様 のお薬の説明書です☆

1/1　女性

他の病院、薬局でお薬をもらうとき、または薬局でお薬をおすすめになるときはこの用紙を見せて下さい

ID No　受付番号20　調剤日 2011年7月25日

1 エムエストローチ0.25mg「明治」（青）　後発品

1回 1 錠

起床	朝	昼	夕	寝前

薬の作用：口中の炎症を抑えたり傷の感染予防をする抗菌薬のトローチです。

注意事項：●かんだり、のみこんだりせずに口の中で徐々に溶かして下さい。

記号 M-S-TROCHE-/S-OE　24回分

2 ピーエイ配合錠（白～微黄白）　後発品

1回 2 錠

起床	朝	昼	夕	寝前
	2	2	2	

1日3回朝昼夕食後

薬の作用：熱、鼻水などのかぜの症状をやわらげるお薬です。

注意事項：●眠くなることがありますので、車の運転や機械の操作は行わないようご注意下さい。★アスピリンや他の解熱鎮痛薬で喘息がでたことのある方、消化性潰瘍、緑内障、前立腺肥大、15歳未満で水痘やインフルエンザの方は通常服用できません。

記号 ZE22/ZE22Y-ZP　4日分

3 ムコスタ錠100mg（白）

1回 1 錠

起床	朝	昼	夕	寝前
	1	1	1	

1日3回朝昼夕食後

薬の作用：胃潰瘍、胃炎のお薬です。

注意事項：

記号 ムコスタ　4日分

4 ロキソニン錠60mg（極薄紅）

1回 1 錠

起床	朝	昼	夕	寝前
	1	1	1	

1日3回朝昼夕食後

薬の作用：熱を下げ、痛みをやわらげ、炎症を抑えるお薬です。

注意事項：★アスピリンや他の解熱鎮痛薬で喘息がでたことのある方、消化性潰瘍の方、妊娠末期の婦人は通常服用できません。発熱や全身倦怠感、白目が黄色くなるなどの症状がみられた場合には、ご連絡下さい。

記号 SANKYO157/157　4日分

患者さんへ　何か異常がありましたら、医師、薬剤師にご連絡下さい。

お薬は直射日光、熱、湿気をさけて保存して下さい。

担当者　じほう総合病院　〒101-0000 東京都千代田区○○ 1-1　じほう 太郎　TEL 03-3265-7765

◆上記の薬の作用は一般的なものであって、症状によっては異なる使われ方もあります。

氏名や調剤日、服薬方法等の　患者ごとの情報を記載

重大な副作用や患者に説明する必要がある重要な基本的注意等を記載

調剤した薬局・医療機関の情報を記載

・薬剤服用歴管理指導料（調剤）と薬剤情報提供料（医科）の算定要件の一つとして、それぞれ薬局薬剤師と医療機関が薬剤情報提供文書を患者に提供する、としている。

・医薬品医療機器法第９条の３第１項と同施行規則第15条の12第２項において、原則、薬局は薬剤情報を文書で提供する、としている。

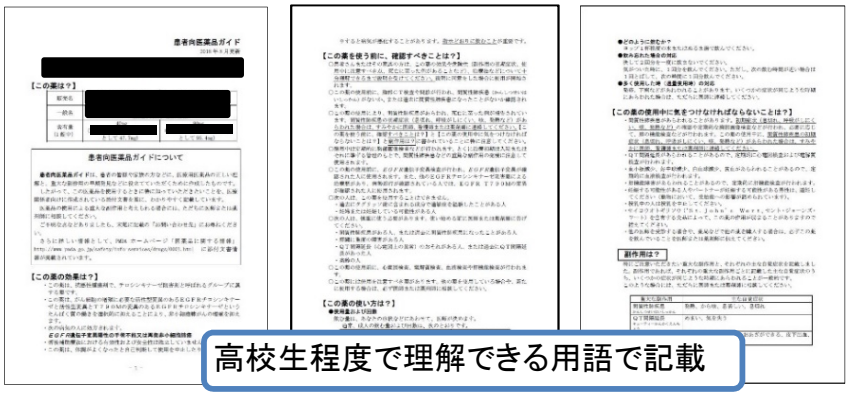
薬局・医療機関で患者に提供される医薬品等に関する文書等②

○　薬剤情報提供文書の他、患者向けRMP※資材等が活用される場合がある。

※RMP（医薬品リスク管理計画）：医薬品の副作用（リスク）等に係る検討事項及び市販後に実施する情報提供・情報収集の活動計画を一元化した文書。新医薬品や新たに安全性の懸念が判明した医薬品が作成対象。

患者向医薬品ガイド

➢ 添付文書の内容を患者向けにわかりやすい言葉で記載した文書（いわゆる「患者用添付文書」）。

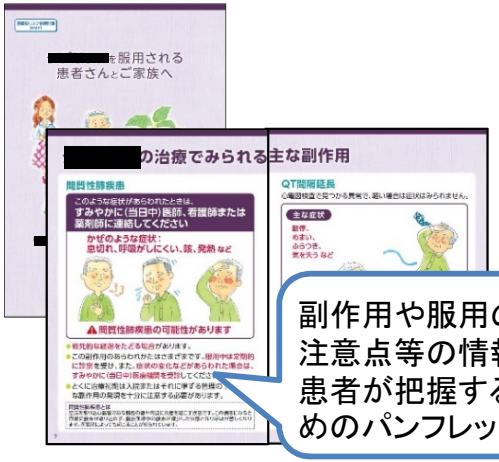


高校生程度で理解できる用語で記載

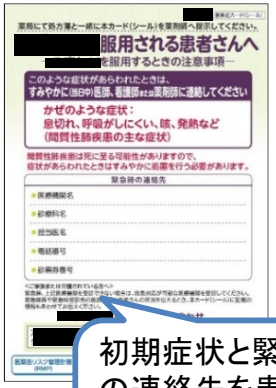
作成対象：特に患者へ注意喚起をすべき適正使用に関する情報を有する医薬品（添付文書に「警告」や「患者に説明することとされている重要な基本的注意」がある医薬品etc.）

患者向けRMP資材

➢ 添付文書等による情報提供では不足している副作用や適正使用について患者向けにわかりやすく示した資材。



副作用や服用の注意点等の情報を患者が把握するためのパンフレット



初期症状と緊急時の連絡先を患者が把握するための注意喚起カード

作成対象：RMPで医薬品の特性を踏まえて、添付文書等の他に追加で情報提供が必要と判断された医薬品

その他企業が作成する適正使用等に係る資材

➢ 上記の他に企業が適正使用等のために企業が自主的に作成した資材。

当該医薬品を服薬するために必要な検査等について説明したパンフレット

・「「患者向医薬品ガイドの作成要領」について」（平成17年6月30日薬食発第06300001号厚生労働省医薬食品局長通知）と「医薬品リスク管理計画指針について」（平成24年4月11日薬食安発0411第1号薬食審査発0411第2号）に基づき、それぞれ患者向医薬品ガイドと患者向けRMP資材は、PMDAと協議のうえ企業が作成する、としている。

明細書の無料発行の現状（平成30年4月～）

	自己負担のある患者	自己負担のない患者
病院 （電子レセプト請求を行っているものに限る）	無料発行義務あり	無料発行義務あり
診療所（医科・歯科） （電子レセプト請求を行っているものに限る）	無料発行義務あり （正当な理由※1がある場合、当分の間、患者から求められたときに交付することで足りる） （正当な理由※1がある場合、当分の間、交付を有償で行うことができる）	無料発行義務あり （正当な理由※2がある場合、当分の間、交付を要さない） （正当な理由※2がある場合、当分の間、交付を有償で行うことができる）
保険薬局 （電子レセプト請求を行っているものに限る）	無料発行義務あり	無料発行義務あり
訪問看護ST	患者から求めがあれば発行に努める	
電子レセプト請求免除（未対応）の施設※3	特に規定なし	

※１　明細書を常に交付することが困難であること、又は交付を無償で行うことが困難であることについて、以下の正当な理由がある場合（自己負担のある患者）
①明細書発行機能が付与されていないレセコンを使用している場合
②自動入金機の改修が必要な場合。

H24改正省令附則第２条

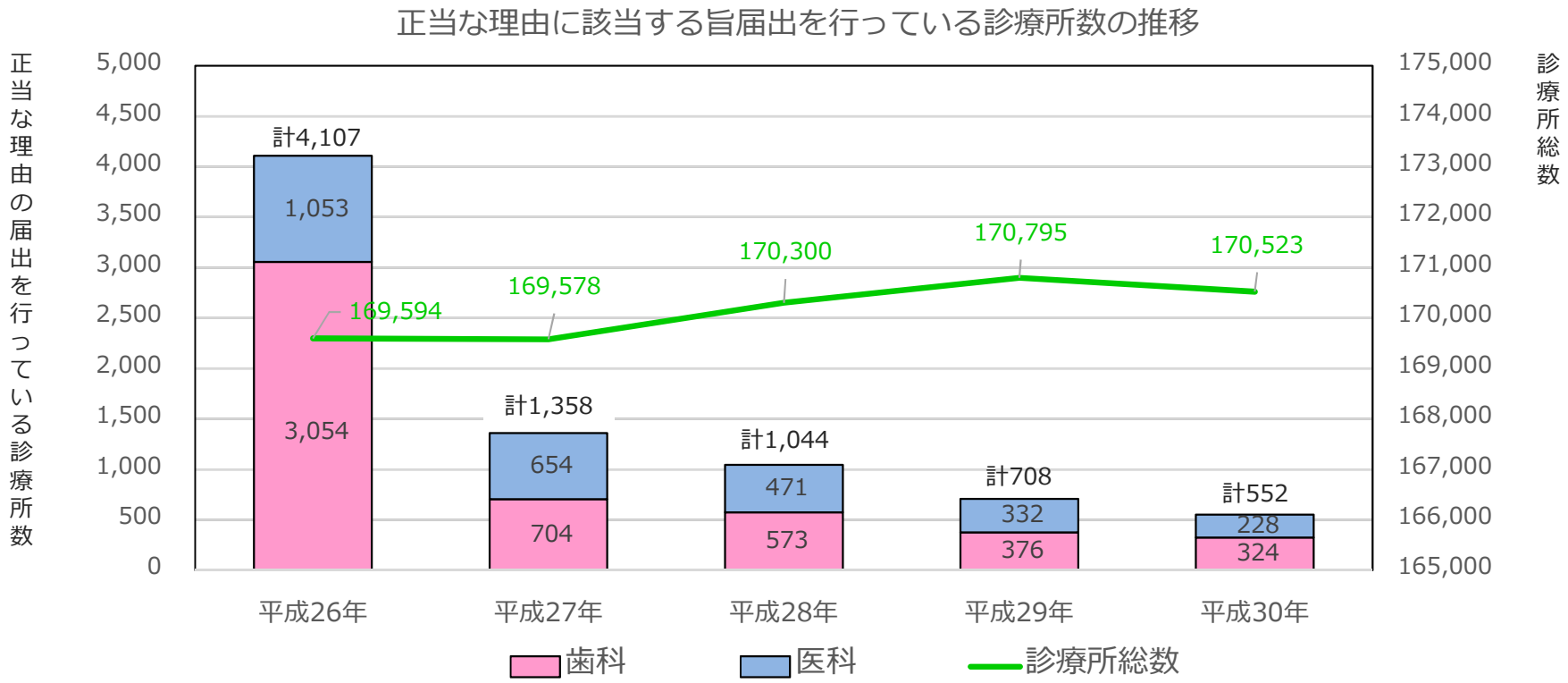
※２　明細書を常に交付することが困難であること、又は交付を無償で行うことが困難であることについて、以下の正当な理由がある場合（自己負担のない患者）
①一部負担金等の支払いがない患者に対応した明細書発行機能が付与されていないレセコンを使用している場合
②自動入金機の改修が必要な場合

H28改正省令附則第３条

※３　電子レセプト請求免除（未対応）の施設
①レセコンを使用しておらず紙レセプト請求の保険医療機関、保険薬局
②常勤の医師、歯科医師、薬剤師が以下の時点で65歳以上であった診療所、保険薬局
・　医科診療所：H22.７.１（レセコン使用の場合）、H23.４.１（紙レセプトの場合）
・　歯科診療所：H23.４.１
・　保険薬局：H21.４.１（レセコン使用の場合）、H23.４.１.（紙レセプトの場合）
未対応施設の割合（医療機関数・薬局数ベース）
【平成31年1月診療分】
総計：6.1%（医科：5.0%　歯科：11.0%　調剤：2.2%）
（社会保険診療報酬支払基金ホームページより）

「正当な理由」に該当し明細書の無料発行をしていない施設の状況

①全ての患者に明細書を発行していない診療所



②自己負担のある患者には明細書を発行しているが、自己負担のない患者には発行していない施設

正当な理由に該当する旨届出を行っている診療所数【平成30年時点数】

医科	歯科
3	5

出典：保険局医療課調べ（毎年７月現在の届出状況報告及び医療施設動態調査より）
※①及び②について、届出状況の報告書において、「明細書を無料で交付していない患者」が「全ての患者」又は「公費負担医療に係る給付により自己負担がない患者」のいずれに該当するかの記載がなかった施設の数を算入していない。

施設調査・患者調査の結果

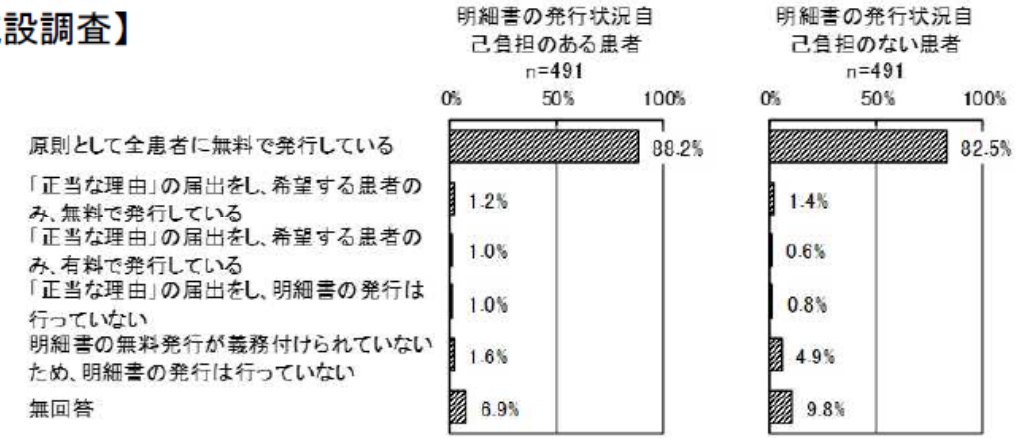
＜明細書の発行状況等＞（報告書p147,163）

診療所に対し、明細書の発行について尋ねたところ、自己負担のある患者、自己負担のない患者ともに、「原則として全患者に無料で発行している」が最も多く、それぞれ88．2%と82．5%であった。

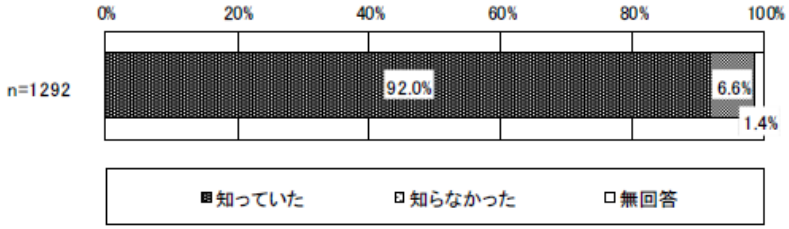
患者に対し、医療機関で明細書を受け取れることを知っていたかについて尋ねたところ、92．0%が知っていた。

また、明細書の原則無料発行に対する考えについて尋ねたところ、「必要だと思う」または「どちらかというと必要だと思う」を選択した患者は、病院で83．9%、診療所で81．5%であった。

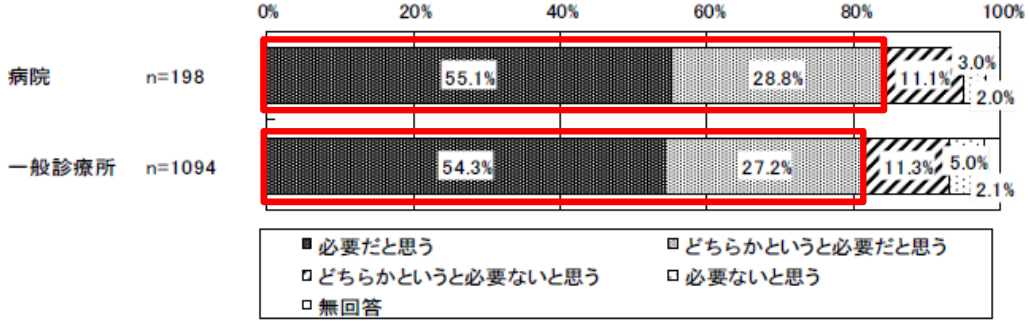
図表 224　明細書の発行状況（診療所）【施設調査】



図表 249　明細書を受け取れることの認知度【患者調査】



図表 250 明細書の原則無料発行に対する考え【患者調査】



患者相談・支援について

○　医療機関を受診した患者のうち、5割以上が医師・看護師・管理栄養士などから生活習慣上の助言や指導を受けており、特に、腎不全、糖尿病、脳血管疾患、心疾患、高血圧性疾患等の生活習慣病患者において、助言や指導を受けた者の割合が高い

○　平成24年度から、患者等からの相談に幅広く対応できる体制をとっている医療機関に対する評価を設けており、その算定件数は増加傾向

○　平成30年度診療報酬改定において、がん患者の治療と仕事の両立の推進等の観点から、療養・就労両立支援指導料等を新設

○　平成30年度診療報酬改定において、入院前からの支援の強化や、退院時の地域の関係者との連携の推進等の観点から、退院支援加算及び退院時共同指導等の評価を見直し

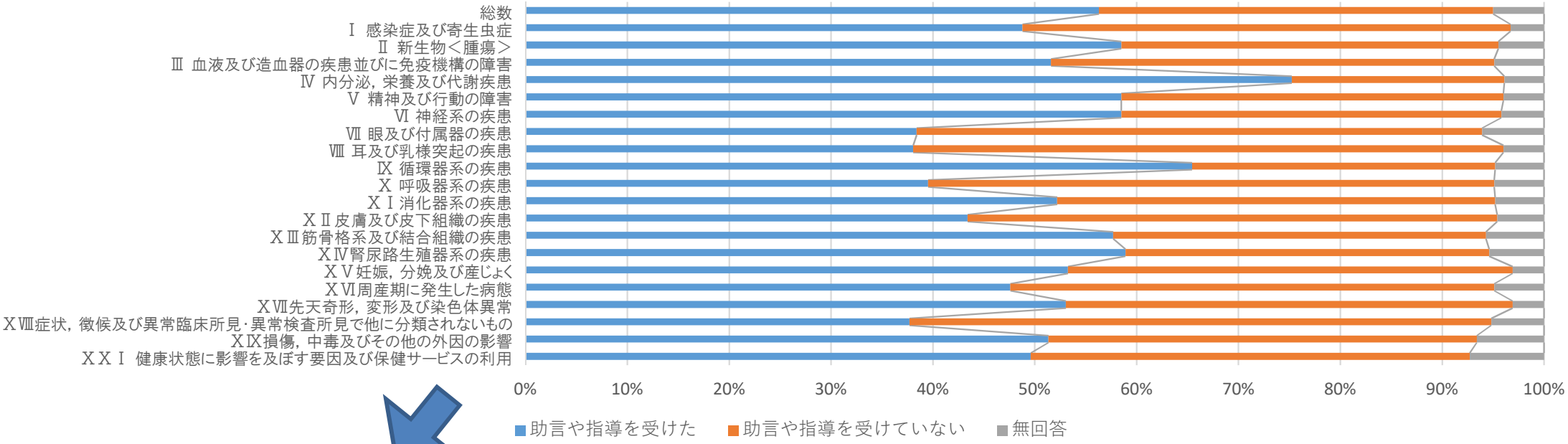
○　薬局において、病院薬剤師との連携や退院時カンファレンスへの参加ができているとの回答は少ない（病院薬剤師との連携：26%、過去１年間の退院時カンファレンスの参加：15%）。一方、主治医、ケアマネージャーとの連携はできているとの回答は比較的多い（いずれも約70%）。

傷病分類別の生活習慣上の助言や指導の有無とその内容

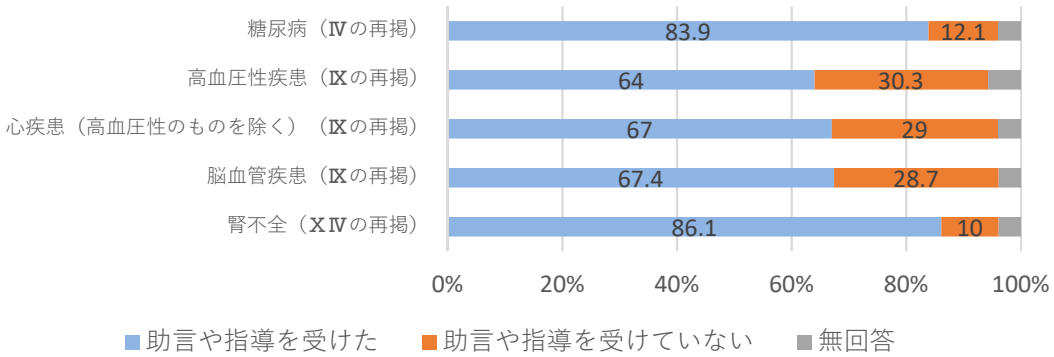
○ 医師・看護師・管理栄養士などから生活習慣上の助言や指導を受けた方は、全体の約5割、生活習慣病の方の約6～8割を占める。

○ 生活習慣病の方に対する助言や指導の内容は「栄養・食生活」「身体活動・運動」が多い。

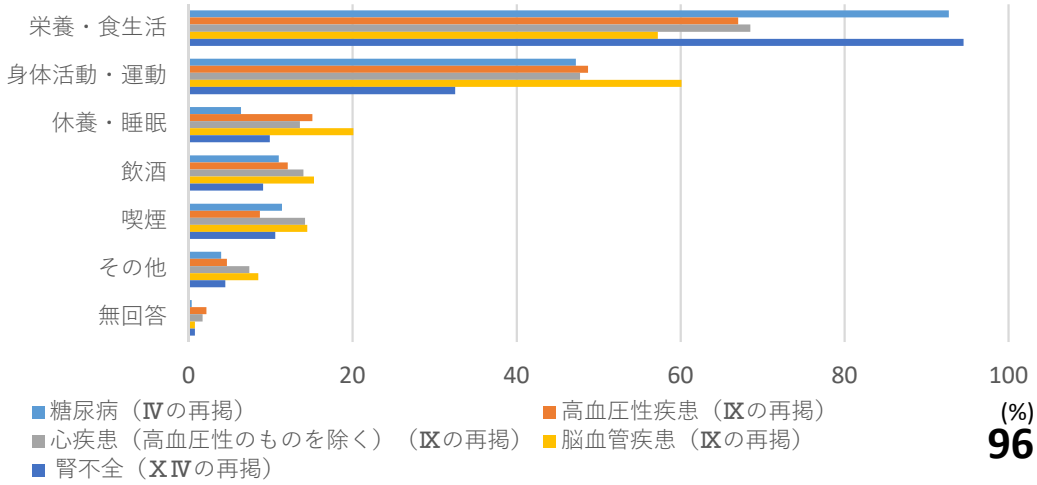
傷病分類別の医師・看護師・管理栄養士などからの生活習慣上の助言や指導の有無



主な生活習慣病（抜粋）



助言や指導の内容（複数回答）



出典：平成29年受療行動調査

患者サポート体制の評価

患者サポート体制の評価

➢ 患者等からの相談に幅広く対応できる体制をとっている医療機関に対する評価を新設し、医療従事者と患者との円滑なコミュニケーションの推進を図る。

（新） 患者サポート体制充実加算　　70点 （入院初日）

［施設基準］

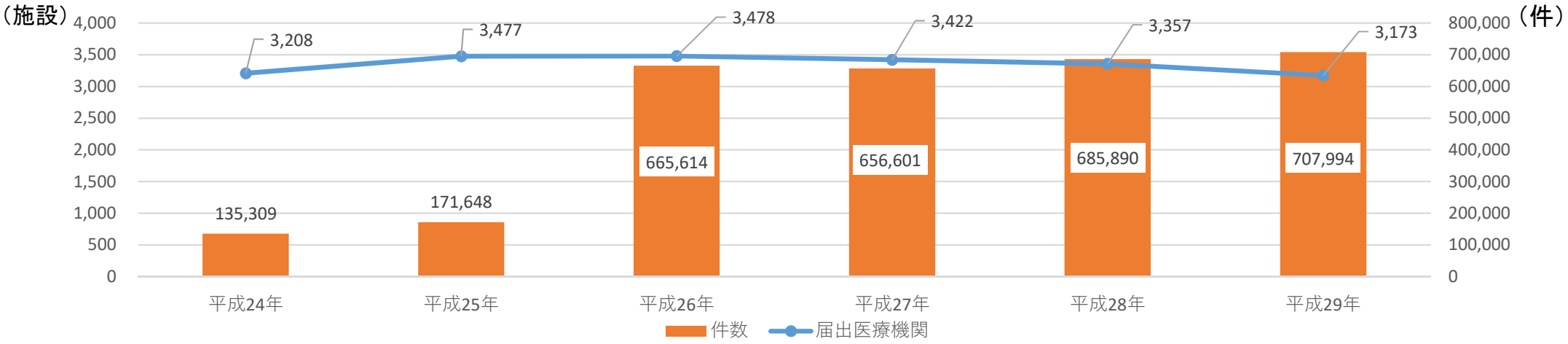
医療安全対策加算に規定する窓口と兼用可

① 患者からの相談に対する窓口を設置し、専任の看護師、社会福祉士等を配置していること。

② 患者のサポート等に関するマニュアルの作成、報告体制の整備、職員への研修等、体制の整備を実施していること。

（参考） 患者サポート体制充実加算※の届出医療機関数と算定件数の推移

※「がん拠点病院加算」を算定している場合は算定不可



出典：保険局医療課調べ（各年7月１日現在）
社会医療診療行為別統計（平成27年より）・社会医療診療行為別調査（平成26年まで）（各年６月審査分）

がん患者の治療と仕事の両立に向けた支援の充実

- がん患者の治療と仕事の両立の推進等の観点から、主治医が産業医から助言を得て、患者の就労の状況を踏まえて治療計画の見直し・再検討を行う等の医学管理を行った場合の評価を新設する。
- 専任の看護師等が、がん患者に対し、就労を含む療養環境の調整等に係る相談窓口を設置した場合の評価を設ける。

（新）

療養・就労両立支援指導料	1,000点
相談体制充実加算	500点

［算定要件］

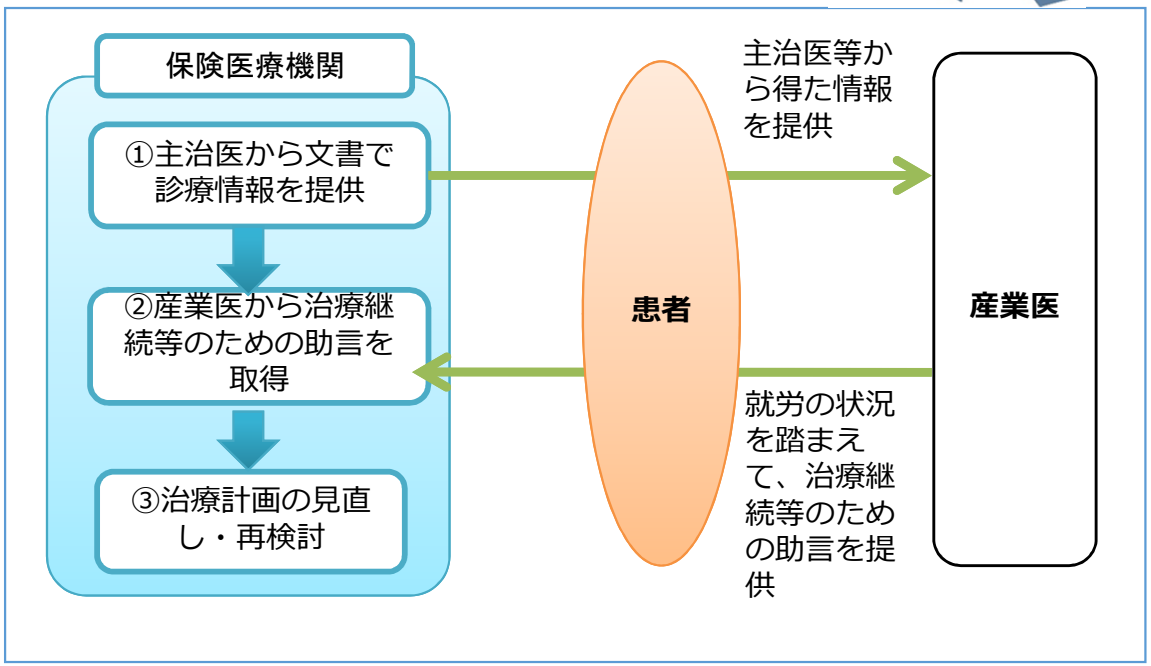
就労中のがん患者であって、入院中の患者以外のものに対し、以下の全てを行った場合に算定する。

(1) 医師が病状、治療計画、就労上必要な配慮等について、産業医あてに文書で診療情報を提供
(2) 医師又は医師の指示を受けた看護職員若しくは社会福祉士が病状や治療による状態変化等に応じた就労上の留意点に係る指導
(3) 産業医から治療継続等のための助言の取得
(4) 産業医による助言を踏まえ、医師が治療計画を見直し・再検討

［相談体制充実加算の施設基準］

(1) 療養環境の調整に係る相談窓口を設置し、専任の看護師又は社会福祉士を配置していること。
(2) 就労を含む療養環境の調整について、相談窓口等において患者からの相談に応じる体制があることを周知していること。

患者サポート体制充実加算に規定する窓口と兼用可



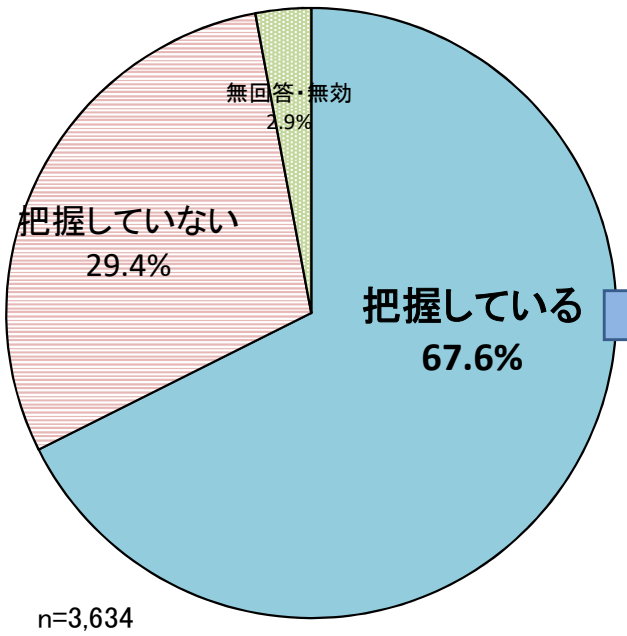
［両立支援の流れ（イメージ）］

病院の外来における在宅療養支援の状況①

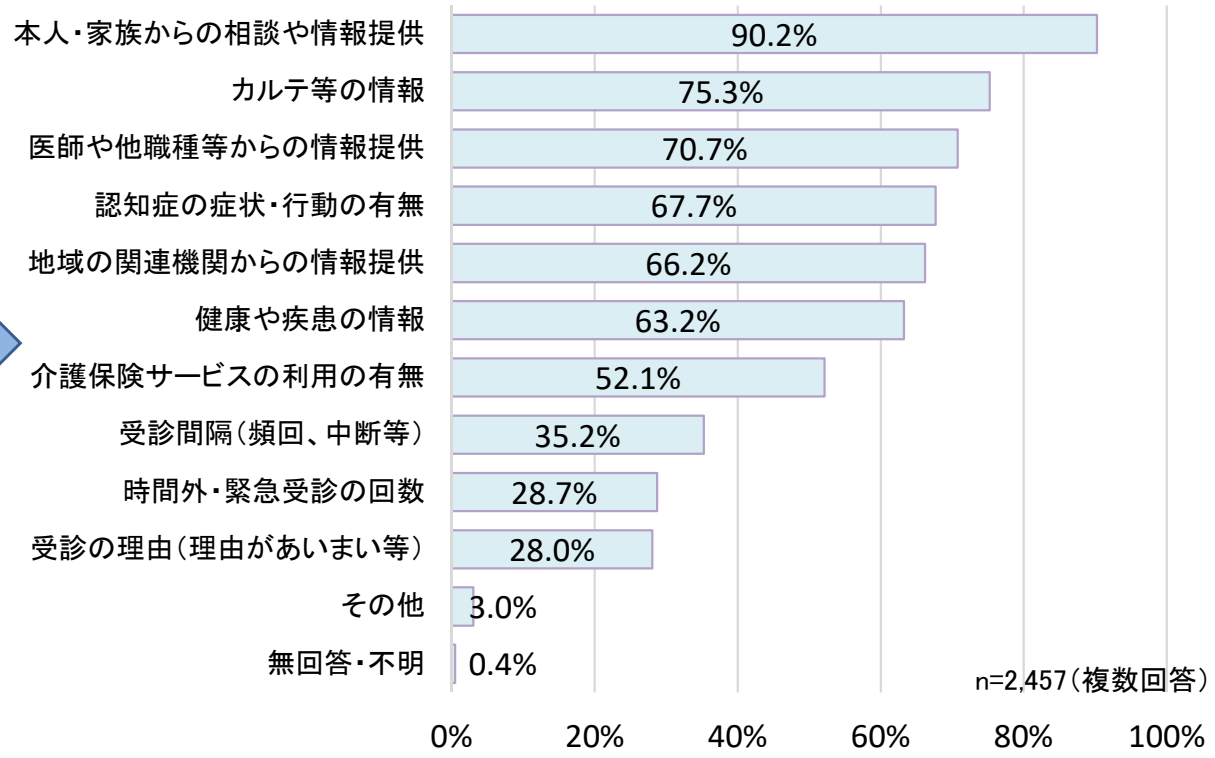
○ 外来受診者の中で、治療中の疾患以外の面も含めて地域で生活するために支援・介入が必要な患者について、6割以上の病院が患者を把握している。

○ 病院が患者を把握している場合、支援・介入の必要性の判断方法は、「本人・家族からの相談や情報提供」「カルテ等の情報」「医師や他職種等からの情報提供」の順で多い。

外来における在宅療養支援患者の把握



地域で生活するための支援・介入の必要性の判断方法



※外来における在宅療養支援患者の把握をしていると回答した者の回答

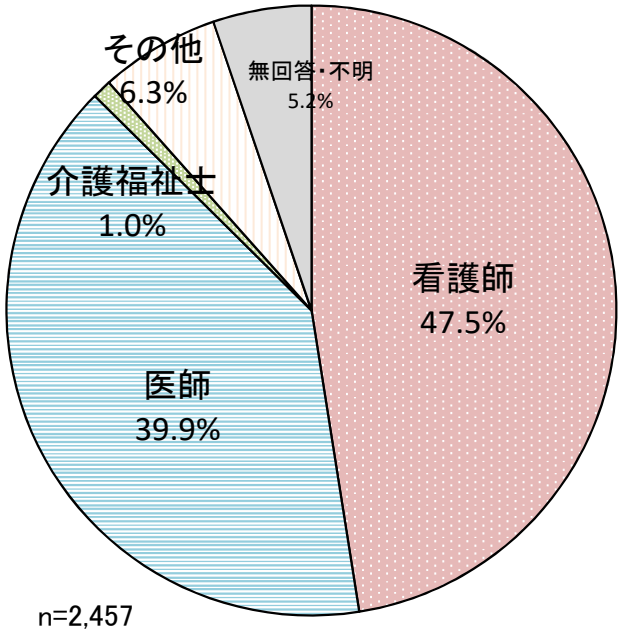
【出典】日本看護協会調査研究報告 No.49 2019, 2018年病院看護実態調査
対象：全国8,361病院の看護部長　有効回収数：3,634（有効回収率 43.5%）　調査実施日：2018年10月1～15日

病院の外来における在宅療養支援の状況②

○ 地域で生活するために支援・介入が必要な外来患者を把握するのは主に看護師及び医師である。

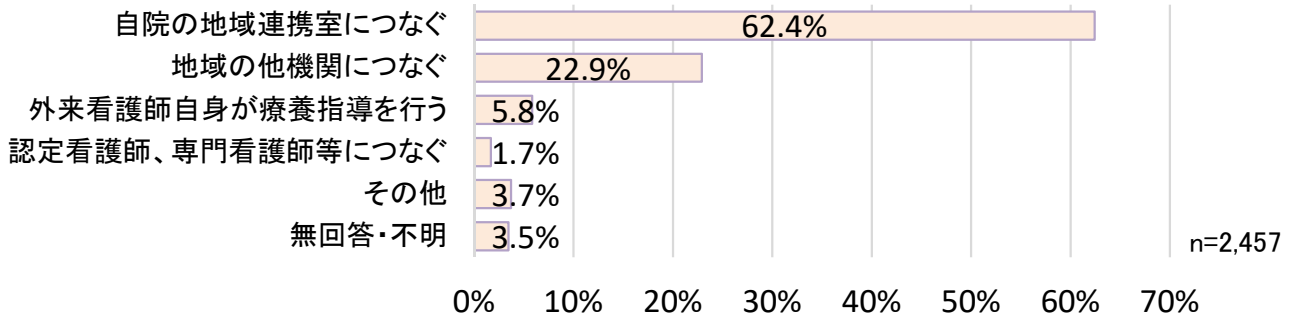
○ 患者への対応・支援方法は、「自院の地域連携室につなぐ」「地域の他機関につなぐ」等が多く、地域の他機関としては地域包括支援センターや指定居宅介護支援事業所・ケアマネジャー等が多い。

地域で生活するための支援・介入の必要性を最終的に判断する職種

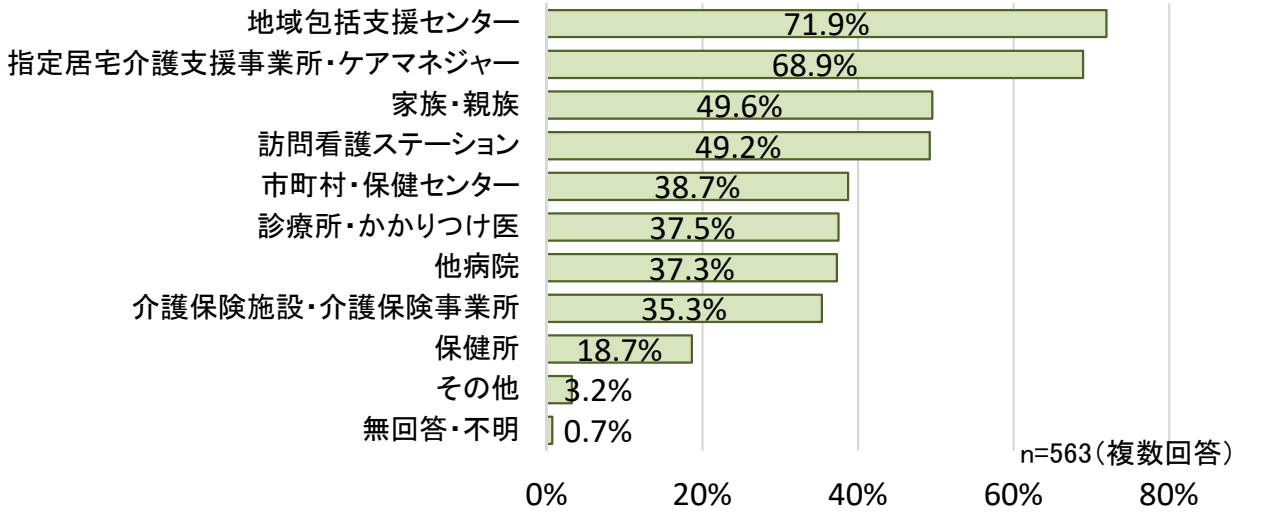


※いずれも、外来における在宅療養支援患者の把握をしていると回答した者の回答

支援・介入の必要性があると判断した患者への対応・支援



支援・介入が必要な患者をつなぐ地域の他機関



※対応・支援方法として「地域の他機関につなぐ」と回答した者の回答

【出典】日本看護協会調査研究報告 No.49 2019, 2018年病院看護実態調査
対象：全国8,361病院の看護部長　有効回収数：3,634（有効回収率 43.5%）　調査実施日：2018年10月1～15日

入退院支援の評価（イメージ）

➢ 病気になり入院しても、住み慣れた地域で継続して生活できるよう、また、入院前から関係者との連携を推進するために、入院前からの支援の強化や退院時の地域の関係者との連携を推進するなど、切れ目のない支援となるよう評価を見直す

- 入院前からの支援に対する評価の新設

- 「退院支援加算」から「入退院支援加算」に名称を変更
- 地域連携診療計画加算の算定対象の拡大
- 支援の対象となる患者要件の追加

- 退院時共同指導料の見直し

外来・在宅 → 入院 → 外来・在宅

外来部門と病棟との連携強化

入院医療機関と在宅療養を担う医療機関等との連携強化

病棟

外来部門

【入院前からの支援】
- （入院前に）利用しているサービスの利用状況の確認
- 服薬中の薬剤の確認、各種スクリーニング
- 入院生活に関するオリエンテーション
- 看護や栄養管理等に係る療養支援の計画作成　等

≪入退院支援の対象となる患者≫
- 悪性腫瘍、認知症又は誤嚥性肺炎等の急性呼吸器感染症のいずれか
- 緊急入院　／　・要介護認定が未申請
- **虐待を受けている又はその疑いがある**
- **生活困窮者**
- 入院前に比べADLが低下し、退院後の生活様式の再編が必要
- 排泄に介助を要する
- 同居者の有無に関わらず、必要な**養育又は**介護を十分に提供できる状況にない
- 退院後に医療処置が必要
- 入退院を繰り返している

在宅療養を担う関係機関等

【退院時共同指導】
- 医師、看護職員以外の医療従事者が共同指導する場合も評価対象とする

共同指導が行えなかった時は
【情報提供】
- 療養に必要な情報提供に対する評価について、自宅以外の場所に退院する患者も算定可能とする

入院前からの支援の機能強化（イメージ）

従来

外来

●治療方針の説明

入院

検査・治療

●検査・治療内容の説明
✓持参薬の確認

療養の支援

●入院生活の説明
✓患者情報（入院前のサービス利用等）の確認
✓療養上のリスクアセスメント（転倒・転落、褥瘡、認知症 等）

退院調整

✓退院支援スクリーニング

外来（地域、在宅）

治療のために一旦中止にしなければならなかった内服薬を飲んでいた、、

歩行に杖が必要な状態なのに、トイレに遠いベッドだ、、

治療が始まった直後で大変なのに、退院後の事なんか考えられない、、

入院前からの支援の機能強化

外来

入院

検査・治療

療養の支援

退院調整

外来（地域、在宅）

外来において、

・入院生活のオリエンテーション
・患者情報（入院前のサービス利用等）や服薬中の薬剤の確認
・リスクアセスメントや退院支援スクリーニング　等を事前に実施

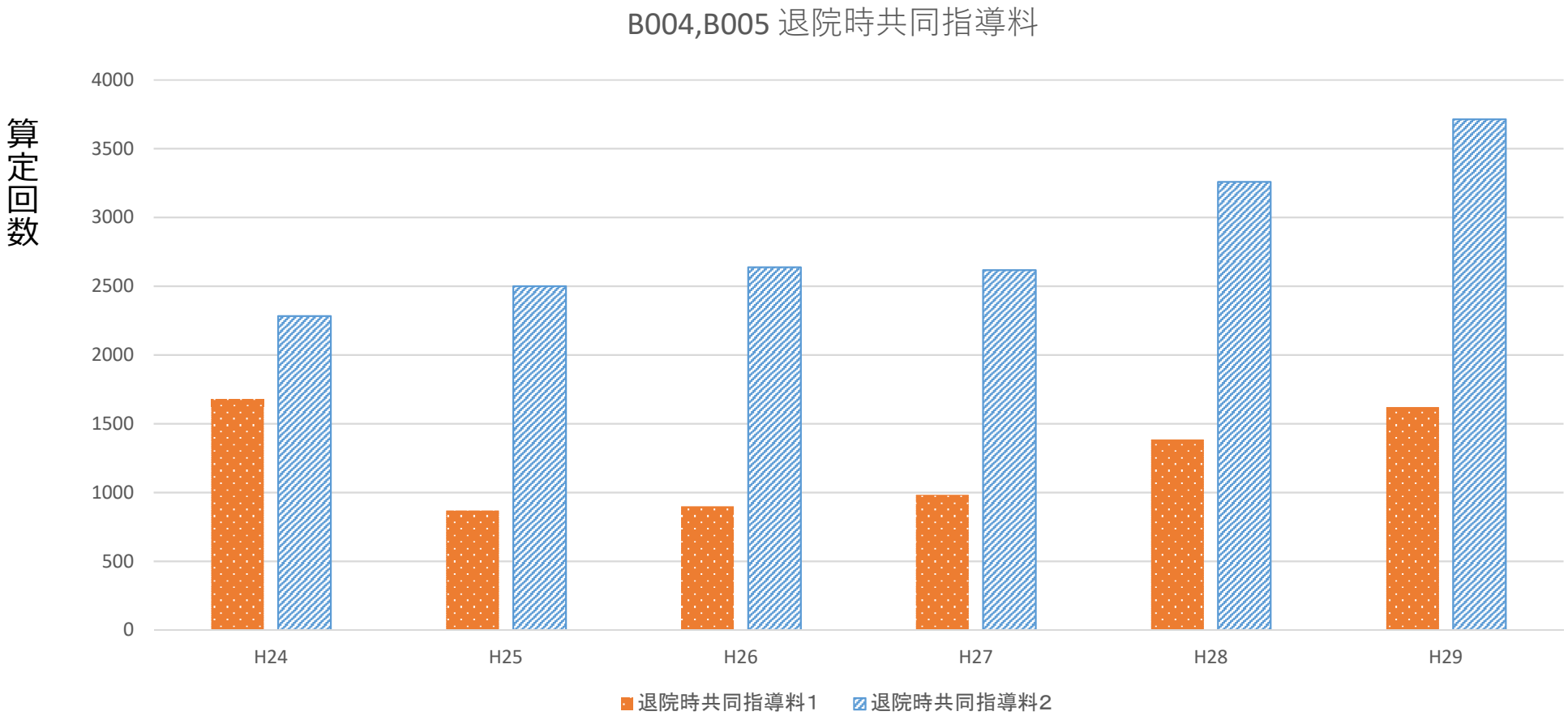
患者は、**入院生活やどのような治療過程を経るのかイメージし、準備した上で入院に臨める。**

病院は、患者個別の状況を事前にアセスメントした上で患者を受け入れられるため、円滑な入院医療の提供等につながる。

B004 退院時共同指導料

○　退院時共同指導料について、算定回数は増加傾向。

B004 1	退院時共同指導料１ 在宅療養支援診療所の場合　1,500点	保険医療機関に入院中の患者について、地域において当該患者の退院後の在宅療養を担う保険医療機関の指示を受けた医療従事者が、退院後の在宅での療養上必要な説明及び指導を、入院中の保険医療機関の医療従事者と共同で行った上で、文章により情報提供した場合に算定する。	入院中 １回
B004 2	退院時共同指導料１ 1以外の場合　900点		
B005	退院時共同指導料２　400点		



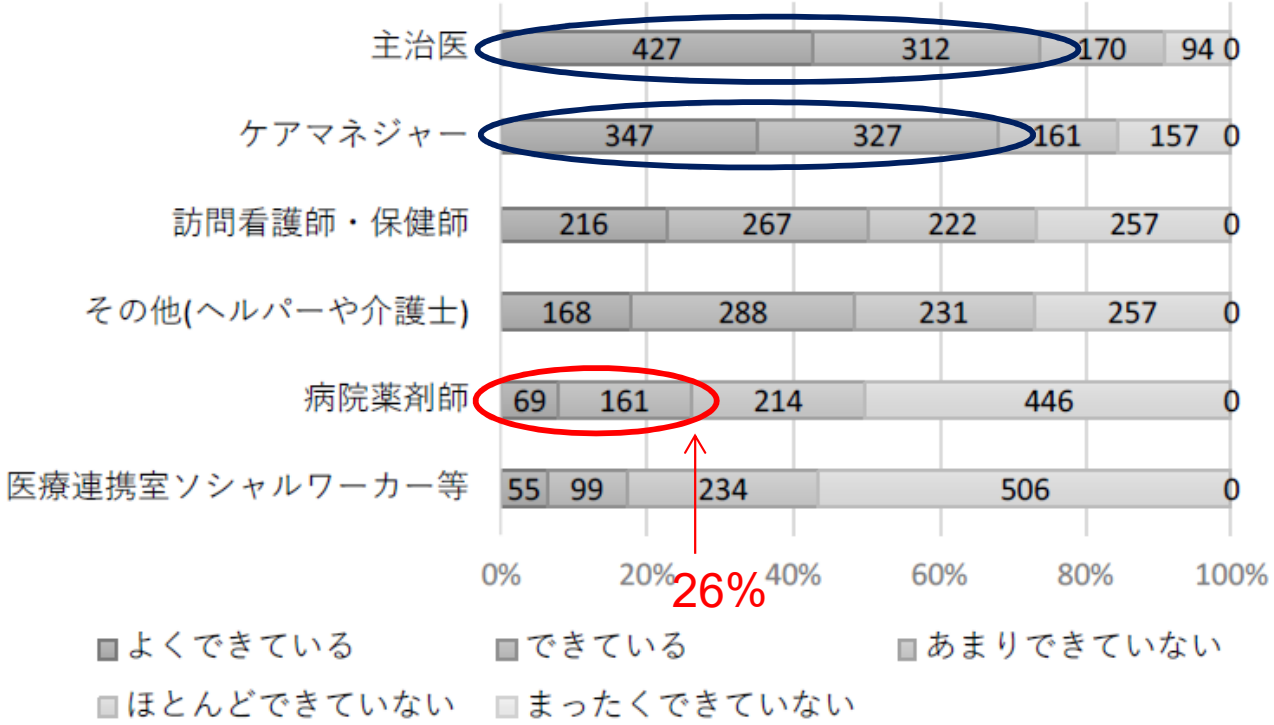
出典：社会医療診療行為別統計（平成27年より）、社会医療診療行為別調査（平成26年まで）　（各年６月審査分）

在宅訪問業務に係る薬局薬剤師と病院薬剤師の連携状況

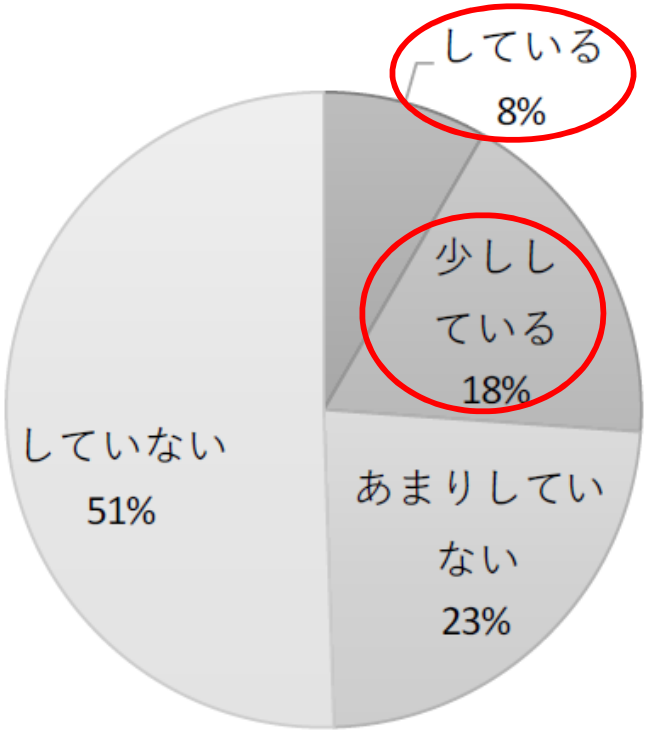
病院薬剤師との連携が「よくできている」又は「できている」薬局の割合は、26%にとどまる（主治医、ケアマネージャーとの連携はそれぞれ、74%、68%）。

病院薬剤師と在宅訪問や専門性に関して何らかの情報交換をしている薬局の割合は26%。

また、過去1年間に退院時カンファレンスに参加した薬局は15%。



地域の医療介護系多職種との連携の程度に関する薬局の割合



地域の病院薬剤師と専門性に関する情報交換をしている薬局の割合 （n=992）

出典：平成28年度厚労科研「地域のチーム医療における薬剤師の本質的な機能を明らかにする実証研究」（研究代表者 今井 博久先生）

退院時における保険医療機関と薬局の連携

退院時薬剤情報管理指導料

➢ 退院時薬剤情報管理指導料について、患者の退院時における保険医療機関から保険薬局への情報提供に関する記載について見直しを行う。

［留意事項通知（抜粋）］

（1） 退院時薬剤情報管理指導料は、医薬品の副作用や相互作用、重複投薬を防止するため、患者の入院時に、**必要に応じ保険薬局に照会するなどして**薬剤服用歴や患者が持参した医薬品等（医薬部外品及びいわゆる健康食品等を含む。）を確認するとともに、入院中に使用した主な薬剤の名称等について、患者の薬剤服用歴が経時的に管理できる手帳（区分番号「B011－3」薬剤情報提供料の（2）に掲げる手帳をいう。以下同じ。）に記載した上で、患者の退院に際して当該患者又はその家族等に対して、退院後の薬剤の服用等に関する必要な指導を行った場合に、退院の日１回に限り算定する。なお、ここでいう退院とは、第１章第２部通則5に規定する入院期間が通算される入院における退院のことをいい、入院期間が通算される再入院に係る退院日には算定できない。

（2）、（3）略

（4） 患者の退院に際して、当該患者又はその家族等に、退院後の薬剤の服用等に関する必要な指導（保険医療機関を受診する際や保険薬局に処方箋を提出する際に手帳を掲示する旨の指導を含む。）を行うとともに、退院後の療養を担う保険医療機関での投薬又は保険薬局での調剤に必要な服薬の状況及び投薬上の工夫に関する情報について、手帳に記載すること。**なお、退院後、在宅療養を必要とする患者であって、手帳にかかりつけ薬剤師の氏名が記載されている場合は、退院後の薬学的管理及び指導に関しかかりつけ薬剤師への相談を促すように努めること。**

また、入院時に当該患者が持参した医薬品の服薬状況等について保険薬局から提供を受けた場合には、患者の退院に際して、患者の同意を得たうえで、当該保険薬局に対して当該患者の入院中の使用薬剤や服薬の状況等について情報提供すること。

薬局における退院時共同指導料の算定回数の推移

○　薬局での退院時共同指導料の算定回数は増加傾向であるが、多くない。

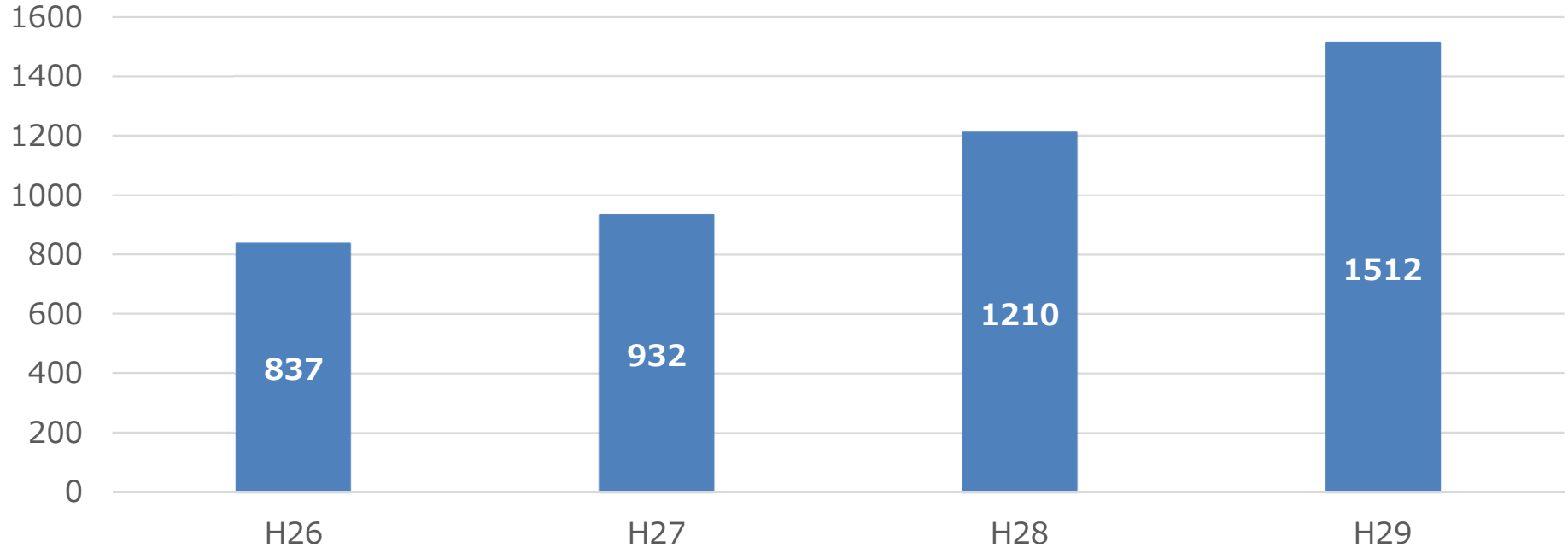
退院時共同指導料　６００点

【算定要件】

保険医療機関に入院中の患者について、当該患者の退院後の訪問薬剤管理指導を担う保険薬局として当該患者が指定する保険薬局の保険薬剤師が、当該患者の同意を得て、退院後の在宅での療養上必要な薬剤に関する説明及び指導を、入院中の保険医療機関の保険医又は保健師、助産師、看護師若しくは准看護師と共同して行った上で、文書により情報提供した場合に、当該入院中１回に限り算定する。ただし、別に厚生労働大臣が定める疾病等の患者については、当該入院中２回に限り算定できる。

※原則として、薬局の薬剤師が医療機関に赴いて行われるが、医療資源の少ない地域に属するものであって、やむを得ない事情により、医療機関に赴くことができないときは、ビデオ通話を用いて共同指導を行った場合でも算定可能である。

退院時共同指導料の算定回数（回数／年）



出典：「最近の調剤医療費（電算処理分）の動向」（厚生労働省保険局調査課）特別集計

安全・安心な医療の提供について

○　これまで、厚生労働省において、以下の医療安全施策を実施

平成13年　医療安全推進室を設置

平成14年　「医療安全推進総合対策」策定

平成15年　特定機能病院・臨床研修病院に、医療安全専任管理者・部門・患者相談窓口配置義務

平成16年　特定機能病院に、医療事故情報等の報告義務

平成19年　病院及び有床診療所に加え、無床診療所、助産所にも、医療安全管理体制整備

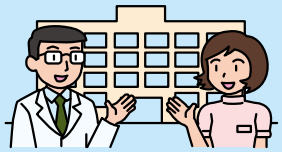
平成19年　都道府県に、医療安全支援センター設置義務

○　平成30年度診療報酬改定において、医療安全対策加算に医療安全対策地域連携加算を新設するとともに、既存の点数についての見直しを実施

これまでの厚労省における医療安全施策

平成13年 4月	厚生労働省に医療安全推進室設置、医療安全対策検討会議を開催
14年 4月	医療安全対策検討会議にて、「医療安全推進総合対策」策定
10月	病院及び有床診療所に、医療安全管理のための整備確保義務（省令改正）
15年 4月	特定機能病院・臨床研修病院に、医療安全専任管理者・部門・患者相談窓口配置義務（省令改正）
12月	「厚労大臣医療事故対策緊急アピール」：医療安全を医療政策の最重要課題のひとつ
16年10月	特定機能病院等に、医療事故情報等の報告義務（省令改正）
17年 5月	「医療安全対策検討会議」報告書（医療事故未然防止対策等）
18年 6月	第5次改正医療法公布（法改正）
19年 4月	第5次改正医療法施行（法改正） 病院及び有床診療所に加え、無床診療所、助産所にも、医療安全管理体制整備、 及び、都道府県に、医療安全支援センター設置義務　等
26年 6月	第6次改正医療法公布（法改正）
27年10月	医療事故調査制度施行（法改正）

医療事故情報報告システム



医療機関

Web報告

公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

医療事故情報

①報告義務

大学病院
国立研究開発法人
国立病院機構
特定機能病院
（276施設）

②任意参加

病院、診療所
（773施設）

事例情報
①選択項目
②記述項目
事故の内容
背景・要因
改善策

文書による問合せ
訪問調査
（任意）

運営委員会

総合評価部会
専門分析班会議
（医療安全の専門家）

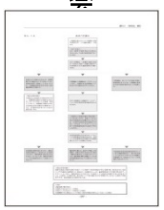
事務局

報告書・年報

医療安全情報

事例
データベース

研修
会



国　民

医療機関

関係学会・
団体

行政機関

など

ヒヤリ・ハット事例
（発生件数情報・事例情報）

任意参加

（約1,200 施設）

発生件数

事例情報

医療安全情報

画像診断報告書の確認不足（第2報）

（2018年5月）

医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業 医療安全情報

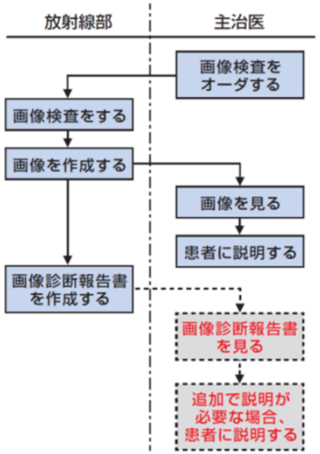
画像診断報告書の確認不足（第2報）

No.138　2018年5月

「画像診断報告書の確認不足」を医療安全情報No.63（2012年2月）で取り上げました。その後、画像診断報告書を確認しなかった事例が37件報告されていますので再度情報提供します（集計期間:2015年1月1日～2018年3月31日）。この情報は、第51回報告書「再発・類似事例の分析」の内容をもとに作成しました。

画像を確認した後、画像診断報告書を確認しなかったため、検査目的以外の所見に気付かず、治療が遅れた事例が報告されています。

画像検査の流れの一例



画像診断報告書を確認しなかった主な背景
画像で検査目的の部位を見て患者に説明した際、画像診断報告書が作成されておらず、その後見るのを忘れた
画像診断報告書を見る習慣がなかった
CT検査とMRI検査を同時期に行い、MRI検査の結果で診断が確定できたため、CT検査の画像診断報告書を見なかった
専門領域の読影に自信があり、画像診断報告書を見なかった
前年の同月の画像診断報告書を当日の報告書だと誤認した

◆37件のうち、36件がCT検査の事例です。

医療事故情報収集等事業　医療安全情報　No.138　2018年5月

画像診断報告書の確認不足（第2報）

事例1

外来診察日に肝内胆管癌術後のフォローアップでCT検査を行った。CT検査後、主治医は画像を見て患者に説明し、その後画像診断報告書の確認を忘れた。5ヶ月後、再度CT検査を行った。放射線科医師が過去のCT画像と比較しようとしたところ、5ヶ月前の画像診断報告書が未読であり、肺癌疑いと記載されていることに気付き、主治医に連絡した。

事例2

外来診察日に腎癌の精査で造影CT検査を行った。医師は外来診察中に画像を見て患者に説明し、その後画像診断報告書の確認を忘れた。患者が腎癌の手術目的で入院した際、担当医は3ヶ月前に実施した造影CT検査の画像診断報告書に肝臓に悪性腫瘍の転移が疑われ精査するよう記載されていることに気付いた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- 画像診断報告書を確認してから患者に説明する。
- 画像診断報告書が未読の場合に気付ける仕組みを構築する。

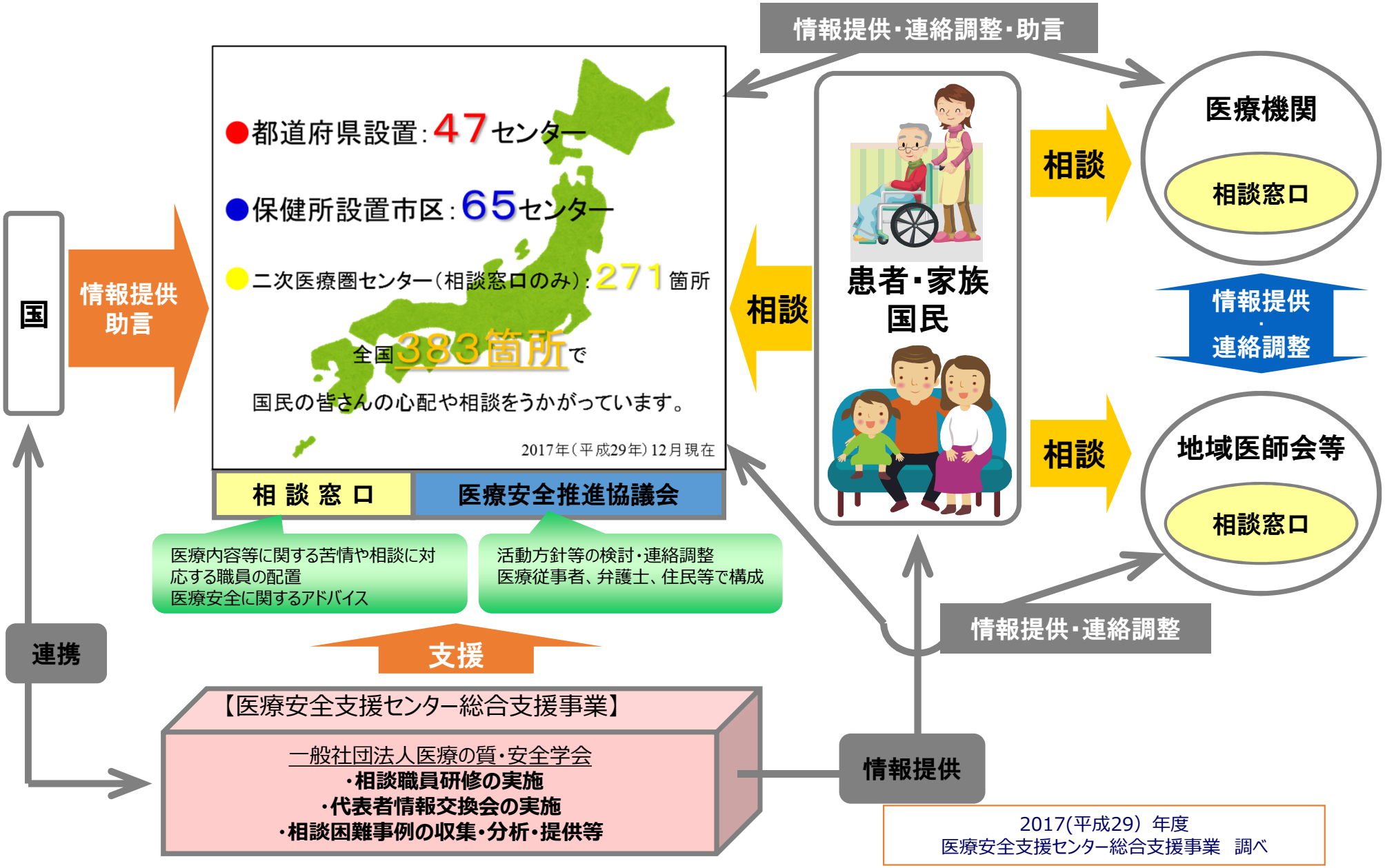
総合評価部会の意見

- 「画像検査～画像診断報告書の確認～患者への説明」の流れを整理し、業務工程を確立しましょう。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。http://www.med-safe.jp/
※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通)　FAX：03-5217-0253(直通)
http://www.med-safe.jp/

◆◆◆　医療安全支援センター体制図　◆◆◆



医療安全対策加算における医療安全対策地域連携加算の新設

➢ 医療安全対策加算に医療安全対策地域連携加算を新設するとともに、既存の点数について見直す。

医療安全対策加算

（新）　医療安全対策地域連携加算

イ　医療安全対策地域連携加算１　50点（入院初日）

ロ　医療安全対策地域連携加算２　20点（入院初日）

［施設基準］

医療安全対策地域連携加算１

(1) 特定機能病院以外の保険医療機関であること。

(2) 医療安全対策加算１の届出を行っていること。

(3) 医療安全対策に3年以上の経験を有する専任の医師又は医療安全対策に係る適切な研修を修了した専任の医師が医療安全管理部門に配置されていること。

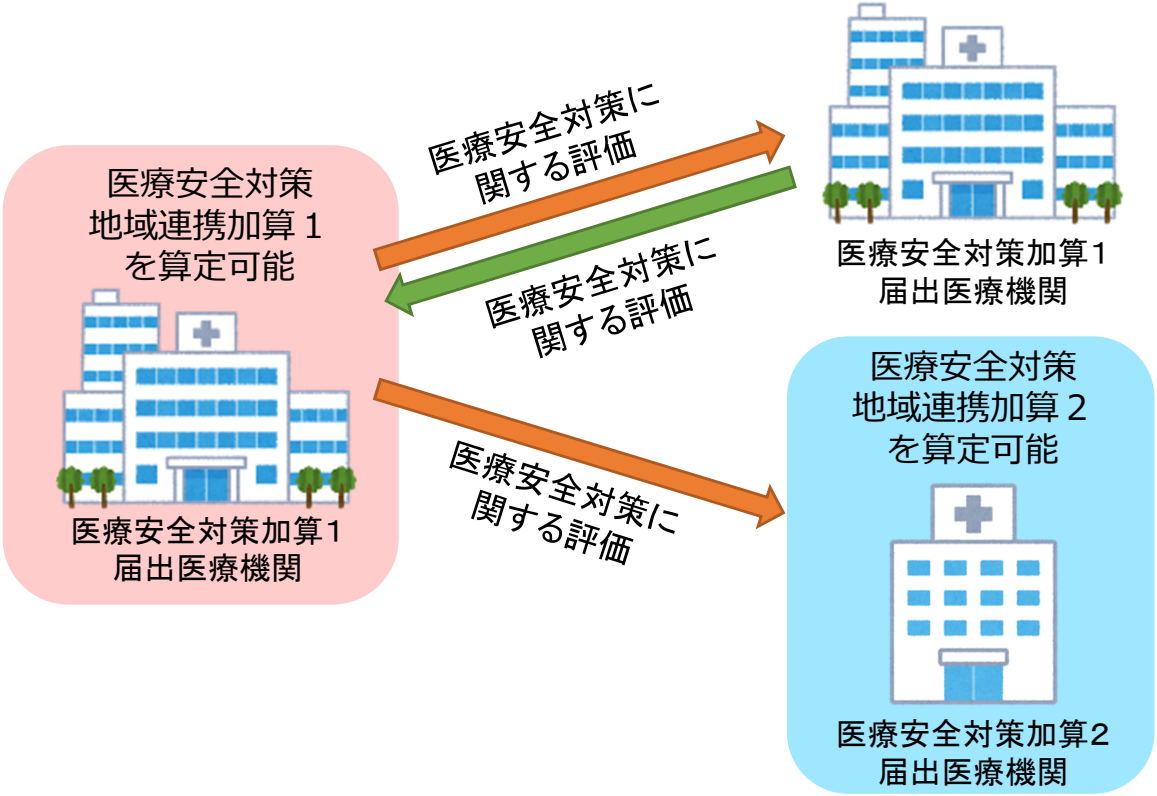
(4)医療安全対策加算１の届出医療機関及び医療安全対策加算２の届出医療機関それぞれについて医療安全対策に関して評価を実施。また、当該医療機関についても医療安全対策に関する評価を受けている。

医療安全対策地域連携加算２

(1) 特定機能病院以外の保険医療機関であること。

(2) 医療安全対策加算２の届出を行っていること。

(3) 医療安全対策加算１の届出医療機関から医療安全対策に関する評価を受けていること。



現行	
１　医療安全対策加算１	85点
２　医療安全対策加算２	35点

改定後	
１　医療安全対策加算１	85点
２　医療安全対策加算２	30点

患者にとって必要な情報提供や相談支援の在り方について

【論点】

○　患者・国民に対する、医療機関等の選択を適切に行うために必要な情報提供や、受けた医療の内容に関する情報提供の在り方について、どのように考えるか。

○　患者等からの相談に幅広く対応し、患者・国民が、それぞれの実情に応じて、住み慣れた地域で継続して生活できるような相談・支援の在り方について、どのように考えるか。

○　医療安全対策の評価に関して、平成30年度診療報酬改定における見直しを踏まえ、どのように考えるか。

中医協　総－７－１ 元　．　５　．　１５	中医協　診－１ 元　．　５　．　１５	診調組　入－１（改） ３０　．　４　．　２５

分科会の検討方針について

1. 分科会における検討について
2. 入院医療機能の評価
3. DPC/PDPSの今後の課題
4. 検討方針（案）

分科会における検討について

○　入院医療等の調査・評価分科会においては、答申書附帯意見に基づき、入院医療等の診療報酬上の評価検討にあたっての技術的課題に関し、専門的な調査及び検討を行うこととされている。

○　今後の検討のうち、主な課題について作業を行うためのグループとして、以下の2つの作業グループを設置した。
- 診療情報・指標等作業グループ
- DPC/PDPS等作業グループ

平成30年度診療報酬改定答申書附帯意見（抜粋）

1　今回改定で再編・統合した急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、療養病棟入院基本料等（救急医療に関する評価を含む。）に係る、在宅復帰・病床機能連携率、重症度、医療・看護必要度、医療区分、リハビリテーションの実績指数等の指標及び看護職員の配置の状況について調査・検証するとともに、特定機能病院入院基本料等のその他の病棟の評価体系も含めた、入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること。

3　調整係数の機能評価係数Ⅱへの置換え完了等を踏まえ、DPC制度以外の入院医療とともに、DPC制度の適切かつ安定的な運用について、引き続き推進すること。

9　介護保険制度における介護療養型医療施設及び老人性認知症疾患療養病棟の見直し、介護医療院の創設等の方向性を踏まえつつ、
①　医療と介護が適切に連携した患者が望む場所での看取りの実現、
②　維持期・生活期のリハビリテーションの介護保険への移行等を踏まえ、切れ目のないリハビリテーションの推進、
③　有床診療所をはじめとする地域包括ケアを担う医療機関・訪問看護ステーションと、居宅介護支援専門員や介護保険施設等の関係者・関係機関との連携の推進
に資する評価の在り方について引き続き検討すること。

各作業グループの作業内容

平成30年7月18日中医協資料　総4-3より

●　診療情報・指標等作業グループ

1）診療実績データの分析に関する事項
- 診療実績データ（DPCデータ）等を活用し、医療内容の評価指標や指標測定のための手法等に関する調査研究・分析

2）データの利活用の在り方に関する事項
- 診療実績データを提出する病棟の種類が拡大したことを踏まえたDPC退院患者調査における報告内容について

3）その他、データ提出に係る診療情報や指標に関する事項

●　DPC/PDPS等作業グループ

1） DPC/PDPSの運用に関する事項
- 医療機関別係数のフォローアップについて
- DPC/PDPSの対象病院の要件について

2） DPC退院患者調査に関する事項
- DPC退院患者調査における報告内容について
- 病院情報の公表の取組について

3）その他DPC/PDPSに関する事項

1. 分科会における検討について
2. 入院医療機能の評価
3. DPC/PDPSの今後の課題
4. 検討方針（案）

入院医療機能の評価指標の現状

○ 入院医療機能については、現在、在宅復帰・病床機能連携率、重症度、医療・看護必要度、医療区分、リハビリテーションの実績指数、平均在院日数等の、複数の指標で評価を行っている。

○ 重症度、医療・看護必要度等の、入院患者の医療・看護の必要性に係る指標については、入院料に応じて異なる指標を用いており、これまでも診療報酬改定において、入院料ごとに指標の項目や判定基準、評価方法等の見直しを行ってきた。

○ 平成30年度診療報酬改定においては、重症度、医療・看護必要度の評価基準や医療区分の判定方法の見直し、回復期リハビリテーション病棟の評価体系に実績評価を組み込むこと等を行った。

一般病棟用の「重症度、医療・看護必要度」の見直し（評価票について）

➢ 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票

A	モニタリング及び処置等	0点	1点	2点
1	創傷処置 （①創傷の処置（褥瘡の処置を除く）、②褥瘡の処置）	なし	あり	－
2	呼吸ケア（喀痰吸引のみの場合を除く）	なし	あり	－
3	点滴ライン同時3本以上の管理	なし	あり	－
4	心電図モニターの管理	なし	あり	－
5	シリンジポンプの管理	なし	あり	－
6	輸血や血液製剤の管理	なし	あり	－
7	専門的な治療・処置 （① 抗悪性腫瘍剤の使用（注射剤のみ）、 ② 抗悪性腫瘍剤の内服の管理、 ③ 麻薬の使用（注射剤のみ）、 ④ 麻薬の内服、貼付、坐剤の管理、 ⑤ 放射線治療、⑥ 免疫抑制剤の管理、 ⑦ 昇圧剤の使用（注射剤のみ）、 ⑧ 抗不整脈剤の使用（注射剤のみ）、 ⑨ 抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用、 ⑩ドレナージの管理、⑪ 無菌治療室での治療）	なし	－	あり
8	救急搬送後の入院（2日間）	なし	－	あり

B	患者の状況等	0点	1点	2点
9	寝返り	できる	何かにつかまればできる	できない
10	移乗	介助なし	一部介助	全介助
11	口腔清潔	介助なし	介助あり	－
12	食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
13	衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
14	診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ	－
15	危険行動	ない	－	ある

C	手術等の医学的状況	0点	1点
16	開頭手術（7日間）	なし	あり
17	開胸手術（7日間）	なし	あり
18	開腹手術（4日間）	なし	あり
19	骨の手術（5日間）	なし	あり
20	胸腔鏡・腹腔鏡手術（3日間）	なし	あり
21	全身麻酔・脊椎麻酔の手術（2日間）	なし	あり
22	救命等に係る内科的治療（2日間） （①経皮的血管内治療 ②経皮的心筋焼灼術等の治療 ③侵襲的な消化器治療）	なし	あり

[各入院料・加算における該当患者の基準]

対象入院料・加算	基準
一般病棟用の重症度、医療・看護必要度	・A得点2点以上かつB得点3点以上 ・「B14」又は「B15」に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上 ・A得点3点以上 ・C得点1点以上
総合入院体制加算	・「B14」又は「B15」に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上 ・A得点2点以上 ・C得点1点以上
地域包括ケア病棟入院料（地域包括ケア入院医療管理料を算定する場合も含む）	・A得点1点以上 ・C得点1点以上

療養病棟入院基本料について

療養病棟入院基本料 1

【施設基準】
①看護配置：20：1以上 ②医療区分2・3の患者が8割以上

	医療区分3	医療区分2	医療区分1
ADL区分3	1，810点	1，412点	967点
ADL区分2	1，755点	1，384点	919点
ADL区分1	1，468点	1，230点	814点

※特別入院基本料 576点（生活療養を受ける場合 562点）

療養病棟入院基本料 2

【施設基準】
①看護配置25：1以上 ②医療区分2・3の患者が5割以上

	医療区分3	医療区分2	医療区分1
ADL区分3	1，745点	1，347点	902点
ADL区分2	1，691点	1，320点	854点
ADL区分1	1，403点	1，165点	750点

医療区分

医療区分3	【疾患・状態】 ・スモン ・医師及び看護師により、常時監視・管理を実施している状態 【医療処置】 ・24時間持続点滴 ・中心静脈栄養 ・人工呼吸器使用 ・ドレーン法 ・胸腹腔洗浄 ・発熱を伴う場合の気管切開、気管内挿管 ・感染隔離室における管理 ・酸素療法（常時流量3L/分以上を必要とする状態等）
医療区分2	【疾患・状態】 ・筋ジストロフィー ・多発性硬化症 ・筋萎縮性側索硬化症 ・パーキンソン病関連疾患 ・その他の難病（スモンを除く） ・脊髄損傷（頸髄損傷） ・慢性閉塞性肺疾患（COPD） ・疼痛コントロールが必要な悪性腫瘍 ・肺炎 ・尿路感染症 ・リハビリテーションが必要な疾患が発症してから30日以内 ・脱水かつ発熱を伴う状態 ・体内出血 ・頻回の嘔吐かつ発熱を伴う状態 ・褥瘡 ・末梢循環障害による下肢末端開放創 ・せん妄 ・うつ状態 ・暴行が毎日みられる状態（原因・治療方針を医師を含め検討） 【医療処置】 ・透析 ・発熱又は嘔吐を伴う場合の経腸栄養 ・喀痰吸引（1日8回以上） ・気管切開・気管内挿管のケア ・頻回の血糖検査 ・創傷（皮膚潰瘍 ・手術創 ・創傷処置） ・酸素療法（医療区分3に該当するもの以外のもの）
医療区分1	医療区分2・3に該当しない者

ADL区分

ADL区分3： 23点以上
ADL区分2： 11点以上～23点未満
ADL区分1： 11点未満

当日を含む過去3日間の全勤務帯における患者に対する支援のレベルについて，下記の4項目に0～6の範囲で最も近いものを記入し合計する。
新入院（転棟）の場合は，入院（転棟）後の状態について評価する。
（ 0. 自立、1. 準備のみ、2. 観察、3. 部分的援助、
4. 広範な援助、5. 最大の援助、6. 全面依存 ）

項目	支援のレベル
a ベッド上の可動性	0～6
b 移乗	0～6
c 食事	0～6
d トイレの使用	0～6
（合計点）	0～24

入院患者の評価指標の課題（案）

○　平成30年度診療報酬改定における中医協答申書附帯意見において、入院医療については「入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること」とされている。

○　次回改定に向けて、入院患者の医療・看護の必要性に係る指標については、それぞれの入院料に応じて、医療機能をより適切に評価するため、以下の検討が必要。

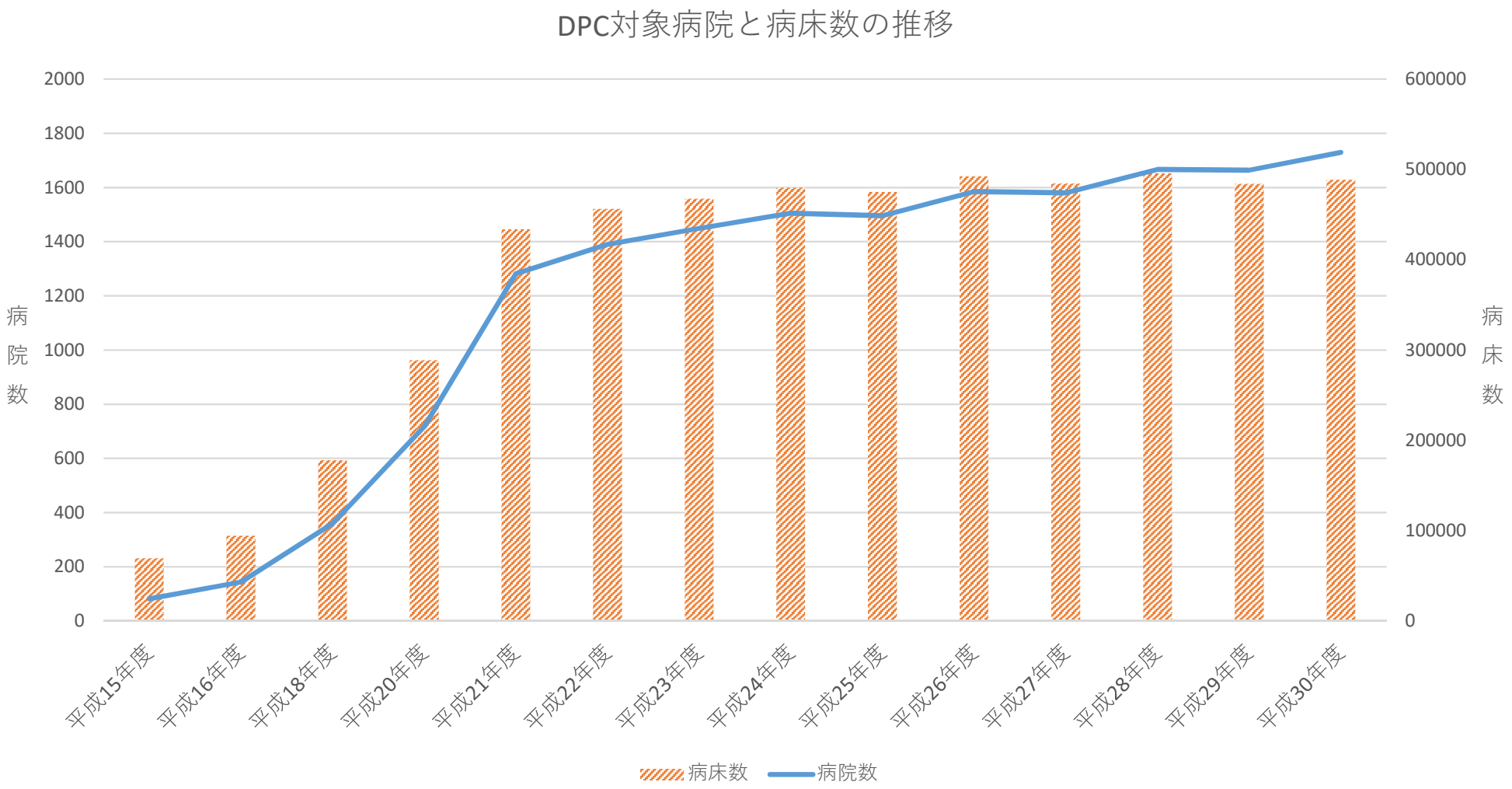
- 重症度、医療・看護必要度については、平成30年度改定における評価基準の見直しや、重症度、医療・看護必要度Ⅱの創設を踏まえた検討
- 医療区分については、平成30年度改定における判定方法の見直しを踏まえた検討
- 回復期リハビリテーション病棟については、平成30年度改定において入院料の評価体系に実績評価を組み込んだことを踏まえた検討　等

○　また、中・長期的には、入院医療機能の適切な評価指標や測定方法等について、従来の評価指標以外についても、必要な調査研究を含め、検討する必要があるのではないか。

1. 分科会における検討について
2. 入院医療機能の評価
3. DPC/PDPSの今後の課題
4. 検討方針（案）

DPC/PDPSに関する現状①

- DPC/PDPSは算定方式を導入後、対象となる医療機関数、病床数は増加している。



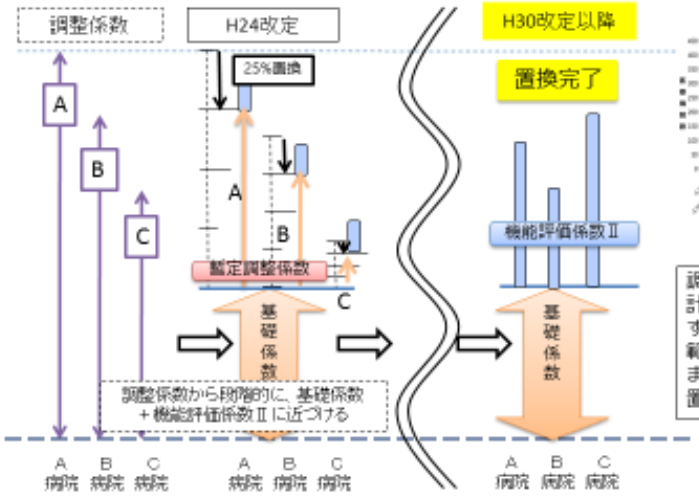
DPC/PDPSに関する現状②

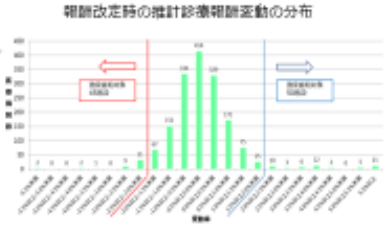
- H30年度診療報酬改定におけるDPC/PDPSに関する附帯意見は以下の通り。
  調整係数の機能評価係数Ⅱへの置換え完了等を踏まえ、DPC制度以外の入院医療とともに、DPC制度の適切かつ安定的な運用について、引き続き推進すること。
- 前回改定の議論で、DPC対象病院のうち、平均的な診療実態とかい離した病院の存在が確認されている。平均的な診療実態とかい離した病院が存在すると、包括報酬の水準がそれらの実績を用いて設定され、結果的にDPC/PDPSの安定的な運用の妨げとなりうる。

平成30年度診療報酬改定

調整係数の置き換え①（平成30年度における対応）

- 調整係数の機能評価係数Ⅱへの置き換えを完了し、今後は基礎係数+機能評価係数Ⅱによる評価となる。
- 診療報酬改定等に伴う激変に対応する激変緩和係数を設定（改定年のみ）



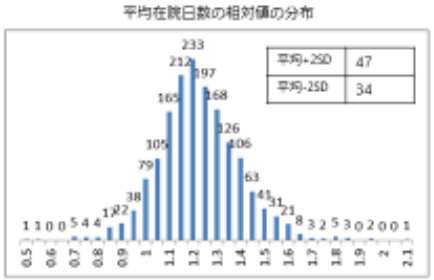


調整係数置き換え完了後も、一定程度推計診療報酬変動が大きい医療機関が存在すると考えられ、医療機関別係数は包括範囲の診療報酬全体に影響する特性を踏まえると、報酬改定等に伴う激変緩和措置が必要と考えられた。

平成30年度診療報酬改定

調整係数の置き換え②（今後の課題）

- 平均的な診療実態から外れて診療密度が低い、平均在院日数が長い等の医療機関については、退出等の対応を今後検討する。



医療機関毎に、平均在院日数の相対値を比較（診断群分類毎の補正後）すると、平均+2SDを超える（平均在院日数が長い）医療機関が47存在する。これら医療機関は、DPC/PDPSにおいて期待される効率化などが不十分な可能性があり、このような診療実績も踏まえて制度を運用することは、診断群分類点数表等が実態と異なるものとなる懸念がある。

医療機関毎に、診療密度の相対値を比較（診断群分類毎の補正後）すると、平均-2SDを下回る医療機関が20存在する。このような医療機関は、診断群分類において平均的な病態とは異なる疾患を対象としている可能性や粗診粗療の懸念があり、さらにこのような診療実績も踏まえて制度を運用することは、診断群分類点数表等が実態と異なるものとなる懸念がある。

DPC対象病院の要件

- DPC準備病院のうち、一定の要件をみたすものについては、当該病院の意向を踏まえ、診療報酬改定の度にDPC対象病院となる。
- DPC対象病院のデータ病床比（※）の基準は、急性期一般入院基本料等の届出を行う医療機関の大半が満たしている。

DPC対象病院の要件

-急性期一般入院基本料、特定機能病院等の7対1・10対1入院基本料の届出

-A207診療録管理体制加算の届出

-以下の調査に適切に参加

・当該病院を退院した患者の病態や実施した医療行為の内容等について毎年実施される調査「退院患者調査」

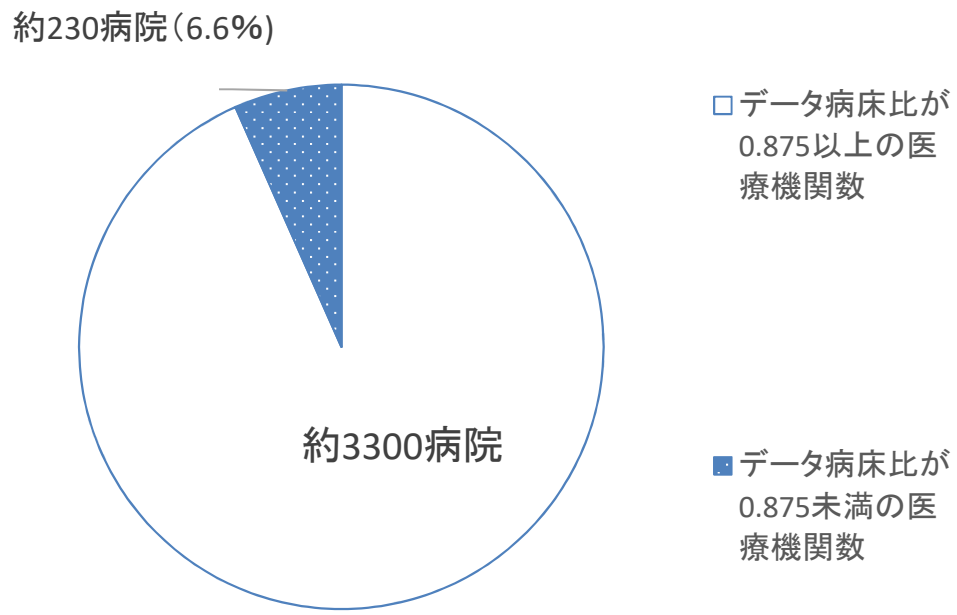
・中央社会保険医療協議会の要請に基づき、退院患者調査を補完することを目的として随時実施される調査「特別調査」

-調査期間1月あたりのデータ病床比が0.875以上

-適切なコーディングに関する委員会を年4回以上開催

※データ病床比：提出されるデータとDPC対象（または急性期一般入院基本料等の）病床数の比

急性期入院料の届出医療機関のデータ病床比の状況

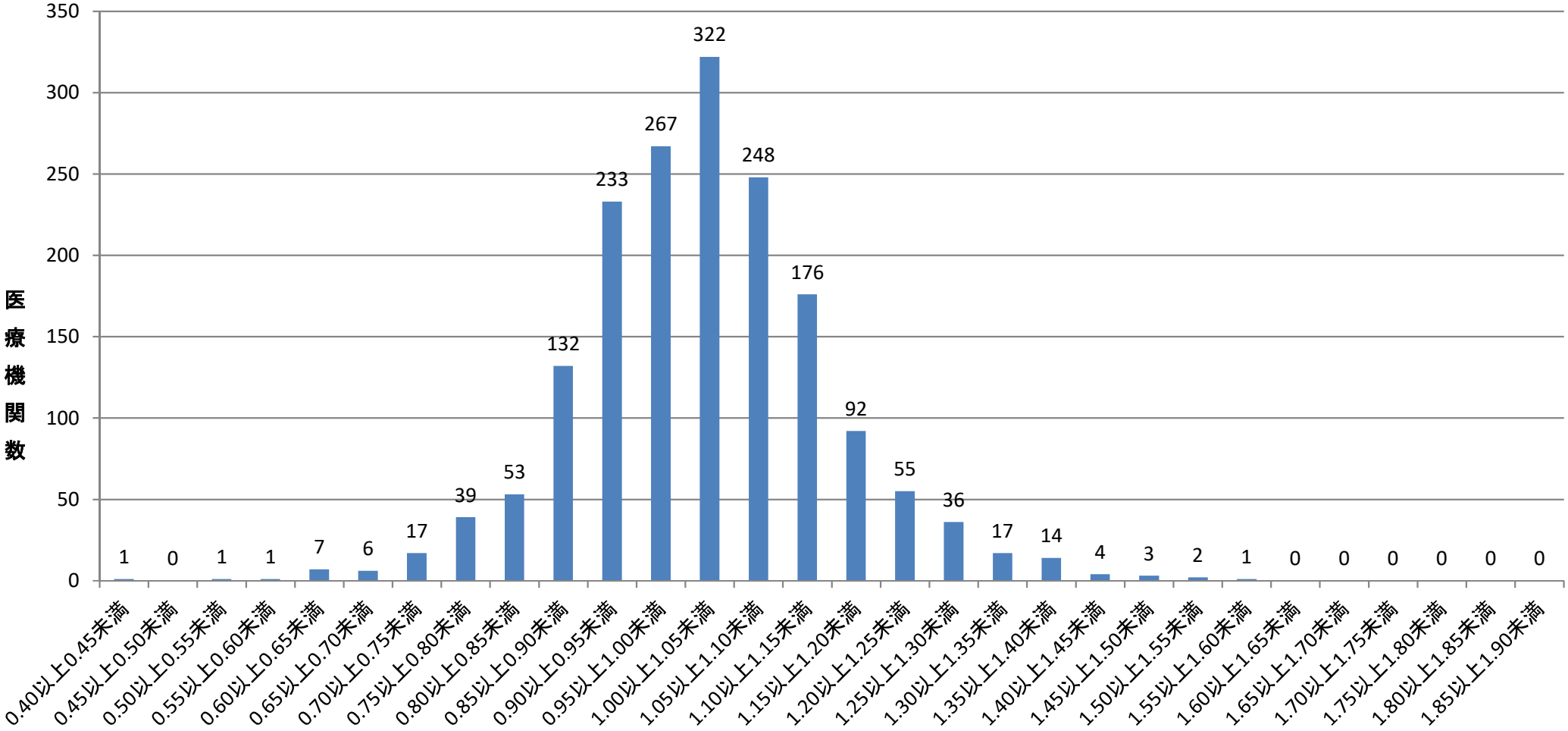


出典：平成30年度DPCデータ

DPC/PDPSに関する現状③

- 在院日数を比較すると、他の医療機関と比べて在院日数が長い医療機関が存在する。

平均在院日数の相対値の分布（2018年4月から9月データ）

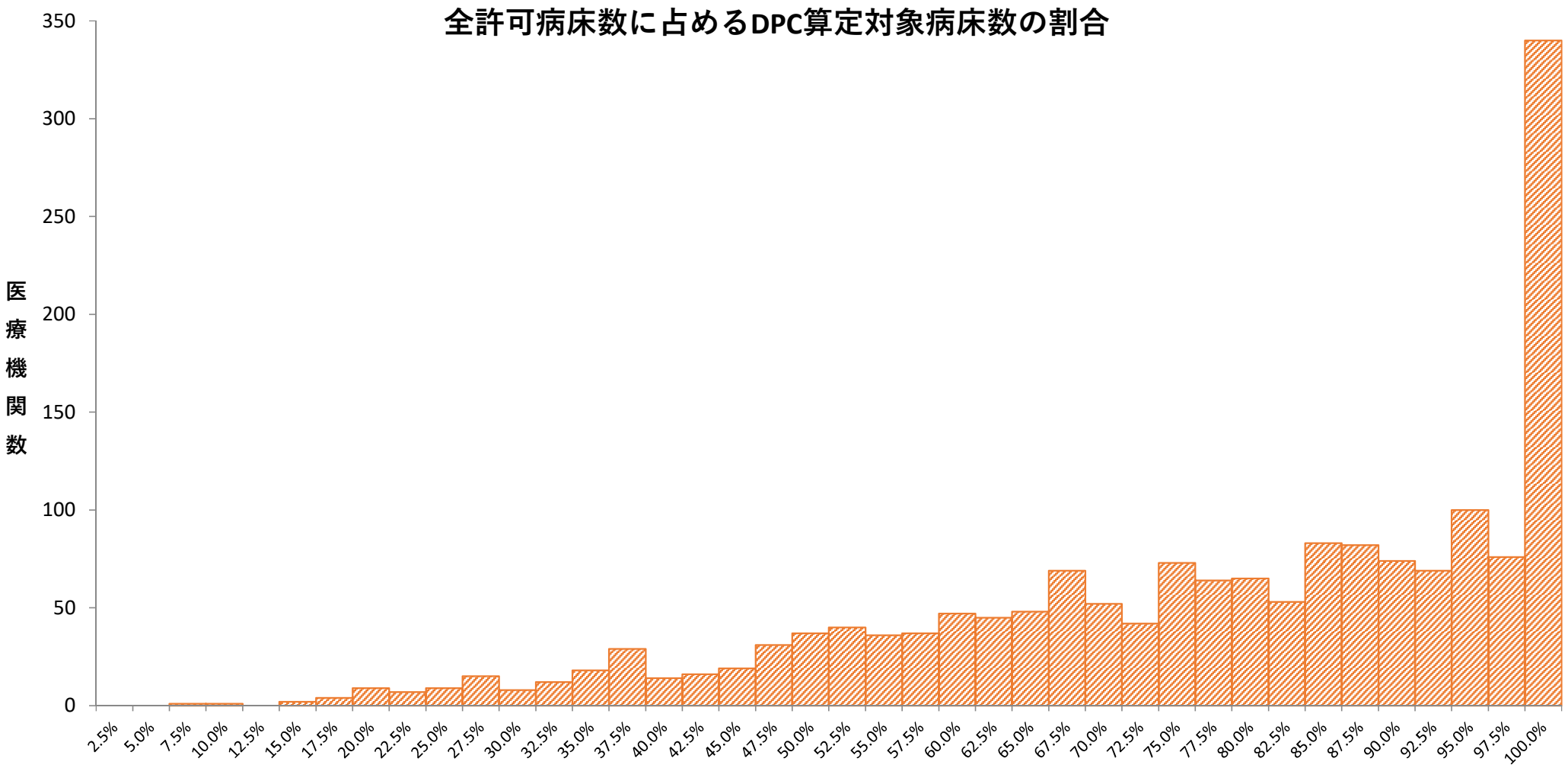


※医療機関ごとに、診断群分類ごとの在院日数を相対化したもの

出典：平成30年度DPCデータ

DPC/PDPSに関する現状④

- DPC対象病院のうち、病院全体として、主に急性期入院医療を行う病院もある一方で、急性期以外の入院医療を多く行う病院も含まれる。



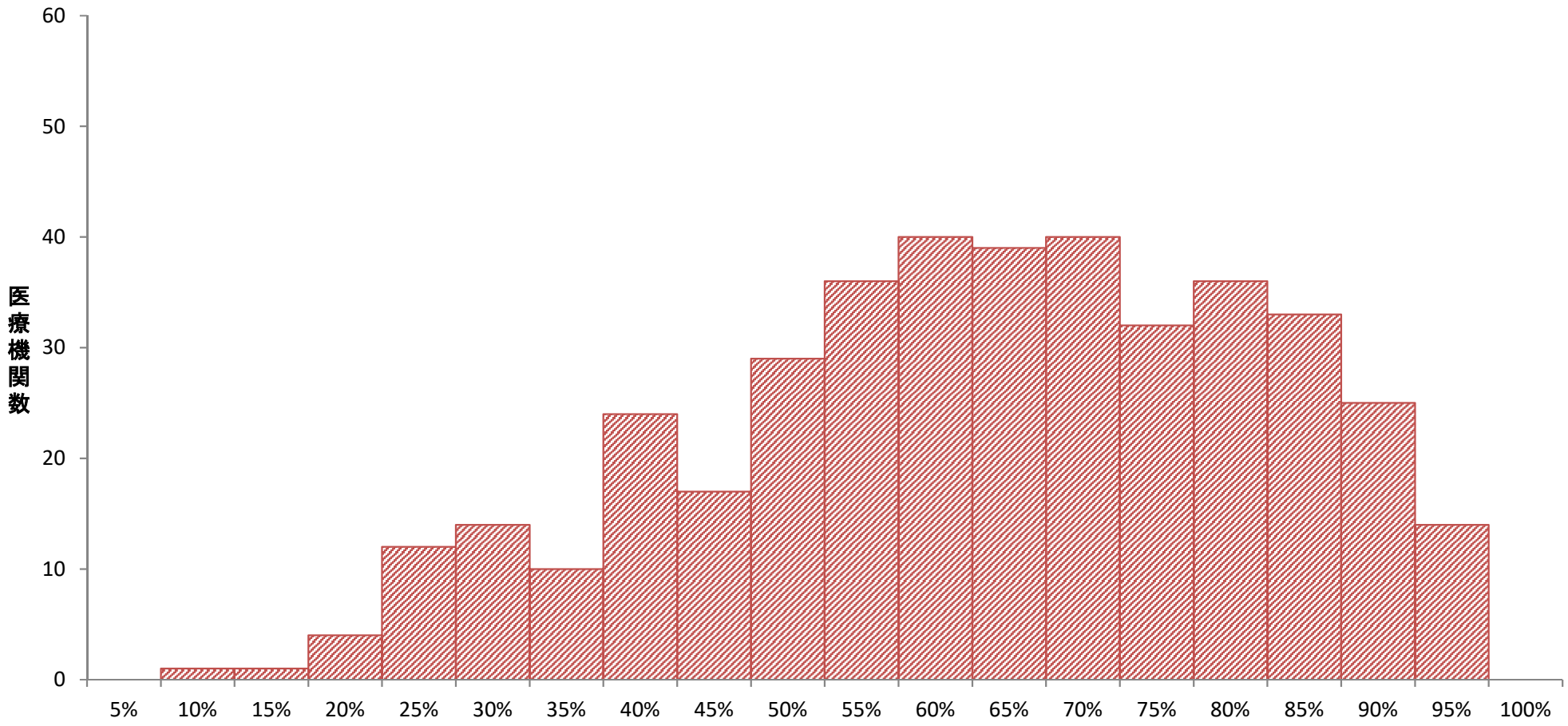
出典：平成30年度DPCデータ

急性期以外の病床を保有するDPC対象病院①

- 回復期リハビリテーション病床を保有する（※）DPC対象病院数は約400病院。
- このうち、DPC対象病床の割合が小さい医療機関も存在する。

※回復期リハビリテーション病棟入院料１～６の届出を行っている医療機関

全許可病床数の内、DPC対象病床数が占める割合



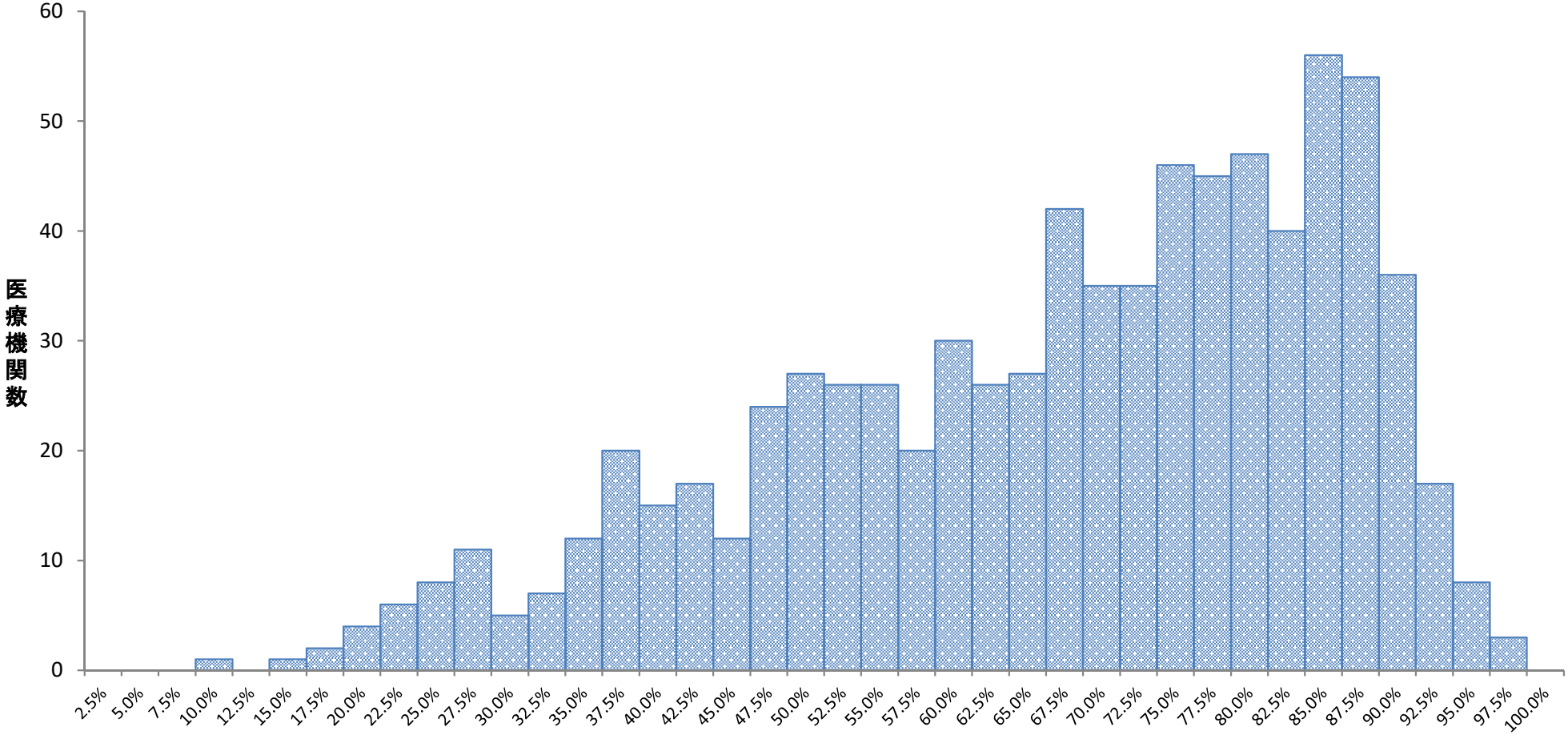
出典：平成30年9月DPCデータ

急性期以外の病床を保有するDPC対象病院②

- 地域包括ケア病棟入院料等を保有する（※）DPC対象病院は約800病院。
- このうち、DPC対象病床の割合が小さい医療機関も存在する。

※地域包括ケア病棟入院料1～4、地域包括ケア入院医療管理料1～4の届出を行っている医療機関

全許可病床数のうち、DPC対象病床が占める割合



出典：平成30年9月DPCデータ

DPC/PDPSの現状と課題（案）

現状と課題

- DPC/PDPSの対象病院・対象病床数は改定ごとに増加している。
- 平成30年度改定における答申書附帯意見において、DPC/PDPSについては「調整係数の機能評価係数Ⅱへの置換え完了等を踏まえ、DPC制度以外の入院医療とともに、DPC制度の適切かつ安定的な運用について、引き続き推進すること。」とされている。
- DPC対象病院の要件は、急性期入院料を算定する医療機関であれば通常満たすことができるものとなっている。
- DPC/PDPSの対象となる病床数が、許可病床に占める割合が小さな、急性期以外の入院医療を多く行う病院も存在する。
- DPC/PDPSを採用する病院については、在院日数が他の病院と比べて長い等、平均的な診療実態とかい離した診療を行っている病院も含まれている。
- 平均的な診療実態とかい離した医療機関が含まれると、全てのDPC対象病院の診療実績を用いて報酬水準を設定するため、安定的な制度運用の妨げとなりうる。
- 平均的なDPC対象病院に対して、かい離した診療実態に関する分析や制度上の課題を分析し、分析結果を踏まえ、要件設定も含めたDPC対象病院の評価のあり方について検討が必要ではないか。

1. 分科会における検討について
2. 入院医療機能の評価
3. DPC/PDPSの今後の課題
4. 検討方針（案）

検討方針（案）

○　以上を踏まえ、入院医療機能の評価、DPC/PDPSの課題について、分科会委員の中で当該事項の実務に精通した委員を中心として、それぞれ、診療情報・指標等作業グループ、DPC/PDPS等作業グループにおいて作業することとしてはどうか。

○　具体的な検討項目は、以下のように整理して検討を行った上で、検討結果について、それぞれの作業グループから入院分科会に報告をすることとしてはどうか。

○　診療情報・指標等作業グループ

＜2020年度改定に向けた検討＞

・　入院医療調査の結果を踏まえた、入院患者の医療・看護の必要性に係る指標等についての分析・検討

・　急性期以外の入院医療についての、退院患者調査における報告内容の設定に係る検討

＜中・長期的な検討＞

・　平成31年度厚生労働科学研究（「急性期の入院患者に対する医療・看護の必要性と職員配置等の指標の開発に係る研究」（研究代表者　松田晋哉））等の研究を踏まえ、急性期から長期療養まで含めた、入院医療機能の適切な評価指標や測定方法等についての検討

○　DPC/PDPS等作業グループ

・　一般的なDPC対象病院とは異なる診療実態である病院についての分析及び適切なDPC対象病院の要件設定のための評価に関する検討

作業グループメンバー（案）

○ 各作業グループにおいては、当面の検討課題について、分科会委員の中で当該事項の実務に精通した委員により作業を進める。
○ 具体的なメンバーは以下の通り。

診療情報・指標等作業グループ

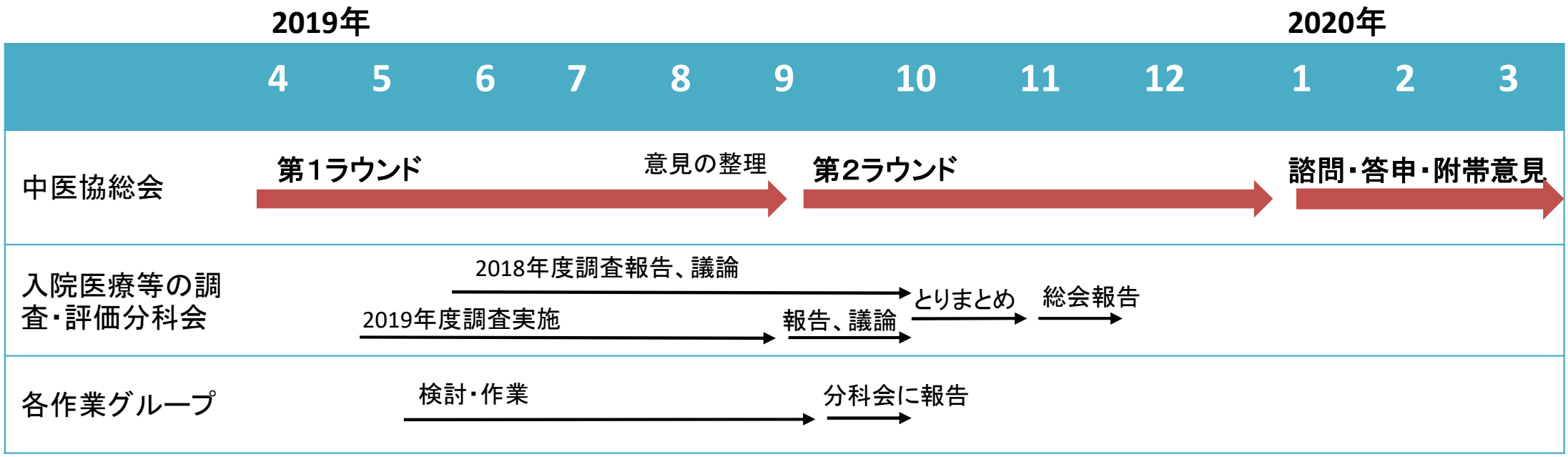
◎ 池田俊也（国際医療福祉大学医学部公衆衛生学　教授）
○ 池端幸彦（医療法人池慶会　理事長）
○ 奥裕美（聖路加国際大学　看護学研究科　准教授）
○ 神野正博（社会医療法人財団董仙会　理事長）
○ 武井純子（社会医療法人財団慈泉会　相沢東病院　看護部長）
○ 牧野憲一（旭川赤十字病院　院長）
○ 林田賢史（産業医科大学病院　医療情報部　部長）

DPC/PDPS等作業グループ

○ 池田俊也（国際医療福祉大学医学部公衆衛生学　教授）
○ 井原裕宣（社会保険診療報酬支払基金医科専門役）
○ 牧野憲一（旭川赤十字病院　院長）
○ 松本義幸（健康保険組合連合会　参与）
◎ 山本修一（国立大学法人千葉大学医学部附属病院長）

◎は班長

分科会における主な検討事項とスケジュール（案）



主な検討事項（6月～）

○ 2018年度調査結果（速報）

◆ 速報を診療報酬基本問題小委員会に報告

○ 個別的事項に関する議論
- 一般病棟入院基本料
- 療養病棟入院基本料
- 特定入院料（地域包括ケア病棟入院料等）
- 入退院支援に係る評価
- 医療資源の少ない地域に係る評価　等

◆ 診療報酬基本問題小委員会に報告

（秋頃～）

○ 2019年度調査結果（速報）

○ 個別的事項に関する議論
- 一般病棟入院基本料
- 療養病棟入院基本料
- 特定入院料（特定集中治療室管理料等）　等

◆ 診療報酬基本問題小委員会に報告

中医協　総－７－２ 元．５．１５	中医協　診－２ 元．５．１５	診調組　入－２（改） ３０．４．２５

2019年度調査の内容について

調査項目

【基本的な考え方】
○　以下に掲げる７項目について、2018年度及び2019年度の２か年で調査を実施する。
○　１年間の長期の経過措置が設けられている項目など、効果を検証するまでに一定程度の期間が必要であるものについては2019年度調査として実施する。
○　2018年度調査で実施するものについても、改定による効果がより明らかになるよう、経過措置のあるものは原則として経過措置終了後に調査期間を設定する。

【2018年度】

（１）急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料等の評価体系の見直しの影響について（その１）
（２）地域包括ケア病棟入院料及び回復期リハビリテーション病棟入院料の評価体系の見直しの影響について
（３）療養病棟入院基本料等の慢性期入院医療における評価の見直しの影響について（その１）
（４）医療資源の少ない地域における保険医療機関の実態について

【2019年度】

（１）急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料等の評価体系の見直しの影響について（その２）
（２）特定集中治療室管理料等の集中治療を行う入院料の見直しの影響について
（３）療養病棟入院基本料等の慢性期入院医療における評価の見直しの影響について（その２）

2019年度調査

（1）急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料等の評価体系の見直しの影響について（その2）

【附帯意見（抜粋）】
今回改定で再編・統合した急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、療養病棟入院基本料等（救急医療に関する評価を含む。）に係る、在宅復帰・病床機能連携率、重症度、医療・看護必要度、医療区分、リハビリテーションの実績指数等の指標及び看護職員の配置の状況について調査・検証するとともに、特定機能病院入院基本料等のその他の病棟の評価体系も含めた、入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること。

【関係する改定内容】
①一般病棟入院基本料について、急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料に再編・統合
②一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の評価について、診療実績データを用いて患者割合を評価する、重症度、医療・看護必要度Ⅱを新設
③在宅復帰に係る指標について、指標の定義等を見直し

【調査内容案】
調査対象：一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料、専門病院入院基本料等の届出を行っている医療機関
調査内容：
(1) 各医療機関における入院料の届出状況、職員体制
(2) 重症度、医療・看護必要度の該当患者割合の状況
(3) 各入院料等における患者の状態、医療提供内容、平均在院日数、入退院支援、退院先の状況 等

2019年度調査

（2）特定集中治療室管理料等の集中治療を行う入院料の見直しの影響について

【附帯意見（抜粋）】
今回改定で再編・統合した急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、療養病棟入院基本料等（救急医療に関する評価を含む。）に係る、在宅復帰・病床機能連携率、重症度、医療・看護必要度、医療区分、リハビリテーションの実績指数等の指標及び看護職員の配置の状況について調査・検証するとともに、特定機能病院入院基本料等のその他の病棟の評価体系も含めた、入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること。

【関係する改定内容】
①救命救急入院料１及び３並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料について、重症度、医療・看護必要度の測定を要件化
②特定集中治療室管理料を算定する患者について、入退室時の生理学的スコア（ＳＯＦＡスコア）をＤＰＣデータの報告の対象に追加

【調査内容案】
調査対象：特定集中治療室管理料、救命救急入院料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料等を算定している患者の入院している医療機関
調査内容：当該管理料等における患者の状態、医療提供内容、入退室状況、生理学的スコア　等

2019年度調査

（3）療養病棟入院基本料等の慢性期入院医療における評価の見直しの影響について（その2）

【附帯意見（抜粋）】
今回改定で再編・統合した急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、療養病棟入院基本料等（救急医療に関する評価を含む。）に係る、在宅復帰・病床機能連携率、重症度、医療・看護必要度、医療区分、リハビリテーションの実績指数等の指標及び看護職員の配置の状況について調査・検証するとともに、特定機能病院入院基本料等のその他の病棟の評価体系も含めた、入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること。

【関係する改定内容】
①療養病棟入院基本料について、看護配置を20対１以上を要件とし、医療区分２・３該当患者割合に応じた入院料に再編・統合
②医療区分の評価方法の見直し
③療養病棟における在宅復帰機能の評価に関する施設基準の見直し

【調査内容案】
調査対象：療養病棟入院基本料の届出を行っている医療機関
調査内容：
(1) 各医療機関における入院料の届出状況、職員体制
(2) 入院患者の医療区分別患者割合の状況
(3) 各入院料等における患者の状態、医療提供内容、平均在院日数、入退院支援、退院先、看取りの取組の状況　等

2019年度調査全体の概要

○　調査方法：自記式調査票の郵送配布・回収又はウェブ調査により実施。
○　調査票：対象施設に対して「施設調査票」、「病棟調査票」等を配布。また、別途、調査対象月のレセプト調査を実施。
○　調査対象施設：別表のとおり。

［別表］

調査項目	各項目において調査対象となる施設	調査票	対象施設数
（1）急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料等の評価体系の見直しの影響について（その２）	一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料、専門病院入院基本料、特定集中治療室管理料等の届出を行っている医療機関（※１）	A票	約2,500施設
（2）特定集中治療室管理料等の集中治療を行う入院料の見直しの影響について			
（3）療養病棟入院基本料等の慢性期入院医療における評価の見直しの影響について（その２）	療養病棟入院基本料の届出を行っている医療機関（※２）	B票	約1,800施設

※１　救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料等の特定入院料の届出医療機関及び特定機能病院・専門病院は悉皆とし、その他の医療機関は、一般病棟入院基本料の届出医療機関を都道府県別に層化の上、無作為で抽出したものを対象とする。
※２　療養病棟入院基本料届出医療機関から都道府県別に層化の上、無作為で抽出したものを対象とする。

調査項目の概要（案）

A票

施設調査票

・開設者、許可病床数、職員数
・手術等の実施件数、外来患者数、総入院患者数
・平均在院日数、病床利用率、在宅復帰率
・重症度、医療課・看護必要度の届出状況
・今後の届出の意向　等

病棟調査票

・届出病床数、職員数
・平均在院日数、病床利用率、在宅復帰率
・重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合
・せん妄予防に関する取組状況　等

治療室調査票

・届出病床数、職員数
・平均在院日数、病床利用率、在宅復帰率
・重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合
・早期離床・リハビリテーションの取組状況　等

B票

施設調査票

・開設者、許可病床数、職員数
・平均在院日数、病床利用率、在宅復帰率
・在宅復帰機能強化加算の算定状況
・今後の届出の意向　等

病棟調査票

・届出病床数、職員数
・平均在院日数、病床利用率、在宅復帰率
・医療区分・ADL区分の該当患者数
・ACPの取組の状況　等

調査スケジュール（2019年度調査）

2019年		
4月 ～ 5月	調査票 決定	**＜入院医療等の調査・評価分科会＞（4月25日）** ① 2019年度調査項目・内容（案）を作成 **＜中医協　基本問題小委員会・総会＞（5月15日）** ② 調査項目・内容を決定・報告
6月 ～ 7月	調査実施	③ 調査票に基づき調査を実施
8月	集計	④ 集計
9月 ～	結果報告	**＜入院医療等の調査・評価分科会＞** ⑤ 調査結果の報告（速報） **＜中医協　基本問題小委員会・総会＞** ⑥ 調査結果の報告（速報）

厚生労働省　中央社会保険医療協議会　入院医療等の調査・評価分科会　2019 年度調査

入院医療等における実態調査

施 設 調 査 票（A）

- 特に指定がある場合を除いて、2019 年 6 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する方・施設等が無い場合は、「0」(ゼロ)をご記入下さい。

◆ 本調査票のご記入者、ご連絡先についてご記入下さい。

施設名		施設ＩＤ	
記入者氏名		電話番号	

◆ 貴院の基本情報について、別途 確認票（Webサイト参照）にてご確認ください。

問１　貴院の開設者、算定されている入院基本料等についてお伺いします。

1-1 開設者　（該当する番号１つに○）

01 国立（国、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構）

02 公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）

03 公的（日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会）

04 社会保険関係（健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合）

05 医療法人（社会医療法人は含まない）

06 その他の法人（公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人）

07 個人

1-2 入院基本料等（2019 年 6 月 1 日時点） （該当する番号すべてに○）

01	急性期一般入院料１	**17**	救命救急入院料３
02	急性期一般入院料２	**18**	救命救急入院料４
03	急性期一般入院料３	**19**	特定集中治療室管理料１
04	急性期一般入院料４	**20**	特定集中治療室管理料２
05	急性期一般入院料５	**21**	特定集中治療室管理料３
06	急性期一般入院料６	**22**	特定集中治療室管理料４
07	急性期一般入院料７	**23**	ハイケアユニット入院医療管理料１
08	地域一般入院料１	**24**	ハイケアユニット入院医療管理料２
09	地域一般入院料２	**25**	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
10	地域一般入院料３	**26**	小児特定集中治療室管理料
11	専門病院入院基本料（７対１）	**27**	新生児特定集中治療室管理料１
12	専門病院入院基本料（10 対１）	**28**	新生児特定集中治療室管理料２
13	特定機能病院入院基本料（一般病棟７対１）	**29**	母体・胎児集中治療室管理料
14	特定機能病院入院基本料（一般病棟 10 対１）	**30**	新生児集中治療室管理料
15	救命救急入院料１	**31**	新生児治療回復室入院医療管理料
16	救命救急入院料２		

■上記１-２で 11～14 を選択された場合、看護必要度加算の届出状況についてご回答ください。

1-2-1 看護必要度加算の届出状況 （該当する番号１つに○）

01	看護必要度加算１	**03**	看護必要度加算３
02	看護必要度加算２	**04**	看護必要度加算を届出ていない

■上記１-２で 15～18 を選択された場合、救急体制充実加算の届出状況についてご回答ください。

1-2-2 救急体制充実加算の届出状況 （該当する番号１つに○）

01	救急体制充実加算１	**03**	救急体制充実加算３
02	救急体制充実加算２	**04**	救急体制充実加算を届出ていない

問２ 貴院の許可病床数についてお伺いします。

2-1 許可病床数（2019 年 6 月 1 日時点）

① 一般病床	**床**	**④ 結核病床**	**床**
② 療養病床	**床**	**⑤ 感染症病床**	**床**
（うち）介護療養病床	**床**	**⑥ 合計**	**床**
③ 精神病床	**床**		

問３　貴院の職種別の職員数（常勤換算）についてお伺いします。

3-1 常勤職員・非常勤職員の合計数（常勤換算※1）（2019 年 6 月 1 日時点）			
① 医師	．　人	⑪ 臨床心理技術者	．　人
② 歯科医師	．　人	⑫ 診療放射線技師	．　人
③ 看護師	．　人	⑬ 臨床検査技師	．　人
④ 准看護師	．　人	⑭ 臨床工学技士	．　人
⑤ 看護補助者	．　人	⑮ 歯科衛生士	．　人
（うち）介護福祉士	．　人	⑯ 相談員	．　人
⑥ 薬剤師	．　人	（うち）社会福祉士	．　人
⑦ 管理栄養士	．　人	（うち）精神保健福祉士	．　人
⑧ 理学療法士	．　人	⑰ 医師事務作業補助者	．　人
⑨ 作業療法士	．　人	⑱ 事務職員	．　人
⑩ 言語聴覚士	．　人	⑲ その他の職員	．　人

※１．非常勤職員の常勤換算の算出方法
貴院の常勤職員の１週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第１位まで（小数点第２位を切り上げ）を記入。
例：常勤職員の１週間の通常の勤務時間が 40 時間の病院で、週４日（各日５時間）勤務の看護師が１人いる場合

$$非常勤看護師数＝\frac{4日×5時間×1人}{40時間}＝0.5人$$

問４　貴院の手術等の実施件数についてご回答ください。

4-1 手術等実施件数（2018 年 4 月～2019 年 3 月の 1 年間）			
① 手術の実施件数	年間　件	④ 腹腔鏡下手術	年間　件
（うち）全身麻酔の件数	年間　件	⑤ 放射線治療（体外照射法）	年間　件
② 人工心肺を用いた手術	年間　件	⑥ 化学療法	年間　件
③ 悪性腫瘍の手術	年間　件	⑦ 分娩件数※1	年間　件

※１．自然分娩を含む。

問５　貴院の外来患者数、総入院患者数についてお伺いします。

5-1 外来患者数（2019 年 3 月の 1 か月間）	
① 初診の患者数	人
（うち）紹介状により紹介された患者数	人
② 再診の延べ患者数	延べ　人
③ 紹介状により他の病院または診療所に紹介した患者数	人

5-2 総入院患者数（2019 年 6 月 1 日時点）	
① 総入院患者数※1	人

※１．施設全体の合計をご回答ください。

5-3 救急搬送件数等	
① 年間救急搬送件数（2018 年 4 月～2019 年 3 月の 1 年間）	人
② 救急搬送から入院した患者数（2019 年 3 月の 1 か月間）	人

問６　貴院の入院料等別の状況についてお伺いします。

６-１　入院料等別の病床数の増減の状況	2018 年 4 月 1 日時点	2019 年 6 月 1 日時点
① 急性期一般入院料１	床	床
② 急性期一般入院料２	床	床
③ 急性期一般入院料３	床	床
④ 急性期一般入院料４	床	床
⑤ 急性期一般入院料５	床	床
⑥ 急性期一般入院料６	床	床
⑦ 急性期一般入院料７	床	床
⑧ 地域一般入院料１	床	床
⑨ 地域一般入院料２	床	床
⑩ 地域一般入院料３	床	床
⑪ 専門病院入院基本料７対１	床	床
⑫ 専門病院入院基本料 10 対１	床	床
⑬ 専門病院入院基本料 13 対１	床	床
⑭ 特定機能病院入院基本料　一般病棟７対１	床	床
⑮ 特定機能病院入院基本料　一般病棟 10 対１	床	床
⑯ 救命救急入院料１	床	床
⑰ 救命救急入院料２	床	床
⑱ 救命救急入院料３	床	床
⑲ 救命救急入院料４	床	床
⑳ 特定集中治療室管理料１	床	床
㉑ 特定集中治療室管理料２	床	床
㉒ 特定集中治療室管理料３	床	床
㉓ 特定集中治療室管理料４	床	床
㉔ ハイケアユニット入院医療管理料１	床	床
㉕ ハイケアユニット入院医療管理料２	床	床
㉖ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料	床	床
㉗ 小児特定集中治療室管理料	床	床
㉘ 新生児特定集中治療室管理料１	床	床
㉙ 新生児特定集中治療室管理料２	床	床
㉚ 母体・胎児集中治療室管理料	床	床
㉛ 新生児集中治療室管理料	床	床

注 届出状況で複数の特定入院料を選択した場合は「届出病床数」、「入院患者数」欄へそれぞれの合計をご記入ください。

■ **一般病棟用重症度、医療･看護必要度を算出している場合、下記6-2にご回答ください。**

6-2 届出を行っている一般病棟用重症度、医療・看護必要度の種別（2019 年 6 月 1 日時点） （該当する番号１つに○）

01	重症度、医療・看護必要度Ⅰ	**02**	重症度、医療・看護必要度Ⅱ

■ **上記6-2で「01　重症度、医療・看護必要度Ⅰ」を選択した場合、届出を行った理由をご回答ください。**

6-2-1 重症度、医療・看護必要度Ⅰの届出を行った理由 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	診療実績情報データ（レセプトコード）による評価（重症度、医療・看護必要度Ⅱ）より、評価票の記入のほうが容易であり、重症度、医療・看護必要度Ⅱの方法に変更する必要性を感じないため	
02	重症度、医療・看護必要度Ⅰを用いた場合、重症度、医療・看護必要度Ⅱを用いた場合と比較して、より高い入院料を届出ることができるため	
03	重症度、医療・看護必要度Ⅰのデータを看護職員配置などの看護管理業務に用いるため	
04	重症度、医療・看護必要度Ⅱを満たす患者の割合と重症度、医療・看護必要度Ⅰの基準を満たす患者の割合との差分が 0.04 に収まらないため	
05	重症度、医療・看護必要度Ⅱの届出に必要な診療実績情報データ（レセプトコード）による評価体制が整っていないため	
06	重症度、医療・看護必要度Ⅰ・Ⅱ両者で算出した患者割合にズレがないかを確認できていないため	
07	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記6-2で「02　重症度、医療・看護必要度Ⅱ」を選択した場合、届出を行った理由をご回答ください。**

6-2-2 重症度、医療・看護必要度Ⅱの届出を行った理由 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	重症度、医療・看護必要度Ⅱの届出に必要な診療実績情報データ（レセプトコード）による評価体制が整っているため	
02	重症度、医療・看護必要度Ⅱを用いた場合、重症度、医療・看護必要度Ⅰよりも評価票記入者の負担が軽減されるため	
03	重症度、医療・看護必要度Ⅱを用いた場合、重症度、医療・看護必要度Ⅰを用いた場合と比較して、より高い入院料を届出ることができるため	
04	入院料の算定要件に重症度、医療・看護必要度Ⅱを用いることが求められているため	
05	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 下記6-3については、貴院が届出によらず、重症度、医療･看護必要度Ⅰ及びⅡの両方の患者割合を算出している場合にのみご回答ください。

6-3 重症度、医療・看護必要度Ⅰ・Ⅱ両方を算出している理由 （該当する番号すべてに○）

01	重症度、医療・看護必要度Ⅰ・Ⅱ両者で算出した患者割合にズレがないか確認するため
02	現在、施設として重症度、医療・看護必要度Ⅰを届出ているが、将来的に重症度、医療・看護必要度Ⅱの届出を検討しているため
03	現在、施設として重症度、医療・看護必要度Ⅱを届出ているが、重症度、医療・看護必要度Ⅰのデータを看護職員配置などの看護管理業務に用いるため
04	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

6-4 改定前・改定後の一般病棟用重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合 ※2019 年 1 月～3 月については、Ⅰ又はⅡどちらも算出している場合は両方をお答えください。	2018 年 1 月～3 月※1	2019 年 1 月～3 月※2	
		重症度、医療・看護必要度Ⅰ	重症度、医療・看護必要度Ⅱ
① 急性期一般入院料１※3	. %	. %	. %
② 急性期一般入院料２※3	. %	. %	. %
③ 急性期一般入院料３※3	. %	. %	. %
④ 急性期一般入院料４※3	. %	. %	. %
⑤ 急性期一般入院料５※3	. %	. %	. %
⑥ 急性期一般入院料６※3	. %	. %	. %
⑦ 急性期一般入院料７※3	. %	. %	. %
⑧ 地域一般入院料１※3	. %	. %	. %
⑨ 専門病院入院基本料（７対１）	. %	. %	. %
⑩ 専門病院入院基本料（10 対１）	. %	. %	. %
⑪ 特定機能病院入院基本料（一般病棟７対１）	. %	. %	. %
⑫ 特定機能病院入院基本料（一般病棟 10 対１）	. %	. %	. %
⑱ ＳＣＵ（脳卒中ケアユニット入院医療管理料）	※4 . %	. %	. %

※１．2017 年度時における「一般病棟用の重症度，医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（Ａ得点）が 2 点以上かつ患者の状況等に係る得点（Ｂ得点）3 点以上，Ａ得点 3 点以上又は手術等の医学的状況に係る得点（Ｃ得点）が 1 点以上 を満たす患者割合。

※２．「一般病棟用の重症度，医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（Ａ得点）2 点以上かつ患者の状況等に係る得点（Ｂ得点）3 点以上、「診療・療養上の指示が通じる（Ｂ14)」又は「危険行動（Ｂ15)」に該当する患者であって、Ａ得点が 1 点以上かつＢ得点が 3 点以上、Ａ得点 3 点以上又は手術等の医学的状況に係る得点（Ｃ得点）が 1 点以上 を満たす患者割合。

※３．2018 年 1～3 月の値については、2018 年 3 月 31 日時点で一般病棟入院基本料（７対１）又は一般病棟入院基本料（10 対１）の届出をしていた場合にご回答ください。

※４．2018 年 1～3 月の値については、算出している場合にご回答ください。

■ 下記問6-5については、貴院が特定集中治療室管理料用及びハイケアユニット用重症度、医療・看護必要度を算出している場合のみご回答ください。

6-5 改定前・改定後の特定集中治療室用及びハイケアユニット用重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合	2018 年 1 月～3 月※1	2019 年 1 月～3 月※1
① 救命救急入院料１※2	※4 . %	. %
② 救命救急入院料２※2	. %	. %
③ 救命救急入院料３※2	※4 . %	. %
④ 救命救急入院料４※2	. %	. %
⑤ 特定集中治療室管理料１※2	. %	. %
⑥ 特定集中治療室管理料２※2	. %	. %
⑦ 特定集中治療室管理料３※2	. %	. %
⑧ 特定集中治療室管理料４※2	. %	. %
⑨ ハイケアユニット入院医療管理料１※3	. %	. %
⑩ ハイケアユニット入院医療管理料２※3	. %	. %

※１．改定前の患者割合は改定前の基準にしたがって算出した値を、改定後の患者割合は改定後の基準にしたがって算出した値をご記入ください。
※２．「特定集中治療室用の重症度，医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（A得点）が４点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）３点以上を満たす患者割合。
※３．「ハイケアユニット用の重症度，医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（A得点）が３点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）４点以上を満たす患者割合。
※４．救命救急入院料１、救命救急入院料３の 2018 年１月～3 月については、算出している場合にご記載ください。

6-6 在宅復帰率等（2019 年１月～3 月の３か月間）	在宅復帰率※1	平均在院日数
① 急性期一般入院料１	． %	． 日
② 急性期一般入院料２	． %	． 日
③ 急性期一般入院料３	． %	． 日
④ 急性期一般入院料４	． %	． 日
⑤ 急性期一般入院料５	． %	． 日
⑥ 急性期一般入院料６	． %	． 日
⑦ 急性期一般入院料７	． %	． 日
⑧ 地域一般入院料１	． %	． 日
⑨ 地域一般入院料２	． %	． 日
⑩ 地域一般入院料３	． %	． 日
⑪ 専門病院入院基本料（７対１）	． %	． 日
⑫ 専門病院入院基本料（10 対１）	． %	． 日
⑬ 特定機能病院入院基本料（一般病棟７対１）	． %	． 日
⑭ 特定機能病院入院基本料（一般病棟 10 対１）	． %	． 日

※１．「在宅復帰率」＝Ａ÷Ｂ ： Ａ．該当する病棟から、自宅、居住系介護施設等（介護医療院を含む）、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟・病室、療養病棟、有床診療所、老健施設へ退院した患者（死亡退院患者・転棟患者・再入院患者を除く）、Ｂ．該当する病棟から、退棟した患者（死亡退院患者・転棟患者・再入院患者を除く）。

6-7 病床利用率※1	2018年3月の1か月間	2019年3月の1か月間
① 急性期一般入院料１	. %	. %
② 急性期一般入院料２	. %	. %
③ 急性期一般入院料３	. %	. %
④ 急性期一般入院料４	. %	. %
⑤ 急性期一般入院料５	. %	. %
⑥ 急性期一般入院料６	. %	. %
⑦ 急性期一般入院料７	. %	. %
⑧ 地域一般入院料１	. %	. %
⑨ 地域一般入院料２	. %	. %
⑩ 地域一般入院料３	. %	. %
⑪ 専門病院入院基本料７対１	. %	. %
⑫ 専門病院入院基本料10対１	. %	. %
⑬ 専門病院入院基本料13対１	. %	. %
⑭ 特定機能病院入院基本料　一般病棟７対１	. %	. %
⑮ 特定機能病院入院基本料　一般病棟10対１	. %	. %
⑯ 救命救急入院料１	. %	. %
⑰ 救命救急入院料２	. %	. %
⑱ 救命救急入院料３	. %	. %
⑲ 救命救急入院料４	. %	. %
⑳ 特定集中治療室管理料１	. %	. %
㉑ 特定集中治療室管理料２	. %	. %
㉒ 特定集中治療室管理料３	. %	. %
㉓ 特定集中治療室管理料４	. %	. %
㉔ ハイケアユニット入院医療管理料１	. %	. %
㉕ ハイケアユニット入院医療管理料２	. %	. %
㉖ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料	. %	. %
㉗ 小児特定集中治療室管理料	. %	. %
㉘ 新生児特定集中治療室管理料１	. %	. %
㉙ 新生児特定集中治療室管理料２	. %	. %
㉚ 母体・胎児集中治療室管理料	. %	. %
㉛ 新生児集中治療室管理料	. %	. %

※1.「病床利用率」＝A÷B ： A．3月の在院患者延数 × 100 、B．届出病床数 × 31

問７　総合入院体制加算の届出状況についてお伺いいたします 。

※下記のいずれかに該当する場合のみご回答ください。

・高度救命救急センター、救命救急センター、2次救急医療機関に指定されている医療機関
・総合周産期母子医療センターを設置している医療機関
・上記医療機関と同様に、24 時間の救急患者を受入れている医療機関

7-1　「総合入院体制加算」の届出状況　（該当する番号・記号１つに○）

01　現に総合入院体制加算１を届出ている
　→　**a**　変更の予定なし　**b**　総合入院体制加算２へ変更を検討している　**c**　総合入院体制加算３へ変更を検討している
02　現に総合入院体制加算２を届出ている
　→　**a**　変更の予定なし　**b**　総合入院体制加算１へ変更を検討している　**c**　総合入院体制加算３へ変更を検討している
03　現に総合入院体制加算３を届出ている
　→　**a**　変更の予定なし　**b**　総合入院体制加算１へ変更を検討している　**c**　総合入院体制加算２へ変更を検討している
04　総合入院体制加算を届出ていない
　→　**a**　届出の意向なし　**b**　届出を検討している

■ 上記 7-1 で「02」、「03」、「04」を選択した場合、貴院で満たすことが困難な要件を選択してください。

7-1-1　「総合入院体制加算１」について、満たすことが困難な要件　（該当する番号・記号すべてに○）

01　年間の手術等の件数
　ア　全身麻酔による手術の件数が 年間 800 件以上
　イ　人工心肺を用いた手術の件数が 年間 40 件以上
　ウ　悪性腫瘍手術の件数が 年間 400 件以上
　エ　腹腔鏡下手術の件数が 年間 100 件以上
　オ　放射線治療（体外照射法）の件数が 年間 4,000 件以上
　カ　化学療法の件数が 年間 1,000 件以上
　キ　分娩の件数が 年間 100 件以上
02　救急自動車等による搬送件数が 年間 2,000 件以上
03　精神科について、24 時間対応できる体制を確保している
04　精神病床を有しており、精神病棟入院基本料等を届出て、現に精神疾患患者の入院を受入れている
05　「精神科リエゾンチーム加算」または「認知症ケア加算１」の届出を行っている
06　「精神疾患診療体制加算２」の算定件数又は救急患者の入院３日以内における「入院精神療法」若しくは「救命救急入院料の注２の加算」の算定件数が合計で 年間 20 件以上
07　療養病棟入院基本料 または 地域包括ケア病棟入院料（入院医療管理料）を届出ていない
08　画像診断 及び 検査を、24 時間実施できる体制を確保している
09　薬剤師が夜間当直を行うことにより、調剤を 24 時間実施できる体制を確保している
10　総退院患者のうち、診療情報提供に係る加算を算定する患者及び治癒し通院不要な患者が 4 割以上である
11　内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、及び産科（産婦人科）を標榜し、入院医療を提供している
12　連携医療機関への転院を円滑にするための地域連携室の設置
13　医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する体制の整備
14　貴院の敷地内が禁煙であること（緩和ケア病棟等の一部の病棟では分煙可）
15　分煙を行う場合は、非喫煙場所にタバコの煙が流れないようにし、適切な受動喫煙防止措置を講ずること
16　一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰの該当患者割合が　３割５分以上、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱの該当患者割合が　３割以上（総合入院体制加算３は一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰの該当患者割合が　３割２分以上、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱの該当患者割合が　２割７分以上）
17　同一建物内に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院又は介護療養型医療施設を設置していない
18　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問８　貴院の救急医療体制についてお伺いします。

8-1　救急告示の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　救急告示あり　　**02**　救急告示なし

8-2　救急医療体制（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　高度救命救急センター
02　救命救急センター
03　二次救急医療機関
04　いずれにも該当しないが救急部門を有している
05　救急部門を有していない

8-3　承認等の状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号すべてに○）

01　特定機能病院
02　地域医療支援病院
03　災害拠点病院
04　小児救命救急センター
05　小児救急医療拠点病院
06　総合周産期母子医療センター
07　地域周産期母子医療センター
08　精神科救急情報センター
09　上記のいずれも該当しない

■　下記問9については、貴院が二次救急医療機関に該当する場合のみご回答ください。

問９　貴院の二次救急医療体制についてお伺いします。

9-1　該当する二次救急医療体制について（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号すべてに○）

01　病院群輪番制※1　　**02**　拠点型※2　　**03**　共同利用型※3

■　上記 9-1 で「01 病院群輪番制」を選択した場合、当番となる頻度についてご回答ください。

9-1-1　当番となる頻度　（該当する番号１つに○）

01　月に１回未満
02　月に１回～４回
03　月に５回～８回
04　月に９回～12 回
05　月に 13 回以上

※1．病院群輪番制　：地域内の病院群が共同連帯して、輪番方式により救急患者の受入態勢を整えている場合をいう。
※2．拠点型　：病院群輪番制の一つで、365 日に入院を要する救急患者の受入体制を整えている場合をいう（いわゆる「固定輪番制」や「固定通年制」等も含む）。
※3．共同利用型　：医師会立病院等が休日夜間に病院の一部を開放し、地域医師会の協力により実施するものをいう。

問 10　貴院の以下の時間帯における救急医療に従事する実人数及び患者数についてお伺いします。

※二次救急医療機関は当番日の状況について、平均人数をご回答ください。
※二次救急医療機関以外の病院は、2019 年 3 月の 1 か月間の実績に基づいて、平均人数をご回答ください。
※平均値を算出する場合は、小数第 1 位まで(小数点第 2 位を切り上げ)をご記入ください。

10-1　救急外来に従事する実人数	平日準夜帯※1	平日深夜帯※2	休日日勤帯※3
① 救急外来担当専従の医師	人	人	人
② 病棟業務と救急外来業務の兼務の医師	人	人	人
③ オンコールの医師	人	人	人
④ 救急外来担当専従の看護職員	人	人	人
⑤ 病棟業務と救急外来業務の兼務の看護職員	人	人	人

※1．準夜帯：１６時～２４時　※2．深夜帯：０時～８時　※3．日勤帯：８時～１６時

10-2　救急外来患者数	平日準夜帯※1	平日深夜帯※2	休日日勤帯※3
① 救急搬送で診療した患者数	人	人	人
② 救急搬送以外で診療した患者数	人	人	人

※1．準夜帯：１６時～２４時　※2．深夜帯：０時～８時　※3．日勤帯：８時～１６時

問 11　貴院の抗菌薬適正使用支援加算の届出状況などについてお伺いします。

11-1　抗菌薬適正使用支援加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　抗菌薬適正使用支援加算を届出ている　　**02**　抗菌薬適正使用支援加算を届出ていない

■ 下記問 11-2～問 11-11 については、上記問 11-1で「01 抗菌薬適正使用支援加算を届出ている」を選択した場合のみご回答ください。

11-2　AST※1の専従となっている職種（ICT※2と併任しても差し支えない）（2019 年 6 月 1 日時点）
（該当する番号すべてに○）

01　医師
02　看護師
03　薬剤師
04　臨床検査技師
05　事務
06　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

※１．AST：Antimicrobil Stewardship Team（抗菌薬適正使用支援チーム）
※２．ICT：Infection Control Team（感染制御チーム）

11-3　院内で細菌検査ができる体制※1の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　院内で細菌検査ができる体制あり　　**02**　院内で細菌検査ができる体制なし

※１．自施設において、血液、尿、痰、膿、その他の細菌培養、同定、薬剤感受性検査が実施できる体制が整っていること。

11-4　院内のすべての診療科から、抗菌薬使用等の感染症診療に関する診療支援を受けることができる体制の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　診療支援を受けることができる体制あり　　**02**　診療支援を受けることができる体制なし

11-5　抗真菌薬・抗菌薬（注射用、点滴用、筋注用）の院内使用状況の AST による把握（2019 年 6 月 1 日時点）
（該当する番号すべてに○）

01　カルバペネム系抗菌薬
02　４世代セファロスポリン系抗菌薬
03　タゾバクタム・ピペラシリン
04　抗 MRSA 薬（グリコペプチド系、オキサゾリジノン系、ダプトマイシン等）
05　アミノグリコシド系抗菌薬
06　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

11-6　抗菌薬適正使用支援に関するカンファレンスを行っている頻度（2019 年 6 月 1 日時点）（該当する番号１つに○）

01　毎日
02　週２～３回
03　週１回
04　週１回未満

11-7　抗菌薬の副作用※1について、AST が把握する体制の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　抗菌薬の副作用把握体制あり　　**02**　抗菌薬の副作用把握体制なし

※１．アレルギー・薬疹、腎障害、肝障害等

11-8　院内のアンチバイオグラム※1の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　院内のアンチバイオグラムあり　　**02**　院内のアンチバイオグラムなし

※１．アンチバイオグラムは、少なくとも年毎に入院検体及び外来検体に分けて更新されている場合に限る。

11-9 平成 30 年度において、院内で抗菌薬使用等に関する講習会を実施した実績 （該当する番号１つに○）

01 週１回
02 月１回
03 半年に１回
04 年１回
05 なし

11-10 AST の院内の役割 （該当する番号すべてに○）

01 診療相談があった症例に対して助言を行う
02 特定抗菌薬の使用例について使用状況を確認し、診療相談がなくても必要に応じて助言を行う
03 微生物検査結果（血液培養陽性例等）に応じて、診療相談がなくても必要に応じて助言を行う
04 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

11-11 直近３か月において、周辺地域の医療機関から抗菌薬選択等の感染症診療に関する相談に応じた実績
（該当する番号１つに○）

01 ７件以上
02 ３～６件
03 １～２件
04 実績なし

問 12　貴院の病棟等に関する今後の届出の意向についてお伺いします。

◆ 【現時点の状況】では、2019 年 6 月 1 日時点の状況についてご回答ください。【今後の意向】では、今後の入院基本料別の病床数の増減の意向について、貴院の考えに最も近いものに○を１つ付けてください。

12-1　今後の入院基本料別の病床数の増減の意向 (該当する番号それぞれ１つに○)	【現時点の状況】届出の有無		【今後の意向】 入院基本料別の病床数の増減の意向 （左記届出の有無で「01 届出あり」を選択した場合は上段の選択肢、「02 届出なし」を選択した場合は下段の選択肢にご回答ください）
① 急性期一般入院料１	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
② 急性期一般入院料２	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
③ 急性期一般入院料３	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
④ 急性期一般入院料４	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑤ 急性期一般入院料５	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑥ 急性期一般入院料６	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑦ 急性期一般入院料７	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑧ 地域一般入院基本料	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑨ 専門病院入院基本料（７対１）	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑩ 専門病院入院基本料（10 対１）	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑪ 特定機能病院入院基本料（一般病棟７対１）	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持
⑫ 特定機能病院入院基本料（一般病棟 10 対１）	01 届出あり	⇒	01 増床　02 現状を維持　03 削減（転換を除く）　04 一部を他の病棟・病室へ転換　05 全てを他の病棟・病室へ転換
	02 届出なし		01 新設　02 現状を維持

■ 上記 12-1【今後の意向】で「04 一部を他の病棟・病室へ転換」または「05 全てを他の病棟・病室へ転換」を選択した場合、現在届出ている入院基本料から転換を検討している病棟の状況およびその理由をご回答ください。

12-1-1 現在届出ている入院基本料から転換を検討している病棟の状況	検討している転換先（該当する病棟等すべてに○）	転換を検討している病床数	転換を検討している理由（下記の選択肢から優先度が高い順に該当する理由３つを記入）
① 急性期一般入院料1の病棟へ転換		床	， ，
② 急性期一般入院料2の病棟へ転換		床	， ，
③ 急性期一般入院料3の病棟へ転換		床	， ，
④ 急性期一般入院料4の病棟へ転換		床	， ，
⑤ 急性期一般入院料5の病棟へ転換		床	， ，
⑥ 急性期一般入院料6の病棟へ転換		床	， ，
⑦ 急性期一般入院料7の病棟へ転換		床	， ，
⑧ 地域一般入院基本料の病棟へ転換		床	， ，
⑨ 回復期リハビリテーション病棟へ転換		床	， ，
⑩ 地域包括ケア病棟へ転換		床	， ，
⑪ 一部を地域包括ケア入院医療管理料の病室へ転換		床	， ，
⑫上記以外の病棟・病室へ転換		床	， ，
⑬ 具体的な病棟種別等は未定		床	

◆ 以下は、上記 12-1-1 の「転換を検討している理由」の選択肢です。該当する記号を「転換を検討している理由」の回答欄にご記入ください。

（12-1-1「転換を検討している理由」の選択肢） 現在届出ている入院基本料から転換を検討している理由

- **a** 実際の患者の状態に、より即した入院料等が設定されているため
- **b** 他の病棟等へ転換することで、より地域のニーズに応えることができるため
- **c** 一般病棟入院基本料（７対１、10 対１）が急性期一般入院料に再編・統合され転換負担が緩和されたため
- **d** 看護師の確保が困難なため
- **e** 重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者が現在届出ている病棟又は入院料等と合わなくなってきたため
- **f** 平均在院日数の基準を満たすことが困難なため
- **g** 在宅復帰率の基準を満たすことが困難なため
- **h** 他の病棟等へ転換することで経営が安定するため
- **i** 他の病棟等へ転換することで、職員のモチベーションが向上するため
- **j** 他の病棟等へ転換することで、職員の負担軽減につながるため
- **k** その他

■ 下記問 13 については、貴院が改定前に一般病棟入院基本料(7対1入院基本料)を届出ていた場合のみご回答ください。

問 13　貴院が改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に一般病棟入院基本料（７対１）を届出ていた病棟の現時点の状況についてお伺いします。

13-1 改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に一般病棟入院基本料（７対１）を届出ていた病棟の状況		病棟数	届出病床数
改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に一般病棟入院基本料（７対１）を届出ていた病棟		棟	床
2019年6月1日時点の内訳	① 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料1を届出	棟	床
	② 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料2を届出	棟	床
	③ 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料3を届出	棟	床
	④ 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料4を届出	棟	床
	⑤ 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料5を届出	棟	床
	⑥ 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料6を届出	棟	床
	⑦ 2019 年 6 月 1 日時点、急性期一般入院料7を届出	棟	床
	⑧ 2019 年 6 月 1 日時点、地域一般入院基本料の病棟へ転換	棟	床
	⑨ 2019 年 6 月 1 日時点、回復期リハビリテーション病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑩ 2019 年 6 月 1 日時点、地域包括ケア病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑪ 2019 年 6 月 1 日時点、一部を地域包括ケア入院医療管理料の病室へ転換	室	床
	⑫ 2019 年 6 月 1 日時点、上記以外の病棟・病室へ転換	棟／室	床
	⑬ 2019 年 6 月 1 日時点、休床としている病床		床

■ 上記 13-1 で①に記入した場合、急性期一般入院料１を届出ている理由についてご回答ください。

13-1-1 急性期一般入院料１を届出ている理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	改定前の一般病棟（７対１）相当の看護職員配置が必要な入院患者が多い（医療需要がある）ため	
02	急性期一般入院料１以外の病棟へ転換すると、地域で連携している医療機関からの要請に応えられなくなる懸念があるため	
03	施設基準を満たしており、特に転換する必要性を認めないため	
04	現在、急性期一般入院料１に応じた職員を雇用しており、転換することで余剰職員が発生するため	
05	急性期一般入院料１の方が、他の病棟等と比較して経営が安定するため	
06	急性期一般入院料１以外の病棟へ転換すると、職員のモチベーションが低下するため	
07	急性期一般入院料１以外の病棟へ転換すると、職員の負担が増加する懸念があるため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記 13-1 で②または③に記入した場合、一般病棟（7 対 1）から急性期一般入院料２または３を届出ている病棟へ転換した理由についてご回答ください。**

13-1-2 一般病棟（7 対 1）から急性期一般入院料２または３を届出ている病棟へ転換した理由
（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	７対１より 10 対１の看護職員配置が適切だと思われる入院患者が多い（医療需要がある）ため	
02	一般病棟（７対１）から転換することで、より地域で連携している医療機関からの要請に応えられる医療を提供できるため	
03	実際の患者の状態に、より即した入院料が設定されたため	
04	看護師の確保が困難なため	
05	重症度、医療・看護必要度の基準を満たすことが困難なため	
06	平均在院日数の基準を満たすことが困難なため	
07	在宅復帰率の基準を満たすことが困難なため	
08	転換した方が経営が安定するため	
09	一般病棟（７対１）から転換することで、職員のモチベーションが向上するため	
10	一般病棟（７対１）から転換することで、職員の負担軽減につながるため	
11	その他（＿＿＿

問 14　貴院の入院時支援加算の届出状況などについてお伺いします。

14-1　入院時支援加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　入院時支援加算を届出ている　　**02**　入院時支援加算を届出ていない

■ **上記 14-1 で「01 入院時支援加算を届出ている」を選択した場合、入院前支援を行う職員数をご回答ください。**

14-1-1　入退院支援部門に従事する職員のうち入院前支援を行う職員数（2019 年 6 月 1 日時点）	専　従	専　任
① 看護師	人	人
② 社会福祉士	人	人
③ その他の職種（　　）	人	人

■ **上記 14-1 で「01 入院時支援加算を届出ている」を選択した場合、入院時支援加算の算定件数をご回答ください。**

14-1-2　入院時支援加算の算定件数（2019 年 1 月～3 月の 3 か月間）

入院時支援加算の算定件数		件
入院前に実施した事項	① 身体的・社会的・精神的背景を含めた患者情報の把握（必須）	件
	② 入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握（該当する場合必須）	件
	③ 褥瘡に関する危険因子の評価	件
	④ 栄養状態の評価	件
	⑤ 服薬中の薬剤の確認	件
	⑥ 退院困難な要因の有無の評価	件
	⑦ 入院中に行われる治療・検査の説明	件
	⑧ 入院生活の説明（必須）	件

■ **上記 14-1-2 で③～⑦に記載の人数のうち、「入院時支援加算の算定件数」を下回る項目がある場合、その理由をご回答ください。**

14-1-2-1　入院時支援加算の算定にあたり実施していない事項があった理由　（該当する番号すべてに○）

01　全ての項目を入院前に実施する必要がなかったため

02　配置されている人数の看護師又は社会福祉士のみでは、全ての項目を実施するのは困難であったため

03　全ての項目を実施するには他職種（医師、薬剤師、管理栄養士等）の協力が必要であったため

04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 14-1-2 で「入院時支援加算の算定件数」が 1 件以上の場合、入院予定先の病棟職員との療養支援の計画の共有方法についてご回答ください。**

14-1-2-2　入院予定先の病棟職員との療養支援の計画の共有方法　（該当する番号すべてに○）

01　電子カルテにより計画を共有している

02　入退院支援部門から病棟に計画を送付している

03　対面によるカンファレンス等により計画を共有している

04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 14-1 で「01 入院時支援加算を届出ている」を選択した場合、当該加算の届出による効果等をご回答ください。**

14-1-3 入院時支援加算の届出によりもたらされた効果等 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	治療や入院生活に対する患者の理解度が上がった	
02	退院調整にかかる期間が短くなった	
03	病棟での入院時の受入における患者への治療方針等の説明に係る負担が減った	
04	病棟での入院時の受入における入院生活等の説明に係る負担が減った	
05	患者の身体的・社会的・精神的背景を踏まえた療養環境の整備が入院前に実施できるようになった	
06	入院前に利用していたサービスが把握できることで、退院先の見通しが立てやすくなった	
07	入院前の服薬状況を踏まえた治療方針が立てられるようになった	
08	褥瘡・栄養スクリーニング結果に応じた治療方針が立てやすくなった	
09	入退院支援加算に係る退院困難な要因を有している患者の抽出が容易となった	
10	より多くの患者に対して入院前支援を実施できるようになった	
11	患者及び家族への説明や面会の頻度を増やすことができるようになった	
12	特になかった	
13	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記 14-1 で「02 入院時支援加算を届出ていない」を選択した場合、その理由をご回答ください。**

14-1-4 入院時支援加算を届出ることが困難な理由 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	入退院支援及び地域連携業務に関する十分な経験を有する専従の看護師の配置が困難なため	
02	入退院支援及び地域連携業務に関する十分な経験を有する専任の看護師及び社会福祉士の配置が困難なため	
03	地域連携を行う十分な体制が整備できていないため	
04	自宅等から入院する予定入院患者が少ないため	
05	入退院支援加算を算定する患者がいないため	
06	緊急入院が多く事前の入院支援が行えないため	
07	他院の外来受診の後の予定入院患者が多いため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記 14-1 で「02 入院時支援加算を届出ていない」を選択した場合、今後の届出の意向についてご回答ください。**

14-1-5 入院時支援加算の今後の届出の意向 （該当する番号１つに○）

01 届出を予定している
02 届出する予定はない
03 未定・分からない

問 15　貴院の認知症ケア加算の届出状況についてお伺いします。

15-1　認知症ケア加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　認知症ケア加算１を届出ている
02　認知症ケア加算２を届出ている
03　届出ていない

■ 上記 15-1 で「02 認知症ケア加算２を届出ている」または「03 届出ていない」を選択した場合、認知症ケア加算１を届出ていない理由をご回答ください。

15-1-1　認知症ケア加算１を届出ていない理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	認知症ケアチームの要件である精神科又は神経内科の経験を 5 年以上有する専任の常勤医師を確保できないため	
02	認知症ケアチームの要件である適切な研修を修了した専任の常勤医師を確保できないため	
03	認知症ケアチームの要件である認知症患者の看護に従事した経験を 5 年以上有する専任の常勤看護師を確保できないため	
04	認知症ケアチームの要件である適切な研修を修了した専任の常勤看護師を確保できないため	
05	認知症ケアチームの要件である専任の常勤社会福祉士又は精神保健福祉士（退院調整の経験または介護支援専門員）を確保できないため	
06	認知症患者のケアに係るカンファレンス（週 1 回程度）ができないため	
07	各病棟における認知症患者に対するケアの実施状況の把握等の実施（週 1 回以上）ができないため	
08	身体的拘束の実施基準の作成・見直しができないため	
09	鎮静を目的とした薬物の適正使用等の基準の作成・見直しができないため	
10	認知症ケアに係る手順書の作成・見直しができないため	
11	認知症患者に関わる職員を対象とした認知症患者のケアに関する研修の定期的な実施ができないため	
12	入院患者に認知症患者が多くないため	
13	入院患者に認知症患者がいないため	
14	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 上記 15-1 で「03 届出ていない」を選択した場合、認知症患者に対して実施している取組をご回答ください。（※ 入院患者に認知症患者がいない場合は回答不要）

15-1-2　認知症患者に対して実施している取組　（該当する番号すべてに○）

01　認知症症状を考慮して、適切な環境調整やコミュニケーション方法等を踏まえた看護計画を作成
02　認知症症状を考慮したケアを実施・評価
03　病棟の看護師等に対して、認知症ケアに関する研修や事例検討を実施（年 1 回以上）
04　身体的拘束のマニュアルを作成
05　身体的拘束をした場合に、解除に向けた検討を 1 日に 1 度は実施
06　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問 16　貴院の患者サポート体制充実加算の届出状況についてお伺いします。

16-1　患者サポート体制充実加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　患者サポート体制充実加算を届出ている
02　患者サポート体制充実加算を届出ていない

■ **上記 16-1 で「02 患者サポート体制充実加算を届出ていない」を選択した場合、今後の届出の意向についてご回答ください。**

16-1-1　患者サポート体制充実加算の今後の届出の意向（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　届出を予定している
02　届出する予定はない
03　未定・分からない

16-2　患者対応窓口の対応状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　入院患者のみ対応している
02　外来患者のみ対応している
03　入院患者・外来患者ともに対応している
04　その他（　　）

16-3　患者対応窓口の主たる人員配置（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　医師が対応
02　看護師が対応
03　薬剤師が対応
04　社会福祉士が対応
05　その他（　　）

◆ **入院医療における課題などについて、ご意見があれば下欄にご記入ください。**

設問は以上です。ご協力 誠にありがとうございました。
記入漏れがないかをご確認の上、●年●月●日（●）までに、
同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

厚生労働省　中央社会保険医療協議会　入院医療等の調査・評価分科会　2019 年度調査

入院医療等における実態調査

病 棟 調 査 票 （ Ａ ）

- 特に指定がある場合を除いて、2019 年 6 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する方・施設等が無い場合は、「0」(ゼロ)をご記入下さい。

■　施設ＩＤ、病棟ＩＤをご記入下さい。

施設ＩＤ		病棟ＩＤ	

問１　貴病棟の診療科目、入院基本料についてお伺いします。

1-1 診療科目（2019 年 6 月 1 日時点）　（最も近似する診療科を主なもの３つまで○）

01	内科	**06**	脳神経外科	**11**	泌尿器科
02	小児科	**07**	産婦人科	**12**	放射線科
03	精神科	**08**	眼科	**13**	リハビリテーション科
04	外科	**09**	耳鼻咽喉科	**14**	歯科（歯科口腔外科等含む）
05	整形外科	**10**	皮膚科	**15**	その他（＿＿＿＿＿）

1-2 入院基本料（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01	急性期一般入院料１	**05**	急性期一般入院料５	**11**	専門病院入院基本料（７対１）
02	急性期一般入院料２	**06**	急性期一般入院料６	**12**	専門病院入院基本料（10 対１）
03	急性期一般入院料３	**07**	急性期一般入院料７	**13**	専門病院入院基本料（13 対１）
04	急性期一般入院料４	**08**	地域一般入院料１	**14**	特定機能病院入院基本料（一般病棟７対１）
05	急性期一般入院料５	**09**	地域一般入院料２	**15**	特定機能病院入院基本料（一般病棟 10 対１）
06	急性期一般入院料６	**10**	地域一般入院料３		

問２　貴病棟の基本情報についてお伺いします。

2-1 貴病棟の届出病床数（2019 年 6 月 1 日時点）

貴病棟の届出病床数	**床**

2-2 貴病棟に配置されている職員数（専従換算※1）（2019 年 6 月 1 日時点）

① 看護師	**. 人**	**⑦ 作業療法士**	**. 人**
② 准看護師	**. 人**	**⑧ 言語聴覚士**	**. 人**
③ 看護補助者	**. 人**	**⑨ 相談員**	**. 人**
（うち）介護福祉士	**. 人**	**（うち）社会福祉士**	**. 人**
④ 薬剤師	**. 人**	**（うち）精神保健福祉士**	**. 人**
⑤ 管理栄養士	**. 人**	**⑩ 医師事務作業補助者**	**. 人**
⑥ 理学療法士	**. 人**	**⑪ その他の職員**	**. 人**

※１．職員数の専従換算の算出方法
貴院の常勤職員の１週間の所定労働時間を基本として、下記のように専従換算して小数第１位まで（小数点第２位を切り上げ）を記入。
例：常勤職員の１週間の所定労働時間が 40 時間の病院で、貴病棟にて週４日（各日３時間）従事している場合

$$専従換算した職員数＝\frac{4日×3時間×1人}{40時間}＝0.3人$$

2-3 新入棟患者数、新退棟患者数等（２時点比較）	新入棟患者数	新退棟患者数	在院患者延べ日数
改定前（2018 年 3 月の 1 か月間）	人	人	日
改定後（2019 年 3 月の 1 か月間）	人	人	日

2-4 貴病棟における在宅復帰率、平均在院日数（２時点比較）	在宅復帰率※1	平均在院日数
改定前（2018 年 3 月）の貴病棟における在宅復帰率等	. %	. 日
改定後（2019 年 3 月）の貴病棟における在宅復帰率等	. %	. 日

※1．「在宅復帰率」＝A÷B ： A．該当する病棟から、自宅、居住系介護施設等（介護医療院を含む）、回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟・病室、療養病棟、有床診療所、老健施設へ退院した患者（死亡退院患者・転棟患者・再入院患者を除く）、B．該当する病棟から、退棟した患者（死亡退院患者・転棟患者・再入院患者を除く）。

2-5 貴病棟における病床利用率（２時点比較）	病床利用率※1
改定前（2018 年 3 月）の貴病棟における病床利用率	. %
改定後（2019 年 3 月）の貴病棟における病床利用率	. %

※1．「病床利用率」＝A÷B ： A．3 月の在院患者延数 × 100 、B．届出病床数 × 31

問３　2018 年度診療報酬改定における、重症度、医療・看護必要度の見直しの影響等についてお伺いします。

3-1 重症度、医療・看護必要度について（2019 年 3 月 1 日時点）	（該当する番号１つに○）
届出している重症度、医療・看護必要度の種別	**01** Ⅰ　**02** Ⅱ

3-2 貴病棟における重症度、医療・看護必要度ⅠまたはⅡに係る基準を満たす患者割合※1（２時点比較）	
改定前（2018 年 1 月～3 月）の重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合	. %
改定後（2019 年 1 月～3 月）の重症度、医療・看護必要度Ⅰに係る基準を満たす患者割合※2	. %
改定後（2019 年 1 月～3 月）の重症度、医療・看護必要度Ⅱに係る基準を満たす患者割合※2	. %

※1．改定前の患者割合は改定前の基準にしたがって算出した値を、改定後の患者割合は改定後の基準（Ⅰ及びⅡ）にしたがって算出した値をご記入ください。
※2．届出に関わらず、重症度、医療・看護必要度Ⅰ及びⅡの両方を算出している場合には該当患者割合をそれぞれご記入ください。

問４　貴病棟の入院患者数についてお伺いします。

4-1 貴病棟の入院患者数	2019 年 6 月 1 日時点
貴病棟の入院患者数	人

4-2 認知症高齢者の日常生活自立度別患者数	2019 年 6 月 1 日時点
① 自立	人
② ランクⅠ	人
③ ランクⅡa	人
④ ランクⅡb	人
⑤ ランクⅢa	人
⑥ ランクⅢb	人
⑦ ランクⅣ	人
⑧ ランクM	人

問５　貴病棟のせん妄予防に関する取組ついてお伺いします。

5-1　入院患者に対するせん妄のリスク評価や予防の取組の有無　（該当する番号１つに○）

01　取組あり　　**02**　取組なし

■ **上記5-1で「01　取組あり」を選択した場合、以下の問にご回答ください。**

5-1-1　せん妄のリスク評価の実施時期　（該当する番号１つに○）

01　入院時又は入院後早期に一律に行っている
02　せん妄を疑う際に行っている
03　特にタイミングを決めていない
04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

5-1-2　せん妄のリスク評価を行っている職種　（該当する番号すべてに○）

01　医師
02　歯科医師
03　看護師
04　薬剤師
05　管理栄養士
06　理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
07　社会福祉士
08　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

5-1-3　せん妄のリスク評価にあたり用いているチェックリスト等の有無　（該当する番号１つに○）

01　用いている　　**02**　用いていない

■ **上記5-1-3で「01　用いている」を選択した場合、チェックリストの種類についてご回答ください。**

5-1-3-1　チェックリストの種類　（該当する番号１つに○）

01　関係学会等より示されているチェックリスト（名称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
02　病院において独自に作成されたチェックリスト
03　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記5-1で「01　取組あり」を選択した場合、以下の問にご回答ください。**

5-1-4　せん妄のハイリスク群に対する予防的介入について　（該当する番号１つに○）

01　行っている　　**02**　行っていない

■ **上記5-1-4で「01　行っている」を選択した場合、取組内容についてご回答ください。**

5-1-4-1　取組内容の種類　（該当する番号１つに○）

01　非薬物療法（環境調整等）を中心に行っている
02　薬物療法（予防的投薬）を中心に行っている
03　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記5-1-4-1で「01　非薬物療法（環境調整等）を中心に行っている」を選択した場合、取組内容についてご回答ください。**

5-1-4-1-1　取組内容の種類　（該当する番号すべてに○）

01　見当識（日時や場所等）の確認
02　疼痛コントロールの徹底
03　離床の促進
04　脱水の予防
05　せん妄のリスクとなる薬剤（ベンゾジアゼピン系等）の中止
06　観察への家族の参加を促す
07　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ 上記5-1で「02　取組なし」を選択した場合、以下の問にご回答ください。

5-1-5 取組を行っていない理由　（該当する番号すべてに○）

01 せん妄のリスク評価や予防を必要とする患者が少ない
02 リスク評価や予防を行うのに十分な数の職員がいない
03 リスク評価や予防を行うことができる職員が少ない
04 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問6　貴病棟の総合評価加算の算定状況についてお伺いします。

6-1 総合評価加算の算定の有無（2019年1月～3月の3ヶ月間）　（該当する番号１つに○）

01 算定有り　　**02** 算定無し

■ 上記6-1で「01　算定有り」を選択した場合、算定患者数などについてご回答ください。

6-1-1 総合評価加算の算定患者数　＿＿＿＿＿＿　人

6-1-2 患者の総合的な機能評価のための測定を行っている職種　（該当する番号すべてに○）

01 医師　　**05** 管理栄養士
02 歯科医師　　**06** 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
03 看護師　　**07** 社会福祉士
04 薬剤師　　**08** その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

6-1-3 総合的な機能評価のための測定に用いているチェックリスト等の有無　（該当する番号１つに○）

01 用いている　　**02** 用いていない

■ 上記6-1-3で「01　用いている」を選択した場合、チェックリストの種類についてご回答ください。

6-1-3-1 チェックリストの種類　（該当する番号１つに○）

01 関係学会等より示されているチェックリスト（名称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
02 病院において独自に作成されたチェックリスト
03 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ 上記6-1で「01　算定有り」を選択した場合、参考にしているガイドラインについてご回答ください。

6-1-4 総合的な機能評価の実施にあたり参考にしているガイドラインの有無　（該当する番号１つに○）

01 ある　　**02** ない　　**03** わからない

■ 上記6-1-4で「01　ある」を選択した場合、ガイドラインの名称をご回答ください。

6-1-4-1 ガイドラインの名称　＿＿＿＿＿＿

■ 上記6-1で「02　算定無し」を選択した場合、算定していない理由についてご回答ください。

6-1-5 算定していない理由　（該当する番号すべてに○）

01 算定対象となる患者※1が少ない
02 総合的な評価を必要とする患者が少ない
03 総合的な機能評価に係る測定を行うことができる十分な数の職員がいない
04 総合的な機能評価に係る適切な研修を修了した医師又は歯科医師がいない
05 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

※1．介護保険法施行令第２条各号に規定する疾病を有する40歳以上65歳未満の者又は65歳以上の者。

問７　貴病棟の退院時共同指導料２、退院前訪問指導料、退院後訪問指導料の算定状況についてお伺いします。

7-1　退院時共同指導料２の算定の有無（2019 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間）　（該当する番号１つに○）

01　算定有り　　**02**　算定無し

■ **上記 7-1 で「01　算定有り」を選択した場合、算定患者数、算定回数をご回答ください。**

7-1-1　退院時共同指導料２、多機関共同指導加算などの算定患者数、算定回数など

① 退院時共同指導料２の算定患者数・算定回数	人	回
（うち）医療資源が少ない地域でやむを得ない事情等があり、リアルタイムでの画像を介したコミュニケーション（ビデオ通話）が可能な機器を用いて共同指導を行った場合	人	回
② 多機関共同指導加算の算定患者数・算定回数	人	回
（うち）やむを得ない事情により関係者のいずれかが患者が入院している医療機関に赴けず、リアルタイムでの画像を介したコミュニケーション（ビデオ通話）が可能な機器を用いて共同指導を行った場合	人	回

■ **上記 7-1-1①でビデオ通話を用いた共同指導が 0 人の場合、当該共同指導を行っていない理由についてご回答ください。**

7-1-1-1　ビデオ通話を用いた共同指導を行っていない理由　（該当する番号すべてに○）

01　ビデオ通話を用いた共同指導を行う必要性がないため
02　医療資源の少ない地域ではないため
03　（対面ではなく、ビデオ通話でもよいとされる）やむを得ない事情がないため
04　ビデオ通話に対応できる環境がないため
05　先方にビデオ通話に対応できる環境がないため
06　ビデオ通話での共同指導を行えるほどの関係性を先方との間で構築できていないため
07　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 7-1 で「01　算定有り」を選択した場合、共同で行った職種について、該当する職種を全てご回答ください。**

7-1-2　共同で行った職種　（該当する番号すべてに○）

01　医師
02　保健師、助産師、看護師、准看護師
03　薬剤師
04　管理栄養士
05　理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
06　社会福祉士
07　その他１（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
08　その他２（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 7-1-2 で回答した、退院時共同指導を共同で行った職種について、a．１回の共同指導にかかった平均的な時間、b．１回の共同指導の文書作成にかかった平均的な時間をご回答ください。**

7-1-2-1　共同指導・文書作成の時間　（該当する職種ごとに a．b．の該当箇所１つに○）

共同で行った職種	a．1 回の共同指導にかかった平均的な時間※1				b．1 回の共同指導の文書作成にかかった平均的な時間※2			
	20 分未満	20 分以上 40 分未満	40 分以上 60 分未満	60 分以上	20 分未満	20 分以上 40 分未満	40 分以上 60 分未満	60 分以上
① 医師								
② 保健師、助産師、看護師、准看護師								
③ 薬剤師								
④ 管理栄養士								
⑤ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士								
⑥ 社会福祉士								
⑦ その他１								
⑧ その他２								

■ **上記7-1で「02　算定無し」を選択した場合、算定していない理由をご回答ください。**

7-1-3 退院時共同指導料２を算定していない理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	対象者がいないため	
02	患者の同意が得られないため	
03	病棟で対応できる職員がいないため	
04	在宅療養担当の医療機関の職員の共同が困難であるため	
05	訪問看護ステーションの保健師、助産師、看護師との共同が困難であるため	
06	患者からのニーズがないため	
07	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

※１．患者への説明・指導に要した時間のみでなく、事前や事後の打ち合わせ等の時間も含んだ時間とします。（ただし、文書作成にかかる時間は含まない。）

※２．退院時共同指導料２の要件において、患者に対して文書により情報提供を行う旨が規定されており、その文書作成にかかった時間を指します。

7-2 退院前訪問指導料の算定の有無（2019 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間） （該当する番号１つに○）

01 算定有り　　**02** 算定無し

■ **上記 7-2 で「01 算定有り」を選択した場合、算定患者数、算定回数をご回答ください。**

7-2-1 退院前訪問指導料の算定患者数、算定回数

① 退院前訪問指導料の算定患者数	人
② 退院前訪問指導料の算定回数	回

■ **上記 7-2 で「01 算定有り」を選択した場合、訪問した職種について、該当する職種を全てご回答ください。**

7-2-2 訪問した職種 （該当する番号すべてに○）

01 医師
02 保健師
03 看護師
04 薬剤師
05 管理栄養士
06 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
07 社会福祉士
08 その他１（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
09 その他２（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 7-2-2 で回答した、退院前訪問指導を実施した職種について、ａ．１回の訪問にかかった平均的な時間、ｂ．うち患者・家族の指導にかかった平均的な時間をご回答ください。**

7-2-2-1 訪問・指導の時間 （該当する職種ごとに ａ．ｂ．の該当箇所１つに○）

訪問した職種	ａ．１回の訪問にかかった平均的な時間※1				ｂ．うち患者・家族の指導にかかった平均的な時間			
	20 分未満	20 分以上 40 分未満	40 分以上 60 分未満	60 分以上	20 分未満	20 分以上 40 分未満	40 分以上 60 分未満	60 分以上
① 医師								
② 保健師								
③ 看護師								
④ 薬剤師								
⑤ 管理栄養士								
⑥ 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士								
⑦ 社会福祉士								
⑧ その他１								
⑨ その他２								

■ **上記 7-2 で「02 算定無し」を選択した場合、算定していない理由をご回答ください。**

7-2-3 退院前訪問指導料を算定していない理由 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01 在宅療養上指導を必要とする対象者がいないため	
02 医師又は看護師等が配置されている施設に入所予定であり対象にならないため	
03 保健師や看護師が訪問指導に従事すると、入院基本料等の施設基準を満たせなくなるため	
04 理学療法士や作業療法士等が訪問指導に従事すると、施設基準を満たせなくなるため	
05 業務が多忙であり、指導を行う職員が指導時間を確保できないため	
06 地域において患者の退院後の在宅療養を担う保険医療機関の保険医又は当該保険医の指示を受けた看護師等と連携しているため	
07 患者からのニーズがないため	
08 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

※１．往復の移動時間も含む。

7-3 退院後訪問指導料の算定の有無（2019 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間） （該当する番号１つに○）

01 算定有り　　**02** 算定無し

■ **上記 7-3 で「01 算定有り」を選択した場合、算定患者数、算定回数をご回答ください。**

7-3-1 退院後訪問指導料の算定患者数、算定回数

① 退院後訪問指導料の算定患者数	**人**
② 退院後訪問指導料の算定回数	**回**

■ **上記 7-3 で「01 算定有り」を選択した場合、訪問した職種について、該当する職種を全てご回答ください。**

7-3-2 訪問した職種 （該当する番号すべてに○）

01 医師
02 保健師、助産師、看護師
03 その他１（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
04 その他２（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
05 その他３（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 7-3-2 で回答した、退院後訪問指導を実施した職種について、ａ．１回の訪問にかかった平均的な時間、ｂ．うち患者・家族の指導にかかった平均的な時間をご回答ください。**

7-3-2-1 訪問・指導の時間 （該当する職種ごとに ａ．ｂ．の該当箇所１つに○）

訪問した職種	ａ．１回の訪問にかかった平均的な時間※1				ｂ．うち患者・家族の指導にかかった平均的な時間			
	20 分未満	20 分以上 40 分未満	40 分以上 60 分未満	60 分以上	20 分未満	20 分以上 40 分未満	40 分以上 60 分未満	60 分以上
① 医師								
② 保健師、助産師、看護師								
③ その他１※2								
④ その他２※2								
⑤ その他３※2								

■ **上記 7-3 で「02 算定無し」を選択した場合、算定していない理由をご回答ください。**

7-3-3 退院後訪問指導料を算定していない理由 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01 在宅療養上指導を必要とする対象者がいないため	
02 医師又は看護師等が配置されている施設に入所予定であり対象にならないため	
03 保健師、助産師、看護師が訪問指導に従事すると、入院基本料等の施設基準を満たせなくなるため	
04 業務が多忙であり、指導を行う職員が指導時間を確保できないため	
05 地域において患者の退院後の在宅療養を担う保険医療機関の保険医又は当該保険医の指示を受けた看護師等に引き継いだため	
06 患者からのニーズがないため	
07 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

※１．往復の移動時間も含む。
※２．医師、保健師、助産師、看護師の他に同行している職種があればご記入ください。

問８　貴病棟の排尿自立指導料の算定状況についてお伺いします。

8-1　排尿自立指導料の算定の有無（2019 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間）　（該当する番号１つに○）

01　算定有り	**02**　算定無し

■ **上記８-１で「01　算定有り」を選択した場合、算定患者数、算定回数をご回答ください。**

8-1-1　排尿自立指導料の算定患者数、算定回数

①　排尿自立指導料の算定患者数	**人**
②　排尿自立指導料の算定回数	**回**

■ **上記８-１で「01　算定有り」を選択した場合、その効果についてご回答ください。**

8-1-2　排尿自立指導料の算定による効果について　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01　尿道カテーテルの留置期間の短縮	
02　排尿の自立につながった	
03　排尿の自立に向けた活動量（ADL）の向上につながった	
04　関連職種の排尿ケアに係る知識・技術及び意識の向上	
05　尿路感染症の予防	
06　在院日数の短縮	
07　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記８-１で「02　算定無し」を選択した場合、算定していない理由をご回答ください。**

8-1-3　排尿自立指導料を算定していない理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01　算定対象となる患者がいない	
02　対象となる患者はいるが、算定可能な回数を超えているため算定できない	
03　経験を有する医師の確保が困難	
04　経験及び所定の研修を修了した専任の常勤看護師の確保が困難	
05　経験を有する専任の常勤理学療法士又は専任の常勤作業療法士の確保が困難	
06　排尿ケアチームによるマニュアル作成が困難	
07　対象患者の診療を担う医師や病棟の看護師など排尿ケアチーム以外の関係する従事者からの協力が得られない	
08　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

設問は以上です。ご協力 誠にありがとうございました。
記入漏れがないかをご確認の上、2019 年●月●日（●）までに、
同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

厚生労働省　中央社会保険医療協議会　入院医療等の調査・評価分科会　2019 年度調査

入院医療等における実態調査

治療室調査票（A）

- 特に指定がある場合を除いて、2019 年 6 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する方・施設等が無い場合は、「0」(ゼロ)をご記入下さい。

■　施設ＩＤ、治療室ＩＤをご記入下さい。

施設ＩＤ		治療室ＩＤ	

問１　貴治療室の特定入院料についてお伺いします。

1-1　特定入院料 （該当する番号１つに○）	**01** 救命救急入院料１	**09** ハイケアユニット入院医療管理料１
	02 救命救急入院料２	**10** ハイケアユニット入院医療管理料２
	03 救命救急入院料３	**11** 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
	04 救命救急入院料４	**12** 小児特定集中治療室管理料
	05 特定集中治療室管理料１	**13** 新生児特定集中治療室管理料１
	06 特定集中治療室管理料２	**14** 新生児特定集中治療室管理料２
	07 特定集中治療室管理料３	**15** 母体・胎児集中治療室管理料
	08 特定集中治療室管理料４	**16** 新生児集中治療室管理料
		17 新生児治療回復室入院医療管理料

問２　貴治療室の基本情報についてお伺いします。

2-1 貴治療室の届出病床数（2019 年 6 月 1 日時点）	
貴治療室の届出病床数	床

2-2 貴治療室に配置されている職員数（専従換算※1）（2019 年 6 月 1 日時点）			
① 看護師	．　人	⑦ 作業療法士	．　人
② 准看護師	．　人	⑧ 言語聴覚士	．　人
③ 看護補助者	．　人	⑨ 相談員	．　人
（うち）介護福祉士	．　人	（うち）社会福祉士	．　人
④ 薬剤師	．　人	（うち）精神保健福祉士	．　人
⑤ 管理栄養士	．　人	⑩ 医師事務作業補助者	．　人
⑥ 理学療法士	．　人	⑪ その他の職員	．　人

※1．職員数の専従換算の算出方法
貴院の常勤職員の１週間の所定労働時間を基本として、下記のように専従換算して小数第１位まで（小数点第２位を切り上げ）を記入。
例：常勤職員の１週間の所定労働時間が 40 時間の病院で、貴病棟にて週４日（各日３時間）従事している場合

$$専従換算した職員数＝\frac{4日×3時間×1人}{40時間}＝0.3人$$

■　下記設問（問２-３）については、問１-１で「01～08（救命救急入院料もしくは特定集中治療室管理料）」と回答した場合にご回答ください。

2-3 専門性の高い看護師※1の配置の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）	
01 配置有り	**02** 配置無し

■ 上記２-３で「01　配置有り」を選択した場合にご回答ください。

2-3-1 配置人数、配置時間

配置人数	人
治療室内における配置時間（１週当たり延べ時間※2）（2019 年 3 月）	.　時間

2-3-2 専門性の高い看護師の配置による効果　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01 患者ケアの質の向上	
02 患者アウトカムの向上への寄与	
03 チーム医療の推進	
04 効率的なベッドコントロール	
05 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 上記２-３で「02　配置無し」を選択した場合、配置していない理由をご回答ください。

2-3-3 専門性の高い看護師を配置していない理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01 施設基準の要件になっておらず、配置の必要性がないため	
02 専門性の高い看護師が産前産後・育児・介護休業中であるため	
03 看護師の研修受講が困難であるため	
04 専門性の高い看護師を募集しても応募がないため	
05 経過措置（2020 年 3 月 31 日までの間は特定集中治療室等において 6 年以上の勤務経験を有する看護師が配置されていれば基準を満たす）に当てはまるため	
06 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 上記２-３-３で「02　専門性の高い看護師が産前産後・育児・介護休業中であるため」を選択した場合、人数をご回答ください。

2-3-3-1 産前産後・育児・介護休業中である専門性の高い看護師の人数

産前産後・育児・介護休業中である専門性の高い看護師の人数	人

※１．「専門性の高い看護師」とは、以下①～⑥のいずれかの研修を修了した看護師。
① 日本看護協会認定看護師教育課程「集中ケア」の研修／② 日本看護協会認定看護師教育課程「救急看護」の研修／③ 日本看護協会認定看護師教育課程「新生児集中ケア」の研修／④ 日本看護協会認定看護師教育課程「小児救急看護」の研修／⑤ 日本看護協会が認定している看護系大学院の「急性・重症患者看護」の専門看護師教育課程／⑥ 特定行為に係る看護師の研修制度により厚生労働大臣が指定する指定研修機関において行われる「呼吸器（気道確保に係るもの）関連」「呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」「循環動態に係る薬剤投与関連」「術後疼痛関連」「循環器関連」「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」の８区分の研修。なお、⑥については、８区分全ての研修が修了した場合に該当する。
※２．複数人配置している場合は、複数の看護師の延べ時間数を合計した値をご記入ください。

2-4 貴治療室における平均在院日数（２時点比較）	平均在院日数
改定前（2018 年 3 月）の貴治療室における平均在院日数	.　日
改定後（2019 年 3 月）の貴治療室における平均在院日数	.　日

2-5 貴病棟における病床利用率（２時点比較）	病床利用率※1
改定前（2018 年 3 月）の貴治療室における病床利用率	. %
改定後（2019 年 3 月）の貴治療室における病床利用率	. %

※1．「病床利用率」＝A÷B ： A．3 月の在院患者延数 × 100 、B．届出病床数 × 31

2-6 貴治療室における重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合（２時点比較）	
改定前（2018 年 3 月）の重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合	. %
改定後（2019 年 3 月）の重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者割合	. %

注１．改定前の患者割合は改定前の基準にしたがって算出した値を、改定後の患者割合は改定後の基準にしたがって算出した値をご記入ください。

注２．救命救急入院料或いは特定集中治療室管理料を届出ている場合は、「特定集中治療室用の重症度，医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（A得点）が 4 点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）3 点以上を満たす患者割合。

注３．ハイケアユニット入院医療管理料を届出ている場合は、「ハイケアユニット用の重症度，医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（A得点）が 3 点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）4 点以上を満たす患者割合。

注４．脳卒中ケアユニット入院医療管理料を届出ている場合は、「一般病棟用の重症度，医療・看護必要度Ⅰ」のモニタリング及び処置等に係る得点（A得点）2 点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）3 点以上、「診療・療養上の指示が通じる（B14)」又は「危険行動（B15)」に該当する患者であって、A得点が 1 点以上かつB得点が 3 点以上、A得点 3 点以上又は手術等の医学的状況に係る得点（C得点）が 1 点以上 を満たす患者割合。

注５．救命救急入院料１、救命救急入院料３、脳卒中ケアユニット入院医療管理料を届出ている場合は、2018 年 3 月については、算出している場合にご記載ください。

問３　貴治療室の入室患者数についてお伺いします。

3-1 貴治療室の入室患者数	2019 年 3 月 1 日時点
貴治療室の入室患者数	人

3-2 認知症高齢者の日常生活自立度別患者数	2019 年 3 月 1 日時点
① 自立	人
② ランクⅠ	人
③ ランクⅡa	人
④ ランクⅡb	人
⑤ ランクⅢa	人
⑥ ランクⅢb	人
⑦ ランクⅣ	人
⑧ ランクM	人

問４　貴治療室のせん妄予防に関する取組ついてお伺いします。

4-1　入院患者に対するせん妄のリスク評価や予防の取組の有無　（該当する番号１つに○）

01　取組あり　　**02**　取組なし

■ **上記4-1で「01　取組あり」を選択した場合、以下の問にご回答ください。**

4-1-1　せん妄のリスク評価の実施時期　（該当する番号１つに○）

01　入院時又は入院後早期に一律に行っている
02　せん妄を疑う際に行っている
03　特にタイミングを決めていない
04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

4-1-2　せん妄のリスク評価を行っている職種　（該当する番号すべてに○）

01　医師
02　歯科医師
03　看護師
04　薬剤師
05　管理栄養士
06　理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
07　社会福祉士
08　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

4-1-3　せん妄のリスク評価にあたり用いているチェックリスト等の有無　（該当する番号１つに○）

01　用いている　　**02**　用いていない

■ **上記4-1-3で「01　用いている」を選択した場合、チェックリストの種類についてご回答ください。**

4-1-3-1　チェックリストの種類　（該当する番号１つに○）

01　関係学会等より示されているチェックリスト（名称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
02　病院において独自に作成されたチェックリスト
03　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記4-1で「01　取組あり」を選択した場合、以下の問にご回答ください。**

4-1-4　せん妄のハイリスク群に対する予防的介入について　（該当する番号１つに○）

01　行っている　　**02**　行っていない

■ **上記4-1-4で「01　行っている」を選択した場合、取組内容についてご回答ください。**

4-1-4-1　取組内容の種類　（該当する番号１つに○）

01　非薬物療法（環境調整等）を中心に行っている
02　薬物療法（予防的投薬）を中心に行っている
03　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記4-1-4-1で「01　非薬物療法（環境調整等）を中心に行っている」を選択した場合、取組内容についてご回答ください。**

4-1-4-1-1　取組内容の種類　（該当する番号すべてに○）

01　見当識（日時や場所等）の確認
02　疼痛コントロールの徹底
03　離床の促進
04　脱水の予防
05　せん妄のリスクとなる薬剤（ベンゾジアゼピン系等）の中止
06　観察への家族の参加を促す
07　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ 上記4-1で「02　取組なし」を選択した場合、以下の問にご回答ください。

4-1-5 取組を行っていない理由　（該当する番号すべてに○）

01 せん妄のリスク評価や予防を必要とする患者が少ない
02 リスク評価や予防を行うのに十分な数の職員がいない
03 リスク評価や予防を行うことができる職員が少ない
04 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問５　貴治療室の生物学的スコア（SOFA スコア）の状況等についてお伺いします。

■ 貴治療室が特定集中治療室管理料１～４を算定している場合にご回答ください。

5-1 生理学的スコア（ＳＯＦＡスコア）の入力開始時点　（該当する番号１つに○）

01 改定前より入力していた
02 改定に伴い入力した

5-2 生理学的スコア（ＳＯＦＡスコア）の入力を行う職種等　（該当する番号すべてに○）

01 医師
02 看護師
03 理学療法士・作業療法士
04 臨床検査技師
05 医師事務作業補助者
06 入力が自動化されている
07 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

5-3 入退室時の生理学的スコア（SOFA スコア）別の入室患者数（※ 2019 年 3 月 1 日時点の入室患者のみ対象）

	2019年3月1日時点の入室患者		⇒	同一患者の退室時の状況（SOFA スコア等）							
	SOFA スコア	患者数		0点	1~2点	3~5点	6~10点	11~15点	16~20点	20~24点	死亡
入室時の状況	0点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人
	1～2点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人
	3～5点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人
	6～10点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人
	11～15点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人
	16～20点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人
	20～24点	人	⇒	人	人	人	人	人	人	人	人

5-4 早期離床・リハビリテーション加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点） （該当する番号すべてに○）

01 早期離床・リハビリテーション加算を届出ている	**02** 早期離床・リハビリテーション加算を届出ていない

■ 上記5-4で「01 早期離床・リハビリテーション加算を届出ている」を選択した場合、算定患者数、算定回数をご回答ください。（2019 年 3 月の 1 か月間）

5-4-1 早期離床・リハビリテーション加算の算定患者数、算定回数

① 早期離床・リハビリテーション加算の算定患者数・算定回数	**人**	**回**

■ 上記5-4で「01 早期離床・リハビリテーション加算を届出ている」を選択した場合、当該加算の届出による効果をご回答ください。

5-4-2 早期離床・リハビリテーション加算の届出による効果 （該当する選択肢すべてに○）

01 人工呼吸器の早期抜管	
02 計画的な離床の取組み実施	
03 治療室の在室日数の短縮化	
04 スムーズな転室、転棟、転院	
05 チーム医療の推進	
06 患者ケアの質の向上	
07 早期離床への取組みの重要性に対する患者・家族等からの理解促進	
08 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 上記5-4で「02 早期離床・リハビリテーション加算を届出ていない」を選択した場合、当該加算を届出ていない理由をご回答ください。

5-4-3 早期離床・リハビリテーション加算を届出ていない理由 （該当する選択肢すべてに○）

01 早期離床・リハビリテーションに係る専任の医師を確保できないため	
02 早期離床・リハビリテーションに係る研修を修了した専任の看護師を確保できないため	
03 早期離床・リハビリテーションに係る理学療法士、作業療法士を確保できないため	
04 早期離床・リハビリテーションに関するプロトコルを整備し、定期的に見直すことが困難なため	
05 心大血管疾患リハビリテーション料、脳血管疾患等リハビリテーション料又は呼吸器リハビリテーション料を届出ていないため	
06 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

設問は以上です。ご協力 誠にありがとうございました。
記入漏れがないかをご確認の上、2019 年●月●日（●）までに、
同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

厚生労働省　中央社会保険医療協議会　入院医療等の調査・評価分科会　2019 年度調査

入院医療等における実態調査

施 設 調 査 票（B）

- 特に指定がある場合を除いて、2019 年 6 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する方・施設等が無い場合は、「0」(ゼロ)をご記入下さい。

◆ 本調査票のご記入者、ご連絡先についてご記入下さい。

施設名		施設ＩＤ	
記入者氏名		電話番号	

◆ 貴院の基本情報について、別途 確認票(Webサイト参照)にてご確認ください。

問１　貴院の開設者、算定されている入院基本料等についてお伺いします。

1-1 開設者　（該当する番号１つに○）

- **01** 国立（国、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構）
- **02** 公立（都道府県、市町村、地方独立行政法人）
- **03** 公的（日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会）
- **04** 社会保険関係（健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合）
- **05** 医療法人（社会医療法人は含まない）
- **06** その他の法人（公益法人、学校法人、社会福祉法人、医療生協、会社、社会医療法人等、その他法人）
- **07** 個人

1-2 入院基本料等（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号すべてに○）

- **01** 療養病棟入院料１
- **02** 療養病棟入院料２
- **03** 療養病棟入院基本料「注 11」に規定される点数を算定（以下、「療養病棟入院基本料　経過措置１」と表記）
- **04** 療養病棟入院基本料「注 12」に規定される点数を算定（以下、「療養病棟入院基本料　経過措置２」と表記）

■ **上記 1-2 で「01 療養病棟入院料１」を選択した場合、在宅復帰機能強化加算の算定についてご回答ください。**

1-2-1 在宅復帰機能強化加算の算定について　（該当する番号１つに○）

- **01** 在宅復帰機能強化加算を算定している
- **02** 在宅復帰機能強化加算を算定していない

■ **上記 1-2 で「01 療養病棟入院料１」を選択した場合、一般病棟等から入院し、自宅等に退院した年間の患者割合についてご回答ください。**

1-2-2 一般病棟等から入院し、自宅等に退院した年間の患者割合※1（2018 年 4 月～2019 年 3 月の 1 年間）

一般病棟等から入院し、自宅等に退院した年間の患者割合	．　％

※1．「一般病棟等から入院し、自宅等に退院した年間の患者割合」＝Ｃ÷Ｄ　：　Ｃ．当該保険医療機関又は別の保険医療機関の病棟若しくは病室〔一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般病棟に限る）、専門病院入院基本料、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料又は地域包括ケア病棟入院料を算定するものに限る〕から当該病棟に入院し、在宅に退院した１年間の患者数（当該保険医療機関の他病棟から当該病棟に転棟して１か月以内に退院した患者は除く）、Ｄ．当該病棟の１年間の１日平均入院患者数

問２　貴院の許可病床数についてお伺いします。

2-1 許可病床数（2019 年 6 月 1 日時点）			
① 一般病床	床	④ 結核病床	床
② 療養病床	床	⑤ 感染症病床	床
（うち）介護療養病床	床	⑥ 合計	床
③ 精神病床	床		

問３　貴院の職種別の職員数（常勤換算）についてお伺いします。

3-1 常勤職員・非常勤職員の合計数（常勤換算※1）（2019 年 6 月 1 日時点）			
① 医師	．　人	⑪ 臨床心理技術者	．　人
② 歯科医師	．　人	⑫ 診療放射線技師	．　人
③ 看護師	．　人	⑬ 臨床検査技師	．　人
④ 准看護師	．　人	⑭ 臨床工学技士	．　人
⑤ 看護補助者	．　人	⑮ 歯科衛生士	．　人
（うち）介護福祉士	．　人	⑯ 相談員	．　人
⑥ 薬剤師	．　人	（うち）社会福祉士	．　人
⑦ 管理栄養士	．　人	（うち）精神保健福祉士	．　人
⑧ 理学療法士	．　人	⑰ 医師事務作業補助者	．　人
⑨ 作業療法士	．　人	⑱ 事務職員	．　人
⑩ 言語聴覚士	．　人	⑲ その他の職員	．　人

※１．非常勤職員の常勤換算の算出方法
貴院の常勤職員の１週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第１位まで（小数点第２位を切り上げ）を記入。
例：常勤職員の１週間の通常の勤務時間が 40 時間の病院で、週４日（各日５時間）勤務の看護師が１人いる場合

$$非常勤看護師数＝\frac{4日×5時間×1人}{40時間}＝0.5人$$

問４　貴院の外来患者数、総入院患者数についてお伺いします。

4-1 外来患者数（2019 年 3 月の 1 か月間）	
① 初診の患者数	人
（うち）紹介状により紹介された患者数	人
② 再診の延べ患者数	延べ　人
③ 紹介状により他の病院または診療所に紹介した患者数	人

4-2 総入院患者数（2019 年 6 月 1 日時点）	
① 総入院患者数※1	人

※１．施設全体の合計をご回答ください。

問５　貴院における入院料等別の病床数の増減の状況等についてお伺いいたします。

5-1　入院料等別の病床数の増減の状況	2018 年 4 月 1 日時点	2019 年 6 月 1 日時点
① 療養病棟入院料１	床	床
② 療養病棟入院料２	床	床
③ 療養病棟入院基本料　経過措置１	床	床
④ 療養病棟入院基本料　経過措置２	床	床

5-2　在宅復帰率等（2019 年 1 月～3 月の 3 か月間）	在宅復帰率※1	平均在院日数
① 療養病棟入院料１	．　％	．　日
② 療養病棟入院料２	．　％	．　日
③ 療養病棟入院基本料　経過措置１	．　％	．　日
④ 療養病棟入院基本料　経過措置２	．　％	．　日

※1．「在宅復帰率」＝Ａ÷Ｂ　：　Ａ．該当する病棟から、自宅、もしくは居住系介護施設等（老健施設は含まない）へ退院した患者であり、在宅での生活が 1 月以上（医療区分 3 の場合は 14 日以上）継続する見込であることを確認できた者（死亡退院患者・転棟または転院した患者・再入院患者を除く。同一の保険医療機関の療養病棟以外の病棟から当該病棟に転棟した患者については、当該病棟に入院した期間が 1 月以上のものに限る）、Ｂ．該当する病棟から、退院した患者（死亡退院患者・急性増悪等により転棟または転院した患者・再入院患者を除く。同一の保険医療機関の療養病棟以外の病棟から当該病棟に転棟した患者については、当該病棟に入院した期間が 1 月以上のものに限る）。

5-3　病床利用率※1	2018 年 3 月の 1 か月間	2019 年 3 月の 1 か月間
① 療養病棟入院料１※2	．　％	．　％
② 療養病棟入院料２※3	．　％	．　％
③ 療養病棟入院基本料　経過措置１※3	．　％	．　％
④ 療養病棟入院基本料　経過措置２※4	．　％	．　％

※1．「病床利用率」＝Ａ÷Ｂ　：　Ａ．3 月の在院患者延数　×　100　、Ｂ．届出病床数　×　31
※2．2018 年 3 月の値については、2018 年 3 月 1 日時点で療養病棟入院基本料１（20 対１）の届出をしている場合にご回答ください。
※3．2018 年 3 月の値については、2018 年 3 月 1 日時点で療養病棟入院基本料２（25 対１）の届出をしている場合にご回答ください。
※4．20018 年 3 月の値については、2018 年 3 月 1 日時点で旧医科点数表の療養病棟入院基本料の注 11 の届出をしている場合にご回答ください。

問６　貴院の病棟等に関する今後の届出の意向についてお伺いします。

◆ 【現時点の状況】では、2019 年 6 月 1 日時点の状況についてご回答ください。【今後の意向】では、今後の入院基本料別の病床数の増減の意向について、貴院の考えに最も近いものに〇を１つ付けてください。

６-１　今後の入院基本料別の病床数の増減の意向 （該当する番号それぞれ１つに〇）	【現時点の状況】 届出の有無		【今後の意向】 入院基本料別の病床数の増減の意向 （左記届出の有無で「01 届出あり」を選択した場合は上段の選択肢、「02 届出なし」を選択した場合は下段の選択肢にご回答ください）				
① 療養病棟入院料１	01 届出あり	⇒	01 増床	02 現状を維持	03 削減（転換を除く）	04 一部を他の病棟・施設へ転換	05 全てを他の病棟・施設へ転換
	02 届出なし		01 新設	02 現状を維持			
② 療養病棟入院料２	01 届出あり	⇒	01 増床	02 現状を維持	03 削減（転換を除く）	04 一部を他の病棟・施設へ転換	05 全てを他の病棟・施設へ転換
	02 届出なし		01 新設	02 現状を維持			
③ 療養病棟入院基本料経過措置１	01 届出あり	⇒	01 増床	02 現状を維持	03 削減（転換を除く）	04 一部を他の病棟・施設へ転換	05 全てを他の病棟・施設へ転換
	02 届出なし		01 新設	02 現状を維持			
④ 療養病棟入院基本料経過措置２	01 届出あり	⇒	01 増床	02 現状を維持	03 削減（転換を除く）	04 一部を他の病棟・施設へ転換	05 全てを他の病棟・施設へ転換
	02 届出なし		01 新設	02 現状を維持			

■ 上記６-１【今後の意向】で「04 一部を他の病棟・施設へ転換」または「05 全てを他の病棟・施設へ転換」を選択した場合、現在届出ている入院基本料から転換を検討している病棟・施設の状況およびその理由をご回答ください。

6-1-1 転換を検討している病棟・施設の状況およびその理由 （該当する番号すべてに○）

（転換を検討している理由は以下の選択肢から優先度が高い順に該当する理由３つを記入）

現在届出ている入院基本料	今後の意向								
① 療養病棟入院料１	01 療養病棟入院料２	02 療養病棟経過措置１	03 療養病棟経過措置２	04 回復期リハ病棟	05 地域包括ケア病棟	06 介護保険施設	07 〔再掲〕介護医療院	08 その他	09 未定
転換を検討している合計病床数	床								
転換を検討している理由	， ，								
② 療養病棟入院料２	01 療養病棟入院料１	02 療養病棟経過措置１	03 療養病棟経過措置２	04 回復期リハ病棟	05 地域包括ケア病棟	06 介護保険施設	07 〔再掲〕介護医療院	08 その他	09 未定
転換を検討している合計病床数	床								
転換を検討している理由	， ，								
③ 療養病棟入院基本料経過措置１	01 療養病棟入院料１	02 療養病棟入院料２	03 療養病棟経過措置２	04 回復期リハ病棟	05 地域包括ケア病棟	06 介護保険施設	07 〔再掲〕介護医療院	08 その他	09 未定
転換を検討している合計病床数	床								
転換を検討している理由	， ，								
④ 療養病棟入院基本料経過措置２	01 療養病棟入院料１	02 療養病棟入院料２	03 療養病棟経過措置１	04 回復期リハ病棟	05 地域包括ケア病棟	06 介護保険施設	07 〔再掲〕介護医療院	08 その他	09 未定
転換を検討している合計病床数	床								
転換を検討している理由	， ，								

■ 上記 6-1-1で「07 〔再掲〕介護医療院」を選択した場合、介護医療院へ転換を検討している病床数についてご回答ください。

6-1-1-1 療養病棟から介護医療院へ転換を検討している病床数

療養病棟から介護医療院へ転換を検討している病床数の合計	床

◆ 以下は、上記6-1-1の「転換を検討している理由」の選択肢です。該当する記号を「転換を検討している理由」の回答欄にご記入ください。

（6-1-1「転換を検討している理由」の選択肢） 現在届出ている入院基本料から転換を検討している理由

- **a** 実際の患者の状態に、より即した入院料等が設定されているため
- **b** 他の病棟等へ転換することで、より地域のニーズに応えることができるため
- **c** 療養病棟入院基本料が再編され転換負担が緩和されたため
- **d** 看護師の確保が困難なため
- **e** 医療区分２・３の基準を満たす患者が現在届出ている病棟又は入院料等と合わなくなってきたため
- **f** 他の病棟等へ転換することで経営が安定するため
- **g** 他の病棟等へ転換することで、職員のモチベーションが向上するため
- **h** 他の病棟等へ転換することで、職員の負担軽減につながるため
- **i** その他

■ 下記問 7 については、貴院が改定前に「療養病棟入院基本料1（20 対 1）」を届出ていた場合のみご回答ください。

問７　改定前に療養病棟入院基本料１（20 対 1）を届出ていた病棟の現時点の状況についてお伺いします。

7-1 改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に療養病棟入院基本料１（20 対 1）を届出ていた病棟の状況		病棟数	届出病床数
改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に療養病棟入院基本料１を届出ていた病棟		棟	床
2019年6月1日時点の内訳	① 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院料1を届出	棟	床
	② 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院料2を届出	棟	床
	③ 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院基本料　経過措置1を届出	棟	床
	④ 2019 年 6 月 1 日時点、回復期リハビリテーション病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑤ 2019 年 6 月 1 日時点、地域包括ケア病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑥ 2019 年 6 月 1 日時点、一部を地域包括ケア入院医療管理料の病室へ転換	室	床
	⑦ 2019 年 6 月 1 日時点、介護保険施設へ転換		床
	（うち）介護医療院へ転換		床
	⑧ 2019 年 6 月 1 日時点、上記④～⑦以外へ転換	棟	床
	⑨ 2019 年 6 月 1 日時点、休床としている病床		床

■ 上記 7-1 で③に該当する病棟がある場合、経過措置１を届出ている理由をご回答ください。

7-1-1 経過措置１を届出ている理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	介護保険施設等へ転換することで、地域のニーズに応えられなくなる懸念があるため	
02	看護職員配置 20 対 1 を満たす看護職員の確保が困難であるため	
03	看護補助職員配置 20 対 1 を満たす看護補助職員の確保が困難であるため	
04	医療区分 2・3 の該当患者割合 5 割を満たすことが困難であるため	
05	療養病棟入院料 1 と療養病棟入院料 2 を同時に届出ることができなくなったため	
06	介護保険施設等へ転換することで、職員のモチベーションが低下するため	
07	介護保険施設等へ転換することで、職員の負担が増加する懸念があるため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 上記 7-1 で④、⑤、⑥、⑧のいずれかに該当する病棟がある場合、療養病棟入院基本料１から転換した理由をご回答ください。

7-1-2 療養病棟入院基本料１から転換した理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	実際の入院患者の状態に、より即した入院料が設定されたため	
02	他の入院料と療養病棟入院基本料を組み合わせることで、より患者の状態に即した医療を提供できるため	
03	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、より地域のニーズに合った医療を提供できるため	
04	転換先の施設基準を満たす職員が確保できたため	
05	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、経営が安定するため	
06	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、職員のモチベーションが向上するため	
07	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、職員の負担軽減につながるため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 下記問8については、貴院が改定前に「療養病棟入院基本料2（25 対 1）」を届出ていた場合のみご回答ください。

問８　改定前に療養病棟入院基本料２（25 対 1）を届出ていた病棟の現時点の状況についてお伺いします。

8-1 改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に療養病棟入院基本料２（25 対 1）を届出ていた病棟の状況		病棟数	届出病床数
改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に療養病棟入院基本料２を届出ていた病棟		棟	床
2019年6月1日時点の内訳	① 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院料1を届出	棟	床
	② 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院料2を届出	棟	床
	③ 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院基本料　経過措置1を届出	棟	床
	④ 2019 年 6 月 1 日時点、回復期リハビリテーション病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑤ 2019 年 6 月 1 日時点、地域包括ケア病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑥ 2019 年 6 月 1 日時点、一部を地域包括ケア入院医療管理料の病室へ転換	室	床
	⑦ 2019 年 6 月 1 日時点、介護保険施設へ転換		床
	（うち）介護医療院へ転換		床
	⑧ 2019 年 6 月 1 日時点、上記④～⑦以外へ転換	棟	床
	⑨ 2019 年 6 月 1 日時点、休床としている病床		床

■ 上記８-１で③に該当する病棟がある場合、経過措置１を届出ている理由をご回答ください。

8-1-1 経過措置１を届出ている理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	介護保険施設等へ転換することで、地域のニーズに応えられなくなる懸念があるため	
02	看護職員配置 20 対 1 を満たす看護職員の確保が困難であるため	
03	看護補助職員配置 20 対 1 を満たす看護補助職員の確保が困難であるため	
04	医療区分 2・3 の該当患者割合 5 割を満たすことが困難であるため	
05	療養病棟入院料 1 と療養病棟入院料 2 を同時に届出ることができなくなったため	
06	介護保険施設等へ転換することで、職員のモチベーションが低下するため	
07	介護保険施設等へ転換することで、職員の負担が増加する懸念があるため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 上記８-１で④、⑤、⑥、⑧のいずれかに該当する病棟がある場合、療養病棟入院基本料２から転換した理由をご回答ください。

8-1-2 療養病棟入院基本料２から転換した理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	実際の入院患者の状態に、より即した入院料が設定されたため	
02	他の入院料と療養病棟入院基本料を組み合わせることで、より患者の状態に即した医療を提供できるため	
03	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、より地域のニーズに合った医療を提供できるため	
04	転換先の施設基準を満たす職員が確保できたため	
05	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、経営が安定するため	
06	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、職員のモチベーションが向上するため	
07	療養病棟以外の他病棟へ転換することで、職員の負担軽減につながるため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ 下記問9については、貴院が改定前に旧医科点数表の療養病棟入院基本料の注11を届出ていた場合のみご回答ください。

問９　改定前に旧医科点数表の療養病棟入院基本料の注 11（以下「旧経過措置」と表記）を届出ていた病棟の現時点の状況についてお伺いします。

9-1 改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に旧経過措置を届出ていた病棟の状況		病棟数	届出病床数
改定前（2018 年 3 月 31 日時点）に旧経過措置を届出ていた病棟		棟	床
2019年6月1日時点の内訳	① 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院料1を届出	棟	床
	② 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院料2を届出	棟	床
	③ 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院基本料　経過措置1を届出	棟	床
	④ 2019 年 6 月 1 日時点、療養病棟入院基本料　経過措置2を届出	棟	床
	⑤ 2019 年 6 月 1 日時点、回復期リハビリテーション病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑥ 2019 年 6 月 1 日時点、地域包括ケア病棟入院料の病棟へ転換	棟	床
	⑦ 2019 年 6 月 1 日時点、一部を地域包括ケア入院医療管理料の病室へ転換	室	床
	⑧ 2019 年 6 月 1 日時点、介護保険施設へ転換		床
	（うち）介護医療院へ転換		床
	⑨ 2019 年 6 月 1 日時点、上記⑤～⑧以外へ転換	棟	床
	⑩ 2019 年 6 月 1 日時点、休床としている病床		床

■ **上記９-１で④に該当する病棟がある場合、経過措置２を届出ている理由をご回答ください。**

9-1-1 経過措置２を届出ている理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	介護保険施設等へ転換することで、地域のニーズに応えられなくなる懸念があるため	
02	看護職員配置 25 対 1 を満たす看護職員の確保が困難であるため	
03	看護補助職員配置 25 対 1 を満たす看護補助職員の確保が困難であるため	
04	療養病棟入院料１と療養病棟入院料２を同時に届出ることができなくなったため	
05	介護保険施設等へ転換することで、職員のモチベーションが低下するため	
06	介護保険施設等へ転換することで、職員の負担が増加する懸念があるため	
07	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

問 10　貴院の入院時支援加算の届出状況などについてお伺いします。

10-1　入院時支援加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　入院時支援加算を届出ている　　**02**　入院時支援加算を届出ていない

■ **上記 10-1 で「01 入院時支援加算を届出ている」を選択した場合、入院前支援を行う職員数をご回答ください。**

10-1-1　入退院支援部門に従事する職員のうち入院前支援を行う職員数（2019 年 6 月 1 日時点）	専　従	専　任
① 看護師	人	人
② 社会福祉士	人	人
③ その他の職種（　　）	人	人

■ **上記 10-1 で「01 入院時支援加算を届出ている」を選択した場合、入院時支援加算の算定件数をご回答ください。**

10-1-2　入院時支援加算の算定件数（2019 年 1 月～3 月の 3 か月間）

入院時支援加算の算定件数		件
入院前に実施した事項	① 身体的・社会的・精神的背景を含めた患者情報の把握（必須）	件
	② 入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握（該当する場合必須）	件
	③ 褥瘡に関する危険因子の評価	件
	④ 栄養状態の評価	件
	⑤ 服薬中の薬剤の確認	件
	⑥ 退院困難な要因の有無の評価	件
	⑦ 入院中に行われる治療・検査の説明	件
	⑧ 入院生活の説明（必須）	件

■ **上記 10-1-2 で③～⑦に記載の人数のうち、「入院時支援加算の算定件数」を下回る項目がある場合、その理由をご回答ください。**

10-1-2-1　入院時支援加算の算定にあたり実施していない事項があった理由　（該当する番号すべてに○）

01　全ての項目を入院前に実施する必要がなかったため
02　配置されている人数の看護師又は社会福祉士のみでは、全ての項目を実施するのは困難であったため
03　全ての項目を実施するには他職種（医師、薬剤師、管理栄養士等）の協力が必要であったため
04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 10-1-2 で「入院時支援加算の算定件数」が 1 件以上の場合、入院予定先の病棟職員との療養支援の計画の共有方法についてご回答ください。**

10-1-2-2　入院予定先の病棟職員との療養支援の計画の共有方法　（該当する番号すべてに○）

01　電子カルテにより計画を共有している
02　入退院支援部門から病棟に計画を送付している
03　対面によるカンファレンス等により計画を共有している
04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 10-1 で「01 入院時支援加算を届出ている」を選択した場合、当該加算の届出による効果等をご回答ください。**

10-1-3 入院時支援加算の届出によりもたらされた効果等 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	治療や入院生活に対する患者の理解度が上がった	
02	退院調整にかかる期間が短くなった	
03	病棟での入院時の受入における患者への治療方針等の説明に係る負担が減った	
04	病棟での入院時の受入における入院生活等の説明に係る負担が減った	
05	患者の身体的・社会的・精神的背景を踏まえた療養環境の整備が入院前に実施できるようになった	
06	入院前に利用していたサービスが把握できることで、退院先の見通しが立てやすくなった	
07	入院前の服薬状況を踏まえた治療方針が立てられるようになった	
08	褥瘡・栄養スクリーニング結果に応じた治療方針が立てやすくなった	
09	入退院支援加算に係る退院困難な要因を有している患者の抽出が容易となった	
10	より多くの患者に対して入院前支援を実施できるようになった	
11	患者及び家族への説明や面会の頻度を増やすことができるようになった	
12	特になかった	
13	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記 10-1 で「02 入院時支援加算を届出ていない」を選択した場合、その理由をご回答ください。**

10-1-4 入院時支援加算を届出ることが困難な理由 （該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つに

01	入退院支援及び地域連携業務に関する十分な経験を有する専従の看護師の配置が困難なため	
02	入退院支援及び地域連携業務に関する十分な経験を有する専任の看護師及び社会福祉士の配置が困難なため	
03	地域連携を行う十分な体制が整備できていないため	
04	自宅等から入院する予定入院患者が少ないため	
05	入退院支援加算を算定する患者がいないため	
06	緊急入院が多く事前の入院支援が行えないため	
07	他院の外来受診の後の予定入院患者が多いため	
08	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記 10-1 で「02 入院時支援加算を届出ていない」を選択した場合、今後の届出の意向についてご回答ください。**

10-1-5 入院時支援加算の今後の届出の意向 （該当する番号１つに○）

01 届出を予定している
02 届出する予定はない
03 未定・分からない

問 11　貴院の認知症ケア加算の届出状況についてお伺いします。

11-1　認知症ケア加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　認知症ケア加算１を届出ている
02　認知症ケア加算２を届出ている
03　届出ていない

■　上記 11-1 で「02 認知症ケア加算２を届出ている」または「03 届出ていない」を選択した場合、認知症ケア加算１を届出ていない理由をご回答ください。

11-1-1　認知症ケア加算１を届出ていない理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01	認知症ケアチームの要件である精神科又は神経内科の経験を 5 年以上有する専任の常勤医師を確保できないため	
02	認知症ケアチームの要件である適切な研修を修了した専任の常勤医師を確保できないため	
03	認知症ケアチームの要件である認知症患者の看護に従事した経験を 5 年以上有する専任の常勤看護師を確保できないため	
04	認知症ケアチームの要件である適切な研修を修了した専任の常勤看護師を確保できないため	
05	認知症ケアチームの要件である専任の常勤社会福祉士又は精神保健福祉士（退院調整の経験または介護支援専門員）を確保できないため	
06	認知症患者のケアに係るカンファレンス（週 1 回程度）ができないため	
07	各病棟における認知症患者に対するケアの実施状況の把握等の実施（週 1 回以上）ができないため	
08	身体的拘束の実施基準の作成・見直しができないため	
09	鎮静を目的とした薬物の適正使用等の基準の作成・見直しができないため	
10	認知症ケアに係る手順書の作成・見直しができないため	
11	認知症患者に関わる職員を対象とした認知症患者のケアに関する研修の定期的な実施ができないため	
12	入院患者に認知症患者が多くないため	
13	入院患者に認知症患者がいないため	
14	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■　上記 11-1 で「03 届出ていない」を選択した場合、認知症患者に対して実施している取組をご回答ください。
（※ 入院患者に認知症患者がいない場合は回答不要）

11-1-2　認知症患者に対して実施している取組　（該当する番号すべてに○）

01　認知症症状を考慮して、適切な環境調整やコミュニケーション方法等を踏まえた看護計画を作成
02　認知症症状を考慮したケアを実施・評価
03　病棟の看護師等に対して、認知症ケアに関する研修や事例検討を実施（年 1 回以上）
04　身体的拘束のマニュアルを作成
05　身体的拘束をした場合に、解除に向けた検討を 1 日に 1 度は実施
06　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問 12　貴院の患者サポート体制充実加算の届出状況についてお伺いします。

12-1　患者サポート体制充実加算の届出状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　患者サポート体制充実加算を届出ている　　**02**　患者サポート体制充実加算を届出ていない

■ **上記 12-1 で「02 患者サポート体制充実加算を届出ていない」を選択した場合、今後の届出の意向についてご回答ください。**

12-1-1　患者サポート体制充実加算の今後の届出の意向（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　届出を予定している　　**03**　未定・分からない

02　届出する予定はない

12-2　患者対応窓口の対応状況（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　入院患者のみ対応している　　**03**　入院患者・外来患者ともに対応している

02　外来患者のみ対応している　　**04**　その他（　　）

12-3　患者対応窓口の主たる人員配置（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　医師が対応　　**04**　社会福祉士が対応

02　看護師が対応　　**05**　その他（　　）

03　薬剤師が対応

◆ **入院医療における課題などについて、ご意見があれば下欄にご記入ください。**

設問は以上です。ご協力 誠にありがとうございました。

記入漏れがないかをご確認の上、●年●月●日（●）までに、

同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

厚生労働省　中央社会保険医療協議会　入院医療等の調査・評価分科会　2019 年度調査

入院医療等における実態調査

病 棟 調 査 票 （ B ）

- 特に指定がある場合を除いて、2019 年 6 月 1 日現在の状況についてお答え下さい。
- 数値を記入する設問で、該当する方・施設等が無い場合は、「0」(ゼロ)をご記入下さい。

◆ 施設ＩＤ、病棟ＩＤをご記入下さい。

施設ＩＤ		病棟ＩＤ	

問１　貴病棟の診療科目、入院基本料についてお伺いします。

1-1 診療科目（2019 年 6 月 1 日時点）　（最も近似する診療科を主なもの３つまで○）

01 内科	**06** 脳神経外科	**11** 泌尿器科
02 小児科	**07** 産婦人科	**12** 放射線科
03 精神科	**08** 眼科	**13** リハビリテーション科
04 外科	**09** 耳鼻咽喉科	**14** 歯科（歯科口腔外科等含む）
05 整形外科	**10** 皮膚科	**15** その他（＿＿＿＿＿）

1-2 入院基本料（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01 療養病棟入院料１	**03** 療養病棟入院基本料「注 11」に規定される点数を算定（以下、「療養病棟入院基本料　経過措置１」と表記）
02 療養病棟入院料２	**04** 療養病棟入院基本料「注 12」に規定される点数を算定（以下、「療養病棟入院基本料　経過措置２」と表記）

問２　貴病棟の基本情報についてお伺いします。

2-1 貴病棟の届出病床数（2019 年 6 月 1 日時点）

貴病棟の届出病床数	床

2-2 貴病棟に配置されている職員数（専従換算※1）（2019 年 6 月 1 日時点）

① 看護師	．　人	⑦ 作業療法士	．　人
② 准看護師	．　人	⑧ 言語聴覚士	．　人
③ 看護補助者	．　人	⑨ 相談員	．　人
（うち）介護福祉士	．　人	（うち）社会福祉士	．　人
④ 薬剤師	．　人	（うち）精神保健福祉士	．　人
⑤ 管理栄養士	．　人	⑩ 医師事務作業補助者	．　人
⑥ 理学療法士	．　人	⑪ その他の職員	．　人

※１．職員数の専従換算の算出方法
貴院の常勤職員の１週間の所定労働時間を基本として、下記のように専従換算して小数第１位まで（小数点第２位を切り上げ）を記入。
例：常勤職員の１週間の所定労働時間が 40 時間の病院で、貴病棟にて週４日（各日３時間）従事している場合

$$専従換算した職員数＝\frac{4日×3時間×1人}{40時間}＝0.3人$$

2-3 新入棟患者数、新退棟患者数等（2019年1月～3月の3か月間）	新入棟患者数	新退棟患者数	在院患者延日数
新入棟患者数、新退棟患者数等	人	人	日

2-4 貴病棟における病床利用率※1	2018年3月の1か月間	2019年3月の1か月間
貴病棟における病床利用率	. %	. %

※1.「病床利用率」＝A÷B ： A．3月の在院患者延数 × 100 、B．届出病床数 × 31

2-5 貴病棟における在宅復帰率等（2019年1月～3月の3か月間）	在宅復帰率※1	平均在院日数
貴病棟における在宅復帰率等	. %	. 日

※1.「在宅復帰率」＝A÷B ： A．当該病棟から、自宅、もしくは居住系介護施設等（老健施設は含まない）へ退院した患者であり、在宅での生活が1月以上（医療区分3の場合は14日以上）継続する見込であることを確認できた者（死亡退院患者・転棟または転院した患者・再入院患者を除く。同一の保険医療機関の療養病棟以外の病棟から当該病棟に転棟した患者については、当該病棟に入院した期間が1月以上のものに限る）、B．当該病棟から、退院した患者（死亡退院患者・急性増悪等により転棟または転院した患者・再入院患者を除く。同一の保険医療機関の療養病棟以外の病棟から当該病棟に転棟した患者については、当該病棟に入院した期間が 1月以上のものに限る）。

問3　貴病棟の2019年6月1日時点の入院患者数についてお伺いします。

3-1 入院期間別の入院患者数（2019年6月1日時点）	
① 入院後14日以内	人
② 15日～30日	人
③ 31日～60日	人
④ 61日～180日	人
⑤ 181日～365日	人
⑥ 366日～700日	人
⑦ 701日以上	人

3-2 要介護度別の入院患者数（2019年6月1日時点）	
① 不明	人
② 未申請	人
③ 申請中	人
④ 非該当	人
⑤ 要支援1	人
⑥ 要支援2	人
⑦ 要介護1	人
⑧ 要介護2	人
⑨ 要介護3	人
⑩ 要介護4	人
⑪ 要介護5	人

3-3 認知症高齢者の日常生活自立度別の入院患者数（2019年6月1日時点）	
① 自立	人
② ランク Ⅰ	人
③ ランク Ⅱa	人
④ ランク Ⅱb	人
⑤ ランク Ⅲa	人
⑥ ランク Ⅲb	人
⑦ ランク Ⅳ	人
⑧ ランク M	人

3-4 入棟前の居場所別患者数（2019 年 6 月 1 日時点）	
① 自宅（在宅医療の提供あり）※1	人
② 自宅（在宅医療の提供なし）※1	人
③ 介護老人保健施設	人
④ 介護医療院	人
⑤ 介護療養型医療施設	人
⑥ 特別養護老人ホーム	人
⑦ 軽費老人ホーム、有料老人ホーム	人
⑧ その他の居住系介護施設（認知症グループホーム、サービス付高齢者向け住宅等）	人
⑨ 障害者支援施設	人
⑩ 他院の一般病床	人
⑪ 他院の一般病床以外	人
⑫ 自院の他病棟	人
⑬ 有床診療所	人
⑭ その他	人

※1．提供主体は自院に限らない。在宅医療には、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションを含むが、通院は含まない。

3-5 自院の他病棟からの転棟患者数（2019 年 6 月 1 日時点）		
[再掲] 自院の他病棟からの転棟患者（＝「3-4 の⑫」）		人
内訳	① 自院の一般病床（②、③以外）から転棟	人
	② 自院の地域一般入院基本料を届出ている病床から転棟	人
	③ 自院の地域包括ケア病棟入院料、回復期リハビリテーション病棟入院料を届出ている病床から転棟	人
	④ 自院の療養病床（③以外）から転棟	人
	⑤ 自院の精神病床から転棟	人
	⑥ 自院のその他の病床から転棟	人

問４　貴病棟の 2018 年 3 月 31 日時点と平成 2019 年 6 月 1 日時点の入院患者についてお伺いします。

４-１ 貴病棟の入院患者数	2018 年 3 月 31 日時点	2019 年 6 月 1 日時点
貴病棟の入院患者数	人	人

４-２ 患者の状態別の入院患者数		2018 年 3 月 31 日時点	2019 年 6 月 1 日時点
医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態	医療区分３に該当	人	人
	医療区分２に該当		人

４-３ 加算の算定状況別の入院患者数	2018 年 3 月 31 日時点	2019 年 6 月 1 日時点
① 救急・在宅等支援療養病床初期加算を算定している患者	人	
② 急性期患者支援療養病床初期加算を算定している患者		人
③ 在宅患者支援療養病床初期加算を算定している患者		人

■ 上記４-３「③ 在宅患者支援療養病床初期加算を算定している患者」がいる場合、治療方針に関する患者又はその家族等の意思決定に対する支援について、その実施内容別に実施した人数についてご回答ください。

４-３-１ 治療方針に関する患者又はその家族等の意思決定に対する支援の実施内容別実施人数

［再掲］在宅患者支援療養病床初期加算を算定している患者		人
意思決定に対する支援の実施内容	① 患者本人の意思の確認ができるため、患者自身と人生の最終段階における医療・ケアの方針について話し合い、意思決定を支援した	人
	② 患者本人の意思が確認できないため、その意思を推定しうる者となる家族等とともに患者の推定意思を明らかにし、患者にとって最善の治療・ケアの方針をとった	人
	③ 患者本人の意思の確認ができず、かつ家族等が本人の意思を推定できないため、家族等と医療・ケアチームが話し合いの場を持ち、患者にとって最善の治療・ケアの方針をとった	人
	④ 患者本人の意思の確認ができず、かつ家族等がいないため、医療・ケアチームの中で話し合いの場を持ち、患者にとって最善の治療・ケアの方針をとった	人
	⑤ その他（具体的に＿＿＿

問５　貴病棟の 2019 年 3 月 1 日時点の入院患者についてお伺いします。

5-1 医療区分別の入院患者数（※ 2019 年 3 月 1 日時点で入院していた患者のみ対象）

		2019年3月1日時点 医療区分別の入院患者数	⇒	同一患者の 2019 年 6 月 1 日時点の状況 ■ 医療区分１	■ 医療区分２	■ 医療区分３	退棟
2019年3月1日時点	■ 医療区分１	人	⇒	人	人	人	人
	■ 医療区分２	人	⇒	人	人	人	人
	■ 医療区分３	人	⇒	人	人	人	人

5-2 退棟時の医療区分別の患者数（※ 2019 年 3 月 1 日時点で入院しており 6 月 1 日までに退棟した患者のみ対象）

		2019年3月1日時点 退棟した患者の医療区分	⇒	同一患者の退棟時の医療区分 ■ 医療区分１	■ 医療区分２	■ 医療区分３	死亡退院
2019年3月1日時点	■ 医療区分１	人	⇒	人	人	人	人
	■ 医療区分２	人	⇒	人	人	人	人
	■ 医療区分３	人	⇒	人	人	人	人

5-3 ADL 区分別の入院患者数（※ 2019 年 3 月 1 日時点で入院していた患者のみ対象）

		2019年3月1日時点 ADL 区分別の入院患者数	⇒	同一患者の 2019 年 6 月 1 日時点の状況 ■ ADL 区分１（ADL 得点 0~10 点）	■ ADL 区分２（ADL 得点 11~22 点）	■ ADL 区分３（ADL 得点 23~24 点）	退棟
2019年3月1日時点	■ ADL 区分１（ADL 得点 0~10 点）	人	⇒	人	人	人	人
	■ ADL 区分２（ADL 得点 11~22 点）	人	⇒	人	人	人	人
	■ ADL 区分３（ADL 得点 23~24 点）	人	⇒	人	人	人	人

5-4 退棟時の ADL 区分別の患者数（※ 2019 年 3 月 1 日時点で入院しており 6 月 1 日までに退棟した患者のみ対象）

		2019年3月1日時点 退棟した患者の ADL 区分	⇒	同一患者の退棟時の ADL 区分 ■ ADL 区分１（ADL 得点 0~10 点）	■ ADL 区分２（ADL 得点 11~22 点）	■ ADL 区分３（ADL 得点 23~24 点）	死亡退院
2019年3月1日時点	■ ADL 区分１（ADL 得点 0~10 点）	人	⇒	人	人	人	人
	■ ADL 区分２（ADL 得点 11~22 点）	人	⇒	人	人	人	人
	■ ADL 区分３（ADL 得点 23~24 点）	人	⇒	人	人	人	人

問６　貴病棟の膀胱留置カテーテルを留置している人数についてお伺いいたします。

6-1 膀胱留置カテーテルを留置している患者数（2019 年 6 月 1 日時点）		
膀胱留置カテーテルを留置している患者数		人
留置期間別の内訳※1	① 24 時間以内	人
	② 24 時間経過後～3 日以内	人
	③ 3 日経過後～1 週間以内	人
	④ 1 週間経過後～1 ヶ月以内	人
	⑤ 1 ヶ月経過後～3 ヶ月以内	人
	⑥ ⑤以上	人

※1．貴院において、継続的に留置している合計の日数をカウントしてください。交換のための一時的な抜去は継続としてカウントしてください。

6-2 膀胱留置カテーテル抜去後である患者数（2019 年 6 月 1 日時点）		
2019 年 6 月 1 日時点で膀胱留置カテーテルを留置していない患者のうち、抜去後である患者数		人
留置していた期間別の内訳※2	① 1 週間以内	人
	② 1 週間経過後～1 ヶ月以内	人
	③ 1 ヶ月経過後～3 ヶ月以内	人
	④ ③以上	人

※2．貴院において、過去に留置していた日数をカウントしてください。複数回留置した患者の場合、最も長い留置期間の内訳に人数を計上してください。

6-3 膀胱留置カテーテルの留置期間を短縮するための取組　（該当する番号すべてに○）

01　日々の診療・ケアにおいて患者ごとに抜去できないか評価を行っている
02　定期的に病棟内の長期留置患者について抜去できないかカンファレンス等で検討を行っている
03　膀胱留置カテーテルについて院内勉強会を行っている
04　特に取組は行っていない
05　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問７　貴病棟の総合評価加算の算定状況についてお伺いします。

7-1　総合評価加算の算定の有無（2019 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間）　（該当する番号１つに○）

01　算定有り　　**02**　算定無し

■ **上記 7-1 で「01　算定有り」を選択した場合、算定患者数などについてご回答ください。**

7-1-1　総合評価加算の算定患者数　　人

7-1-2　患者の総合的な機能評価のための測定を行っている職種　（該当する番号すべてに○）

01　医師
02　歯科医師
03　看護師
04　薬剤師
05　管理栄養士
06　理学療法士、作業療法士、言語聴覚士
07　社会福祉士
08 その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

7-1-3　総合的な機能評価のための測定に用いているチェックリスト等の有無　（該当する番号１つに○）

01　用いている　　**02**　用いていない

■ **上記 7-1-3 で「01　用いている」を選択した場合、チェックリストの種類についてご回答ください。**

7-1-3-1　チェックリストの種類　（該当する番号１つに○）

01　関係学会等より示されているチェックリスト（名称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
02　病院において独自に作成されたチェックリスト
03　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ **上記 7-1 で「01　算定有り」を選択した場合、参考にしているガイドラインについてご回答ください。**

7-1-4　総合的な機能評価の実施にあたり参考にしているガイドラインの有無　（該当する番号１つに○）

01　ある　　**02**　ない　　**03**　わからない

■ **上記 7-1-4 で「01　ある」を選択した場合、ガイドラインの名称をご回答ください。**

7-1-4-1　ガイドラインの名称

■ **上記 7-1 で「02　算定無し」を選択した場合、算定していない理由についてご回答ください。**

7-1-5　算定していない理由　（該当する番号すべてに○）

01　算定対象となる患者※1 が少ない
02　総合的な評価を必要とする患者が少ない
03　総合的な機能評価に係る測定を行うことができる十分な数の職員がいない
04　総合的な機能評価に係る適切な研修を修了した医師又は歯科医師がいない
05　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

※１．　介護保険法施行令第２条各号に規定する疾病を有する 40 歳以上 65 歳未満の者又は 65 歳以上の者。

問８　貴病棟の排尿自立指導料の算定状況についてお伺いします。

8-1　排尿自立指導料の算定の有無（2019 年 1 月～3 月の 3 ヶ月間）　（該当する番号１つに○）

01　算定有り	**02**　算定無し

■ **上記８-１で「01　算定有り」を選択した場合、算定患者数、算定回数をご回答ください。**

8-1-1　排尿自立指導料の算定患者数、算定回数

①　排尿自立指導料の算定患者数	**人**
②　排尿自立指導料の算定回数	**回**

■ **上記８-１で「01　算定有り」を選択した場合、その効果についてご回答ください。**

8-1-2　排尿自立指導料の算定による効果について　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01　尿道カテーテルの留置期間の短縮	
02　排尿の自立につながった	
03　排尿の自立に向けた活動量（ADL）の向上につながった	
04　関連職種の排尿ケアに係る知識・技術及び意識の向上	
05　尿路感染症の予防	
06　在院日数の短縮	
07　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

■ **上記８-１で「02　算定無し」を選択した場合、算定していない理由をご回答ください。**

8-1-3　排尿自立指導料を算定していない理由　（該当するすべての選択肢の右欄に○、最も該当するもの１つには◎）

01　算定対象となる患者がいない	
02　対象となる患者はいるが、算定可能な回数を超えているため算定できない	
03　経験を有する医師の確保が困難	
04　経験及び所定の研修を修了した専任の常勤看護師の確保が困難	
05　経験を有する専任の常勤理学療法士又は専任の常勤作業療法士の確保が困難	
06　排尿ケアチームによるマニュアル作成が困難	
07　対象患者の診療を担う医師や病棟の看護師など排尿ケアチーム以外の関係する従事者からの協力が得られない	
08　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	

問９　貴院で定められている看取りに対する指針についてお伺いいたします。

9-1　適切な看取りに対する指針の策定によりもたらされている効果　（該当する番号すべてに○）

01　患者・家族とのコミュニケーションが増えた
02　患者の意思の確認がスムーズになった
03　患者・家族の看取りに対する理解が深まった
04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

9-2　適切な看取りに対する指針の実行にあたり困難と考えられる事項　（該当する番号すべてに○）

01　対応方針に基づく説明にあたり、患者・家族が抵抗感を示す
02　対応方針に基づく対応に手間がかかる
03　対応方針に基づく対応にあたり職員が不足している
04　入棟前に看取りに係る説明がされていない
05　特に困難と考えられる事項はない
06　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問 10　貴病棟における質の高い療養生活のための取組についてお伺いいたします。

10-1　貴病棟における入院患者の活動性を高める等のために、リハビリテーションに加えて実施している取組の有無（2019 年 6 月 1 日時点）　（該当する番号１つに○）

01　実施している取組がある　　**02**　実施している取組がない

■ 上記 10-1 で「01 実施している取組がある」を選択した場合、取組内容についてご回答ください。

10-1-1　実施している取組の内容　（該当する番号すべてに○）

01　体幹を動かすための活動
02　手足を動かすための活動
03　周囲とのコミュニケーションを促す活動
04　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ 上記 10-1 で「01 実施している取組がある」を選択した場合、ケア提供に主に関わっている職種についてご回答ください。

10-1-2　ケア提供に主に関わっている職種　（主なもの最大３つまで○）

01　医師
02　看護職員
03　看護補助者
04　理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
05　社会福祉士・精神保健福祉士
06　その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

■ 上記 10-1 で「01 実施している取組がある」を選択した場合、当該取組の実施頻度についてご回答ください。

10-1-3　取組の実施頻度※1　（該当する番号１つに○）

01　週 4 回以上
02　週 2～3 回
03　週 1～2 回
04　月に数回
05　不定期（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

※1．１日に複数プログラムを行う場合も１回とカウントしてください。

■ **上記 10-1 で「01 実施している取組がある」を選択した場合、当該取組による効果についてご回答ください。**

10-1-4 取組によりもたらされている効果 （もたらされている効果の大きい順に最大３つまで○）

01	不眠の軽減	**06**	身体的拘束の減少
02	認知症症状の軽減	**07**	職員の負担軽減
03	夜間せん妄の軽減	**08**	睡眠薬等の使用頻度の減少
04	身体機能（ＡＤＬ）の維持・向上	**09**	退院準備の促進
05	患者同士や職員との関係性の構築	**10**	その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

設問は以上です。ご協力 誠にありがとうございました。
記入漏れがないかをご確認の上、●年●月●日（●）までに、
同封の返信用封筒に入れてご投函ください。

■ 2018 年度入院医療等における実態調査

調査票種類別の調査対象施設数回収状況は以下のとおり。

図表　回収状況

調査の対象施設群（届出入院料）	調査対象施設数	回収施設数（回収率）	病棟票	患者票	退棟患者票
急性期一般入院基本料等	2,000	786（39.3%）	1,972	20,238	8,778
地域一般入院基本料、地域包括ケア病棟入院料、回復期リハビリテーション病棟入院料等	1,901	682（35.9%）	515	5,368	1,097
療養病棟入院基本料	1,499	419（28.0%）	262	3,437	296
障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料等	800	308（38.5%）	225	2,965	304
医療資源の少ない地域に所在する保険医療機関（病院）	172	82（47.7%）	—	—	—
医療資源の少ない地域に所在する保険医療機関（診療所）	173	67（38.7%）	—	—	—
総計	6,545	2,344（35.8%）	2,974	32,008	10,475

（参考）平成 28 年度調査の回収状況

調査の対象施設群（届出入院料）	調査対象施設数	回収施設数（回収率）	病棟票	患者票	退棟患者票
7 対 1、10 対 1 一般病棟入院基本料等	1,829	650（35.5%）	1,995	22,680	9,239
13 対 1、15 対 1 一般病棟入院基本料、地域包括ケア病棟入院料、回復期リハビリテーション病棟入院料等	1,501	488（32.5%）	429	4,827	929
療養病棟入院基本料	1,801	512（28.4%）	394	5,301	154
障害者施設等入院基本料、特殊疾患病棟入院料等	800	282（35.3%）	265	3,587	131
有床診療所入院基本料、有床診療所療養病床入院基本料	800	270（33.8%）	115	683	246
総計	6,731	2,202（32.7%）	3,198	37,078	10,699